2022　SYLLABUS

情報メディア学部

北海道情報大学

【 目次 】

日本語表現Ⅰ 9
日本語表現Ⅱ 11
基礎数学 14
ビギナーズセミナーⅠ 17
ビギナーズセミナーⅡ 20
基礎英語Ａ 23
基礎英語Ａ 26
基礎英語Ａ 29
基礎英語Ａ 31
基礎英語Ａ 34
基礎英語Ａ 36
基礎英語Ａ 39
基礎英語Ｂ 42
基礎英語Ａ[再] 45
基礎英語Ｂ 48
基礎英語Ｂ 51
基礎英語Ｂ 53
基礎英語Ｂ 56
基礎英語Ｂ 58
基礎英語Ｂ 61
英語表現ⅠＡ 64
英語表現ⅠＡ 71
英語表現ⅠＡ 75
英語表現ⅠＡ 77
英語表現ⅠＡ[再] 79
英語表現ⅠＢ 85
英語表現ⅠＢ 88
実用英語Ａ 91
実用英語Ａ 94
実用英語Ａ 97
実用英語Ｂ 99
実用英語Ｂ 101
実用英語Ｂ 104
英語表現ⅡＡ 106
英語表現ⅡＡ 112
英語表現ⅡＡ 116
英語表現ⅡＢ 119
英語表現ⅡＢ 126
英語表現ⅡＢ 129
職業英語Ａ 132
職業英語Ｂ 135
中国語ⅠＡ 138
中国語ⅠＢ 141

ドイツ語Ⅰ A 144
ドイツ語Ⅰ B 147
中国語Ⅱ A 150
中国語Ⅱ B 153
ドイツ語Ⅱ A 156
ドイツ語Ⅱ B 158
情報の世界 160
情報倫理 163
ヘルスリテラシー入門【旧カリキュラム】 165
ヘルスリテラシー入門 168
心理学 172
文学 175
歴史学 177
哲学 180
経済学Ⅰ 182
経済学Ⅱ 184
法学 187
社会学 189
憲法 192
国際関係論 195
線形代数Ⅰ 198
線形代数Ⅱ 201
関数の基礎 204
微分積分Ⅰ 206
微分積分Ⅰ(教職クラス) 208
微分積分Ⅱ 210
微分積分Ⅱ(教職クラス) 212
確率・統計Ⅰ 215
確率・統計Ⅱ 218
物理学（医療情報学科　臨床工学専攻以外） 221
生物学 224
化学 227
健康とスポーツⅠ 229
健康とスポーツⅡ 232
健康とスポーツⅢ 235
健康とスポーツⅣ 238
海外事情（米国編） 241
海外事情（中国編） 245
国際コラボレーションA 247
国際コラボレーションB 250
海外語学・文化研修（中国大連編） 253
キャリアデザインⅠ 255
キャリアデザインⅡ 258
キャリアデザインⅢ 261

日本語Ⅰ（編入生）.....263
日本語Ⅰ.....266
日本語Ⅱ（編入生）.....268
日本語Ⅱ.....270
日本語Ⅲ（編入生）.....273
日本語Ⅲ.....275
日本事情.....277
日本語Ⅳ.....279
日本語Ⅳ（編入生）.....281
情報メディア入門Ⅰ.....283
情報メディア入門Ⅱ.....285
情報メディア入門Ⅲ.....287
情報メディア入門Ⅳ.....289
情報メディア学Ⅰ.....291
情報メディア学Ⅱ.....293
情報メディア学Ⅲ.....295
情報メディア学Ⅳ.....297
情報メディア特別ゼミナールⅠ.....299
情報メディア特別ゼミナールⅡ.....302
発想法演習　-2020年度入学生まで配当年次変更1年-.....304
ＩＣＴ入門.....307
情報メディアの数学Ⅰ.....310
芸術論.....312
芸術演習〈絵画〉.....314
芸術演習〈音楽〉.....317
デザインプログラミング演習.....319
情報メディア特別演習Ⅰ.....321
経営系科目Ａ＜ベンチャービジネス論＞.....324
経営系科目Ｂ＜Webビジネス論＞.....327
経営系科目Ｂ＜マーケティング論＞.....329
経営系科目Ｃ.....332
経営系科目Ｄ.....334
ＨＴＭＬコーディング演習.....336
メディア技術演習.....339
コンピュータ.....342
プログラミング演習Ⅰ.....345
プログラミング演習Ⅱ.....349
特別実習Ａ.....353
ＩｏＴ時代のセキュリティ.....355
Ｗｅｂデザイン基礎演習.....358
デッサン.....361
メディアデザインの基礎演習.....365
デザインエレメンツ・演習.....368
図形科学の基礎.....372

特別実習Ｂ 375
情報システム特別講義 377
メディアデザイン特別講義（2022 年度休講） 380
インターンシップ 383
ＣＧプログラミング 385
ｅ－ラーニング 387
デザインシンキング 390
情報メディア特別演習Ⅱ 393
セキュリティマネジメント 396
システム情報系科目Ａ＜プログラミング入門＞ 399
システム情報系科目Ｂ＜プログラミング基礎＞ 404
コンピュータゲーム開発論-2022 年度休講- 409
ＳＱＬ入門 411
インターネットの仕組み 414
ゲーム開発の最新動向 417
音声情報処理 420
画像情報処理-2022 年度休講- 423
ソフトウェアデザイン 425
Ｗｅｂアプリケーション開発演習Ⅰ 427
Ｗｅｂアプリケーション開発演習Ⅱ 430
ビジュアル構成・演習 434
色彩・デザイン演習 438
デジタルサウンド 442
ビジュアルエフェクト演習 444
行動とデザイン 446
デジタルサウンド・演習 449
デジタルサウンド・演習 453
ＤＴＰ 456
クリエイティブ・マネージメント 459
映画基礎演習 462
アニメーション基礎演習 466
Ｗｅｂ制作演習 470
３ＤＣＧ演習 474
３ＤＣＧ演習 477
メディアプログラミング演習 480
ゲームプログラミング・演習 484
ゲームＣＧ演習 487
ゲーム制作演習 489
モバイルアプリ演習 492
Web プログラミング演習 496
情報メディアの数学Ⅱ 500
インターネットセキュリティの技術 502
Ｌｉｎｕｘ演習 505
映像制作プロジェクト 508

グラフィック制作プロジェクト.....511
Ｗｅｂ制作プロジェクト.....515
メディアアート制作プロジェクト.....519
ゲーム制作プロジェクト.....523
アプリ制作プロジェクト.....527
ネットワーク演習.....531
プロジェクトトライアルⅠ.....536
プロジェクトトライアルⅡ.....539
地域貢献プロジェクト.....542
ステップアッププロジェクトⅡ.....545
ステップアッププロジェクトⅢ.....547
ゼミナールⅠ.....550
ゼミナールⅡ.....553
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。.....556
ゼミナールⅠ.....560
ゼミナールⅡ.....562
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。.....564
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。.....568
ゼミナールⅠ.....571
ゼミナールⅡ.....573
ゼミナールⅠ.....575
ゼミナールⅡ.....577
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。.....579
ゼミナールⅠ.....583
ゼミナールⅡ.....585
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。.....587
ゼミナールⅠ.....590
ゼミナールⅡ.....593
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。.....596
ゼミナールⅠ.....600
ゼミナールⅡ.....603
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。.....606
ゼミナールⅠ.....610
ゼミナールⅡ.....613
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。.....616
ゼミナールⅠ.....620

ゼミナールⅡ 622
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 624
ゼミナールⅠ 628
ゼミナールⅡ 631
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 634
ゼミナールⅠ 638
ゼミナールⅡ 640
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 642
ゼミナールⅠ 645
ゼミナールⅡ 648
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 651
ゼミナールⅠ 655
ゼミナールⅡ 657
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 659
ゼミナールⅠ 663
ゼミナールⅡ 665
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 667
ゼミナールⅠ 671
ゼミナールⅡ 673
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 675
ゼミナールⅠ 679
ゼミナールⅡ 682
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 685
ゼミナールⅠ 689
ゼミナールⅡ 692
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 694
ゼミナールⅠ 697
ゼミナールⅡ 699
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 701
ゼミナールⅠ 705
ゼミナールⅡ 708
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 711
ゼミナールⅠ 716

ゼミナールⅡ 718
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 720
ゼミナールⅠ 724
ゼミナールⅡ 726
ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 728
ゼミナールⅠ 732
ゼミナールⅡ 735
ゼミナールⅠ 738
ゼミナールⅡ 740
卒業研究Ⅰ 742
卒業研究Ⅱ 744
卒業研究Ⅲ 746
卒業研究Ⅳ 748
グラフィックス演習【旧カリキュラム】 750
テクノロジーパスポート演習【旧カリキュラム】 752
グローバルヘルスリテラシー 755
ステップアッププロジェクトⅠ 757
ＢＩとビッグデータⅠ 760
ＢＩとビッグデータⅡ 763

日本語表現Ⅰ Japanese Expression 1

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
金 銀珠(319 研究室), 清澤 智克(116 研究室), 田中 里実(339 研究室)	2 単位	講義		CBA101

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期・後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期・後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期・後期

授業概要

テーマ：日本語表現の基礎的な知識やスキルについて学ぶ

日本の大学生にとって学問の基礎となるのは母国語である日本語力です。書かれたものを的確に読み，自分の考えたことを適切に表現すること，それはすべての学びの基礎といえます。しかし，その日本の大学生の日本語能力が近年著しく低下してきているといわれます。この講義では，そうした傾向に歯止めを掛け，一人一人がより適切な日本語表現ができるようにするために，日本語そのものの基礎力を身につけることを目指します。

ドリルや演習課題に取り組む方法で学習しますので，しっかりトレーニングを行い一歩一歩ステップアップを図って下さい。計画的に学習を進めるためには，課題の提出期限をしっかり守って下さい。

授業における学修の到達目標

日本語表現の基礎力を身につけることを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス（授業の進め方について）	
	事後学修	「公的な文章の基本」「常体と敬体」「話し言葉と書き言葉の違い」についてまとめる	2.0
2	事前学修	トレーニングシート第 1 章の問題を解く	2.0
	授業	アカデミックワードと日常語	
	事後学修	「アカデミックワードと日常語の違い」についてまとめる	2.0
3	事前学修	トレーニングシート第 2 章の問題を解く	2.0
	授業	仮名遣い・送り仮名	
	事後学修	現代仮名遣いと送り仮名について復習する	2.0
4	事前学修	トレーニングシート第 3 章、第 6 章の問題を解く	2.0
	授業	句読点／見やすい表記	
	事後学修	・適切な句読点の打ち方について復習する ・切れ続きを見やすくするための方法についてまとめる	2.0
5	事前学修	トレーニングシート第 4 章の問題を解く	2.0
	授業	四字熟語・ことわざ・慣用句	
	事後学修	四字熟語・ことわざ・慣用句について復習する	2.0
6	事前学修	トレーニングシート第 5 章の問題を解く	2.0
	授業	漢字の使い分け	
	事後学修	同訓異字や同音異義語についてまとめる	2.0
7	事前学修	トレーニングシート第 7 章の問題を解く	2.0
	授業	敬語	

	事後学修	基本的な敬語の使い方について復習する	2.0
8	事前学修	トレーニングシート第 8 章の問題を解く	2.0
	授業	手紙	
	事後学修	お世話になった目上の人に手紙を書く	2.0
9	事前学修	トレーニングシート第 9 章の問題を解く	2.0
	授業	E メール	
	事後学修	メールの文章を書く	2.0
10	事前学修	トレーニングシート第 10 章の問題を解く	2.0
	授業	あいまいな文	
	事後学修	あいまいな文を書かないためのポイントをまとめる	2.0
11	事前学修	トレーニングシート第 11 章の問題を解く	2.0
	授業	分かりやすい語順	
	事後学修	基本的な語順についてまとめる	2.0
12	事前学修	トレーニングシート第 12 章の問題を解く	2.0
	授業	長い文を分ける	
	事後学修	授業内容をまとめる	2.0
13	事前学修	トレーニングシート第 13 章の問題を解く	2.0
	授業	文のねじれ	
	事後学修	適切なかかりうけについて復習する	2.0
14	事前学修	トレーニングシート第 14 章の問題を解く	2.0
	授業	接続表現の使い方	
	事後学修	接続表現の基本的な使い分けや、不適切な接続表現の修正の仕方について復習する	2.0
15	事前学修	トレーニングシート 15 章の問題を解く	2.0
	授業	結論を先に述べる	
	事後学修	授業内容をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト：70%　■演習課題：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題は採点または添削後返却する。

教科書	書名：大学生のための日本語表現トレーニング（ドリル編）, 著者名：安部朋世・福嶋健伸・橋本修, 出版社：三省堂, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

日本語表現Ⅱ Japanese Expression 2

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
金 銀珠(319 研究室), 清澤 智克(116 研究室), 村山 友里枝(非常勤), 上戸 理恵(非常勤), 歌代 礼子(非常勤), 齊田 春菜(非常勤), 田中 里実(339 研究室)	2 単位	講義		CBA102

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期・後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期・後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期・後期

授業概要

テーマ：レポート・論文作成に役立つ文章力を身につける

大学生には，学習や研究の成果をレポートや論文としてまとめ提出（発表）することが日常的に求められます。また情報化社会の今日，単に与えられた課題に取り組むばかりでなく，自ら問題を発見し，関連する資料や情報を集め，的確に分析・判断する能力が求められてもいます。そうした思考プロセスと成果を言葉でまとめ記述する「文章表現能力」こそが大学生の基礎学力と言っても過言ではないのです。このような認識に立って，この授業では，レポートや論文に対する基礎知識を習得し，文章作成の基本的な技能を身につけるための練習をします。

授業における学修の到達目標

レポートや論文に対する基礎知識を習得し，文章作成の基本的な技能を身につけることを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	・シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する ・教科書（第 1 回）を読んでおく	2.0
	授業	・ガイダンス ・論文・レポートの骨格を知る	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
2	事前学修	・教科書（第 2 回）を読んでおく ・第 2 回のスタートテストの問題を解く	2.0
	授業	学術的な文章にふさわしい表現	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
3	事前学修	・教科書（第 3 回）を読んでおく ・第 3 回のスタートテストの問題を解く	2.0
	授業	読みやすい文章の書き方，読点・記号の使い方	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
4	事前学修	・教科書（第 4 回）を読んでおく ・第 4 回のスタートテストの問題を解く	2.0
	授業	接続表現の使い方	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
5	事前学修	教科書（第 5 回）を読んでおく	2.0
	授業	文献の引用の仕方，事実と意見の区別	
	事後学修	講義内容の整理	2.0

6	事前学修	・教科書（第 6 回）を読んでおく ・提示された資料をあらかじめ読んでおく	2.0
	授業	レポート課題の把握	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
7	事前学修	教科書（第 7 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成①「序論（背景）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
8	事前学修	教科書（第 8 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成②「序論（研究目的）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
9	事前学修	教科書（第 9 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成③「本論（文献の引用）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
10	事前学修	教科書（第 10 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成④「本論（解釈）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
11	事前学修	教科書（第 11 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑤「本論（考察）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
12	事前学修	教科書（第 12 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑥「結論（まとめ・今後の課題）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
13	事前学修	教科書（第 13 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑦「参考文献リスト」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
14	事前学修	教科書（第 14 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑧「提出前の原稿チェック（推敲）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
15	事前学修	教科書（第 15 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑨「提出前の原稿チェック（体裁）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：60%　■演習課題：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート，演習課題は採点または添削後返却する。

教科書	書名：大学生のための日本語アカデミック・ライティング基礎講座 ―レポート・論文のアウトラインから執筆まで―, 著者名：金銀珠・田中里実, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	日本語表現 I
備考	特になし

担当教員の実務経験	実務経験なし

基礎数学 Basic Mathematics

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
森山 洋一(853 研究室), 穴田 有一(852 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 椿 達(854 研究室), 豊田 規人(326 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 菊池 隆夫(非常勤), 栗林 利廣(非常勤), 菅原 和良(非常勤)	2 単位	講義		CBA109

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

テーマ：情報大での学習で必要となる基本的な数学の知識の復習

本学では，数学的な基礎知識を前提として設けられている科目が多数あります。例えば，音声工学では三角関数が最低限必要な基礎知識のひとつですし，経済学・経営学でも基本的な代数の知識は不可欠です。また，コンピュータグラフィックスでもこれらの基礎知識は欠かせません。また近年注目されている AI を理解する上で数学の基礎は必須です。

この科目では，将来必要になる数学の知識を身に付けるために講義と演習を行います。実際の授業では，習熟度別にクラス分けを行い，クラスごとに目標を定めて基本的な概念の習得や計算力の向上を目指します。計算力を定着させるために Web 演習も併用します。Web 演習には，授業時間内だけでなく放課後や自宅でも取り組んでもらいます。

授業における学修の到達目標

1. 高校までの数学のうち，本学で必要とする分野の基礎知識を身に付け定着させる。
2. 計算力を確実に身に付け，向上させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 ポライトから第 1 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	基本的な数の種類とその基本計算について学習する。	
	事後学修	1 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 2 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	平方根とその基本計算について学習する。	
	事後学修	2 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
3	事前学修	2 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 3 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	多項式の展開方法について学習する。	
	事後学修	3 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 4 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	因数分解の方法について学習する。	
	事後学修	4 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する。	2.0

		ポライトから第 5 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	
	授業	1 次方程式, および 2 次方程式について学習する。	
	事後学修	5 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 6 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	連立方程式, およびその他の方程式について学習する。	
	事後学修	6 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 7 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	1 次関数とそのグラフについて学習する。	
	事後学修	7 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 8 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	2 次関数とそのグラフについて学習する。	
	事後学修	8 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 9 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	2 次関数の標準形, および最大値, 最小値について学習する。	
	事後学修	9 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 10 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	順列, 組合せの基本を学習し, その考え方を基に確率の基本も学習する。	
	事後学修	10 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 11 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	三角比とその応用について学習する。	
	事後学修	11 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 12 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	三角関数とその基本性質について学習する。	
	事後学修	12 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから第 13 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	拡張された指数法則, および指数計算について学習する。	
	事後学修	13 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 14 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	指数関数とそのグラフについて学習する。	
	事後学修	14 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する。 ポライトから第 15 回目の学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する。	2.0
	授業	対数とその基本計算について学習する。	

	事後学修	15 回目講義の宿題, および学習した内容の Web 課題を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■ 試験（55%）　■ 平常点（45%，小テスト・演習課題・Web 演習・宿題・report・学習態度等で評価）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テストや演習のプリントは，採点後返却します。間違った箇所を確認し，修正して再提出してもらいます。
宿題も同様です。

教科書	
参考書・Web サイト	Polite 上の基礎数学のページ。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	習熟度調査の結果をもとにクラス分けをします。クラスによって授業の進行や内容が若干異なることがあります. 関連科目：関数の基礎，微分積分 I･II，線形代数 I･II，確率･統計 I･II，情報科学基礎 など
担当教員の実務経験	担当者のうち椿，菊池，栗林は、道立高校の数学教員としての経歴があり、その経験を生かして授業を行っている。

ビギナーズセミナーⅠ Beginners' Seminar 1

担当教員	クラス担任(319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBA105

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

テーマ　「大学生としての学びの技法」を習得（基礎編）する

［授業概要］

ビギナーズセミナーⅠ・Ⅱでは，新入学生が大学での生活や学習にスムーズに移行できるように「大学生としての学びの技法」を習得します。

特に，ビギナーズセミナーⅠでは，基本となるスタディスキル（ノートテイキング，リーディングスキル，ライティングスキル，図書館の利用法・情報収集）やステューデントスキル（時間管理や学習習慣の確立，受講態度や礼儀・マナー），コミュニケーションスキルなどの技法の習得のため，実践的な練習をくりかえします。これらの練習によって，知識の習得能力を高めるとともに，学習習慣の確立をめざします。

なお，授業計画の実施回はクラスの状況によって変更になる場合があります。

授業における学修の到達目標

［授業の目標］

1)　基本的なスタディスキルやステューデントスキルの習得。

2)　学習習慣の確立。

3)　コミュニケーション力を高める。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスの講義内容，受講上の注意等についてあらかじめ目を通しておくように	2
	授業	ビギナーズセミナーの目的，建学の理念，教員の専門分野探索，自己紹介（＊重点課題：草案用紙記入），先輩の職場見学，資格取得ガイドブック	
	事後学修	iPad やタブレット PC,デジタル資料集（マルチメディアテキスト）の扱いに慣れておく	2
2	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	学生として守るべききまり（以降の授業で随時行う），大学生活と時間管理（以降の授業で随時行う），自己紹介（発表原稿作成・添削）	
	事後学修	自己紹介に必要なコンテンツ(内容)を吟味しておく	2
3	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自己紹介（発表原稿再作成）	
	事後学修	コンテンツ(内容)や発表原稿を再度見直し，追加や修正すべき点転がないか再点検しておく	2
4	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	学びの技法：ノートテイキング，自己紹介（発表） 数名ずつ数週間にわたって実施する	
	事後学修	クラスメートの発表内容，自分の発表内容を振り返り参考になる点，修正すべき点について整理しておく 本時の内容について振り返り，整理しておく	2
5	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2

	授業	学びの技法：リーディング，自己紹介（発表）	
	事後学修	クラスメートの発表内容，自分の発表内容を振り返り参考になる点，修正すべき点について整理しておく 本時の内容について振り返り，整理しておく	2
6	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	食生活と健康管理，心の健康管理，自己紹介（発表）	
	事後学修	クラスメートの発表内容，自分の発表内容を振り返り参考になる点，修正すべき点について整理しておく 本時の内容について振り返り，整理しておく	2
7	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	（誕生日の）新聞記事のテーマ・書籍のテーマ（小説は除く）（＊重点課題）課題の説明＋テーマを決める（テーマは，学科の特徴を考慮してもよい）（ねらい：事実を調べ，記述する練習），図書館ガイダンス（図書館へ行ってみる，新聞・本の場所，借り方を知る，本を借りる）	
	事後学修	自分の主題に基づき，不十分な資料はあらためて検索できるようにしておく 本時の内容について振り返り，整理しておく	2
8	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく 前時に引き続いて作業ができるよう準備をしておく	2
	授業	調査課題（新聞記事・書籍）：テーマの選定，資料の探し方	
	事後学修	本時の内容について振り返り，整理しておく 授業時間内で終えられない作業は，不足部分は持ち帰り課題として取り組む	2
9	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	調査課題（新聞記事・書籍）：準備資料作成	
	事後学修	授業時間内で終えられない作業は，不足部分は持ち帰り課題として取り組む	2
10	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	調査課題（新聞記事・書籍）：準備資料作成	
	事後学修	授業時間内で終えられない場合でも，不足部分は持ち帰り課題として取り組む	2
11	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	調査課題（新聞記事・書籍）：PPT 用スライド作成	
	事後学修	授業時間内で終えられない場合でも，不足部分を持ち帰り課題として取り組む	2
12	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	調査課題（新聞記事・書籍）：PPT 用スライド作成	
	事後学修	授業時間内で終えられない場合でも，PPT 用スライドの点検など不足部分を持ち帰り課題として取り組む	2
13	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	調査課題（新聞記事・書籍）：発表と質疑応答	
	事後学修	他の学生の発表や質問内容を踏まえて，必要に応じて自分の発表資料，発表内容にも追加，修正をおこなう	2
14	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	調査課題（新聞記事・書籍）：発表と質疑応答	
	事後学修	他の学生の発表や質問内容を踏まえ，必要に応じて自分の発表資料，発表内容にも追加，修正をおこなう	2
15	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2

	授業	調査課題（新聞記事・書籍）：発表と質疑応答 ここまでの授業で自分が学んだことや感じたことを総括できるようにする 授業評価アンケート	
	事後学修	他の学生の発表や質問内容を踏まえ，必要に応じて自分の発表資料，発表内容にも追加，修正をおこなう この授業で気づいたこと，学んだことを今後の学生生活に活かせるように整理しておく	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：40%　□演習課題：　%
■その他[プレゼンテーション] 60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

担当教員の具体的な方法に従うこと。

教科書	
参考書・Web サイト	担当教員の具体的な指示に従うこと。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	クラス担任による複数担当のため，担当者によって事情が異なる

ビギナーズセミナーⅡ Beginners' Seminar 2

担当教員	クラス担任(319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBA206

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	後期

授業概要

テーマ 大学生としての学びの技法」を習得（応用編）する

［授業概要］

ビギナーズセミナーII では，ビギナーズセミナーI で習得した基本的な技能を踏まえ，それらを発展させていくことによって「大学生としての学びの技法」を定着させていきます。

「学び」には知識の習得だけではなく，知識を用いて論理的に思考することが不可欠になります。その結果として問題発見・問題解決能力が高まることにもつながります。ビギナーズセミナーII では論理的思考やクリティカルシンキング（批評的あるいは批判的思考）の練習も同時に行います。そして，学びの技法のまとめとして最終的に，自由課題に取り組み，プレゼンテーションを行うことによって技法の定着をめざします。

ビギナーズセミナーI・II を通じて，学習習慣を確立し，知識の習得能力・論理的思考力や問題発見・問題解決能力を高め，これらを大学での学修でさらに発展させることによって，一人の自律した学習者になることが強く期待されています。

授業における学修の到達目標

1)　基本的なスタディスキルやステューデントスキルの定着。
2)　学習習慣の確立。
3)　論理的・批評的思考力を高める。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスの講義内容，受講上の注意等についてあらかじめ目を通しておくように	2
	授業	ビギナーズセミナーの目的，建学の理念，食生活と健康管理，心の健康管理，自由課題（＊重点課題：自由課題についての説明）（以降テーマを考える）	
	事後学修	この授業について知ったこと，理解したことを整理しておく	2
2	事前学修	時間，場所，事前に講師のプロフィール等が公開されているときは確認の上，下調べもおこなう	2
	授業	キャリアガイダンス講座（講堂）（感想文課題＊重点課題） 注．年度によって実施週が異なるので，実施日に応じて他の授業計画内容をスライドさせます	
	事後学修	講義メモの確認 感想文作成の準備と作成	2
3	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	大学生活と時間管理（以降の授業で随時行う），論理の基本（以降の授業で随時行う），クリティカルシンキング（以降の授業で随時行う）	
	事後学修	本時の内容について振り返り，整理しておく	2
4	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	学生として守るべききまり（以降の授業で随時行う），図書館ガイダンス（文献検索講習を含む）	
	事後学修	本時の内容について振り返り，整理しておく	2
5	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2

	授業	自由課題：テーマの選定，資料の探し方	
	事後学修	本時の内容について振り返り，整理しておく	2
6	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：筋立て，準備資料作成	
	事後学修	準備資料作成は時間を要すので，授業時間内では大筋の見通しを立て，不足部分を持ち帰り課題として取り組む	2
7	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：筋立て，準備資料作成	
	事後学修	前時同様に，授業時間内では大筋の見通しを立て，不足部分を持ち帰り課題として取り組む	2
8	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：PPT 用スライド作成	
	事後学修	前時同様に，授業時間内では大筋の見通しを立て，不足部分を持ち帰り課題として取り組み，作業を進める	2
9	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：PPT 用スライド作成	
	事後学修	前時同様に，授業時間内では大筋の見通しを立て，不足部分を持ち帰り課題として取り組み，作業を進める	2
10	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：発表と質疑応答	
	事後学修	他の学生の発表や質問内容を踏まえ，必要に応じて自分の発表資料，発表内容にも追加，修正をおこなう 授業時間内で終えられないような作業は，不足部分は持ち帰り課題として取り組む 他の学生の発表や質問内容を踏まえ，必要に応じて自分の発表資料，発表内容にも追加，修正をおこなう	2
11	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：発表と質疑応答	
	事後学修	他の学生の発表や質問内容を踏まえ，必要に応じて自分の発表資料，発表内容にも追加，修正をおこなう	2
12	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：発表と質疑応答	
	事後学修	他の学生の発表や質問内容を踏まえ，必要に応じて自分の発表資料，発表内容にも追加，修正をおこなう	2
13	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：発表と質疑応答	
	事後学修	他の学生の発表や質問内容を踏まえ，必要に応じて自分の発表資料，発表内容にも追加，修正をおこなう	2
14	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2
	授業	自由課題：話し合い（ディベート，ディスカッション等）	
	事後学修	ディベート，ディスカッション等を踏まえて，自分の考え方や発想に幅を持たせるには何が必要かを考える	2
15	事前学修	授業内容についてあらかじめシラバス，POLITE 等で確認の上，必要な準備をしておく	2

	授業	自由課題：話し合い（ディベート，ディスカッション等） ここまでの授業で自分が学んだことや感じたことを総括する 授業評価アンケート	
	事後学修	この授業を通じての気づきや学びを自己の学生生活に活用できるようにする	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：40%　□演習課題：　%
■その他[プレゼンテーション] 60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

担当教員の具体的な方法に従うこと。

教科書	
参考書・Web サイト	担当教員の具体的な指示に従うこと。
単位修得が望ましい科目	ビギナーズセミナー Ⅰ
備考	なし
担当教員の実務経験	クラス担任による複数担当のため，担当者によって事情が異なる

基礎英語Ａ Basic English A

担当教員	竹内 典彦(309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

テーマ「教科書を中心に多様な活動を行い、総合的な英語力向上に努める」

自律的学習を中心とした講義である。PC を使って News in Levels のニュース記事や CNN 10 のニュース教材、VoiceTube 等の動画を利用して，1 年次に獲得した英語力にさらに上積みすることをねらいとする。半期を通じて，どこまで英語力が伸長するかを追求する。具体的には、上位者は英検 2 級相当以上、中位者は準 2 級相当以上を目指す。

News in Levels の英文ニュース記事では、読解力や単熟語力を身につける。リスニング力向上も目指す。予習して授業に臨むことで，より確実な英語力が身につく。積極的に自学自習を行い，授業においても積極的に関わることを望む。また英語の読み物教材も使用する。

授業の指針を下に示す。

1　1回目の授業にて重要な授業の方針を伝えるので必ず出席すること
2　未知の単語をその場で引く。予習・復習を怠らないこと
3　ポライトで，その日の課題を示す。講義に出席して課題を提出することが重要

授業における学修の到達目標

1．平易な英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる
2．平易な英文を読んで内容を理解することができる
3．自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し、使うことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	ガイダンス。上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読	

		練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
8	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
9	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
10	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
11	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
12	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2

13	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
14	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
15	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2

成績評価の方法およびその基準

■小テスト： 50% ■演習課題： 50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	News in Levels のサイト、CNN 10、VoiceTube 他
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

基礎英語Ａ Basic English A

担当教員	井上 千恵子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

テーマ：教科書を中心に多様な活動を行い総合的な英語力向上に努める。
高校までの英語学習をおえたけれど, 英語の基礎力が十分身に付いていないと思っていませんか。この授業ではもう一度英語を基礎から復習します。基本的な文法や構文を復習し確実に身につけていきましょう。同時に, 日常のコミュニケーションに役立つような発信力も身につけ, 口にだして話してみましょう。

授業における学修の到達目標

1. 基本的な文法を復習し, 定着させる。
2. 日常的によく使われる表現を用いた簡単な会話が聞き取れ, 話す事ができる。
3. 学習した表現やルールを応用し発信できる。人前でスピーチができる。
4. 英語の検定試験にも挑戦できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する 自己紹介を英語でできるように考える	2
	授業	オリエンテーション：授業の説明をするガイダンス Get to know each other：グループワーク(グループで紹介)	
	事後学修	オリエンテーションの内容を確認し情報を整理する	2
2	事前学修	Unit 1: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ Grammar の練習問題もしておく	2
	授業	Unit 1: Profile: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 1 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
3	事前学修	Unit 1: Reading 語彙と意味を調べ Reading の本文を 10 回音読する	2
	授業	Unit 1: Profile: Reading 内容確認と練習問題 Unit 1: Writing 内容確認と作文	
	事後学修	Unit 1 学習した箇所の意味を復習しノートに整理する Writing：自分の情報を使い書く	2
4	事前学修	Unit 2: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ Grammar の問題をといておく	2
	授業	Unit 2: Sports: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 2 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する 自己紹介を英語でできるように練習する	2
5	事前学修	英語で自己紹介をする練習を何度もする	2
	授業	Speech Performance (スピーチ): クラスメートの前で英語で自己紹介をする	
	事後学修	Unit 1, Unit 2 の文型を復習し口頭練習する	2
6	事前学修	Unit 2: Sports: Reading 語彙と意味を調べ Reading の本文を 10 回音読する	2
	授業	Unit 2: Sports: Reading 内容確認と練習問題 Unit 2: Writing 内容確認と作文	
	事後学修	Unit 2 学習した箇所の意味を復習しノートに整理する	2

		Writing を自分の情報を使い書く	
7	事前学修	Unit 3: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べて文法の問題を解いておく	2
	授業	Unit 3: Special Occasions: Vocabulary, Warm-up, Grammar	
	事後学修	Unit 3 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
8	事前学修	Units 1, 2, 3 の内容をもう一度まとめて復習しプリントの練習問題をする	2
	授業	Units 1, 2, 3 の練習, まとめ Review Quiz 1 (理解度確認テスト)	
	事後学修	Review Quiz 1 (理解度確認テスト)で解けなかった問題を調べておく	2
9	事前学修	Unit 3: Reading 語彙と意味を調べ 本文 を 10 回音読する。 Unit 4: Vocabulary 語彙を調べておく	2
	授業	理解度確認テストのフィードバックと 解説 Unit 3: Reading 内容確認と練習 Unit 3: Writing 内容確認と作文 Unit 4: Families: Vocabulary, Warm-up 語彙の意味と確認	
	事後学修	Unit 3 & Unit 4: 学習した箇所の意味を復習しノートに整理 し音読を 10 回する	2
10	事前学修	Unit 4: Grammar 語彙と意味を調べ文法の問題を解いておく Unit 4: Reading: 語彙と意味を調べ本文を 10 回音読する	2
	授業	Unit 4: Families: Grammar 練習問題を確認, プリントの問題をする Unit 4: Reading 内容確認と練習問題 Unit 4: Writing 内容確認	
	事後学修	Unit 4 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。プリントの練習問題を解いておく Unit 4: Writing 作文を完成する	2
11	事前学修	Unit 4: Reading と Writing を 10 回音読する Unit 5: Vocabulary, Grammar 語彙と意味を調べる	2
	授業	Unit 5: Japan Quiz: Vocabulary 内容確認 Unit 5: Grammar 練習問題を確認, クラスメートとの質疑応答練習	
	事後学修	Unit 5 の学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。プリントの練習問題をする	2
12	事前学修	Unit 5: Reading 語彙と意味を調べ本文を１０回音読する	2
	授業	Unit 5: Grammar 復習 Unit 5: Reading 内容確認と練習問題 Unit 5: Writing 内容確認と作文	
	事後学修	Unit 5 の学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。Writing の作文を完成する	2
13	事前学修	Unit 6: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ, 動詞の過去形を復習しておく	2
	授業	Unit 6: Love and Marriage: Vocabulary, Warm-up 確認 Unit 6: Grammar 練習問題を確認	
	事後学修	高校時代のことを過去形を使い書いて言ってみる	2
14	事前学修	Units 3, 4, 5, 6 の学習内容をもう一度まとめて復習しプリントの練習問題を復習する	2
	授業	Units 3, 4, 5, 6 の練習, まとめ Review Quiz 2 (理解度確認テスト) スピーチの準備	
	事後学修	理解度確認テストで解けなかった問題を調べる	2

		スピーチ（短いプレゼンテーション)を作成する	
15	事前学修	スピーチ（短いプレゼンテーション)の情報を整理し原稿を書き 20 回練習する	2
	授業	Units 1-5 で書いた Writing を参考にしてスピーチをする Speech Performance (短いプレゼンテーション) 自己評価 アンケート	
	事後学修	スピーチの内容を復習し反省点を書き留める クラスメートの評価と自己評価	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
Review Quiz (理解度確認テスト 2 回)：50%, スピーチ(短いプレゼンテーション 2 回) 20%, 授業内小テストや課題提出 20%, 平常点 (授業への参加度など) 10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

理解度確認テストは返却し解説を行います。
提出された課題は採点しコメントをつけ返却します。

教科書	書名：Living Grammar (New Edition) 「コミュニケーションのためのベーシックグラマー最新版」, 著者名：山本厚子　他, 出版社：成美堂, 備考：
参考書・Web サイト	高校時代に使用した参考書あるいは文法書
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	学生の理解度や進度により多少変更の可能性があります。授業への参加が重要。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。正当な理由がある場合は手続きをとり書類を提出すること。事前事後学習は必ずして授業には自分の辞書あるいは大学から支給された i Pad やコンピュータを持参すること。またユニットの Writing やプリントの練習問題は課題になるが必ずやること。 学習環境に変更があり遠隔授業になった場合, シラバスや評価方法に修正がある。
担当教員の実務経験	実務経験なし

基礎英語Ａ Basic English A

担当教員	桐内 美智子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

テーマ「教科書を中心に多様な活動を行い、総合的な英語力向上に努める」
毎回の POLITE3 には、その日の教科書の関連英文記事を Asahi Weekly（週刊英字新聞）、邦文は日刊朝日新聞などより載せますので、英語で自分の意見を発表できる様になりましょう。

授業における学修の到達目標

1．自分の意見を英語で表現することができる
2．国際感覚を身につけることができる
3．英語学習に興味を持つことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスの確認、テキストの準備	2.0
	授業	ガイダンス、テキスト	
	事後学修	POLITE3 NO.1. 課題。	2.0
2	事前学修	UNIT 1　p.10,p.11 音読。	2.0
	授業	Steve Jobs について。	
	事後学修	POLITE3. NO,2 課題。	2.0
3	事前学修	p.10､p｡11　音読。	2.0
	授業	Apple 社について。	
	事後学修	POLITE3. NO.3 課題。	2.0
4	事前学修	p.10,p.11 音読	2.0
	授業	シリコンバレーについて。	
	事後学修	POLITE NO.4 課題。	2.0
5	事前学修	p.10、 p .11 音読	2.0
	授業	今期アップル社好調	
	事後学修	POLITE3. NO.5.課題。	2.0
6	事前学修	映画　UNIT 2. p.15.p.16 音読	2.0
	授業	グッゲンハイム美術館について。	
	事後学修	POLITE3. NO.6. 課題。	2.0
7	事前学修	p.15,p.16 音読。	2.0
	授業	草間彌生 art in NY.	
	事後学修	POLITE3. NO.7. 課題。	2.0
8	事前学修	p.15,p.16 音読。	2.0
	授業	レオナルドダヴィンチと大谷選手について。	
	事後学修	POLITE3. NO.8.課題。	2.0

9	事前学修	p.15,p.16 音読.	2.0
	授業	Seattle Museum について。	
	事後学修	POLITE3. NO.9.課題。	2.0
10	事前学修	p.15, p.16 音読。	2.0
	授業	ルーブル美術館について。	
	事後学修	POLITE3. NO.10 課題。	2.0
11	事前学修	UNIT4. p.25 音読	2.0
	授業	大学でのオンラインについて。	
	事後学修	POLITE3, NO.11	2.0
12	事前学修	p.25 音読	2.0
	授業	コロナ禍の子供の教育！	
	事後学修	POLITE3. NO.12 課題。	2.0
13	事前学修	p.２５音読 .	2.0
	授業	休校と子供について。	
	事後学修	POLITE3. NO.13 課題。	2.0
14	事前学修	p.25 音読。	2.0
	授業	学校にパソコン不足！	
	事後学修	POLITE3. NO.14 課題	2.0
15	事前学修	まとめ	2.0
	授業	まとめ	
	事後学修	POLITE3. NO.15 最終課題題。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験最終課題（５0%） □ 小テスト（　%） ■ レポート（２5％） ■演習課題（２5 %）

■ その他 [全体の総合得点で評価します。出席は２／３以上必要です。講義最後の最終課題は必ず受けてください。教科書は必ず購入。全宿題提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各提出課題に対してコメントをします。

教科書	書名：Strategic Reading for Global Information., 著者名：Eiichi Yubune. Bill Benfield., 出版社：(株) 成美堂, 備考：本年も、新刊書です。　必ず、購買してくださいね。英語は、多読です。
参考書・Web サイト	授業には（iPad）を持参して下さい。スマホも可。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	私は大学卒業後、新卒入社で三菱商事（株）に勤務。機械課担当でしたので原子力発電所立ち上げ、マイクロソフト、アップルコンピューターのシリコンバレー、欧米の銀行取引き、宇宙事業も手がけましたので、その世界を見る目で授業を行なっていきます。３年間勤務、結婚退社しましたが、その後は高校、大学で教えています。

基礎英語Ａ Basic English A

担当教員	谷 さつき(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

テーマ：教科書を中心に多様な活動を行い、総合的な英語力向上に努める
平易な英語で書かれた短編ミステリーを精読（細部まで理解するために丁寧に読むこと）します。内容理解に必要な、中学・高校で学んだ英語の基礎を復習します。物語中の文章で使用されている文法・語法・語彙を理解し、運用力を身につけます。

授業における学修の到達目標

まとまった量の英文を読むことが苦しいと感じなくなる。長文の大意を把握できる。精読（細部まで理解するために丁寧に読むこと）を通して、確かな文法力が身に付く。中学・高校で学んだ英語の基礎（文法・語法・語彙）が定着し、運用できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	POLITE の「基礎英語 A（谷先生）」コースに登録する。コース上の第 1 回にあるブック（「学習の進め方」）を読む。自分の端末（大学から貸与されるタブレット）で、コース上の音声が聞こえるか確認する。	2
	授業	ガイダンス（学習の進め方、評価方法，辞書・電子辞書の活用方法，辞書サイトの活用法など）。	
	事後学修	課題に取り組む。	2
2	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Story introduction, contents, pp.1-2　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
3	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.3-6　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
4	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.7-13　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
5	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Chapters 1-3(pp.1-13) 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2
6	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.10-14　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
7	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.15-18　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
8	事前学修	課題に取り組む。	2

	授業	pp.19-24　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
9	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.25-27　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
10	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.28-31　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
11	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Chapters 4-6(pp.13-31) 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2
12	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.31-33　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
13	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.34-37　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
14	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.38-40　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
15	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Chapter 7(pp.31-40) および全体振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テストおよび提出課題（　100　%）□ レポート（　　%）　□ 演習課題（　　%）□その他 [　　%　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出課題にはコメントをつけます。小テスト受験前の理解度確認クイズに適宜解説が示されます。

教科書	書名：Oxford Bookworms Library Stage 2 Death in the Freezer（3RD）, 著者名：Tim Vicary, 出版社：Oxford University Press, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	ページ番号は目安です。 大学から貸与される Winsows タブレットを持参してください。100 均で売っているものでいいので、マイク付きのイヤホンがあると便利です。 【お願い】授業の進度よりも早く自分で読み進んでくれて構いません。ただし、結末を知っても、他に人には話さないでください。結末がわかったあとで最初から読み返すと、主人公の言動の意味が 1 回目とは違ったものに思えてきて、おもしろいですよ。
担当教員の実務経験	中学・高校での教員経験に加え，小学 2 年生から大人まで様々な年齢層の方々に英語を指導してきた。フリーランスで翻訳業（主に日→英）と通訳業にも従事している。これらの経験を生かし，英語の知識を取り込むだけでなく，取り込んだものを用いて伝えたいことを英語で外に出すまでの力を身に付けるための基礎訓練を行う。また，継続的に努力する習慣を学

	生自身が確立するように導く。

基礎英語Ａ Basic English A

担当教員	外川 藤博(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

教科書を中心に多様な活動を行い、総合的な英語力向上に努める。
英語を読み、話すには、基本となる文法知識が必要です。授業内容は、英語の基本的考え方を楽しみながら無理なく習得できるよう工夫されている。担当者作成のプリントで説明・練習し、教科書で確認・定着を図るという流れで授業を展開する。英語の根幹部分をシンプルに伝授する。

授業における学修の到達目標

基礎となる「考え方」を定着させるため、「account→reading・listening→practice」のサイクルで授業を展開し、英語の「基礎力」をつけることを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体内容を把握する	2.0
	授業	Orientaition:授業の進め方、評価法のガイダンス プリント「4 つの大事」の説明と基礎力判定テスト	
	事後学修	シラバスの内容を確認する。プリントの復習をする。	2.0
2	事前学修	プリント「4 つの大事」の予習をする。	2.0
	授業	Introduction: プリント(Verb 編)による説明、Word Order について説明・練習で理解を深める。	
	事後学修	プリントの例文の意味を確認し、10 回音読する。	2.0
3	事前学修	プリント「4 つの大事」の解説を読み練習問題をやる。	2.0
	授業	Introduction: プリント(Verb 編)による説明、Word Order について説明・練習で理解を深める。	
	事後学修	プリントの例文の意味を確認し、10 回音読する。	2.0
4	事前学修	プリント「Word Order 編」の Check!を音読、質問に答える準備をする。	2.0
	授業	プリント「Word Order 編」を説明、プリントの課題英文を完成、発表する。	
	事後学修	プリントの課題英文の意味を確認、10 回音読する。	2.0
5	事前学修	Unit 1: Verb(be)編 Conversation の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 1: Verb(be)編、Verb(be)をテーマに Conversation の内容を確認する。①宿題あり	
	事後学修	Unit 1: Verb(be)編 Conversation の語彙を復習、確認テストの見直し、宿題をする。	2.0
6	事前学修	Unit 1: Verb(general)編 Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 1: Verb(general)編、Verb(G)をテーマに Reading の内容を確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 1: Verb(general)編 Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
7	事前学修	Unit 2: Pronun 編 Conversation の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 2: Pronoun 編、Pronun をテーマに Conversation の内容を確認、確認テスト・小テストあり。	
	事後学修	Unit 2: Pronoun 編 Conversation の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
8	事前学修	Unit 2: Pronun 編 Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 2: Pronoun 編、Pronun をテーマに Reading の内容を確認、確認テスト・小テストあり。	

	事後学修	Unit 2: Pronoun 編 Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
9	事前学修	Unit 3: Preposition 編 Conversation/Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 3: Preposition 編の説明、Preposition をテーマに Conversation/Reading の内容を確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 3: Preposition 編の Conversation/Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
10	事前学修	Unit 4: Past tense 編 Conversation/Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 4: Past tense 編の説明、Conversation/Reading の内容を確認、確認テストをする。②宿題あり	
	事後学修	Unit 4: Past tense 編 Conversation/Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。②宿題をする	2.0
11	事前学修	Unit 5: Noun 編 Conversation/Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 5: Noun 編の説明、Conversation/Reading の内容を確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 5: Noun 編 Conversation/Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
12	事前学修	Unit 6: Interrogative 編 Conversation/Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 6: Interrogative 編の説明、Conversation/Reading の内容を確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 6: Interrogative 編 Conversation/Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
13	事前学修	Unit 7: Progress 編 Conversation/Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 7: Progress 編の説明、Conversation/Reading の内容を確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 7: Progress 編 Conversation/Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
14	事前学修	「Verb」編の講義内容を整理し、練習問題をする。	2.0
	授業	まとめ：「Verb」編の概略を復習、基礎力診断再テスト、スピーチ原稿を作成する。③宿題あり	
	事後学修	スピーチを英文にする。宿題(Verb)編をする。	2.0
15	事前学修	「Verb」編の講義内容を整理、練習問題で確認する。発表の練習をする。	2.0
	授業	まとめ：「Verb」編の講義内容を復習、スピーチする。	
	事後学修	スピーチについて、自己評価を行い、成果を確認する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：８０％　■小テスト：１０％　■演習課題：　１０％　■その他

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

確認テスト、小テスト、定期試験後には、解説を行います。

教科書	書名：English Booster!, 著者名：Robert Hickling, Yasuhiro Ichikawa, 出版社：金星堂, 備考：
参考書・Web サイト	https://www.kinsei-do.co.jp
単位修得が望ましい科目	なし
備考	出席が授業回数の 3 分の 2 以上のとき、受験資格が与えられる。
担当教員の実務経験	なし

基礎英語Ａ Basic English A

担当教員	松永 務(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

教科書を中心に多様な活動を行い、総合的な英語力向上に努める

授業における学修の到達目標

英語の言語形式及び統語構造を理解し，身の周りの事柄を理解し表現する能力を高める。
具体的には実用英語技能検定（英検）３級に挑戦できる学力を目指す。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書等の必要物品を揃える	2.0
	授業	オリエンテーション 〇事前・事後学習のしかた及び授業における注意事項について 〇教科書と関連付けた iPad やスマホ等の通信機器を利用した学習の進め方について 〇評価方法について 〇当該科目と後期の「基礎英語Ｂ」との関連について 〇英語の基本的仕組みについて	
	事後学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，登録を確認する	2.0
2	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 1-前半 “Welcome to Vancouver”－自分の氏名と滞在の目的を伝える表現を学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，氏名と滞在の目的を伝える表現を覚える（課題）	2.0
3	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，be 動詞の形と意味及び用法等を考える	2.0
	授業	Unit 1-後半 be 動詞の形と意味及び用法を学習し，自他のことを理解し表現する	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，be 動詞を使った短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
4	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 2-前半 “Ryo Loves San Francisco”－自分がしたいことや現在の物事に関する表現を学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，自分の希望や交通に関する表現を覚える（課題）	2.0
5	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，一般動詞の形や用法考える	2.0
	授業	Unit 2-後半 一般動詞の現在形及び用法を学習し，物事に関する叙述を理解し自己表現をする	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，一般動詞を使った短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
6	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 3-前半 “A British City in Canada?”－お礼の言い方や代名詞の形と用法を学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，代名詞を使った表現を覚える（課題）	2.0
7	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，代名詞の形や用法を考える	2.0

	授業	Unit 3-後半 代名詞，特に人称代名詞について学習し，都市に関する叙述を理解し自己表現をする	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
8	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 4-前半 “L.A. Style”－探し物を伝えること及び進行中の行為の表現方法を学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，進行形を使った表現を覚える（課題）	2.0
9	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，進行形のしくみと用法を考える	2.0
	授業	Unit 4-後半 進行形を使った叙述を学習し，物事の概要を理解し自己表現する	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，進行形を使った短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
10	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 5-前半 “The Canadian Rockies”－依頼の表現と前置詞に関して学習し，自己表現をする	
	事後学修	学習した語句を理解するとともに，乗馬に関する会話の概要を把握する	2.0
11	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，前置詞の意味と用法について考える	2.0
	授業	Unit 5-後半 前置詞の意味と用法について学習し，物事の概要を理解し自己表現する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，旅行日記の短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
12	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 6-前半 “The Grand Canyon”－距離，時間などに関する表現と名詞の属性について学習する	
	事後学修	学習した語句を理解するとともに，トレッキング前の準備に関する会話の概要を把握する	2.0
13	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，可算名詞と不可算名詞について考える	2.0
	授業	Unit 6-後半 可算名詞と不可算名詞について学習し，物事の概要を理解し自己表現する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，旅行日記の短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
14	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や都市に関する会話の概要を把握する	2.0
	授業	Unit 7-前半 “T.O. － Toronto, Ontario”－感想を述べる表現と一般動詞の過去形について学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，感想を述べる表現及び一般動詞の過去形を覚える（課題）	2.0
15	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，一般動詞の過去形の用法を考える	2.0
	授業	Unit 7-後半 一般動詞の過去形に関する用法を学習し，過去の行為について自己表現をする	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，過去に関する短い文書を書写し精読する（課題）	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 期末試験（40%） ■ 事前学修の取組状況（20%） ■ 小テスト及び課題（事後学修）の提出状況（40%）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

◎課題に関しては授業の中で解説を行います。

◎小テストや試験及び一部課題に関しては POLITE 上に模範解答を掲載します。

教科書	書名：English Missions! Starter, 著者名：Robert Hickling　臼倉美里, 出版社：金星堂, 備

	考：
参考書・Web サイト	教科書出版元のサイト：http://www.kinsei-do.co.jp/ 教科書内容紹介：https://www.kinsei-do.co.jp/books/4070/
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	B5 版（教科書と同じ大きさ）のレポート用紙，又はルーズリーフを購入しておくこと（課題等の提出用）。提出物は返却しません。
担当教員の実務経験	なし

基礎英語Ａ Basic English A

担当教員	吉村 裕彦(338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

テーマ：教科書を中心に多様な活動を行い、総合的な英語力向上に努める

1　グローバル化する社会において国際語として必要とされる英語の活用能力を向上させる。そのために、英語の基礎的文法を復習し、様々なコミュニケーションの場面で運用できる基礎的な能力を高める。具体的には、テキストの内容に応じて語彙力増強、基礎的文法の復習、４技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の取組を行い、英語によるコミュニケーション力を総合的に身につける。

2　個人の取組と共に適宜グループワーク、ペアワークを取り入れる。

3　テキストの構成上、将来受験が推奨される TOEIC L&R テスト対策を取り入れる。

4　ポートフォリオを用いて毎時の取組状況の記録と提出を求める。

授業における学修の到達目標

1　自分の持つ知識や辞書を活用し、間違うことを恐れず英語で表現しようとすることができる（積極的態度）。

2　音声を聞いて正しく内容を理解することができる（リスニング力）。

3　英文を読んで正しく理解できる（リーディング力）

4　基本的な表現を元に、状況を英語で説明できる（スピーキング力･ライティング力）。

5　習ったことを活かし、相手と英語で意思疎通ができる（英語コミュニケーション力）。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の目的や全体の内容を把握する。テキストを予習し現在時制について把握する。	2
	授業	オリエンテーション･Unit 1 Travel English 1 飛行機内のコミュニケーションと動詞の現在時制を理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
2	事前学修	現在時制について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 1 Travel English 2 IT 企業に関する英文教材の理解と自分について英語で表現する。	
	事後学修	自己紹介の英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2
3	事前学修	テキストを予習し代名詞について把握する。	2
	授業	Unit 2 Homestay English 1 ホスト･ファミリーとのコミュニケーションと代名詞について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
4	事前学修	代名詞について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 2 Homestay English 2 ホームステイに関する英文教材の理解と自分の好きなものについて英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を確実に音声化できるよう音読する。語彙の復習をする。	2
5	事前学修	テキストを予習し前置詞について把握する。	2
	授業	Unit 3 Internship English 1 インターンシップでのコミュニケーションと前置詞について理解する。	

	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
6	事前学修	前置詞について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 3 Internship English 2 グーグルに関する英文教材の理解と大学のスケジュールについて英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を確実に音声化できるよう音読する。語彙の復習をする。	2
7	事前学修	テキストを予習し動詞の過去時制について把握する。	2
	授業	Unit 4 Entertainment English 1 レストランでのコミュニケーションと過去時制について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
8	事前学修	過去時制について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 4 Entertainment English 2 サンフランシスコに関する英文教材の理解と最近の出来事について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を確実に音声化できるよう練習する。語彙の復習をする。	2
9	事前学修	Unit 1 から 4 までの文法事項を復習する。	2
	授業	文法の復習と確認テストの実施。	
	事後学修	確認テストの内容を復習し課題を整理する。	2
10	事前学修	テキストを予習し名詞について把握する。	2
	授業	Unit 5 Shopping English 1 店でのコミュニケーションと名詞について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
11	事前学修	名詞について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 5 Shopping English 2 ジーンズに関する英文教材の理解と自分の買い物について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を確実に音声化できるよう練習する。語彙の復習をする。	2
12	事前学修	テキストを予習し疑問文について把握する。	2
	授業	Unit 6 Technology English 1 インターネットのアプリに関するコミュニケーションと 5Wh1H 疑問文について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
13	事前学修	5Wh1H 疑問文について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 6 Technology English 2 アプリに関する英文教材の理解と電化製品の利用について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を確実に音声化できるよう練習する。語彙の復習をする。	2
14	事前学修	テキストを予習し進行形について把握する。	2
	授業	Unit 7 Daily life English 1 日常生活でのコミュニケーションと動詞の進行形について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
15	事前学修	進行形について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 7 Daily life English 2 DIY に関する英文教材の理解と日常生活の状況ついて英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を確実に音声化できるよう練習する。語彙の復習をする。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 試験 60%　■ 文法確認小テスト 10%　■ ポートフォリオ･シート提出とその内容 30%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
試験、小テストの解説、およびポートフォリオ･シートへのコメントによりフィードバックを行う。	
教科書	書名：English Booster!, 著者名：市川泰弘･Robert Hickling, 出版社：金星堂, 備考：音声ファイルのダウンロード可能
参考書・Web サイト	（テキストの音声ファイル）　http://www.kinsei-do.co.jp/download/4113
単位修得が望ましい科目	同じテキストを用い、内容的に関連性が高いため基礎英語 B を履修することが望ましい。
備考	・ひとつの Unit を 2 回の講義で学習します。 ・文法の理解を図るため、各 Unit の後半授業にて前時学習の文法確認テストを実施します。 ・ポートフォリオ･シートには毎時のタスク内容と取組状況の自己評価（良くできた点･今後の課題）を記してもらいます。また、質問があれば記載してもらい、教員側から回答やコメントを記し返却することで理解を深めてもらいます。 ・最終試験は第 16 回目に実施します。
担当教員の実務経験	高校の英語教員として 2018 年までの 37 年間英語教育指導にあたった。その後、本学及び専門学校で TOEIC 受験の対策や英語表現に関する授業を担当している。こうした経験を、学生の英語コミュニケーション能力向上を図る授業づくりに活かしている。

基礎英語Ｂ Basic English B

担当教員	竹内 典彦(309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL108

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ「基礎英語 A をうけて、さらなる英語力向上に努める」

自律的学習を中心とした講義である。PC を使って News in Levels のニュース記事や CNN 10 のニュース教材、VoiceTube 等の動画を利用して，1 年次に獲得した英語力にさらに上積みすることをねらいとする。半期を通じて，どこまで英語力が伸長するかを追求する。具体的には、上位者は英検 2 級相当以上、中位者は準 2 級相当以上を目指す。

News in Levels の英文ニュース記事では、読解力や単熟語力を身につける。リスニング力向上も目指す。予習して授業に臨むことで，より確実な英語力が身につく。積極的に自学自習を行い，授業においても積極的に関わることを望む。また英語の読み物教材も使用する。

授業の指針を下に示す。

1　1回目の授業にて重要な授業の方針を伝えるので必ず出席すること
2　未知の単語をその場で引く。予習・復習を怠らないこと
3　ポライトで，その日の課題を示す。講義に出席して課題を提出することが重要

授業における学修の到達目標

1．自分のレベルにあった英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる
2．自分のレベルにあった英文を読んで内容を理解することができる
3．自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し、使うことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	ガイダンス。上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読	

		練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
8	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
9	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
10	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
11	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
12	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2

13	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
14	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
15	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2

成績評価の方法およびその基準

■小テスト： 50% ■演習課題： 50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	News in Levels のサイト、CNN 10、VoiceTube 他
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

基礎英語Ａ[再] Basic English A

担当教員	竹内　典彦　他(309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	冬期集中

授業概要

テーマ「教科書を中心に多様な活動を行い、総合的な英語力向上に努める」
リーディング、ライティング、文法、単語熟語、音読・暗唱練習を通じて総合的な英語力の定着に努める。

授業における学修の到達目標

・英文読解力の向上―英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する
・英単語熟語の知識の向上―ニュース記事や練習問題を通して練習する
・英語発表力の向上―自身が作成した英文を音読練習して暗唱する

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読	

		練習をしなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
8	事前学修	パラグラフリーディングについて、リンク先のページを熟読しなさい。	2.0
	授業	その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。さらにその英文の単語、熟語、文法を学習しなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
9	事前学修	スラッシュリーディングについて、リンク先のページを熟読しなさい。	2.0
	授業	その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。さらにその英文の単語、熟語、文法を学習しなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
10	事前学修	スキミング・スキャニングについて、リンク先のページを熟読しなさい。	2.0
	授業	その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。さらにその英文の単語、熟語、文法を学習しなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
11	事前学修	シャドーイングについて、リンク先のページを熟読しなさい。	2.0
	授業	その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。さらにその英文の単語、熟語、文法を学習しなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
12	事前学修	フォニックスについて、リンク先のページを熟読しなさい。	2.0
	授業	その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。さらにその英文の単語、熟語、文法を学習しなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
13	事前学修	英英辞典について、リンク先のページを熟読しなさい。	2.0
	授業	その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。さらにその英文の単語、熟語、文法を学習しなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
14	事前学修	シソーラス（類義語辞典）について、リンク先のページを熟読しなさい。	2.0
	授業	その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。さらにその英文の単語、熟語、文法を学習しなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。	2.0
15	事前学修	多読を用いた英語学習法について、リンク先のページを熟読しなさい。	2.0
	授業	その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。さらにその英文の単語、熟語、文法を学習しなさい。	
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、この時間中に発表しなさい。授業後は、英文を時々暗唱して長期的に忘れないようにしなさい。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□ 試験：　　%　■ 小テスト：50%　□ レポート：　%　■ 演習課題：50%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE 3 で返却する。

教科書	
参考書・Web サイト	News in Levels

単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

基礎英語Ｂ Basic English B

担当教員	井上 千恵子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL108

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：基礎英語 A をうけてさらなる英語力向上に努める。
高校までの英語学習をおえたけれど，英語の基礎力が十分身に付いていないと思っていませんか。この授業ではもう一度英語を基礎から復習します。既習の基本的な文法や構文を復習し確実に身につけていきましょう。同時に，日常のコミュニケーションに役立つような発信力も身につけ，口にだして話してみましょう。

授業における学修の到達目標

1. 基本的な文法を復習し定着させ，短い英文が読める。
2. 日常的によく使われる表現を用いた簡単な会話が聞き取れ，話す事ができる。
3. 学習した表現やルールを応用し発信できる。人前でスピーチができる。
4. 英語の検定試験にも挑戦できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する 夏休みのことが過去形を使い英語で言えるように練習する	2
	授業	後期オリエンテーション：後期授業の説明 Unit 6: Love and Marriage: 過去形の復習 Let's talk about your summer holiday: グループワーク	
	事後学修	オリエンテーションの内容を確認する 過去形に気をつけ夏休みのことを英語で書いてみる	2
2	事前学修	過去形の復習をしておく スピーチ: 夏休みについて話す練習をする	2
	授業	Speech Performance: スピーチ: 夏休みについて Unit 6: 動詞の過去形　復習	
	事後学修	Unit 6 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
3	事前学修	Unit 6: Writing 語彙の意味と内容を調べておく Unit 7: Vocabulary, Warm-up 語彙と文の意味を調べておく 動詞の過去分詞を復習	2
	授業	Unit 6: Writing 内容確認 Unit 7: Life History: Vocabulary, Warm-up 内容確認と練習 動詞の過去分詞と現在完了形	
	事後学修	現在完了形の文（継続の意味）を 5 つ書いて言ってみる 動詞の過去形との違いを確認する	2
4	事前学修	Unit 7: Life History: Grammar, Reading 語彙の意味と内容を調べておく	2
	授業	Unit 7: Life History: Grammar 内容確認と練習問題 Unit 7: Life History: Reading 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 7 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
5	事前学修	Unit 7 の既習箇所を 10 回音読する	2

		Unit 7: Writing Unit 8: Leisure: Vocabulary, Warm-up 語彙と文の意味を調べておく	
	授業	Unit 7: Writing 内容確認と作文 Unit 8: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 7, Unit 8: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
6	事前学修	Unit 8: Reading, Writing 語彙と文の意味を調べ内容を把握しておく	2
	授業	Unit 8: Grammar 復習 Unit 8: Reading の内容確認と練習問題 Unit 8: Writing 自分の情報を使い作文	
	事後学修	Unit 8: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し 10 回音読する。Writing の作文を完成する	2
7	事前学修	Unit 9: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と文の意味を調べ 音読 10 回する	2
	授業	Unit 9: College Life: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習	
	事後学修	Unit 9: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する Units 7, 8, 9 Review Quiz のための復習する	2
8	事前学修	Units 7, 8, 9 の学習内容をもう一度まとめて復習する	2
	授業	Units 7, 8, 9 の練習, まとめ Review Quiz 1 (理解度確認テスト 1)	
	事後学修	Review Quiz (理解度確認テスト)で解けなかった問題を調べておく	2
9	事前学修	Unit 10: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ文法の問題を解いておく	2
	授業	フィードバック：理解度確認テストの解説 Unit 10: On Vacation: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 10: On Vacation: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
10	事前学修	Unit 10: Reading, Writing 語彙と文の意味を調べ内容を把握し Reading の問題を解いておく。 音読 10 回する	2
	授業	Unit 10: On Vacation: Reading 内容確認と練習問題 Unit 10: Writing 内容確認	
	事後学修	Unit 10: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し 10 回音読する	2
11	事前学修	Unit 11: Out and About: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ Grammar の問題を解いておく	2
	授業	Unit 11: Out and About: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 11: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。	2
12	事前学修	Unit 11: Reading, Writing 語彙と文の意味を調べ内容を把握し問題を解いておく。 音読 10 回する	2
	授業	Unit 11: Out and About: Reading 内容確認と練習問題 Unit 11: Writing 練習問題	
	事後学修	Unit 11: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し 10 回音読する	2
13	事前学修	Unit 12: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ Grammar の問題を解いておく	2
	授業	Unit 12: Rules: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 12: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。プリントの練習問題をする	2
14	事前学修	Units 10, 11, 12 の学習内容をもう一度まとめて練習問題などを復習する	2
	授業	Units10, 11, 12 の練習, まとめ Review Quiz 2 (理解度確認テスト 2)	

		スピーチの準備	
	事後学修	理解度確認テストで解けなかった問題を調べておく スピーチ(短いプレゼンテーション)の原稿を書く	2
15	事前学修	今まで学習したことを参考にしてスピーチの原稿を考え発表の準備をする。20 回練習	2
	授業	理解度確認テストのフィードバック Speech Performance: スピーチ(短いプレゼンテーション) Evaluation アンケート	
	事後学修	スピーチの内容を復習し反省点を書き留める クラスメートの評価と自己評価	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
Review Quiz (理解度確認テスト 2 回)： 50%，スピーチ(短いプレゼンテーション 2 回) 20%，小テスト・課題提出 20%，平常点 (授業参加度 など) 10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

理解度確認テストは翌週返却し解説を行います。
提出された課題は採点しコメントをつけ返却します。

教科書	書名：Living Grammar (New Edition)「コミュニケーションのためのベーシックグラマー最新版」, 著者名：山本厚子　他, 出版社：成美堂, 備考：
参考書・Web サイト	高校時代に使用した文法書
単位修得が望ましい科目	基礎英語 A
備考	学生の理解度や進度により変更の可能性がある。また, 遠隔授業への変更があった場合はシラバスや総合評価に修正がある。 授業への参加が大事。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。正当な理由がある場合は手続きをとり書類を提出すること。事前事後学習は必ず行う。授業には自分の辞書あるいはパソコンなどを持参すること。
担当教員の実務経験	実務経験なし

基礎英語Ｂ Basic English B

担当教員	桐内 美智子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL108

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ「基礎英語 A をうけて、さらなる英語力向上に努める」
毎回のプリントには、その日の教科書の関連記事を ASAHI WEEKLY（週刊英字新聞），邦文は日刊朝日新聞などより載せますので、英語で自分の意見を発表できる様になりましょう。

授業における学修の到達目標

1．英会話と音読により、自分の意見を英語で表現することができる
2．国際感覚を身につけることができる
3．英語学習にいっそう興味を持つことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバス確認	2.0
	授業	ガイダンス、テキスト	
	事後学修	POLITE3. NO.1 課題。	2.0
2	事前学修	UNIT 10,. p.5 5 . 音読。	2.0
	授業	トンガ大噴火について。	
	事後学修	POLITE3. NO.2 課題。	2.0
3	事前学修	p.5 5 音読。	2.0
	授業	ガラパゴス諸島について。	
	事後学修	POLITE3.NO.3 課題。	2.0
4	事前学修	p.55 音読。	2.0
	授業	チャールズ・ダーウインについて。	
	事後学修	POLITE3.NO.4 課題	2.0
5	事前学修	p.5 5 音読	2.0
	授業	ドリトル先生との関連について。	
	事後学修	POLITE3. NO.5.課題.	2.0
6	事前学修	Unit 9.　　p.50 音読。	2.0
	授業	ビートルズについて。	
	事後学修	POLITE3. NO.6 課題。	2.0
7	事前学修	p.50.音読。	2.0
	授業	英国リバプールについて。	
	事後学修	POLITE3. NO.7 課題。	2.0
8	事前学修	ｐ。５０音読	2.0
	授業	ジョンレノンについて。	
	事後学修	POLITE3. NO.8 課題。	2.0

9	事前学修	p.５０音読	2.0
	授業	ポールマッカートニーについて。	
	事後学修	POLITE3. NO.9 課題。	2.0
10	事前学修	p.50.音読	2.0
	授業	ビートルズの解散について。	
	事後学修	POLITE3. NO.10 課題。	2.0
11	事前学修	Digital Detoxing について。	2.0
	授業	ＵＮＩＴ８．p.45 音読	
	事後学修	POLITE 3. NO.11 課題。	2.0
12	事前学修	p.４５音読。	2.0
	授業	ミレニアム世代について。	
	事後学修	POLITE 3. NO.12. 課題。	2.0
13	事前学修	p.45.音読について。	2.0
	授業	Z 世代と IT について。	
	事後学修	POLITE3. NO.13 課題。	2.0
14	事前学修	p.45 音読。	2.0
	授業	z 世代の未来。.	
	事後学修	POLITE3. NO.14 課題。	2.0
15	事前学修	まとめ	2.0
	授業	まとめ	
	事後学修	POLITE 3. NO.15 最終課題課題。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験最終課題（５０%）　□ 小テスト（　%）　■ レポート（２５%）　■ 演習課題（２５%）

■ その他 [全体と総合得点で評価します。出席は２／３以上必要です。講義最後のテストは必ず受けてください。教科書は必ず購入。全宿題提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各提出課題に対してコメントをします。

教科書	書名：Strategic Reading for Global Information., 著者名：Eiichi Yubune. Bill Benfield., 出版社：㈱　成美堂, 備考：本年も、新刊書です。　必ず、購買して下さいね。英語は、多読です。
参考書・Web サイト	授業には必ず（ｉＰａｄ）を持参してください。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	私は大学卒業後、新卒入社で三菱商事（株）に勤務。機械課担当でしたので原子力発電所立ち上げ、マイクロソフト、アップルコンピューターのシリコンバレー、欧米の銀行取引き、宇宙事業も手がけましたので、その世界を見る目で授業を行なっていきます。3 年間勤務し結婚退職しました。その後は、高校生、大学生に英語を教えています。

基礎英語Ｂ Basic English B

担当教員	谷 さつき(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL108

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：基礎英語 A をうけて、さらなる英語力向上に努める
平易な英語で書かれた短編ミステリーを精読（細部まで理解するために丁寧に読むこと）します。内容理解に必要な、中学・高校で学んだ英語の基礎を復習します。物語中の文章で使用されている文法・語法・語彙を理解し、運用力を身につけます。

授業における学修の到達目標

まとまった量の英文を読むことが苦しいと感じなくなる。長文の大意を把握できる。精読（細部まで理解するために丁寧に読むこと）を通して、確かな文法力が身に付く。中学・高校で学んだ英語の基礎（文法・語法・語彙）が定着し、運用できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	POLITE の「基礎英語 B（谷先生）」コースに登録する。コース上の第 1 回にあるブック（「学習の進め方」）を読む。自分の端末（大学から貸与されるタブレット）で、コース上の音声が聞こえるか確認する。	2
	授業	ガイダンス（オンデマンド学習の進め方、評価方法，辞書・電子辞書の活用方法，辞書サイトの活用法など）。Story introduction, contents	
	事後学修	課題に取り組む。	2
2	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	The Railway Crossing pp.21-22　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
3	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	The Railway Crossing pp.22-24　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
4	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	The Railway Crossing pp.25-27　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
5	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	The Railway Crossing pp.21-27 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2
6	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	The Railway Crossing pp.28-29　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
7	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	The Railway Crossing pp.29-31　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2

8	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	The Railway Crossing pp.32-33　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
9	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	The Railway Crossing pp.28-33 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2
10	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	As the Inspector Said pp.1-2　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
11	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	As the Inspector Said pp.3-5　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
12	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	As the Inspector Said pp.1-5 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2
13	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Cash on Delivery pp.49-51　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
14	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Cash on Delivery pp.52-54　内容理解　要約	
	事後学修	課題に取り組む。	2
15	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Cash on Delivery pp.49-54 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■小テストおよび提出課題（　100　%）□ レポート（　　%）　□ 演習課題（　　%）□ その他 [　%　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出課題にはコメントをつけます。小テスト受験前の理解度確認クイズに適宜解説が示されます。

教科書	書名：Oxford Bookworms Library Stage 3 As the Inspector Said and Other Stories, 著者名：Retold by John Escot, 出版社：Oxford University Press, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	ページ番号は目安です。 大学から貸与される Windows タブレットを持参してください。100 均で売っているものでいいので、マイク付きのイヤホンがあると便利です。 【お願い】授業の進度よりも早く自分で読み進んでくれて構いません。ただし、結末を知っても、他に人には話さないでください。結末がわかったあとで最初から読み返すと、主人公の言動の意味が 1 回目とは違ったものに思えてきて、おもしろいですよ。
担当教員の実務経験	中学・高校での教員経験に加え，小学 2 年生から大人まで様々な年齢層の方々に英語を指導してきた。フリーランスで翻訳業（主に日→英）と通訳業にも従事している。これらの経験を生かし，英語の知識を取り込むだけでなく，取り込んだものを用いて伝えたいことを英語

	で外に出すまでの力を身に付けるための基礎訓練を行う。また，継続的に努力する習慣を学生自身が確立するように導く。

基礎英語Ｂ Basic English B

担当教員	外川 藤博(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL108

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

基礎英語 A をうけて、さらなる英語力向上に努める。
英語を読み、話すには、基本となる文法知識が必要です。
授業内容は、英語の思考法を楽しみながら無理なく基礎が習得できるよう工夫がなされている。各ユニットは、「プリント(reference 編)解説ープリント(check paper)で確認ーテキストでまとめる」の流れで展開する。英語の「肝」になる部分に十分時間をかけ、シンプルにその考え方を伝授する。

授業における学修の到達目標

基礎となる「考え方」を定着させるため、「account→reading・listening→practice」のサイクルで授業を展開し、英語の「基礎力」をつけることを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Unit 8: Auxiliary Verb 編 Conversation の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 8: Auxiliary Verb 編の説明、Conversation の内容を確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 8: Auxiliary Verb 編の Conversation の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
2	事前学修	Unit 8: Auxiliary Verb 編の Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 8: Auxiliary Verb 編の説明、Reading の内容を確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 8: Auxiliary Verb 編 Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
3	事前学修	Unit 9: Will & Be going to 編 Conversation/Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 9: Will & Be going to 編の説明、Conversation/Reading の内容を確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 9: Will & Be going to 編 Conversation/Reading の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
4	事前学修	Unit 10: Comparative & Superlative 編 Conversation/Reading の内容解釈と１０回の音読をする。	2.0
	授業	Unit 10: Comparative & Superlative 編の口頭による説明、確認テストをする。①宿題あり	
	事後学修	Unit 10: Comparative & Superlative 編の語彙を復習、宿題をする。	2.0
5	事前学修	Unit 11: Perfect Tense のプリントを読む、Conversation の内容解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 11: Perfect Tense 編の解説、Conversation の内容確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 11: Perfect Tense 編の語彙を復習、確認テストを見直す。	2.0
6	事前学修	Unit 12: Conjunction 編 Conversation/Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 12: Conjunction 編 Conversation/Reading の内容確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 12: Conjunction 編 Conversation/Reading の語彙を復習、確認テストを見直す。	2.0
7	事前学修	Unit 13: Semi-Verb 編 Conversation の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 13: Semi-Verb 編の説明、Conversation の内容確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 13: Semi-Verb 編 Conversation の語彙を復習、確認テストの見直しをする。	2.0
8	事前学修	プリント Semi-Verb の練習問題をする。英文は１０回音読する。	2.0
	授業	Semi-Verb 編の口頭による確認、確認テストをする。①宿題あり	

	事後学修	プリント Semi-Verb 編の語彙の復習、宿題をする。	2.0
9	事前学修	Semi-Verb 編のプリント教材の英文を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 13: Semi-Verb 編の説明、Reading の内容確認、Grammar Check, 確認テストをする。	
	事後学修	Unit 13: Semi-Verb 編 Reading の語彙の復習、10 回音読する。	2.0
10	事前学修	Unit 14: Passive 編 Conversation の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 14: Passive 編の説明、Conversation の内容確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 14: Passive 編 Conversation の語彙の復習、確認テストの見直し、10 回音読する。	2.0
11	事前学修	Unit 14: Passive 編 Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 14: Passive 編 Reading の内容確認、Grammar Check、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 14: Passive 編 Reading の語彙を復習、確認テストの見直し、10 回音読する。	2.0
12	事前学修	Unit 15: Relative 編 Conversation の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 15: Relative 編の説明、Conversation の内容確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 15: Relative 編 Conversation の語彙の復習、確認テストの見直し、10 回音読する。	2.0
13	事前学修	Unit 15: Relative 編 Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
	授業	Unit 15: Relative 編の説明、Reading の内容確認、確認テストをする。	
	事後学修	Unit 15: Relative 編 Reading の内容を解釈、10 回音読する。	2.0
14	事前学修	講義内容の整理	2.0
	授業	会話表現・基本例文(30 本)をノートに整理し、口頭練習をする。	
	事後学修	会話表現・基本例文の口頭練習をする。	2.0
15	事前学修	会話表現・基本例文(30 本)をノートに整理し、口頭練習をする	2.0
	授業	会話表現・基本例文(30 本)を活用したペアワーク・スピーチ	
	事後学修	会話表現・基本例文の口頭練習をする。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：８０％　■小テスト：１０％　■演習課題：１０％　■その他

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

確認テスト後には、解説を行う。

教科書	書名：English Booster!, 著者名：Robert Hickling, Yasuhiro Ichikawa, 出版社：金星堂, 備考：
参考書・Web サイト	https://www.kinsei-do.co.jp
単位修得が望ましい科目	なし
備考	出席が授業回数の 3 分の 2 以上のとき、受験資格が与えられる。
担当教員の実務経験	なし

基礎英語Ｂ Basic English B

担当教員	松永 務(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL108

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

基礎英語 A をうけて、さらなる英語力向上に努める

授業における学修の到達目標

英語の言語形式及び統語構造を理解し，身の周りの事柄を理解し表現する能力を高める。
具体的には実用英語技能検定（英検）３級に合格できる学力を目指す。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 8-前半 “Big Texas”－疑問詞を使った疑問文について学習し，さまざまな質問を考える	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，さまざまな疑問の表し方を覚える（課題）	2.0
2	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，さまざまな疑問詞について考える	2.0
	授業	Unit 8-後半 さまざまな疑問文と疑問詞に関して学習し，食事に関する記述を理解し，自己表現をする	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，夕食に関する短い日記文書を書写・精読し自己表現する（課題）	2.0
3	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 9 （教科書前半と後半を１回の授業で） “Ottawa－The Capital”－食べ物について質問したり注文したりする表現を学習する	
	事後学修	接続詞の用法を確認するとともに，短い叙述を書写・精読するとともに自己表現をする（課題）	2.0
4	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 10-前半 “Funky New Orleans”－自分の好みや希望を伝える表現を学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，好みや希望を伝える表現を覚える（課題）	2.0
5	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，不定詞と動名詞の形及び意味等を考える	2.0
	授業	Unit 10-後半 不定詞と動名詞の形と意味及び用法について理解し適切に使用できるよう学習する	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，準動詞を多く含む短い文書を書写・精読するとともに自己表現をする（課題）	2.0
6	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 11-前半 “Charming Quebec City”－未来の意志や予定を述べる表現を学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，未来の意志や予定を述べる表現を覚える（課題）	2.0
7	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，未来表現の意味や表現方法等について考える	2.0
	授業	Unit 11-後半	

		単純未来，意志未来，近接未来の表現形式及び意味について学習し，自己表現をする	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，未来表現を含む短い文書を書写・精読し自己表現をする（課題）	2.0
8	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 12-前半 “Florida Sunshine”－過去から現在にわたる事柄に関する表現方法を学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに，完了，継続，経験に関する表現を覚える（課題）	2.0
9	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，現在完了形の意味や用法等について考える	2.0
	授業	Unit12-後半 過去から現在にわたる事柄を表現する現在完了形の意味や用法について学習する	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，現在完了形を含む短い文書を書写・精読し自己表現をする（課題）	2.0
10	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 13-前半 “A Taste of P.E.I”－物事を比較して述べる表現と食べ物に関する会話について学習する	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，食べ物に関する会話表現を覚える（課題）	2.0
11	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，比較表現の形式や意味等について考える	2.0
	授業	Unit 13-後半 比較表現の形式や意味について学習し，適切な形式を使う練習をする	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，比較表現を含む短い叙述を書写・精読し自己表現をする（課題）	2.0
12	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 14-前半 “N.Y.C.－The Big Apple”－助動詞を使ったさまざまな表現を学習する	
	事後学修	学習した語句を理解するとともに，ミュージカル女優に関する会話表現を覚える（課題）	2.0
13	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，助動詞の機能と意味及び形について考える	2.0
	授業	Unit 14-後半 助動詞の機能と意味及び形について学習し、意味内容に応じた適切な助動詞の選択ができるようにする	
	事後学修	学習した内容を理解するとともに，ニューヨークに関する短い文書を書写・精読し自己表現する（課題）	2.0
14	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし，語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 15-前半 “Niagara Falls”－ナイアガラの滝周辺に関する会話の内容を把握するとともに，される側に焦点を当てた表現に関して学習する	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに，される側に焦点を当てた表現を覚える（課題）	2.0
15	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし，受動態の形式と意味について考える	2.0
	授業	Unit 15-後半 受動態の形式や意味及び用法について学習し，受動態を使って自己表現をする	
	事後学修	学習した内容を理解するとともに，旅行日記の短い文書を書写・精読し自己表現をする（課題）	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 期末試験（40%） ■ 事前学修の取組状況（20%） ■ 小テスト及び課題（事後学修）の提出状況（40%）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
◎課題に関しては授業の中で解説を行います。 ◎小テストや試験及び一部課題に関しては POLITE 上に模範解答を掲載します。	
教科書	書名：前期「基礎英語 A」と同じ (English Missions!　Starter), 著者名：前期「基礎英語 A」と同じ（Robert Hickling　臼倉美里), 出版社：前期「基礎英語 A」と同じ（金星堂), 備考：
参考書・Web サイト	教科書出版元のサイト：http://www.kinsei-do.co.jp/ 教科書内容紹介：https://www.kinsei-do.co.jp/books/4070/
単位修得が望ましい科目	基礎英語 A
備考	基礎英語 A と同じ： B5 版（教科書と同じ大きさ）のレポート用紙，又はルーズリーフを購入しておくこと（課題等の提出用）。提出物は返却しません。 前期の「基礎英語 A」で使用した教科書を引き続き使用します）
担当教員の実務経験	なし

基礎英語Ｂ Basic English B

担当教員	吉村 裕彦(338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL108

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：基礎英語 A をうけて、さらなる英語力向上に努める

1　グローバル化する社会において国際語として必要とされる英語の活用能力を定着させる。そのために、英語の基礎的文法を復習し、様々なコミュニケーションの場面で運用できる基礎的な能力を高める。具体的には、テキストの内容に応じて語彙力増強、基礎的文法の復習、4 技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の取組を行い、英語によるコミュニケーション力を総合的に身につける。

2　個人の取組と共に適宜グループワーク、ペアワークを取り入れる。

3　テキストは基礎英語 A と同じものを使用する。また、その構成上、将来受験が推奨される TOEIC L&R テスト対策を取り入れる。

4　ポートフォリオを用いて毎時の取組状況の記録と提出を求める。

授業における学修の到達目標

1　自分の持つ知識や辞書を活用し、間違うことを恐れず英語で表現しようとすることができる（積極的態度）。

2　音声を聞いて正しく内容を理解することができる（リスニング力）。

3　英文を読んで正しく理解できる（リーディング力）

4　基本的な表現を元に、状況を英語で説明できる（スピーキング力･ライティング力）。

5　習ったことを活かし、相手と英語で意思疎通ができる（英語コミュニケーション力）。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の目的や全体の内容を把握する。テキストを予習し助動詞について把握する。	2
	授業	オリエンテーション･Unit 8 Environment English 1 ボランティア活動でのコミュニケーションと助動詞を理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
2	事前学修	助動詞について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 8 Environment English 2 環境に関する英文教材の理解と自分の考えを英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2
3	事前学修	テキストを予習し未来時制について把握する。	2
	授業	Unit 9 Employment English 1 就職活動に関するコミュニケーションと未来時制について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
4	事前学修	未来時制について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 9 Employment English 2 テレワークに関する英文教材の理解と将来の職業について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2
5	事前学修	テキストを予習し比較表現について把握する。	2
	授業	Unit 10 Sales & Marketing English 1	

		日本の宿に関するコミュニケーションと比較級･最上級について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
6	事前学修	比較表現について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 10 Sales & Marketing English 2 ファストフード店に関する英文教材の理解と知っている飲食店について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2
7	事前学修	テキストを予習し動詞の現在完了形について把握する。	2
	授業	Unit 11 The Job Interview English 1 就職面接でのコミュニケーションと現在完了形について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
8	事前学修	現在完了形について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 11 The Job Interview English 2 就職面接に関する英文教材の理解と自分の将来について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2
9	事前学修	テキストを予習し接続詞について把握する。	2
	授業	Unit 12 Company culture English 1 会社でのコミュニケーションと接続詞について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
10	事前学修	接続詞について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 12 Company culture English 2 社風についての英文教材の理解と自分の性格について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2
11	事前学修	テキストを予習し動名詞･不定詞について把握する。	2
	授業	Unit 13 Email English 1 Email に関するコミュニケーションと動名詞･不定詞について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
12	事前学修	動名詞･不定詞について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 13 Email English 2 ネチケットについての英文教材の理解と Email の対応について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2
13	事前学修	テキストを予習し受動態について把握する。	2
	授業	Unit 14 Housing English 1 引越に関するコミュニケーションと能動態･受動態について理解する。	
	事後学修	ダイアログの音読とシャドーイングを繰り返し行う。文法の復習をする。	2
14	事前学修	能動態･受動態について確認する。文法確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 14 Housing English 2 シェアハウスについての英文教材の理解と住居について英語で表現する。	
	事後学修	作成した英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2
15	事前学修	テキストを予習し関係詞について把握する。	2
	授業	Unit 15 Good News English 祝い事に対するコミュニケーションと関係代名詞･関係副詞について理解する。	
	事後学修	作成した英文を音声化できるよう音読練習する。語彙の復習をする。	2

成績評価の方法およびその基準	
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 試験 60%　■ 文法確認小テスト 10%　■ ポートフォリオ･シート提出とその内容 30%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
試験、小テストの解説、およびポートフォリオ･シートへのコメントによりフィードバックを行う。	
教科書	書名：English Booster!, 著者名：市川泰弘･Robert Hickling, 出版社：金星堂, 備考：前期「基礎英語 A」と同じテキストなので、前期履修者は購入不要です。
参考書・Web サイト	（テキストの音声ファイル）　http://www.kinsei-do.co.jp/download/4113
単位修得が望ましい科目	基礎英語 A
備考	・ひとつの Unit を 2 回の講義で学習します。（最終回のみ 1 回） ・文法の理解を図るため、各 Unit の後半授業にて前時学習の文法確認テストを実施します。 ・ポートフォリオ･シートには毎時のタスク内容と取組状況の自己評価（良くできた点･今後の課題）を記してもらいます。また、質問があれば記載してもらい、教員側から回答やコメントを記し返却することで理解を深めてもらいます。
担当教員の実務経験	高校の英語教員として 2018 年までの 37 年間英語教育指導にあたった。その後、本学及び専門学校で TOEIC 受験の対策や英語表現に関する授業を担当している。こうした経験を、学生の英語コミュニケーション能力向上を図る授業づくりに活かしている。

英語表現ＩＡ English Expression 1A

担当教員	サイモン・ソーラ(317研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CBL109

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1年	前期・後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1年	前期・後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1年	前期・後期

授業概要

このコースは基本の会話を習得させるコースです。学生は基本的な文法をすでに習得していると思われますので，文法よりも会話に重点をおいています。このコースは会話が基本ですので，学生は全員参加しなければなりません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。

注意事項：

（1） 3回以上の無断欠席は落第とします。

（2） 話すことは重要ですから，英語で話す気がない学生には単位が非常にとりにくい。

（3） 2回の遅刻はイコール1回の欠席です。気をつけて下さい。

（4） テキストを使いません。

（5） 英語での口頭試験と発表があります。

（6） ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションが多いです。

（7） 毎週、日記（ノート）に英語で週のメインエベントを書かなければなりません。

授業における学修の到達目標

この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。Let's speak!!

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	1・Read Syllabus 2・Investigate learning outcomes 3・Write own self-introduction	2
	授業	・Student profile ・ Course outline ・ Introduction of course objective ・How to use notebooks (front half journal/back half grammar& keyword notes)	
	事後学修	1・Write self introduction 2・Make 3 questions for start of next class 3・Begin weekly journal (in notebook) (minimum 50 words)	2
2	事前学修	1・Revise self introduction 2・Revise 3 oral questions	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Introduction exercise (how to self introduction) ・Ice breaker name ・Ask prepared oral questions	
	事後学修	1・Write 2nd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords (from ice-break exercise) in journal notebook (back half)	2
3	事前学修	1・Review keywords (from ice-break exercise) 2・Check & review 3 oral questions 3・Read and edit own journal entries	2

	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Classroom English ・Group work to generate and practice understanding of classroom English ・ Put students in groups of 3-4. ・ Present their own classroom English to other groups ・ Teacher writes on board ・ Set homework ... (from prepared print) - English/Japanese matching of classroom English	
	事後学修	1・Write 3rd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set	2
4	事前学修	1・Review homework key sentences (classroom English) 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ List of greetings - when and how to use ・Group work - drama presentation - Hello, How you doing? Where you going? Goodbye. ・ If time, rotate students for practice.	
	事後学修	1・Write 4th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new "greetings" words in journal notebook (back half) (e,g. diagonal etc) 4・Read and edit journal.	2
5	事前学修	1・Review "greetings" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Self Introductions - ・Generate self intro from class members ・Write on board. ・Each to perform in front of class (reading OK) ・Homework write and learn self intro - no reading. ・ALSO - if time, introducing A to B. ・Group work to practice introducing two people (e.g. Tom this is Taro, Taro this is Tom) ・ Rotate groups so that always new introductions.	
	事後学修	1・Write 5th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write self-introduction keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework (self introduction)	2
6	事前学修	1・Review self introduction 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Perform graded self introduction	

		・ Like/Dislike - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on ・ Group work to practice using like/dislike/, crazy about/can't stand, sucks/rocks ・ Class exercise - Find someone who... (from prepared print) ・ Rotate groups - End with students doing - I'M crazy about ... but I can't stand ...	
	事後学修	1・Write 6th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words "like/dislike" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
7	事前学修	1・Review new "like/dislike" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Listening Practice - Students listen to a popular song or short movie. Lyrics are provide in some places. Blanks are completed by students e.g. ・Focus on listening skill rather than precise spelling ・ Also show students how rhyme patterns are beneficial, e.g. Yesterday, All my trouble seemed so far away, ...to stay...	
	事後学修	1・Write 7th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from listening practice in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
8	事前学修	1・Review new words expressions from last listening game lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ I am - How to use the "be" verb. places. e.g. ・Focus on 1st, 2nd, 3rd person. ・ Focus on adjectives & nouns e.g. ・ I am a student. My father is a teacher. I am happy. He is busy. ・ Class exercise - Find someone who is ... (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 8th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from listening practice in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
9	事前学修	1・Review words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 4 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Conversation Time - Dictation Game ・ Dictation Game (Version 2) - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners.	

		e.g. Topics include - My dream, Summer Vacation, Money, My future job etc... ・Focus on talking rather than precise spelling ・ Also show students how to vary sentence patterns. (Examples orally & on board).	
	事後学修	1・Write 9th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from dictation game in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
10	事前学修	1・Review new "Dictation Game" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ I want to go (助動詞 1) ・ Students focus on how to express; ・" want to..."/"He wants to..." ・"I don't want to ..."/"He doesn't want to ...." ・ Class exercise - Find someone who wants to ... (from prepared print) ・ Also show students how to follow pattern ・ Students to pick random partner, ask question, & answer return question ・ "What do you want to do tonight?" ・ Set Homework - Tell me what you want to do in summer vacation.	
	事後学修	1・Write 10th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from "I want to" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal 5・ Complete homework concerning what you want to do in the summer vacation.	2
11	事前学修	1・Review "I want to" usage from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read and review what you want to do in the summer vacation homework.	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ I want to go (助動詞 2) ・Continue from previous lesson with focus on conversational/slang style: ・ e.g. What do you wanna do tonight. I wanna/I don't wanna. ・ Also - "he wants ta"/"She wants ta"/"He dozen wanna" etc... ・ Set homework (same as previous using slang style).	
	事後学修	1・Write 11th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from "I wanna" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal 5・ Complete homework concerning what you "wanna" do in the summer vacation.	2
12	事前学修	1・Review "I wanna" usage from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read and review what you wanna do in the summer vacation homework. (Vers2)	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3)	

		・ I hafta" - Continued abbreviations. ・Continue from previous lesson with focus on conversational/slang style: ・ e.g. What do you hafta do tonight. I hafta ... I don't hafta.... ・ Also - "he doesn't hafta..." etc ・ Set homework - What do you hafta do this weekend - list 10.	
	事後学修	1・Write 12th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from "hafta" lesson in journal notebook (back half) 4・ Complete homework concerning what you "hafta" do this weekend. 5・ Read and edit journal	2
13	事前学修	1・Review "I hafta" usage from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read and review what you hafta do in the weekend homework. (Vers2)	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Commands - ・Introduction of: Go! Don't go! ・Please go! Please don't go! ・Play Simon Says - command game (e.g. Simon says Stand up!) ・Also hand out homework - write 10 positive and negative commands.	
	事後学修	1・Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords (commands) in journal notebook (back half) 4・Complete homework.	2
14	事前学修	1・Review commands. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Part 1 (commands review) ・ Instruction Game - Simple game where students told to do, or not do, something. ・Part 2 (1 minute speech) ・ Introduce idea of 1 minute speech (to be carried out next lesson)	
	事後学修	1・Write 14th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Prepare for 1 minute speech (next lesson) 4・Read and edit journal	2
15	事前学修	1・Check & review 3 new oral questions for next class 2・Practice and learn oral presentation questions 3・Read and edit own journal entries 4・Practice and review 1 minute speech	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Explanation of speech judging criteria (pronunciation, content, attitude, impact etc) ・Students also evaluate each other AND must ask 1 question each to any other student. ・Explain how notebooks to be submitted after next class (oral examination) ・explanation of content for oral examination.	
	事後学修	1・Write 15th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary	2

		3・Read and edit journal for submission 4・Practice oral examination	

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
■参加／宿題／プリント：50%
■口答試験：20%
■平常点：10%
■１分スピーチ：10%
■その他[発言／小テスト等]：10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。（授業中採点する時もあり）
・授業中の参加（質問や発言）の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。
・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。
・発表ある場合は、次回に点数を授業中に教えます。

教科書	書名：ノート　B　6mm　35行　セミB５　３０枚　明るい色の表紙, 著者名：, 出版社：ＰＬＵＳ等, 備考：
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	出席と参加は大事です。下記の備考を読んで下さい。
備考	LUCKY!! 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will sometimes use VIDEOS and MUSIC. このコースは時々ビデオや音楽を使います。 4 This course will teach you REAL, UP-TO-DATE ENGLISH. このコースは現代的な本当の英語を教えます。 5 You don't need a TEXT BOOK. 教科書が要りません。 6 Still don't understand? Come and see me in 317. まだわからないことがあれば３１７号室の私に会いに来て下さい。 UNLUCKY!!

	1 This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate. このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 Only 2 ABSENCES are allowed in each quarter. 前期後期前半後半ともに各 2 日間を超える無断欠席はできません。（quarter ごと 2 回） 3 2 LATE ARRIVALS (more than 15 minutes) equals 1 absence. ２回の遅刻はイコール１回　の欠席です。 4 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first semester. 同じ学期の間 同じ席にすわらなければ いけません。 5 There will be an oral EXAM . 口答試験があります。 6 You must TALK. 喋らない学生は絶対に合格しません。 7 You MUST write in your journal every week. 毎週ジャーナルに記入しなければなりません。
担当教員の実務経験	なし

英語表現ＩＡ English Expression 1A

担当教員	JOEL RIAN(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL109

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期・後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期・後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期・後期

授業概要

Communication (particularly speaking in English) is the focus of this course. We will do many speaking activities in pairs and groups. As necessary we will address vocabulary and language structure, but the main goal is developing a willingness and confidence to communicate in English.

この講座は「コミュニケーション」（特に英語で話すこと）が中心です。ペア又はグループでいろいろな英会話練習を行います。必要に応じて語彙や文型を学習しますが、コミュニケーションができる自信を養い、自分なりの英語を活用することがメインです。

授業における学修の到達目標

This course aims to boost English communication ability and confidence through communication strategies. We will practice basic conversation skills and many useful phrases and expressions. The end goal of this course is to be able to hold a conversation, using only English, for 10 minutes or more.

この講座は、コミュニケーション・ストラテジー（伝達方略）を通じて英語でコミュニケーション力が上達することを目指します。日常英会話に使える語句や表現を学びながら、自分なりの英語を実践的な会話に使うことを目標とします。講座の最終目標：英語のみで、１０分以上会話を続けること。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Read syllabus. PAY CLOSE ATTENTION TO 備考欄："出席"	2.0
	授業	Introduction to communication-strategy-focused, group-discussion based communicative English class. Survey: How was your JHS/HS experience? In-class free speaking activity x2.	
	事後学修	Review syllabus handout. CONFIRM MIDTERM & FINAL TEST DAYS. Write on calendar, do not forget.	2.0
2	事前学修	Optional: What are three rules for real-life English conversation? Write on paper & bring to next class.	2.0
	授業	Introduction to communication strategies. Intro Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Three rules for real-life English conversation.	
	事後学修	Review three rules of real-life conversation. Also review "Ask for Help" phrases (on back of stop-sign).	2.0
3	事前学修	Review "Ask for Help" strategy phrases (stop sign). Think of and write down 10 questions to ask classmates in next class (use best English).	2.0
	授業	Continue Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Pairwork: Q & A. Intro phrases "Me too, me neither, oh really?"	

	事後学修	Re-write questions (Jns-->Eng) from handout.	2.0
4	事前学修	Review romaji rules (ヘボン式 vs 訓令式). Guess difference, write on paper & bring to class. Try writing name in 筆記体 (cursive).	2.0
	授業	Intro Strategy #2: "Make Sure". Practice activity (pairwork). Romaji: 訓令式 vs ヘボン式. "How to cursive" (signature practice)	
	事後学修	Practice writing signature in cursive (follow handout).	2.0
5	事前学修	Theme: "fast food". Think of 5 good things and 5 bad things. Write on paper. Bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #3: "Non-Verbal". Practice activity (pairwork). Intro topic: "fast food". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic). PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	2.0
6	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #4: "Approximate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）.	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout). Optional: write practice test; ask Rian before next class if any questions.	2.0
7	事前学修	Review notes for topic ("fast food").	2.0
	授業	PERFORMANCE (TEST) #1 (midterm)	
	事後学修	Review notes. Next topic: "part-time job". Think of 5good/5bad points. Write & bring to class.	2.0
8	事前学修	Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2.0
	授業	Return PERFORMANCE #1 tests (marked). Feedback. Intro Strategy #5: "Invent". Practice activity (pairwork). Intro topic: "part-time job". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2.0
9	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #6: "Restate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Organize notes for topic, for reference on test.	2.0
10	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic,	2.0

		bring to class.	
	授業	Intro Strategy #7: "Elicit". Practice activity (pairwork). Intro topic: "video games". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2.0
11	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #8: "Catch Copy". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Organize notes for topic, for reference on test.	2.0
12	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2.0
	授業	Intro topic: "mandatory English classes". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2.0
13	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2.0
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）. PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	2.0
14	事前学修	Review notes from previous classes, all three topics (part-time job, video games, mandatory English)	2.0
	授業	PERFORMANCE (TEST) #2 (final)	
	事後学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2.0
15	事前学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2.0
	授業	ミニ面談： return tests, discuss participation (attendance) issues if any. Rian will bring printout of attendance for 前期 for all classes.	
	事後学修	Complete 前期 survey, if any. Organize notes for next semester (these notes & handouts will be useful).	2.0

成績評価の方法およびその基準

[筆記テスト、会話テスト] x 2（中間、期末）
(50% x 2 = 100%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

１５回の日に、テストを返し、成績や授業中のパフォーマンスについての説明を含むプチ面談を行います。

教科書	

参考書・Web サイト	https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/
単位修得が望ましい科目	なし。Bring an open mind.
備考	メール： rianjp48@do-johodai.ac.jp　　遠慮なく、いつでも連絡ください。日本語でもＯＫです。
担当教員の実務経験	なし

英語表現Ｉ Ａ English Expression 1A

担当教員	Charles McLarty(312 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL109

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期・後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期・後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期・後期

授業概要

The focus of the class will be oral communication. Students will develop confidence in their English by participating in a variety of class activities such as listening to popular songs, playing language games, doing crossword puzzles or vocabulary quizzes with a partner.

授業における学修の到達目標

The purpose of our class is to help students learn to use the English words they already know for communication. Also, students will broaden their communication skills by learning many new and useful English vocabulary words.

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Text, Chapter 1	2
	授業	Orientation Guessing Game	
	事後学修	Printed hand-outs	2
2	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Further Orientation Vocabulary Game	
	事後学修	Printed hand-outs	2
3	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Student-Teacher Question Time	
	事後学修	Printed hand-outs	2
4	事前学修	Text, Ch. 2	2
	授業	News Talk and Pair Practice	
	事後学修	Printed hand-outs	2
5	事前学修	Text, Ch. 3	2
	授業	English Video/DVD or Music Listening	
	事後学修	Printed hand-outs	2
6	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Listening Drills and Group Work	
	事後学修	Printed hand-outs	2
7	事前学修	Text, Ch. 4	2
	授業	Text-based Grammar Drills	
	事後学修	Printed hand-outs	2
8	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Communication Practice in Pairs	

	事後学修	Printed hand-outs	2
9	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	English Short Story with Listening Practice	
	事後学修	Printed hand-outs	2
10	事前学修	Text, Ch. 6	2
	授業	Vocabulary Check Quick Response Game	
	事後学修	Printed hand-outs	2
11	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Functional Conversation Pair Practice	
	事後学修	Printed hand-outs	2
12	事前学修	Text, Ch. 7	2
	授業	Listening Practice Find The Answer	
	事後学修	Printed hand-outs	2
13	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Vocabulary Review Further grammar practice	
	事後学修	Printed hand-outs	2
14	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Music Listening or English Video/DVD	
	事後学修	Printed hand-outs	2
15	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Semester Test or Homework	
	事後学修	Vocabulary homework	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 1/3 ■レポート： 1/3

■その他、授業の参加 1/3 とする

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

面談

教科書	書名：J-Talk, 著者名：Linda Lee, Kensaku Yoshida, Steve Ziolkowski, 出版社：Oxford University Press, 備考：
参考書・Web サイト	Learning Interesting Vocabulary in English (L.I.V.E.) by Charles McLarty and Osamu Nakano
単位修得が望ましい科目	基礎英語
備考	Good luck with English
担当教員の実務経験	The instructor, who possesses over 30 years of experience teaching English in the U.S., will provide students with sufficient opportunities to improve their listening, speaking, reading and writing skills in the language.

英語表現ＩＡ English Expression 1A

担当教員	藤井 聡美(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CBL109

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1年	前期・後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1年	前期・後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1年	前期・後期

授業概要

テーマ：英語を用いた積極的なコミュニケーション活動
英語を用いたスピーキング活動とリスニング活動を通して、積極的に英語によるコミュニケーションを取れる力を養成します。毎回の授業では、ペアワークやグループワークを多く取り入れるので、英語で話す・聞くことを活発に行ってもらうことになります。テキストを用いて、リスニングに関わるストラテジーも毎回紹介していきます。
アクティブラーニングの要素としては、授業内で行うグループワーク、プレゼンテーションを含みます。

授業における学修の到達目標

1. 実際的な英語話者の話す英語を正確に聞き取ることができる。
2. 学んだ英語表現、語彙を用いて英語で話すことができる。
3. リスニングのストラテジーを理解し、活用することができる。
4. 学んだ内容をもとに、自分の言葉で英語による発表ができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスに目を通しておく	2.0
	授業	オリエンテーション：授業の説明	
	事後学修	授業に関する重要事項の確認	2.0
2	事前学修	Unit 0 の Vocabulary をチェック、調べておく	2.0
	授業	Unit0：Looking over the course	
	事後学修	Unit0 の At Home（宿題）の音声を聞き、設問に答える	2.0
3	事前学修	Unit 1 の Vocabulary をチェック、調べておく	2.0
	授業	Unit 1：Describing school schedules	
	事後学修	Unit 1 の At Home（宿題）の音声を聞き、設問に答える	2.0
4	事前学修	Unit 2 の Vocabulary をチェック、調べておく	2.0
	授業	Unit2: Describing your daily routines, expressions of time	
	事後学修	Unit 2 の At Home（宿題）の音声を聞き、設問に答える	2.0
5	事前学修	Unit 3 の Vocabulary をチェック、調べておく	2.0
	授業	Unit 3: Describing objects	
	事後学修	Unit 3 の At Home（宿題）の音声を聞き、設問に答える	2.0
6	事前学修	Unit 0 ～　Unit 3 までの教科書に再度目を通す	2.0
	授業	Review (Unit 0～3)	
	事後学修	間違えた部分を復習する	2.0
7	事前学修	Unit0　～　Unit 3 までの試験勉強	2.0
	授業	Mid-Term（中間試験）	
	事後学修	試験のおさらい	2.0
8	事前学修	Unit 4 の Vocabulary をチェック、調べておく	2.0

	授業	Unit 4: Talking about people, describing people	
	事後学修	Unit 4 の At Home（宿題）の音声を聞き、設問に答える	2.0
9	事前学修	Unit 5 の Vocabulary をチェック、調べておく	2.0
	授業	Unit 5: Describing location, objects in a room	
	事後学修	Unit 5 の At Home（宿題）の音声を聞き、設問に答える	2.0
10	事前学修	Unit 6 の Vocabulary をチェック、調べておく	2.0
	授業	Unit 6: Fluency with money and prices	
	事後学修	Unit 6 の At Home（宿題）の音声を聞き、設問に答える	2.0
11	事前学修	Unit 7 の Vocabulary をチェック、調べておく	2.0
	授業	Unit 7: Talking about the future, vacation plans	
	事後学修	Unit 7 の At Home（宿題）の音声を聞き、設問に答える	2.0
12	事前学修	Unit 4　～　Unit 7 までの教科書に再度目を通す	2.0
	授業	Review（Unit 4～7）	
	事後学修	間違えた部分を復習する	2.0
13	事前学修	Speaking Test の準備をする	2.0
	授業	Speaking Test（口頭試験、前半）	
	事後学修	Speaking Test のおさらい	2.0
14	事前学修	Speaking Test の準備をする	2.0
	授業	Speaking Test（口頭試験、後半）	
	事後学修	Speaking Test のおさらい	2.0
15	事前学修	Unit 4～7 の試験勉強	2.0
	授業	全体のまとめ Music Dictation: Listening and Understanding English songs	
	事後学修	試験範囲の学習内容の確認	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。
■中間試験（Mid-Term）：25 %　■最終試験（Final-Term）：25%　■口頭試験（Speaking Test）：20 %
■授業参加および課題への取り組み：30%　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

中間試験、最終試験および口頭試験へのコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：Communication Spotlight Speaking Strategies & Listening Skills Pre-Intermediate 3rd Edition, 著者名：Alastair Graham-Marr, 出版社：ABAX ELT Publishers, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	最終試験は 15 回の講義後、16 週目に行います。最終試験の受験資格を得るには、15 回の講義の 3 分の 2 以上の出席が条件となります。遅刻、早退は 2 回で 1 回分の欠席と見なします。
担当教員の実務経験	なし

英語表現ＩＡ[再] English Expression 1A

担当教員	サイモン・ソーラ　他 (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL109

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	冬期集中

授業概要

再履修専用

　このコースは基本の会話を習得させるコースです。講義はオムニバス形式です。教員はチャーリー先生（1 日目）、ライアン先生（2 日目）、サイモン先生（3 日目）です。学生は基本的な文法をすでに習得していると思われますので，文法よりも会話に重点をおいています。このコースは会話が基本ですので，学生は全員参加しなければなりません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。

注意事項：

（1）　3 日間集中講義ですので、1 日以上サボる人は合格不可能です。

（2）　話すことは重要ですから，英語で話す気がない学生には単位が非常にとりにくい。

（3）　テキストを使いません。

（4）　ディスカッション、グループワーク等が多いです。

授業における学修の到達目標

この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。Let's speak!!

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	1・Revise greetings and self introduction 2・Practice speaking in a big voice	2
	授業	Charlie ・Greetings ・Self introductions	
	事後学修	1・Review greetings and self introduction 2・Write lesson's points in notebook	2
2	事前学修	1・Revise greetings and self introduction from last lesson 2・Practice speaking in a big voice	2
	授業	Charlie ・Word game ・(Students learn words through fun game)	
	事後学修	1・Review new words and expressions 2・Write lesson's points in notebook	2
3	事前学修	1・Revise new words and expressions from last lesson 2・Practice speaking in a big voice	2
	授業	Charlie ・Fun idioms ・ Students learn new, fun idioms ・ Practice in class and complete practice sheet	
	事後学修	1・Review new idioms and write examples 2・Write lesson's points in notebook	2
4	事前学修	1・Revise new idioms and expressions from last lesson	2

		2・Practice speaking in a big voice	
	授業	Charlie ・Conversation techniques ・ Basic conversation techniques (interact, be polite, use gesture, eye contact, show understanding) ・ Students practice conversation from provided material using above techniques. ・ Students practice conversation using above techniques by making own original conversation	
	事後学修	1・Review new conversation techniques and write examples where appropriate 2・Write lesson's points in notebook	2
5	事前学修	1・Revise conversation techniques from last lesson 2・Practice speaking in a big voice	2
	授業	Charlie ・ Short written test of content learned so far ・ Oral test to check application and understanding of content covered ・ Advise students of current progress and likely score	
	事後学修	1・Review all material covered over this first day 2・Write lesson's points in notebook 3・Write mail to teacher listing points you learned	2
6	事前学修	1・Revise material covered on previous day 2・Practice speaking in a big voice	2
	授業	JR ・ Lesson theme: ・ Is gaming good? ・ Discussion	
	事後学修	1・Review for and against reasons 2・Decide which view you like 3・Write reasons on notebook	2
7	事前学修	1・Review discussion from last lesson (good & bad points) 2・Consolidate own opinion on question (Is gaming good?)	2
	授業	JR ・ Lesson theme: ・What do you like about school? ・ Discussion	
	事後学修	1・Review for and against reasons 2・Decide which view you like 3・Write reasons on notebook	2
8	事前学修	1・Review discussion from last lesson (good & bad points) 2・Consolidate own opinion on question (What do you like about school?)	2
	授業	JR ・ Lesson theme: ・Students should be free to choose any subject they want ・ Discussion	
	事後学修	1・Review for and against reasons 2・Decide which view you like 3・Write reasons on notebook	2
9	事前学修	1・Review discussion from last lesson (good & bad points)	2

		2・Consolidate own opinion on question (Students should be free to choose any subject they want)	
	授業	JR ・ Lesson theme: ・ English is useless! ・ Discussion	
	事後学修	1・Review for and against reasons 2・Decide which view you like 3・Write reasons on notebook	2
10	事前学修	1・Review discussion from last lesson (good & bad points) 2・Consolidate own opinion on question (English is useless!)	2
	授業	JR ・ Lesson theme: ・Test: Debate topic to be chosen ・ Students must argue for or against a topic ・ Advise students of current progress and likely score	
	事後学修	1・Review all discussion topics 2・Write mail to teacher explaining why you should pass	2
11	事前学修	1・Revise self introduction learned in Class 1 2・Make 3 oral questions to be asked in class	2
	授業	Simon ・Oral questions between students - each student to ask a question to any other student ・Introduction exercise (how to self introduction) ・Ice breaker game ・Main part of lesson on why questions are important and how to construct questions	
	事後学修	1・Review notes taken during lesson/self introduction 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Send mail to Simon explaining what was learned in class	2
12	事前学修	1・Review keywords (from ice-break exercise) 2・Check & review 3 oral questions 3・Re-read notes (re; self intro) taken in last class	2
	授業	Simon ・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Self Introductions - (free format) ・Generate self intro from class members ・Write on board. ・Each to perform in front of class (reading OK) ・Homework write and learn self intro - no reading. ・ALSO - progress to introducing A to B. ・Group work to practice introducing two people (e.g. Tom this is Taro, Taro this is Tom) ・ Rotate groups so that always new introductions.	
	事後学修	1・Review notes taken during lesson/self introduction 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write self-introduction keywords in journal notebook 4・Send mail to Simon explaining what was learned in class	2
13	事前学修	1・Review free-form self introduction 2・Check & review 3 new oral questions for next class	2

		3・Re-read notes (re; self intro) taken in last class	
	授業	Simon ・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Perform graded self introduction ・ Like/Dislike - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on ・ Group work to practice using like/dislike/, crazy about/can't stand, sucks/rocks ・ Class exercise - Find someone who... (from prepared print) ・ Rotate groups - End with students doing - I'M crazy about ... but I can't stand ...	
	事後学修	1・Review notes taken during lesson/likes & dislikes 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words "like/dislike" lesson in journal notebook 4・ Send mail to Simon explaining what was learned in class	2
14	事前学修	1・Review words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Re-read and edit notes taken in class	2
	授業	Simon ・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Conversation Time - Dictation Game ・ Dictation Game (Version 2) - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners. e.g. Topics include - My dream, Summer Vacation, Money, My future job etc... ・Focus on talking rather than precise spelling ・ Also show students how to vary sentence patterns. (Examples orally & on board). ・Begin preparing 1 minute speech for final lesson. ・Explain grading criteria.	
	事後学修	1・Review notes taken during lesson/self introduction 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from dictation game in journal notebook 4・ Prepare for 1 minute speech (next lesson) 5・ Students must also prepare question to ask concerning each student's presentation 6・ Send mail to Simon explaining what was learned in class	2
15	事前学修	1・Check & review 3 new oral questions for next class 2・Practice and learn own oral presentation and question 3・Review notes taken in class 4・Practice and review 1 minute speech	2
	授業	Simon ・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Explanation of speech judging criteria (pronunciation, content, attitude, impact etc) ・Students also evaluate each other AND must ask 1 question each to any other student. ・address any questions students may have & advise of current progress score.	
	事後学修	1・Review notes taken during lesson/self introduction 2・Send mail to Simon explaining what was learned over the full three day intensive course	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が

採点を行う。
全体的な評価＝（Day1+Day2+Day3)/3
Day 1
■試験：50%
■演習課題：30%
■小テスト：20%
Day 2
■口頭試験：20%
■演習課題：50%
■参加／プリント／小テスト：20%
■その他[発言等]：10%
Day 3
■参加／宿題／プリント：50%
■平常点：10%
■１分スピーチ：30%
■その他[発言／小テスト等]：10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。（授業中採点する時もあり）
・授業中の参加（質問や発言）の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。
・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。

教科書	
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	出席と参加は大事です。下記の備考を読んで下さい。
備考	LUCKY!! 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will sometimes use VIDEOS and MUSIC. このコースは時々ビデオや音楽を使います。 4 This course will teach you REAL, UP-TO-DATE ENGLISH. このコースは現代的な本当の英語を教えます。 5 You don’t need a TEXT BOOK. 教科書が要りません。 UNLUCKY!! 1

	This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate. このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first day. 1 日目の間 同じ席にすわらなければ いけません。 3 You must TALK. 喋らない学生は絶対に合格しません。
担当教員の実務経験	なし

英語表現ＩＢ English Expression 1B

担当教員	ブレンドン ミュア(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL110

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

This course will provide students with the tools to use their existing knowledge of English and further their oral communication skills, focusing on functional language and English expressions in an international context.
Students will practice speaking English in conversation and presentation formats in pairs and groups.

授業における学修の到達目標

This class aims to develop oral communication skills through role-play situations, oral activities, presentations and group projects. With a focus on foreign culture and international relations, students will discuss, compare and contrast various countries' similarities and differences. There is a theme of using English to communicate as global citizens. While exploring the focus topics, vocabulary development is an integral component of this course.

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Create a list of vocabulary, phrases and sentence patterns for introductions.	2.0
	授業	Introductions and personal information. Introduce yourself. Understand conversations about interests and hobbies.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
2	事前学修	Choose the country you want to research.	2.0
	授業	Planning an overseas trip and brainstorming topics of interest.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
3	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 1.	2.0
	授業	Topic 1: The environment. Climate, seasons and natural features.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
4	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 2.	2.0
	授業	Topic 2: Lifestyle. What does daily life look like?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
5	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 3.	2.0
	授業	Topic 3: Facts and figures. With a focus on using large numbers - discover the data.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
6	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 4.	2.0
	授業	Topic 4: Sports. A focus on recreation.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0

7	事前学修	Mid-term assignment preparation and practice.	2.0
	授業	Mid-term assignment. Consolidation of topics 1~4.	
	事後学修	Reflect on strong and weak areas in the assignment and write a plan to approach the next assignment with improved meta-skills.	2.0
8	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 5.	2.0
	授業	Topic 5: Entertainment. Discuss how citizens enjoy themselves.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
9	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 6.	2.0
	授業	Topic 6: Traditions. What practices have continued over multiple generations.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
10	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 7.	2.0
	授業	Topic 7: Sightseeing. What attractions receive the most visitors?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
11	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 8.	2.0
	授業	Topic 8: Current affairs. What are the important areas of focus at the national level?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
12	事前学修	Review lessons 1 ~ 11 and prepare to use powerpoint software.	2.0
	授業	Preparation. Create visual aids to support your country's information in topics 1~8.	
	事後学修	Complete the powerpoint file and rehearse your presentation.	2.0
13	事前学修	Memorize your script for noteless presentations.	2.0
	授業	Pair presentations. Present your country to a single partner. Discuss the content and ask for details and clarification.	
	事後学修	Review content and make improvements based on feedback received.	2.0
14	事前学修	Do mirror practice of presentation and memorize content.	2.0
	授業	Group presentations. Present your country to an audience.	
	事後学修	Review notes from presentations and prepare a report.	2.0
15	事前学修	Prepare questions and feedback.	2.0
	授業	Presentation feedback and review of course content.	
	事後学修	Reflect on strong and weak areas in the presentation and write a review of how your conversation meta-skills improved during the course.	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ Mid-term and final assignments： 100%.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Students will be given one on one verbal feedback on their performance in all oral communication assessments. Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong independent learners of language.

教科書	

参考書・Web サイト	There is no assigned textbook for this course. Materials will be provided by the teacher.
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation are this course's most important requirements. 2. Please note ENGLISH will be spoken in class. 3. Students must be prepared to take notes and develop their vocabulary as a self-learning exercise. 4. Students must bring their i-pad or notebook computer to class. Internet research will be used to learn about foreign countries.
担当教員の実務経験	なし

英語表現ＩＢ English Expression 1B

担当教員	Benjamin Cheng(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CBL110

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1年	前期・後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1年	前期・後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1年	前期・後期

授業概要

This course is designed to provide students with the tools to use their knowledge of English and further their oral communication skills, focusing on functional language and English expressions.
Students will be given the chance to practice in pairs and in groups.

授業における学修の到達目標

The purpose of this class is to develop oral communication skills through role-play situations, oral activities and group projects. Vocabulary development is an important component of this course.

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Preview the vocabulary in Unit 7	2.0
	授業	Unit 7: Part 1. Talk about jobs. Simple questions and answers.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
2	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 7: Part 2. Likes and dislikes. Talk about things you are good at. Write about hobbies and interests. Do review exercises with online audio for consolidating Unit 7.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
3	事前学修	Preview the vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 8.	2.0
	授業	Unit 8: Part 1. Entertainment. Talk about things you like to do. Make plans with a friend.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
4	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 8: Part 2. Write about a place you like to go. Do review exercises with online audio for consolidating Unit 8. Unit 7-8 review quiz.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
5	事前学修	Preview the vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 9.	2.0
	授業	Unit 9: Part 1. Plans and activities. What are your vacation plans? Use expressions to talk about future events.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
6	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0

	授業	Unit 9: Part 2. Predict the future. Talk about future plans. Do review exercises with online audio for consolidating Unit 9.	
	事後学修	Review units 7-9 to prepare for the mid-term test.	2.0
7	事前学修	Review the vocabulary, phrases and sentence patterns in units 7-9	2.0
	授業	Mid-term test	
	事後学修	Reflect on strong and weak areas from the units studied so far.	2.0
8	事前学修	Preview the vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 10.	2.0
	授業	Unit 10: Part 1. Shopping. Use comparatives.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
9	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 10: Part 2. Talk about ways to save money. Write some ideas to save money. Do review exercises with online audio for consolidating Unit 10.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
10	事前学修	Preview the vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 11.	2.0
	授業	Unit 11: Part 1. Give instructions. Make a recipe. Sequence markers.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
11	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Topic 11: Part 2. Talk about things you like doing. Write instructions for a beginner. Do review exercises with online audio for consolidating Unit 11.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
12	事前学修	Preview the vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 12.	2.0
	授業	Unit 12: Part 1. Opinions. Simple past tense vs simple present. Simple past vs present perfect.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
13	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 12: Part 2. Talk about something that is popular in your country. Review quiz units 11 and 12.	
	事後学修	Review units 10-12 in preparation for the end of semester test.	2.0
14	事前学修	Review units 10-12 in preparation for the end of semester test.	2.0
	授業	End of semester test.	
	事後学修	Choose one unit (7-12) from the semester and prepare an individual presentation.	2.0
15	事前学修	Prepare for presentations.	2.0
	授業	Prepare and present Individual presentations.	
	事後学修	Reflect on strong and weak areas from the semester.	2.0
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■Assignments and quizzes ：25% ■Mid-term test: 25% ■End of semester test: 25% ■Presentations: 25%
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
Students will be given one on one verbal feedback of their performance in all oral communication assessments. Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong independent learners of language.

教科書	書名：English Firsthand Level 1 Fifth Edition. - Student Book., 著者名：Marc Helgesen, John Wiltshier, and Steven Brown, 出版社：Pearson Education, 備考：
参考書・Web サイト	english.com
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation in class is the most important requirement of this course. 2. Please note, ENGLISH will be spoken in class. Dictionaries, electronic or traditional, are required in class. Students must be prepared to take notes and develop their personal vocabulary as a self-learning exercise.
担当教員の実務経験	なし

実用英語Ａ Practical English A

担当教員	竹内 典彦(309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL211

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

テーマ「英語の基礎力をさらに高め、実践的な英語力を養う」

多様な英語習熟度を持つ学生に対応した，自律的学習を中心とした講義である。PC を使って News in Levels のニュース記事や CNN 10 のニュース教材、VoiceTube 等の動画を利用して，1 年次に獲得した英語力にさらに上積みすることをねらいとする。半期を通じて，どこまで英語力が伸長するかを追求する。具体的には、上位者は英検 2 級相当以上、中位者は準 2 級相当以上、下位者は 3 級相当以上を目指す。

News in Levels の英文ニュース記事では、読解力や単熟語力を身につける。リスニング力向上も目指す。予習して授業に臨むことで，より確実な英語力が身につく。積極的に自学自習を行い，授業においても積極的に関わることを望む。また英語の読み物教材も使用する。

授業の指針を下に示す。

1　１回目の授業にて重要な授業の方針を伝えるので必ず出席すること
2　未知の単語をその場で引く。予習・復習を怠らないこと
3　ポライトで，その日の課題を示す。講義に出席して課題を提出することが重要

授業における学修の到達目標

1．平易な英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる
2．平易な英文を読んで内容を理解することができる
3．自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し、使うことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	ガイダンス。上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0

	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
8	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
9	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
10	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
11	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
12	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。	2.0

		2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	
13	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
14	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
15	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1．上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2．VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■小テスト： 50%　■演習課題： 50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	News in Levels のサイト、CNN 10、VoiceTube 他
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

実用英語Ａ Practical English A

担当教員	Benjamin Cheng(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CBL211

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	前期

授業概要

This course aims to improve English speaking confidence, ability, and fluency. Students will further develop conversation and discussion skills using exciting and timely topics and activities to help express their opinions and make short presentations.

Exercises in language comprehension, critical thinking, and self-expression are key components of this course. Students will be given the chance to read and listen to varying ideas and topics, have a discussion, and make presentations in groups and individually.

授業における学修の到達目標

The purpose of this class is to develop English ability beyond functional communication. In particular, using both listening and speaking to create a connection with others, discussing personal opinions or experiences, explaining personal ideas and responding to the ideas of others in appropriate ways.
Vocabulary development is an important component of this course.

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 1.	2.0
	授業	Topic 1: Talk about yourself. Is it better to be an individual or to look like everyone else?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
2	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 2.	2.0
	授業	Topic 2: A difficult experience. What should we do if a friend has committed a crime?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
3	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 3.	2.0
	授業	Topic 3: My life online. Is it possible to get addicted to the internet?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
4	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 4.	2.0
	授業	Topic 4: A big accomplishment. Are beauty contests good for women?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
5	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 5.	2.0
	授業	Topic 5: A night out. Who should pay on a date?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
6	事前学修	Review Topic 1 to Topic 5 and select the topic that interests you the most. Prepare a detailed	2.0

		explanation of why you selected that topic.	
	授業	Group assignment preparation, practice, and feedback.	
	事後学修	Consolidate understanding of feedback received during practice and do final preparation.	2.0
7	事前学修	Do mirror practice of assignment and memorize content.	2.0
	授業	Presentation of group assignments.	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
8	事前学修	Review vocabulary and expressions from units 1-5	2.0
	授業	Units 1-5 review Test	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
9	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 6.	2.0
	授業	Topic 6: Love story. Is it best to express our feelings openly and directly?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
10	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 7.	2.0
	授業	Topic 7: A special object. Is it always important to tell the truth?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
11	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 8.	2.0
	授業	Topic 8: What's important in a relationship? Is the internet a good place to meet people?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
12	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 9.	2.0
	授業	Topic 9: Someone important to me. What's the best way to communicate with friends and family?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
13	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 10.	2.0
	授業	Topic 10: My favorites. Is there a limit to being a fan?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
14	事前学修	Review Topic 6 to Topic 10 and select the topic that interests you the most. Prepare a detailed explanation of why you selected that topic.	2.0
	授業	Extended individual assignment practice and feedback.	
	事後学修	Begin memorizing the assignment for presentation practice. Review vocabulary and expressions from units 6-10.	2.0
15	事前学修	Memorize final presentation script. Review vocabulary and expressions from units 6-10.	2.0
	授業	Presentation of individual assignments and units 6-10 Review test.	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
成績評価の方法およびその基準			

Presentations: 50%. Review Tests: 50%
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
Students will be given one on one verbal feedback of their performance in all oral communication assessments. Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong independent learners of language.

教科書	書名：Impact Issues 1. Third Edition., 著者名：Richard R.Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka., 出版社：Pearson Longman., 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation in class is the most important requirement of this course. 2. Please note, ENGLISH will be spoken in class. Dictionaries, electronic or traditional, are required in class. Students must be prepared to take notes and develop their personal vocabulary as a self-learning exercise.
担当教員の実務経験	なし

実用英語Ａ Practical English A

担当教員	桐内 美智子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義		CBL211

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	前期

授業概要

テーマ「英語の基礎力をさらに高め、実践的な英語力を養う」
各授業の始めに、その日の POLITE と教科書の説明をし、皆さんにもその主題について考えて貰いその内容を英語で表現しましょう。後半に 20 分ほど、その課のテーマに関連のある映画を見ます。

授業における学修の到達目標

教科書を最大限に使い、宿題もしっかり仕上げ、英語の表現を身につけます。そして自分の意見も英語で発表できる様になりましょう。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバス確認	2.0
	授業	ガイダンス、テキスト	
	事後学修	Polite3 NO.1 の課題	2.0
2	事前学修	Unit１４．p.82, p.83,音読	2.0
	授業	BTS. 米国について。	
	事後学修	POLITE3 NO.2 の課題	2.0
3	事前学修	P.８２, p.８３音読	2.0
	授業	米国俳優シドニー。ポワチエについて。	
	事後学修	PoLITE3 の課題	2.0
4	事前学修	p.82,p.83,音読	2.0
	授業	タイ王国について。	
	事後学修	ＰＯＬＩＴＥ３ 課題ＮＯ．４	2.0
5	事前学修	P.82, p.83 音読	2.0
	授業	Japanese pop singers の米国進出について。	
	事後学修	POLITE3 ,NO,5 課題	2.0
6	事前学修	Unit 8. p.46.p.47 音読	2.0
	授業	「はやぶさ ２」について。	
	事後学修	POLITE3 NO.6 課題	2.0
7	事前学修	p.46, p.47,音読	2.0
	授業	「アルミテス計画」について。	
	事後学修	POLITE3 NO.7 課題	2.0
8	事前学修	p.46、ｐ。４７音読	2.0
	授業	スヌーピー宇宙へ。	
	事後学修	ＰＯＬＩＴＥ３、NO.８課題	2.0
9	事前学修	ｐ。46、ｐ。４７音読	2.0

	授業	月の資源について。	
	事後学修	POLITE3. NO.9 課題。	2.0
10	事前学修	p.46, p.47.音読	2.0
	授業	月ではしる車。	
	事後学修	POLITE3 NO.10 課題	2.0
11	事前学修	P９４， p。９５音読	2.0
	授業	在宅勤務について。	
	事後学修	POLITE3 NO.11 課題	2.0
12	事前学修	P９４， p。９５音読	2.0
	授業	アグネス・チャンさんの三男、オンライン入社。	
	事後学修	POLITE3 NO.12 課題	2.0
13	事前学修	p.94,p.95 音読	2.0
	授業	ＮＴＴとドコモについて。	
	事後学修	Polite3 NO.13 課題	2.0
14	事前学修	p.９４， p.95 音読 p.94,p.95 音読	2.0
	授業	５G について。	
	事後学修	POLITE3,NO.14, 課題	2.0
15	事前学修	まとめ	2.0
	授業	まとめ	
	事後学修	polite3, NO.15.最終課題課題	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：最終課題　50%　□小テスト：　　%　■レポート：　25%　■演習課題：　25%　■その他[全体の総合得点で評価します。出席は 2／3 以上必要です。講義最後のテストは必ず受けて下さい。教科書は必ず購入。全宿題提出。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各提出課題に対してコメントをします。

教科書	書名：English through the News Media -202 2 Edition-, 著者名：Masami Takahashi. Noriko Itoh. Richard Powell., 出版社：(株) 朝日出版社, 備考：本年も、新刊書です。必ず、購買してくださいね。英語は、多読です。
参考書・Web サイト	授業には必ず iPad を持参して下さい。スマホも可。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	私は大学卒業後、新卒入社で三菱商事（株）に勤務。機械課担当でしたので原子力発電所立ち上げ、マイクロソフト、アップルコンピューターのシリコンバレー、欧米の銀行取引き、宇宙事業も手がけましたので、その世界を見る目で授業を行なっていきます。3 年勤務結婚退職後は、高校、大学で英語を教えています。

実用英語Ｂ Practical English B

担当教員	竹内 典彦(309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL212

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

テーマ「実用英語 A で身につけた英語力をさらに高める」

このコースでは英語プレゼンテーション制作の演習を行う。最終的には、学内英語プレゼンテーションコンテストに出品することが課題となる。グループに分かれて、自律的に作品を制作していく。特定の個人に作業が集中しないように、それぞれの個性を生かして、分担作業を行う。

すぐにグループ分けは行わない。最初に前年度の入賞作品を鑑賞して、質の高い作品とはどういうものかを考察し、理解を深める。さらにどのように制作すれば、質の高い作品を制作できるかを考える。グループによる話し合いも行う。効果的スライドやコンテンツ作成のためのスキルや、英語による表現力や発音のスキルを養成する。

授業における学修の到達目標

1．平易な英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる
2．平易な英文を読んで内容を理解することができる
3．自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し，使うことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	個人作品の構想を練る	2.0
	授業	ガイダンス、入賞作品鑑賞、レポート、英文音読練習	
	事後学修	過去の作品についてフィードバックをする	2.0
2	事前学修	個人作品の構想を練る	2.0
	授業	前年度入賞作品鑑賞、レポート、英文音読練習	
	事後学修	過去の作品についてフィードバックをする	2.0
3	事前学修	個人作品制作のための準備	2.0
	授業	TED トーク鑑賞、個人作品制作、翻訳サイトの利用について、英文音読練習	
	事後学修	個人作品制作の進捗状況についてレポートをする。翻訳サイトについてフィードバックする	2.0
4	事前学修	個人作品制作のための準備	2.0
	授業	個人作品制作、レポート、英文音読練習	
	事後学修	個人作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
5	事前学修	個人作品制作のための準備	2.0
	授業	個人作品制作 、レポート、英文音読練習	
	事後学修	個人作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
6	事前学修	個人作品制作のための準備	2.0
	授業	個人作品鑑賞、ディスカッション、英文音読練習	
	事後学修	個人作品を鑑賞してレポートをする。	2.0
7	事前学修	チーム作品のための構想を練る	2.0
	授業	チーム分け、チーム作品のためのブレスト 、英文音読練習	

	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
8	事前学修	チーム作品のための構想を練る	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
9	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
10	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
11	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
12	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
13	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
14	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品鑑賞、ディスカッション、英文音読練習	
	事後学修	ディスカッションのまとめ、コンテスト出品作業	2.0
15	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品鑑賞、ディスカッション、英文音読練習	
	事後学修	ディスカッションのまとめ、コンテスト出品作業	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
■演習課題（作品制作）： 60% ■レポート： 20%
■その他[プレゼンテーション] 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。プレゼンテーション作品の講評をする。

教科書	
参考書・Web サイト	POLITE、TED トーク、ウェブ全般
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

実用英語Ｂ Practical English B

担当教員	Benjamin Cheng(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL212

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

This course aims to improve English speaking confidence, ability, and fluency. Students will further develop conversation and discussion skills using exciting and timely topics and activities to help express their opinions and make short presentations.

Exercises in language comprehension, critical thinking, and self-expression are key components of this course. Students will be given the chance to read and listen to varying ideas and topics, have a discussion, and make presentations in groups and individually.

授業における学修の到達目標

The purpose of this class is to develop English ability beyond functional communication. In particular, using both listening and speaking to create a connection with others, discussing personal opinions or experiences, explaining personal ideas and responding to the ideas of others in appropriate ways.
Vocabulary development is an important component of this course.

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 11.	2.0
	授業	Topic 11: A difficult experience. How do we deal with rude behavior?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
2	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 12.	2.0
	授業	Topic 12: Helping disabled people. Do we treat disabled people unfairly?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
3	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 13.	2.0
	授業	Topic 13: My inspiration. Should children be concerned with environmental problems?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
4	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 14.	2.0
	授業	Topic 14: My life goals. Is it harder for young people to start a career now than it was in the past?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
5	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 15.	2.0
	授業	Topic 15: Courage. Should employees report dishonest activities at work?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0

6	事前学修	Review Topic 11 to Topic 15 and select the topic that interests you the most. Prepare a detailed explanation of why you selected that topic.	2.0
	授業	Group assignment preparation, practice, and feedback.	
	事後学修	Consolidate understanding of feedback received during practice and do final preparation.	2.0
7	事前学修	Do mirror practice of assignment and memorize content.	2.0
	授業	Presentation of group assignments.	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
8	事前学修	Review vocabulary and expressions from units 11-15	2.0
	授業	Units 11-15 Review test.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
9	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 16.	2.0
	授業	Topic 16: My Dream. How much attention should we pay to our dreams?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
10	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 17.	2.0
	授業	Topic 17: Children or no children? Should all couples have children?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
11	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 18.	2.0
	授業	Topic 18: Advice to humans. Are we smart enough to save ourselves?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
12	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 19.	2.0
	授業	Topic 19: Cloning in the future. Should cloning animals be allowed?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
13	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 20.	2.0
	授業	Topic 20: Learning English. Is it important to learn English?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
14	事前学修	Review Topic 16 to Topic 20 and select the topic that interests you the most. Prepare a detailed explanation of why you selected that topic.	2.0
	授業	Extended individual assignment preparation, practice and feedback.	
	事後学修	Consolidate understanding of feedback received during practice and do final preparation. Review vocabulary and expressions from units 16-20.	2.0
15	事前学修	Memorize final presentation script. Review vocabulary and expressions from units 16-20.	2.0
	授業	Presentation of individual assignments. Units 16-20 review test.	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
成績評価の方法およびその基準			

Presentations: 50%. Review tests: 50%
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
Students will be given one on one verbal feedback of their performance in all oral communication assessments. Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong independent learners of language.

教科書	書名：Impact Issues 1. Third Edition., 著者名：Richard R.Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka., 出版社：Pearson Longman., 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation in class is the most important requirement of this course. 2. Please note, ENGLISH will be spoken in class. Dictionaries, electronic or traditional, are required in class. Students must be prepared to take notes and develop their personal vocabulary as a self-learning exercise.
担当教員の実務経験	なし

実用英語Ｂ Practical English B

担当教員	桐内 美智子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL212

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

テーマ「実用英語 A で身に付けた英語力をさらに高める」
各授業の始めに、その日の Polite と教科書の説明をし、皆さんにその主題について考えて貰いその内容を英語で表現しましょう。２０分ほど、その課のテーマに関連がある映画を見ます。

授業における学修の到達目標

教科書を最大限に使い、宿題もしっかり仕上げ、英語の表現を身につけます。そして自分の意見も英語で発表できる様になりましょう。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバス確認	2.0
	授業	ガイダンス、テキスト	
	事後学修	POLITE3. NO.1 の課題。	2.0
2	事前学修	Unit２2、P.１３０、P１３１音読	2.0
	授業	グリーンランドについて。	
	事後学修	POLITE 3. NO.2.課題	2.0
3	事前学修	P１３０, p。１３１音読	2.0
	授業	デンマークについて。	
	事後学修	POLITE3.NO.3 課題	2.0
4	事前学修	P130、P131。音読	2.0
	授業	映画「グリーンランド、地球最後の日」について。	
	事後学修	POLITE,NO.4. 課題	2.0
5	事前学修	P130、 p。１３１..音読	2.0
	授業	No5、フインランドでサンタ不足！	
	事後学修	POLITE,NO.5.課題	2.0
6	事前学修	Unit 7. p.40,p.41 音読	2.0
	授業	海底噴火、トンガについて。	
	事後学修	POLITE3, NO.6.課題	2.0
7	事前学修	P.40, P.41.音読	2.0
	授業	地球冷却化について。	
	事後学修	POLITE3,NO.7. 課題。	2.0
8	事前学修	P.４０, P.４1.音読	2.0
	授業	グレタさんについて。	
	事後学修	POLITE3,、NO.8.課題。	2.0
9	事前学修	P.４０, P.４1.音読	2.0

	授業	仏の原発回帰について。	
	事後学修	POLITE,NO.9. 課題	2.0
10	事前学修	P.40、P41.音読	2.0
	授業	核、気候、コロナについて。	
	事後学修	POLITE3.NO. 10. 課題	2.0
11	事前学修	Unit 1. p.4、p.5 音読。	2.0
	授業	エストニアの寒中水泳	
	事後学修	POLITE3, NO.11. 課題。	2.0
12	事前学修	p.4. p.5 音読. . .	2.0
	授業	エストニアについて。	
	事後学修	POLITE3,NO.12. 課題。	2.0
13	事前学修	P.4, p.5 音読	2.0
	授業	エストニアの IT 教育。	
	事後学修	POLITE3,NO.13. 課題。	2.0
14	事前学修	映画　"THE DAY AFTER TOMORROW"について	2.0
	授業	北極について。	
	事後学修	POLITE3,NO.14. 課題。	2.0
15	事前学修	まとめ	2.0
	授業	まとめ	
	事後学修	NO.15. 最終課題課題	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：最終課題　50%　□小テスト：　　%　■レポート：　25%　■演習課題：　25%　■その他[全体の総合得点で評価します。出席は 2／3 以上必要です。講義最後のテストは必ず受けて下さい。教科書は必ず購入。全宿題提出。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各提出課題に対してコメントをします。

教科書	書名：English through the News Media-202 2 Edition., 著者名：Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell., 出版社：(株)　朝日出版社。, 備考：本年も、新刊書です。必ず、購買してくださいね．英語は、多読です。
参考書・Web サイト	授業には必ず（iPad）を持参して下さい。スマホも可。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	私は大学卒業後、新卒入社で三菱商事（株）に勤務。機械課担当でしたので原子力発電所立ち上げ、マイクロソフト、アップルコンピューターのシリコンバレー、欧米の銀行取引き、宇宙事業も手がけましたので、その世界を見る目で授業を行なっていきます。3 年間勤務、結婚退職し、その後は高校、大学で教えています。

英語表現ⅡA English Expression 2 A

担当教員	サイモン・ソーラ(317研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CBL213

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	前期

授業概要

このコースは会話力をさらに向上させるコースです。すでに習得している会話力や聞き取りなどをもっと開発することを重点としています。テキストの他にビデオや歌などのメディアを使います。このコースは会話を基本としていますので学生は全員参加しなければいけません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。受講する学生は必ず最初の講義を受けなければなりません。最初の講義を受けなければ，そのあとの講義は受けられません。

注意事項：
（1）最初の講義を受けなければ，そのあとの講義は受けられません。
（2）話すことが重要ですから，英語で話す気がない学生には単位が非常にとりにくい。
（3）３日を超える無断欠席はできません。
（4）２回の遅刻はイコール１回の欠席です。Be careful!
（5）英語での口頭試験（面接）と口頭発表があります。
（6）ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションが多いです。
（7）毎週、日記（ノート）に英語で週のメインエベントを書かなければなりません。

授業における学修の到達目標

この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。Let's speak English!! OK!?

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	1・Read Syllabus 2・Investigate learning outcomes 3・Understand purpose of course 4・Write name in textbook and notebook	2
	授業	・Student profile ・ Course outline ・ Introduction of course objective ・How to use notebooks (front half journal/back half grammar& keyword notes)	
	事後学修	1・Write self introduction 2・Read Ch1 of text 3・Make 3 questions for start of next class 4・Begin weekly journal (in notebook) (minimum 50 words)	2
2	事前学修	1・Revise self introduction 2・Review Chapter 1 key sentences 3・Revise 3 oral questions	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Introduction exercise (how to self introduction) ・Ice breaker name ・Ask prepared oral questions	
	事後学修	1・Write 2nd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class)	2

		3・Write keywords in journal notebook (back half)	
3	事前学修	1・Review Chapter 1 key sentences 2・Check & review 3 oral questions 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 1 - Greetings（H/W p. 6) ・Group work to practice introductions/names/hometown etc ・ Class exercise - Find someone who... (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 3rd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 6)	2
4	事前学修	1・Review Chapter 1 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Group work to compare who drew correctly, and why. ・ If time, complete twice - compare first and second	
	事後学修	1・Write 4th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new "Draw what I say" words in journal notebook (back half) (e,g. diagonal etc) 4・Read and edit journal.	2
5	事前学修	1・Review Chapter 1 key sentences & new "Draw what I say" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 2 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 2 - Meeting people（H/W p.15) ・Group work to practice introducing two people (e.g. Tom this is Taro, Taro this is Tom) ・ Rotate groups so that always new introductions	
	事後学修	1・Write 5th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 16)	2
6	事前学修	1・Review Chapter 2 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Dictation Game - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners. e.g. Topics include - My family, School. Music, My hobby etc... ・Focus on talking rather than precise spelling	
	事後学修	1・Write 6th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from dictation game in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2

7	事前学修	1・Review Chapter 2 key sentences & new "Dictation Game" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 3 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Chapter 3 - Talking about your plans (H/W p 22) ・Show 3 basic future tense styles + slang forms ・Group work to practice "What are you doing tonight?" ・ Class exercise - Find someone who is watching TV etc... (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 7th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 22)	2
8	事前学修	1・Review Chapter 3 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Listening Practice - Students listen to a popular song or short movie. Lyrics are provide in some places. Blanks are completed by students e.g. ・Focus on listening skill rather than precise spelling ・ Also show students how rhyme patterns are beneficial, e.g. Yesterday, All my trouble seemed so far away, ...to stay...	
	事後学修	1・Write 8th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from listening practice in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
9	事前学修	1・Review Chapter 3 key sentences & new "Listening Practice" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 4 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 4 - Invitations（H/W page 31-32) ・Group work to practice how to invite people ・ Rotate groups so that always inviting new partner. ・ Focus on 3・3・3（3 invitation, 3 acceptance, 3 declination patterns)	
	事後学修	1・Write 9th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 31-2)	2
10	事前学修	1・Review Chapter 4 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Making questions - Students focus on how to make questions. ・ No question, no communication	

		e.g. ・W/H questions plus correct word order（W/H + aux + sub + verb + obj) ・ Also show students how to follow pattern ・ Students to pick random partner, ask question, & answer return question	
	事後学修	1・Write 10th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from "making questions" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
11	事前学修	1・Review Chapter 4 key sentences & new "Making questions" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 5 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Chapter 5 - Ordering a meal（H/W page 41) ・Group work to practice how to order food in a restaurant ・ Form teams of 3 or 4. Do a simulation	
	事後学修	1・Write 11th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords (ordering a meal) in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 41)	2
12	事前学修	1・Review Chapter 5 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Mini debate - Students practice agreeing and disagreeing. e.g. ・Teams of three ・ Rotate after 3 or minutes ・ Students continually switch from affirmative to negative. ・ Topics from students if possible	
	事後学修	1・Write 12th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from "mini debate" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
13	事前学修	1・Review Chapter 5 key sentences & new "Mini debate" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 6 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 6 - I’ve got some free tickets（H/W p.47) ・Compare have/ have got. ・Focus on colloquial formats - pair work e.g. You got a pen? How 'bout you? etc ・Group work to practice "How many members cards have you got?" etc ・ Class exercise - Find someone who has got.. (from prepared print) ・ Brief demonstration of questions and format of oral examinations ・Also hand out practice sheet for homework in addition to text homework	
	事後学修	1・Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words)	2

		2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords (Ch6 - I've got ...) in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 47) 5・Answer questions in oral presentation practice sheet	
14	事前学修	1・Review Chapter 6 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read and practice oral presentation material	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Oral Presentation Practice - Students practice by interviewing each other with questions from the oral practice sheet (distributed previous lesson as homework). ・ Practice in pairs and rotate to new partner after 5 minutes ・ Students take turns in asking and answering questions. ・ Topics from students if possible	
	事後学修	1・Write 14th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from "oral presentation practice" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
15	事前学修	1・ Check & review 3 new oral questions for next class 2・Practice and learn oral presentation questions 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Oral presentation skills check ・ All students to complete basic conversation skills check (questions on sheet handed out previously)	
	事後学修	1・Write 15th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary 4・Read and edit journal for submission	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
■ノート：20%
■参加／宿題／プリント：40%
■平常点：10%
■口答試験：20%
■発表（プレゼンテーション・スピーチ）：10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。（授業中採点する時もあり）
・授業中の参加（質問や発言）の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。
・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。
・発表ある場合は、次回に点数を授業中に教えます。

教科書	書名：Simon Says - Basic English conversation for young adults, 著者名：Simon Thollar, 出版社：丸善プラネット, 備考：2019 年版と若干違いますので、必ず新しい方を買ってください。
	書名：ノート　B　6mm　35 行　セミ B 5　３０枚　明るい色の表紙, 著者名：, 出版社：

	ＰＬＵＳ, 備考：
参考書・Web サイト	http://www.eigoguy.com
単位修得が望ましい科目	参加の為、出席は大事です。下記の備考を読んで下さい。
備考	GOOD NEWS!! 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will sometimes use VIDEOS and MUSIC. このコースは時々ビデオや音楽を使います。 4 This course will teach you REAL, UP-TO-DATE ENGLISH. このコースは現代的な本当の英語を教えます。 5 There are few reports and NO FINAL EXAMINATION. レポートはあまりありません。筆記試験（定期試験）がありません。 6 Still don't understand? Come and see me in 317. まだわからないことがあれば３１７号室の私に会いに来て下さい。 BAD NEWS!! 1 This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate. このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 Only 2 ABSENCES are allowed in each quarter. 前期後期前半後半ともに各 2 日間を超える無断欠席はできません。（quarter ごと 2 回） 3 2 LATE ARRIVALS (more than 15 minutes) equals 1 absence. ２回の遅刻はイコール１回　の欠席です。 4 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first semester. 同じ学期の間 同じ席にすわ らなければ いけません。 5 There will be an oral presentation. 口答プレゼンテーション・試験があります 6 You need a TEXT　book & you must TALK. 教科書は必要で喋らない学生は絶対に合格しません。 7 You MUST write in your journal every week. 毎週ジャーナルに記入しなければなりません。
担当教員の実務経験	なし

英語表現Ⅱ A English Expression 2 A

担当教員	ジョエル・ライアン(308研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CBL213

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	前期

授業概要

Communication (particularly speaking in English) is the focus of this course. We will do many speaking activities in pairs and groups. As necessary we will address vocabulary and language structure, but the main goal is developing a willingness and confidence to communicate in English.

この講座は「コミュニケーション」（特に英語で話すこと）が中心です。ペア又はグループでいろいろな英会話練習を行います。必要に応じて語彙や文型を学習しますが、コミュニケーションができる自信を養い、自分なりの英語を活用することがメインです。

授業における学修の到達目標

This course aims to boost English communication ability and confidence through communication strategies. We will practice basic conversation skills and many useful phrases and expressions. The end goal of this course is to be able to hold a conversation, using only English, for 10 minutes or more.

この講座は、コミュニケーション・ストラテジー（伝達方略）を通じて英語でコミュニケーション力が上達することを目指します。日常英会話に使える語句や表現を学びながら、自分なりの英語を実践的な会話に使うことを目標とします。講座の最終目標：英語のみで、１０分以上会話を続けること。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Read syllabus. PAY CLOSE ATTENTION TO 備考欄："出席"	2.0
	授業	Introduction to communication-strategy-focused, group-discussion based communicative English class. Survey: How was your JHS/HS experience? In-class free speaking activity x 2.	
	事後学修	Review syllabus handout. CONFIRM MIDTERM & FINAL TEST DAYS. Write on calendar, do not forget.	2.0
2	事前学修	Optional: What are three rules for real-life English conversation? Write on paper & bring to next class.	2.0
	授業	Introduction to communication strategies. Intro Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Three rules for real-life English conversation.	
	事後学修	Review three rules of real-life conversation. Also review "Ask for Help" phrases (on back of stop-sign).	2
3	事前学修	Review "Ask for Help" strategy phrases (stop sign). Think of and write down 10 questions to ask classmates in next class (use best English).	2
	授業	Continue Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Pairwork: Q & A. Intro phrases "Me too, me neither, oh really?"	

	事後学修	Re-write questions (Jns-->Eng) from handout.	2
4	事前学修	Review romaji rules (ヘボン式 vs 訓令式). Guess difference, write on paper & bring to class. Try writing name in 筆記体 (cursive).	2
	授業	Intro Strategy #2: "Make Sure". Practice activity (pairwork). Romaji: 訓令式 vs ヘボン式. "How to cursive" (signature practice)	
	事後学修	Practice writing signature in cursive (follow handout).	2
5	事前学修	Theme: "fast food". Think of 5 good things and 5 bad things. Write on paper. Bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #3: "Non-Verbal". Practice activity (pairwork). Intro topic: "fast food". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic). PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	2
6	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #4: "Approximate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）.	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout). Optional: write practice test; ask Rian before next class if any questions.	2
7	事前学修	Review notes for topic ("fast food").	2
	授業	PERFORMANCE (TEST) #1 (midterm)	
	事後学修	Review notes. Next topic: "part-time job". Think of 5good/5bad points. Write & bring to class.	2
8	事前学修	Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Return PERFORMANCE #1 tests (marked). Feedback. Intro Strategy #5: "Invent". Practice activity (pairwork). Intro topic: "part-time job". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x 1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
9	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #6: "Restate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
10	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic,	2

		bring to class.	
	授業	Intro Strategy #7: "Elicit". Practice activity (pairwork). Intro topic: "video games". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
11	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #8: "Catch Copy". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Organize notes for topic, for reference on test.	2
12	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "mandatory English classes". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
13	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）. PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	2
14	事前学修	Review notes from previous classes, all three topics (part-time job, video games, mandatory English)	2
	授業	PERFORMANCE (TEST) #2 (final)	
	事後学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
15	事前学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
	授業	ミニ面談： return tests, discuss participation (attendance) issues if any. Rian will bring printout of attendance for 前期 for all classes.	
	事後学修	Complete 前期 survey, if any. Organize notes for next semester (these notes & handouts will be useful).	2

成績評価の方法およびその基準

[筆記テスト、会話テスト] x 2（中間、期末）
(50% x 2 = 100%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

１５回の日に、テストを返し、成績や授業中のパフォーマンスについての説明を含むプチ面談を行います。

教科書	

参考書・Web サイト	https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/
単位修得が望ましい科目	なし。Bring an open mind.
備考	メール： rianjp48@do-johodai.ac.jp　　遠慮なく、いつでも連絡ください。日本語でもＯＫです。
担当教員の実務経験	なし

英語表現Ⅱ A English Expression 2 A

担当教員	Charles McLarty(312 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL213

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

The focus of the class will be oral communication, especially using English idioms (英語の熟語)

Students will develop confidence in their English by participating in a variety of class activities using idioms. Activities will include listening exercises, word/language games, vocabulary quizzes and pair or small group practices.

授業における学修の到達目標

The first purpose of this class is to help students learn to use the English words they already know for communication. The second purpose is to help students communicate with more natural-sounding English by using common idioms in American English.

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Text-Introduction and Chapter 1	2
	授業	Orientation and Idioms Guessing Game	
	事後学修	Text and Printed hand-outs	2
2	事前学修	Text and Printed hand-outs	2
	授業	Miyu's Story and Textbook Characters	
	事後学修	Text and Printed hand-outs	2
3	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Listening and Pair practice	
	事後学修	Text and Printed hand-outs	2
4	事前学修	Text	2
	授業	Dinner with Miyu's Host Family new American Idioms	
	事後学修	Text and Printed hand-outs	2
5	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Listening Practice Vocabulary Drills	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
6	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Idioms for Daily Schedule Use	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
7	事前学修	printed hand-outs	2
	授業	Pair Practice Vocabulary Drills	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2

8	事前学修	Text Exercises	2
	授業	The Supermarket Idioms for Shopping	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
9	事前学修	Text	2
	授業	Listening Comprehension Pair practice	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
10	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Idioms for Drinking, Dining Purposes	
	事後学修	Text and Printed hand-outs	2
11	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Grammar Drills Vocabulary Check	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
12	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Miyu's Part-time Job Idioms for Working/Jobs	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
13	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Listening Practice Pair/Group Practice	
	事後学修	Text	2
14	事前学修	printed hand-outs	2
	授業	At The Blazer Game Idioms for Sports/Games	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
15	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Idioms Review and Listening practice	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験： 1/3 ■レポート： 1/3
■その他、授業の参加 1/3 とする

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

面談

教科書	書名：Hang In There! Elementary Conversation in English, 著者名：Charles McLarty, 出版社：丸善プラネット, 備考：
参考書・Web サイト	日常会話なのに辞書にのっていない英語の本 J. ユンカーマン、松本薫
単位修得が望ましい科目	英語表現 1A, 1B

備考	Good luck with English
担当教員の実務経験	The instructor, who possesses over 30 years of experience teaching English in the U.S. and Japan, will provide students with sufficient opportunities to improve their listening, speaking, reading and writing capabilities.

英語表現ⅡB English Expression 2 B

担当教員	サイモン・ソーラ(317研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CBL214

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	後期

授業概要

このコースは会話力をさらに向上させるコースです。ベースは英語表現ⅡAです。すでに習得している会話力や聞き取りなどをもっと開発することを重点としています。テキストの他にビデオや歌などのメディアを使います。このコースは会話を基本としていますので学生は全員参加しなければいけません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。受講する学生は必ず最初の講義を受けなければなりません。最初の講義を受けなければ，そのあとの講義は受けられません。

注意事項：
（1）最初の講義を受けなければ，そのあとの講義は受けられません。
（2）話すことが重要ですから，英語で話す気がない学生には単位が非常にとりにくい。
（3）３日を超える無断欠席はできません。
（4）２回の遅刻はイコール１回の欠席です。Be careful!
（5）英語での口頭発表（グループ・プレゼンテーション）があります。
（6）ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションが多いです。
（7）毎週、日記（ノート）に英語で週のメインエベントを書かなければなりません。

授業における学修の到達目標

この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。Let's speak English!! OK!?

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	1・Read Syllabus 2・Investigate learning outcomes 3・Understand purpose of course	2
	授業	・About the summer vacation ・ Course outline ・ Introduction of course objective ・How to use notebooks (front half journal/back half grammar& keyword notes) ・Talk about summer vacation in pairs. ・Class exercise - find someone who ... (from prepared print)	
	事後学修	1・Read Ch7 of text 2・Make 3 questions for start of next class 3・Begin weekly journal (in notebook) (minimum 50 words)	2
2	事前学修	1・Review Chapter 7 key sentences 2・Check & review 3 oral questions 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 7 - Asking Directions (H/W p. 56) - video & read text ・Group work to practice "Where is the baker?" etc Do in pairs and rotate ・ Class exercise - All stand - One student asks "Where is the ...?" Random student to answer.	
	事後学修	1・Write 2rd journal entry (front half) (minimum 50 words)	2

		2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords (asking directions) in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 56)	
3	事前学修	1・Review Chapter 7 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Draw what I say - Introduce how to ask question when told to draw something ・ FOCUS - How to ask questions e.g. Draw a circle. What size? What color? How many? (Follow up from Semester 1)etc ・Group work to compare who drew correctly, and why. ・ If time, complete twice - compare first and second - ・Focus on how to make questions to obtain information.	
	事後学修	1・Write 3rd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write "Draw what I say" words in journal notebook (back half) (e,g. diagonal etc) 4・Read and edit journal.	2
4	事前学修	1・Review Chapter 7 key sentences & new "Draw what I say" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 8 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 8 - What sort of movie was it? (H/W p.15) - video and read text ・Group work to practice using like/dislike/, crazy about/can't stand, sucks/rocks ・ Class exercise - Find someone who... (from prepared print) ・ Rotate groups - End with students doing - I'M crazy about ... but I can't stand ...	
	事後学修	1・Write 4th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 16)	2
5	事前学修	1・Review Chapter 8 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Part 1 - Video comprehension exercise (Listen and answer) ・ Part 2 - Speaking 6 recording ・ Dictation Game (Version 2) - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners. e.g. Topics include - My dream, Summer Vacation, Money, My future job etc... ・Focus on talking rather than precise spelling ・ Also show students how to vary sentence patterns. (Examples orally & on board).	

	事後学修	1・Write 5th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from dictation game in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
6	事前学修	1・Review Chapter 8 key sentences & new "Dictation Game" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 9 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Chapter 9 - Phone talk (H/W p 73) ・Discuss; May I speak to ... x 6 variations, He's stepped out etc... ・Group work to practice a sample phone conversation. ・ Class exercise - Fill in the blanks ... (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 6th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 73)	2
7	事前学修	1・Review Chapter 9 key sentences & Chapter 9 homework. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 10 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Chapter 10 - Going to the Doctor (H/W p 83) ・Discuss; What seems to be the trouble? I've got a cold/the flu/a headache etc... ・Group work to sick talk. ・ Class exercise - Perform mini dram in front of class (prep time 10 minutes) ・ At least 2 parts - a patient/1 doctor ・ Class exercise - Fill in the blanks ... (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 7th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 83)	2
8	事前学修	1・Review Chapter 10 key sentences. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 10 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 11 - Discussing Experiences (H/W page 96) ・Group work to practice 1 past participle of verbs, 2 Have you ever construction 3 Abbreviation forms - it.there/one/him/her etc e.g. Have you ever seen a UFO? Yes, I've seen one. ・ Rotate groups so that always inviting new partner. ・ Class exercise - Fill in the blanks ... (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 8th journal entry (front half) (minimum 50 words)	2

		2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 96)	
9	事前学修	1・Review Chapter 11 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・ Review and check completed homework from Chapter 11 (last lesson).	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Making questions - Students focus on how to make questions. ・ No question, no communication e.g. ・W/H questions plus correct word order (W/H + aux + sub + verb + obj) ・ Also show students how to follow pattern ・ Students to pick random partner, ask question, & answer return question ・ Class exercise - Make 10 question to ask people ... (from prepared print) ・ Class exercise - Make 10 question to ask people - Homework version	
	事後学修	1・Write 9th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from "making questions" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal 5・ Complete "Make 10 questions" homework.	2
10	事前学修	1・Review "Making 10 questions" homework from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Chapter 12 - Time words (H/W page 106) ・Group work to practice how to use ago/in e.g. I went 3 days ago/I'm going in three days. ・ Class exercise - Fill in the blanks ... (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 10th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords (time words) in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 106)	2
11	事前学修	1・Review Chapter 12 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Using adjectives - Students practice ・ Start with simple sentence and expand using adjectives. ・Teams of three ・ Do round the class game - continually adding adjectives to sentence. e.g. I bough a car. I bought a big car. I bought a big expensive car . etc ・ Practice describing in pairs	

	事後学修	1・Write 11th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new adjectives from lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
12	事前学修	1・Review Chapter 12 key sentences & new adjectives from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 13 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 13 - How long have you been ... ing (H/W p.114) ・Focus on how to make present perfect continuous. I have been ...ing for/since... ・Focus on colloquial formats - pair work e.g. You got a pen? How 'bout you? etc ・ Compare for and since ・Rotational air work to practice "How long have you been ...ing " etc ・ Class exercise - Find someone who has got.. (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write today's keywords (Ch6 - I've got ...) in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 47) 5・Answer questions in oral presentation practice sheet	2
13	事前学修	1・Review Chapter 13 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read and practice Ch 13 homework	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Explain Oral Presentation Practice (length/purpose/evaluation system) ・ Students form groups and choose theme. ・ Show class examples from previous years. ・ Topics from students if possible. ・ Any theme acceptable - including fairy tales etc.	
	事後学修	1・Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new words from "oral presentation practice" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
14	事前学修	1・ Check & review 3 new oral questions for next class 2・Practice and learn oral presentation questions 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Students to meet with group members ・Continue preparation ・ Teacher to check progress ・Show students how to present; Dummy ・Our presentation is .../ There are 3 members./Taro is....., Saburo is ...., Jiro is ...	
	事後学修	1・Write 14th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary 3・Read and edit journal for submission 4・Review and practice for presentation	2

15	事前学修	1・Check & review 3 new oral questions for next class 2・Check & review oral presentation 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・15-20 minutes practice and review ・ Make presentation in front of class ・ (All presentations filmed for later evaluation) ・ Advise of notebook collection next week (journal & grammar notes) for evaluation	
	事後学修	1・Write 15th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary 4・Read and edit journal for submission	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■ノート：20%
■参加／宿題／プリント：40%
■平常点：10%
■口答・リスニング試験：10%
■発表（グループ・プレゼンテーション）：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。（授業中採点する時もあり）
・授業中の参加（質問や発言）の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。
・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。
・発表ある場合は、次回に点数を授業中に教えます。

教科書	書名：Simon Says - Basic English conversation for young adults, 著者名：Simon Thollar, 出版社：丸善プラネット, 備考：2019 年版と若干違いますので、必ず新しい方を買ってください。
	書名：ノート　B　6mm　35 行　セミ B 5　３０枚　明るい色の表紙, 著者名：, 出版社：ＰＬＵＳ, 備考：
参考書・Web サイト	http://www.eigoguy.com
単位修得が望ましい科目	参加のため、出席は大事です。下記の備考を読んで下さい。
備考	GOOD NEWS!! 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will sometimes use VIDEOS and MUSIC. このコースは時々ビデオや音楽を使います。 4 This course will teach you REAL, UP-TO-DATE ENGLISH. このコースは現代的な本当の英語を教えます。 5

	There are few reports and NO FINAL EXAMINATION. レポートはあまりありません。筆記試験（定期試験）がありません。 6 Still don’t understand? Come and see me in 317. まだわからないことがあれば３１７号室の私に会いに来て下さい。 BAD NEWS! 1 This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate. このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 Only 2 ABSENCES are allowed in each quarter. 前期後期前半後半ともに各 2 日間を超える無断欠席はできません。（quarter ごと 2 回） 3 2 LATE ARRIVALS (more than 15 minutes) equals 1 absence. ２回の遅刻はイコール１回　の欠席です。 4 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first semester. 同じ学期の間 同じ席にすわ らなければ いけません。 5 There will be an oral presentation. 口答プレゼンテーション・試験があります 6 You need a TEXT　book & you must TALK. 教科書は必要で喋らない学生は絶対に合格しません。 7 You MUST write in your journal every week. 毎週ジャーナルに記入しなければなりません。
担当教員の実務経験	なし

英語表現Ⅱ B English Expression 2 B

担当教員	ジョエル・ライアン(308研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL214

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

Communication (particularly speaking in English) is the focus of this course. We will do many speaking activities in pairs and groups.　As necessary we will address vocabulary and language structure, but the main goal is developing a willingness and confidence to communicate in English.

この講座は「コミュニケーション」（特に英語で話すこと）が中心です。ペア又はグループでいろいろな英会話練習を行います。必要に応じて語彙や文型を学習しますが、コミュニケーションができる自信を養い、自分なりの英語を活用することがメインです。

授業における学修の到達目標

This course aims to boost English communication ability and confidence through communication strategies. We will practice basic conversation skills and many useful phrases and expressions. The end goal of this course is to be able to hold a conversation, using only English, for 10 minutes or more.

この講座は、コミュニケーション・ストラテジー（伝達方略）を通じて英語でコミュニケーション力が上達することを目指します。日常英会話に使える語句や表現を学びながら、自分なりの英語を実践的な会話に使うことを目標とします。講座の最終目標：英語のみで、１０分以上会話を続けること。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Review notes/handouts from 前期.	2.0
	授業	Intro topic: "living with family". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Organize notes for topic, for reference on test.	2
2	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
3	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "internationalization". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
4	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x 3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	

	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
5	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "tech in classroom". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
6	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	
	事後学修	Review notes for all three 後期前半 topics: living with family, internationalization, tech in classroom. Ask Rian any questions before class. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE handout.	2
7	事前学修	Review notes for all three 後期前半 topics: living with family, internationalization, tech in classroom.	2
	授業	PERFORMANCE (TEST) #1 (midterm)	
	事後学修	Review notes. Next topic: "singleness". Think of 5good/5bad points. Write & bring to class.	2
8	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "singleness". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
9	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
10	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "tech in classroom". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
11	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
12	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "university education". FSW activity (all-class or in groups).	

		Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
13	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation （A さん＆B さん）on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic（A さん＆B さん）. PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class.　Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	2
14	事前学修	Review notes from previous classes, all three topics (singleness, tech in classroom, university education)	2
	授業	PERFORMANCE (TEST) #2 (final)	
	事後学修	Self-assess performance for 後期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
15	事前学修	Self-assess performance for 後期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
	授業	ミニ面談： return tests, discuss participation (attendance) issues if any. Rian will bring printout of attendance for 後期 for all classes.	
	事後学修	Complete 後期 survey, if any. Organize notes for next semester (these notes & handouts will be useful).	2

成績評価の方法およびその基準
[筆記テスト、会話テスト] x 2（中間、期末） (50% x 2 = 100%)
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
１５回の日に、テストを返し、成績や授業中のパフォーマンスについての説明を含むプチ面談を行います。

教科書	
参考書・Web サイト	https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/
単位修得が望ましい科目	なし。Bring an open mind and maybe a pen.
備考	メール： rianjp48@do-johodai.ac.jp　　遠慮なく、いつでも連絡ください。日本語でもＯＫです。
担当教員の実務経験	なし

英語表現ⅡB English Expression 2 B

担当教員	Charles McLarty(312 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL214

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

The focus of the class will be oral communication, especially using English idioms (英語の熟語)

Students will develop confidence in their English by participating in a variety of class activities using idioms. Activities will include listening exercises, word/language games, vocabulary quizzes and pair or small group practices.

授業における学修の到達目標

The first purpose go this class is to help students learn to use the English words they already know for communication. The second purpose is to help students communicate with more natural-sounding English by using common idioms in American English.

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Text and Printed hand-outs	2
	授業	Idioms Game Vocabulary Review	
	事後学修	printed hand-outs	2
2	事前学修	Text	2
	授業	Poking Around at Saturday Market	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
3	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Listening Practice grammar Drills	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
4	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Idioms for Leisure Time	
	事後学修	Text	2
5	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Vocabulary Check Pair Practice	
	事後学修	Text and printed hand-outs	2
6	事前学修	Hand-outs	2
	授業	Idioms in English Speeches	
	事後学修	Text, hand-outs	2
7	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Reading Comprehension pair practice	

	事後学修	Text Exercises	2
8	事前学修	Hand-outs	2
	授業	The Final Examination Idioms for Tests	
	事後学修	Text and hand-outs	2
9	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Listening Practice Vocabulary Quiz	
	事後学修	Text, hand-outs	2
10	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Communication-Idioms in General Use	
	事後学修	hand-outs	2
11	事前学修	Hand-outs and Text	2
	授業	Grammar Drills Small Group Practice	
	事後学修	hand-outs	2
12	事前学修	Text and hand-outs	2
	授業	Miyu's Farewell Idioms to show Sadness	
	事後学修	hand-outs	2
13	事前学修	Text	2
	授業	Vocabulary Check Listening Practice	
	事後学修	Text, hand-outs	2
14	事前学修	Hand-outs	2
	授業	Review Chapter B Text Chs 8-13	
	事後学修	Text, hand-outs	2
15	事前学修	Hand-outs, Text	2
	授業	Semester Test or Homework	
	事後学修	Text and hand-outs	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する■試験：　1/3　■レポート：　1/3
■その他、授業の参加 1/3 とする　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

面談

教科書	書名：Hang In There! Elementary Conversation in English, 著者名：Charles McLarty, 出版社：丸善プラネット, 備考：
参考書・Web サイト	日常会話なのに辞書にのっていない英語の本 J. ユンカーマン、松本薫
単位修得が望ましい科目	英語表現 1
備考	Good luck with English

担当教員の実務経験	The instructor, who possesses over 30 years of experience teaching English in the U.S. and Japan, will provide students with ample opportunities to improve their use of idiomatic English communication.

職業英語Ａ Professional English A

担当教員	吉村 裕彦(338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL315

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3・4 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3・4 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3・4 年	前期

授業概要

テーマ：リスニング力や語彙力を高めることで、TOEIC 得点の向上に努める

1　本講義は TOEIC 受験に特化した演習授業である。TOEIC は企業で要求される英語力の指標として重要視されている。高得点を取ることは社会人として国際社会を生きるための条件であることはもちろん、企業によっては昇進･昇級の必要条件となっている場合もある。また、入社に向けたエントリーシートでのスコア記入を必須要件としている企業も多く、学生としても受験することが求められる。本講義ではトピック別に TOEIC 受験に必要な基礎文法力、リスニング力とリーディング力の向上を図る。

2　テキスト（必ず購入のこと）の演習を中心に進めることになるが、必要に応じて理解を深めるための補助教材を使用する。

3　各 Unit を 2 回の講義で実施する。テキストの前半までとし、後半は職業英語 B で扱う。

4　Unit ごとに小テストを実施し、単語力や基礎英語力の向上を図る。

5　関連性が高いので、職業英語 A を履修する者は職業英語 B も履修することが望ましい。

授業における学修の到達目標

1　TOEIC に必要な単語を理解することができる。

2　TOEIC 受験に必要な基礎文法を理解することができる。

3　音声を聞いて正しく内容を理解することができる。

4　英文の概要をつかみ、適切に理解することができる。

5　TOEIC の問題形式を理解し、積極的に受験する態度を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の目的や全体の内容を把握する	2.0
	授業	プレテストを受験する（問題受験 50 分、解答解説 40 分）	
	事後学修	解答解説を復習し、自分の苦手分野を確認する	2.0
2	事前学修	Travel に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Travel①:名詞の語法理解とリスニング演習	
	事後学修	2.0 ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
3	事前学修	Travel に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Travel②:旅行に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
4	事前学修	Dining Out に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Dining Out①: 形容詞の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
5	事前学修	Dining Out に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Dining Out②: 外食に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
6	事前学修	Shopping に関する新出単語を調べる	2.0

	授業	Shopping①: 副詞の理解･形容詞と副詞の使い分けとリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
7	事前学修	Shopping に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Shopping②: 買い物に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
8	事前学修	Entertainment に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Entertainment①: 時制の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
9	事前学修	Entertainment に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Entertainment②: 娯楽に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
10	事前学修	Advertising に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Advertising①: 主語と述語の一致の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
11	事前学修	Advertising に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Advertising②: 広告･宣伝に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
12	事前学修	Events に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Events①: 能動態･受動態の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
13	事前学修	Events に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Events②: イベントに関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
14	事前学修	Daily Life に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Daily Life①: 動名詞と不定詞の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
15	事前学修	Daily Life に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Daily Life②: 日常生活に関するリーディング演習、試験範囲の確認	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：60%　■小テスト：10%　□レポート：　%　□演習課題：　%　■その他[アンサー･シートによる自己評価･分析の提出とその内容 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説、およびアンサー･シートへのコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER, 著者名：早川幸治, 出版社：金星堂, 備考：音声ファイルのダウンロード可能
参考書・Web サイト	http://www.kinsei-do.co.jp/download/4088　（テキストの音声ファイル）
単位修得が望ましい科目	職業英語 B
備考	1　第 1 回目の講義において TOEIC 形式の体験プレテストを実施します。必ず出席のこと。

	2　アンサー･シートには模擬問題解答と取組状況の自己評価と自己分析（良くできた点･今後の課題）を記してもらいます。また、質問があれば記載してもらい、教員側から回答やコメントを記し返却することで理解を深めてもらいます。
担当教員の実務経験	高校の英語教員として 2018 年までの 37 年間英語教育指導にあたった。その後、本学及び専門学校で TOEIC 受験に特化した対策授業を担当している。こうした経験を、TOEIC をとおした学生の英語コミュニケーション能力向上を図る授業づくりに活かしている。

職業英語Ｂ Professional English B

担当教員	吉村 裕彦(338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL316

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3・4 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3・4 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3・4 年	後期

授業概要

テーマ：職業英語 A をうけて、さらなる TOEIC 得点の向上に努める

1　本講義は TOEIC 受験に特化した演習授業である。TOEIC は企業で要求される英語力の指標として重要視されている。高得点を取ることは社会人として国際社会を生きるための条件であることはもちろん、企業によっては昇進･昇級の必要条件となっている場合もある。また、入社に向けたエントリーシートでのスコア記入を必須要件としている企業も多く、学生としても受験することが求められる。本講義では前期に引き続き、トピック別に TOEIC 受験に必要な基礎文法力、リスニング力とリーディング力の向上を図る。

2　テキスト（必ず購入のこと）の演習を中心に進めることになるが、必要に応じて理解を深めるための補助教材を使用する。

3　各 Unit を 2 回の講義で終了する。本講義ではテキストの後半を扱う。

4　Unit ごとに小テストを実施し、単語力や基礎英語力の向上を図る。

5　関連性が高いので、職業英語 A を履修した者が職業英語 B を履修することが望ましい。

授業における学修の到達目標

1　TOEIC に必要な単語を理解することができる。

2　TOEIC 受験に必要な基礎文法を理解することができる。

3　音声を聞いて正しく内容を理解することができる。

4　英文の概要をつかみ、適切に理解することができる。

5　TOEIC の問題形式を理解し、積極的に受験する態度を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Media に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Media①:代名詞の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
2	事前学修	Media に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Media②:メディアに関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
3	事前学修	Recruiting に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Recruiting①: 比較の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
4	事前学修	Recruiting に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Recruiting②: 求人･採用に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
5	事前学修	Production & Sales に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Production & Sales①: 前置詞の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
6	事前学修	Production & Sales に関する単語小テストの準備	2.0

	授業	Production & Sales②: 売上と業績に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
7	事前学修	Meetings に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Meetings①: 接続詞の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
8	事前学修	Meetings に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Meetings②: 会議に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
9	事前学修	Offices に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Offices①: 前置詞･接続詞の語法の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
10	事前学修	Offices に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Offices②: オフィスに関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
11	事前学修	Personnel に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Personnel①: 関係代名詞の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
12	事前学修	Personnel に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Personnel②: 人事に関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
13	事前学修	Business Activities に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Business Activities①: 名詞･形容詞の語法の理解とリスニング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
14	事前学修	Business Activities に関する単語小テストの準備	2.0
	授業	Business Activities②: ビジネスに関するリーディング演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用い学習内容を復習する	2.0
15	事前学修	Finance に関する新出単語を調べる	2.0
	授業	Finance: 予算と費用に関するリスニング･リーディング演習、試験範囲の確認	
	事後学修	これまでの内容を復習し試験に備える	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：60%　■小テスト：10%　□レポート：　%　□演習課題：　　%　■その他[アンサー･シートによる自己評価･分析の提出とその内容 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説、およびアンサー･シートへのコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST BEGINNER, 著者名：早川幸治, 出版社：金星堂, 備考：音声ファイルのダウンロード可能
参考書・Web サイト	http://www.kinsei-do.co.jp/download/4088　（教科書の音声ファイル）
単位修得が望ましい科目	職業英語 A
備考	アンサー･シートには模擬問題解答と取組状況の自己評価と自己分析（良くできた点･今後の課題）を記してもらいます。また、質問があれば記載してもらい、教員側から回答やコメン

	トを記し返却することで理解を深めてもらいます。
担当教員の実務経験	高校の英語教員として 2018 年までの 37 年間英語教育指導にあたった。その後、本学及び専門学校で TOEIC 受験に特化した対策授業を担当している。こうした経験を、TOEIC をとおした学生の英語コミュニケーション能力向上を図る授業づくりに活かしている。

中国語Ⅰ A Chinese 1A

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 藤井 得弘(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL123

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

テーマ：基礎から初級程度の中国語の習得

この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,主に発音と文法の基礎を習得することを目指して,初級中国語の発音・文法・読解能力の養成を図りたいです。

一、初級中国語の発音編

初級中国語のピンイン（ローマ字表記）には３６個の母音と２１個の子音があります。母音だけの音節,「子音＋母音」で構成される音節を加えると中国語の音節は全部で４００余りにもなります。

指定教科書『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』発音編の内容を学習します。

１．初級中国語の基礎を学習します。

（１）汉语（hànyǔ）とは？

（２）普通话（pǔtōnghuà）とは？

（３）简体字（jiǎntǐzì）とは？

（４）汉语拼音（hànyǔpīnyīn）と音节（yīnjié）とは？

（５）声调（shēngdiào）とは？

2．初級中国語の母音を学習します。

初級中国語の母音は３６個ですが,次の３種類があります。

（１）単母音(７個)とは？

（２）複母音(１３個)とは？

（３）n と ng を伴う母音(１６個)とは？

（４）母音からなる音節の綴りの規則とは？

3．初級中国語の子音を学習します。

初級中国語の子音は２１個ですが、次の内容を中心に学習します。

（１）６つのグループに分かれる子音とは？

（２）有気音と無気音の子音とは？

（３）子音と母音の構成からなる音節の綴りの規則とは？

４．初級中国語「音節の綴りの規則」を復習します。

本教科書発音編では,初級中国語の音節の仕組みを体系的にまとめ,簡潔に解説したことが最大の特徴ですが,次のような内容を中心に復習を行います。

（１）母音からなる音節（基本と例外）

（２）子音＋母音からなる音節（基本と例外）

二、初級中国語の文法・読解編

文法・読解編では,指定教科書[新版]『会話で学ぶ初級中国語』会話編第１課と第２課の内容を学習します。

１．第１課の本文・単語・文法

２．第２課の本文・単語・文法

第１課と第２課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題

三、映像で知る中国文明の謎（その１）

「映像で知る中国文明の謎」を通して,中国文明史に対する知識と関心を高めてゆきたい。

授業における学修の到達目標

１．初級中国語のピンインと声調を正しく習得します。

２．初級中国語の簡体字や基礎文法を習得します。

3．初級中国語の読解力を養成します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,授業全体の内容を把握します。	2.0
	授業	第１回のガイダンスでは,この科目で学習する中国と初級中国語の基礎知識を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,中国と初級中国語の基礎知識力を高めます。	2.0
2	事前学修	教科書発音編の内容を確認し,初級中国語の基礎（その１）を把握します。	2.0
	授業	第２回では,汉语、普通话、简体字などを詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し, 汉语、普通话、简体字などをマスターします。	2.0
3	事前学修	教科書発音編の内容を確認し,初級中国語の基礎（その２）を把握します。	2.0
	授業	第３回では,汉语拼音、音节、声调などを詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し, 汉语拼音、音节、声调などをマスターします。	2.0
4	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し,単母音を把握します。	2.0
	授業	第４回では,単母音を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,単母音をマスターします。	2.0
5	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し,複母音を把握します。	2.0
	授業	第５回の授業では,複母音を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,複母音をマスターします。	2.0
6	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し,n と ng を伴う母音を把握します。	2.0
	授業	第６回の授業では,n と ng を伴う母音を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,n と ng を伴う母音をマスターします。	2.0
7	事前学修	教科書発音編の子音内容を確認し,子音（その１）を把握します。	2.0
	授業	第７回の授業では,子音（その１）を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,子音（その１）をマスターします。	2.0
8	事前学修	教科書発音編の子音内容を確認し,子音（その２）を把握します。	2.0
	授業	第８回の授業では,子音（その２）を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,子音（その２）をマスターします。	2.0
9	事前学修	教科書発音編の音節内容を確認し, 母音からなる音節の綴りの規則を把握します。	2.0
	授業	第９回の授業では, 母音からなる音節の綴りの規則を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し, 母音からなる音節の綴りの規則をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書発音編の音節内容を確認し, 子音＋母音からなる音節の綴りの規則を把握します。	2.0
	授業	第１０回の授業では, 子音＋母音からなる音節の綴りの規則を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,発音編「復習とまとめ」の二者択一式課題（その１とその２）を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し, 音節の綴りの規則をマスターします。	2.0
11	事前学修	配布資料の内容を確認し,中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	「中国文明の謎（その１）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,中国文明の謎（その１）を理解します。	2.0
12	事前学修	指定教科書会話編第１課の内容を確認し,本文・単語・文法を把握します。	2.0

	授業	第１２回の授業では,会話編第１課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,第１課の本文と文法をマスターします。	2.0
13	事前学修	指定教科書会話編第２課の内容を確認し,本文・単語・文法を把握します。	2.0
	授業	第１３回の授業では,会話編第２課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,会話編第１課と第２課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,第２課の本文と文法をマスターします。	2.0
14	事前学修	前期（「１期・２期」）の授業内容（講義と映像）を確認します。	2.0
	授業	前期（「１期・２期」）の課題を確認します。	
	事後学修	前期（「１期・２期」）の授業内容（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0
15	事前学修	前期（「１期・２期」）の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	前期（「１期・２期」）の課題で解けなかった問題を解説します。	
	事後学修	授業内容全体（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。
グループワークについては,グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い,その結果を考慮して担当教員が採点を行います。
■発音編の課題：60%　■会話編第 1 課と第 2 課の課題：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

初級中国語発音編課題（その１とその２）と会話編課題（第 1 課と第 2 課）の解答解説は講義後半に行います。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付）, 著者名：田中英夫, 出版社：朝日出版社, 備考：
	書名：[新版]『会話で学ぶ初級中国語』（CD 付）, 著者名：田中英夫, 出版社：丸善プラネット, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	「海外語学・文化研修（中国大連編）」,「海外事情（中国）」
備考	特になし
担当教員の実務経験	該当なし

中国語ＩＢ Chinese 1B

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 藤井 得弘(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL124

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：初級中国語文法と読解の基礎知識の習得
一、初級中国語の文法・読解編
この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,基礎文法の習得を目指して,初級中国語の基礎文法と読解能力の養成を図りたいです。
文法・読解編では,指定教科書[新版]『会話で学ぶ初級中国語』会話編第３課～第１０課の内容を学習します。「中国語ＩB」で実施する授業の具体的な内容は以下の通りです。
１．講義授業を実施し,発音編（その１）を復習します。
２．講義授業を実施し,発音編（その２）を復習します。
発音編「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。
３．講義授業を実施し,会話編第１課と第２課を復習します。
第１課と第２課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。
４．講義授業を実施し,第３課の本文・単語・文法を学習します。
５．講義授業を実施し,第４課の本文・単語・文法を学習します。
第３課と第４課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。
６．映像授業「中国文明の謎（その２）」を放映します。
７．講義授業を実施し,第５課の本文・単語・文法を学習します。
８．講義授業を実施し,第６課の本文・単語・文法を学習します。
第５課と第６課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。
９．講義授業を実施し,第７課の本文・単語・文法を学習します。
１０．講義授業を実施し,第８課の本文・単語・文法を学習します。
第７課と第８課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。
１１．講義授業を実施し,第９課の本文・単語・文法を学習します。
１２．講義授業を実施し,第１０課の本文・単語・文法を学習します。
第９課と第１０課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。
１３．映像授業「中国文明の謎（その３）」を放映します。
１４．後期（３期・４期）学習内容を復習します。
１５．後期（３期・４期）学習内容をまとめます。
二、映像で知る中国文明の謎（その２とその３）
「映像で知る中国文明の謎（その２とその３）」を通して,中国文明史に対する知識と関心を高めてゆきたい。

授業における学修の到達目標

１．初級中国語の基礎文法を身に付けます。
２．初級中国語の読解力を高めます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,母音と子音などを把握します。	2.0
	授業	第１回では,前期で学習した発音編の内容（母音と子音）を復習します。	
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（母音と子音）をマスターします。	2.0
2	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,音節の綴りの規則などを把握します。	2.0

	授業	第２回では,前期で学習した発音編の内容（音節の綴りの規則）を復習します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,発音編「復習とまとめ」の二者択一式課題（その１とその２）を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（母音・子音・音節の綴りの規則など）をマスターします。	2.0
3	事前学修	教科書の会話編を確認し,第１課と第２課の内容を把握します。	2.0
	授業	第３回では,会話編第１課と第２課を復習します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第１課と第２課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第１課と第２課の内容をマスターします。	2.0
4	事前学修	教科書の会話編を確認し,第３課の内容を把握します。	2.0
	授業	第４回では,第３課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第３課の内容をマスターします。	2.0
5	事前学修	教科書の会話編を確認し,第４課の内容を把握します。	2.0
	授業	第５回では,第４課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第３課と第４課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第４課の内容をマスターします。	2.0
6	事前学修	配布資料の内容を確認し,中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第６回では,「中国文明の謎（その２）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,中国文明の謎（その２）を理解します。	2.0
7	事前学修	教科書の会話編を確認し,第５課の内容を把握します。	2.0
	授業	第７回では,第５課,の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第５課の内容をマスターします。	2.0
8	事前学修	教科書の会話編を確認し,第６課の内容を把握します。	2.0
	授業	第８回では,第６課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第５課と第６課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第６課の内容をマスターします。	2.0
9	事前学修	教科書の会話編を確認し,第７課の内容を把握します。	2.0
	授業	第９回では,第７課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第７課の内容をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書の会話編を確認し,第８課の内容を把握します。	2.0
	授業	第１０回では,第８課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第７課と第８課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第８課の内容をマスターします。	2.0
11	事前学修	教科書の会話編を確認し,第９課の内容を把握します。	2.0
	授業	第１１回では,第９課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第９課の内容をマスターします。	2.0
12	事前学修	教科書の会話編を確認し,第１０課の内容を把握します。	2.0

	授業	第１２回では,第１０課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第９課と第１０課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第１０課の内容をマスターします。	2.0
13	事前学修	配布資料の内容を確認し,中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第 13 回では,「中国文明の謎（その３）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,中国文明の謎（その３）を理解します。	2.0
14	事前学修	後期（「３期・４期」）の授業内容（講義と映像）を確認します。	2.0
	授業	後期（「３期・４期」）の課題を確認します。	
	事後学修	後期（「３期・４期」）の授業内容（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0
15	事前学修	後期（「３期・４期」）の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	後期（「３期・４期」）の課題で解けなかった問題を解説します。	
	事後学修	授業内容全体（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。
グループワークについては,グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い,その結果を考慮して担当教員が採点を行います。
■発音編復習の課題：15% ■会話編第 1 課と第 2 課の課題：15% ■会話編第 3 課～第 10 課の課題：70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発音編課題（復習）、会話編第 1 課と第 2 課課題（復習）、会話編第 3 課～第 10 課課題の解答解説は講義後半に行います。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付）, 著者名：田中英夫, 出版社：朝日出版社, 備考：
	書名：[新版]『会話で学ぶ初級中国語』（CD 付）, 著者名：田中英夫, 出版社：丸善プラネット, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	「中国語ＩA」,「海外語学・文化研修（中国大連編）」,海外事情（中国編）
備考	特になし
担当教員の実務経験	該当なし

ドイツ語ＩＡ German 1A

担当教員	岩田 聡(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL127

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

テーマ：ドイツ語の基礎とドイツの文化を学ぶ
ドイツ語は，英語やフランス語と並んでヨーロッパの教養・文化・学術を支える主要な言語のひとつとして発展してきました。外国語の学習は異なる文化を体験する最初の入り口です。ドイツやスイス，オーストリアなど，ドイツ語圏の文化への入り口であるドイツ語の初歩と基礎を学びます。
近年，ドイツには EU 域内や中近東，アフリカなどからの移住者が急増し，ドイツの社会もそうしたグローバル化の影響を受けて変貌しつつあります。ドイツ語によるコミュニケーションの基礎を学ぶと同時に，その舞台となるドイツ語圏の社会や文化の「現在」についても理解を深めます。

授業における学修の到達目標

ドイツ旅行や語学研修で使われるドイツ語表現を基に，ドイツ語を「聞き，話し，読み，書く」練習を通じてドイツ語会話の基礎を習得し，あわせて初級の文法を理解するのが目標です。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ドイツ語の文字と発音を予習する	2
	授業	ドイツ語ＩA のオリエンテーション ドイツ語の綴りと発音 ドイツ語の挨拶	
	事後学修	発音と綴りの復習：簡単な挨拶・数詞	2
2	事前学修	第 1 課の会話テキストの音声教材を繰り返し聞く	2
	授業	第 1 課 Nach Deutschland の会話テキストを読む 第 1 課の文法を学習する：動詞の人称変化	
	事後学修	第 1 課の会話の復習：自己紹介に関係する表現 第 1 課の文法の復習	2
3	事前学修	第 1 課の練習問題の予習：音声教材を聞く 第 2 課 Berlin の会話テキストの音声教材を聞く	2
	授業	第 1 課の練習問題の学習 第 2 課の会話テキストの学習	
	事後学修	会話テキストの復習：人称代名詞と動詞の人称変化	2
4	事前学修	第 2 課の文法の予習 第 2 課の練習問題の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第 2 課 文法の解説 第 2 課の練習問題の解説	
	事後学修	第 2 課 文法の復習：名詞の性と冠詞	2
5	事前学修	第 3 課の会話の予習：音声教材を聞く 第 3 課の文法を予習	2
	授業	第 3 課の会話テキスト Dresden (1) の解説 第 3 課の文法の解説	

	事後学修	第 3 課の文法の復習：名詞の格・動詞 haben の人称変化・否定の表現	2
6	事前学修	第 3 課の練習問題の予習：音声教材を繰り返し聞く	2
	授業	第 3 課 練習問題の解説	
	事後学修	第 3 課 練習問題の復習：動詞 haben を使った表現を復習	2
7	事前学修	第 1 課から第 3 課までの会話・練習問題の復習	2
	授業	第 1 課から第 3 課までのまとめ	
	事後学修	POLITE 3 の小テストに解答する	2
8	事前学修	第 1 課から第 3 課までの復習：音声教材を聞く	2
	授業	中間のまとめと試験 テストの答案を提出する	
	事後学修	試験問題の解答を教科書で確認する	2
9	事前学修	第 4 課の会話テキストの予習：音声教材を繰り返し聞く	2
	授業	中間試験の問題を解説する。 第 4 課 Dresden (2) のテキストを読む	
	事後学修	文法の復習：不規則変化動詞	2
10	事前学修	第 4 課 文法の予習 第 4 課 練習問題の予習：音声教材を繰り返し聞く	2
	授業	第 4 課の文法と練習問題の解説	
	事後学修	文法の復習：冠詞の 3 格・人称代名詞の格変化	2
11	事前学修	第 5 課 会話テキストの予習：音声教材を聞く 第 5 課 文法の予習	2
	授業	第 5 課 Weimar の会話テキストを読む 第 5 課 文法の解説	
	事後学修	会話の復習：名所旧跡に関わる語彙・表現 第 5 課 文法の復習：前置詞	2
12	事前学修	第 5 課 練習問題の予習：音声教材を聞く 第 6 課 会話の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第 5 課 練習問題の解説 第 6 課 会話テキスト An der Elbe の解説	
	事後学修	第 5 課 練習問題の復習：市場で商品を買う表現 第 6 課 会話の復習：語学学校の Excursion に関する表現	2
13	事前学修	第 6 課 文法の予習 第 6 課 練習問題の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第 6 課 文法の解説 第 6 課 練習問題の解説	
	事後学修	第 6 課 練習問題の復習：定冠詞類・不定冠詞類の格変化	2
14	事前学修	第 7 課 会話の予習：音声教材を聞く 第 7 課 文法の予習	2
	授業	第 7 課 会話 Hamburg の解説 第 7 課 文法の解説	
	事後学修	第 7 課 文法の復習：話法の助動詞・非人称動詞	2
15	事前学修	第 4 課から第 6 課までの復習：音声教材を聞く	2

	授業	前期後半のまとめと試験	
	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：100%　□小テスト：0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験の翌週には、採点した答案を返却し問題と解答の解説をします。
また、POLITE 3 の小テスト等を使ってフィードバックします。

教科書	書名：聞いて答えて旅するドイツ語, 著者名：秋元和美 他, 出版社：三修社, 備考：
参考書・Web サイト	■ 下記の URL からテキストの音声がダウンロード（無料）および再生できます。 http://www.sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384122879/index.html ■ 独和辞典としては『アポロン独和辞典』（同学社）を推薦します。電子辞書も可。 ■ 和独辞典としては, http://www.wadoku.de/?language=ja を推薦します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ドイツ語ＩＢ German 1B

担当教員	岩田 聡(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL128

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：ドイツ語の基礎とドイツの文化を学ぶ
ドイツ語は，英語やフランス語と並んでヨーロッパの教養・文化・学術を支える主要な言語のひとつとして発展してきました。外国語の学習は異なる文化を体験する最初の入り口です。ドイツやスイス，オーストリアなど，ドイツ語圏の文化への入り口であるドイツ語の初歩と基礎を学びます。
近年，ドイツには EU 域内や中近東，アフリカなどからの移住者が急増し，ドイツの社会もそうしたグローバル化の影響を受けて変貌しつつあります。ドイツ語によるコミュニケーションの基礎を学ぶと同時に，その舞台となるドイツ語圏の社会や文化の「現在」についても理解を深めます。

授業における学修の到達目標

ドイツ旅行や語学研修で使われるドイツ語表現を基に，ドイツ語を「聞き，話し，読み，書く」練習を通じてドイツ語会話の基礎を習得し，あわせて初級の文法を理解するのが目標です。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	第 7 課 練習問題の予習：音声教材を聞く	2
	授業	ドイツ語ＩB のオリエンテーション 第 7 課 練習問題の解説	
	事後学修	復習：話法の助動詞を用いた表現	2
2	事前学修	第 8 課 会話の予習：音声教材を聞く 第 8 課 文法の予習	2
	授業	第 8 課 会話テキスト Bremen の解説 第 8 課 文法の解説	
	事後学修	復習：ホームステイに関係する表現	2
3	事前学修	第 8 課 練習問題の予習：音声教材を聞く 第 9 課 会話の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第 8 課 練習問題の解説 第 9 課 会話テキスト Bonn - Köln を読む	
	事後学修	復習：分離動詞・従属接続詞を使った表現	2
4	事前学修	第 9 課 文法の予習 第 9 課 練習問題の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第 9 課 文法の解説 第 9 課 練習問題の解説	
	事後学修	復習：付加語的用法の形容詞の格変化を練習する	2
5	事前学修	第１０課 電子メールのテキスト：音声教材を聞く 第１０課 文法の予習：動詞の過去形	2
	授業	第１０課 Loreley - Heidelberg の電子メールを読む	
	事後学修	復習：過去の出来事を表現する	2

6	事前学修	第１０課 練習問題の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第１０課 練習問題の解説	
	事後学修	復習：動詞 haben , sein の過去人称変化	2
7	事前学修	第１１課 会話の予習：音声教材を繰り返し聞く	2
	授業	第１１課　Rothenburg - München のテキストを読む	
	事後学修	復習：現在完了を使った表現	2
8	事前学修	第７課から第１０課までの復習	2
	授業	前半のまとめと中間テスト	
	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2
9	事前学修	第１１課 文法の予習	2
	授業	中間試験の答案返却と問題の解説 第１１課の文法の説明と練習問題	
	事後学修	文法の復習：現在完了の文	2
10	事前学修	第１１課 練習問題の予習：音声教材を聞く 第１２課 会話の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第１１課 練習問題の解説 第１２課 会話テキスト Salzburg の解説	
	事後学修	復習：現在完了文	2
11	事前学修	第１２課 文法の予習 第１２課 練習問題の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第１２課 文法の解説 第１２課 練習問題の解説	
	事後学修	復習：形容詞の比較変化	2
12	事前学修	第１３課 会話の予習：音声教材を聞く 第１３課 文法の予習	2
	授業	第１３課 会話テキスト Salzburg の解説 第１３課 文法の解説	
	事後学修	復習：再帰代名詞	2
13	事前学修	第１３課 練習問題の予習：音声教材を聞く 第１４課 会話の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第１３課 練習問題の解説 第１４課 会話テキスト Die Berliner Mauer の解説	
	事後学修	復習：再帰動詞を使った表現	2
14	事前学修	第１４課 文法の予習 第１４課 練習問題の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第１４課 文法の解説 第１４課 練習問題の解説	
	事後学修	復習：受動文	2
15	事前学修	第１１課から第１４課までの復習	2
	授業	後半のまとめとテスト	
	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■試験：100%　□小テスト：0%　[　　]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
試験の翌週には、採点した答案を返却し問題と解答の解説をします。 また、POLITE 3 の小テスト等を使ってフィードバックします。	
教科書	書名：聞いて答えて旅するドイツ語, 著者名：秋元和美 他, 出版社：三修社, 備考：
参考書・Web サイト	■ 下記の URL からテキストの音声がダウンロード（無料）および再生できます。 http://www.sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384122879/index.html ■ 独和辞典としては『アポロン独和辞典』（同学社）を推薦します。電子辞書も可。 ■ 和独辞典としては, http://www.wadoku.de/?language=ja を推薦します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

中国語ⅡA Chinese 2A

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL225

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

テーマ：初級から中級の「誰でも簡単に話せる中国語日常会話」の習得
この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,主に中級レベルの中国語日常会話の習得を目指して,中国人と日常会話を簡単に話せる実践的な会話能力の養成を図りたいです。
一、初級中国語発音編内容の復習
本教科書発音編では,初級中国語の音節の仕組みを体系的にまとめ,簡潔に解説したことが最大の特徴です。
この講義では,「中国語ＩA」で学習した発音編を復習します。
初級中国語の日常会話に必要な文法はそれほど難しくありませんが,発音はわりと難しいとよく言われています。中国語のピンイン（ローマ字表記）には３６個の母音と２１個の子音があります。母音だけの音節,「子音＋母音」で構成される音節を加えると中国語の音節は全部で４００余りにもなります。初級中国語の学習では音節の仕組みを知ることが最も重要です。
二、コラボ型日常会話フレーズ（前半）の学習
日常の会話で大事なのは,「相手に聞きたい」と「相手に伝えたい」ことです。
本教科書会話編では,ネイティブ・スピーカーの発想でまとめた主要動詞と主要助詞・副詞・介詞・助動詞とのコラボで「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学習します。
１．「会話編」学習のねらい
初級中国語を学習した学習者を対象に、「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学び、誰でも簡単に話せる中国語日常会話のコツを身に付けます。
２．「会話編」学習のながれ
（１）会話編第一課と第二課は動詞「是 shì」と「有 yǒu」を学習し、「自己紹介型と家族紹介型日常会話のフレーズ」を学習します。
（２）会話編第三課～第八課は主要動詞「听 tīng（聴く）、说 shuō（話す）、读 dú（読む）、写 xiě（書く）、看 kàn（見る）、坐 zuò（乗る）、を学びます。同時に、最も使える３個の主要助詞（吗 ma、了 le、过 guo）、４個の主要副詞（没 méi、不 bù、在 zài、也 yě）、１個の主要介詞（在 zài）、１個の主要助動詞（想 xiǎng）を学びます。
三、映像で知る日中交流史（前半）の学習
「映像で知る日中交流史」を通して,日中交流史の知識と関心を高めてゆきたい。

授業における学修の到達目標

１．中国語の主要動詞・助詞・副詞・介詞・助動詞の使い方を身に付けます。
２．コラボ型中国語の日常会話力を高めます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,母音と子音などを把握します。	2.0
	授業	第１回では,「中国語ＩA」で学習した発音編の内容（母音と子音）を復習します。	
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（母音と子音）をマスターします。	2.0
2	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,音節の綴りの規則などを把握します。	2.0
	授業	第２回では,「中国語ＩA」で学習した発音編の内容（音節の綴りの規則など）を復習します。	
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（音節の綴りの規則など）をマスターします。	2.0
3	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,母音・子音・音節の綴りの規則などを把握します。	2.0

	授業	第３回では,「中国語ＩA」で学習した母音・子音・音節の綴りの規則を復習します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,発音編「復習とまとめ」の二者択一式課題（その１とその２）を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（母音・子音・音節の綴りの規則など）をマスターします。	2.0
4	事前学修	教科書会話編第一課の内容を確認し,「自己紹介型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第４回では,「自己紹介型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第一課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,第一課「自己紹介型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
5	事前学修	教科書会話編第二課の内容を確認し,「家族紹介型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第５回では,「家族紹介型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第二課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,第二課「家族紹介型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
6	事前学修	教科書会話編第三課の内容を確認し,動詞「听」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第６回では,動詞「听」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第三課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「听」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
7	事前学修	教科書会話編第四課の内容を確認し,動詞「说」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第７回では,動詞「说」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第四課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解きます。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「说」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
8	事前学修	配布資料の内容を確認し,日中交流史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第８回では,「鑑真と弟子たちの物語」映像を放映をします。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,「鑑真と日本」について理解します。	2.0
9	事前学修	教科書会話編第五課の内容を確認し,動詞「读」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第９回では,動詞「读」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第五課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解きます。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「读」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書会話編第六課の内容を確認し,動詞「写」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第10回では,動詞「写」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第六課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「写」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
11	事前学修	教科書会話編第七課の内容を確認し,動詞「看」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第１１回では,動詞「看」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第七課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	

	事後学修	授業内容を復習し,動詞「看」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
12	事前学修	教科書会話編第八課の内容を確認し,動詞「坐」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第 12 回では,動詞「坐」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第八課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「坐」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
13	事前学修	配布資料の内容を確認し,日中交流史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	「日本・中国明王朝）外交」」映像を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,「金閣寺と中国」について理解します。	2.0
14	事前学修	前期（「１期・２期」）の授業内容（講義と映像）を確認します。	2.0
	授業	前期（「１期・２期」）の課題を確認します。	
	事後学修	前期（「１期・２期」）の授業内容（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0
15	事前学修	前期（「１期・２期」）の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	前期（「１期・２期」）の課題で解けなかった問題を解説します。	
	事後学修	授業内容全体（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。
グループワークについては,グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い,その結果を考慮して担当教員が採点を行います。
■発音編復習の課題：30%　■会話編第一課～第八課の課題：７0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発音編課題（復習）、会話編第一課～第八課課題の解答解説は講義後半に行います。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付）, 著者名：田中英夫, 出版社：朝日出版社, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	「中国語ＩA」,「中国語ＩB」,「海外語学・文化研修（中国大連編）,「海外事情（中国編）」
備考	特になし
担当教員の実務経験	該当なし

中国語ⅡB Chinese 2B

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL226

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

テーマ：初級から中級の「誰でも簡単に話せる中国語日常会話」の習得
この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,主に中級レベルの中国語日常会話の習得を目指して,中国人と日常会話を話せる実践的な会話能力の養成を図りたいです。
一、コラボ型日常会話（後半）の学習
日常の会話で大事なのは,「相手に聞きたい」と「相手に伝えたい」ことです。
本教科書会話編では,ネイティブ・スピーカーの発想でまとめた主要動詞と主要助詞・副詞・介詞・助動詞とのコラボで「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学習します。
１．「会話編」学習のねらい
初級中国語を学習した学習者を対象に、「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学び、誰でも簡単に話せる中国語日常会話のコツを身に付けます。
２．「会話編」学習のながれ
会話編第九課～第十八課は主要動詞「吃 chī（食べる）、喝 hē（飲む）、买 mǎi（買う）、 卖 mài（売る）、借 jiè（借りる）、还 huán（返す）、来 lái（来る）、去 qù（行く）、穿 chuān（着る）、脱 tuō（脱ぐ）」を学びます。同時に、最も使える３個の主要助詞（吗 ma、了 le、过 guo）、４個の主要副詞（没 méi、不 bù、在 zài、也 yě）、１個の主要介詞（在 zài）、１個の主要助動詞（想 xiǎng）を学びます。
三、映像で知る日中交流史（後半）の学習
「映像で知る日中交流史」を通して,日中交流史の知識と関心を高めてゆきたい。

授業における学修の到達目標

１．中国語の主要動詞・助詞・副詞・介詞・助動詞の使い方を身に付けます。
２．コラボ型中国語の日常会話力を高めます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書会話編前半を確認し,第一課～第八課の内容を把握します。	2.0
	授業	第１回では,教科書会話編前半（第一課～第八課）を復習します。	
	事後学修	授業内容を復習し,教科書会話編前半（第一課～第八課）をマスターします。	2.0
2	事前学修	教科書会話編第九課の内容を確認し,動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第２回では,動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第九課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
3	事前学修	教科書会話編第十課の内容を確認し,動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第３回では,動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
4	事前学修	教科書会話編第十一課の内容を確認し,動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0

	授業	第 4 回では,動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十一課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
5	事前学修	教科書会話編第十二課の内容を確認し,動詞「卖」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第 5 回では,動詞「卖」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十二課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「卖」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
6	事前学修	教科書会話編第十三課の内容を確認し,動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第 6 回では,動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十三課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
7	事前学修	教科書会話編第十四課の内容を確認し,動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第 7 回では,動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第三課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
8	事前学修	配布資料の内容を確認し,日中交流史（後半その１）の映像授業概要を把握します。	2.0
	授業	第 8 回では,「ラストエンペラー溥儀と日本」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,日中交流史（後半その１）を理解します。	2.0
9	事前学修	教科書会話編第十五課の内容を確認し,動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第 9 回では,動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十五課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書会話編第十六課の内容を確認し,動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第 10 回では,動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十六課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
11	事前学修	教科書会話編第十七課の内容を確認し,動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第 11 回では,動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十七課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
12	事前学修	教科書会話編第十八課の内容を確認し,動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第 12 回では,動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十八課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	

	事後学修	授業内容を復習し,動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
13	事前学修	配布資料の内容を確認し,日中交流史（後半その２）の映像授業概要を把握します。	2.0
	授業	第 13 回では,「溥傑と日本候爵家令嬢の国際結婚秘話」を放映します。今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,日中交流史（後半その２）を理解します。	2.0
14	事前学修	後期（「３期・４期」）の授業内容（講義と映像）を確認します。	2.0
	授業	後期（「３期・４期」）の課題を確認します。	
	事後学修	後期（「３期・４期」）の授業内容（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0
15	事前学修	後期（「３期・４期」）の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	後期（「３期・４期」）の課題で解けなかった問題を解説します。	
	事後学修	授業内容全体（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。
グループワークについては,グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い,その結果を考慮して担当教員が採点を行います。
■会話編第一課～第八課の課題（復習）：30 点　■会話編第九課～第十八課の課題：70 点%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

会話編第一課～第八課課題（復習）、会話編第九課～第十八課課題の解答解説は講義後半に行います。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付）, 著者名：田中英夫, 出版社：朝日出版社, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	「中国語ＩA」,「中国語ＩB」,「中国語ⅡA」,「海外語学・文化研修（大連）」,「海外事情（中国編）」
備考	特になし
担当教員の実務経験	該当なし

ドイツ語ⅡA German 2A

担当教員	岩田 聡(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義		CBL229

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	前期

授業概要

テーマ ： ドイツ語コミュニケーションのための基礎を身につけながら, ドイツの歴史や文化に対する理解を深める。
一年次で学んだドイツ語は, 初級ドイツ語のいわば前半です。ドイツ語の基礎を固めるためには, さらに残りの半分も勉強して初級レベルのゴールを目指す必要があります。一年次で学んだことを復習しながら, さまざまな場面で使われる語彙を身につけ,ドイツ語表現の理解力・運用能力を高めていきます。また視聴覚教材を活用して,ドイツ語を話す国々の歴史や文化を学びます。

授業における学修の到達目標

一年次で学んだドイツ語の語彙や基本的文法を復習しながら, さらに応用練習を重ねてドイツ語の理解力や運用能力を高めましょう。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書 第1課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第1課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：人称代名詞・動詞の現在人称変化・語順	2.0
2	事前学修	教科書 第2課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第2課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：不規則変化動詞・名詞の性と複数形	2.0
3	事前学修	教科書 第3課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第3課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：名詞と代名詞の格変化	2.0
4	事前学修	教科書 第4課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第4課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：冠詞類・否定文・命令形	2.0
5	事前学修	教科書 第5課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第5課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：前置詞・接続詞	2.0
6	事前学修	教科書 第6課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第6課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：話法の助動詞・分離動詞	2.0
7	事前学修	教科書 第7課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第7課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：動詞の3基本形・過去の表わし方	2.0
8	事前学修	第1課から第7課までの復習：音声教材を聞く	2.0
	授業	中間のまとめとテスト	

	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2.0
9	事前学修	教科書 第８課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第８課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：形容詞の格変化と比較変化	2.0
10	事前学修	教科書 第９課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第９課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：zu 不定詞・分詞	2.0
11	事前学修	教科書 第１０課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第１０課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：再帰表現・関係代名詞	2.0
12	事前学修	教科書 第１１課の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第１１課の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：受動態	2.0
13	事前学修	教科書 第１２課前半の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第１２課前半の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：接続法第Ⅰ式（間接話法・要求話法）	2.0
14	事前学修	教科書 第１２課後半の予習：音声教材を繰り返し聞く	2.0
	授業	第１２課後半の Dialog, Übung の会話練習をする	
	事後学修	文法の復習：接続法第Ⅱ式（非現実話法・婉曲話法）	2.0
15	事前学修	第８課から第１２課の復習：音声教材を聞く	2.0
	授業	後半のまとめとテスト	
	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 試験：100%　□ 小テスト：0%　□ その他 [授業中の練習実績]：0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE 3 の小テスト等を利用してフィードバックします。

教科書	書名：アプライゼ　伝え合うドイツ語, 著者名：高橋亮介・川名真矢　著　, 出版社：朝日出版社, 備考：
参考書・Web サイト	https://text.asahipress.com/text-web/deutsche/abreise/
単位修得が望ましい科目	ドイツ語ⅠA, ⅠB および ドイツ語ⅡB
備考	プリントを配付します。
担当教員の実務経験	なし

ドイツ語ⅡB German 2B

担当教員	岩田 聡(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL230

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

テーマ ： ドイツ語コミュニケーションのための基礎を身につけながら, ドイツの歴史や文化に対する理解を深める。
一年次で学んだドイツ語は, 初級ドイツ語のいわば前半です。ドイツ語の基礎を固めるためには, さらに残りの半分も勉強して初級レベルのゴールを目指す必要があります。一年次で学んだことを復習しながら, さまざまな場面で使われる語彙を身につけ,ドイツ語表現の理解力・運用能力を高めていきます。また視聴覚教材を活用して,ドイツ語を話す国々の歴史や文化を学びます。

授業における学修の到達目標

一年次で学んだドイツ語の語彙や基本的文法を復習しながら, さらに応用練習を重ねてドイツ語の理解力や運用能力を高めましょう。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書 第 1 課 "Gesundheit" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第 1 課のテキスト "Gesundheit" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：動詞の人称変化・語順	2.0
2	事前学修	教科書 第 2 課 "Nestlé" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第 2 課のテキスト "Nestlé" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：重要な動詞・否定文	2.0
3	事前学修	第 3 課 "Pflegeroboter" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第 3 課のテキスト "Pflegeroboter" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：名詞の複数形・不規則動詞	2.0
4	事前学修	第 4 課 "Kartoffeln" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第 4 課のテキスト "Kartoffeln" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：定冠詞類・不定冠詞類	2.0
5	事前学修	第 5 課 "Zahnpasta" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第 5 課のテキスト "Zahnpasta" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：再帰代名詞・再帰動詞	2.0
6	事前学修	第 6 課 "PEZ" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第 6 課のテキスト "PEZ" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：前置詞	2.0
7	事前学修	第 7 課 "Zeiss" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第 7 課のテキスト "PEZ" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：複合動詞・従属接続詞	2.0
8	事前学修	第 1 課から第 7 課までの復習	2.0
	授業	中間のまとめとテスト	

	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2.0
9	事前学修	第８課 "Babyklappe" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第８課のテキスト "Babyklappe" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：話法の助動詞・未来形・非人称の es	2.0
10	事前学修	第９課 "Bier" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第９課のテキスト "Bier" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：動詞の過去分詞・受動文	2.0
11	事前学修	第１０課 "Enigma" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第１０課のテキスト "Enigma" の読解演習と Übungen	
	事後学修	文法の復習：過去形・zu 不定詞	2.0
12	事前学修	『伝え合うドイツ語』読解演習１（５０頁）の予習	2.0
	授業	読解演習１のテキストの翻訳と練習	
	事後学修	文法の復習：複合文と語順	2.0
13	事前学修	『伝え合うドイツ語』読解演習２（５１頁）の予習	2.0
	授業	読解演習２のテキストの翻訳と練習	
	事後学修	文法の復習：複合文と指示代名詞	2.0
14	事前学修	教科書 第８課から第１０課までの音声教材を聞く	2.0
	授業	教科書 第８課から第１０課までの復習	
	事後学修	文法の復習：話法の助動詞・過去形・受動態	2.0
15	事前学修	教科書『身近なドイツ語』読解演習１,２の復習	2.0
	授業	後半のまとめとテスト	
	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 試験：100%　□ 小テスト：0%　□ その他 [授業中の練習実績：0%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE３の小テスト等を利用してフィードバックします。

教科書	書名：アプライゼ　伝え合うドイツ語, 著者名：高橋亮介・川名真矢　著　, 出版社：朝日出版社, 備考：
	書名：身近なドイツ語, 著者名：城戸沙織, 出版社：朝日出版社, 備考：
参考書・Web サイト	https://text.asahipress.com/free/player/index.html?bookcode=225428 https://text.asahipress.com/text-web/deutsche/abreise/
単位修得が望ましい科目	ドイツ語ＩA,ＩB および ドイツ語ⅡA
備考	プリントを配布します。
担当教員の実務経験	なし

情報の世界 Introduction to Information Society

担当教員	内山 俊郎(117 研究室), 越野 一博(303 研究室), 上杉 正人(132 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLI123

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基本的素養を身に付けること、および数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能を扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思で AI の恩恵を享受し、これを説明・活用できることを目指します。

講義においては、知識やスキルを理解するための実習などを用意し、学生が主体的に学べるようにします。

授業における学修の到達目標

・社会におけるデータ・AI の利活用に関連し、社会の動向、実際のデータ、活用領域、技術、を知る。
・データ・AI 利活用における留意事項（情報倫理など）について知る。
・データを読み、扱い、説明するというデータリテラシーを身に付ける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Society5.0 について、指定した参考資料を読み、内容を把握しておいてください。	2.0
	授業	社会で起きている変化、特に AI の進化による変化について事例と共に学びましょう。	
	事後学修	社会で起きている変化の事例、それを説明するための用語について復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。	2.0
2	事前学修	社会で活用されているデータについて講義資料を読み、内容を把握しておきましょう。	2.0
	授業	社会で活用されているデータの事例を、紹介します。データの分類について学んだ後、文書データなどの例を示します。	
	事後学修	データの事例について、いくつかの分類がありました。その違いについて復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。	2.0
3	事前学修	データ・AI 利活用のための技術について講義資料を読み、内容を把握しておきましょう。	2.0
	授業	データ・AI 利活用のための技術として、どのようなものがあるか紹介した後、教師無し学習であるクラスタリグ技術や文書データの処理について示します。	
	事後学修	講義で出てきた用語、技術について復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。	2.0
4	事前学修	講義資料を読み，内容を把握してください。社会の問題や日常生活で感じる不便さをノートに書き出し，問題意識を持って授業に臨んでください。	2.0
	授業	AI を活用した新しいビジネスモデルや AI 最新技術の活用例について講義を行います。AI による姿勢推定を体験します。	
	事後学修	社会の問題や日常生活の不便さを，紹介した AI 最新技術を使って解決できるか考えてみましょう。	2.0
5	事前学修	講義資料を読み，内容を把握してください。自分のパソコンやスマフォにあるデータの種類，利用目的や利用方法について調べてみましょう。	2.0
	授業	世の中に存在するデータの種類や使用目的を学びます。光学文字認識処理により、画像内のテキ	

		スト抽出を体験します。	
	事後学修	画像，動画，音声・音楽データを提供しているサービスを調べてみましょう。	2.0
6	事前学修	講義資料を読み，内容を把握してください。人間にしかできないと自分が思う作業をノートに書き出してください。	2.0
	授業	マーケティング、製造や物流で活用される AI や、これまで人間しかできなかった作業を代替する AI について学びます。生成系ネットワークと呼ばれる創作活動を行う AI を体験します。	
	事後学修	AI が使われているサービスや家電製品を調べてみましょう。	2.0
7	事前学修	授業でコンピュータを使いますので、十分に充電をしておいてください。また、Gmail でプログラムを配布しますので Gmail に慣れておいてください。	2.0
	授業	新型コロナ感染拡大の予測をコンピュータシミュレーション（Python よるデモ）により示し、直観的に数理モデルの理解と計算機としてのコンピュータの可能性を講義します。[上杉正人@医療情報学部]	
	事後学修	配布したプログラムの条件（パラメータ）を変更して核実験してみましょう。	2.0
8	事前学修	CT 検査、MR 検査などインターネットで検索し、どういう検査か知識を得ておいてください。	2.0
	授業	医療の世界で AI などがどのように普及・利用されているのかを講義を行います。医用画像（MRI や CT から）から臓器を抽出する AI、さらに病変を同定する AI について講義します。[上杉正人@医療情報学部]	
	事後学修	講義をもとに医療と AI についてインターネットで調べてみましょう。	2.0
9	事前学修	CT の三次元画像ついてにインターネットで調べてみましょう。三次元画像についての知識を得ておいてください。	2.0
	授業	医療の世界では診断装置の性能が向上し、小さな病気が早期に見つかりようになりました。一方、医療データを扱う上で倫理上の問題も発生しています。機微な医療上について情報の取り扱いについて講義をします。[上杉正人@医療情報学部]	
	事後学修	医療情報と倫理についてインターネットで調べてみましょう	2.0
10	事前学修	都市のオープンデータについてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	都市で利用されるセンサやデータの種類や活用方法について、スマートシティや自動運転車などの事例を交えて講義を行います。都市のオープンデータのプラットフォーム PLATEAU に触れる簡易な演習も行います。（湯村）	
	事後学修	都市のオープンデータの活用方法について考えてみましょう	2.0
11	事前学修	ウェアラブルデバイスについてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	個人で利用されるセンサやデータの種類や活用方法について、ウェアラブルデバイスや家庭内センサなどの事例を交えて講義を行います。（湯村）	
	事後学修	ウェアラブルデバイスの活用方法について考えてみましょう	2.0
12	事前学修	パーソナルデータの取り扱いに課題や問題点についてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	パーソナルデータに関わるセンサデータ(行動データ、生体データなど)の取り扱いにおける課題や問題点について、実際に起こった事例を交えながら講義を行います。（湯村）	
	事後学修	パーソナルデータの取り扱いに課題や問題点について考えてみましょう	2.0
13	事前学修	今回の学習資料に目を通して概略を把握しておいてください。	2.0
	授業	我々の社会で関心がもたれている諸現象について、利用可能なデータの入手、およびその可視化を通して状況の特徴を大まかに把握していく過程について、具体例を通して紹介します。	
	事後学修	講義で学んだ状況が実社会ではどのように行われているかについて、Web 上で実際に調査してみて下さい。	2.0
14	事前学修	今回の学習資料に目を通し、学習内容の概略を把握しておいてください。	2.0

	授業	入手したデータに基づいて、不確実な現象間の関係を客観的に説明するためのモデル化と評価、および結果に基づく現象の解釈の仕方について、実例を通して学びます。こうしたモデル化は、シミュレーションや予測をはじめとして様々な現象の分析に応用されていますが、この現状についても紹介します。	
	事後学修	講義資料を基に、データを分析する一連の流れと具体的な方法のアウトラインをよく確認しておいて下さい。	2.0
15	事前学修	今回の学習資料に目を通し、学習内容の概略を把握しておいてください。	2.0
	授業	データの分析を通して得られた評価を第三者へ報告することは大変意義のある活動ですが、可視化された情報だけでは十分に伝えることが難しい局面もあります。このような場合には、統計的な推測が重要な役割を果たします。基本的な統計的数値が現象の評価においてどのように役立つかを学ぶと共に、基本的な統計量の計算について実習します。	
	事後学修	講義資料を基に、統計数値のいくつかを自分で計算でき、その結果に基づいて現象の評価ができるように練習して下さい。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□レポート：0　%　　□演習課題：0　%　　■小テスト：100　%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストに対して、達成度を伝えて正解例を示すことで、フィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	なし。
単位修得が望ましい科目	なし。
備考	・
担当教員の実務経験	内山俊郎 2006 年から 2012 年度まで企業の研究所に所属し，文書データ解析，レコメンドの研究を行うとともに，これら研究の成果を関連事業会社において利用可能なものとする実用化（プロダクト化）を行い，事業会社への技術支援を行った。これら実務において，実用化プロジェクトに関わり，これらの技術を現場において適用する過程を見てきた。これら実務経験を生かす形で，講義の中で示す技術の実応用例などを学生に伝え，技術の先にある現場の様子が想像できるような教育を実施する。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。 甫喜本司 企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきた。本講義では, データ科学の基本的な枠組みについて紹介する。統計学や確率論を基礎として, 現象をデータを手がかりとして理解していくための科学的な方法を紹介することとあわせて, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介する。

情報倫理 Information Ethics

担当教員	棚橋 二朗(335 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLI124

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	2 年	前期
情報メディア学科	必修	2 年	後期

授業概要

テーマ：情報社会を生きるのに必要な倫理を身につける

IT 技術の発達に伴って急速に進んだ情報化と社会の中で、かつての伝統的社会では見られなかった新たな問題が様々な分野で起こっています。そのため、旧来一般的だった「伝統倫理」とはやや違った視点や考え方をまじえた「情報倫理」という思想・規範の分野が成立してきました。

この授業では、情報社会の歴史と特質を様々な角度から学び、情報モラルの尊重など現代社会を人間らしく健全に生きてゆくための情報倫理について考えます。併せて、人類の福祉増進という観点から情報社会の課題を考え、著作権等の知的所有権利活用など IT の分野で現代人のニーズに応えてゆくにはどうすればよいかについても検討します。

授業における学修の到達目標

1. 社会の成員として健全に生きてゆくための基本的倫理を、情報社会の特性に即して理解する。
2. 情報に関する規範や規律を身につける。
3. 著作権をはじめとする知的所有権を正しく理解し、適切に利活用できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	情報倫理とは何か	
	事後学修	一般的な規範倫理と情報倫理の違いをノートにまとめる	2.0
2	事前学修	教科書のうち情報と情報社会の特徴について予習する	2.0
	授業	情報と情報社会の特徴	
	事後学修	情報と情報社会の特徴についてノートにまとめる	2.0
3	事前学修	教科書のうち携帯電話・スマートフォンのマナーについて予習する	2.0
	授業	携帯電話・スマートフォンのマナー	
	事後学修	携帯電話・スマートフォンのマナーについてノートにまとめる	2.0
4	事前学修	教科書のうちネット上のコミュニケーションについて予習する	2.0
	授業	ネット上のコミュニケーション	
	事後学修	ネット上のコミュニケーションについてノートにまとめる	2.0
5	事前学修	教科書のうち情報発信者の責任について予習する	2.0
	授業	情報発信者の責任	
	事後学修	情報発信者の責任についてノートにまとめる	2.0
6	事前学修	教科書のうち身近な生活における情報について予習する	2.0
	授業	身近な生活における情報	
	事後学修	身近な生活における情報についてノートにまとめる	2.0
7	事前学修	教科書のうちネット社会におけるトラブルと犯罪について予習する	2.0

	授業	ネット社会におけるトラブルと犯罪	
	事後学修	ネット社会におけるトラブルと犯罪についてノートにまとめる	2.0
8	事前学修	教科書のうち個人情報の流出について予習する	2.0
	授業	個人情報の流出	
	事後学修	個人情報の流出についてノートにまとめる	2.0
9	事前学修	教科書のうち個人情報の保護について予習する	2.0
	授業	個人情報の保護	
	事後学修	個人情報の保護についてノートにまとめる	2.0
10	事前学修	教科書のうち知的財産権について予習する	2.0
	授業	知的財産権	
	事後学修	知的財産権についてノートにまとめる	2.0
11	事前学修	教科書のうち著作権について予習する	2.0
	授業	著作権	
	事後学修	著作権についてノートにまとめる	2.0
12	事前学修	教科書のうち情報セキュリティについて予習する	2.0
	授業	情報セキュリティ	
	事後学修	情報セキュリティについてノートにまとめる	2.0
13	事前学修	教科書のうちコンピュータへの被害について予習する	2.0
	授業	コンピュータへの被害	
	事後学修	コンピュータへの被害についてノートにまとめる	2.0
14	事前学修	教科書のうちネット社会のセキュリティ技術について予習する	2.0
	授業	ネット社会のセキュリティ技術	
	事後学修	ネット社会のセキュリティ技術についてノートにまとめる	2.0
15	事前学修	教科書のうち情報社会の現在について予習する	2.0
	授業	情報社会の現在	
	事後学修	情報社会の現在についてノートにまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　■小テスト：100%　□レポート：　%　□演習課題：　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートを課した場合は返却する。

教科書	書名：2022 事例でわかる情報モラル＆セキュリティ, 著者名：, 出版社：実教出版, 備考：
参考書・Web サイト	越智貢「情報倫理学入門」ナカニシヤ出版 Deborah G. Johnson 「コンピュータ倫理学」オーム社 Anthony Weston 「ここからはじまる倫理」春秋社 西垣通・竹之内禎編著訳「情報倫理の思想」NTT 出版 Web サイト：POLITE3　　http://polite3.do-johodai.ac.jp/
単位修得が望ましい科目	なし
備考	教科書は必ず 2022 年版を入手すること。2021 年以前の版は内容が旧くなっているため使用できない。
担当教員の実務経験	実務経験なし。

ヘルスリテラシー入門【旧カリキュラム】 Introdction to Health Literacy

担当教員	綿谷 貴志(227 研究室), 木下 弘基(857 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLI125

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

テーマ：健康情報との正しいかかわり方を知る。

健康や医療に関する情報が、医療従事者だけでなく広く一般の人々も入手できるようになり、市民も医療の質を評価・判断・選択し、取り入れる力が必要な時代になってきました。健康や医療に関する情報は日々進歩し、様々な本・文献、インターネット等で提供される情報は玉石混交になっています。正しい健康情報を見極め、自分にふさわしい自己決定ができるように、健康に関する情報の特徴、適切な収集方法、生活への取り入れ方を解説します。

授業は、すべてオンライン形式の e-ラーニング教材を用いて行われます。13 回の「学習者適応型 e-learning システム（POLITE）」、4 回の確認テスト（教室外授業）で実施されます。教室外であっても気を緩めることなく計画的に自主学習に取り組むことを通じ、「主体的な学び」の力を身につけるようにしてください。

なお、第 1 回授業（教室外授業）では、その後の e-learning の受講方法等の重要事項を説明します。これを聞かないとその後の受講ができませんので、動画や資料等は必ず視聴するようにしてください。

また、再履修の場合は受講方法が変更になることがあるので、担当教員の指示を受けること。

授業における学修の到達目標

A. 健康や医療に関する情報を効果的に収集・理解・判断し選択する能力「ヘルスリテラシー」を向上させる。

B. 教室外授業において積極的に自主学習に取り組み、「主体的学びの力」を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2
	授業	（教室外授業：1 回目）はじめに～健康のための e-ラーニング～（確認テスト）	
	事後学修	Polite3 の説明資料をもとに、e-learning と「主体的な学び」について理解を深める。	2
2	事前学修	Polite3 の講義資料「第 1 章：健康における情報と意思決定」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 1 章：健康における情報と意思決定（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 1 章：健康における情報と意思決定」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
3	事前学修	Polite3 の講義資料「第 2 章：より良い意思決定とは何か」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 2 章：より良い意思決定とは何か（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 2 章：より良い意思決定とは何か」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
4	事前学修	Polite3 の講義資料「第 3 章：エビデンスに基づいた健康」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 3 章：エビデンスに基づいた健康（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 3 章：エビデンスに基づいた健康」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
5	事前学修	第 1 章～第 3 章の講義資料 PDF 等を参照し、内容を整理する。	2
	授業	（教室外授業）中間のまとめ（第 1 章～第 3 章）と確認テスト	

	事後学修	確認テストの結果を確認し、さらに理解を深める。	2
6	事前学修	Polite3 の講義資料「第 4 章：ナラティヴによる情報」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 4 章：ナラティヴによる情報（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 講義資料「第 4 章：ナラティヴによる情報」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
7	事前学修	Polite3 の講義資料「第 5 章：インターネット上の保健医療情報の見方、探し方」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 5 章：インターネット上の保健医療情報の見方、探し方（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 5 章：インターネット上の保健医療情報の見方、探し方」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
8	事前学修	Polite3 の講義資料「第 6 章：健康情報のコミュニケーションとヘルスリテラシー」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 6 章：健康情報のコミュニケーションとヘルスリテラシー（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 6 章：健康情報のコミュニケーションとヘルスリテラシー」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
9	事前学修	Polite3 の講義資料「第 7 章：医療安全とコミュニケーション」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 7 章：医療安全とコミュニケーション（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 7 章：医療安全とコミュニケーション」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
10	事前学修	第 4 章～第 7 章の講義資料 PDF 等を参照し、内容を整理する。	2
	授業	（教室外授業）中間のまとめ（第 4 章～第 7 章）と確認テスト	
	事後学修	確認テストの結果を確認し、さらに理解を深める。	2
11	事前学修	Polite3 の講義資料「第 8 章：健康食品との付き合い方」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	教室外授業）第 8 章：健康食品との付き合い方（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 8 章：健康食品との付き合い方」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
12	事前学修	Polite3 の講義資料「第 9 章：ヘルスプロモーションと地域づくり」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 9 章：ヘルスプロモーションと地域づくり（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 9 章：ヘルスプロモーションと地域づくり」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
13	事前学修	Polite3 の講義資料「第 10 章：生活習慣と環境を変える方法」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 10 章：生活習慣と環境を変える方法（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 10 章：生活習慣と環境を変える方法」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
14	事前学修	Polite3 の講義資料「第 11 章：人と人とのつながりと健康」PDF 等により、事前に学習範囲を把握する。	2
	授業	（教室外授業）第 11 章：人と人とのつながりと健康（ビデオ視聴）	
	事後学修	Polite3 の講義資料「第 11 章：人と人とのつながりと健康」PDF 等を利用し、学習内容を整理する。	2
15	事前学修	Polite3 の講義資料「第 12 章：健康を決める力とは」PDF 等により、事前に学習範囲を把握す	2

		る。	
	授業	（教室外授業）第 12 章：健康を決める力とは（ビデオ視聴） ※ポライトで最終のまとめと総合テストを実施する	
	事後学修	すべての講義資料 PDF によりこの講義全体を復習する。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：3 回の確認テストと総合テスト　60%、■各章の小テスト　40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストの解答内容について、必要に応じて各担当教員から個別にコメントする。

教科書	
参考書・Web サイト	戸ヶ里泰典・中山和弘編「市民のための健康情報学入門」NHK 出版　2013 上野直人「一流患者と三流患者 医者から最高の医療を引き出す心得」朝日新聞出版　2016
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・第 1 回の講義以外は、ポライト上で学習を行う。 ・Polite3 に受講生向けの掲示板を設定してあるので、積極的に書き込みを行い、相互の交流を図ること。
担当教員の実務経験	なし

ヘルスリテラシー入門 Introdction to Health Literacy

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
穴田 有一(852 研究室), 木下 弘基(857 研究室), 関根 洋(229 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	2 単位	講義	○	CLI125

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：あふれる情報へのアプローチの仕方を学ぶ

近年，情報技術の急激な発達にともなって，私たちが受け取る情報量は著しく増大している。また情報の量だけでなく質も大きく変化しているために，ともすると不確かな情報に振り回されたり，価値ある情報に気づかなかったりすることが多くなっている。私たちは周りにあふれる情報をどのように扱えばよいのだろうか。この授業では 5 人の教員が情報を主体的に利活用する能力を身につけるための手ほどきとして，下記の授業計画に示す 5 つのタームを受け持ち，それぞれのトピックス，日本人と情報，データリテラシー，情報リテラシー，メディアリテラシー，高度情報社会と心身の健康について講義する。

授業における学修の到達目標

1. 必要とする情報を効果的・効率的に収集し，それらの情報を批判的に活用する基本的な処理ができる。
2. メディアで伝わる情報の本当の意味を理解することの難しさを理解し，身近な情報と向かい合うことができる。
3. データを可視化して，情報の内容を深く理解する方法の基本的な処理ができる。
4. 情報社会のストレスと対応の基本を理解し，日常生活で活用できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	配布プリントを読む	2.0
	授業	1-1. 日本人と情報（関根）（1）組織間の情報共有 教材視聴・質疑応答，レポート作成 ＊縦割りが進んだ組織間で情報が共有されなかったことによる外交上の失敗例について扱う	
	事後学修	配布プリントを読む	2.0
2	事前学修	配布プリントを読む	2.0
	授業	1-2. 日本人と情報（関根）（2）メディアと世論 教材視聴・質疑応答，レポート作成 ＊「強硬な世論」の醸成にメディアが果たした役割について扱う	
	事後学修	配布プリントを読む	2.0
3	事前学修	配布プリントを読む	2.0
	授業	1-3. 日本人と情報（関根）（3）情報バイアス 教材視聴・質疑応答，レポート作成 ＊ひとは，得てして「あらまほしき情報」のみを拾ってしまいがちであると言われるが，その結果国策を誤り対米開戦に至ってしまった件について扱う	
	事後学修	配布プリントを読む	2.0
4	事前学修	まず，シラバスのメディアリテラシーについての 3 回の内容をよく読もう．つぎに，身の回りに溢れる情報の中に，正しい情報と間違った情報があること，有益な情報と無意味な情報があることを調べて，分かったことをノートに書いておこう。	2.0

	授業	2-1. メディアリテラシー（穴田）：「価値ある情報を見極める」能力を獲得するために，3 回の授業を行う。1 回目は，情報が氾濫する今の社会で「情報とそのもとになる事実は異なることを理解する」ことを目標として，新聞記事と写真を教材として POLITE2(Moodle)の練習問題に解答しながら理解を深める。これにより，メディアリテラシーとは何かを理解しよう。	
	事後学修	授業の内容を振り返り，メディアリテラシーの観点から「情報とそのもとになる事実は異なること」の意味を考え，POLITE3(Moodle)の感想欄に入力しよう。	2.0
5	事前学修	大学が与えている Gmail が利用できることを確認しておこう。 自分の考えを話し言葉や書き言葉などのメッセージに表現するときに，何が困難か考えて，ノートに整理しておこう。	2.0
	授業	2-2. メディアリテラシー（穴田）：2 回目は，この授業のために用意した自然言語の疑似コードを用いてメッセージを作成し，電子メールを利用して，このメッセージによるコミュニケーション実習を行う。これにより，コードを用いた記号化と解読の仕組みを理解しよう。	
	事後学修	授業の実習を振り返り，自分の考えを日本語のメッセージにするときに，何が困難か考えて，ノートに整理しておこう。 授業の感想を POLITE3(Moodle)に入力しよう。	2.0
6	事前学修	これまでの学習を振り返り，メディアリテラシーとは何かを考えて，ノートに書いておこう。	2.0
	授業	2-3. メディアリテラシー（穴田）：3 回目は，記号論の立場から，メッセージの意味を正確に読み取るには，コンテクストと分節・価値が重要であることを POLITE2(Moodle)の練習問題と実習によって学習する。これにより，コミュニケーションには本質的な難しさがあることを理解しよう。	
	事後学修	これまでの 3 回の授業内容を振り返り，日常のコミュニケーションをメディアリテラシーの観点から見直し，感想と意見を POLITE3(Moodle)に入力しよう。	2.0
7	事前学修	図書館に行って本がどのように配架されているか，確認してみよう。興味のある本を借りる手続きをしてみよう。	2.0
	授業	3-1. 情報リテラシー（綿谷）(1) 図書館での情報検索～日本十進分類法について理解を深める。OPAC を使って図書を検索する方法を実習形式で学ぶ。	
	事後学修	発展課題に取り組み，授業の感想をまとめる。さらに，図書の情報が引用文献でどのように表記されているか学術書で確認してみよう	2.0
8	事前学修	論文の情報が引用文献でどのように表記されているか，学術書で確認してみよう。「働き方改革」とは何か，調べてみよう。	2.0
	授業	3-2.情報リテラシー（綿谷）(2) 図書館のポータルサイトから見えてくる世界 1　図書館 HP にある本学以外の図書館や文献検索のサイトの利用方法を学ぶ。絞り込み検索を行う。	
	事後学修	的確な方法で検索できていたかどうか，もう一度確認してみよう。授業の感想をまとめる。	2.0
9	事前学修	シソーラスとは何か，調べてみよう。	2.0
	授業	3-3.情報リテラシー（綿谷）(3) 図書館のポータルサイトから見えてくる世界 2　的確な検索機能を理解する。	
	事後学修	全体を通して，的確な方法で検索を行うことができたかどうか，もう一度確認してみよう。	2.0
10	事前学修	POLITE3（木下分）の第 1 回講義資料「(1) 情報と大学生のメンタルヘルス」により，事前に学習範囲を把握する	2.0
	授業	4-1. 高度情報社会と心身の健康（木下） (1) 情報と大学生のメンタルヘルス：大学生活のリスクとしてのメンタルヘルスについて学ぶ	
	事後学修	POLITE3（木下分）の第 1 回講義資料「(1) 情報と大学生のメンタルヘルス」の次にある回答欄から，5 つの質問に回答し送信する	2.0
11	事前学修	POLITE3（木下分）の第 2 回講義資料「(2) IT 技術者のストレス管理」により，事前に学習範囲を把握する	2.0

	授業	4-2. 高度情報社会と心身の健康 （木下） (2) IT 技術者のストレス管理：IT 技術者のストレス特性について学ぶ	
	事後学修	POLITE3（木下分）の第 2 回講義資料「 (2) IT 技術者のストレス管理」の次にある回答欄から，5 つの質問に回答し送信する	2.0
12	事前学修	POLITE3（木下分）の第 3 回講義資料「 (3) セルフケアとラインケア」により，事前に学習範囲を把握する	2.0
	授業	4-3. 高度情報社会と心身の健康 (木下) (3) セルフケアとラインケア：職場メンタルヘルスにおける「4 つのケア」について学ぶ	
	事後学修	POLITE3（木下分）の第 3 回講義資料「 (3) セルフケアとラインケア」の次にある回答欄から，5 つの質問に回答し送信する	2.0
13	事前学修	「データリテラシー」講義の流れについて，シラバスを確認して把握する	2.0
	授業	5-1. データリテラシー（甫喜本）(1)「ビッグデータ」社会の現状を知り， R 言語システムの概要と基本的な操作を覚える	
	事後学修	POLITE3 (甫喜本) の学修資料「データの可視化と特徴の把握」の前半部を参照しながら，R 言語システムの基本操作を自分でできるようにする	2.0
14	事前学修	POLITE 3(甫喜本) の学修資料「データの可視化と特徴の把握」の後半部を参照しながら，R 言語でデータの可視化を行う方法を調べ, 疑問点を明らかにする	2.0
	授業	5-2. データリテラシー（甫喜本）(2) R 言語で 1 次元，および多次元のデータを可視化して，その特徴を把握する技術を覚える	
	事後学修	POLITE3 (甫喜本) の学修資料「データの可視化と特徴の把握」の後半部を参照しながら， R 言語システムでデータを可視化し，その特徴を述べることができるようにする	2.0
15	事前学修	POLITE 3(甫喜本) の「データリテラシー実習課題」の内容を確認し，具体的な処理を自分で考えると共に, 問題点を明らかにする	2.0
	授業	5-3. データリテラシー（甫喜本）(3)「データリテラシー」の実習課題を R 言語を用いて実習する	
	事後学修	報告書を完成し, 教員に提出する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
■レポート：20　%　　■演習課題：60　%　　■小テスト：20　%
5 人の担当教員にそれぞれ課題を提出する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題に対する質問に応じます。

教科書	
参考書・Web サイト	各担当教員が，説明する場合があります。
単位修得が望ましい科目	ICT 入門（word，excel 等のソフトの使い方，web の基礎知識）
備考	受講生は，それぞれの時間帯に 5 つのグループに分かれます。掲示でグループ名と教室を必ず確認するようにして下さい。また，単位修得には授業実施総回数の 2/3 以上の出席が必要です。
担当教員の実務経験	【関根】実務経験なし 【穴田】1981 年から 1982 年にかけて，石油化学企業に勤務し，プロジェクトチームのメンバーとして研究開発に従事しました。この実務経験から学んだことは，学問の基礎を修得することが，情報から本質を解き明かし開発につないでいく上で有益であるということです。また，プロジェクトチームの一員として協調しながらも，独自の考えを持つことでプロジェクトの前進に寄与することができるということです。授業では，この経験に基づいて，基礎

	知識と学問の方法論を学習することの重要性を伝えるとともに，他者とコミュニケーションを十分にとりながら協調することの重要性を伝えます。 【綿谷】：実務経験なし 【木下】：2005 年から 2012 年まで，自治体病院で臨床心理技術者として精神科医療に従事していました。この経験を活かし，授業ではメンタルヘルスの基礎的な知識を習得し，自分自身のメンタルヘルスの状態について考えます。 【甫喜本】1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し，データ科学に基づく金融工学の研究と，新しい投資技術の開発に携わってきました。「データリテラシー」で紹介する内容は，近年急速に関心が高まっている「データ科学」の枠組みにおける入門の技術ですが，近年の「ビッグデータ」社会において，その必要性が高くなっています。

心理学 Psychology

担当教員	木下 弘基(857 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLH126

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：人の心のありようを学ぶ。

この授業では心理学の諸領域について幅広く学びます。心理学的な理論や現象を実体験や実際の事例を通して学ぶことで、体験的に「心理学」や「心」への理解を深めます。また、心理学を単に知識として学ぶのではなく、様々な心理学の理論をとおして、自分自身や社会で起きる出来事について、新たな見方を学びます。

授業における学修の到達目標

1.様々な領域の心理学に関する基礎知識を身につける。
2.身近な現象や対象を心理学的な視点から考えることができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	1.講義のガイダンスと心理学概説	
	事後学修	Polite3 の第 1 回講義資料「1.心理学概説」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
2	事前学修	Polite3 の第 2 回講義資料「2.行動、学習の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	2.行動、学習の心理学	
	事後学修	Polite3 の第 2 回講義資料「2.行動、学習の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
3	事前学修	Polite3 の第 3 回講義資料「3.パーソナリティ、性格の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	3.パーソナリティ、性格の心理学	
	事後学修	Polite3 の第 3 回講義資料「3.パーソナリティ、性格の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。。	2.0
4	事前学修	Polite3 の第 4 回講義資料「4.知覚、認知、記憶の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	4.知覚、認知、記憶の心理学	
	事後学修	Polite3 の第 4 回講義資料「4.知覚、認知、記憶の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
5	事前学修	Polite3 の第 5 回講義資料「5.社会心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	5.社会心理学	
	事後学修	Polite3 の第 5 回講義資料「5.社会心理学」等を利用し、事前に学習内容を整理する。	2.0
6	事前学修	Polite3 の第 6 回講義資料「6.発達心理学史」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	6.発達心理学	
	事後学修	Polite3 の第 6 回講義資料「6.発達心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
7	事前学修	Polite3 の第 7 回講義資料「7.心理学の研究法」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	7.心理学の研究法	
	事後学修	Polite3 の第 7 回講義資料「7.心理学の研究法」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
8	事前学修	Polite3 の第 8 回講義資料「8.臨床心理学（1）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0

	授業	8.臨床心理学（1）	
	事後学修	Polite3 の第 8 回講義資料「8.臨床心理学（1）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
9	事前学修	Polite3 の第 9 回講義資料「9.臨床心理学（2）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	9.臨床心理学（2）	
	事後学修	Polite3 の第 9 回講義資料「9.臨床心理学（2）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
10	事前学修	Polite3 の第 10 回講義資料「10.心理学的アセスメント（1）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	10.心理学的アセスメント（1）	
	事後学修	Polite3 の第 10 回講義資料「10.心理学的アセスメント（1）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
11	事前学修	Polite3 の第 11 回講義資料「11.心理学的アセスメント（2）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	11.心理学的アセスメント（2）	
	事後学修	Polite3 の第 11 回講義資料「11.心理学的アセスメント（2）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
12	事前学修	Polite3 の第 12 回講義資料「12.心理学の歴史」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	12.心理学の歴史	
	事後学修	Polite3 の第 12 回講義資料「12.心理学の歴史」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
13	事前学修	Polite3 の第 13 回講義資料「13.健康と心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	13.健康と心理学	
	事後学修	Polite3 の第 13 回講義資料「13.健康と心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
14	事前学修	Polite3 の第 14 回講義資料「14.情報と心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	14.情報と心理学	
	事後学修	Polite3 の第 14 回講義資料「14.情報と心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
15	事前学修	Polite3 の第 15 回講義資料「15.思春期、青年期の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	15.思春期、青年期の心理学	
	事後学修	Polite3 の第 15 回講義資料「15.思春期、青年期の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験：100%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　□演習課題：　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

原則として，課題等の結果は授業中に返却し，説明する。

教科書	
参考書・Web サイト	「心理学概論　歴史・基礎・応用」　川畑直人・大島剛・郷式徹（監修）加藤弘通　川田学（編）　ミネルヴァ書房　（2020） 「心理学・入門：心理学はこんなに面白い（改訂版）」　サトウタツヤ・渡邊芳之　有斐閣（2019）
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	札幌市病院局市立札幌病院静療院（2005 年～2012 年）、札幌市保健福祉局児童心療センタ

	ー（2012 年～2015 年）、札幌市保健福祉局子ども発達支援総合センター（2015 年～2021 年）における臨床心理士としての実務経験を活かし、心理学の体系的な知識の習得と実践的な理解を促していく。

文学 Japanese Literature

担当教員	山田 桃子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLH127

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：日本近現代文学とメディア・テクノロジーの文化

本講義では、日本の近現代の文学が、写真や映画、ラジオといった近代になってから生活に浸透し始めたメディア技術とどう関わってきたかを学びます。

講義では具体的な作品を取り上げ、メディア技術との関わりがどのように表現されているかを見て行くほか、現在では珍しくなくなった文学の「メディア化」や「メディアミックス」（活字から映像など異なるメディアへの展開）についても後半で取り上げます。

＊この授業では Google Classroom を活用する予定です。主に感想や課題の提出に利用します（感想の提出はスマートフォンがあれば可能です。課題を実施する回など、タブレット端末があった方がいい回については事前に説明します）。

授業における学修の到達目標

1. 社会、政治、テクノロジーなどをめぐる歴史的状況をふまえながら、日本文学への理解を深めます。
2. 1 を通して、文学作品の多様な読み方を身に付けます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	中高の国語の資料集や、社会（日本史）の教科書等で、日本近代史や近代文学史の流れをざっと概要だけふりかえっておくとよい（ない場合はインターネットで調べる）	2.0
	授業	ガイダンス	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
2	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	作家の顔写真をめぐる問題	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
3	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	宇野浩二「夢見る部屋」を読む	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
4	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	谷崎潤一郎「人面疽」（1）：映画を見ることの歴史性	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
5	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	谷崎潤一郎「人面疽」（2）：複製文化におけるイメージ	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
6	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	内田百閒「旅順入城式」：戦争の記憶とメディア	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
7	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0

	授業	電話をめぐる物語	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
8	事前学修	これまでの講義内容を復習・整理しておく。	2.0
	授業	中間まとめ／小課題①の実施	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
9	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	映像文化とモダニズム文学の実験	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
10	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	戦争報道と文学（1）：戦時中の詩とメディア	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
11	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	戦争報道と文学（2）：坂口安吾「真珠」	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
12	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	文学と「メディア化」（1）：メディアミックス	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
13	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	文学と「メディア化」（2）：筒井康隆「時をかける少女」	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
14	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。	2.0
	授業	文学と「メディア化」（3）：映画「時をかける少女」（大林宣彦監督、1983）	
	事後学修	講義プリントやノートを再読し、復習する。感想や疑問点を書く。	2.0
15	事前学修	これまでの講義内容を復習・整理しておく。	2.0
	授業	まとめ／小課題②の実施	
	事後学修	まとめの講義をふまえて、改めて講義内容を復習し、理解を深める。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：60%　□小テスト：　%　□レポート：　　%　■課題：40%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題は解答例等をフィードバックします。毎回の感想についても興味深いものを（匿名で）次回以降に取り上げてコメントを加え、皆で共有します。

教科書	
参考書・Web サイト	講義中に随時紹介します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

歴史学 History

担当教員	小田島 数幸(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CLH228

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3・4年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3・4年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3・4年	前期

授業概要

テーマ： わが国の歴史をダイナミックに考察しよう

○ 皆さんが過ごした高校時代は、学習指導要領上、日本史と地理を選択で履修するため、日本の歴史は中学校以来という方もいるでしょう。そこで、高校での日本史の修得状況に関わらず、原始古代から太平洋戦争までを通史で扱うのが本授業になります。

○ 日本史に対する基礎知識が備わっている皆さんも、または少々心細い皆さんも、わが国の歴史を探る面白さを一緒に感じ合える授業を目指します。歴史上の人物の魅力を発見し、出来事の歴史的意義を深めていく展開になります。事前学習では、各回で紹介する書籍に目を通し、事後学習では、後段の参考書一覧から興味・関心に応じて活用し、教養を深めていきましょう。

○ 授業は、本学が開発した「学習適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して、反転学習を取り入れます。

授業における学修の到達目標

1歴史的出来事を、科学的見地から読み取り、現在の価値観にとらわれることなく考察することができる。

2歴史上の人物の功績・魅力を説明するための知識・教養と、それを表現する力を身に付けることができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	『三国志』または、テキスト（2～7ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	考古学上の発見、わが国最古の史料解読、卑弥呼と邪馬台国の謎	
	事後学修	興味を持つ歴史上の人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
2	事前学修	『日出処の天子』または、テキスト（7～13ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	古墳時代、大陸文化の伝来、聖徳太子の政治・外交と飛鳥文化	
	事後学修	生没年が57～644年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
3	事前学修	『恋ふらむ鳥は』または、テキスト（13～20ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	大化改新、白村江の戦、壬申の乱、天武朝と白鳳文化	
	事後学修	生没年が645～709年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
4	事前学修	『空海の風景』または、テキスト（20～23、90～95ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	平城京遷都、奈良時代の政変、遣唐使と天平文化	
	事後学修	生没年が710～793年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
5	事前学修	『源氏物語』『枕草子』または、テキスト（23～41ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	平安京遷都、藤原氏の他氏排斥、弘仁・貞観文化と国風文化	
	事後学修	生没年が794～938年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
6	事前学修	『炎立つ』または、テキスト（42～55ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	承平・天慶の乱、奥州藤原氏、院政と保元・平治の乱	
	事後学修	生没年が939～1179年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
7	事前学修	『鎌倉殿の13人』または、テキスト（55～66ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	平氏滅亡と鎌倉幕府成立、将軍暗殺と承久の乱、蒙古襲来と幕府の衰退	

	事後学修	生没年が１１８０～１２９６年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0
8	事前学修	『太平記』または、テキスト（６６～８１、９５～１０１ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	鎌倉新仏教と鎌倉文化、南北朝の内乱、建武新政と室町幕府成立	
	事後学修	生没年が１２９７～１４６６年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0
9	事前学修	『国盗り物語』または、テキスト（８１～８９、１０１～１１７ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	応仁の乱、室町文化、戦国大名の領国支配、織田信長の統一事業	
	事後学修	生没年が１４６７～１５８２年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0
10	事前学修	『真田太平記』または、テキスト（１１７～１３４、１６２～１６８ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	秀吉の全国統一、関ケ原の戦、大坂冬の陣・夏の陣、安土・桃山文化、鎖国の成立	
	事後学修	生没年が１５８３～１６３９年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0
11	事前学修	『赤穂浪士』または、テキスト（１３４～１５６、１６８～１８５ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	元禄文化、江戸幕府三大改革と幕政衰退、黒船来航	
	事後学修	生没年が１６４０～１８５３年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0
12	事前学修	『竜馬がゆく』『新選組』または、テキスト（１８７～１９８ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	尊王攘夷と薩長連合、戊辰戦争と明治維新	
	事後学修	生没年が１８５４～１８７６年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0
13	事前学修	『翔ぶが如く』または、テキスト（１９８～２１１ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	征韓論と西南戦争、大日本帝国憲法、条約改正交渉	
	事後学修	生没年が１８７７～１８９４年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0
14	事前学修	『坂の上の雲』または、テキスト（２１１～２３６ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	日清戦争、日英同盟、日露戦争、韓国併合	
	事後学修	生没年が１８９５～１９１０年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0
15	事前学修	「知覧特攻平和会館の書籍」、テキスト（２３７～２６０ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	五・一五事件、国際連盟脱退、真珠湾攻撃、東京大空襲、沖縄戦、原爆投下、東京裁判	
	事後学修	生没年が１９１１～１９４８年の期間に該当する人物を２名抽出し、各２００字の説明文を作成する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。」

■試験：70%　■小テスト：20%　■レポート：　10%　□演習課題：　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートについて講評する

教科書	書名：概論日本歴史, 著者名：佐々木潤之介他編, 出版社：吉川弘文館, 備考：
参考書・Web サイト	小和田哲男著　『人物比較でわかる日本史』 （KADOKAWA、２０１７年） ISBN 978-4-04-400216-9 松本一夫著　『史料で解き明かす日本史－歴史学者の謎解きを追体験する』 （ベレ出版、２０２１年） ISBN 978-4-86064-654-7
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	１９８４年から２０２２年までの３８年間、道立高等学校で地歴・公民科教員（２０１５年からは教頭・校長）の経験を持つ。主に日本史Ａ・Ｂを担当し、物語のように演じる劇場型の授業で生徒を魅了し、暗記型教科からの脱却を図る。 歴史上の人物を、自分の言葉で説明する手法を反復し、社会に出てから応用可能な教養として身に付く授業を実践する。

哲学 Philosophy

担当教員	三浦 洋(221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLH129

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3・4 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3・4 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3・4 年	前期

授業概要

テーマ：西洋哲学史を学び、哲学的思考を身につける

哲学は元来、すべての学問を包摂する知的探究の営みです。情報サイエンスを含め、理科系・文科系あらゆる学問の祖が哲学なのです。この講義では、哲学が始まった最も古い時代にあたる西洋古代哲学の歴史を概観しながら、現代哲学まで受け継がれてきた問題群と、哲学独特の探究方法を学びます。

哲学には人間の思考の原型が秘められていますので、哲学を学ぶことは他の様々な学習にも役立ちます。というのも、自分の力で物事を粘り強く考え、考えたことを論理的に整理する姿勢・能力を養うことができるからです。講義の中でときどき難しい言葉に出会っても敬遠せず、哲学者がその言葉をあえて使った意味を根気よく考えてみてください。

授業における学修の到達目標

1　哲学という学問の基本的なあり方を理解するとともに、文化・思想の歴史的多様性を理解する。
2　論理的に物事を考え、言葉で的確に表すことの重要性を理解する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	学問としての「哲学」	
	事後学修	学問としての「哲学」の特徴について復習する	2.0
2	事前学修	教科書のうちイオニア学派について説明した部分を読む	2.0
	授業	ミレトスの自然哲学	
	事後学修	ミレトスの自然哲学の特徴について復習する	2.0
3	事前学修	教科書のうちヘラクレイトスの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	ヘラクレイトスの思索	
	事後学修	ヘラクレイトスの思索の特徴について復習する	2.0
4	事前学修	教科書のうちピタゴラス派について説明した部分を読む	2.0
	授業	ピタゴラス派の問題	
	事後学修	ピタゴラス派の問題について復習する	2.0
5	事前学修	教科書のうちエレア学派について説明した部分を読む	2.0
	授業	エレア派のパラドックス	
	事後学修	エレア派のパラドックスの特徴について復習する	2.0
6	事前学修	教科書のうちエンペドクレスとアナクサゴラスについて説明した部分を読む	2.0
	授業	機械論と目的論の対立	
	事後学修	機械論と目的論の対立について復習する	2.0
7	事前学修	教科書のうちソフィストについて説明した部分を読む	2.0
	授業	ソフィストの登場	
	事後学修	ソフィストの思想の特徴について復習する	2.0

8	事前学修	教科書のうち紀元前５世紀の思想状況について説明した部分を読む	2.0
	授業	ソクラテス以前の哲学のまとめ	
	事後学修	ソクラテス以前の哲学の特徴について復習する	2.0
9	事前学修	教科書のうちソクラテスの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	ソクラテスの転換	
	事後学修	ソクラテスの思想の特徴について復習する	2.0
10	事前学修	教科書のうちプラトンの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	プラトンとイデア論	
	事後学修	プラトンのイデア論について復習する	2.0
11	事前学修	教科書のうちアリストテレスの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	アリストテレスの思想	
	事後学修	アリストテレスの思想の特徴について復習する	2.0
12	事前学修	教科書のうち中世哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	中世哲学の課題	
	事後学修	中世哲学の課題について復習する	2.0
13	事前学修	教科書のうち近世哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	近世哲学の展開	
	事後学修	近世哲学の展開について復習する	2.0
14	事前学修	教科書のうち近代哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	近代哲学の問題	
	事後学修	近代哲学の問題について復習する	2.0
15	事前学修	教科書のうち現代哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	現代哲学の発展	
	事後学修	現代哲学の発展について復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：５０％　■小テスト：５０％

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストの採点後、設問に関する質問に対応するとともに、正解率の低かった設問の正解について解説する。

教科書	書名：西洋思想のあゆみ　ロゴスの諸相, 著者名：岩田靖夫ら, 出版社：有斐閣, 備考：
参考書・Web サイト	とくに指定しないが、授業内容に関連する書籍については適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし。

経済学Ⅰ Economics 1

担当教員	山口 晴敬(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CLS130

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1年	冬期集中

授業概要

テーマ：現代の諸問題を経済学で読み解く

COVID-19 の終息が見えない現在、それらにより経済は大きく影響を受け続けています。まん延防止等重点措置による飲食店の営業制限、外出自粛、現金の特別給付、失業率の増加、経済成長率の急落、そして失業など、まさにあらゆる経済問題が噴出しています。現状では我々は知識を学び、こうした問題に対して一つ一つ冷静に対処してゆくしかありません。よって「経済学」を学び、経済問題が生じるメカニズムを考え、理解して、今ある問題を客観的に捉えることができる様に心がけましょう。経済学は、家計や企業の行動を「市場」を通じて扱うミクロ経済学と、一国の経済をどのように分析するかを扱うマクロ経済学に分かれています。本講義では、前者のミクロ経済学を学習します。

本講義では、毎回の講義において、グループワークやディスカッション、問題基盤学習を取り入れます。また、区切りごとに小テストやレポート提出を行います。

授業における学修の到達目標

①経済学の基本的な考え方を身につける

②ニュース等で報じられている経済現象を経済学の知識によって理解し、説明できるようになる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読む	2.0
	授業	本講義のオリエンテーション	
	事後学修	本講義の内容を良く把握する	2.0
2	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	需給分析とは何か？	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
3	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	需要曲線と消費者行動	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
4	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	費用の構造と供給行動	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
5	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	市場取引と資源配分①市場と価格メカニズム・余剰分析	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
6	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	市場取引と資源配分②資源配分のゆがみと「市場競争」の原理	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
7	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	前半講義の復習―「市場」とは何か？	

	事後学修	講義内容の復習	2.0
8	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	独占と競争の理論	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
9	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	市場の失敗①外部効果	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
10	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	市場の失敗②公共財	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
11	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	不確実性と不完全情報①不確実性とは何か	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
12	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	不確実性と不完全情報②不完全情報の経済学	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
13	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	ゲーム理論①囚人のジレンマ・チキンゲーム	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
14	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	ゲーム理論②協調のメカニズム・経済政策・参入阻止行動	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
15	事前学修	前回の復習・講義範囲の復習	2.0
	授業	まとめ	
	事後学修	講義内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークやディスカッション、問題基盤学習については、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□ 定期試験（　%）　■ 小テスト（40%）　■ レポート（40%）　□ 演習課題（　%）
■ その他 [授業への参加意欲：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説、およびレポートに対するコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：入門経済学［第 4 版］, 著者名：伊藤　元重, 出版社：日本評論社, 備考：
参考書・Web サイト	J.スティグリッツ『ミクロ経済学 第 4 版』東洋経済
単位修得が望ましい科目	経済学 II（経済学 I を履修し、次に経済学 II を履修することが望ましい）
備考	特に無し
担当教員の実務経験	高等学校公民科「政治経済」の教師として、30 年以上の長期にわたり、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を行っている。また、公民科科目における検定済み教科書の編纂や教師用指導書の執筆にも携わっている。さらに、日本社会科教育学会や日本公民教育学会において、公民科科目の授業研究や教材開発を行っている。

経済学Ⅱ Economics 2

担当教員	山口 晴敬(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CLS131

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	夏期集中

授業概要

テーマ：現代の諸問題を経済学で読み解く

COVID-19 に対する対策の影響により GDP 成長率が大幅なマイナスに転じたとのニュースがありました。にもかかわらず株価は上昇し、バブル経済と呼ばれた 1980 年代～90 年代の水準にまで近づきました。なぜでしょうか？経済現象は経済内部の事情だけでは無く天災や感染症等、様々な要因に影響を受けます。よって「経済学」だけでは、経済が今後どうなるかを完全に「予測」することはできません。しかし天災や感染症が流行ったとして、これがどのように経済に影響を与えるのか、また影響の結果どのような事態が生じるのかをある程度「説明」することが出来ます。本講義では、ニュース等で見聞きする経済現象がどのようなメカニズムで生じているか、様々な経済問題に対処するためにはどのような方策があるかを考えます。

本講義では、毎回の講義において、グループワークやディスカッション、問題基盤学習を取り入れます。また、区切りごとに小テストやレポート提出を行います。

授業における学修の到達目標

①経済学の基本的な考え方を身につける

②ニュース等で報じられている経済現象を経済学の知識によって理解し、説明できるようになる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読む	2.0
	授業	本講義のオリエンテーション	
	事後学修	本講義の内容を良く把握する	2.0
2	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	需給分析とは何か？	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
3	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	需要曲線と消費者行動	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
4	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	費用の構造と供給行動	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
5	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	市場取引と資源配分①市場と価格メカニズム・余剰分析	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
6	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	市場取引と資源配分②資源配分のゆがみと「市場競争」の原理	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
7	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0

	授業	前半講義の復習ー「市場」とは何か？	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
8	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	独占と競争の理論	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
9	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	市場の失敗①外部効果	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
10	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	市場の失敗②公共財	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
11	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	不確実性と不完全情報①不確実性とは何か	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
12	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	不確実性と不完全情報②不完全情報の経済学	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
13	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	ゲーム理論①囚人のジレンマ・チキンゲーム	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
14	事前学修	前回の復習・教科による予習	2.0
	授業	ゲーム理論②協調のメカニズム・経済政策・参入阻止行動	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
15	事前学修	前回の復習・講義範囲の復習	2.0
	授業	まとめ	
	事後学修	講義内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークやディスカッション、問題基盤学習については、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□ 定期試験（　%）　■ 小テスト（40%）　■ レポート（40%）　□ 演習課題（　%）
■ その他 [授業への参加意欲：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説、およびレポートに対するコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：入門経済学［第 4 版］, 著者名：伊藤　元重, 出版社：日本評論社, 備考：
参考書・Web サイト	J.スティグリッツ『マクロ経済学 第 4 版』東洋経済
単位修得が望ましい科目	経済学 I （経済学 I を履修し、次に経済学 II を履修することが望ましい）
備考	特に無し
担当教員の実務経験	高等学校公民科「政治経済」の教師として、30 年以上の長期にわたり、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を行っている。また、公民科科目における検定済み教科書の編纂や教師用指導書の執筆にも携わっている。さらに、日本社会科教育学会や日本公民教育学

	会において、公民科科目の授業研究や教材開発を行っている。

法学 Law

担当教員	関根 洋(229 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLS132

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

テーマ：法律学に関する基礎的な知識の習得

六法の使い方、条文の構造と読み方から始めて、法律学を専攻しない皆さんが、法律学に関する概括的知識を習得することを目的とします。
民法・商法の履修を考えている皆さんは、この科目を履修することを強く希望します。

授業における学修の到達目標

民法・商法の履修に際して前提となる、法律学に関する基礎的な知識を習得すること。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読んできて下さい	2
	授業	開講に際して(履修上の諸注意)	
	事後学修	ノートを読み直してください 手許の六法が「条件に適ったもの」であるかどうか確認してください	2
2	事前学修	前回の授業時に配布されたプリントを通読	2
	授業	六法の使い方・条文の構造と読み方(プリント配布)	
	事後学修	配布されたプリントを参照しながら(実際に条文の検索を練習して)六法の使用方法に慣熟	2
3	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	紛争と法(教科書第 6 章 1)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
4	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	裁判のしくみ(教科書第 6 章 2)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
5	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	紛争解決方法のいろいろ(教科書第 6 章 3)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
6	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	一般法と特別法(教科書第 7 章 1)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
7	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	判例法(教科書第 7 章 2)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
8	事前学修	教科書の指定個所を通読	2
	授業	法の解釈(教科書第 7 章 3)	

	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
9	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	公法と私法(教科書第 7 章 4)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
10	事前学修	教科書の指定箇所を熟読 前回の授業時に提示された課題について自分の考えをまとめる	2
	授業	民事責任と刑事責任(1) 「民法・刑法」の条文にはどのようなことが書かれているか (教科書第 7 章 5・以下第 14 回授業まで同じ)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
11	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(2) 民事法および刑事法の趣旨・目的	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
12	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(3) 責任の顕れ方	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
13	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(4) 未遂犯	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
14	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(5) 過失の取扱	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
15	事前学修	前回の授業時に提示された「応用問題」「時事問題」について自分の考え方をまとめる	2
	授業	応用問題又は時事問題	
	事後学修	授業ノートと対照しながら、事前学習でまとめた「自分の考え」についてもう一度考えてみる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 100 %　□小テスト：　　%　□レポート：　%　□演習課題：　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験問題・成績について質問・照会に応じます(成績に関する陳情は勿論不可です)。

教科書	書名：ポケット六法　令和 4 年版, 著者名：佐伯仁志　ほか編, 出版社：有斐閣, 備考：
	書名：法の世界へ　第 8 版, 著者名：池田真朗ほか, 出版社：有斐閣, 備考：
参考書・Web サイト	特にありません。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	初回の授業で，履修に関する重要な諸注意を与えます。知らずに不利益を被るおそれがあるので，履修予定者は，初回の授業には必ず出席してください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

社会学 Sociology

担当教員	翁 康健(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLS133

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：社会と個人の関係について考えてみよう

社会学は、これまで社会と個人との関係がどのようなものであるのかを問題にしてきた。この講義では、社会学という学問領域で蓄積されてきた基本的な知識を紹介・解説していくことを通じて、「社会学とは何か」「社会学ではどのようなことが問題とされているのか」「社会学ではどのような方法で社会現象を分析するのか」「その結果、どのような発見ができるのか」といったことについての理解を深めてもらうことを目的とする。

受講生には、社会学の諸概念を知識として理解するだけでなく、社会システムの変化や新しい社会現象に目を向け、それらの現実の問題を考察する手がかりとすることを学んでほしい。そのための材料として、本講では少子高齢化、格差と貧困、ジェンダー、社会福祉など、近年の問題として取り上げられている様々な現象を話題・教材として取り上げる。

授業における学修の到達目標

(1) 社会に対する関心を深め，社会の一員としての自覚をもつ。
(2) 社会学的センスを磨き，現状分析や問題解決の力とする。
(3) 社会学的方法を駆使してレポートを書く力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握すること	2.0
	授業	「社会学」の概観と社会調査	
	事後学修	社会学の中で関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること	2.0
2	事前学修	第 2 回講義資料「人間の行為と相互行為を理解する」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	人間の行為と相互行為を理解する	
	事後学修	人間の行為と相互行為のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること	2.0
3	事前学修	第 3 回講義資料「家族：家族関係の変容」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	家族：家族関係の変容	
	事後学修	家族関係の類型および変容について、講義から理解したことをまとめること	2.0
4	事前学修	第 4 回講義資料「教育：学歴社会と文化的再生産」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	教育：学歴社会と文化的再生産	
	事後学修	社会学の視点から教育を説明してみること	2.0
5	事前学修	第 5 回講義資料「労働：非正規雇用と若者の就職問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	労働：非正規雇用と若者の就職問題	
	事後学修	労働が関わる問題の例を考え、まとめること	2.0
6	事前学修	第 6 回講義資料「階層と階級：格差と社会的排除」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	階層と階級：格差と社会的排除	
	事後学修	階層と階級の相違点を説明してみること	2.0
7	事前学修	第 7 回講義資料「ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0

	授業	ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT	
	事後学修	セクシュアルマイノリティが直面している問題の例を考え、まとめること	2.0
8	事前学修	第 8 回講義資料「政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ	
	事後学修	政治と社会運動のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること	2.0
9	事前学修	第 9 回講義資料「グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ	
	事後学修	グローバル化のメリットとデメリットを考え、まとめること	2.0
10	事前学修	第 10 回講義資料「メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影	
	事後学修	メディア社会のメリットとデメリットを考え、まとめること	2.0
11	事前学修	第 11 回講義資料「宗教：宗教の社会貢献」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	宗教：宗教の社会貢献	
	事後学修	宗教の社会的役割について、講義から理解したことをまとめること	2.0
12	事前学修	第 12 回講義資料「少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護	
	事後学修	少子高齢社会の問題点を、考えてまとめること	2.0
13	事前学修	第 13 回講義資料「社会福祉：医療と社会保障」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	社会福祉：医療と社会保障	
	事後学修	日本の社会福祉の特徴を整理し、まとめること	2.0
14	事前学修	第 14 回講義資料「地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型	
	事後学修	地域社会づくりの設計について、考えてみること	2.0
15	事前学修	Polite の第 15 回講義資料「社会学的なデータの読み解き第 15 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること	2.0
	授業	全体のまとめ	
	事後学修	15 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：60%　　■演習課題(グループワークやディスカッションを含む)：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題を提出後，修正が必要な場合はメールで連絡を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	テキストは指定しない。講義で適宜資料を配布、提示する。 参考書；櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功『アンビシャス社会学』北海道大学出版会，2014 年
単位修得が望ましい科目	日本語表現 II（レポートの書き方），情報の世界（情報収集と分析方法）
備考	なし

担当教員の実務経験	実務経験なし

憲法 Constitution

担当教員	森山 弘二(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLS134

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

＜科目のテーマ＞憲法を通して政府の仕組みや政府がやっていることを理解する。
＜授業の概要＞ 憲法は国の基本法とか根本法とかいわれます。 つまり、 憲法とは、 国家の基本的な仕組みやあり方を定めた法のことです。 現にある国家の仕組みや政治権力の実態そのものが憲法なのではありません。 憲法は法規範の一つですから、 国家政治のあるべき姿を定めた基本的ルールが憲法にほかなりません。
憲法は、 また、 国の最高法ともいわれます。 あらゆる政治権力は憲法に従って行使されなければならないわけですから、 国会や内閣などが作った法よりも憲法は強い力をもっていなければならないことはいわば当然のことです。 それでは、 なぜ、 われわれはこうした憲法を必要としたのでしょうか。 なぜ、 われわれの祖先は、 民主的に成立した国会や内閣の権力さえ拘束する憲法を作り出したのでしょうか。 いくつかの回答が可能だと思いますが、 その答えは講義を楽しみにしていてください。

授業における学修の到達目標

近代憲法の歴史と原理、および日本国憲法の概要を理解することです。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書の該当箇所(教科書の目次と索引をともに参照して下さい)の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	オリエンテーション・憲法の意義と概念	
	事後学修	授業の復習を事項／専門用語を中心にノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
2	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	立憲主義	
	事後学修	授業の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
3	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	近代国家と主権	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
4	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	国民主権	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
5	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	人権尊重主義	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
6	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2

	授業	平和主義	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
7	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	権力分立	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
8	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	法の支配	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
9	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	明治憲法と日本国憲法の成立	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
10	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	人権と個人の尊厳	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
11	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	人権の主体と客体	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
12	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	人権各論	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
13	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	国会と議院内閣制	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
14	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	裁判所と違憲審査制	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
15	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	地方自治と憲法保障	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　%　□小テスト　%　■レポート：100　%　□演習課題：　　%

□その他[　　]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
レポート回収後講評を配信する予定です。	
教科書	書名：憲法･法学講義, 著者名：柏﨑敏義, 出版社：敬文堂, 備考：
参考書・Web サイト	新旧両憲法の条文は最低限必要です。
単位修得が望ましい科目	法学
備考	
担当教員の実務経験	特になし

国際関係論 International Relations

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLS135

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3・4 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3・4 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3・4 年	前期

授業概要

テーマ：日本の国連と近隣諸国外交及び日米同盟について学ぶ

冷戦終結から 20 年以上が過ぎた。

米国の一極支配は揺らぎ,中国の台頭などによる多極化時代を迎えている。

この変動する世界で,平和と繁栄へつながる確かな戦略をどう描き出していくのか。それは国際社会が直面する重要な課題である。

日本が国連加盟した翌年の 1957 年に発行された「外交青書」には,「国連中心」を日本外交の三つの柱の第一として掲げている。二番目が「日米同盟」,三番目が「アジア重視」である。これは日本の外交活動の基調をなすものとして定めた日本外交の三原則である。

本講義では,「国際関係論」の基本的な知識を整理し,用語と映像で「首相談話と戦前日本外交の総括」,「日本の国連外交」,「日本の近隣諸国外交」,「日米同盟の強化」を中心に講義を進めていきたい。

授業における学修の到達目標

「国際関係論」では,首相談話と戦前日本外交の総括,日本の国連外交,近隣諸国外交,日米同盟強化の基礎知識習得を目標としている。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書とシラバスを確認し,授業全体の内容を把握する。	2.0
	授業	ガイダンス,この科目で学習する「国際関係論」関連用語と映像について説明する。 「戦後 70 年首相談話」などの映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「戦後の首相談話」についてまとめる。	2.0
2	事前学修	教材内容を確認し,「満州事変」の関連用語を把握する。	2.0
	授業	「満州事変」の映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「満州事変と戦前の日本外交」についてまとめる。	2.0
3	事前学修	教材内容を確認し,「戦後の日本外交」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「戦後の日本外交」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「戦後の日本外交」についてまとめる。	2.0
4	事前学修	教材内容を確認し,「冷戦下の日本外交」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「冷戦下の日本外交」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「冷戦下の日本外交」についてまとめる。	2.0
5	事前学修	教材内容を確認し,「冷戦終結」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「冷戦終結への道」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「冷戦終結」についてまとめる。	2.0

6	事前学修	教材内容を確認し,「日本の国連外交」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「国連の挑戦」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入すると同時に, グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,「日本の国連外交」についてのクイズ式課題の解答を求める。	
	事後学修	授業内容を復習し,「日本の国連外交」についてまとめる。	2.0
7	事前学修	教材内容を確認し,「日中関係の現状と課題」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「日中国交正常化への道」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「日中関係」についてまとめる。	2.0
8	事前学修	教材内容を確認し,「日韓関係の現状と課題」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「日韓条約交渉の内幕」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「日韓関係」についてまとめる。	2.0
9	事前学修	「1 期」で実施した内容を確認し,中間筆記試験の範囲（関連用語）を把握する。	2.0
	授業	中間筆記試験（関連用語）を実施する。	
	事後学修	中間筆記試験で理解できなかった用語を調べておく。	2.0
10	事前学修	教材内容を確認し,「日ロ関係の現状」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「北方領土交渉」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「日ロ関係の現状」についてまとめる。	2.0
11	事前学修	教材内容を確認し,「日ロ関係の課題」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「北方領土解決の道は？」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入すると同時に,グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,「日ロ関係」についてのクイズ式課題の解答を求める。	
	事後学修	授業内容を復習し,「日ロ関係の課題」についてまとめる。	2.0
12	事前学修	教材内容を確認し,「日米関係の現状」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「沖縄返還の全貌」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「沖縄と米軍基地」についてまとめる。	2.0
13	事前学修	教材内容を確認し,「日米関係の課題」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「日米同盟と日本の国際貢献」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し,「日米同盟と日本の国際貢献」についてまとめる。	2.0
14	事前学修	「日本の国連と近隣諸国外交及び日米同盟強化」関連用語を確認する。	2.0
	授業	「１期・２期」関連用語課題の範囲を確認する。	
	事後学修	「１期・２期」関連用語と映像授業内容をまとめる。	2.0
15	事前学修	「１期・２期」の課題で理解できなかった関連用語を調べておく。	2.0
	授業	「１期・２期」関連用語の課題を解説する。	
	事後学修	「国際関係論」関連用語と映像授業内容をまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■中間筆記試験：30%　■映像授業感想文：30%　■関連用語に関する期末の課題：40%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
「クイズ式課題」実施後の回答解説は講義後半に行う。	
教科書	書名：『用語でわかる国際経済と国際関係』, 著者名：田中英夫, 出版社：丸善プラネット, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	該当なし

線形代数Ⅰ Linear Algebra 1

担当教員	森山 洋一(853 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN136

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：線形代数学の基本的な道具である行列と行列式の概念とその応用

線形代数学は，微分積分学と並び大学教養課程の数学では最も基本的な科目であり，将来の専門科目(コンピューター・グラフィックス，画像処理，オペレーションズ・リサーチ，etc) や自然科学の為の予備知識として必要不可欠の科目です。

線形代数Ⅰにおいては，連立１次方程式を一般的に解く事を応用として，線形代数学の基本的な概念である行列と行列式について学習します。行列は数を長方形の形に並べたものですが，この行列によって連立１次方程式を表現することができます。行列に対しては“階数”や“行列式”といった量が定義できますが，これらの量を調べる事によって連立１次方程式の解の形を知ることができます。このことを具体的な計算によって追求していきます。

なお，用語の概念や計算力を定着させるために，Polite にある Web 演習も併用します。これは授業時間外に，放課後や自宅で宿題として取り組んでもらいます。

授業における学修の到達目標

１．行列の演算（特に，積）に慣れ，数の場合の演算と異なる点を理解する。
２．行列の簡約化の計算をミスなくできるようにし，連立１次方程式の解法や逆行列を求める方法である“掃き出し法”を修得する。さらに，行列の階数と連立１次方程式の解との関係を理解する。
３．２次，３次の行列式の計算法（サラスの方法）を完全に修得する。そして，クラーメルの公式を利用して連立１次方程式を解いたり，余因子行列や逆行列を求められるようにする。
４．行列式を計算することによって何が分かるのか，それを理解する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 Polite から第 1 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	行列の定義と行列についてのいつかの用語をまず，学習する。後半は，行列の和，差，スカラー倍と積について学習する。	
	事後学修	1 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。さらに，学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
2	事前学修	Polite から第 2 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	正方行列と行列の演算法則，数の演算との違いを学習する。	
	事後学修	2 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。さらに，学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
3	事前学修	Polite から第 3 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	連立１次方程式の解法である掃き出し法の概要をまず，学習する。後半は，掃き出し法で必要になる簡約な行列について学習する。	
	事後学修	3 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。さらに，学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
4	事前学修	Polite から第 4 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	掃き出し法の準備として，行列の簡約化と行列の階数について学習する。	

	事後学修	4 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。さらに，学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
5	事前学修	Polite から第 5 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	連立 1 次方程式を掃き出し法で解く方法を学習する。特に，解が存在する場合を重点的に学習する。	
	事後学修	5 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
6	事前学修	第 3 回目から第 5 回目までの内容を復習する。また，6 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	連立 1 次方程式を掃き出し法で解く方法の 2 回目。特に，解が存在しない場合を重点的に学習する。その後，連立 1 次方程式の解と行列の階数との関係を述べた定理を学習し，後半は演習を行う。	
	事後学修	6 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
7	事前学修	Polite から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	逆行列と，逆行列を用いた連立 1 次方程式の解法を学習する。	
	事後学修	7 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
8	事前学修	第 1 回目から第 7 日目までの講義の復習を行う。さらに，Web 課題をもう一度解く。	3.0
	授業	第 7 回までの範囲の試験（中間試験）を行う。	
	事後学修	試験問題を思い出し，解法を確認する。	1.0
9	事前学修	Polite から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	順列の符号についてまず，学習する．その後，行列式の定義を学習し，2 次，3 次の行列式の計算法（サラスの方法）も学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。さらに，学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
10	事前学修	Polite から第 10 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	行列式の基本的な性質について学習する。最後に，それを用いた 4 次の行列式の計算法を学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。さらに，学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
11	事前学修	Polite から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	行列の積の行列式について，まず学習する。さらに行列式の幾何学的な応用も学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
12	事前学修	9 回目から 11 回目までの講義を復習しておく。	2.0
	授業	行列式の計算や応用に関する演習を行う。	
	事後学修	もう一度，9 回目から 11 回目までの講義の内容を復習する。さらに，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
13	事前学修	Polite から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	行列式の余因子展開について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
14	事前学修	Polite から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	余因子行列と逆行列の関係について学習する.	
	事後学修	14 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。さらに，学習した内容の Web 課題を	2.0

		解く。	
15	事前学修	Polite から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	連立 1 次方程式の解の公式である，クラーメルの公式を学習する。	
	事後学修	15 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：60%　■平常点: 40%（小テスト，Web 課題，演習課題，宿題，レポート）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テスト，中間試験や演習のプリントは，採点後返却します。間違った箇所を確認し，修正して再提出してもらいます。

Web 課題については，取り組み状況を Polite に掲示します。

教科書	書名：線形代数入門［第 2 版］, 著者名：森山洋一, 出版社：ムイスリ出版, 備考：
参考書・Web サイト	Polite 上の線形代数 I のページ
単位修得が望ましい科目	基礎数学
備考	☆講義中の板書をメモし，復習用のノートをきちんと作って下さい。 関連科目：線形代数 II，確率・統計 I，確率・統計 II
担当教員の実務経験	実務経験なし

線形代数Ⅱ Linear Algebra 2

担当教員	森山 洋一(853 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN237

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

テーマ：線形代数学の現代的な概念であるベクトル空間と線形写像の概念とその応用

線形代数 II においては，ベクトル空間と線形写像という現代的な概念を学習します。その応用例として，連立 1 次方程式，座標変換や図形の変形などの幾何学的変換を，ベクトル空間と線形写像の立場で表現し直して考えます。

学習を進めて行く上で線形代数 I の知識が必要となりますので，線形代数 I を必ず修得しておいて下さい。なお，用語の概念や計算力を定着させるために，Polite にある Web 演習も併用します。これは授業時間外に，放課後や自宅で宿題として取り組んでもらいます。

線形代数 I，II の講義を通じて，線形現象を記述し解析するという行列や線形写像の役割を認識し，且つそれらを使いこなす事によって，専門分野への応用力が養われる事を期待します。

授業における学修の到達目標

1．数ベクトル空間，部分空間及び基底の概念に慣れ，幾何学的イメージを掴む。
2．ベクトルの内積や外積を図形の計量に応用できるようにする。
3．線形写像と行列の関係（表現行列と基底の変換との関連）を理解し，幾何学的な変換(対称移動や回転移動)に応用できるようにする。
4．固有値，固有ベクトル，行列の対角化の意味を理解し，それらを求めることができるようにする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する. Polite から第 1 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	数ベクトル空間とその部分空間について学習する.	
	事後学修	1 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を解く.	2.0
2	事前学修	Polite から第 2 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	数ベクトルと有向線分の関係，数ベクトル空間と幾何学との関係を学習する.	
	事後学修	2 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を解く.	2.0
3	事前学修	Polite から第 3 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	数ベクトル空間において基本となる「基底」の概念を学習する．そのために 1 次独立の概念も学習する.	
	事後学修	3 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く.	2.0
4	事前学修	Polite から第 4 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	基底の変換と変換行列，座標変換の関係について学習する.	
	事後学修	4 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く.	2.0
5	事前学修	Polite から第 5 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	ベクトルの内積と図形の計量へ応用について学習する.	
	事後学修	5 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を	2.0

		解く.	
6	事前学修	Polite から第 6 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	正規直交基底と直交行列の関係，それらと幾何学の関係について学習する.	
	事後学修	6 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く.	2.0
7	事前学修	Polite から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	ベクトルの外積と図形の計量への応用を学習する.	
	事後学修	7 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を解く.	2.0
8	事前学修	3 回目から 7 回目までの講義の内容を復習する.	3.0
	授業	基底の変換行列，ベクトルの内積・外積に関する試験（中間試験をおこなう）.	
	事後学修	試験問題を思い出し，解法を確認する.	1.0
9	事前学修	Polite から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	線形写像，特に線形変換とその表現行列について学習する.	
	事後学修	9 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く.	2.0
10	事前学修	Polite から第 10 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	線形変換と表現行列と基底の変換との関係について学習する.	
	事後学修	10 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く.	2.0
11	事前学修	Polite から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	直交変換（特に回転移動）とその幾何学への応用について学習する.	
	事後学修	11 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を解く.	2.0
12	事前学修	Polite から第 12 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	合成変換と合成変換の表現行列，その表現行列の行列の積の関係について学習する.	
	事後学修	10 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く.	2.0
13	事前学修	Polite から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	行列の固有値と固有ベクトルとその意味について学習する.	
	事後学修	13 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を解く.	2.0
14	事前学修	Polite から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する.	2.0
	授業	行列の対角化とその応用について学習する.	
	事後学修	14 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を解く.	2.0
15	事前学修	13 回目と 14 回目の講義の内容を復習する.	2.0
	授業	行列の対角化についての演習を行う.	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く．さらに，学習した内容の Web 課題を解く.	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：60% ■平常点：40% （Web 課題，演習課題，宿題，レポート）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

中間試験は，採点後返却します。間違った箇所を確認し，修正して再提出してもらいます。

Web 課題については，取り組み状況を Polite に掲示します。

教科書	書名：線形代数入門［第 2 版］, 著者名：森山洋一, 出版社：ムイスリ出版, 備考：
参考書・Web サイト	Polite の線形代数 II のページ
単位修得が望ましい科目	基礎数学，線形代数 I
備考	☆講義中の板書をメモし，復習用のノートをきちんと作って下さい。 関連科目：確率・統計 I，確率・統計 II
担当教員の実務経験	実務経験なし

関数の基礎 Fundamentals of Functions

担当教員	森山 洋一(853 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN138

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：基本的な 1 変数関数とそのグラフについての学習

ある現象を解析するとき，その現象を記述する関数を考え，その関数を数学的に解析することが最も有効な方法の一つです。つまり，数学的な解析によって現象を解明することが出来るようになります。したがって，関数は数学では必要不可欠の概念です。

この科目では，この関数についての基本的な事項を学習します．特に基本的な，三角関数，逆三角関数，指数関数，対数関数を重点的に学習します。なお，用語の概念や計算力を定着させるために，Polite にある Web 演習も併用します。これは授業時間以外にも，放課後や自宅でも取り組んでもらいます。

なお，内容的には前期の履修科目，基礎数学の内容と重複します。上記の関数の学習が不十分であると感じている学生を対象としています。

授業における学修の到達目標

1. 関数の概念とグラフの概念を理解する。
2. 基本的な関数の定義を覚え，その値を計算できるようにする。
3. 関数がどの様な場面で使用されているのかを理解する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 Polite から第 1 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	実数と集合について学習する。	
	事後学修	1 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
2	事前学修	Polite から第 2 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	写像と関数，グラフについて学習する。	
	事後学修	2 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
3	事前学修	Polite から第 3 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	1 次関数とグラフ（直線）の関係を学習する。	
	事後学修	3 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
4	事前学修	Polite から第 4 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	1 次関数の式の求め方を学習する。	
	事後学修	4 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
5	事前学修	Polite から第 5 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	2 次関数の標準形とそのグラフについて学習する。	
	事後学修	5 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
6	事前学修	Polite から第 6 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	2 次関数の一般形とそのグラフについて学習する。	
	事後学修	6 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0

7	事前学修	Polite から第 7 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	弧度法と度数法の関係について学習する。	
	事後学修	7 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
8	事前学修	Polite から第 8 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	三角比の定義と値について学習する。	
	事後学修	8 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
9	事前学修	Polite から第 9 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	一般角の三角比の定義と三角関数について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
10	事前学修	Polite から第 10 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	三角関数の基本性質と値について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
11	事前学修	Polite から第 11 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	指数の拡張と指数関数について学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
12	事前学修	Polite から第 12 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	指数法則と指数関数の値について学習する。	
	事後学修	12 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
13	事前学修	Polite から第 13 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	対数の定義と値について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
14	事前学修	Polite から第 14 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	対数法則と対数関数について学習する。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
15	事前学修	3 回目～14 回目までの講義内容をレジメやノートを参考にして見直しておく。	3.0
	授業	演習用プリントで，3 回目～14 回目までの内容の総復習を行う。	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。また，宿題も行う。	1.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験 60% ■平常点 40%（小テスト，Web 課題，演習，宿題）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テストや演習のプリントは，採点後返却します。間違った箇所を確認し，修正して再提出してもらいます。宿題も同様。

また，Web 課題の取り組み状況は，一覧表にして Polite に載せます。

教科書	
参考書・Web サイト	Polite の「関数の基礎」のページ
単位修得が望ましい科目	基礎数学
備考	☆講義中の板書をメモし，復習用のノートをきちんと作って下さい。 関連科目：微分積分 I＆II，線形代数 II
担当教員の実務経験	実務経験なし

微分積分Ⅰ Calculus 1

担当教員	笹山 智司(306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN139

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

科目テーマ　解析学の初歩として　関数の解析と概形

17 世紀後半，ニュートンとライプニッツにより発見された微分積分学は，現在解析学の一領域であるが，数学史上最大の発見といわれ，微分積分学の影響をうけていない数学の分野は，ほとんどないとさえいわれています。また，数学の中にとどまらず，他の学問分野（自然科学，人文・社会科学，工学，医学 etc.）への貢献も計り知れないものがあります。

この科目では，その微分積分学の初歩、1 変数関数の微分法とその応用について学習します。最初に，関数の極限を扱い、その極限を利用して、微分係数や導関数を定義します。

微分係数の意味は、曲線の接線に直接関係するので、正しく理解することが大事になります。次に，導関数に関する公式を導き、それらの計算を身につけましょう。最後に微分の応用として，関数のグラフの概形を得たり，関数を多項式で近似する事などを考えます。

授業における学修の到達目標

1． 初等関数（三角関数，指数・対数関数 etc.）の例を通じて，関数の概念に慣れる。
2． 公式を利用して導関数を計算できるようになる。
3． 微分係数の意味を理解し，曲線の接線や関数の極値を求めたり，関数のグラフの概形をかいたりできるようになる。
4． 関数を多項式で近似したり，それによって関数の値を計算したりすることができるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 Polite から第 1 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	数列の極限について学習する。	
	事後学修	1 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
2	事前学修	Polite から第 2 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する.	2.0
	授業	実数と関数の基礎について学習する。	
	事後学修	2 回の目講義の復習をし，授業でやり残した問を解く.	2.0
3	事前学修	Polite から第 3 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	関数の極限と連続性について学習する。	
	事後学修	3 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
4	事前学修	Polite から第 4 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する.	2.0
	授業	微分係数の定義と導関数の定義，及びそれらの意味について学習する。	
	事後学修	4 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
5	事前学修	Polite から第 5 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	導関数の基本公式について学習する。	
	事後学修	5 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
6	事前学修	Polite から第 6 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	三角関数の導関数について学習する。	
	事後学修	6 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0

7	事前学修	Polite から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	指数関数・対数関数の基本的な性質を復習し，これらの関数に関係する極限値について学習する。	
	事後学修	7 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
8	事前学修	Polite から第 8 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	指数関数・対数関数の導関数について学習する。	
	事後学修	8 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
9	事前学修	Polite から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	合成関数の微分法と対数微分法について学習する	
	事後学修	9 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
10	事前学修	第 4 回から第 9 回までの講義内容を，レジメやノートを参照し復習しておく。	2.0
	授業	導関数の計算の演習を行う。	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。 また，宿題を行う。	2.0
11	事前学修	Polite から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する.	2.0
	授業	曲線の接線，及び平均値の定理について学習する	
	事後学修	11 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
12	事前学修	Polite から第 5 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する.	2.0
	授業	関数の増減，極値について学習する。	
	事後学修	12 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
13	事前学修	Polite から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する.	2.0
	授業	関数の最大値・最小値を求める方法について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
14	事前学修	Polite から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する。	2.0
	授業	高次導関数とテイラーの定理について学習する。	
	事後学修	14 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0
15	事前学修	Polite から第 15 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし，内容を確認する.	2.0
	授業	マクローリンの定理と関数の値の近似方法について学習する。	
	事後学修	15 回目の講義の復習をし，授業でやり残した問を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験 60% ■小テスト，演習，宿題・レポートによる平常点 40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テストや演習のプリントは，採点後返却します。間違った箇所を確認し，修正して再提出してもらいます。

教科書	
参考書・Web サイト	Polite の微分積分 I のページ
単位修得が望ましい科目	基礎数学，関数の基礎
備考	☆講義中の板書をメモし，復習用のノートをきちんと作って下さい。 関連科目：微分積分 II，確率・統計 I&II
担当教員の実務経験	実務経験なし

微分積分Ⅰ（教職クラス）Calculus 1

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN139

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期

授業概要

微分法を講義する．微分法と積分法を使い，何らかの解析を行うための学問領域を解析学という．この解析学は Newton，Leibniz らにより始まった道具としての数学である．Newton 達以降 300 年以上経つが，進化し続け，現在でも色あせることなく強力な道具である．本講義では 1 変数の微分法を講義し，道具として使えるようにしたい．微積分の応用の場として，三角関数，指数関数，対数関数などの初等関数の知識は必須である．また微分積分学 II では，積分を講義するが，積分の計算には微分が必要となる事に注意したい．

なお，本講義は教職（数学）免許の取得のための必修科目です．

授業における学修の到達目標

基本的な定義，定理を理解し，実際に微分法を使いグラフの形状、極限、関数展開など様々な計算が出来ることを目標とする．

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	高校で学んだ関数について復習して下さい．	2
	授業	基本的な不等式	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい．	2
2	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい．	2
	授業	極限と実数の連続性について	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい．	2
3	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい．	2
	授業	関数の極限について	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい．	2
4	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい．	2
	授業	微分の定義と計算	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい．	2
5	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい．	2
	授業	微分の計算	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい．	2
6	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい．	2
	授業	合成関数とその微分	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい．	2
7	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい．	2
	授業	演習問題	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい．	2
8	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい．	2
	授業	平均値の定理と関数の増減	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい．	2
9	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい．	2

	授業	コーシーの平均値の定理とロピタルの定理	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
10	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい.	2
	授業	高階導関数	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
11	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい.	2
	授業	2 階微分の符号と関数の凸性	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
12	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい.	2
	授業	グラフ	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
13	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい.	2
	授業	Tylor（テーラー）の定理	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
14	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい.	2
	授業	無限級数展開	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
15	事前学修	前回の講義で行った定理の証明・計算を，度確認して下さい.	2
	授業	漸近展開	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：50%　■小テスト・レポート・演習：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

質問には講義後、研究室で答えます．分からない課題は質問に来て下さい．
またレポート等に関するフィードバックは講義中に適宜与えます。

教科書	書名：, 著者名：松井伸也, 出版社：なし, 備考：POLITE に PDF ファイルをアップします。
参考書・Web サイト	教科書は「1 変数の微分法，松井伸也著」です。Polite に PDF をアップします 松井伸也 著「三角関数・指数関数・対数関数」ムイスリ出版 高木貞治 著「解析概論」岩波書店 宮腰忠 著「高校数学+アルファ」共立出版
単位修得が望ましい科目	数学関係科目全般
備考	微分積分 I（教職）は，教職（数学）をとる学生向けの講義です．他にも微分積分 I の講義が開講されますが，この講義以外では教職（数学）の単位とならないことに注意して下さい．教職を取らない学生も履修可能ですが，内容は高度になります．
担当教員の実務経験	実務経験はありません.

微分積分Ⅱ Calculus 2

担当教員	笹山 智司(306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN240

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

科目テーマ　解析学の初歩　関数から作られる量

微分積分 I では，1 変数関数の微分法について学習しましたが，微分積分 II では，解析学の一領域である 1 変数関数の積分法とその応用について学習します。

まずは，定積分の定義をしっかり覚え，それが，図形の面積の計算と深く結び付いていることを学習します。次に，微分法と積分法が逆の演算であるという微分積分学の根幹をなす定理（微分積分学の基本定理）を学習し，授業の後半は応用として，図形の面積，曲線の長さ，回転体の体積と表面積の計算を考えていきます。

この講義では，微分法での計算の応用を考える事により，積分の計算が簡単にできることを学習しますが，逆に，積分法の計算を微分法の問題（微分方程式）に応用することも可能になります。それらのことを，微分積分 I・II の学習を通じて読み取って欲しい。

授業における学修の到達目標

1．定積分の定義をきちんと覚え，図形の面積との関係を理解する。
2．微分積分学の基本定理の意味を理解し，定積分の計算に応用できる様にする。
3．応用として，曲線の長さや図形の面積，回転体の体積や表面積を求められる様にする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 Polite から第 1 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	微分法の基本的な計算や，基本定理の復習を行う。	
	事後学修	1 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
2	事前学修	Polite から第 2 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	原始関数の定義と基本的な性質について学習する。	
	事後学修	2 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
3	事前学修	Polite から第 3 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	原始関数の計算(置換積分)について学習する。	
	事後学修	3 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
4	事前学修	Polite から第 4 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	原始関数の計算（部分積分)について学習する。	
	事後学修	4 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
5	事前学修	2 回目～4 回目までの講義内容をレジメやノートを参考にして復習しておくこと。	2.0
	授業	プリントを用いて，原始関数の計算の演習を行う。	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。また，宿題も行う。	2.0
6	事前学修	Polite から第 6 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	数列の和と級数について学習する。	
	事後学修	6 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
7	事前学修	Polite から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0

	授業	定積分の定義と性質，積分の平均値の定理について学習する。	
	事後学修	7 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
8	事前学修	Polite から第 8 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	微分積分学の基本定理について学習する。	
	事後学修	8 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
9	事前学修	Polite から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	定積分の計算（置換積分）について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
10	事前学修	Polite から第 10 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	定積分の計算（部分積分）について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
11	事前学修	Polite から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	図形の面積（縦線形の面積）と定積分の関係について学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
12	事前学修	Polite から第 12 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	図形の面積（縦線形の面積）について，計算法を学習する。	
	事後学修	12 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
13	事前学修	Polite から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	パラメータ表示の曲線で囲まれた図形の面積について，計算法を学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
14	事前学修	Polite から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	曲線の長さについて定積分との関係と計算法を学習する。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
15	事前学修	Polite から第 15 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし, 内容を確認する。	2.0
	授業	回転体の体積について定積分との関係と計算法を学習する。	
	事後学修	15 回目の講義を復習し，授業でやり残した演習問題を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験 60% ■平常点 40%（小テスト，演習課題，宿題 ）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テストや演習のプリントは，採点後返却します。間違った箇所を確認し，修正して再提出してもらいます。

教科書	
参考書・Web サイト	Polite の微分積分 II のページ
単位修得が望ましい科目	基礎数学，関数の基礎，微分積分 I
備考	☆講義中の板書をメモし，復習用のノートをきちんと作って下さい。 関連科目：確率・統計 I・II
担当教員の実務経験	実務経験なし

微分積分Ⅱ（教職クラス）Calculus 2

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN240

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期

授業概要

積分を講義する.

定積分（単に積分とよぶ）は何らかの量の総量を計算をするために Newton により導入された手段である。現在では量の計算ばかりでなく，様々な関数の表現（ベッセル関数，画像へのフィルター，フーリエ変換など）にも使われるので，積分に関する知識は学問の幅を広げる手段の一つになり得る。

この講義では，関数 f(x) に対し，そのグラフと x 軸とで囲まれる部分の面積として積分（定積分）を導入する。(dF/dx)(x) = f(x) を満たす原始関数 F(x) と積分との関係（解析学の基本定理）を示すことによって，積分の様々な計算を行う。置換積分・部分積分・部分分数分解などの手法が計算の中心となる。なお計算には微分法の知識は必須である。さらに，積分の応用として 1) 面積の計算，2) 曲線の長さの計算，を取り扱う。なお定積分を学習したことのある学生に注意するが，定積分は決して原始関数（不定積分）の値の差で定義されるものではない。

なお，本科目は教職（数学）の選択必修科目である。教職の科目を選択する学生は，時間割に「微分積分 II（教職）」があるので，そちらを履修すること。その時間は，教職を取らない学生も履修可能だが，内容は高度になるので注意すること。

授業における学修の到達目標

和の極限としての積分の定義を理解し，微分と積分がなぜ関係するかを理解する。さらに置換積分・部分積分・部分分数分解などの手法を使い，定積分の計算が出来ること。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	微分法について，復習して下さい.	2
	授業	和と和の記号	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
2	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	微分の計算	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
3	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	部分分数分解	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
4	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	積分の定義	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
5	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	積分に関する定理	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
6	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	原始関数を使った積分の計算	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
7	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	積分の変数変換	

	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
8	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	積分の変数変換の計算例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
9	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	部分積分	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
10	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	部分積分と漸化式を使った積分計算の例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
11	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	部分分数展開（分解）を利用した積分の計算例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
12	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	根号と三角関数を含んだ分数式の積分例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
13	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	広義積分の定義	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
14	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	広義積分の例	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2
15	事前学修	前回の講義与えた計算をもう一度行い，さらに定理の証明を．理解し直して下さい.	2
	授業	曲線の長さの計算	
	事後学修	講義で与えた課題を行って下さい.	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験 50% ■小テスト，レポート，演習課題 50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

質問には講義後、研究室で答えます．分からない課題は質問に来て下さい.
またレポート等に関するフィードバックは講義中に適宜与えます。

教科書	
参考書・Web サイト	三宅敏恒著，「入門微分積分」培風館 石村 園子 著，「数学入門」共立出版 松井 伸也 著，「三角関数・指数関数・対数関数」ムイスリ出版 岩堀 長慶 著，「微分積分学」，裳華房 宮腰忠 著「高校数学+アルファ」共立出版
単位修得が望ましい科目	微分積分 I
備考	教科書は POLITE にアップします。 微分積分 II（教職）は，教職（数学）をとる学生向けの講義です．他にも微分積分 II の講義が開講されますが，この講義以外では教職（数学）の単位とならないことに注意して下さい．教職を取らない学生も履修可能ですが，内容は高度になります.

担当教員の実務経験	実務経験はありません.

確率・統計Ⅰ Probability and Statistics 1

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN141

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

テーマ：データを分析するための統計学的なものの見方と方法

「ビッグデータ」や「IoT」への関心と共に，複雑な現象をデータに基づいて分析するテクノロジーの基礎となる確率や統計の考え方への関心が高まりました。本講義では，計測や調査によって取得された観測データの情報を分析するための基本的な技術を習得すると共に，その背景となる統計学的,確率論的なものの見方について学びます。

授業における学修の到達目標

1. 統計的なものの見方や方法を理解し，説明できる。
2. 統計的な思考を実践できる。
3. データ分析を通して実際の現象を評価できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する ポライトから学習用資料をダウンロードし,内容を確認する 1 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	データの集計法について学習する	
	事後学修	1 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する 2 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	平均の考え方について学習する	
	事後学修	1 回目講義の宿題の解答をポライトで確認,2 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
3	事前学修	2 回目講義の宿題を教員へ提出する 3 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	分散と標準偏差の考え方について学習する	
	事後学修	2 回目講義の宿題の解答をポライトで確認,3 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する 4 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	分布の代表値について学習する	
	事後学修	3 回目講義の宿題の解答をポライトで確認,4 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する 5 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	偏差値の考え方について学習する	
	事後学修	4 回目講義の宿題の解答をポライトで確認,5 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし,内容を確認する 6 回目で学習する内容を確認する	2.0

	授業	散布図に基づく相関関係の見方について学習する	
	事後学修	5 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 6 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する 7 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	共分散の考え方と定義について学習する	
	事後学修	6 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 7 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する 8 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	相関係数の考え方と定義について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 8 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する 9 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	偽相関と偏相関係数について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 9 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する 10 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	相関関係と因果関係の違いについて学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 10 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する 11 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	回帰直線を推定する方法について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 11 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する 12 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	回帰直線の推定方法について実習を行う	
	事後学修	11 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 12 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する 13 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	R 言語システムを用いてデータを集計, 可視化する技術を学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 13 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する 14 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	R 言語システムを用いた散布図の作成, および相関係数の計算方法について学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 14 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する 15 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	R 言語システムを用いた回帰分析の方法について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 15 回目講義の宿題(問)を解き, ポライトで確認する	2.0
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 試験 60%　■ 平常点(40%，レポート・小テスト等で評価)	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
レポート課題は, 解決のヒントを学習ポータル（POLITE）にアップしますので, 確認しながら学習を進めてください。解決方法がどうしてもわからない場合には, 教員に相談してください。	
教科書	書名：データサイエンス演習, 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	Polite の確率・統計 I のページ
単位修得が望ましい科目	微分積分 I，微分積分 II，線形代数 I，線形代数 II
備考	教職（教科：数学）選択必修科目。電卓(平方根の計算機能をもつもの)を使用しますので, 用意して下さい。 COVID-19 の状況によって, 遠隔学習の形で実施されることがあります。
担当教員の実務経験	企業の研究所において, データ科学に基づく投資の技術開発に携わってきた。本講義で扱う内容は, データ科学の方法を学ぶための数学的な基礎となる。統計学そのものを学術的な観点から紹介することと併せて, 企業の技術開発の中で, 統計の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介したい。

確率・統計Ⅱ Probability and Statistics 2

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN142

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

テーマ：確率論に基づくものの見方と現象分析への応用

「確率・統計Ⅰ」で学んだ統計学的方法の背景について, 確率論の観点から学びます。また, 確率的な考え方を実際の現象のリスク評価へ応用するための考え方についても紹介します。具体的には, 確率の基本概念, 確率分布や期待値, 分散をはじめとする確率論の諸概念について学ぶと共に, 実現象の解析も体験しながらその理解を深めます。

授業における学修の到達目標

1. 確率に関する考え方を数学的に理解し，説明することができる。
2. 様々な確率分布の特性を知り，実現象の評価に応用することができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する ポライトから学習用資料ををダウンロードし, 内容を確認する	2.0
	授業	確率の定義について学習する	
	事後学修	1 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する 2 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	条件付き確率の考え方について学習する	
	事後学修	1 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 2 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
3	事前学修	1 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 2 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
	授業	ベイズの定理の考え方とその応用について学習する	
	事後学修	2 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 3 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する 4 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	独立性について学習する	
	事後学修	3 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 4 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する 5 回目で学習する内容を確認する ポライトから学習用資料ををダウンロードし, 内容を確認する	2.0
	授業	確率変数と 1 次元確率分布の考え方について学習する	
	事後学修	4 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 5 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する 6 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	様々な離散的確率分布について学習する	
	事後学修	5 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 6 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する	2.0

		7 回目で学習する内容を確認する	
	授業	様々な連続的確率分布について学習する	
	事後学修	6 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 7 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する 8 回目で学習する内容を確認する ポライトから学習用資料ををダウンロードし, 内容を確認する	2.0
	授業	確率変数の期待値について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 8 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する 9 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	期待値に関する数学的諸性質について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 9 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する 10 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	確率変数の分散について学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 10 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する 11 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	分散に関する数学的性質について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 11 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する 12 回目で学習する内容を確認する ポライトから学習用資料ををダウンロードし, 内容を確認する	2.0
	授業	2 次元確率分布に関する基本的な考え方について学習する	
	事後学修	11 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 12 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する 13 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	和の確率分布に関する期待値と分散の計算方法を学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 13 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する 14 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	共分散とその数学的性質について学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 14 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する 15 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	相関とその数学的性質について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 15 回目講義の宿題(問)を解き, ポライトで確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 試験 60%　■ 平常点(40%，小テスト・レポート等で評価)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題は, 解決のヒントを学習ポータル（POLITE）にアップしますので, 確認しながら学習を進めてください。解決

方法がどうしてもわからない場合には, 教員に相談してください。	
教科書	書名：データサイエンス演習, 著者名： 甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	Polite の確率・統計 II のページ
単位修得が望ましい科目	確率・統計 I，微分積分 I，微分積分 II，線形代数 I，線形代数 II
備考	教職（教科：数学）選択必修科目。 COVID-19 の状況によって, 遠隔学習の形で実施されることがあります。
担当教員の実務経験	企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資の技術開発に携わってきた。本講義で扱う内容は, データ科学の考え方を考える上での数学的な基礎となる。確率という考え方を学術的観点から紹介することと併せて, 企業の技術開発の中で確率の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介したい。

物理学（医療情報学科　臨床工学専攻以外） Physics

担当教員	穴田 有一(852 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLN143

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：熱力学の法則と分子運動から物質の性質を説明できる

物理学は自然の仕組みを解き明かす一つの切り口にすぎませんが，多くの科学技術の基礎であるだけでなく，様々な学問や私たちの社会に大きな影響を与えています。物理学の知識や考え方は現代人に必要な教養の一つです。この授業のテーマは物質です。運動の法則から出発して物質の性質を考えます。分子の運動と巨視的な物質の性質がどのように関連するか理解してください。このような物理学の分野を熱力学といいます。熱力学の基本法則と資源の有効利用についても触れます。また，熱力学のエントロピーと情報のエントロピーの関係についても説明します。講義を理解するためには基礎的な数学の知識が必要です。必要に応じて講義の中でも数学の復習をしますが，各自自分でも復習してください。

授業の進め方について，毎回の授業の最初に，前回授業の知識定着を確認するための確認テストを行います。このテストは，Web 上で行い，解答直後に個々の学生に採点結果が示されるとともに，クラス全体の結果もヒストグラムで示されるため，学生は自分の理解度とクラスでの相対的な位置づけを確認できます．授業の途中では，ピアインストラクション（解答投票-ディスカッション-解答投票）による理解度の確認を行います．

授業における学修の到達目標

1．運動法則に基づいて分子運動を考え，物質の性質を説明できる。
2．熱機関の原理からエントロピーの意味を理解し，物理学の視点からも環境問題考えることができる。
3．熱力学のエントロピーと情報のエントロピーの関係について説明することができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスをよく読み，授業の趣旨・目的をよく考える。また，物理学が社会へ与えてきた影響について，よく考えておく．	2.0
	授業	この授業の趣旨・目的，授業の進め方，成績評価方法などについて説明する．とくに，授業で行うピアインストラクションについて，説明する．さらに，このあと学習する物質と分子運動を考える基礎として，運動エネルギーと仕事の関係を理解する．	
	事後学修	運動エネルギーと仕事の関係運動エネルギーと仕事の関係につて，教科書の問 6.2 を解いて復習する．	2.0
2	事前学修	教科書の例題 6.1 を学習し，粒子の運動と力学的エネルギーの法則について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	プレテストを実施する． 前回授業内容の確認テストを実施する． 分子運動と運動の法則（1）：容器内で分子 1 個が熱運動しているというモデルに基づいて，分子の分子が容器の壁に及ぼす力について学習する．	
	事後学修	教科書の問 6.3 を学習し，授業内容を復習する．	2.0
3	事前学修	教科書の 6.2 節を学習し，気体の分子運動モデルと気体の圧力について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 分子運動と運動の法則（2）：容器内で多数の分子が熱運動しているというモデルに基づいて，分子が容器の壁に及ぼす力を導く．	

	事後学修	教科書の問 6.4，問 6.5，問 6.6 を学習し，授業内容を復習する．	2.0
4	事前学修	教科書の 6.3 節を学習し，気体の圧力と分子運動について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 気体の分子運動と圧力（1）：気体の圧力と分子運動について学習する．	
	事後学修	教科書の問 6.9，問 6.10，問 6.11 を学習し，授業内容を復習する．	2.0
5	事前学修	教科書の 6.3 節を学習し，熱平衡，気体温度計温度，圧力と体積について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 気体の分子運動と圧力（2）：温度と分子運動について学習する．	
	事後学修	教科書の問 6.12 を学習し，授業内容を復習する．	2.0
6	事前学修	教科書の 6.3 節を学習し，気体の状態方程式について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 気体の状態方程式：理想気体の状態方程式，ファン・デル・ワールスの状態方程式，温度と分子運動について学習する．	
	事後学修	教科書の問 6.13 を学習し，授業内容を復習する．	2.0
7	事前学修	教科書の 7.1 節を学習し，温度と熱，温度と仕事について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 仕事と熱（1）：ジュールの実験を題材として，温度と熱，温度と仕事について学習する．	
	事後学修	教科書の問 7.1，問 7.2 を学習し，授業内容を復習する．	2.0
8	事前学修	教科書の 7.1 節を学習し，熱力学第 1 法則について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 仕事と熱（2）：内部エネルギーと熱力学第 1 法則について学習する．	
	事後学修	配布プリントの問題を学習し，授業内容を復習する．	2.0
9	事前学修	教科書の 7.2 節を学習し，熱機関について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 物質に仕事をさせる（1）：熱機関の原理と熱の浪費について学習する．	
	事後学修	教科書の問 7.5 を学習し，授業内容を復習する．	2.0
10	事前学修	教科書の 7.2 節を学習し，カルノーサイクルについて，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 物質に仕事をさせる（2）：カルノーサイクルについて学習する．	
	事後学修	配布プリントの問題を学習し，授業内容を復習する．	2.0
11	事前学修	教科書の 7.3 節を学習し，熱効率について，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 熱効率と熱力学的温度：熱力学的温度とカルノーサイクルの熱効率について学習する．	
	事後学修	教科書の問 7.6，問 7.7 を学習し，授業内容を復習する．	2.0
12	事前学修	教科書の 7.3 節を学習し，永久機関について調べ，分かることと分からないことを確認しておく．	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する． 永久機関と不可逆変化：第 2 種永久機関と熱力学第 2 法則について学習する．	

	事後学修	身の回りの不可逆現象調べ，熱力学第 2 法則について復習する.	2.0
13	事前学修	教科書の 7.3 節を学習し，エントロピーについて，分かることと分からないことを確認しておく.	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する. 熱機関と環境：エントロピーと自然環境について学習する.	
	事後学修	配布プリントの問題を学習し，自然環境を物理学の視点から考える授業内容について復習する.	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載した分子運動とエントロピーに関する資料を読み，分かることと分からないことを確認しておく.	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する. 分子運動とエントロピー：カルノーサイクルで導入されたエントロピーを分子のレベルから考える.	
	事後学修	POLITE に掲載した資料をもう一度読みかえし，エントロピーについて，授業内容を復習する.	2.0
15	事前学修	POLITE に掲載した情報のエントロピーに関する資料を読み，分かることと分からないことを確認しておく.	2.0
	授業	前回授業内容の確認テストを実施する. 情報のエントロピー：カルノーサイクルで導入されたエントロピーと情報のエントロピーの関係を理解する.	
	事後学修	15 回の授業内容を振り返り，物質とエネルギーおよびエントロピーについて復習する.	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う.
■ 定期試験（60%） ■ 確認テスト（20%） ■ 宿題・小テスト・グループワーク(クイズと話し合い)（20%）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・確認テストの結果：直後に採点結果が表示される.
・宿題：採点したものを翌週に返却する.

教科書	書名：運動と物質 ー 物理学へのアプローチ ー, 著者名：穴田有一, 出版社：共立出版, 備考：
参考書・Web サイト	小暮陽三「身近な教養物理」森北出版株式会社，1988 小出昭一郎「物理学」裳華房，1988 ファインマン，レイトン，サンズ「ファインマン物理学」岩波書店
単位修得が望ましい科目	基礎数学
備考	授業のはじめに POLITE（Moodle）で行う確認テストは，前回授業の復習が目的です．教科書・ノート・プリントなど何を参照してもいいので，よく考えて解答しましょう．また，採点結果はすぐに表示されるので，振り返り文も入力しましょう．確認テストの時間は振り返りも入れて，約 10 分です.
担当教員の実務経験	1981 年から 1982 年にかけて，石油化学企業に勤務し，プロジェクトチームのメンバーとして合成樹脂材料の研究開発に従事しました。自動車部品メーカーに販売することを目的としたゴム状の合成樹脂材料の開発では，ガラス面での低摩擦力を実現するために，物理学研究の基本的方法論にもとづき，様々な摩擦係数をもつ材料を容易に成形するための材料組成をつきとめ，プロジェクトの進行に寄与しました。この実務経験にもとづいて，基礎知識と学問の方法論を学習することの重要性を伝えるとともに，その基礎に裏付けられた自分の考えもち，他者とコミュニケーションを十分にとりながら協調することの重要性を伝えます。

生物学 Biology

担当教員	本間 直幸(119 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN144

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

テーマ：生物の基本的な構造やはたらきを理解し、生物が社会に果たしてきた役割について考察する

生物学は、我々人間をはじめ、地球上の多種多様な生物が織りなす生命活動を理解するうえでの基礎となります。また、「生命」に関わる多くの学問領域の基盤になります。
現在、生物学で得られた知見は、さまざまな技術の進歩と融合し、医療や食糧、そして環境など、現代社会が抱えるさまざまな問題の解決に貢献しています。
「生物学」の講義では、生物を構成する物質から生態系に至るまで、幅広い視野で生物学全体を俯瞰していきながら生物学の進歩による成果や生物機能をヒントに生まれた技術等についても学修していきます。

授業における学修の到達目標

・分子、細胞、組織・器官といった個体を構成する要素から、個体を取り巻く生態系まで、生物のもつ「階層性」を十分に理解したうえで、生物の基本的な性質を学修する
・生命現象を理解するために必要な生物学の共通事項や基礎事項を理解する。
・生物学が果たした社会への貢献について理解する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。	2.0
	授業	生物とは何か：生物の条件（定義）と構造を理解する。	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
2	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生物を構成する物質：生物をつくっている物質にはどのような性質のものがあるか理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
3	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	炭酸同化と窒素同化：生物が生命活動のエネルギーをどのように得ているか理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
4	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	消化・異化：生物が取り入れたエネルギーをどのように使うのか理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
5	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	遺伝子の構造：遺伝情報を伝える物質について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
6	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	遺伝子の発現：遺伝子情報を伝える仕組みについて理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
7	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0

	授業	細胞分裂：細胞分裂のメカニズムについて理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
8	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	遺伝：遺伝の基本的な法則について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
9	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	神経と恒常性の維持：神経の構造と生体内での情報伝達の仕組みについて理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
10	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	ホルモンと恒常性の維持：ホルモンのはたらき等、内分泌系について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
11	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	免疫：高等動物の身の守り方について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
12	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	免疫とアレルギー反応：アレルギー反応について仕組みを理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
13	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生態系：生物間の関係と生態系について理解する。	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
14	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生物の多様性と環境問題：生物にとっての環境の大切さについて理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
15	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生物機能の工学的応用：生物の形態や機能の工学的応用について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 70% ■小テスト： 30% □レポート： % □演習課題： % □その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義中に実施した練習問題は、その都度解説を行います。

教科書	書名：大学生のための考えて学ぶ基礎生物学, 著者名：堂本 光子, 出版社：共立出版, 備考：
参考書・Web サイト	「ヒトを理解するための生物学」八杉 貞雄 著（裳華房） 「ワークブック ヒトの生物学」八杉 貞雄 著（裳華房） 「基礎から学ぶ　生物学・細胞生物学」和田 勝 著（羊土社） 「大学で学ぶ 身近な生物学」吉村 成弘著（羊土社）
単位修得が望ましい科目	なし
備考	講義時には教科書の内容をまとめた資料を配布する。該当する小テストはオンラインで必ず実施すること。
担当教員の実務経験	担当教員は生命科学系研究開発企業の学術部門に所属し、生命科学研究を推進する試薬等の開発支援や技術サポート業務に従事した経験を有する。本授業においてはこうした実務経験

	を生かし、生物学の基礎から生物学の知見が現代社会にどのように貢献してきたのか等について学生が興味を持つように分かりやすく授業を展開していく。

化学 Chemistry

担当教員	高橋 文(130 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN145

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：第 1 部では身の回りの物質や私達のからだを構成する原子の構造や原子の性質や化学反応、酸と塩基物質の三相などの基礎化学を学ぶ。第 2 部では種々の原子や分子、分子の構造や元素の発見と周期表などについて学ぶ。さらに、有機分子化学や色の化学にも触れる。第 3 部では第 1 部で学んだ超臨界流体の応用，結晶構造、およびその応用、創薬化学に触れる。内容は基礎的化学レベルから応用レベルまでの化学を含む。

授業における学修の到達目標

1）基礎的な化学知識の理解とその習得を目標とする。
2）化学の基礎的知識を用いた応用レベルに興味を持ち理解につながることを目標とする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書から以下の項目を読んでおく。「原子」（p2）、「同位体」（p3）について予習する。	2.0
	授業	ガイダンスの実施。事前学習をもとに、「原子構造と性質」の理解と「同位体の性質」「放射性同位体」について理解し，放射能と放射線についても理解を深める。	
	事後学修	教材の復習と理解を深めるために演習問題をする。	2.0
2	事前学修	第 2 回目を予習する。	2.0
	授業	原子構造、原子モデル、原子軌道（p5）や「電子殻」、電子軌道の形について学ぶ。さらに「周期表と元素の性質」（p15）について学ぶ	
	事後学修	学習資料を復習する。理解を深めるために演習問題を行う。	2.0
3	事前学修	第 3 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	「電子親和力」「電気陰性度」（p16）、「化学結合、共有結合」（p17）	
	事後学修	学習資料を復習する。理解を深めるために課題演習問題を復習する。	2.0
4	事前学修	第 4 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	「イオン結合、金属結合、水素結合」（p25）、「分子の立体構造」（p26～）からそれぞれの分子の立体構造と原子価殻電子対反発理論について学ぶ。	
	事後学修	第 4 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために演習問題を行う。	2.0
5	事前学修	第 5 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	「酸と塩基」（p44～）、「物質の三相と相平衡」（p48～）を学ぶ	
	事後学修	第 5 回目の学習資料・課題演習を復習する。	2.0
6	事前学修	第 6 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	周期表：典型元素と遷移元素（p54～）、混成軌道と分子の構造（p58～）、電子の非局在化と芳香族化合物（p62～）、共役二重結合について学ぶ。	
	事後学修	第 6 回目の学習資料・課題演習を復習する。	2.0
7	事前学修	第 7 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	分子間の相互作用と分子の集合：「親水性、親油性、疎水性」（p74～）及び「界面活性剤」（p76～）等について学ぶ。	

	事後学修	第 7 回目の学習資料・課題演習を復習する。	2.0
8	事前学修	第 8 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	有機分子の化学：脂肪族炭化水素化合物（ｐ102～）の構造、命名法、異性体について学ぶ。	
	事後学修	第 8 回目の学習資料・課題演習を復習する。	2.0
9	事前学修	第 9 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	芳香族化合物、有機ハロゲン化物の種類、構造と性質について学ぶ。（ｐ106～）	
	事後学修	第 9 回目の学習資料・課題演習を復習する。	2.0
10	事前学修	これまでの講義内容を振返り、小テストに備える。	2.0
	授業	小テスト実施。有機金属化合物（ｐ113～）の反応について学ぶ。	
	事後学修	第 10 回目の講義内容を予習する。	2.0
11	事前学修	第 11 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	小テストの解説。光と色の化学（ｐ143～）を学ぶ。	
	事後学修	第 11 回目の学習資料・課題演習を復習する。	2.0
12	事前学修	第 12 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	超臨界流体の応用（ｐ156～）、高分子材料（ｐ164～）について学ぶ。	
	事後学修	第 12 回目の学習資料・課題演習を復習する。	2.0
13	事前学修	第 13 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	無機分子化学：金属の結晶構造、共有結合の結晶の構造（ｐ180～）について学ぶ。	
	事後学修	第 13 回目の学習資料・課題演習を復習する。	2.0
14	事前学修	第 14 回目の講義内容を予習する。	2.0
	授業	医薬品の化学（p186～）のおいては創薬化学について学ぶ。	
	事後学修	学習資料を復習する。課題演習問題の復習をし、理解を深める。	2.0
15	事前学修	これまでが授業で行った内容のまとめを確認する	2.0
	授業	これまでのまとめと関連する知識の演習問題を行う。	
	事後学修	講義内容をまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：　50%　■小テスト：　50%　□レポート：0%　□演習課題：　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストを実施し返却時に試験問題について解答解説を行う。

教科書	書名：理工系学生の大学基礎化学, 著者名：設樂隆正・海野雅司共著編, 出版社：培風館, 備考：
参考書・Web サイト	コ・メディカル化学　医療・看護系のための基礎化学　齊藤勝裕ほか　裳華房 化学はこんなに役に立つ　　山崎　昶　著　　裳華房 四訂版サイエンスビュー化学総合資料　実数出版
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	化学合成，天然物質からの化学物質抽出や NMR，液体クロマトグラフィーなどの各種化学機器分析による分子量決定や立体構造解析などの実務に従事した。これらの経験を生かし，われわれの身近な医療技術･健康・食品に利用されている化学知識や技術についてわかりやすく講義する。

健康とスポーツⅠ Health and Sports 1

担当教員	綿谷 貴志(227 研究室), 織田 哲(336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	体育実技	○	CLC146

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

テーマ：スポーツ活動を通して仲間との連携をはかり，協力して技能の習得や課題の達成に向けた取り組みを行う．

現代社会においては日常での健康や体力の維持，増進のために多くの時間や費用，努力を要す。また，平均寿命の伸び，ストレス源の増加など，いっそう生涯スポーツの重要性が増大している．授業では，比較的身近な，かつ，中・高校の体育ではあまり深く触れることのなかった種目を通じて，これらについて若いこの時期に考える機会を持つ．

さらに，スポーツ活動を通じて団体生活を送る上での基本的なルールやマナーの大切さを学び，この種目に主体的に関わっていくことができるようになる事を目指す．講義，および実習中に触れたルールや練習方法，プレイ等についてはノートあるいはレポートの提出を通じて各自の理解度を確認する．

授業における学修の到達目標

ソフトボールは，なじみはあってもルールの詳細や練習方法等については周知されていないことが多い．また，サッカー（フットサル）は広く認知されているスポーツではあるが，団体スポーツでもあることから個人で行うことが難しいという点がある。

そこで本講義では， 受講者全員が相互にコミュニケーションをとり協力しながらルールの理解や技能の向上に努めることに加え，審判やゲーム運営等にも積極的に携われるようになることを目指す．講義ノート，レポートを作成する過程では，この科目で学んだことを系統立てて理解し，説明できるようになる．

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ソフトボールに関する動画を視聴する	0.5
	授業	講義ガイダンス，体力測定（新体力テスト）※シャトルランは除く	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
2	事前学修	指定したソフトボールに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【ソフトボール】 グローブの扱い，キャッチボール，守備の基礎	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
3	事前学修	指定したソフトボールに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【ソフトボール】 ソフトボールの投球動作，バットの扱いについて，ストライクゾーンの理解，投球練習，簡単なバッティング	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
4	事前学修	指定したソフトボールに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【ソフトボール】 ゲーム（1） 最低限のルールやゲームの流れと審判の役割等を知る	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
5	事前学修	指定したソフトボールに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【ソフトボール】	

		ゲーム（2） ルールをより詳しく知る（スローピッチ，ソフトボールルール等）	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
6	事前学修	指定したソフトボールに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【ソフトボール】 ゲーム（3） ルールをより詳しく知る（フォースプレイとランダウンプレイ等）	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
7	事前学修	指定したソフトボールに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【ソフトボール】 ゲーム（4） ルールをより詳しく知る（インフィールドフライ，タッチアップ等）	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
8	事前学修	指定したソフトボールに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【ソフトボール】 ゲーム（5）スコア記録を通じてゲームの流れや個々のプレイを把握する	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
9	事前学修	サッカーの試合動画を視聴する	0.5
	授業	【サッカー】 個人技能（1）パス，ドリブル，ボールコントロール　集団技能（1） 4 対 1、3 対 1 等	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
10	事前学修	指定したサッカーに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【サッカー】 個人技能（2）パス，ドリブル，シュート，1 対 1　集団技能（2）4 対 2，3 対 2 等	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
11	事前学修	指定したサッカーに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【サッカー】 集団技能（3）4 対 4 等のパスゲーム　ゲーム（1）4 対 4 等のミニゲーム(ルールの理解) 等	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
12	事前学修	指定したサッカーに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【サッカー】 集団技能（4）5 対 5 等のパスゲーム　ゲーム（2）5 対 5 等のミニゲーム(ルールの理解) 等	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
13	事前学修	指定したサッカーに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【サッカー】 ゲーム（3）5 対 5 等のミニゲーム，通常ゲーム（攻守の戦術や審判法の理解）等	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
14	事前学修	指定したサッカーに関する用語の意味を調べてくる	0.5
	授業	【サッカー】 ゲーム（4）5 対 5 等のミニゲーム，通常のゲーム(攻守の戦術や審判法の理解) 等	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
15	事前学修	指定したサッカーに関する用語の意味を調べてくる	0.5

	授業	【サッカー】 ゲーム（5）通常のゲーム(攻守の戦術や審判法の理解)，ここまでの授業の総括 等	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5

成績評価の方法およびその基準

・定期試験，追試験，再試験は実施しない．
・次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する．グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う．
□試験：　　%　■小テスト：10%　■レポート：10%　□演習課題：　　%
■その他[ゲーム成績，スコア，および実習への取り組み]: 80%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された課題やレポートに対しては，そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う．

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・公認欠席，特別欠席等は必ず事前の届け出を行うこと． ・受講希望者が過多の場合は人数の調整をおこなうこともある． ・種目実施に十分な人数がいない場合には，他の種目に振り替えて実施する場合がある． ・雨天時などは他の種目を実施する場合がある． ・履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること（ジーンズやチノパンなど，伸縮性の乏しいものはけが予防の観点から受講を許可しない）
担当教員の実務経験	実務経験なし

健康とスポーツⅡ Health and Sports 2

担当教員	綿谷 貴志(227 研究室), 織田 哲(336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	体育実技	○	CLC147

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：スポーツ活動を通して仲間との連携をはかり，協力して技能の習得や課題の達成に向けた取り組みを行う．

現代社会においては日常での健康や体力の維持，増進のために多くの時間や費用、努力を要す。また，平均寿命の伸び，ストレス源の増加など，いっそう生涯スポーツの重要性が増大している．授業では，比較的身近な，かつ，中・高校の体育ではあまり深く触れることのなかった種目を通じて，これらについて若いこの時期に考える機会を持つ．

さらに，スポーツ活動を通じて団体生活を送る上での基本的なルールやマナーの大切さを学び，この種目に主体的に関わっていくことができるようになる事を目指す．講義，および実習中に触れたルールや練習方法，プレイ等についてはノートあるいはレポートの提出を通じて各自の理解度を確認する．

授業における学修の到達目標

バドミントンは，なじみはあってもルールの詳細や練習方法等については周知されていないことが多い．そこで， 受講者全員が相互にコミュニケーションをとり協力しながらルールの理解や技能の向上につとめる．加えて，審判やゲーム運営等にも積極的に携われるようになることを目指す．

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	バドミントンに関する動画を視聴する	0.5
	授業	講義ガイダンス，体力測定（新体力テスト）※シャトルランは除く	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
2	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる.	0.5
	授業	コートの設置，用具の扱い方と基礎的な打球技術(1)	
	事後学修	本日の授業内容を振り返り,気づいたこと学んだことを次回授業に活かせるようにしておいてください	0.5
3	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる.	0.5
	授業	基礎的な打球技術(2)，サービスのルールの理解とサービス練習	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
4	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる.	0.5
	授業	基礎的な打球技術(3)，サービスの練習，ミニゲーム等を通じたルールの理解	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
5	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる.	0.5
	授業	基礎的な打球技術(4)，審判の役割と，得点システムについて	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
6	事前学修	シングルスの試合動画を視聴してくる	0.5
	授業	基礎的な打球技術の組み合わせ，ランキング戦の仕組み，ゲーム (シングルス ランキング戦 1)	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
7	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる.	0.5

	授業	スマッシュ，レシーブの練習．ゲーム (シングルス ランキング戦 2)	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
8	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる．	0.5
	授業	各打球技術の確認，応用．ゲーム (シングルス リーグ戦 1)，リーグ戦の仕組みと表の記入方法	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
9	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる．	0.5
	授業	各打球技術の確認と応用．ゲーム (シングルス リーグ戦 2)	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
10	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる．	0.5
	授業	各打球技術の確認と応用．ゲーム (シングルス リーグ戦 3)	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
11	事前学修	ダブルスの試合動画を視聴してくる	0.5
	授業	ダブルスのルールについて ゲーム (ダブルス リーグ戦 1)	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
12	事前学修	ダブルスの試合動画を視聴してくる	0.5
	授業	ゲーム (ダブルス リーグ戦 2)を通じて互いのコンビネーションを工夫する	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
13	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる．	0.5
	授業	ゲーム (ダブルス リーグ戦 3)	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
14	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる．	0.5
	授業	ゲーム (シングルス リーグ戦 4)	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5
15	事前学修	指定したバドミントンで使用する用語の意味を調べてくる．	0.5
	授業	ゲーム (ダブルス リーグ戦 4)	
	事後学修	講義内容の復習・振り返り	0.5

成績評価の方法およびその基準

・定期試験、追試験、再試験は実施しない．

・次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する．グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う．

□試験：　　%　■小テスト：10%　■レポート：10%　□演習課題：　　%

■その他[ゲーム成績，スコア，および実習への取り組み]: 80%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された課題やレポートに対しては、そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う．

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・公認欠席，特別欠席等は必ず事前の届け出を行うこと． ・受講希望者が過多の場合は人数の調整をおこなうこともある． ・種目実施に十分な人数がいない場合には，他の種目に振り替えて実施する場合がある． ・履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること（ジーンズやチノパンなど，伸縮性の乏しいものはけが予防の観点から受講を許可しない）

担当教員の実務経験	実務経験なし

健康とスポーツⅢ Health and Sports 3

担当教員	綿谷 貴志(227 研究室), 織田 哲(336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	体育実技	○	CLC148

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	夏期集中

授業概要

テーマ：スポーツ活動を通して仲間との連携をはかり，協力して技能の習得や課題の達成に向けた取り組みを行う。

現代社会においては日常での健康や体力の維持，増進のために多くの時間や費用，努力を要す。また，平均寿命の伸び，ストレス源の増加など，いっそう生涯スポーツの重要性が増大している．授業では，比較的身近な，かつ，中・高校の体育ではあまり深く触れることのなかった種目を通じて，これらについて若いこの時期に考える機会を持つ．

さらに，スポーツ活動を通じて団体生活を送る上での基本的なルールやマナーの大切さを学び，この種目に主体的に関わっていくことができるようになる事を目指す．講義，および実習中に触れたルールや練習方法，プレイ等についてはノートあるいはレポートの提出を通じて各自の理解度を確認する．

授業における学修の到達目標

硬式テニスとバドミントンは生涯スポーツを代表するスポーツ種目であるが，そのルールの詳細や練習方法等については周知されていないことが多い．そこで， 受講者全員が相互にコミュニケーションをとり協力しながらルールの理解や技能の向上につとめる．加えて，審判やゲーム運営等にも積極的に携われるようになることを目指す．

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	テニスのルール・マナーを理解しておく．	3.0
	授業	【テニス】 ガイダンス，ルールについての解説	
	事後学修	連続	0.0
2	事前学修	連続	0.0
	授業	【テニス】 用具の扱いについて，得点システムについて	
	事後学修	連続	0.0
3	事前学修	連続	0.0
	授業	【テニス】 テニスコートの理解―基礎的な打球技術の練習	
	事後学修	連続	0.0
4	事前学修	連続	0.0
	授業	【テニス】 基礎的な技術（サーブ，ボレー，フォアハンド，バックハンド）	
	事後学修	連続	0.0
5	事前学修	連続	0.0
	授業	【テニス】 シングルス リーグ戦（1）	
	事後学修	学習内容をまとめて自身の課題を抽出し，その解決方法を考察する．	2.0
6	事前学修	シングルス・ダブルスのルールと特性を理解しておく．	3.0

	授業	【テニス】 シングルス リーグ戦（2）	
	事後学修	連続	0.0
7	事前学修	連続	0.0
	授業	【テニス】 シングルス リーグ戦（3）	
	事後学修	連続	0.0
8	事前学修	連続	0.0
	授業	【テニス】 ダブルス リーグ戦（1）	
	事後学修	連続	0.0
9	事前学修	連続	0.0
	授業	【テニス】 ダブルス リーグ戦（2）	
	事後学修	連続	0.0
10	事前学修	連続	0.0
	授業	【テニス】 ダブルス リーグ戦（3）	
	事後学修	シングルス・ダブルスゲームでのより効果的な戦術，自身のプレー動画を視聴してその技術的課題をまとめる	2.0
11	事前学修	バドミントンに関するルール・マナーを調べる，試合動画を視聴する.	3.0
	授業	【バドミントン】 基礎的な打球技術，審判の役割と得点システム	
	事後学修	連続	0.0
12	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム（1）	
	事後学修	連続	0.0
13	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム（2）	
	事後学修	連続	0.0
14	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム（1）	
	事後学修	連続	0.0
15	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム（2）	
	事後学修	授業全体を通して振り返り，気づいたことや学んだことをまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

・定期試験，追試験，再試験は実施しない.

・次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する．グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う． □試験：　　%　■小テスト：10%　■レポート：10%　□演習課題：　　% ■その他[ゲーム成績，スコア，および実習への取り組み]: 80%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
提出された課題やレポートに対しては，そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う．	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・公認欠席，特別欠席等は必ず事前の届け出を行うこと． ・集中講義として実施するため，講義を遅刻・欠席しないこと． ・施設と用具の関係上，定員を 20 名程度とする ・種目実施に十分な人数がいない場合には，他の種目に振り替えて実施する場合がある． ・履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること
担当教員の実務経験	実務経験なし

健康とスポーツⅣ Health and Sports 4

担当教員	綿谷 貴志(227 研究室), 織田 哲(336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	体育実技	○	CLC149

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	冬期集中

授業概要

テーマ：スポーツ活動を通して仲間との連携をはかり，協力して技能の習得や課題の達成に向けた取り組みを行う。

現代社会においては日常での健康や体力の維持，増進のために多くの時間や費用，努力を要す。また，平均寿命の伸び，ストレス源の増加など，いっそう生涯スポーツの重要性が増大している．授業では，比較的身近な，かつ，中・高校の体育ではあまり深く触れることのなかった種目を通じて，これらについて若いこの時期に考える機会を持つ．

さらに，スポーツ活動を通じて団体生活を送る上での基本的なルールやマナーの大切さを学び，この種目に主体的に関わっていくことができるようになる事を目指す．講義，および実習中に触れたルールや練習方法，プレイ等についてはノートあるいはレポートの提出を通じて各自の理解度を確認する．

授業における学修の到達目標

卓球とバドミントンは，なじみはあってもルールの詳細や練習方法等についてはあまり知られていないことが多い。そこで， 受講者全員が相互にコミュニケーションをとり協力しながらルールの理解や技能の向上につとめる。加えて，審判やゲーム運営等にも積極的に携われるようになることを目指す。講義ノート，レポートを作成する過程では，この科目で学んだことを系統立てて理解し，説明できるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	卓球のルール・マナーを理解しておく	3.0
	授業	【卓球】 ガイダンス，ルールについての解説	
	事後学修	連続	0.0
2	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 用具の扱いについて，得点システムについて	
	事後学修	連続	0.0
3	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 基礎的な打球技術の練習（フォア，バック）	
	事後学修	連続	0.0
4	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 基礎的な技術（サーブ，レシーブ）	
	事後学修	連続	0.0
5	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦（1）	
	事後学修	学習内容をまとめて自身の課題を抽出し，その解決方法を考察する	2.0

6	事前学修	シングルス・ダブルスのルールと特性を理解しておく	3.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦（2）	
	事後学修	連続	0.0
7	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦（3）	
	事後学修	連続	0.0
8	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦（1）	
	事後学修	連続	0.0
9	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦（2）	
	事後学修	連続	0.0
10	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦（3）	
	事後学修	シングルス・ダブルスゲームでのより効果的な戦術，自身のプレー動画を視聴してその技術的課題をまとめる	2.0
11	事前学修	バドミントンに関するルール・マナーを調べる，試合動画を視聴する.	3.0
	授業	【バドミントン】 基礎的な打球技術，審判の役割と得点システム	
	事後学修	連続	0.0
12	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム（1）	
	事後学修	連続	0.0
13	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム（2）	
	事後学修	連続	0.0
14	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム（1）	
	事後学修	連続	0.0
15	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム（2）	
	事後学修	授業全体を通して振り返り，気づいたことや学んだことをまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			

・定期試験，追試験，再試験は実施しない．
・集中講義として実施するため，講義を遅刻・欠席しないこと．
・次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する．グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う．
□試験：　　%　■小テスト：10%　■レポート：10%　□演習課題：　　%
■その他[ゲーム成績，スコア，および実習への取り組み]: 80%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された課題やレポートに対しては，そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う．

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	公認欠席，特別欠席等は事前の届け出を怠らないこと。 実施施設のキャパシティや実習の効率化の都合上，通常授業の定員は 40 名程度とする。受講希望者が定員を上回った場合は抽選をおこなう。 実習には体育館シューズが必要である． これらを含めた具体的な説明や諸注意は，ガイダンス(日時，場所については掲示にて指示をする)にて行うので履修を希望するものは必ず出席すること。
担当教員の実務経験	実務経験なし

海外事情（米国編） Overseas Language and Culture Course (America)

担当教員	サイモン・ソーラ(317研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	演習	○	CLC150

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1・2・3・4年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1・2・3・4年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1・2・3・4年	夏期集中

授業概要

＊＊現在、アメリカと日本の場合、出国か入国にすると検疫が必要です。また、米国行くとコロナ感染される可能性があるので、２０２２年海外事情は中止する可能性があります。その場合、また２０２３年から賦活します。下記は毎年のプログラムです。＊＊

-.

これまで習得した基礎的英語力をさらに実践的な場で運用できるように,英語圏の国アメリカで短期間の集中訓練を実施します。そのためには英語力だけではなく,アメリカの地理や文化に関する背景的な知識も確認しておく必要があります。さらに,アメリカの学生や市民と交流するために,日本の地理・文化などの基礎知識の確認も必要です。

具体的な実施計画は４月に掲示しますが,受講希望者は担当教員の承認を受けた後,通常の履修届の提出期間とは別に,掲示に従って本科目の履修手続きをする必要があります。

アメリカの講義（ポートランド州立大学）で、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションがありますので、頑張ってください！

授業における学修の到達目標

第一の目的は、英語だけの環境に身をおくことにより現時点での自己の英語力を認識し、今後の英語学習の方向性を見つけることです。また第二の目的は、ホームステイ（白人、黒人、ヒスパニック、アジアなど）を通じ英語でコミュニケーションする能力を身につけ、海外旅行に慣れてもらうことを目標としています。

授業計画

回数		授業、事前・事後学修	時間
1	事前学修	1 Read text book 2 Practice self introduction	2
	授業	・Self Introduction ・Ice breaker ・Conversation skills 1 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review self introduction	2
2	事前学修	1 Read text book 2 Practice self introduction	2
	授業	・Talking about yourself ・How to communicate ・Conversation skills 2 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review talking about yourself questions	2
3	事前学修	1 Read text book 2 Practice talking about yourself with host family	2

	授業	・Talking about Japan ・How to communicate non-verbally ・Conversation skills 3 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new non-verbal communication skills	2
4	事前学修	1 Read text book 2 Practice non-verbal skills with host family	2
	授業	・Comparing Japan and America ・How to communicate with gestures ・Conversation skills 4 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new gesture communication skills	2
5	事前学修	1 Read text book 2 Practice gestural communication skills with host family	2
	授業	・Asking how ・How to communicate with gestures ・Conversation skills 5 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new asking how skills	2
6	事前学修	1 Read text book 2 Practice new asking communication skills with host family	2
	授業	・Ordering food and drinks ・How to use verbal cues ・Conversation skills 6 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new verbal cues and how to order skills	2
7	事前学修	1 Read text book 2 Practice new verbal cues and how to order skills with host family	2
	授業	・Start a conversation ・How to use greetings correctly ・Conversation skills 7 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new greetings and starting a conversation skills	2
8	事前学修	1 Read text book 2 Practice new greetings and starting a conversation skills with host family	2
	授業	・Discussing a problem or uncertainty	

		・How to use polite English ・Conversation skills 8 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new discussing a problem and polite English skills	2
9	事前学修	1 Read text book 2 Practice new discussing a problem and polite English skills with host family	2
	授業	・Discussing health ・How to disagree ・Conversation skills 9 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new health discussion and how to disagree skills	2
10	事前学修	1 Read text book 2 Practice new health discussion and how to disagree skills with host family	2
	授業	・Discussing transport ・How to write in cursive script ・Conversation skills 10 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new transport words and cursive writing skills	2
11	事前学修	1 Read text book 2 Practice new transport words and expressions with host family	2
	授業	・Discussing family and friends ・How to make a conversation interesting ・Conversation skills 11 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new family & friends words and making a conversation interesting skills	2
12	事前学修	1 Read text book 2 Practice new making a conversation interesting skills with host family	2
	授業	・Future dreams ・How to express words you don't know ・Conversation skills 12 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new future dreams expressions and how to express words you don't know skills	2
13	事前学修	1 Read text book 2 Practice new future dreams expressions and how to express words you don't know skills with host family	2
	授業	・Lifestyle	

		・How to improve your vocabulary ・Conversation skills 13 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new lifestyle expressions and how to improve your vocabulary skills	2
14	事前学修	1 Read text book 2 Practice new lifestyle expressions and improved vocabulary skills with host family	2
	授業	・What you have learnt ・How to continue improving your English ・Conversation skills 14 ・American Culture class ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review what has been learnt and how to continue improving English skills	2
15	事前学修	1 Read text book 2 Practice ideas learnt in how to continue improving English skills with host family	2
	授業	・Why English is important ・Informal party with host families and teachers ・Summarize conversation skills 15 ・Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review what has been learnt (total course). 2 Practice thank you's and farewell greetings with host family	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
■事前授業 10%、レポート:40%[帰国後に提出となります。] ■その他[現地語学研修機関での成績 40%とする。] 報告会でのプレゼンテーション 10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前授業が終わったら、資料（宿題等）、採点して、返します。
発表会でレポートの点数を教えます。

教科書	
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	頑張って下さい！
備考	Life is an adventure. Be positive!
担当教員の実務経験	なし

海外事情（中国編） Overseas Language and Culture Course (China)

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		CLC151

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1・2・3・4 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1・2・3・4 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1・2・3・4 年	夏期集中

授業概要

テーマ： 南京大学での中国語会話能力の養成と異文化理解の体得

この科目は，実際に学生各自が中国の南京大学における語学研修に参加し，また二日間程度の研修旅行を通して，彼らが実践的な中国語を体得し，かつ現代中国事情と中国文化に対する理解も一層深めることを目的としている。また，学生各自が異文化を理解する能力を向上させると同時に，国際的視野と見識も確実に養成してゆくねらいもある。

本年度も，本学と学術交流協定を結んでいる南京大学で，夏季休暇期間に３週間の中国語研修を実施する予定である。具体的な実施計画案及び参加資格については，４月上旬頃から，学内に掲示するので，参加希望者は，必ず担当教員の正式な承諾を得てから，各自の履修届けを提出すること。

なお，研修の参加者には，人数制限が設けられているので，場合によっては，一部の学生には，当該科目の履修が許可されないこともある。また、中国語研修及び研修旅行の日程などは、様々な事情により、計画が変更される可能性もあるので、十分に注意して欲しい。

授業における学修の到達目標

現地における実践的な中国語の習得及び研修旅行などを通して，学生各自が現代中国事情や中国文化に対する理解を深めてゆくと同時に、彼らの異文化理解能力と国際的視野及び見識なども大いに養成させたい。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	中国語研修の日程や活動などを確認して、教科書を準備すること。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
2	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
3	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
4	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
5	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
6	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
7	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1

	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
8	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
9	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
10	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
11	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
12	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
13	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
14	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1
15	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	1
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	1

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：３０％　■レポート：３０％　■その他（現地での活動状況及び研修態度）：20%

■その他 ［研修中における学生のすべての活動と態度］：20%　引率教員が総合的に成績評価を決定する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生が提出したレポートは、担当教員が評価採点し、必ずコメントを入れて、参加学生に返却する予定である。

教科書	
参考書・Web サイト	辞書は，『プログレッシブ中国語辞典』（小学館）あるいは『クラウン中日辞典』（三省堂）を推薦するが，他の中国語辞典でも構わない。必ず，現地に一冊は持参すること。
単位修得が望ましい科目	中国語ＩＡ,ＩＢ 初修外国語（中国語）ＩＡ,ＩＢ 初修外国語（中国語）ⅡＡ,ⅡＢ
備考	研修で使用する教科書は、南京大学より配付される。
担当教員の実務経験	実務経験は、ありません。

国際コラボレーションA International Collaborative Studies (ICS) A

担当教員	穴田　有一　他(852 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLC152

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1・2・3・4 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1・2・3・4 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1・2・3・4 年	冬期集中

授業概要

テーマ：タイの学生と ICT 作品を共同制作し，グローバル人材としての資質を身につける

この科目は，タイ王国・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校（RMUTT）への短期海外留学を含む国際交流科目です．

履修者は，学内で行われる各種 ICT コンテスト（WEB デザイン，ショートフィルム，コンピュータプログラム）受賞作品の制作者から選抜されます．それらの学内コンテスト受賞作品は本学と RMUTT との国際コンテストへのエントリー作品とされ，優秀な作品は表彰されます．

国際コンテストとは別に，履修者は，学内で事前に行われる講義・演習を受講したのち，本学と RMUTT を会場として行われる一連の作品制作ワークショップに参加します．ワークショップでは，RMUTT の学生とグループをつくり，共同で作品を制作します．履修者選抜の条件などは，以下の備考を参照してください．

この授業は，学生がテーマを考え，グループで ICT 作品を完成させる PBL 形式で行われます．

授業における学修の到達目標

1.ＷＥＢ、ショートフィルムまたはコンピュータプログラミング制作技術を向上させる．
2.グローバルコミュニケーション力を向上させる．
（グローバルコミュニケーション言語は英語とする．）
3.相互の文化を理解する．
4.国際交流により国際的な人間関係を構築する．

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	POLITE3 の事前配布資料と，講義概要をよく読み，授業の内容を把握する．	2.0
	授業	科目の趣旨，タイ王国の地理，歴史，文化，言語． タイ短期留学中の取材場所の調査計画． チーム編成，チームト・トピック検討．	
	事後学修	タイ短期留学中の取材場所を調査する． チーム・トピックを考える．	2.0
2	事前学修	チーム・トピックの説明を準備する． 英語でのバックグラウンド紹介を準備する．	2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 1 （バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン）	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を作成する． タイ短期留学中の取材場所を調査する．	2.0
3	事前学修	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成に着手する．	2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 1 （国際コンテスト用に学内コンテスト受賞作品を英語化する．）	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成． 学内コンテスト受賞作品を英語化する． タイ短期留学中の取材場所を調査する．	2.0
4	事前学修	タイ現地取材の調査結果報告を準備する．	2.0

	授業	海外渡航指導. タイ現地取材の調査結果報告.	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を作成する. 学内コンテスト受賞作品を英語化する.	2.0
5	事前学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを準備する.	2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 2 （英語化した国際コンテスト用作品の英語コンテンツの添削指導を受ける．）	
	事後学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを完成し，作品を提出する. バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成.	2.0
6	事前学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成する.	2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 2 （バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン指導を受ける．）	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を完成させる.	2.0
7	事前学修	バックグラウンド紹介，チーム・トピックのプレゼンを練習する.	2.0
	授業	ワークショップⅠ（タイ・RMUTT） アイスブレイク，英語コミュニケーション指導，バックグラウンド紹介，チーム・トピックのプレゼン，チーム編成.	
	事後学修	チームごとに，チーム内での意思疎通の確認を行う.	2.0
8	事前学修	チームごとに作品制作の方法を検討しておく.	2.0
	授業	ワークショップⅠ（タイ・RMUTT） 講義（グループワークの方法），作品制作の方法検討（チーム単位）.	
	事後学修	作品制作のスケジュールを確認する.	2.0
9	事前学修	作品制作のための現地取材先を確認し，事前調査しておく.	2.0
	授業	ワークショップⅠ（タイ・RMUTT） 在タイ日本企業を訪問し，日本人の海外勤務の実際に触れる. 作品制作のために，現地取材を行う．（RMUTT キャンパス内外，バンコク，アユタヤ等）	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する.	2.0
10	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する.	2.0
	授業	ワークショップⅠ（タイ・RMUTT） チーム単位で作品制作を進める.	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い，チーム間で共有する.	2.0
11	事前学修	ワークショップⅠで制作を進めてきた作品の仕上がりを確認し，ワークショップⅡでのスケジュールを確認する.	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） 作品制作のために，現地取材を行う．（HIU キャンパス内外，札幌市内等）	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する.	2.0
12	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する.	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） チーム単位で作品制作を進める. iCPC は企業でのミニ・インターンシップを行う. RMUTT 学生は，企業見学を行う.	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い，チーム間で共有する.	2.0
13	事前学修	作品制作のスケジュールを確認する.	2.0

	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） チーム単位で作品制作を進める.	
	事後学修	作品報告会の PowerPoint 作成等を行う.	2.0
14	事前学修	作品報告会での英語プレゼンの練習を行う.	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） ワークショップで制作した作品の報告会で，チーム単位で英語でのプレゼンを行う. 国際コンテストの表彰式に参加する.	
	事後学修	ワークショップⅠ・Ⅱ全体を振り返り，総括を行う.	2.0
15	事前学修	学内報告会の準備を行う.	2.0
	授業	ワークショップ作品の学内報告会	
	事後学修	学内報告会の振り返りを行う.	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う.
■レポート：15%　■演習課題・グループワーク：70%
■その他[プレゼンテーション] 15%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・コンテスト応募作品の受賞結果は，表彰式で公表される.
・英文コンテンツ作成，英語プレゼン資料作成などは，提出時に添削指導する.
・ワークショップで制作した作品については，ワークショップ最終日のプレゼンテーションで講評される.

教科書	
参考書・Web サイト	千貫 りこ『デザインの学校 これからはじめる HTML&CSS の本』技術評論社，2012 エビスコム『HTML5 & CSS3 ステップアップブック』ソシム，2012 大藤 幹『よくわかる HTML5+CSS3 の教科書』マイナビ，2012
単位修得が望ましい科目	Web 技術関係科目，映像制作関係科目，プログラミング関係科目，英語科目.
備考	履修者は，学内で行われる WEB デザインコンテスト、ショートフィルムコンテストまたはコンピュータプログラミングコンテスト受賞作品制作者の中から，次の条件を考慮して選抜する．英語科目の成績評価係数*2.3 以上で，かつ全科目の成績評価係数*が 2.3 以上であること．ただし，１年生については，高校までの成績がこれらと同等であることを考慮して選抜する．なお，海外渡航の旅費等の一部は補助するが，現地活動費を含めて費用の一部は自己負担する. ＊学生支援機構が定める成績評価係数．詳細は科目担当者に問い合わせてください.
担当教員の実務経験	安田教授は，企業でデザイナーとして勤務した経験を生かして，ICT 作品制作の指導にあたります. 島田准教授は，企業でクリエーターとして勤務し映像制作を手がけてきた経験を生かして，映像作品制作指導にあたります. 隼田教授は，日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験を生かして，国際的なコミュニケーションの指導に当たります. 棚橋准教授は，ET ロボコン本部技術委員としての経験を生かして，技術指導を行います.

国際コラボレーションB International Collaborative Studies (ICS) B

担当教員	穴田　有一　他(852 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLC253

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1・2・3・4 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1・2・3・4 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1・2・3・4 年	冬期集中

授業概要

テーマ：タイの学生と ICT 作品を共同制作し，グローバル人材としての資質を身につける

この科目は，前年度以前に，国際コラボレーション A を履修した学生を対象とします．ただし，国際コラボレーション A を履修した際の学内コンテスト部門と異なる部門で選抜されなければなりません．なお，2021 年度に国際コラボレーション A を履修した学生については，ワークショップがオンラインで行われたため，国際コラボレーション A を履修した際の学内コンテスト部門と同じ部門で選抜された場合でも，本科目を履修できるものとします．

授業は，国際コラボレーション A と合同で同様な内容で行われますが，国際コラボレーション A の経験を生かして，さらにグローバル人材としての素養を伸ばす発展的な学修を目指して行われます．また，作品制作の分野を広げることにより，ICT 活用の力量を伸ばすことを目指します．

国際コンテストおよびワークショップの作品制作分野は，この科目を履修するために参加した学内コンテストの分野に限られます．例えば，前年度以前に学内 WEB デザインコンテストで選抜されて国際コラボレーション A を履修した学生は，ショートフィルムまたはコンピュータプログラミングの学内コンテストで選抜され，この科目の国際コンテストおよびワークショップでは，今回の学内コンテストで選抜された分野の作品制作を行います．

この授業は，学生がテーマを考え，グループで ICT 作品を完成させる PBL 形式で行われます．

授業における学修の到達目標

1.ＷＥＢ、ショートフィルムまたはコンピュータプログラミング制作技術を向上させる．
2.グローバルコミュニケーション力を向上させる．
（グローバルコミュニケーション言語は英語とする．）
3.相互の文化を理解する．
4.国際交流により国際的な人間関係を構築する．

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	POLITE3 の事前配布資料と，講義概要をよく読み，授業の内容を把握する．	2.0
	授業	科目の趣旨，タイ王国の地理，歴史，文化，言語． タイ短期留学中の取材場所の調査計画． チーム編成，チームト・トピック検討．	
	事後学修	タイ短期留学中の取材場所を調査する． チーム・トピックを考える．	2.0
2	事前学修	チーム・トピックの説明を準備する． 英語でのバックグラウンド紹介を準備する．	2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 1 （バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン）	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を作成する． タイ短期留学中の取材場所を調査する．	2.0
3	事前学修	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成に着手する．	2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 1 （国際コンテスト用に学内コンテスト受賞作品を英語化する．）	

	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成. 学内コンテスト受賞作品を英語化する. タイ短期留学中の取材場所を調査する.	2.0
4	事前学修	タイ現地取材の調査結果報告を準備する.	2.0
	授業	海外渡航指導. タイ現地取材の調査結果報告.	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を作成する. 学内コンテスト受賞作品を英語化する.	2.0
5	事前学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを準備する.	2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 2 （英語化した国際コンテスト用作品の英語コンテンツの添削指導を受ける．）	
	事後学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを完成し，作品を提出する. バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成.	2.0
6	事前学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成する.	2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 2 （バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン指導を受ける．）	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を完成させる.	2.0
7	事前学修	バックグラウンド紹介，チーム・トピックのプレゼンを練習する.	2.0
	授業	ワークショップⅠ（タイ・RMUTT） アイスブレイク，英語コミュニケーション指導，バックグラウンド紹介，チーム・トピックのプレゼン，チーム編成.	
	事後学修	チームごとに，チーム内での意思疎通の確認を行う.	2.0
8	事前学修	チームごとに作品制作の方法を検討しておく.	2.0
	授業	ワークショップⅠ（タイ・RMUTT） 講義（グループワークの方法），作品制作の方法検討（チーム単位）.	
	事後学修	作品制作のスケジュールを確認する.	2.0
9	事前学修	作品制作のための現地取材先を確認し，事前調査しておく.	2.0
	授業	ワークショップⅠ（タイ・RMUTT） 在タイ日本企業を訪問し，日本人の海外勤務の実際に触れる. 作品制作のために，現地取材を行う．（RMUTT キャンパス内外，バンコク，アユタヤ等）	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する.	2.0
10	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する.	2.0
	授業	ワークショップⅠ（タイ・RMUTT） チーム単位で作品制作を進める.	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い，チーム間で共有する.	2.0
11	事前学修	ワークショップⅠで制作を進めてきた作品の仕上がりを確認し，ワークショップⅡでのスケジュールを確認する.	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） 作品制作のために，現地取材を行う．（HIU キャンパス内外，札幌市内等）	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する.	2.0
12	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する.	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） チーム単位で作品制作を進める.	

		iCPC は企業でのミニ・インターンシップを行う. RMUTT 学生は，企業見学を行う.	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い，チーム間で共有する.	2.0
13	事前学修	作品制作のスケジュールを確認する.	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） チーム単位で作品制作を進める.	
	事後学修	作品報告会の PowerPoint 作成等を行う.	2.0
14	事前学修	作品報告会での英語プレゼンの練習を行う.	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） ワークショップで制作した作品の報告会で，チーム単位で英語でのプレゼンを行う. 国際コンテストの表彰式に参加する.	
	事後学修	ワークショップⅠ・Ⅱ全体を振り返り，総括を行う.	2.0
15	事前学修	学内報告会の準備を行う.	2.0
	授業	ワークショップ作品の学内報告会	
	事後学修	学内報告会の振り返りを行う.	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う.
■レポート：15%　■演習課題・グループワーク：70%
■その他[プレゼンテーション] 15%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・コンテスト応募作品の評価は，web 上に表示される.
・英文コンテンツ作成，英語プレゼン資料作成などは，提出時に添削指導する.

教科書	
参考書・Web サイト	千貫 りこ『デザインの学校 これからはじめる HTML&CSS の本』技術評論社，2012 エビスコム『HTML5 & CSS3 ステップアップブック』ソシム，2012 大藤 幹『よくわかる HTML5+CSS3 の教科書』マイナビ，2012
単位修得が望ましい科目	Web 技術関係科目，映像制作関係科目，プログラミング関係科目，英語科目.
備考	履修者は，学内で行われる WEB デザインコンテスト、ショートフィルムコンテストまたはコンピュータプログラミングコンテスト受賞作品制作者の中から，次の条件を考慮して選抜する．英語科目の成績評価係数*2.3 以上で，かつ全科目の成績評価係数*が 2.3 以上であること．ただし，１年生については，高校までの成績がこれらと同等であることを考慮して選抜する．なお，海外渡航の旅費等の一部は補助するが，現地活動費を含めて費用の一部は自己負担する. ＊学生支援機構が定める成績評価係数．詳細は科目担当者に問い合わせてください.
担当教員の実務経験	安田教授は，企業でデザイナーとして勤務した経験を生かして，ICT 作品制作の指導にあたります. 島田准教授は，企業でクリエーターとして勤務し映像制作を手がけてきた経験を生かして，映像作品制作指導にあたります. 隼田教授は，日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験を生かして，国際的なコミュニケーションの指導に当たります. 棚橋准教授は，ET ロボコン本部技術委員としての経験を生かして，技術指導を行います.

海外語学・文化研修（中国大連編） Overseas Language and Culture Course (Dalian China)

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義		CLC157

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1・2・3・4 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1・2・3・4 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1・2・3・4 年	夏期集中

授業概要

テーマ：現代中国の言語と文化及び習慣について学びます。

本学と学士課程学生教育に関する共同プロジェクト実施協定を結んでいる大連東軟信息学院で,夏期休暇期間に 2 週間程度開催される中国語・中国文化研修（「大連東軟信息学院短期留学プログラム」）に参加する授業です。

具体的な実施計画案及び参加資格については,5 月頃から案内します。

なお,当該科目の単位は,現地に行って研修した学生にしか認定しないので,履修届は年度始めではなく,研修が決定した後,指定された期間内に提出することになります。

授業における学修の到達目標

1．大連での実践的な中国語の習得を通じて,日常生活における中国語を理解できる力を養います。

2．大連での異文化体験や研修旅行を通じて,中国の地理や文化に関する基礎知識を習得します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（キャンパス見学と大連市内観光）に参加します。	
	事後学修	第 1 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容（大連市内観光）を復習します。	1.0
2	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と大連現代博物館見学）に参加します。	
	事後学修	第 2 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
3	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と IT 企業見学）に参加します。	
	事後学修	第 3 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
4	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（日露戦争遺跡・旅順見学）に参加します。	
	事後学修	第 4 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
5	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国人社員との交流会）に参加します。	
	事後学修	第 5 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
6	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国人学生との交流会）に参加します。	
	事後学修	第 6 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
7	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国市場の発展現状勉強会）に参加し	

		ます。	
	事後学修	第７回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
8	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と太極拳：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第８回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
9	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と餃子作り：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第９回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
10	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国茶試飲会：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第 10 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
11	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と京劇観賞：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第 11 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
12	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国の若者文化勉強会）に参加します。	
	事後学修	第 12 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
13	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	1.0
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（修了式など）に参加します。	
	事後学修	第 13 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	1.0
14	事前学修	これまでの「大連東軟信息学院短期留学プログラム」内容をまとめます。	1.0
	授業	短期留学報告書（短期留学日記）の整理と提出（帰国後も可）します。	
	事後学修	短期留学報告書提出後,短期留学の成果と課題をまとめます。	1.0
15	事前学修	短期留学中の課題を調べておきます。	1.0
	授業	短期留学報告書（短期留学日記）の評価を行います。	
	事後学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」をまとめます。	1.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。

■現地の研修成績：70%　■レポート（研修日記）：20%　■現地の研修態度（積極性など）：10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート（研修日記など）提出後,修正が必要な場合,メールで連絡します。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験無し

キャリアデザインⅠ Career Design 1

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
椿 達(854 研究室), 木下 弘基(857 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 関根 洋(229 研究室), 竹内 典彦(309 研究室), 別所 正一(118 研究室), 吉村 裕彦(338 研究室), 渡邉 仁(859 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室), 伊藤 茂樹(非常勤), 川﨑 博正(非常勤), 菊池 隆夫(非常勤), 齋藤 眞幸(非常勤), 寺谷 祐一(非常勤), 目黒 芳秀(非常勤), 小田島 数幸(非常勤)	1 単位	講義	○	CLC154

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	2 年	前期

授業概要

テーマ：社会の現実と職業を学ぶ

「キャリアデザイン」とは, 自分の生き方をしっかりと考え, 具体的に進路を設計し, 定めた目標に向かって知識・能力・資質を高めていく主体的な活動の全体のことで, 人生の歩みそのものです。言うまでもないことですが, 人生は他人任せにはできません。自分の人生は常に自分で建設していかなければならないのです。とりわけ大学生活は, 実社会に出てゆく直前の準備期にあり, キャリアデザインが一生の中で最も重要な意味を持つ時期です。

この「キャリアデザインⅠ」では, 働くことや生きることの意味について考えた上で, 社会の現実や職業を学ぶことに重点を置きます。また, 社会人に必要なコミュニケーション能力やモラル、常識を早めに身につけるための学習も行います。

授業は, 本学が開発した「学習適応型 e-Learning システム(POLITE)を利用して行います。また、授業内でディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行います。

授業における学修の到達目標

1.社会の現実や職業について学ぶとともに、自分の将来設計を主体的に進める態度を養う。

2.自分の目標達成に必要な知識, スキル, 資格の重要性を自覚する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	働くことについて考える	0.5
	授業	「働くこと, 生きること」講義:なぜキャリアデザインが大切かを考える 「キャリアデザインⅠ」の目標について	
	事後学修	キャリアについて考える	0.5
2	事前学修	将来自分は何がやりたいか(興味・欲求・願望)について考える	0.5
	授業	「若者のライフスタイル」講義(遠隔授業) 教材・資料は POLITE に掲載する	
	事後学修	プリントを見返して講義内容を確認する 課題テストを受ける	0.5
3	事前学修	課題プリントを仕上げる	0.5
	授業	2 の感想発表と話し合い	

	事後学修	自分のキャリアアンカーについて考える	0.5
4	事前学修	総務省分類の業種について調べる	0.5
	授業	「業種と職種，そして働き方」講義(遠隔授業) 教材・資料は POLITE に掲載する	
	事後学修	プリントを見返して講義内容を確認する 課題テストを受ける　人間らしく働くことを考える	0.5
5	事前学修	課題プリントを仕上げる。履歴書のパーツを作る	0.5
	授業	４の感想発表と話し合い	
	事後学修	履歴書の各欄を埋めるには何をしたら良いか考える	0.5
6	事前学修	普段の生活で挨拶がきちんとできているかどうかを考える	0.5
	授業	コミュニケーション論１　挨拶の重要性	
	事後学修	様々な場面で意識して挨拶をすることを心がける	0.5
7	事前学修	各自、新聞(朝日・毎日・読売・日経・道新)の一つを手元に準備して，紙面の見出しを読む	0.5
	授業	時事問題：新聞を読もう	
	事後学修	生活の一部として新聞を読む時間を作る方法を考える	0.5
8	事前学修	一般教養の知識をどれだけ身につけているか考える	0.5
	授業	一般常識問題に挑戦	
	事後学修	不得意分野を無くす方法(対策)を考える	0.5
9	事前学修	「第４次産業革命」について調べる	0.5
	授業	業界を学ぶ講演会	
	事後学修	これからの産業界の動向を注意して見ていく	0.5
10	事前学修	課題プリントを仕上げる	0.5
	授業	９の感想発表と話し合い	
	事後学修	自分が進みたい業界の動向を調べる	0.5
11	事前学修	自分の進路と関係がある資格にどのようなものがあるか調べる	0.5
	授業	「資格の種類」講義(遠隔授業) 教材は POLITE3 に掲載します	
	事後学修	自分が取るべき資格は何かを考える	0.5
12	事前学修	課題プリントを仕上げる	0.5
	授業	11 の感想発表と話し合い	
	事後学修	資格取得のためのスケジュールを考える	0.5
13	事前学修	図書館で適性試験問題集を見て準備する	0.5
	授業	適性試験に挑戦	
	事後学修	不得意分野をなくす方法(対策)を考える	0.5
14	事前学修	「コミュニケーション力」とは何かを考える	0.5
	授業	コミュニケーション論２「話す力,聞く力」	
	事後学修	「コミュニケーション力」を磨くことを意識する	0.5
15	事前学修	半年間の講義について反芻し，印象深かったものを整理する	0.5
	授業	レポートの作成	
	事後学修	半年間の講義から学んだことを自分のキャリアデザインに生かす	0.5
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。 ■課題：50%　■期末レポート：50%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題について、コメントを入れて返却します。	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	担当教員が資料や体験に基づいて講義の方向づけをしますが, キャリアデザインを進めていくのは皆さん一人ひとりです。常に自分の将来を真剣に考え，この講義を有効に活用してください。 単位修得には課題・期末レポートの提出と授業実施総回数の 2/3 以上の出席が必要です。
担当教員の実務経験	椿・竹内・川崎・菊池・齋藤・目黒・吉村・寺谷・伊藤担当者は, 高校教員の経歴があり, 進路指導を含む生徒指導の経験を生かして授業を行っている。

キャリアデザインⅡ Career Design 2

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
椿 達(854 研究室), 木下 弘基(857 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 関根 洋(229 研究室), 竹内 典彦(309 研究室), 別所 正一(118 研究室), 吉村 裕彦(338 研究室), 渡邉 仁(859 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室), 伊藤 茂樹(非常勤), 川﨑 博正(非常勤), 菊池 隆夫(非常勤), 齋藤 眞幸(非常勤), 寺谷 祐一(非常勤), 目黒 芳秀(非常勤), 小田島 数幸(非常勤)	1 単位	講義	○	CLC255

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	2 年	後期

授業概要

テーマ：自分を見つめ知ることから将来の職業を考える

「キャリアデザインII」は, 主に社会と職業について学んだ「キャリアデザインI」を踏まえ, 今度は自分を見つめ, 知ることに重点を置きます。自分がどんな人間であるかをよく知らずして, 有効なキャリアデザインはできないからです。これまでの自分, 現在の自分を見つめ, 自分の将来像を描いてみることが大切です。家族や知人など身近な人々の生き方からも学びながら, 自分の望む生き方, 自分に合った生き方を具体化するとともに, コミュニケーション能力など社会人に求められる能力を高めるよう努力してください。

講義の後半は, 就職活動の助走期間になります。企業・業界の研究や求人情報の収集, 就職試験対策の勉強など, 少しずつでも動き出す必要があります。先輩などの体験談を参考にして, 自分の将来像を具体化し, 就職活動の計画を立て始めてください。

授業は, 本学が開発した「学習適応型 e-Learning システム(POLITE)を利用して行います。また、授業内でディスカッションを行ったり、プレゼンテーションを行います。

授業における学修の到達目標

1.自分をよく知り, 自分の将来像を具体的に描く。

2.就職活動の準備を早く始め, 計画的に進めることの重要性を自覚する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	本学の「建学の精神」について HP で調べる	0.5
	授業	「キャリアデザインII」の目標と「建学の精神」(遠隔授業) 教材・資料は POLITE3 に掲載する	
	事後学修	本学の創立の経緯・31 年の歴史を理解する	0.5
2	事前学修	働く者に関わる社会保障制度について調べる	0.5
	授業	就労と社会保障」講義(遠隔授業) 教材・資料は POLITE3 に掲載する	
	事後学修	正規雇用と非正規雇用の違いを理解する	0.5
3	事前学修	課題プリントを仕上げる	0.5

	授業	２の感想発表と話し合い	
	事後学修	社会保障制度の重要性を理解する	0.5
4	事前学修	円滑なコミュニケーションのための心構えについて考える	0.5
	授業	コミュニケーション論１「会話の土台」	
	事後学修	コミュニケーションのポイントを理解する	0.5
5	事前学修	高度経済成長から低成長へ移る日本経済の流れを調べる	0.5
	授業	「企業・病院の変化」講義(遠隔授業) 教材・資料は POLITE3 に掲載する	
	事後学修	「メンバーシップ型」社会と「ジョブ型」社会について理解する	0.5
6	事前学修	課題プリントを仕上げる	0.5
	授業	５の感想発表と話し合い	
	事後学修	人口減少社会の中での働き方を考える	0.5
7	事前学修	労働基準法について調べる	0.5
	授業	「働いていて困った時にどうするか――働く者を守る法律・制度」(遠隔授業) 教材・資料は POLITE3 に掲載する	
	事後学修	働く者を守る制度・法律について理解する	0.5
8	事前学修	課題プリントを仕上げる	0.5
	授業	７の感想発表と話し合い	
	事後学修	働いていて困った時の対処方法を理解し身につける	0.5
9	事前学修	POLITE3 に掲載されている「先輩の職場見学」のいくつかを参照する	0.5
	授業	本学卒業生の講話　(遠隔授業) 教材・資料は POLITE3 に掲載する	
	事後学修	先輩の講話から近未来の自分を考える	0.5
10	事前学修	課題プリントを仕上げる	0.5
	授業	９の感想発表と話し合い(対面授業　各教室) ＆「身近な人々の職業と人生についての聞き取り」の説明	
	事後学修	先輩の講話から学んだことをキャリアデザインに生かす 聞き取りの対象者を考える	0.5
11	事前学修	面接試験を受ける自分を想像する	0.5
	授業	コミュニケーション論２「面接の基本」	
	事後学修	面接のポイントを理解する。課題プリントを仕上げる。	0.5
12	事前学修	自分が時事問題(世界・日本の動き)にどのくらい関心を持っているか考える	0.5
	授業	時事問題に挑戦	
	事後学修	日常生活の中で時事問題(世界・日本の動き)をつかむ方法を考える	0.5
13	事前学修	就職試験はどのような順序で行われるか調べる	0.5
	授業	就職活動スケジュールと先輩の体験談(遠隔授業) 教材・資料は POLITE3 に掲載する	
	事後学修	就職戦線への心構えを作る	0.5
14	事前学修	聞き取りをメモし, さらに清書にまとめる	0.5
	授業	「身近な人々の職業と人生についての聞き取り 」の発表	
	事後学修	働いている人のアドバイスを受けとめ, キャリアデザインに生かす	0.5

15	事前学修	自分の数年後を描いてみる	0.5
	授業	レポートの作成	
	事後学修	来年度から開始となる就職戦線へ準備を進める	0.5

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■課題：50%　■期末レポート：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題について、コメントを入れて返却します。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	キャリアデザインⅠ
備考	担当教員が資料や体験に基づいて講義の方向づけをしますが, キャリアデザインを進めていくのは皆さん一人ひとりです。常に自分の将来を真剣に考え, この講義を有効に活用してください。 単位修得には課題の提出と授業実施総回数の 2/3 以上の出席が必要です。
担当教員の実務経験	椿・竹内・川崎・菊池・齋藤・目黒・吉村・寺谷・伊藤担当者は, 高校教員の経歴があり, 進路指導を含む生徒指導の経験を生かして授業を行っている。

キャリアデザインⅢ Career Design 3

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
三浦 洋(221 研究室), 木下 弘基(857 研究室), 栗原 純一(307 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	1 単位	講義		CLC356

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

テーマ：就職試験に備え、SPI 試験の内容を学ぶ

2年次に開講されている「キャリアデザインⅠ・II」に続き，この「キャリアデザイン III」ではより直接的に就職活動に役立つ学習を行う。現在の就職試験においては，面接試験に劣らず筆記試験の成績が就職活動の成否に大きく影響するため，とくにＳＰＩ試験の対策として e-Learning を行うのが「キャリアデザイン III」の趣旨である。

授業は，実習室を教室として e-Learning システム(POLITE)を用い，毎回，言語系，一般常識，非言語系の各分野について解説ビデオで要点を学んだ後，問題を解いてゆく。解答する作業を通じて重要事項を確認するとともに，問題の解き方そのものを学ぶのが狙いである。学習内容の定着を図るため，定期確認テストを実施する。

授業における学修の到達目標

1．ＳＰＩ試験に自信を持って臨めるよう，有効な知識を増やし，思考力を鍛錬する。
2．e-Learning システムを用い，自立した学習者として積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し，授業の全体の内容を把握する	0.5
	授業	授業概要と e-Learning についての説明，プリテスト	
	事後学修	モードの種類など，e-Learning のシステムについて復習する	0.5
2	事前学修	予習モードで同意語，鶴亀算，割合の計算，環境について学ぶ	0.5
	授業	同意語，鶴亀算，割合の計算，環境	
	事後学修	復習モードで同意語，鶴亀算，割合の計算，環境について復習する	0.5
3	事前学修	予習モードで反意語・対立語，損益算，濃度算, 現代社会・生活について学ぶ	0.5
	授業	反意語・対立語，損益算，濃度算, 現代社会・生活	
	事後学修	復習モードで反意語・対立語，損益算，濃度算, 現代社会・生活について復習する	0.5
4	事前学修	予習モードで包含関係，代金の精算，年齢算, 国際について学ぶ	0.5
	授業	包含関係，代金の精算，年齢算, 国際	
	事後学修	復習モードで包含関係，代金の精算，年齢算, 国際について復習する	0.5
5	事前学修	予習モードで役割・行為関係，仕事算，分割払い, 政治について学ぶ	0.5
	授業	第一回定期確認テスト，役割・行為関係，仕事算，分割払い, 政治	
	事後学修	復習モードで役割・行為関係，仕事算，分割払い, 政治について復習する	0.5
6	事前学修	予習モードで原材料関係，通過算，料金の割引, 経済・産業について学ぶ	0.5
	授業	原材料関係，通過算，料金の割引, 経済・産業	
	事後学修	復習モードで原材料関係，通過算，料金の割引, 経済・産業について復習する	0.5

7	事前学修	予習モードで組み･セット物と並列関係，旅人算，流水算, 社会(歴史) について学ぶ	0.5
	授業	組み･セット物と並列関係，旅人算，流水算, 社会(歴史)	
	事後学修	復習モードで組み･セット物と並列関係，旅人算，流水算, 社会(歴史) について復習する	0.5
8	事前学修	予習モードでに語句の意味，場合の数，装置と回路, 社会(地理) ついて学ぶ	0.5
	授業	語句の意味，場合の数，装置と回路, 社会(地理)	
	事後学修	復習モードで語句の意味，場合の数，装置と回路, 社会(地理) について復習する	0.5
9	事前学修	予習モードで敬語，確率，物の流れと比率, 基礎科学 について学ぶ	0.5
	授業	第二回定期確認テスト，敬語，確率，物の流れと比率, 基礎科学	
	事後学修	復習モードで敬語，確率，物の流れと比率, 基礎科学 について復習する	0.5
10	事前学修	予習モードでことわざ・慣用句，推論，PERT 法, 最新科学について学ぶ	0.5
	授業	ことわざ・慣用句，推論，PERT 法, 最新科学	
	事後学修	復習モードでことわざ・慣用句，推論，PERT 法, 最新科学について復習する	0.5
11	事前学修	予習モード四字熟語・故事成語，集合，折り紙, 医療について学ぶ	0.5
	授業	四字熟語・故事成語，集合，折り紙, 医療	
	事後学修	復習モードで四字熟語・故事成語，集合，折り紙, 医療 について復習する	0.5
12	事前学修	予習モードで多義語，数列，暗号, 文学について学ぶ	0.5
	授業	多義語，数列，暗号, 文学	
	事後学修	復習モードで多義語，数列，暗号, 文学について復習する	0.5
13	事前学修	予習モードで語の用法，命題，方角, 芸術について学ぶ	0.5
	授業	第三回定期確認テスト，語の用法，命題，方角, 芸術	
	事後学修	復習モードで語の用法，命題，方角, 芸術について復習する	0.5
14	事前学修	予習モードで文の並び替え，N 進法，虫食い算, 思想について学ぶ	0.5
	授業	文の並び替え，N 進法，虫食い算, 思想	
	事後学修	復習モードで文の並び替え，N 進法，虫食い算, 思想について復習する	0.5
15	事前学修	予習モードで長文読解，不等式と領域，図表の読み取り, キーワードについて学ぶ	0.5
	授業	長文読解，不等式と領域，図表の読み取り, キーワード	
	事後学修	復習モードで長文読解，不等式と領域，図表の読み取り, キーワードについて復習する	0.5

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■定期試験：60%　■定期確認テスト：20%　■各回の問題：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の問題や定期確認テストに関し質問に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし。

日本語Ⅰ（編入生） Japanese 1

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL160

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	2 年	前期

授業概要

テーマ：大学で必要な中級前半の日本語総合力の習得

中級前半の日本語の語彙を学習し、大学生活に必要な日本語の知識と運用能力の獲得を目指す。また、日本語能力試験 N2 の模擬試験も実施する。

テキストの語彙を学ぶとともに、連想に基づいて各自の語彙も増やしていく。語彙の関連性についてグループに分かれてディスカッションを行い、それを通して口頭表現能力、説明能力も培う。

授業における学修の到達目標

1　中級前半レベルの語彙を、意味、用法、コロケーション等、総合的に理解する。

2　日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけ定着させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	これまでの日本語の学習状況について報告できるようにしておく。	2.0
	授業	オリエンテーション、入学前の日本語学習状況の発表、漢字テスト	
	事後学修	漢字テストの復習	2.0
2	事前学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
3	事前学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
4	事前学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
5	事前学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
6	事前学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
7	事前学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙	

		を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
8	事前学修	テレビやラジオでなるべくたくさんの日本語を聞いておく。	2.0
	授業	小テスト、日本語能力試験模擬問題 N2　聴解　解答・解説	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
9	事前学修	前回配布された聴解問題のスクリプトの単語調べ	2.0
	授業	日本語能力試験模擬問題 N2　文字・語彙、文法、読解	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
10	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語の文字に関する DVD 視聴、グループに分かれて DVD 視聴後の所感についてディスカッション	
	事後学修	DVD 視聴後の感想文作成	2.0
11	事前学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
12	事前学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 8 体の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
13	事前学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
14	事前学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
15	事前学修	復習試験範囲の語彙の読み書き、意味、用法の復習	2.0
	授業	復習試験	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
復習試験 40%、小テスト 40%、提出物・授業参加度 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：語彙マップで覚える 漢字と語彙 中級 1500, 著者名：徳弘康代監修・著, 出版社：Ｊリサーチ出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、別途行われる補習に必ず参加すること。日本語

	能力試験 N2 を必ず受験し、合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅰ Japanese 1

担当教員	田中 里実(339 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL160

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期

授業概要

テーマ：大学で必要な中級の日本語総合力の習得

中級の日本語の聴解練習を通して、大学生活に必要な日本語の知識の獲得と運用能力の獲得を目指す。また、日本語能力試験の模擬試験も実施する。

縮約形など話し言葉特有の表現や、アカデミックな場面でのスライドを用いた説明、ノートテイキングなどに慣れる。聞き取った内容についてディスカッションや要約を行い、口頭表現能力、文章表現能力も培う。

授業における学修の到達目標

1　中級レベルの談話を聞き、理解することができる。

2　日本語能力試験 N2 レベルの日本語力をアカデミックな場面で活用することができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	入学前の日本語の学習状況について報告できるようにしておく。	2.0
	授業	オリエンテーション、入学前の日本語学習状況の発表、インタビュー	
	事後学修	シラバス、教科書の確認	2.0
2	事前学修	第１課「富士山」の単語調べ	2.0
	授業	第１課「富士山」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第１課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
3	事前学修	第２課「信号の話」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第２課「信号の話」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第２課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
4	事前学修	第３課「隠れキリシタン」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第３課「隠れキリシタン」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第３課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
5	事前学修	第４課「水族館」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第４課「水族館」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第４課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
6	事前学修	第５課「ゴリラの食事」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第５課「ゴリラの食事」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第５課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
7	事前学修	第６課「東京の温泉」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第６課「東京の温泉」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第６課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
8	事前学修	テレビやラジオでなるべくたくさんの日本語を聞いておく。	2.0
	授業	小テスト、日本語能力試験模擬問題　聴解問題　解答・解説	

	事後学修	前回配布された聴解問題のスクリプトの単語調べ	2.0
9	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語学習についての動画視聴、動画視聴後の所感についてディスカッション	
	事後学修	動画視聴後の感想文作成	2.0
10	事前学修	第７課「失敗学」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第７課「失敗学」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第７課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
11	事前学修	第８課「札幌のお祭り」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第８課「札幌のお祭り」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第８課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
12	事前学修	第９課「津軽三味線」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第９課「津軽三味線」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第９課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
13	事前学修	第１０課「メールの書き方」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第１０課「メールの書き方」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第１０課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
14	事前学修	第１１課「アクセント」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第１１課「アクセント」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第１１課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0
15	事前学修	第１２課「からくり人形」の単語調べ	2.0
	授業	小テスト、第１２課「からくり人形」の話題についてのディスカッション・聴解問題・要約	
	事後学修	第１２課講義中に不正解だった問題をもう一度確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

■小テスト 40%　■提出物・授業参加度 60%
グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解［中級］, 著者名：東京外国語大学留学生日本語教育センター編著, 出版社：スリーエーネットワーク, 備考：
参考書・Web サイト	適宜紹介します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅱ（編入生） Japanese 2

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL161

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

テーマ：中級前半の日本語総合力の習得

中級前半レベルの日本語を、日本語能力試験 N3～N2 に対応した問題を解答していくことによって総合的に身に付ける。

多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、クラスで話し合って解答を導き出していくことによって、自ら考える力を培う。

授業における学修の到達目標

1　日本語力を総合的に向上させ、大学の講義に積極的に参加できる力を養う。
2　日本語能力試験 N3～N2 レベルの日本語力を身につけ定着させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。	2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 1 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 2 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 2 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 3 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 3 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 4 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 4 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 5 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 5 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 6 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 6 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 7 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 7 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 8 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 8 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 9 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 10 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語に関する DVD 視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	DVD の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 11 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 11 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 12 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 12 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 13 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 13 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 14 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 14 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、別途行われる補習に必ず参加すること。日本語能力試験 N2 を必ず受験し、合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅱ Japanese 2

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL161

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

テーマ：中級前半の日本語総合力の習得

中級前半の日本語の語彙を学習し、大学生活に必要な日本語の知識と運用能力の獲得を目指す。また、日本語能力試験 N2 の模擬試験も実施する。

テキストの語彙を学ぶとともに、連想に基づいて各自の語彙も増やしていく。語彙の関連性についてグループに分かれてディスカッションを行い、それを通して口頭表現能力、説明能力も培う。

授業における学修の到達目標

1　中級前半レベルの語彙を、意味、用法、コロケーション等、総合的に理解する。

2　日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけ定着させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	入学前の日本語学習状況について報告できるようにしておく。	2.0
	授業	オリエンテーション、入学前の日本語学習状況の発表、漢字テスト	
	事後学修	漢字テストの復習	2.0
2	事前学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
3	事前学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
4	事前学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
5	事前学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
6	事前学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
7	事前学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ	2.0

	授業	小テスト、テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む	
	事後学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
8	事前学修	テレビやラジオでなるべくたくさんの日本語を聞いておく。	2.0
	授業	小テスト、日本語能力試験模擬問題 N2　聴解　解答・解説	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
9	事前学修	前回配布された聴解問題のスクリプトの単語調べ	2.0
	授業	日本語能力試験模擬問題 N2　文字・語彙、文法、読解	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
10	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語の文字に関する DVD 視聴、グループに分かれて DVD 視聴後の所感についてディスカッション	
	事後学修	DVD 視聴後の感想文作成	2.0
11	事前学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
12	事前学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 8 体の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
13	事前学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
14	事前学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
15	事前学修	復習試験範囲の語彙の読み書き、意味、用法の復習	2.0
	授業	復習試験	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
復習試験 40%、小テスト 40%、提出物・授業参加度 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：語彙マップで覚える 漢字と語彙 中級 1500, 著者名：徳弘康代監修・著, 出版社：J リサーチ出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I

備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、別途行われる補習に必ず参加すること。日本語能力試験 N2 を必ず受験し、合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅲ（編入生） Japanese 3

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL262

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

テーマ：中級後半の日本語総合力の習得

中級後半レベルの日本語を、日本語能力試験 N2 に対応した問題を解答していくことによって総合的に身に付ける。

多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、クラスで話し合って解答を導き出していくことによって、自ら考える力を培う。

授業における学修の到達目標

1　日本語力を総合的に向上させ、大学の講義に積極的に参加できる力を養う。

2　日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけ定着させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	夏休み中の日本語学習状況について報告できるようにしておく。	2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 1 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 2 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 2 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 3 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 3 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 4 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 4 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 5 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 5 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 6 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 6 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 7 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 7 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 8 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	

	事後学修	教材第 8 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 9 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 9 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 10 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語に関する DVD 視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	DVD の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 11 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 11 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 12 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 12 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 13 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 13 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 14 回文字・語彙、文法　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 14 回文字・語彙、文法　問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中に実施しクラス全体で共有する
単位修得が望ましい科目	日本語 I　日本語 II
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、別途行われる補習に必ず参加すること。日本語能力試験 N2 を必ず受験し、合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅲ Japanese 3

担当教員	田中 里実(339 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL262

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

テーマ：上級前半の日本語総合力の習得

上級前半レベルの日本語を、日本語能力試験 N1 に対応した問題を解答していくことによって総合的に身に付ける。

授業における学修の到達目標

1　日本語力を総合的に向上させ、大学の講義に積極的に参加できる力を養う。

2　日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につけ定着させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	夏休み中の日本語学習状況について報告できるようにしておく。	2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 課本文・文法・まとめの問題	
	事後学修	教材第 1 課まとめの問題を復習	2.0
2	事前学修	教材第 2 課本文・文法・まとめの問題　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 2 課本文・文法・まとめの問題　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 2 課まとめの問題を復習	2.0
3	事前学修	教材第 3 課(1)本文・文法・check　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 3 課(1)本文・文法・check　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 3 課(1)check を復習	2.0
4	事前学修	教材第 3 課(2)本文・文法・まとめの問題　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 3 課(2)本文・文法・まとめの問題　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 3 課(2)まとめの問題を復習	2.0
5	事前学修	教材第 4 課(1)本文・文法・check　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 4 課(1)本文・文法・check　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 4 課(1)check を復習	2.0
6	事前学修	教材第 4 課(2)本文・文法・まとめの問題　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 4 課(2)本文・文法・まとめの問題　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 4 課まとめの問題を復習	2.0
7	事前学修	教材第 5 課(1)本文・文法・check　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 5 課(1)本文・文法・check　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 5 課(1)check を復習	2.0
8	事前学修	教材第 5 課(2)本文・文法・check　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 5 課(2)本文・文法・check　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 5 課(2)check を復習	2.0
9	事前学修	教材第 5 課(3)本文・文法・まとめの問題　漢字の読みと意味調べ	2.0

	授業	小テスト、第 5 課(3)本文・文法・まとめの問題　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 5 課まとめの問題を復習	2.0
10	事前学修	教材第 6 課本文・文法・まとめの問題　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 6 課本文・文法・まとめの問題　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 6 課まとめの問題を復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめてくる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語に関する動画視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	動画の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 7 課(1)本文・文法・check　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 7 課(1)本文・文法・check　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 7 課(1)check を復習	2.0
13	事前学修	教材第 7 課(2)本文・文法・まとめの問題　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 7 課(2)本文・文法・まとめの問題　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 7 課(2)まとめの問題を復習	2.0
14	事前学修	教材第 8 課(1)本文・文法・check　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 8 課(1)本文・文法・check　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 8 課(1)check を復習	2.0
15	事前学修	教材第 8 課(2)本文・文法・まとめの問題　漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 8 課(2)本文・文法・まとめの問題　問題解答・解説	
	事後学修	教材第 8 課(2)まとめの問題を復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：TRY！日本語能力試験 N1　文法から伸ばす日本語, 著者名：ABK　公益財団法人　アジア学生文化協会, 出版社：アスク出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I、日本語 II
備考	N2 に合格していない者に対しては、別途課題を課す。
担当教員の実務経験	なし

日本事情 Japanese 4

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLC364

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

テーマ：日本の風俗習慣について学ぶ

日本の社会生活におけるマナーを中心とした風俗習慣に関し、毎回定められたテーマについて、資料や視聴覚教材を通して学ぶ。

毎回講義を通して学んだことを書く課題を課す。

授業における学修の到達目標

1　日本の風俗習慣を学ぶとともに、自国との相違を認識する。

2　ディスカッションを通し、日本語の総合力を向上させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	電話のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	オリエンテーション、電話のかけ方のマナー	
	事後学修	電話のかけ方をまとめたミニレポート作成	2.0
2	事前学修	友人、親戚、会社などを訪問する際の自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	訪問のマナー、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	訪問のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
3	事前学修	食事に関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	食事のマナー、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	食事のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
4	事前学修	飲み会に関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	飲み会のマナー、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	飲み会のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
5	事前学修	結婚式に関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	結婚式のマナー1、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	結婚式のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
6	事前学修	結婚式の際の服装、贈り物、食事、スピーチ等の自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	結婚式のマナー2、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	前回と今回の授業で学んだことについてのミニレポートの作成	2.0
7	事前学修	葬式に関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	葬式のマナー1、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	葬式について、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
8	事前学修	葬式での服装、遺族への対応等、自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	葬式のマナー2、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	前回と今回の授業で学んだことについてのミニレポートの作成	2.0

9	事前学修	宴会、立食パーティーに関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	宴会、立食パーティーのマナー、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	宴会、立食パーティーのマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
10	事前学修	自国の宗教について調べてくる。	2.0
	授業	日本の宗教、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	日本の宗教について講義で学んだことについてのミニレポートの作成	2.0
11	事前学修	敬語の体系についてこれまで学んだことを復習しておく。	2.0
	授業	敬語、敬語に関する知識や所感についてフォーラムでディスカッション	
	事後学修	敬語の問題シートの解答	2.0
12	事前学修	俳句・川柳とは何か、調べてくる。	2.0
	授業	川柳、川柳作成・発表	
	事後学修	当日発表された川柳で最も良いものを選びその理由をまとめてくる。	2.0
13	事前学修	ビジネスに関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	ビジネスマナー、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	ビジネスマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
14	事前学修	見舞いに関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	お見舞い、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	お見舞いのマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
15	事前学修	これまでのテーマに関する自国との比較について考えをまとめておく。	2.0
	授業	まとめのテスト	
	事後学修	テストで解答が不十分だったと考える点を復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■まとめのテスト：40%　■課題：30%　■ 授業参加度：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I、日本語 II、日本語 III
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅳ Japanese 4

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL263

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	2 年	前期

授業概要

テーマ：中級後半～上級の聴解を中心とした日本語力の習得

日本語能力試験 N2 の聴解問題集を解答していくことによって、主に聴解力を向上させる。

多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、自ら調べ、クラスで話し合って解答を導き出していくことによって、思考力を培う。

授業における学修の到達目標

1　聴解力を向上させ、大学の講義を聞き取って理解できる力を養う。

2　日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけ定着させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。	2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語（特に聴解）の学習方法に関するディスカッション、テキスト課題理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト課題理解(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
2	事前学修	テキスト課題理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト課題理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト課題理解(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
3	事前学修	テキストポイント理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキストポイント理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキストポイント理解(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
4	事前学修	テキストポイント理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキストポイント理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキストポイント理解(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
5	事前学修	テキスト概要理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト概要理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト概要理解(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
6	事前学修	テキスト概要理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト概要理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト概要理解(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
7	事前学修	テキスト即時応答(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト即時応答(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト即時応答(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
8	事前学修	テキスト即時応答(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト即時応答(2)問題、意味調べ、音読	

	事後学修	テキスト即時応答(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	テキスト統合理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト統合理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト統合理解(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	テキスト統合理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト統合理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト統合理解(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	テキスト課題理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト課題理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト課題理解(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
12	事前学修	テキストポイント理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキストポイント理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキストポイント理解(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	テキスト概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト概要理解(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	テキスト即時応答(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト即時応答(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト即時応答(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	テキスト概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト概要理解(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験レベルアップトレーニング聴解 N2, 著者名：坂本 勝信/吉原 こずえ, 出版社：アルク, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I、II、III
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、別途行われる補習に必ず参加すること。日本語能力試験 N2 を必ず受験し、合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅳ（編入生） Japanese 4

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL263

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	2 年	前期

授業概要

テーマ：中級後半～上級の聴解を中心とした日本語力の習得

日本語能力試験 N2 の聴解問題集を解答していくことによって、主に聴解力を向上させる。

多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、自ら調べ、クラスで話し合って解答を導き出していくことによって、思考力を培う。

授業における学修の到達目標

1　聴解力を向上させ、大学の講義を聞き取って理解できる力を養う。

2　日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけ定着させる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。	2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語（特に聴解）の学習方法に関するディスカッション、テキスト課題理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト課題理解(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
2	事前学修	テキスト課題理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト課題理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト課題理解(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
3	事前学修	テキストポイント理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキストポイント理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキストポイント理解(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
4	事前学修	テキストポイント理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキストポイント理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキストポイント理解(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
5	事前学修	テキスト概要理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト概要理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト概要理解(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
6	事前学修	テキスト概要理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト概要理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト概要理解(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
7	事前学修	テキスト即時応答(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト即時応答(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト即時応答(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
8	事前学修	テキスト即時応答(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト即時応答(2)問題、意味調べ、音読	

	事後学修	テキスト即時応答(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	テキスト統合理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト統合理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト統合理解(1)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	テキスト統合理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト統合理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト統合理解(2)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	テキスト課題理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト課題理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト課題理解(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
12	事前学修	テキストポイント理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキストポイント理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキストポイント理解(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	テキスト概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト概要理解(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	テキスト即時応答(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト即時応答(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト即時応答(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	テキスト概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、テキスト概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	テキスト概要理解(3)問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験レベルアップトレーニング聴解 N2, 著者名：坂本 勝信/吉原 こずえ, 出版社：アルク, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I、日本語 II、日本語 III
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、別途行われる補習に必ず参加すること。日本語能力試験 N2 を必ず受験し、合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

情報メディア入門Ⅰ Introduction to Information Media 1

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
向田 茂(125 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 辻 順平(223 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 非常勤講師未定()	2 単位	講義	○	IMC108

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期(前半)

授業概要

大学生活を円滑にするための情報環境の整備と，大学生活を豊かにするための意識や知識の修得を行います。
大学生活を有意義に過ごすかどうかは，みなさんの意識と行動しだいです。4 年間の大学生活を有意義なものにするために必要な知識，仕組み，そして意識の持ち方を解説するとともに，グループでディスカッションを行いながら，より具体的な大学生活のイメージを構築していきます。

授業における学修の到達目標

4 年後の自分を想像し，充実した大学生活とするための計画を立てます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	配布された PC にてインターネットへの接続を確認する。	2
	授業	ガイダンス・授業支援ツール（Microsoft）に関する演習	
	事後学修	授業支援ツール(Microsoft)の動作を検証する。	2
2	事前学修	PC を用いたインターネットでの検索機能の使い方を調べる。	2
	授業	授業支援ツール（Google）に関する演習	
	事後学修	授業支援ツール（Google）の動作を検証する。	2
3	事前学修	履修科目を確認する。	2
	授業	POLITE に関する演習	
	事後学修	履修科目の POLITE ページの確認と POLITE の機能を活用する。	2
4	事前学修	コミュニケーションツールについて調べる。	2
	授業	コミュニケーションツールに関する演習	
	事後学修	コミュニケーションツールの動作を検証する。	2
5	事前学修	コミュニケーションツールの利用と効果について調べる。	2
	授業	コミュニケーションツールを用いたディスカッション	
	事後学修	主体的なコミュニケーションツールを利用する。	2
6	事前学修	2021 履修のガイドの学生生活全般に関わる内容を調べる。	2
	授業	大学での学びについて（全体像）	
	事後学修	卒業のために必要な要素について確認し，これからの学生生活についての目標を考える。	2
7	事前学修	2021 履修のガイドの授業に関わる内容を調べる。	2
	授業	大学での学びについて（授業）	
	事後学修	成績や評価の仕組みについて確認する。	2
8	事前学修	プロジェクトについて調べる。	2

	授業	大学での学びについて（プロジェクト）	
	事後学修	課題レポートを作成する。	2
9	事前学修	なし	0
	授業	円滑な学生生活のためのコミュニケーション&ディスカッション	
	事後学修	なし	0
10	事前学修	情報メディア学科の専攻・コースについて調べる。	2
	授業	情報メディア学科の専攻・コースについて	
	事後学修	身につけたい知識や技術について考える。	2
11	事前学修	マインドマップの基本用語と活用法を学ぶ	2
	授業	マインドマップの描き方を学ぶ	
	事後学修	マインドマップを描いてみる（1）	2
12	事前学修	マインドマップを描くときの注意点を考える	2
	授業	マインドマップで情報を整理する	
	事後学修	マインドマップを描いてみる（2）	2
13	事前学修	2021 履修のガイドのカリキュラムに関わる内容を調べる。	2
	授業	自己カリキュラム計画（設計）	
	事後学修	身につけたい知識や技術について見直す。	4
14	事前学修	2021 履修のガイドのカリキュラムに関わる内容を調べる。	2
	授業	自己カリキュラム計画（ディスカッション）	
	事後学修	専攻・コース・カリキュラムの関係を確認する。	2
15	事前学修	2021 履修のガイドのカリキュラムに関わる内容を調べる。	2
	授業	自己カリキュラム計画（制作）	
	事後学修	自己カリキュラム計画に関するレポートを作成する。	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：30%　■演習課題：70%　□その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE のフィードバック機能を用いて提出物の総評を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	2022 履修のガイド
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

情報メディア入門Ⅱ Introduction to Information Media 2

担当教員	向田 茂(125 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 非常勤講師未定(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC109

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	1 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	1 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期(後半)

授業概要

この講義では、今後大学で学びを深めるうえで必要となる基礎知識を身に着けてもらいます。特に、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養にまつわる内容を学んでもらいます。これにより、今後履修することとなる専門科目の内容の理解を支えることを目的にしています。
開講ごとに専門科目担当の教員が登壇し，この講義で学習する基礎知識が，後に選択するコースの内容や，学習する専門科目とどのようにリンクしているのかを解説することにより，卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし，今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進めるための手助けをします。

授業における学修の到達目標

・今後履修する「専門科目」の内容を理解する上で不可欠な基礎知識を学習する。
・卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし，今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進める。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読み，講義の目標と全体スケジュールを把握する	2
	授業	ガイダンス 情報メディア入門Ⅱの趣旨と流れ 専門分野の基礎教養の知識	
	事後学修	情報メディア入門Ⅱの趣旨と流れを理解する	2
2	事前学修	インターネットでメディアアートについて事前に調査する	2
	授業	メディアアートに関連する基礎教養の解説	
	事後学修	メディアアートの具体例などを見てみる。	2
3	事前学修	インターネットで 3DCG について事前に調査する	2
	授業	3DCG に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	3DCG の具体例や応用例などを探してみる。	2
4	事前学修	インターネットでアプリ開発について事前に調査する	2
	授業	アプリ開発に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	アプリ開発の具体例や応用例などを探してみる。	2
5	事前学修	インターネットでグラフィックデザインについて事前に調査する	2
	授業	グラフィックデザインに関連する基礎教養の解説	
	事後学修	グラフィックデザインの具体例や応用例などを探してみる。	2
6	事前学修	インターネットでゲーム開発について事前に調査する	2
	授業	ゲーム開発に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	ゲーム開発の具体例や応用例などを探してみる。	2
7	事前学修	インターネットでアニメーション制作について事前に調査する	2

	授業	アニメーション制作に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	アニメーション制作の具体例や応用例などを探してみる。	2
8	事前学修	映画製作事情について事前に調査する	2
	授業	映画製作事情	
	事後学修	映画製作の具体例を探してみる	2
9	事前学修	インターネットで Web 開発について事前に調査する	2
	授業	Web 開発に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web 開発の具体例や応用例などを探してみる。	2
10	事前学修	インターネットで Web アプリ開発について事前に調査する	2
	授業	Web アプリ開発に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web アプリ開発の具体例や応用例などを探してみる。	2
11	事前学修	インターネットで IoT について事前に調査する	2
	授業	IoT に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	IoT の具体例や応用例などを探してみる。	2
12	事前学修	資格について事前に調査する	2
	授業	資格と大学生について	
	事後学修	自分にあう資格の種類などを調べてみる。	2
13	事前学修	IT パスポート・基本情報について事前に調査する	2
	授業	IT パスポート・基本情報の説明と対策の準備	
	事後学修	IT パスポート・基本情報の対策方法などを他に探してみる。	2
14	事前学修	インターネットで Web デザインについて事前に調査する	2
	授業	Web デザインに関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web デザインの具体例や応用例などを探してみる。	2
15	事前学修	今までの資料を振り返ってみる	2
	授業	情報メディア入門 II の復習・まとめ	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り，今後の履修科目の計画を練る	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験： % □小テスト： % ■レポート： 100% □演習課題： %
□その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ドリル・アプリはその都度，採点され，点数が出る。
レポートで特にフィードバックが必要と思われる場合には，直接呼び出して助言を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要な場合は，開講時に都度案内する。
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	登壇する教員で実務の経験があるものは，解説する基礎教育の中で，自らの実務経験により得た経験や実例を提示し，より具体的な解説を行う。

情報メディア入門Ⅲ Introduction to Information Media 3

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 向田 茂(125 研究室), 非常勤講師未定(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC110

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期(前半)

授業概要

情報メディア学科は、クリエイティブなデザイン力と先進的なテクノロジーを組み合わせ，時代が求める新しいコンテンツを創造し得る人材の育成を目指しています。 この講義では、今後、専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養にまつわる内容を学んでもらいます。これにより、今後履修することとなる専門科目の内容の理解を支えることを目的にしています。開講ごとに専門科目担当の教員が登壇し，この講義で学習する基礎知識が，後に選択するコースの内容や，学習する専門科目とどのようにリンクしているのかを解説することにより，卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし，今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進めるための手助けをします。
今後専門分野を決める上での道標ともなる講義ですので、広い視野で、様々な基礎知識と情報を身につけて、自分のアンテナを広げて下さい。

授業における学修の到達目標

・今後履修する「専門科目」の内容を理解する上で不可欠な基礎知識を学習する。
・卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし，今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進める。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	情報大学のホームページ等で情報メディア学科で専門的に学べる内容について調べる	2.0
	授業	本講義の趣旨や各回の課題の取り組み方、情報メディア学科の特色についてガイダンスする	
	事後学修	情報メディア入門 III の趣旨と流れを理解する	2.0
2	事前学修	VR・AR に関して事前に調査する	2.0
	授業	VR・AR に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	VR・AR の具体例や応用例などを探してみる	2.0
3	事前学修	UI・UX デザインに関して事前に調査する	2.0
	授業	UI・UX デザインに関連する基礎教養の解説	
	事後学修	UI・UX デザインの具体例や応用例などを探してみる	2.0
4	事前学修	大学における海外交流の仕組みについて事前に調査する	2.0
	授業	大学における海外交流の仕組みについて解説	
	事後学修	学んだことを振り返り海外交流について計画を練る	2.0
5	事前学修	インタラクティブシステムに関して事前に調査する	2.0
	授業	インタラクティブシステムに関連する基礎教養の解説	
	事後学修	インタラクティブシステムの具体例や応用例などを探してみる	2.0
6	事前学修	大学院とは何かについて事前に調査する	2.0
	授業	大学院とは何かについて解説	
	事後学修	学んだことを振り返る	2.0
7	事前学修	ウェブ制作について調べる	2.0

	授業	ウェブ制作についての解説	
	事後学修	ウェブ制作についてまとめる	2.0
8	事前学修	情報可視化について事前に調査する	2.0
	授業	情報可視化に関する基礎教養の解説	
	事後学修	情報可視化の具体例や応用例などを探してみる	2.0
9	事前学修	メディアアートについて調べる	2.0
	授業	メディアアートについての解説	
	事後学修	メディアアートについてまとめる	2.0
10	事前学修	メディアプログラミングについて調べる	2.0
	授業	メディアプログラミングについての解説講義	
	事後学修	メディアプログラミングについてまとめる	2.0
11	事前学修	学内イベントにはどのようなものがあるか調べる	2.0
	授業	学内イベントについて解説	
	事後学修	学んだことを振り返る	2.0
12	事前学修	モバイルアプリケーションについて調べる	2.0
	授業	モバイルアプリケーションについての解説	
	事後学修	モバイルアプリケーションについてまとめる	2.0
13	事前学修	インターネットセキュリティについて調べる	2.0
	授業	インターネットセキュリティについての解説	
	事後学修	インターネットセキュリティについてまとめる	2.0
14	事前学修	サウンドデザインについて調べる。	2.0
	授業	サウンドデザインに関する基礎教養の解説	
	事後学修	サウンドデザインについてまとめる	2.0
15	事前学修	今までの資料を振り返ってみる	2.0
	授業	情報メディア入門 III の復習・まとめ	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り，今後の履修科目の計画を練る	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：100%　□演習課題：　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

オムニバス形式のため，教員によってはレポートの返却を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	講義で紹介する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	毎回教員が変わるオムニバス形式の講義となります。
担当教員の実務経験	映像メディア表現と様々な表現分野、情報技術を組み合わせたイベントや展示企画、ワークショップなどの経験が豊富。クリエイティブな視点から幅広く情報メディアを概観し解説する。

情報メディア入門Ⅳ Introduction to Information Media 4

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
柿並 義宏(313 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 向田 茂(125 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 非常勤講師未定(非常勤)	2 単位	講義		IMC111

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期(後半)

授業概要

この講義では，今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養にまつわる内容をとりあげ，大学で学ぶことの目的・意義を考えます。具体的には，より高度で専門性の高い内容の講義を理解し，技能を獲得する上で不可欠な「英語」「数学」などの知識を学び，強化することにより，今後履修することとなる専門科目の内容の理解を支えることを目的にしています。

さらに，開講ごとに専門科目担当の教員が登壇し，この講義で学習する基礎知識が，後に選択するコースの内容や，学習する専門科目とどのようにリンクしているのかを解説することにより，卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし，今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進めるための手助けをします。

授業における学修の到達目標

・今後履修する「専門科目」をの内容を理解する上で不可欠な「英語」「数学」などの知識の必要性を理解する。
・卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし，今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進める。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	3D フラクタルについて調べる	2
	授業	専門科目担当教員による 3D フラクタルとそれを表現するために必要な数学についての講義	
	事後学修	3D フラクタルについて復習する	2
2	事前学修	外部講師の経歴を調べる	2
	授業	外部講師によるに学生時代に学ぶべきことの講義	
	事後学修	外部講師の事業内容について調べる	2
3	事前学修	音声について調べる	2
	授業	専門科目担当教員による音声処理と数学の講義	
	事後学修	音声処理について復習する	2
4	事前学修	外部講師の経歴を調べる	2
	授業	外部講師によるに学生時代に学ぶべきことの講義	
	事後学修	外部講師の事業内容について調べる	2
5	事前学修	3D CG について調べる	2
	授業	専門科目担当教員によるプロジェクトの進め方と 3D CG を作成するにあたり必要な知識の講義	
	事後学修	3D CG について復習する	2
6	事前学修	外部講師の経歴を調べる	2
	授業	外部講師による業界の動向についての講義	
	事後学修	業界の動向についてまとめる	2
7	事前学修	ゲームで使われる数学について調べる	2

	授業	専門科目担当教員によるゲームで使われている数学の講義	
	事後学修	ゲームで使われる数学について復習する	2
8	事前学修	就職活動について調べる	2
	授業	専門科目担当教員による就職活動の心構えの講義	
	事後学修	就職活動についてまとめる	2
9	事前学修	外部講師の経歴を調べる	2
	授業	外部講師による起業についての講義	
	事後学修	起業するために必要なことをまとめる	2
10	事前学修	プロジェクトの進め方について調べる	2
	授業	専門科目担当教員によるプロジェクト系科目の進め方についての講義	
	事後学修	プロジェクトの進め方についてまとめる	2
11	事前学修	VR について調べる	2
	授業	専門科目担当教員による VR で使われる基本技術の講義	
	事後学修	VR についてまとめる	2
12	事前学修	IoT 機器について調べる	2
	授業	外部講師による IoT 機器を使った物づくりの講義	
	事後学修	IoT 機器についてまとめる	2
13	事前学修	データ解析に必要な数学について調べる	2
	授業	専門科目担当教員によるデータ解析の講義	
	事後学修	データ解析について復習する	2
14	事前学修	プロジェクトトライアルの概要について調べる	2
	授業	プロジェクトトライアル発表会	
	事後学修	プロジェクトを立ち上げ，実行する手法をまとめる	2
15	事前学修	地域連携プロジェクトの概要について調べる	2
	授業	地域連携プロジェクト発表会	
	事後学修	地域連携プロジェクトについてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：100%　□演習課題：　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートの評価は Polite を通じてフィードバックされる。

教科書	
参考書・Web サイト	必要な場合は，開講時に都度案内する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	柿並 通算で 4 年間システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた．これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる．また，これらの経験から大学で数学や英語を学ぶことの重要性を認識させる．

情報メディア学Ⅰ Information Media 1

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
齋藤 健司(314 研究室), 向田 茂(125 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 非常勤講師未定()	1 単位	講義		IMC220

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	2 年	前期(前半)

授業概要

この講義では、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養および応用技術にまつわる内容をとりあげ，学習してもらいます。特に、ビッグデータや人工知能（AI）に関して、基礎知識およびリテラシーを身に着けてもらいます。同時に、専門科目担当の教員から、様々な専門分野と結びついたビッグデータ・人工知能の応用技術や最新動向について解説してもらい、これからの時代を生き抜くための知識とビジョンを身に着けることを目的とします。

授業における学修の到達目標

・人工知能（AI）やビッグデータに関して、基礎知識、リテラシー、および応用技術に関する知識を学習する。
・専門分野を学ぶための情報を調査し、卒業に至るまでのヴィジョンを明確にする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読み，講義の目標と全体スケジュールを把握する	2
	授業	ガイダンス、情報メディア学Ⅰの趣旨と流れ	
	事後学修	情報メディア学Ⅰの趣旨と流れを理解する	2
2	事前学修	インターネットで人工知能とビッグデータについて事前に調査する	2
	授業	人工知能とビッグデータに関する基礎知識の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
3	事前学修	インターネットで「3DCG・ゲーム」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「3DCG・ゲーム」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
4	事前学修	インターネットで「映像技術」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「映像技術」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
5	事前学修	インターネットで「サウンド技術」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「サウンド技術」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
6	事前学修	インターネットで「宇宙観測」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「宇宙観測」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
7	事前学修	インターネットで「情報可視化理」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「情報可視化」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
8	事前学修	今までの資料を振り返ってみる	2
	授業	情報メディア学Ⅰの復習・まとめ	

	事後学修	学んだことをもう一度振り返り，今後の学習計画を練る	2
9	事前学修		
	授業		
	事後学修		
10	事前学修		
	授業		
	事後学修		
11	事前学修		
	授業		
	事後学修		
12	事前学修		
	授業		
	事後学修		
13	事前学修		
	授業		
	事後学修		
14	事前学修		
	授業		
	事後学修		
15	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

□試験：0%　□小テスト：0%　■レポート：100%　□演習課題：0%　□その他[取り組み姿勢など　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	オムニバス授業であり、担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

情報メディア学Ⅱ Information Media 2

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
齋藤 健司(314 研究室), 向田 茂(125 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 非常勤講師未定()	1 単位	講義		IMC221

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(後半)

授業概要

この講義では、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養および応用技術にまつわる内容をとりあげ，学習してもらいます。特に、ビッグデータや人工知能（AI）に関して、基礎知識およびリテラシーを身に着けてもらいます。同時に、専門科目担当の教員から、様々な専門分野と結びついたビッグデータ・人工知能の応用技術や最新動向について解説してもらい、これからの時代を生き抜くための知識とビジョンを身に着けることを目的とします。
また、ゼミ選択のための準備として研究室調査などを始めてもらいます。

授業における学修の到達目標

・人工知能（AI）やビッグデータに関して、基礎知識、リテラシー、および応用技術に関する知識を学習する。
・専門分野を学ぶための情報を調査し、卒業に至るまでのヴィジョンを明確にする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	インターネットで「デザイン」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「デザイン」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
2	事前学修	インターネットで「IoT/インタフェース」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「IoT/インタフェース」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
3	事前学修	インターネットで「画像処理」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「画像処理」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
4	事前学修	インターネットで「データベース」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	「データベース」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
5	事前学修	インターネットでこれまで紹介した以外に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する	2
	授業	その他のさまざまな分野で活用される人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる	2
6	事前学修	ゼミナールについてインターネットで調べる	2
	授業	ゼミナールの概略説明	
	事後学修	授業で学習した内容を元に、身につけたい技術を考える	2
7	事前学修	就職や就職活動についてインターネットで調べる	2
	授業	就職活動についての説明	

	事後学修	授業で学習した内容を元に、将来の進路について考える	2
8	事前学修	今までの資料を振り返ってみる	2
	授業	情報メディア学Ⅱの復習・まとめ	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り，今後の学修計画を練る	2
9	事前学修		
	授業		
	事後学修		
10	事前学修		
	授業		
	事後学修		
11	事前学修		
	授業		
	事後学修		
12	事前学修		
	授業		
	事後学修		
13	事前学修		
	授業		
	事後学修		
14	事前学修		
	授業		
	事後学修		
15	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

□試験：0%　□小テスト：0%　■レポート：100%　□演習課題：0%　□その他[取り組み姿勢など　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	オムニバス授業であり、担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

情報メディア学Ⅲ Information Media 3

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
伊藤 正彦(325 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 向田 茂(125 研究室), 非常勤講師未定()	1 単位	講義	○	IMC222

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(前半)

授業概要

情報メディア学Ⅱに続き、情報メディア学科で学ぶ意義と目標を明確にしつつ、意識を持続するためのさまざまな取り組みを実施します。ゼミナールやそれに関わる専門知識をはじめ、就職などの将来についても意識します。
また、ゼミ選択のために必要となる知識を獲得し、希望するゼミとその周辺分野に対する理解を深めることを目的とします。
その中で、実習として各自で学科内の教員に対する調査をします。

授業における学修の到達目標

進路となる専門分野を意識し、卒業までの具体的な学修イメージを醸成する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読み、講義の目標と全体スケジュールを把握する	2
	授業	ガイダンス、初修情報メディア学Ⅴの趣旨と流れ	
	事後学修	初修情報メディア学Ⅴの趣旨と流れを理解する	2
2	事前学修	テクノロジー系ゼミナールについて調べる	2
	授業	ゼミナール調査（テクノロジー系）	
	事後学修	テクノロジー系ゼミナールについてまとめる	2
3	事前学修	デザイン系ゼミナールについて調べる	2
	授業	ゼミナール調査（デザイン系）	
	事後学修	デザイン系ゼミナールについてまとめる	2
4	事前学修	テクノロジー系、デザイン系ゼミナールについて見直す	2
	授業	ゼミナール調査（テクノロジー・デザイン系比較）	
	事後学修	比較した内容をまとめる	2
5	事前学修	テクノロジー系ゼミナールについて確認する	2
	授業	配属希望ゼミナール検討（テクノロジー系ゼミナール）	
	事後学修	訪問した研究室についてまとめる	2
6	事前学修	デザイン系ゼミナールについて確認する	2
	授業	配属希望ゼミナール検討（デザイン系ゼミナール）	
	事後学修	訪問した研究室についてまとめる	2
7	事前学修	ゼミナールについて確認する	2
	授業	配属希望ゼミナール検討（希望ゼミナールの決定）	
	事後学修	訪問した研究室についてまとめる	2
8	事前学修	今までの資料を振り返る	2
	授業	初修情報メディア学Ⅴで調査した内容についてディスカッション	

	事後学修	学んだことをもう一度振り返り、今後の学習およびの計画を練る	2
9	事前学修		
	授業		
	事後学修		
10	事前学修		
	授業		
	事後学修		
11	事前学修		
	授業		
	事後学修		
12	事前学修		
	授業		
	事後学修		
13	事前学修		
	授業		
	事後学修		
14	事前学修		
	授業		
	事後学修		
15	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

□■試験：　　%　□■小テスト：　　%　□■レポート：　100%　□■演習課題：　　%　□■その他
[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

調査状況について随時確認をし、進捗にあわせた指導をする

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	特になし

情報メディア学Ⅳ Information Media 4

担当教員	向田 茂(125 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 非常勤講師未定()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義	○	IMC223

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	未定
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	未定
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	未定

授業概要

情報メディア学Ⅲに続き、情報メディア学科で学ぶ意義と目標を明確にしつつ、意識を持続するためのさまざまな取り組みを実施します。ゼミナールやそれに関わる専門知識をはじめ、就職などの将来についても意識します。
また、ゼミ選択のために必要となる知識を獲得し、希望するゼミとその周辺分野に対する理解を深めることを目的とします。
その中で、実習として各自で学科内の教員に対する調査をします。

授業における学修の到達目標

進路となる専門分野を意識し、卒業までの具体的な学修イメージを醸成する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読み、講義の目標と全体スケジュールを把握する	2
	授業	ガイダンス、初修情報メディア学ＶＩの趣旨と流れ	
	事後学修	初修情報メディア学ＶＩの趣旨と流れを理解する	2
2	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する	2
	授業	配属希望ゼミナール検討（内定面談準備）	
	事後学修	面談の手配をする	2
3	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する	2
	授業	配属希望ゼミナール検討（第一希望内定面談準備）	
	事後学修	面談の手配をする	2
4	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する	2
	授業	配属希望ゼミナール検討（第二希望内定面談準備）	
	事後学修	面談の手配をする	2
5	事前学修	プロジェクト系科目について調べる	2
	授業	プロジェクト系科目について	
	事後学修	プロジェクト系科目についてまとめる	2
6	事前学修	卒業研究について調べる	2
	授業	卒業研究について	
	事後学修	卒業研究についてまとめる	2
7	事前学修	コース認定について調べる	2
	授業	コース認定について	
	事後学修	コース認定についてまとめる	2
8	事前学修	なりたい自分を考える	2
	授業	初修情報メディア学VIで調査した内容確認と３年生に向けてのディスカッション	

	事後学修	なりたい自分についてまとめる	2
9	事前学修		
	授業		
	事後学修		
10	事前学修		
	授業		
	事後学修		
11	事前学修		
	授業		
	事後学修		
12	事前学修		
	授業		
	事後学修		
13	事前学修		
	授業		
	事後学修		
14	事前学修		
	授業		
	事後学修		
15	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：　100%　□演習課題：　　%　□その他[　　]
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
調査状況について随時確認をし、進捗にあわせた指導をする

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	特になし

情報メディア特別ゼミナールⅠ Information Media Special Seminar 1

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
向田 茂(125 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 辻 順平(223 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(856 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	2 単位	講義		IMC323

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	冬期集中

授業概要

情報メディア学科の学びおよびゼミナール活動におけるさらなる学びを追求するために、ゼミナールⅠを担当する教員よる個別指導です。参加する個々の学生に応じて到達目標を設定し，取り組む内容を決定します。

授業における学修の到達目標

個々のさらなるスキル向上のための意識と実践力の修得を目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	情報メディア学科での学びで修得したスキルのさらなる向上を目指し、テーマおよびスキルの向上方法について担当教員と議論を交えながら計画・実施する。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		
	事後学修		
4	事前学修		

	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		
9	事前学修		
	授業		
	事後学修		
10	事前学修		
	授業		
	事後学修		
11	事前学修		
	授業		
	事後学修		
12	事前学修		
	授業		
	事後学修		
13	事前学修		
	授業		
	事後学修		
14	事前学修		
	授業		
	事後学修		
15	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容，発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。
報告書：50%　口頭試問：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜，指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜，指示を行う。
備考	なし
担当教員の実務経験	担当教員の研究，実務経験を活かした指導を行う。

情報メディア特別ゼミナールⅡ Information Media Special Seminar 2

担当教員	向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC407

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	4 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	4 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	4 年	前期(後半)

授業概要

ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、情報メディア学科の学びおよびゼミナール活動におけるさらなる学びの追求を行います。

授業における学修の到達目標

個々のさらなるスキル向上のための意識と実践力の修得。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	情報メディア学科での学びで会得したスキルのさらなる向上を目指し、テーマおよびスキルの向上方法について担当教員と議論を交えながら計画・実施する。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		
	事後学修		
4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		
9	事前学修		
	授業		

	事後学修		
10	事前学修		
	授業		
	事後学修		
11	事前学修		
	授業		
	事後学修		
12	事前学修		
	授業		
	事後学修		
13	事前学修		
	授業		
	事後学修		
14	事前学修		
	授業		
	事後学修		
15	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容，発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。
報告書：50%　口頭試問：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜，指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜，指示を行う。
備考	なし
担当教員の実務経験	担当教員の研究，実務経験を活かした指導を行う。

発想法演習　-2020 年度入学生まで配当年次変更 1 年- Practicum In Idea Generation

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 鶴島 暁(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC224

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(後半)

授業概要

商品や研究テーマなどの企画を行う際，与えられた前提条件の中で，1.どのようなコンセプトで、2.どのように実行するかが重要となる。

本演習では，クリティカルな思考法と脳の働きに基づいた発想法，発想を共有し昇華させるためのコミュニケーションの手法，成果をプレゼンテーションする方法をグループワークを通じて学ぶ。

繰り返し発想訓練とディスカッションの練習を行うことで，課題の整理能力・クリティカルな思考力・柔軟な発想力・コミュニケーション力を身につける。

選抜クラスと一般クラスにクラス分けして開講する。

授業における学修の到達目標

優れた発想するには，様々な知識を基に日常生活などに潜むヒントを見つけ出すことが重要である。発想の質を上げるためのマインドマップや KJ 法などの発想手法を繰り返し練習することで，クリティカルな思考力と発想力を身につけ，今後の各演習科目の課題の質を向上させるとともに，社会に出てからの企画力の基礎を身につける事を目標とする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	なし	0.0
	授業	発想の方法（1）新規発想型と改善発想型	
	事後学修	POLITE の教材も併用して，発想の種類とその概要について復習し，マインドマップにまとめる。	3.0
2	事前学修	POLITE の教材の指示に従い，マインドマップで発想する。	2.0
	授業	発想の方法（2）マインドマップを使う	
	事後学修	POLITE の教材の指示に従い，マインドマップ課題に取り組む	2.0
3	事前学修	POLITE の教材の使用して，クリティカル・シンキングの基礎について学ぶ。	2.0
	授業	発想の方法（3）発想の手順・クリティカルに考える	
	事後学修	POLITE の教材も併用して，発想の手順・クリティカルに考えるについて復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
4	事前学修	POLITE の教材の指示に従い，演習課題の情報について調べて，マインドマップにまとめる。	3.0
	授業	課題 1 についてグループで考える	
	事後学修	POLITE の教材の指示に従い，演習課題のテーマについて，グループワークの結果を踏まえて振り返る。	1.0
5	事前学修	POLITE の教材の指示に従い，演習課題の情報について調べて，マインドマップにまとめる。	3.0
	授業	課題 2 についてグループで考える	
	事後学修	POLITE の教材の指示に従い，演習課題のテーマについて，グループワークの結果を踏まえて振り返る。	1.0
6	事前学修	POLITE の教材の指示に従い，演習課題 3 の情報について調べる。	4.0
	授業	発想ゲーム	

	事後学修	なし	0.0
7	事前学修	POLITE の教材の指示に従い，演習課題 3 の情報をまとめ，論点を明確にする。	4.0
	授業	商品開発の現場	
	事後学修	商品開発の現場の工夫について，マインドマップにまとめる。	2.0
8	事前学修	POLITE の教材の指示に従い，KJ 法の方法を学ぶ。	2.0
	授業	KJ 法（1）クリティカルシンキング	
	事後学修	POLITE の教材の指示に従い，クリティカルシンキングがなぜ必要かを考える。	1.0
9	事前学修	POLITE の教材の指示に従い，企画書とはどのようなものかを調べる	3.0
	授業	KJ 法（2）企画書の要件	
	事後学修	企画書の要件について復習する	1.0
10	事前学修	演習課題 4 に関するアイディアを練る	4.0
	授業	演習課題 4 についてブレストする	
	事後学修	ブレストの結果を踏まえ，演習課題 4 についての企画案をまとめる。	4.0
11	事前学修	POLITE の教材を用いて，「企画書の書き方」について学ぶ。	1.0
	授業	演習課題 4 についての企画案の検討	
	事後学修	演習課題 4 についての企画案の詳細検討	3.0
12	事前学修	なし	0.0
	授業	プレゼン資料の作り方 演習課題 4 についての企画案の再考	
	事後学修	企画案に問題がないかクリティカルに考える	2.0
13	事前学修	企画案のプレゼン資料の要件を考える	2.0
	授業	演習課題 4 についての企画案の確定	
	事後学修	なし	0.0
14	事前学修	企画案のプレゼン資料案を作成する	3.0
	授業	マインドマップと KJ 法の違いと適性 プレゼンテーション資料の素案作成	
	事後学修	マインドマップと KJ 法の違いと適性について，マインドマップにまとめる。	1.0
15	事前学修	プレゼンテーション資料の素案をブラッシュアップする。	3.0
	授業	総合演習（4）プレゼンテーション資料の作成と発表練習 【１６回目】総合演習（5）プレゼンテーション（試験）	
	事後学修	発表練習する	1.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
■試験：30%（総合演習の課題を持って試験とする）　□小テスト：　%　□レポート：　%　■演習課題：70%[演習課題には、宿題や小テスト，グループワーク，各回の振り返りの考察が含まれます]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習中および POILTE 等でフィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	・ペンとノートで発想を広げる“お絵描き”ノート術 マインドマップ(R)が本当に使いこなせる本 (アスキームック),遠竹 智寿子 (著), 月刊アスキー編集部 (著), ブザン・ワールドワイ

	ド・ジャパン、ブザン教育協会 (監修) ・マインドマップ超入門，トニー・ブザン (著), 近田 美季子 (監修, 翻訳)，ディスカヴァー・トゥエンティワン ・知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ (講談社+α 文庫), 苅谷 剛彦, 講談社 その他の参考書および Web サイトは演習中に提示します。また，POLITE でも適宜紹介します。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ（過年度生の場合は、情報メディア入門）
備考	演習は，授業中に行うことが前提（完成しなければ宿題）のため，授業出席が大前提です。また，演習課題を授業中に適切にこなすために，予習にあたる宿題を課します。授業で完成しなかった課題のほかにも，宿題を課します。出席点はつきませんが，出欠チェックのための小テストや授業内課題が得点として積み上げられていくので，欠席すると合格が難しくなります。
担当教員の実務経験	担当者の一人は，1993 年から 1996 年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として，総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案，バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また，1998 年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し，新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事している。 担当者の一人は，IT 企業で Web サービスの企画立案開発を手がけている。 担当者の一人は，コンサルタント業を営み，まちづくりイベントなどの企画立案を手がけている。 これらの様々な企画立案・開発等の実務経験を生かし，プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え，受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ＩＣＴ入門 Introduction to ICT

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
守 啓祐(225 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 辻 順平(223 研究室)	2 単位	演習	○	IMC101

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

テーマ：ICT の基礎技術を習得する

現在の情報化社会においてコンピューターを自由自在に利活用できる技術は必要不可欠なものになっています。コンピュータを自由自在に利活用するとは，単にソフトウェアの使い方がわかるということだけではなく，自分に必要なコンピュータ環境を自ら構築し，その中で必要とされるソフトウェアを自由自在に操ることができるということを意味します。本講義では，自分に必要とされるコンピュータ環境の作成方法，及び，必須とされるソフトウェアの使い方を実習により学習します。また，授業は，本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行う。

授業における学修の到達目標

コンピューターとはどのようなものであるかを理解し，また，自分の目的に合ったコンピュータ環境の作成方法，更に，その環境，及び，ソフトウェアの利用技術を習得することを目標とする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。本学ＰＣの利用方法を把握しておく。	2
	授業	ガイダンス，コンピューターとは，大学のコンピュータ環境	
	事後学修	POLITE の第 1 回目講義資料「コンピュータとは，大学のコンピュータ環境」を復習する	2
2	事前学修	テキストを利用し，Windows のウィンドウの操作，エクスプローラの操作を把握しておく。	2
	授業	Windows の操作基礎　-ウィンドウの操作，エクスプローラの操作 実習	
	事後学修	POLITE の第 2 回目講義資料「Windows の操作基礎　-ウィンドウの操作，エクスプローラの操作」を復習する	2
3	事前学修	テキストを利用し，Windows におけるファイルのコピー，移動，ファイルの圧縮などの基本操作について把握しておく。	2
	授業	Windows の操作基礎　-ファイルの操作 実習	
	事後学修	POLITE の第 3 回目講義資料「Windows の操作基礎　-ファイルの操作」を復習する	2
4	事前学修	テキストを利用し，Windows の設定画面における環境設定方法やコントロールパネルによる環境設定方法を把握しておく。	2
	授業	Windows の環境設定 実習	
	事後学修	POLITE の第 4 回目講義資料「Windows の環境設定」を復習する	2
5	事前学修	Windows のコマンドプロンプトの基本的な使い方，基本的なコマンドについて把握しておく。	2
	授業	Windows の操作基礎　-コマンドプロンプトの使い方 実習	
	事後学修	POLITE の第 5 回目講義資料「Windows の操作基礎　-コマンドプロンプトの使い方」を復習する	2
6	事前学修	情報倫理とは何か，情報倫理に関係する内容を事前調査しておく。	2

	授業	情報倫理ビデオ教材視聴	
	事後学修	テキスト「スライドで学ぶ ICT 入門」の情報倫理の章を読み復習する	2
7	事前学修	テキストを利用し，メーラの使い方，PC メールの基本的な書き方について把握しておく。	2
	授業	メールの正しい書き方 実習	
	事後学修	POLITE の第 7 回目講義資料「メールの正しい書き方」を復習する	2
8	事前学修	テキストを利用し，インターネットにはどのような情報が存在し，どのように利用することで学習や作業の効率化が図れるか事前調査しておく。	2
	授業	インターネットの使い方	
	事後学修	POLITE の第 8 回目講義資料「インターネットの使い方」を復習する	2
9	事前学修	テキストを利用し，Microsoft Word の基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Word 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 9 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Word 基礎編-」を復習する	2
10	事前学修	テキストを利用し，Microsoft Word を利用した美しく整った文書の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Word 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 10 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Word 応用編-」を復習する	2
11	事前学修	テキストを利用し，Microsoft Excel の基本的な利用法方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 11 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 基礎編-」を復習する	2
12	事前学修	テキストを利用し，Microsoft Excel における関数を利用した計算方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 12 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編-」を復習する	2
13	事前学修	テキストを利用し，Microsoft Excel における条件付き書式やピボットテーブルについて把握しておく。また，プレゼンテーションとは何かを把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編-＋Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 13 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編-＋Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-」を復習する	2
14	事前学修	テキストを利用し，Microsoft PowerPoint の基本的な利用方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 応用編-	
	事後学修	POLITE の第 14 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 応用編-」を復習する	2
15	事前学修	テキストを利用し，Microsoft PowerPoint を利用した効果的なプレゼンテーション資料の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 実践編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 15 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 実践編-」を復習する	2
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。 □試験：　　%　■小テスト：20%　□レポート：　%　■演習課題：80% □その他[　　]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
Polite により課題に対する評価をフィードバックする	
教科書	書名：【電子教科書】スライドで学ぶ ICT 入門　Windows10/Office2016, 著者名：長尾光悦, 出版社：コロナ社, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

情報メディアの数学Ⅰ Information Media Mathematics 1

担当教員	松井 伸也(224 研究室), 笹山 智司(306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC204

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(前半)

授業概要

1 年時の「基礎数学」では，基本的な数学を学びます。本講義では「三角関数，指数関数，対数関数」を学ぶことを目的とします．これらの関数は情報技術を学んだり，ゲームなどのプログラムでも実際に使われる関数です．これらに慣れることを目的とします．

授業における学修の到達目標

三角関数，指数関数，対数関数に慣れることを目標とする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	高校で学んだ数学を復習して下さい.	2
	授業	弧度法と一般角	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
2	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	三角比	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
3	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	三角比の計算	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
4	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	三角関数とは	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
5	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	三角関数の計算	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
6	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	加法定理とその応用計算	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
7	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	加法定理の証明	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
8	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	逆三角関数	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
9	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	三角関数と逆三角関数のグラフ	

	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
10	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	直線と三角関数，逆三角関数の関係	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
11	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	指数（累乗，冪乗）とは	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
12	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	指数定理とその例	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
13	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	指数定理を使った計算	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
14	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	対数とは	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2
15	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい.	2
	授業	対数定理とその計算	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい.	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■講義で提供される演習：60% ■ 小テスト ： 40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回小テストを行い，テスト後解答を行います.

教科書	書名：三角関数・指数関数・対数関数, 著者名：松井伸也, 出版社：ムイスリ出版, 備考：
参考書・Web サイト	宮腰忠著「高校の数学+アルファ」共立出版
単位修得が望ましい科目	基礎数学
備考	とくにありません.
担当教員の実務経験	ありません.

芸術論 Art Theory

担当教員	三浦 洋(221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC107

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

美術, 演劇, 音楽など広範囲のジャンルにわたる芸術について体系的に考察する方法は無数にありえますが, この「芸術論」では西洋芸術の原型が誕生した古代ギリシャの芸術の特質を中心に検討します。そのため、古代ギリシャの哲学者アリストテレスが芸術創作について考察した『詩学』の内容に沿って授業を進めていきます。

とくに，古代ギリシャの芸術の中核となっていたギリシャ悲劇は, ストーリー創作法や視覚効果、音楽、合唱舞踊隊であるコロスの使い方などにおいて，後世の様々な芸術ジャンルに影響を与えました。中世のオペラ，近世のオラトリオ，近代の演劇，現代の映画に見られる古代芸術からの影響を知れば， 現代のマルチメディア開発のヒントも得られます。それゆえ，現代の映画作品なども随時，参考資料として取り上げ，芸術表現の普遍性と進化の両面を考えます。

授業における学修の到達目標

1. 芸術表現の技法について, その歴史的多様性を理解する。
2. 芸術表現が人間の感覚や思想に与える影響・効果を理解する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し，授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	どのように芸術を定義するか	
	事後学修	芸術の定義についてノートにまとめる	2.0
2	事前学修	教科書のうち古代ギリシャ文化史の部分を読む	2.0
	授業	古代ギリシャにおける芸術の始まり	
	事後学修	古代ギリシャにおける芸術の始まりについてノートにまとめる	2.0
3	事前学修	教科書のうち古代ギリシャ悲劇の時代背景の部分を読む	2.0
	授業	古代ギリシャ悲劇の時代背景	
	事後学修	古代ギリシャ悲劇の時代背景についてノートにまとめる	2.0
4	事前学修	教科書のうち三大悲劇詩人の創作の部分を読む	2.0
	授業	三大悲劇詩人の創作	
	事後学修	三大悲劇詩人の創作についてノートにまとめる	2.0
5	事前学修	教科書のうちアイスキュロスの作品の部分を読む	2.0
	授業	アイスキュロスの作品の特徴	
	事後学修	アイスキュロスの作品についてノートにまとめる	2.0
6	事前学修	教科書のうちソフォクレスの作品の部分を読む	2.0
	授業	ソフォクレスの作品の特徴	
	事後学修	ソフォクレスの作品の特徴についてノートにまとめる	2.0
7	事前学修	教科書のうちエウリピデスの作品の部分を読む	2.0
	授業	エウリピデスの作品の特徴	
	事後学修	エウリピデスの作品の特徴についてノートにまとめる	2.0
8	事前学修	教科書のうち「逆転」の説明を読む	2.0

	授業	創作技法としての「逆転」	
	事後学修	創作技法としての「逆転」についてノートにまとめる	2.0
9	事前学修	教科書のうち「再認」の説明を読む	2.0
	授業	創作技法としての「再認」	
	事後学修	創作技法としての「再認」についてノートにまとめる	2.0
10	事前学修	教科書のうち「受難」の説明を読む	2.0
	授業	創作技法としての「受難」	
	事後学修	創作技法としての「受難」についてノートにまとめる	2.0
11	事前学修	教科書のうち「イリアス」の説明を読む	2.0
	授業	ホメロスの叙事詩「イリアス」	
	事後学修	「イリアス」の特徴についてノートにまとめる	2.0
12	事前学修	教科書のうち「オデュッセイア」の説明を読む	2.0
	授業	ホメロスの叙事詩「オデュッセイア」	
	事後学修	「オデュッセイア」の特徴についてノートにまとめる	2.0
13	事前学修	教科書のうちオペラの誕生についての説明を読む	2.0
	授業	オペラの誕生	
	事後学修	オペラの誕生についてノートにまとめる	2.0
14	事前学修	教科書のうちコロスについての説明を読む	2.0
	授業	オラトリオとシェイクスピア劇におけるコロス	
	事後学修	オラトリオとシェイクスピア劇におけるコロスの役割についてノートにまとめる	2.0
15	事前学修	教科書のうち『詩学』から影響を受けた映画についての説明を読む	2.0
	授業	映画に対する『詩学』の影響	
	事後学修	映画に対する『詩学』の影響についてノートにまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト（数回行う）：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストに関する質問に対応する。

教科書	書名：『詩学』, 著者名：アリストテレス著、三浦洋訳, 出版社：光文社, 備考：
参考書・Web サイト	とくに指定しないが、授業で紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし。

芸術演習〈絵画〉 Arts Seminar

担当教員	山本 真紀(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	演習	○	IMC213

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	前期

授業概要

本授業では様々な描画材から、鉛筆・アクリル絵の具を選び、その特性を理解することにより生まれる偶発的な画材の表情を引き出し構成することで、絵画の基礎となる考え方を学ぶ。
また、純粋絵画だけではなく、イラストなど現代における表現についても取り上げる。
作品を作るプロセス意義を考え、ディスカッションを交えながら制作を行う。

授業における学修の到達目標

基本的な画材の使い方を理解すると共に、各自の感性を広げることを目標とする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アートを考える1 ワークシートを使っての作品制作	
	事後学修	レポート作成 日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
2	事前学修	・スケッチブック ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅰ 「モダンテクニック　デカルコマニーを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
3	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アートを考える2 ワークシートを使っての作品制作応用	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
4	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅰ 「人体、目を描く（基礎）」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
5	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅰ 「人体　目を描く（応用）」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
6	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・紙パレット・絵筆・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。	1.5

		・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅱ 「モダンテクニック　ドリッピングを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
7	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅱ 「人体　口を描く （基礎&応用）」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
8	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・紙パレット・絵筆・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅲ 「モダンテクニック　滲みを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
9	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅲ 「人体　鼻を描く （基礎&応用）」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
10	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・紙パレット・絵筆・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅳ 「モダンテクニック　バブリングを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
11	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅳ 「人体　耳を描く （基礎&応用）」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
12	事前学修	・スケッチブック ・紙パレット・絵筆・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅴ 「モダンテクニック　フロッタージュ を利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
13	事前学修	・これまでの授業で制作した作品 ・スケッチブック ・筆記具の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	構成による表現Ⅰ 「コラージュを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。 次回の作品制作に必要な素材の用意。	2.5
14	事前学修	・スケッチブック ・紙パレット・絵筆・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 ・ ハサミ ・のり の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	構成による表現Ⅱ	

		「コラージュを利用した構成」	
	事後学修	授業最終日の終了時に作品提出が出来るよう、事前に制作を進めておく必要があります。	2.5
15	事前学修	・スケッチブック ・紙パレット・絵筆・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 ・ ハサミ ・のり の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	構成による表現III 「コラージュを利用した構成」	
	事後学修	作品の提出	2.5

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：50%
■その他[作品 30%　意欲 20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で制作した作品ついて、授業内での講評する事によりフィードバックを行う。
作品は採点後に返却します。（返却場所は教務課前の作品返却棚）

教科書	書名：ぺんてるネオセーブル丸筆セット（６号・１４号）, 著者名：, 出版社：, 備考：
	書名：ホルベイン　紙パレット　ペーパーパレットＳＳ, 著者名：, 出版社：, 備考：
	書名：鉛筆　ステッドラー　ルモグラフ　３B・Ｆ・３H　３本セット, 著者名：, 出版社：, 備考：デッサンの授業で使用する物と兼用できます
	書名：練り消し　バニー　イージークリーナー, 著者名：, 出版社：, 備考：デッサンの授業で使用する物と兼用できます
	書名：油性サインペン　PIN（ピン）03, 著者名：, 出版社：三菱鉛筆, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	デッサン
備考	必要教材の詳細は掲示で案内します。掲示を確認し、購入の必要な教材は購入してください。 ・紙パレット　・絵筆　・練り消し　・スケッチブック　・ハサミ ・のり 等
担当教員の実務経験	実務経験無し

芸術演習〈音楽〉 Arts Seminar

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC213

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

作曲、演奏、楽譜、空間演出の観点から音楽について考察すると同時に、コンピュータ音楽等の先端芸術領域における現代の研究例を見ながら、作曲、演奏、楽譜、空間演出へのテクノロジーの応用と新しい表現の可能性について検討する。また、各回さまざまな演習課題などの実習やディスカッションを通して、音や音楽のデザイン、パフォーマンスデザイン等を試み、パフォーミングアート領域全体に関わるクリエイティブな発想を生み出すことを意図する。

授業における学修の到達目標

音、音楽、パフォーマンス、演出、先端芸術領域等に関心をもち、テクノロジーを使うことでどのような新しい表現ができ得るかについて知識を基に発想を拡げること。音楽やサウンドの認知力を発展させ、芸術の鑑賞力を豊かにすること。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	作曲に必要と思われる要素（音程、リズム etc.）にはどんなものがあるか調べる	2.0
	授業	作曲 ①：作曲に関する歴史	
	事後学修	任意の楽曲分析に必要な要素について各自考察する	2.0
2	事前学修	デザインされた音の例について探す	2.0
	授業	作曲 ②：サウンドデザインについての考察と応用	
	事後学修	サウンドを絵や言葉でデザインしてみる	2.0
3	事前学修	コンピュータと音楽作曲の関わりについて調べる	2.0
	授業	作曲 ③：コンピュータと作曲（アルゴリズミック作曲）	
	事後学修	ルールを音にする、音の流れをルール化してみる	2.0
4	事前学修	サウンドエフェクトについてどんなものがあるか調べる	2.0
	授業	作曲 ④：コンピュータと作曲（音声信号処理と表現）	
	事後学修	音の変化と音響イメージについて想像する	2.0
5	事前学修	Max というソフトウェアについて調べる	2.0
	授業	作曲 ⑤：コンピュータで作曲する	
	事後学修	サウンドデザイン、コンピュータによる作曲の導入	2.0
6	事前学修	知っている楽器をできるだけ多く挙げ、自由な観点から分類する	2.0
	授業	演奏 ①：楽器と音色、音色の拡張	
	事後学修	ギターの演奏手法と音について 10 個以上考える	2.0
7	事前学修	アコースティック楽器、電子楽器、電気楽器の意味を調べる	2.0
	授業	演奏 ②：シンセサイザー、電子楽器、シーケンサー	
	事後学修	簡単なシンセサイザーをプログラムする	2.0
8	事前学修	エアギター同様、他の楽器の演奏ジェスチャーについて考察する	2.0
	授業	演奏 ③：楽器の形状と身体	
	事後学修	人の動きと音の関連付けについて考察し、自由にデザインする	2.0

9	事前学修	演奏と演出の関係について調べる	2.0
	授業	演奏 ④：演奏スタイルの色々	
	事後学修	演奏スタイルと視覚的要素について考察する	2.0
10	事前学修	音の空間表現の具体例を調べる	2.0
	授業	演奏 ⑤：演奏と演出、空間表現を演奏する	
	事後学修	空間表現をデザインしてみる	2.0
11	事前学修	楽譜にはどのような表記や種類があるか探す	2.0
	授業	楽譜 ①：楽譜とは何か？楽譜の歴史	
	事後学修	空間表現（サウンドディフュージョン）に必要な楽譜表現を考える	2.0
12	事前学修	音の要素と音楽の要素について調べる	2.0
	授業	楽譜 ②：さまざまな楽譜表現とシステム	
	事後学修	音や演奏をどう伝達するか：楽譜のデザインについて考える	2.0
13	事前学修	デザインした楽譜によって具現化された音と表現について検討する	2.0
	授業	楽譜 ③：楽譜をデザインする（楽譜システムを考える）	
	事後学修	楽譜を制作する	2.0
14	事前学修	音や音楽はどこにあるか：音や音楽と周りの環境について考察する	2.0
	授業	空間と表現 ①：舞台空間とその作用	
	事後学修	音楽空間の違いによる表現の違いについて考察する	2.0
15	事前学修	サラウンドスピーカーシステム、マルチチャンネルアウトプットについて調べる	2.0
	授業	空間と表現 ②：電子音響と空間表現デザイン	
	事後学修	音を深く聞く（R.M.シェーファーによる音探しの実践）	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：50%　■演習課題：50%

□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Polite 上で個別に対応。

教科書	
参考書・Web サイト	授業内で必要に応じて指示。
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド、デジタルサウンド・演習（必須ではない）
備考	コンピュータのスペックおよびソフトウェア環境が整っていれば、個人のコンピュータの持ち込み可能（Win/Mac）。
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

デザインプログラミング演習 Media Design Programming

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC216

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(後半)

授業概要

インタラクティブな作品作りにおいて，より高度なインタラクションの実現にはメディア技術が重要な役割を担う。これらは，出力・表現としての造形デザインのみならず，入力として取り込む各種メディアから必要な情報を抽出するなど，関連するシステムの構築が不可欠である。このような状況をふまえ，本講義では画像・映像などのメディアを入力とし，コンピュータグラフィックスによる出力を実装するために必要となるプログラミング技術について解説する。利用する言語としては Processing を予定しているが、一部は Python でも講義をする。また，このようなシステムをデザインしプレゼンテーションする力を養うことを目的とする。

授業における学修の到達目標

通常のコンピュータに備わっているマウスやキーボードだけでなく，カメラ等の機器も入力情報とするようなメディア情報を用いた，人とコンピュータのインタラクションが実装できる力を養う。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2
	授業	制作環境の解説	
	事後学修	講義資料を基に開発環境に関する復習をする	2
2	事前学修	POLITE で配布した描画関数に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	描画関数の利用	
	事後学修	描画関数に関してレポートにまとめる	2
3	事前学修	POLITE で配布した制御構造に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	制御構造を用いた描画の応用	
	事後学修	描画の応用に関してレポートにまとめる	2
4	事前学修	POLITE で配布したテーマを定めた描画例に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	テーマを定めた描画	
	事後学修	パタンを定めた描画応用に関してレポートにまとめる	2
5	事前学修	POLITE で配布した入力に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	キーボード・マウスによる双方向操作	
	事後学修	入力機器に関してレポートにまとめる	2
6	事前学修	POLITE で配布した画像ファイルの利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の利用	
	事後学修	画像ファイルの読み込みに関してレポートにまとめる	2
7	事前学修	POLITE で配布した画像情報に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像情報を用いた応用事例	
	事後学修	画像情報の応用に関してレポートにまとめる	2
8	事前学修	POLITE で配布したカメラに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	カメラの利用	

	事後学修	カメラの利用に関してレポートにまとめる	2
9	事前学修	POLITE で配布した動画情報に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	動画情報の利用	
	事後学修	動画像の処理に関してレポートにまとめる	2
10	事前学修	POLITE で配布した顔検出に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	顔検出の実装	
	事後学修	顔検出に関してレポートにまとめる	2
11	事前学修	POLITE で配布した顔検出の応用事例に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	顔検出の応用	
	事後学修	顔検出を用いた応用事例に関してレポートにまとめる	2
12	事前学修	配付資料で簡易モーションキャプチャに関する予習をする	2
	授業	外部デバイスの利用例	
	事後学修	簡易モーションキャプチャの利用例に関してレポートにまとめる	2
13	事前学修	課題の企画について準備をする	2
	授業	最終課題の提案	
	事後学修	最終課題について企画を作成する	2
14	事前学修	課題の実装について不明な点をまとめる	2
	授業	最終課題の作成	
	事後学修	最終課題の実装を進める	2
15	事前学修	自主的なプレゼンテーションの練習をする	2
	授業	作品のプレゼンテーションと相互評価	
	事後学修	プレゼンテーションの内容と自己評価についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：40%　■演習課題：60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にてレポートの解答例を示すとともに，誤った解答の傾向についても紹介する。

レポートの提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) ディジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習 I
備考	優秀作品は本学メディアデザイン展の出展作品として選定されます。 これまでプログラミングが苦手だった人も、本講義のようなビジュアルな出力結果を通して、プログラミングに対する理解度の向上が期待できます。
担当教員の実務経験	担当者は 1999～2005 年頃まで顔画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっていた。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

情報メディア特別演習Ⅰ Practicum in Information Media1

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC319

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期

授業概要

高度に情報化された社会で，職業人として ICT を有効活用するために必要不可欠な基礎知識の定着を目的とした科目です。
コンピュータの基礎要素であるハードウェアとソフトウェアから始め，それらを意図した通りに動かすためのアルゴリズムとその実現手段であるプログラミングについて扱います。
その後，コンピュータを中心とした情報システムを支えるデータベース・ネットワーク・マルチメディア及び情報セキュリティについて取り扱います。
その後，情報システムの開発とそのマネジメントを学び，情報システム分野に関連する法規や標準について学びます。
講義は教科書に書いてある事をベースにプレゼンテーション資料など各種コンテンツで補いながら進めますので，必ずメモを取る様にしてください。
成績は随時課す小テストの成果と必要に応じ課されるレポートをもとに評価します。
授業は，本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行います。

授業における学修の到達目標

ICT に関する基本的な知識の再確認をして定着させる事
IT パスポート試験の合格

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書の準備，タブレット端末への電子教科書および特典アプリケーションのインストール	2
	授業	初修ガイダンス・資料映像の鑑賞	
	事後学修	指定した教科書の範囲の予習	2
2	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	ハードウェア	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
3	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	ソフトウェア	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
4	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	コンピュータで扱うデータ データベース	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
5	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	ネットワーク	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
6	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	セキュリティ	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2

7	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	システムの導入	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
8	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	システム開発とプロジェクトマネジメント	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
9	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	企業活動と IT の活用	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
10	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	法務と財務	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
11	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	2 進数の計算／基数変換	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
12	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	システムの性能評価	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
13	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	アルゴリズムとデータ構造	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
14	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う，IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	アローダイアグラム／順列と組合せ	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
15	事前学修	期末試験の出題指定範囲の学習	2
	授業	試験前のまとめ・資料映像の鑑賞	
	事後学修	期末試験の出題指定範囲の学習	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50%　■小テスト：50%　□レポート：　　%　□演習課題：　%

□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

開講回ごとに課される小テストは，期限までに提出すること。期限内に提出があり、なおかつ合格点の達した場合のみ平常点に加算される。小テストは採点後の返却か，正解の提示（自己採点後の回収・返却）を必ず行い，復習と反復学習を常に促す。

教科書	書名：かんたん合格 IT パスポート教科書 令和 4 年度, 著者名：坂下 夕里　著/ラーニング編集部　著, 出版社：インプレスブックス, 備考：（学内販売を行わない場合があります。その場合は出版社の Web サイト https://book.impress.co.jp/books/1121101059 から「電子版」を優先して購入してください。在庫希少により欠品の恐れがあるので「紙の本」の購入は推奨しません。）
参考書・Web サイト	講義中に適宜紹介
単位修得が望ましい科目	なし

備考	この科目は，情報処理の促進に関する法律第 7 条第 1 項に基づき経済産業大臣が行う国家試験である情報処理技術者試験の内「IT パスポート」を取得する上で必要な知識を扱っています。この科目で扱っていない内容を自主的に勉強する事によって，資格取得に役立ちます。
担当教員の実務経験	なし

経営系科目Ａ＜ベンチャービジネス論＞ Business Administration A

担当教員	坂本 英樹(321 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC302

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期

授業概要

ベンチャービジネスの主要なプロセスはイノベーションとマーケティングに基づいた新たな市場の開拓である。Schumpeter の『景気循環論』によると，通常市場は均衡しており同じレベルで経済システムが循環している。そこになんらかの理由で外生的に生まれた科学の成果や発見が出現すると，それのもたらす新結合の可能性を見抜いた企業者が登場する。ベンチャーキャピタルやエンジェルによってかれらに信用創造が行われるとイノベーションが生まれ，経済の循環軌道が上方に離れて経済発展が生起する。

こんにち，デジタル化が社会に大きな変化をもたらしている。デジタルトランスフォーメーションによるビジネスモデルの変革は「民主化」と「中抜き現象」を生起させ，生産コストの低下と技術使用の簡易化によって広範な層の人びとがコンテンツ，情報，財やサービスにアクセスでき，それらの生成までできるようになり，製品やコンテンツは伝統的仲介を迂回して直接見込み顧客に到達可能になった。

小売業界におけるアマゾン，タクシー業界におけるウーバー・テクノロジーズ，ホテル業界におけるエアビーアンドビーをはじめとする企業は，まったく新しいビジネスモデルを生みだし既存企業にとってかわっている。生産者余剰はシェアリングエコノミーのプラットフォーマーが独占し，旧来型の生産者がかつて確保していた生産者余剰は押しつぶされている。

こうした環境を踏まえ，ベンチャービジネス論ではイノベーションとはいかなる概念なのか，ベンチャー企業創造の出発点となる新しい価値を生みだすアイデアと起業機会はいかにして発見されるのか，アイデアを具現化するイノベーションの概念，ビジネスモデルの構築，ベンチャービジネスの資金調達，ベンチャービジネスを成功に導いてくれる競争戦略の最新理論に関する理論を学習していく。

授業における学修の到達目標

・ベンチャービジネス論の理論の習得をとおして，新しい価値を生みだすアイデアを創出し，アイデアを具現化するイノベーションの本質を理解することができるようになる。
・競争優位をコンカレントに生みだし続ける組織能力，そのケイパビリティを有するビジネスモデルを理解することができるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。	2.0
	授業	ガイダンス	
	事後学修	ガイダンスを踏まえて教科書を参照しながら，改めて授業全体の内容を把握する。	2.0
2	事前学修	教科書の「ベンチャービジネスとは何か」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ベンチャービジネスとは何か	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，ベンチャービジネスとは何かを整理する。	2.0
3	事前学修	教科書の「Schumpeter のイノベーション」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	Schumpeter のイノベーション	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，Schumpeter のイノベーションを整理する。	2.0
4	事前学修	教科書の「Schumpeter 以外のイノベーション」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での	2.0

		整理も可）。	
	授業	Schumpeter 以外のイノベーション	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，Schumpeter 以外のイノベーションを整理する。確認テストの準備として 1-4 回の内容を復習する。	2.0
5	事前学修	教科書の「ドメインとコンセプトの概念」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ドメインとコンセプトの概念 確認テスト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，ドメインとコンセプトの概念を整理する。	2.0
6	事前学修	教科書の「マーケティングマイオピア」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	マーケティングマイオピア	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，マーケティングマイオピアを整理する。	2.0
7	事前学修	教科書の「花王のコンセプト・富士フイルムグループのコンセプト」を読んで，ポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	花王のコンセプト・富士フイルムグループのコンセプト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，花王のコンセプト・富士フイルムグループのコンセプトを整理する。	2.0
8	事前学修	教科書の「ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）」を読んで，ポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）を整理する。	2.0
9	事前学修	教科書の「ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）」を読んで，ポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）を整理する。確認テストの準備として 5-9 回の内容を復習する。	2.0
10	事前学修	教科書の「競争戦略」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	競争戦略 確認テスト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，競争戦略を整理する。	2.0
11	事前学修	教科書の「会社設立・財務諸表」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	会社設立・財務諸表	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，会社設立・財務諸表を整理する。	2.0
12	事前学修	教科書の「ベンチャービジネスと資本市場」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ベンチャービジネスと資本市場	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，ベンチャービジネスと資本市場を整理する。	2.0
13	事前学修	教科書の「アントレプレナーシップ」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0

	授業	アントレプレナーシップ	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，アントレプレナーシップを整理する。	2.0
14	事前学修	教科書の「アイデアと起業機会」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	アイデアと起業機会	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，アイデアと起業機会を整理する。	2.0
15	事前学修	確認テストの準備として 10-14 回の内容を復習する。	2.0
	授業	総括 確認テスト	
	事後学修	試験の準備としてこれまでの内容を復習する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

下記の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：70%　■小テスト：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

採点答案の開示

教科書	書名：経営学とベンチャービジネス, 著者名：坂本英樹, 出版社：白桃書房, 備考：
参考書・Web サイト	適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	経営系科目 B
備考	必要に応じて資料を配付する。
担当教員の実務経験	該当なし

経営系科目Ｂ＜Web ビジネス論＞ Business Administration B

担当教員	小走 安則(305 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC313

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期

授業概要

当初軍事用に開発されたインターネットは、”Web（ウェブ）”（World Wide Web の略称）の利用によりその適用分野が情報通信分野からあらゆる産業に急速に拡大し、私たちが日常的に関わっているビジネスにも様々な形で利用されています。この講義では、インターネット及び Web の基礎の理解を前提として、それがビジネスと結びついて e-ビジネスからデジタルビジネスへと発展して来ていることを、電子商取引（EC）の話題からマーケティング、インターネット広告、さらには情報倫理や情報セキュリティ等にも結び付けて理解し習得します。可能な限り最新のトピックスを取り入れることを想定しています。

授業における学修の到達目標

Web およびその関連技術がどのように現実の経済活動や社会生活のビジネスに結びついているかを幅広い視点から学び、就職後に新しい技術を容易に業務に活用できる知識を習得します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し、講義の全体の内容を把握する。	2
	授業	本講義のオリエンテーション。	
	事後学修	POLITE3 の第 1 回目学修資料「オリエンテーション」を復習すること。	2
2	事前学修	教科書　4 章を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「情報通信技術の基礎知識」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 2 回目学修資料「情報通信技術の基礎知識」を復習すること。	2
3	事前学修	教科書　6 章を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「経験則と Web 2.0」 の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 3 回目学修資料「経験則と Web 2.0」を復習すること。	2
4	事前学修	教科書　8 章を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「EC と　BtoB」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 4 回目学修資料「EC と　BtoB」を復習すること。	2
5	事前学修	教科書　8 章(109-112)を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「BtoC と　CtoC」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 5 回目学修資料「BtoC と　CtoC」を復習すること。	2
6	事前学修	教科書　9 章を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「ビジネスモデル」の学修	
	事後学修	POLITE3 の第 6 回目学修資料「ビジネスモデル」を復習すること。	2
7	事前学修	6 回講義時に紹介する Web 記事を事前に理解しておくこと。前半（1 回～6 回）講義内容を確認しておくこと。	2
	授業	「トピックス 1」の学修。前半講義内容の確認。	
	事後学修	POLITE3 の第 7 回目学修資料「トピックス 1」を復習すること。前半講義の重要部分の再確認。	2
8	事前学修	教科書　11 章を事前に理解しておくこと。	2

	授業	「Web マーケティング」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 8 回目学修資料「Web マーケティング」を復習すること。	2
9	事前学修	教科書　11 章を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「インターネット広告」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 9 回目学修資料「インターネット広告」を復習すること。	2
10	事前学修	教科書　12 章を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「決算システムと電子マネー」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 10 回目学修資料「決算システムと電子マネー」を復習すること。	2
11	事前学修	教科書 14 章を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「ネット社会と倫理」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 11 回目学修資料「ネット社会と倫理」を復習すること。	2
12	事前学修	教科書　13 章を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「情報セキュリティ」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 12 回目学修資料「情報セキュリティ」を復習すること。	2
13	事前学修	12 回講義時に紹介する Web 記事を事前に理解しておくこと。	2
	授業	「シェアリングエコノミー」の学修。	
	事後学修	POLITE3 の第 13 回目学修資料「シェアリングエコノミー」を復習すること。	2
14	事前学修	13 回講義時に紹介する Web 記事を事前に理解しておくこと。後半（8 回～13 回）講義内容を確認しておくこと。	2
	授業	「トピックス 2」の学修。後半講義内容の確認。	
	事後学修	POLITE3 の第 14 回目学修資料「トピックス 2」を復習すること。後半講義の重要部分の再確認。	2
15	事前学修	これまでの講義資料をすべて確認する。	2
	授業	まとめとアンケートの実施。	
	事後学修	授業内容をまとめる.	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　%　■小テスト：100 %　□レポート：　%　□演習課題：　　%　■その他[授業への積極的な参画]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストは Polite 上で実施します。又、講義の中で解説します。

教科書	書名：「ネットビジネス進化論」（第 2 版）, 著者名：中村忠之（著）, 出版社：中央経済社, 備考：
参考書・Web サイト	必要に応じて追加資料を用意します。
単位修得が望ましい科目	デジタルビジネス概論
備考	講義計画は進捗度合や最新情報のアップデート等により変更の可能性があります。
担当教員の実務経験	前職である外資系 IT 企業グループでの通算３５年余りの経験から、特に SI プロジェクトやお客様提案の経験を、講義の内容により適時紹介する。

経営系科目Ｂ＜マーケティング論＞ Business Administration B

担当教員	坂本 英樹(321 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC313

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期

授業概要

企業は消費者を知ることをとおして自らにとっての顧客を選別し，効果的なビジネス展開をおこなうことができるようになる。20 世紀初頭に登場したマーケティングはマクロ環境の変化に対応して，製品中心の考え方「マーケティング 1.0」から消費者中心の考え方「マーケティング 2.0」，そして，消費者中心から人間中心の考え方「マーケティング 3.0」へと移行してきた。消費者は，物質的充足にくわえて精神的な豊かさを求めるようになってきている。こうした環境を背景としたマーケティング 3.0 の世界では，企業もまた自社の文化に価値を織り込まなければ参加の時代を構成するクリエイティブな人たちを納得させることは不可能となっている。

そして，社会がアナログの世界からデジタルの世界に移行するなかで，企業のマーケティング活動には大幅な見直しが求められている。顧客はもはや企業のセグメンテーションやターゲティングや，ポジショニングの受動的な受け手ではない。「なりたい自分」，「あるべき姿」を発見して自己実現を目指している消費者に購買を促し，かれらによる情報の拡散をとおして顧客を増やすことをめざすマーケティングが生起しているのである。

社会のデジタル化がもたらした社会の接続性は，企業，組織構成員，チャネルパートナー，顧客，その他の関係者間における交流のコストを大幅に低下させ，企業から市場へと縦に進んでいたイノベーションの流れが横になり，企業は顧客コミュニティやパートナーとつながって価値を共創したり，競争相手とつながって協力しなければ高い競争力を維持できなくなっている。

顧客の信頼という概念ももはや縦のものではなくなり，もの心がついたときからインターネットの世界で生活するデジタルネイティブにとっては，マーケティングコミュニケーションよりも Friends，Families，Facebook fans，Twitter followers であらわされる「F ファクター」が大きな影響力をもつようになった。

こうした環境の中で，顧客がもっとも信頼する横のつながり上に，確実に自社の推奨者が存在する状況を創りだしておくことがこんにちの「マーケティング 4.0」の最大の目的となっている。

講義ではマーケティングの基礎理論を習得するとともに，現実のビジネスシーンにおけるマーケティング活動を学習していく。

授業における学修の到達目標

・マーケティング論の理論を習得することをとおして，顧客が製品や商品，サービスに対するニーズをもってから最終的な購入や利用にいたるまでの過程を理解し，自社のプロダクトを継続的に反復的に購買してもらうための組織的な取り組みが理解できるようになる。
・マーケティングの手法を学ぶことをとおして，自らが組織のマーケティングを実行していくことができるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。	2.0
	授業	ガイダンス	
	事後学修	ガイダンスを踏まえて教科書を参照しながら，改めて授業全体の内容を把握する。	2.0
2	事前学修	教科書の「マーケティングの定義」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	マーケティングの定義	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，マーケティングの定義を整理する。	2.0
3	事前学修	教科書の「マーケティングコンセプト」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0

	授業	マーケティングコンセプト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，マーケティングコンセプトを整理する。	2.0
4	事前学修	教科書の「ニーズ・ウオンツ・デマンズ・シーズ」を読んで，ポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ニーズ・ウオンツ・デマンズ・シーズ	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，ニーズ・ウオンツ・デマンズ・シーズを整理する。	2.0
5	事前学修	教科書の「顧客価値」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	顧客価値	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，顧客価値を整理する。	2.0
6	事前学修	教科書の「顧客はなぜ満足するのか」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	顧客はなぜ満足するのか	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，顧客はなぜ満足するのかを整理する。確認テストの準備として 1-6 回の内容を復習する。	2.0
7	事前学修	事教科書の「マーケット機会」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	マーケット機会 確認テスト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，マーケット機会を整理する。	2.0
8	事前学修	教科書の「マーケットセグメンテーション」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	マーケットセグメンテーション	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，マーケットセグメンテーションを整理する。	2.0
9	事前学修	教科書の「ターゲティング」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ターゲティング	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，ターゲティングを整理する。	2.0
10	事前学修	教科書の「ポジショニング」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ポジショニング	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，ポジショニングを整理する。確認テストの準備として 7-10 回の内容を復習する。	2.0
11	事前学修	教科書の「プロダクト」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	プロダクト 確認テスト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，プロダクトを整理する。	2.0
12	事前学修	教科書の「プライス」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	プライス	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，プライスを整理する。	2.0
13	事前学修	教科書の「プレイス」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	プレイス	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，プレイスを整理する。	2.0
14	事前学修	教科書の「プロモーション」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0

	授業	プロモーション	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して，プロモーションを整理する。	2.0
15	事前学修	確認テストの準備として 11-14 回の内容を復習する。	2.0
	授業	総括 確認テスト	
	事後学修	試験の準備としてこれまでの内容を復習する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

下記の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：70%　■小テスト：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

採点答案の開示

教科書	書名：ここから始める経営学, 著者名：坂本英樹, 出版社：千倉書房, 備考：
参考書・Web サイト	適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	経営系科目 A
備考	必要に応じて資料を配布する。
担当教員の実務経験	該当なし

経営系科目Ｃ Business Administration C

担当教員	明神 知(304 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC321

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期

授業概要

マーケティングの基礎（1 章）とデジタルへの変遷から始めて、デジタルマーケティングの概要（2 章）を述べる。順次デジタルマーケティングの構成要素を解説（3 章：e-コマース、4 章：ソーシャルメディア、5 章：検索エンジン、6 章：Web マーケティング、7 章：Web ビデオ、8 章：ＡＤＴＥＣH/Cloud、9 章：PLATFORM）して、10 章から１3 章でケーススタディを行う。14 章は最新の動向、今後の動向を述べて 15 章は総復習とディスカッションである。

ＰＯＬＩＴＥに小テスト、試験やレポートに対するコメント、評価を掲示して、質問や疑問にも答えてフィードバックを行い、適宜の研究室訪問を歓迎する。

講義時間内に小テストができなかった場合や講義の理解のためには 2 時間程度の復習時間が必要。

授業における学修の到達目標

デジタルマーケティングについての基礎知識を獲得して、自分なりのビジネスにおけるデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの構想が描けること。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ＨＰや文献で自分なりの「デジタルマーケティング」のイメージを持つ	2
	授業	マーケティングからデジタルマーケティングへ	
	事後学修	復習 2 時間で記述問題の小テストを提出	2
2	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	Web マーケティング	
	事後学修	復習 2 時間で記述問題の小テストを提出	2
3	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	マーケティングの進化を加速するテクノロジ	
	事後学修	復習 2 時間で記述問題の小テストを提出	2
4	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	経営とマーケティング	
	事後学修	復習 2 時間で記述問題の小テストを提出	2
5	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	コトラーのマーケティング	
	事後学修	復習 2 時間で記述問題の小テストを提出	2
6	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	UX/UI デザイン	
	事後学修	復習 2 時間で記述問題の小テストを提出	2
7	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	顧客心理モデル	

	事後学修	復習２時間で記述問題の小テストを提出	2
8	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	トリプルメディアの運営と活用	
	事後学修	復習２時間で記述問題の小テストを提出	2
9	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	ＥＣ市場（１）	
	事後学修	復習２時間で記述問題の小テストを提出	2
10	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	ケーススタディ１	
	事後学修	ＥＣ市場（2）	2
11	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	動画の活用	
	事後学修	復習２時間で記述問題の小テストを提出	2
12	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	トータルマーケティングプランニング	
	事後学修	復習２時間で記述問題の小テストを提出	2
13	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	ケーススタディ(1)	
	事後学修	復習２時間で記述問題の小テストを提出	2
14	事前学修	ＨＰや文献で情報収集	2
	授業	ケーススタディ(2)	
	事後学修	復習２時間で記述問題の小テストを提出	2
15	事前学修	これまでの小テストを書き出して復習	2
	授業	最新動向と将来のマーケティング	
	事後学修	記述問題の小テストを提出 定期テストの準備	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：　50%　■小テスト：　50%

感染症の状況により遠隔オンデマンドの場合は定期試験をレポートにします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の小テストのＰＯＬＩＴＥフォーラムでの評価、指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験あり　（情報システム会社におけるＩＴコンサルティング　ＵＭＬビジネスモデリング、ＡＩシステム開発　ＤＷＨ開発、ＣＡＳＥ・ＥＡ開発方法論の策定、ＩＴ投資マネジメント、大規模プロジェクト管理、ＥＲＰ導入支援　ＣＩＯ補佐官業務　情報サービス産業白書部会長　ＥＡコンサル、ＡＩシステムやリバースエンジニアリングの研究）これらを活かして毎回トピックスを織り交ぜて実践的な講義を行う。

経営系科目Ｄ Business Administration D

担当教員	藤本 直樹(220 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMC322

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期

授業概要

テーマ：実現性の高いビジネスプランの検討・作成・評価

この講義では、新しいビジネスアイデアや情報通信技術（ICT）などの専門知識を駆使して、企業家精神に富んだ、独創的なビジネスプランを作成する方法を学びます。
現代では、ビジネスの仕組みや経営環境は早いスピードで変化し続けており、企業の規模や業種に関係なく、それらに対応する考え方や手法を身に付ける必要があります。また、社会経済の変化が急激であるということは、それだけ新たなビジネスチャンスが世の中に存在していることでもあります。将来、起業を目指す人だけではなく、皆さんが様々な団体・組織・企業の中で活躍できるよう、組織の運営者や経営者の立場に立ってプランニングの手法を学びます。

授業における学修の到達目標

起業や組織運営の基礎的な考え方から、ビジネスプラン（事業計画書）作成までの基本知識や方法を理解できるようになること。
自らの考えに基づき事業アイデアの企画を立案し、ビジネスプランの市場性，発展性，実現性，採算性等を客観的に評価できるようになること。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス（講義の進め方、学修の方法、成績評価の基準、ビジネスプランとは何か　等）	
	事後学修	POLITE の第 1 回目学修資料をもとに「授業全体の内容」について復習する	2.0
2	事前学修	POLITE の第 2 回目学修資料をもとに「事業アイデアの掘り起こし方法」について予習する	2.0
	授業	事業アイデアの掘り起こし方法	
	事後学修	POLITE の第 2 回目学修資料をもとに「事業アイデアの掘り起こし方法」について復習する	2.0
3	事前学修	POLITE の第 3 回目学修資料をもとに「ビジネスプランの作成方法」について予習する	2.0
	授業	ビジネスプランの作成方法	
	事後学修	POLITE の第 3 回目学修資料をもとに「ビジネスプランの作成方法」について復習する	2.0
4	事前学修	予めビジネスプレコンに提出するビジネスアイデアを検討しておく	2.0
	授業	ビジネスプラン演習①	
	事後学修	教員の指導やビジネスプランの新規性・実現性を踏まえて、検討したビジネスアイデアを見直す	2.0
5	事前学修	ビジネスアイデアを深度化し、予めビジネスプランの骨子を作成しておく	2.0
	授業	ビジネスプラン演習②	
	事後学修	教員の指導を踏まえて、検討したビジネスプランの内容（ターゲット、強み・弱み、競合相手等）を見直す	2.0
6	事前学修	予め検討したビジネスプランの収益性を検討しておく	2.0
	授業	ビジネスプラン演習③	
	事後学修	教員の指導を踏まえて、検討したビジネスプランの収益性（マネタイズ、収支計画）を見直す	2.0
7	事前学修	POLITE の第 7 回目学修資料をもとに「IoT，ビッグデータ，人工知能」について予習する	2.0

	授業	IoT，ビッグデータ，人工知能	
	事後学修	POLITE の第 7 回目学修資料をもとに「IoT，ビッグデータ，人工知能」について復習する	2.0
8	事前学修	POLITE の第 8 回目学修資料をもとに「経営環境の評価」について予習する	2.0
	授業	経営環境の評価（SWOT 分析）	
	事後学修	POLITE の第 8 回目学修資料をもとに「経営環境の評価」について復習する	2.0
9	事前学修	POLITE の第 9 回目学修資料をもとに「ブルーオーシャン戦略」について予習する	2.0
	授業	ブルーオーシャン戦略、戦略キャンバス	
	事後学修	POLITE の第 9 回目学修資料をもとに「ブルーオーシャン戦略」について復習する	2.0
10	事前学修	POLITE の第 10 回目学修資料をもとに「会社の設立方法」について予習する	2.0
	授業	企業・起業の形態と会社の設立方法、法人格の有無	
	事後学修	POLITE の第 10 回目学修資料をもとに「会社の設立方法」について復習する	2.0
11	事前学修	POLITE の第 11 回目学修資料をもとに「収支計画」について予習する	2.0
	授業	資金調達，クラウドファンディング、収支計画の立案	
	事後学修	POLITE の第 11 回目学修資料をもとに「収支計画」について復習する	2.0
12	事前学修	POLITE の第 12 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析（勘定科目法）」について予習する	2.0
	授業	収支予測，損益分岐点分析（勘定科目法）	
	事後学修	POLITE の第 12 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析（勘定科目法）」について復習する	2.0
13	事前学修	POLITE の第 13 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析（回帰分析法）」について予習する	2.0
	授業	損益分岐点分析（回帰分析法）	
	事後学修	POLITE の第 13 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析（回帰分析法）」について復習する	2.0
14	事前学修	POLITE の第 14 回目学修資料をもとに「プレゼンテーション」について予習する	2.0
	授業	プレゼンテーション（伝わりやすい構成、伝わりやすい説明、伝わりやすい表現）	
	事後学修	POLITE の第 14 回目学修資料をもとに「事業計画の改善方法」について復習する	2.0
15	事前学修	POLITE の第 15 回目学修資料をもとに「事業計画の改善方法」について再確認しておく	2.0
	授業	事業計画の改善方法（PDCA サイクル、AISAS の法則、OODA ループ）	
	事後学修	期末試験に向けて、POLITE の学修資料や演習課題、それまでの配付資料などをもとに復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験（ 50%） □ 小テスト（ %） □ レポート（ %） ■ 演習課題（ 50%）

□ その他［ ］

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された毎講義の課題やビジネスプランの素案は，速やかに POLITE3 上でフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中に適宜，紹介します。
単位修得が望ましい科目	経営学への招待、マーケティング論、ベンチャービジネス論
備考	受講者は、ビジネスプレゼンテーション・コンテストへの参加を必須とします。 ビジネスプレコン（二次審査）に進出した学生には期末試験を免除します。（優 or 秀が確定） 通常の講義を有識者の講演等の聴講に振り替えることがあります。（最大 1 回）
担当教員の実務経験	道内外において手がけた公共プロジェクトの企画・運営や自身の起業経験などの業務実績を活かし、その内容やノウハウを講義内容に盛り込んでいます（技術士：都市及び地方計画の資格あり）。

ＨＴＭＬコーディング演習 HTML Coding

担当教員	斎藤 一(122 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 辻順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMT101

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期(後半)

授業概要

情報を HTML により Web ページとして記述するということは，今日，欠かせない重要な表現方法となっています。Web ページ制作は，決して高度な技術を要するわけではなく，優れたソフトウェアの支援があれば，初めて試みる場合でもある程度の情報を表現することができます。しかし，情報技術に携わるものは，より高度な情報の表現（ユーザを引きつけ利用しやすい形の表現）や優れたデザインをもとめるのではないでしょうか。そうしたときには，Web ページがどのようにして実現されているのかということを十分に理解している必要があるでしょう。本講義では，Web 制作のための最も基本的な技術である HTML 及び，スタイルシート(CSS)を使って，きめ細かな Web デザインをするためのコーディングの基礎を実習を通して学びます。

授業における学修の到達目標

・HTML およびスタイルシート(CSS)を使って，きめ細かな Web デザインができるようになる。
・テキストエディタやオーサリングツールを使用した Web 制作ができるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読み，授業内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス： 本講義の学習目的や実習の方法を説明する	
	事後学修	授業の内容を復習し，Web 制作における「コーディング」の作業について理解を深める	2.0
2	事前学修	Web 教材「WEB ページの構成や表示の仕組み」を予め読んでおく	2.0
	授業	HTML の構成とタグ: Web ページの構成や表示の仕組みを理解する	
	事後学修	授業の内容を復習し，Web ページの構成や表示の仕組みについて理解を深める	2.0
3	事前学修	Web 教材「アップロードの方法」を予め読んでおく	2.0
	授業	コーディングガイド，アップロード: 簡単な Web ページ制作とアップロードの実習を行う	
	事後学修	授業内容を復習し，課題の作成と提出の方法を確認する	2.0
4	事前学修	自己紹介または地域紹介の Web 制作の内容を調べて決めておく	2.0
	授業	ステップアップ・コーディング１: 自己紹介または地域紹介の Web を制作する実習を行う。また、制作したＷｅｂページについて、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作したページの改善点がないかを検討する	2.0
5	事前学修	Web 教材「CSS を使って Web ページをデザインしよう！」を予め読んでおく	2.0
	授業	スタイルシート: CSS を使った Web ページを制作する実習を行う	
	事後学修	授業内容を復習し，CSS について理解を深める	2.0
6	事前学修	Web 教材「CSS を使った Web デザイン（ID とクラス）」を予め読んでおく	2.0

	授業	ID とクラス: CSS を用いた Web ページを制作する実習を行う	
	事後学修	授業を復習し，ID とクラスの理解を深める	2.0
7	事前学修	Web ページ制作して紹介したい観光地を調べておく	2.0
	授業	ステップアップ・コーディング 2: 観光地を紹介する Web ページを作成する実習を行う。また、制作したＷｅｂページについて、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページについて改善点がないかを検討する	2.0
8	事前学修	Web 教材「ナビゲーションメニュー」を予め読んでおく	2.0
	授業	レイアウト： ナビゲーションメニューのある Web ページを制作する実習を行う	
	事後学修	授業を復習し，CSS の理解を深める	2.0
9	事前学修	オリジナルのアプリまたはゲームのサイトのイメージを考えておく	2.0
	授業	ステップアップ・コーディング 3： CSS を使ったオリジナルの Web ページを作成する実習を行う。また、制作したＷｅｂページについて、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作したオリジナルの Web ページの改善点がないかを検討する	2.0
10	事前学修	Web 開発者向けのツールについて調べてみる	2.0
	授業	デザインからプロトタイプ作成： Web 開発者向けツールを外観する	
	事後学修	授業で紹介した Web 開発者向けツールの機能を復習する	2.0
11	事前学修	Web 教材「ボックスモデル」を予め読んでおく	2.0
	授業	ボックスモデルに基づいた Web ページ制作の実習を行う	
	事後学修	授業を復習し，ボックスモデルについての理解を深める	2.0
12	事前学修	レスポンシブデザインの意味と必要性について調べてみる	2.0
	授業	レスポンシブデザイン： これまでの課題を改良し，レスポンシブデザインに対応させる実習を行う	
	事後学修	授業を復習し，レスポンシブデザインの理解を深める	2.0
13	事前学修	「テーブルとフォーム」について調べておく	2.0
	授業	ステップアップ・コーディング 4 ： フォームのある Web ページをデザインする実習を行う。また、制作したＷｅｂページについて、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページの相互チェックを行う	2.0
14	事前学修	最終課題の内容を考えておく	2.0
	授業	これまでの技術を用いた課題を作成する。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページについて，ディスカッションを行う。	2.0
15	事前学修	これまでの制作内容を振り返り，まとめのページ（リンク集またはポートフォリオサイト）のイメージを考えておく	2.0
	授業	ふりかえり： これまでに制作した課題へのリンク集を作成する実習を行う	
	事後学修	これまでに制作した課題を整理し，授業を振り返る	2.0
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □試験：　　%　□小テスト：0%　□レポート：　%　■演習課題：100% ■その他[授業態度等を総合的に評価する]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
POLITE を通じてコメント等をフィードバックします。	
教科書	
参考書・Web サイト	Mana 著「一冊ですべて身につく HTML＆CSS と Web デザイン入門講座」SB Creative エブスコム著「フレキブルボックスで作る HTML5＆CSS３」ソシム株式会社 千貫りこ著「これからはじめる HTML＆CSS の本」技術評論社 大藤幹著「よくわかる HTML5＋CSS3 の教科書」ルナテック エビスコム著「HTML5＆CSS3 ステップアップブック」ソシム
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習
備考	課題（Web ページ制作）を重視して評価をします。制作の過程も評価の対象としますので，途中まででしか出来上がっていない場合でも，課題は必ず提出するようにしましょう。
担当教員の実務経験	実務経験なし。実務経験者に教材内容に対してのアドバイスを受けている。

メディア技術演習 Practicum in Media Technologies

担当教員	向田 茂(125 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IMT103

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期(前半)

授業概要

コンピュータは様々な問題を高速に，正確に処理してくれる便利な道具ですが，そのためには利用者が適切な指示をコンピュータに与えることが必要です。その指示がプログラムです。画像や音声など多様なメディアをコンピュータで処理するためにもプログラムが必要です。本演習では，こうしたプログラムを作成（プログラミングといいます）するために必要となる基本的な考え方，知識，そしてスキルを身に付けることを目的としています。

具体的には PHP 言語というプログラミング言語を利用して，実際にプログラムを作成する実習を通して学んでいきます。したがって，最低限の PHP 言語固有の文法は身に付けなければなりませんが，本演習の目的は言語固有の文法を覚えることではありません。他のプログラミング言語を学ぶ上でも欠かせない考え方，知識，スキルに絞って学習します。実際の業務で役に立つプログラムを作成できるようになるためには，本演習だけでなく，さらに学習が必要になりますが，その基礎固めには最適の内容となっています。

授業は，その回のテーマの解説と，その演習の繰り返しで行っていきます。小テストを課しますし，演習課題の提出も求めます。当たり前のことですが，単位取得のためには授業への出席と課題の提出が絶対に必要です。

授業における学修の到達目標

プログラミングを体験し，その基本概念の理解を目指します。したがって，プログラムの基本となる「順次」，「選択」，「反復」という 3 つの制御構造を使って，正常に動作するプログラムを書くことができるようになることが目標です。

プログラムへの食わず嫌いをなくす

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	プログラミングとは何か，プログラムによりできることを調査する。	2
	授業	ガイダンス，scratch 入門	
	事後学修	scratch での操作を復習する。	2
2	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	scratch (1) : 変数	
	事後学修	出題された課題を解き，scratch における変数についての理解を深める。	2
3	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	scratch (2) : if 文	
	事後学修	出題された課題を解き，scratch における if 文についての理解を深める。	2
4	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	scratch (3) : for 文	
	事後学修	出題された課題を解き，scratch における for 文についての理解を深める。	2
5	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	php プログラミングの準備	

	事後学修	php プログラミングのための動作環境についておさらいする。	2
6	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	php 入門，変数の利用	
	事後学修	出題された課題を解き，php における変数についての理解を深める。特に，scratch における変数と php における変数の共通点と相違点を理解する。	2
7	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	簡単な四則演算	
	事後学修	出題された課題を解き，php での四則演算の方法や，その活用方法についての理解を深める。	2
8	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	if 文	
	事後学修	出題された課題を解き，php における if 文についての理解を深める。特に，scratch における変数と php における if 文の共通点と相違点を理解する。	2
9	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	for 文	
	事後学修	出題された課題を解き，php における for 文についての理解を深める。特に，scratch における変数と php における for 文の共通点と相違点を理解する。	2
10	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	配列(1)：基本	
	事後学修	出題された課題を解き，配列についての理解を深める。	2
11	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	配列(2)：for 文と foreach 文の違い	
	事後学修	出題された課題を解き，for 文と foreach 文の違いの理解を深める。	2
12	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。また，「HTML コーディング演習」の復習を行う。	2
	授業	PHP による Web プログラミング	
	事後学修	出題された課題を解き，Web プログラミングの基礎を修得する。	2
13	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	最終課題(1)：課題の理解	
	事後学修	課題を解く。	2
14	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	最終課題(2)：設計	
	事後学修	課題を解く。	2
15	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	最終課題(3)：実装	
	事後学修	課題を解く。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　%　□レポート：　　%　■演習課題：　90%

■その他[10% 総合的評価]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバックします。

教科書	

参考書・Web サイト	たにぐち まこと，よくわかる PHP の教科書 【PHP5.5 対応版】，マイナビ 谷尻 かおり，これからはじめるプログラミング基礎の基礎，技術評論社
単位修得が望ましい科目	ＨＴＭＬコーディング，Web デザイン基礎演習
備考	詳細は第一回目の講義で説明します。
担当教員の実務経験	1 名は 16 年間、他の 1 名は通算で 4 年間システムエンジニアとして IT 企業でシステム開発に従事していた．これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する． 1 名の教員は１７年間のシステムエンジニアとしての実績があり、動くプログラムだけではなく、見やすいプログラム、メンテナンスしやすいプログラムを意識できる授業を実施する。

コンピュータ Computers

担当教員	山北 隆典(139 研究室), 柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMT102

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期(前半)

授業概要

本講では，コンピュータの概要を学びます。コンピュータ内でのデータ（数値，文字，音声，画像，他）の表現方法，ハードウェアの構成，ソフトウェアの役割，計測・制御への適用法等を学習します。ネットワークとインターネットの基本的な仕組みを学びます。また，データ処理を行うときに必要となるデータ構造とアルゴリズムについても学習します。

授業における学修の到達目標

・コンピュータのしくみや動作原理を専門的な用語を使って説明できる。
・コンピュータ内での基本的なデータ表現方法を説明できる。
・データ処理の基本的なアルゴリズムを説明できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し，授業全体の内容を把握する．また，コンピュータについて基本的なことを調べておく．	2
	授業	ガイダンス，コンピュータとは，補助単位	
	事後学修	コンピュータの基本的な機能について復習をする．補助単位について復習をする．	2
2	事前学修	2 進数について調べる．	2
	授業	2 進数，ビットとバイト，基数変換 (1)	
	事後学修	コンピュータ内で 2 進数の利用のされ方について復習をする．	2
3	事前学修	基数変換(1)の復習をする．	2
	授業	基数変換 (2)	
	事後学修	基数変換について復習をする．	2
4	事前学修	負の数，少数の表現の仕方を予習する．	2
	授業	負の数，少数の数値表現	
	事後学修	負の数，少数の表現の仕方について復習する．	2
5	事前学修	コンピュータ内での文字表現について予習する．	2
	授業	コンピュータ内での文字表現	
	事後学修	コンピュータ内での文字表現について復習する．	2
6	事前学修	コンピュータ内での音声・画像表現について予習する．	2
	授業	コンピュータ内での音声・画像表現	
	事後学修	コンピュータ内での音声・画像表現について復習する．	2
7	事前学修	コンピュータの構成について予習する．	2
	授業	コンピュータの構成	
	事後学修	コンピュータの構成について復習する．	2
8	事前学修	これまでの授業内容を確認する．	2
	授業	中間テストおよび問題の解説	

	事後学修	テストの復習を通して，理解できてないところを確認する.	2
9	事前学修	CPU の役割と動作について予習する.	2
	授業	CPU の役割と動作	
	事後学修	CPU の役割と動作について復習する.	2
10	事前学修	アドレス指定方式、CPU の高速化について予習する.	2
	授業	アドレス指定方式、CPU の高速化	
	事後学修	アドレス指定方式、CPU の高速化について復習する.	2
11	事前学修	記憶装置について予習する.	2
	授業	記憶装置	
	事後学修	記憶装置について復習する.	2
12	事前学修	オペレーティングシステムについて予習する.	2
	授業	オペレーティングシステム（OS）について	
	事後学修	オペレーティングシステムについて復習する.	2
13	事前学修	ソフトウェア・データ構造について予習する.	2
	授業	ソフトウェア・データ構造	
	事後学修	ソフトウェア・データ構造について復習する.	2
14	事前学修	ソートについて予習する.	2
	授業	アルゴリズム：ソート	
	事後学修	ソートについて復習する.	2
15	事前学修	ネットワーク・インターネットについて予習する.	2
	授業	ネットワーク・インターネット	
	事後学修	ネットワーク・インターネットについて復習する.	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40%　■小テスト：10%　□レポート：　%　■演習課題：10%

■その他[中間テスト：40%　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験結果は POLITE で確認できるようにします。

疑問点については随時質問してください。

教科書	書名：IT の基礎, 著者名：國友義久, 出版社：近代科学社, 備考：
参考書・Web サイト	かんたん合格 IT パスポート教科書 令和 3 年度版，インプレス 2021 年版 基本情報技術者標準教科書，オーム社
単位修得が望ましい科目	なし
備考	この科目は資格「IT パスポート」や「基本情報技術者」を取得する上で必須な知識を扱っています。自主的な勉強を追加することにより資格取得が可能です。
担当教員の実務経験	柿並 通算で 4 年間システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた．これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する. 山北 通算で約 10 年間，民間企業及び民間企業の研究所でソフトウェアシステム開発に携わった。制御系システムの開発で得たハードウェアとソフトウェアに関する知見をもとに，具体

	例の紹介や学習目的に対する気付きを与えるといった形で，実務経験を学生に還元できるよう授業を進めたい。

プログラミング演習Ⅰ Programming 1 Practical

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
伊藤 正彦(325 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 山北 隆典(139 研究室)	2 単位	演習		IMT104

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期(前半)
情報メディア学科	選択	1 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期(後半)

授業概要

C++言語（ゲームプログラミングなどの講義などで使用する予定）を用いて，コンピュータに何らかの処理をさせるプログラムを作成するプログラミングについて学びます。コンピュータが理解する機械語と，人間の間を取り持つのがプログラミング言語です。C++は，その中でオブジェクト指向言語と呼ばれる種類の言語です。

コンピュータを動かすのはプログラム，そのプログラムの基本となるのが「逐次」「選択」「反復」という３つの制御構造です。これらは，古くからある手続き型言語だけでなく，C++のようなオブジェクト指向言語でも同様に基本となっています。多くのプログラミング言語に共通するこうした基本を，実際にコンピュータ上でプログラミング及び実行を繰り返す実習を通じて，身に付けます。また，より複雑なプログラムに必要とされる関数や配列について学びます。

授業における学修の到達目標

プログラムの３つの基本制御構造「逐次」「選択」「反復」を組み合わせたプログラムの作成に習熟します。
配列や関数を利用して，多数のデータを繰り返し処理するプログラムの作成に習熟します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握するとともに，教科書 Lesson1（p.1～p.14）を読んでプログラミングの手順を整理しましょう。 教科書 p.15～p.57 の範囲を読んで，php との文法の違いを整理しておきましょう。	2
	授業	講義の目標と講義の進め方を理解します。 簡単なプログラムをコンパイルして実行し，その手順を学びます。 文字や数字の表示方法を学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	前回に続き，文字や数字の表示方法を学びます。 変数について確認し，C++での変数の利用について学びます。 変数の型について学びます。	
	事後学修	今回の復習用問題集に取り組んで下さい。 演習１の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 教科書の Lesson2 の末尾にある練習問題を解いてみましょう。	4
3	事前学修	教科書 p.58～117 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	データを入力する方法を学びます。 演算子について学びます。	

	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	演算子の優先順位と使い方を学びます。 型変換について学びます。	
	事後学修	初級問題 1 ～ 7 に取り組んで下さい。 演習 2 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で，復習して下さい。 教科書の Lesson3，4 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	5
5	事前学修	教科書 p.118~156 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。 メディア技術演習の教材で（Scratch や php の）分岐や繰り返しについて復習しておきましょう。	2
	授業	関係演算子を用いた条件の表現方法について学びます。 if 文について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
6	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	複数の条件を判断する方法について学びます。 switch 文について学びます。	
	事後学修	初級問題 8，9 に取り組んで下さい。 演習 3 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で，復習して下さい。 教科書の Lesson5 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	5
7	事前学修	教科書 p.157~179 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	for 文について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	while 文について学びます。 文のネストについて学びます。	
	事後学修	初級問題 10，11 に取り組んで下さい。 課題 1，課題 2 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で，復習して下さい。 教科書の Lesson6 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	6
9	事前学修	教科書 p.180~200 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	関数の定義と呼び出しについて学びます。 引数について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	前回に続き，引数について学びます。 戻り値について学びます。 関数の利用方法について学びます。	
	事後学修	初級問題 12，13 に取り組んで下さい。 課題 3 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。	6

		今回の復習用問題集で，復習して下さい。 教科書を確認しながら Sample プログラムを試して理解に努めて下さい。	
11	事前学修	教科書 p.201~244 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	関数の宣言について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	アドレスとポインタについて学びます。	
	事後学修	初級問題 14～16 に取り組んで下さい。 課題 4 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で，復習して下さい。 教科書の Lesson7 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	6
13	事前学修	教科書 p.245~283 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	引数とポインタの関係について学びます。 引数と参照について学びます。 配列について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	配列の応用方法を学びます。 配列と引数の関係について学びます。	
	事後学修	初級問題 17 に取り組んで下さい。 課題 5，課題 6 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で，復習して下さい。 教科書の Lesson8 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	7
15	事前学修	教科書 p.284~299 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	文字列と配列の関係について学びます。	
	事後学修	引き続き，課題 5，課題 6 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 教科書の Lesson9 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	5

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　■小テスト：　20%　□レポート：　%　■演習課題：　　80%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Web サイト上での小テスト形式のものは，即時採点されます。ファイルを提出する課題についてはルーブリックによって評価し，その結果を提示します。

教科書	書名：やさしい C++ 第 5 版 (「やさしい」シリーズ), 著者名：高橋 麻奈, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	教材の Web サイト内で提示します
単位修得が望ましい科目	ICT 入門，メディア技術演習，コンピュータ
備考	授業は週 1 回，2 コマ連続で実施します。
担当教員の実務経験	山北隆典 通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わってきました。授業範囲からではイメージしにく

	い実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう，随時伝えていきます。 柿並義宏 通算で 4 年間システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた．これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する． 伊藤正彦 2000 年から 2004 年にかけて IT 企業において画像データベースシステムを C++で開発していた業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った開発に必要となるノウハウや知見を講義内で伝えていく。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

プログラミング演習Ⅱ Programming 2 Practical

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMT202

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(前半)

授業概要

プログラミング演習 I からの継続講義として，コンピュータ実習を通して C++言語でのプログラミングについて学びます。

大規模なプログラムの開発に必要となるオブジェクト指向の考え方を身につけ，クラスを設計し利用できることを目指します。また，一般的なプログラムに不可欠なファイルの入出力についても学びます。

授業は，Learning Managment System Moodle（POLITE3）を利用して行う。

授業における学修の到達目標

・変数とスコープ，構造体，クラス，ファイルの入出力について理解します。
・大規模なプログラミングに向けて，ソースファイルの分割，インクルードファイル，ライブラリについて理解します。
・学んだ文法を組み合わせて，より複雑なプログラムを作成できるように理解を深めます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	この講義は，2 コマ連続で開講する予定なので，便宜上回数の項目 2 回分を講義の「1 回」として記述しています。すなわち，（奇数回と偶数回の間に事前，事後学習をする時間は実際には取れませんので）授業の項 2 回分に対して，事前学習と事後学習を一つずつ記述し，時間は通常の 2 倍にしてありますので注意して下さい。 プログラミング演習 I の内容（if，for，while，関数，配列等）を復習しておく。 以後 Learning Management System（以下 LMS と略す）上の各回に，次回に向けた「予習と復習」が記載されているので，基本的にその記述に従った事前学習，事後学習を行う。	6.0
	授業	変数とスコープ 講義の目標と講義の進め方を理解します。プログラミング演習 I の範囲の理解度について確認します。ソースプログラムの分割について学びます。 LMS 上の「復習クイズ」，「復習用問題」に取り組む	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
2	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	大規模なプログラムの作成 メモリの確保，ソースプログラムの分割について学びます。 「演習 1」に取り組む。	
	事後学修	LMS 第 1 回「予習と復習」に記載されている復習部分に従って，プログラミング演習 I で学んだ範囲について復習し，変数のスコープと寿命についてまとめる。グローバル変数とローカル変数についてインターネットで調べる。	2.0
3	事前学修	LMS 第 2 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って，教科書 11 章～12.2 を読み，サンプルコードを入力してコンパイル，実行して理解しておく。LMS 上の「第 3 回講義資料」に目を通しておく。	4.0
	授業	構造体 ここまでに登場していない型（列挙型等）について学びます。構造体についても学び，その応用を考えます。LMS の「演習 2」に取り組みます。同「クラス（補足）」を読んでクラスについて	

		理解を深めます。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
4	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	クラス 1 クラスの基本について学びます。クラスの宣言とメンバへのアクセスについて学びます。 「課題 1」「課題 2」に取り組み解答します。	
	事後学修	LMS 第 2 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って，構造体の基本的な考え方について確認しておく。可能ならクラスを使うプログラムを作る。 課題 1，2 で未提出な物があれば取り組み，提出する。	4.0
5	事前学修	LMS 第 2 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って，教科書 11 章～12.2 を読み，サンプルコードを入力してコンパイル，実行して理解しておく。LMS 上の「第 3 回講義資料」に目を通しておく。	4.0
	授業	クラス 2 コンストラクターについて学びます。「復習クイズ」に取り組む。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
6	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	クラス 3 静的メンバについて学びます。LMS「演習 3」に取り組む。	
	事後学修	LMS 第 3 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って，クラスについて復習しておく。	4.0
7	事前学修	LMS 第 3 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って，教科書 14.1～14.4 節を読み，サンプルコードを入力してコンパイル，実行して理解しておく。LMS 上の「第 4 回講義資料」に目を通しておく。	4.0
	授業	クラスの応用 1 クラスの設計とクラスの継承について学びます。LMS の「演習 4」に取り組む。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
8	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	クラスの応用 2 仮想関数と抽象クラスについて学びます。	
	事後学修	LMS 第 4 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って，クラスの作成について復習しておく。課題 3 のプログラムを提出していない場合は，期限までに提出する。	4.0
9	事前学修	LMS 第 4 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って，教科書 14.5～14.6 節，及び 15.1～15.2 節を読み，サンプルコードを入力してコンパイル，実行して理解しておく。 LMS 上の「第 5 回講義資料」に目を通しておく	4.0
	授業	クラスの応用 3 クラスの階層化について学びます。複数のクラスの継承，仮想基本クラスについて学びます。 「課題 3 class の利用」に取り組み解答する。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
10	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	C++の高度な機能 1 演算子のオーバーロードとクラスの型変換について学びます「課題 4　継承」に取り組み解答する。LMS の「演習 5」に取り組む。	
	事後学修	LMS 第 5 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って，クラスの継承について理解を深める。	4.0

		課題 4 のプログラムを提出していない場合は，期限までに提出する。	
11	事前学修	LMS 第 5 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って，教科書 15.3，15.6 節，16.1 節を読み，サンプルコードを入力してコンパイル，実行して理解しておく。LMS 上の「第 6 回講義資料」に目を通しておく。	4.0
	授業	C++の高度な機能 2 メモリの確保と解放について学びます。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
12	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	C++の高度な機能 3 ファイルの入出力については，次回が中心となりますが，できるだけ先へ進んでおきます。 LMS の「演習 6」に取り組みます。 テンプレートと例外処理については，除外していますが，可能な人は読んで理解しておきます。	
	事後学修	LMS 第 6 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って，C++全体（プログラミング演習 I を含めこれまで学んだ全て）について復習しておきます。	4.0
13	事前学修	LMS 第 6 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って，教科書 16.3，16.4 節を読み，サンプルコードを入力してコンパイル，実行して理解しておく。Windows の＋マネージャーを使ってプロセスを停止する方法について確認しておく。（知らない場合は調べる）LMS 上の「第 7 回講義資料」に目を通しておく。	4.0
	授業	ファイルの入出力 1 ストリームと IO マニュピレータについて学びます。LMS の「演習 7」に取り組みます。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
14	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	ファイルの入出力 2 ファイル入出力を扱うプログラムの作成方法について学びます。「課題 5」に取り組み解答します。	
	事後学修	LMS 第 7 回欄の上級向け高難易度課題 A～C は，提出を義務付けませんが目を通して，できるところまで取り組んでみましょう。課題 5 が未提出の場合は期限までに提出します。	4.0
15	事前学修	LMS 上に提示している資料の内，授業で取りあげなかったものについて内容を確認しておく。	2.0
	授業	まとめ これまで学んだことを確認します。今後，実際にプログラムを作成する際に考慮すべき点について理解します。	
	事後学修	言語の文法的な学習は終了しましたが，実際にプログラムを作る際には設計も必要になります。 将来に備え，そうした内容を扱う講義，書籍，Web サイトなどについて調べます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　%　□レポート：　%　■演習課題：　100%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

LMS に提出されたプログラムについてルーブリックによって評価し，その結果を提示します。

教科書	書名：やさしい C++ 第 5 版 (「やさしい」シリーズ), 著者名：高橋 麻奈, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	教材の Web サイト内で提示します。
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習，コンピュータ
備考	授業は週 1 回，2 コマ連続で実施します。
担当教員の実務経験	伊藤正彦

	2000 年から 2004 年にかけて IT 企業において画像データベースシステムを C++で開発していた業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った開発に必要となるノウハウや知見を講義内で伝えていく。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

特別実習Ａ Applied Practical A

担当教員	伊藤 マーティ(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	実習	○	IMT208

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	夏期集中

授業概要

デジタルイラストレーションは、近年イラスト制作の標準となりつつあります。ラフから完成までをパソコンやタブレットなどでシームレスに制作することは、デザイン・イラストレーション業界において必要不可欠なスキルとなっています。いくつかの標準的なアプリケーションがありますが、本講では無料アプリとして人気が高いアイビスペイントをメインにデジタルイラストレーションを本校より個人に貸与しているノートパソコンにて制作します。

授業における学修の到達目標

写真を元にイラストレーションを描き起こすフォトバッシュの制作体験を通し、イラストレーションを描く楽しさや基本技術を習得します。また、キャラクターデザインの基本制作を体験し、背景を含んだイラストレーションの総合制作を習得することを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスの内容を確認し、授業内容を把握しておく。 授業に必要なアプリをダウンロードし各自のノートパソコンにインストールしておく。	10
	授業	デジタルイラストレーションの可能性と有用性について	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	アイビスペイントの基本操作の確認	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
3	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物描画のプロポーション・表情・ポージングの研究	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物描画のアイデアスケッチ	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
5	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	アイデアスケッチをもとにバリエーションを考える	
	事後学修	1 日目の授業内容を復習して、アイデアスケッチのバリエーションを描いてみる。	10
6	事前学修	1 日目のアイデアスケッチをもとに、実制作のための詳細用資料を集める。	10
	授業	アイビスペイントを使用して本制作用のラフスケッチをする	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
7	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	ラフスケッチの詳細を描き込む	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	各パーツごとに詳細を描き込む	

	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
9	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物の仕上げ・バランス調整	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物の完成	
	事後学修	2 日目の授業内容を復習する	10
11	事前学修	2 日目の人物画の背景のための写真素材を集める	10
	授業	フォトバッシュの基本オペレーションを学ぶ	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物画に合わせたフォトバッシュを制作する	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
13	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	画像合成・フィルタリング	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	作品の完成	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
15	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学修	3 日間を通し、学んだことの復習	10

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導します

教科書	
参考書・Web サイト	アイビスペイントのダウンロード先　GooglePlay にて ibisPaint を検索 アイビスペイントのオフィシャルサイト　https://ibispaint.com/
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ウィキペディア（https://ja.wikipedia.org/wiki/伊藤マーティ） 広告代理店に 7 年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業の CI やキャラクターデザイン、広告活動の制作を行っている。

ＩｏＴ時代のセキュリティ Introduction to Security In IoT Era

担当教員	谷口 文威(226 研究室), 広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMT203

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(後半)

授業概要

IoT 時代に入り，コンピュータやスマートフォンだけでなく，様々な機器がインターネットに接続されるようになりました。この中で，ICT 技術者のみならず，ICT 利用者もセキュリティについて理解することは必須です。そこで，本講義では，事例などを交えながら，利用者の視点から多角的にセキュリティについて学習していきます。時にケース・メソッドによる事例に関する検討も行う。

授業における学修の到達目標

(1) インターネットにおける脅威を多角的な視点から把握する。
(2) 脅威の発生を防止するために用いられているセキュリティ技術を理解する。
(3) これらの脅威が発生した場合どのように対処すべきか，利用者の視点から対処方法を習得する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	情報セキュリティにまつわる事例を調査する。	2
	授業	ガイダンス，今日のセキュリティリスク，情報セキュリティとは	
	事後学修	情報セキュリティの定義についてまとめる。	2
2	事前学修	「情報セキュリティの視点」に関するスライドを読み，用語等を整理する。	2
	授業	情報セキュリティの視点・リスクとは	
	事後学修	情報セキュリティの視点の学修から，脅威や対策を考える際，どのような視点で検討すべきかをまとめる。	2
3	事前学修	教科書の 3.1 節と「マルウェア」に関するスライドを読みマルウェアに関する用語を整理する。	2
	授業	マルウェア (1)：脅威	
	事後学修	マルウェアの種類についてまとめる。	2
4	事前学修	教科書の 3.2 節と「マルウェアへの対策」に関するスライドを読み，用語等を整理する。	2
	授業	マルウェア (2)：対策	
	事後学修	マルウェアを始めとする，一般的な情報セキュリティ関係の対策方法の基礎をまとめる。	2
5	事前学修	教科書の 3.6 節，3.7 節と「スマートフォン・IoT 機器の脅威」に関するスライドを読み整理する。	2
	授業	スマートフォン・IoT 機器 (1)：脅威	
	事後学修	スマートフォンや IoT 機器にまつわる脅威について講義内容をまとめる。	2
6	事前学修	教科書の 3.6 節，3.7 節と「スマートフォン・IoT 機器の対策」に関するスライドを読み整理する。	2
	授業	スマートフォン・IoT 機器 (1)：対策	
	事後学修	スマートフォンや IoT 機器に関するセキュリティ対策の基礎をまとめる。	2
7	事前学修	教科書の 5.1.1 節，5.1.2 節と「パスワード認証に関する脆弱性」に関するスライドを読み整理する。	2
	授業	認証技術 (1)：パスワード認証に関する脆弱性と脅威	

	事後学修	パスワード認証における脅威についてと，セキュリティと記憶に関するトレードオフの関係についてまとめる。	2
8	事前学修	教科書 5.1.3 節，5.1.4 節と「パスワード認証の対策とその他の認証技術」に関するスライドを読み整理する。	2
	授業	認証技術 (2)：対策とパスワード認証以外の認証技術	
	事後学修	パスワード認証以外の認証技術についてまとめる。	2
9	事前学修	教科書の 5.2 節，5.3 節と「攻撃手法と脆弱性を悪用した攻撃」に関するスライドを読み整理する。また，IP アドレスとポートという用語について事前に調査し，まとめる。	2
	授業	不正アクセス	
	事後学修	不正アクセスがなされてしまうその手順や，方法についてまとめる。	2
10	事前学修	教科書の 5.3.2 節と「Web にまつわる脅威」に関するスライドを読み整理する。	2
	授業	Web にまつわる脅威	
	事後学修	Web にまつわる脅威について，その手法の概要と影響についてまとめる。	2
11	事前学修	教科書の 4 章と「ファイアウォール」に関するスライドを読み，整理する。	2
	授業	ファイアウォール	
	事後学修	ファイアウォールとは何か，この機能についてまとめる。	2
12	事前学修	教科書の 5.1 節「暗号技術」に関するスライドの該当箇所を読み，整理する。	2
	授業	暗号技術 (1)：暗号	
	事後学修	暗号に関する用語，仕組みの概要についてまとめる。特に，共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式それぞれの役割についてまとめる。	2
13	事前学修	教科書の 5.2 節，5.3 節，5.4 節と「暗号技術」に関するスライドの該当箇所を読み，整理する。	2
	授業	暗号技術 (2)：ディジタル署名と暗号アプリ編	
	事後学修	ディジタル署名とはどのような技術であるかや，PKI が存在する意義や，TLS とは何か，TLS はどのような暗号技術を組み合わせてできているかをまとめる。	2
14	事前学修	教科書の 4 章，6 章と「情報セキュリティの国際標準と法規」に関するスライドの該当箇所を読み整理する。	2
	授業	情報セキュリティの国際標準と法規	
	事後学修	情報セキュリティの国際標準や法規についてまとめる。	2
15	事前学修	教科書の 3.3 節，3.4 節，3.5 節と「ソーシャルエンジニアリング」に関するスライドを読み，ソーシャルエンジニアリングとは何かについて講義スライドなどを参考に調査し，事例をレポートにまとめる。	3
	授業	ソーシャルエンジニアリング	
	事後学修	ソーシャルエンジニアリングの種類を整理する。	1

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：80%　□小テスト：　　%　■レポート：5%　■演習課題：15%　　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE3 上でフィードバックします。

教科書	書名：情報セキュリティ読本 五訂版: IT 時代の危機管理入門, 著者名：情報処理推進機構, 出版社：実教出版, 備考：
参考書・Web サイト	相戸 浩志，図解入門 よくわかる最新情報セキュリティの基本と仕組み，秀和システム 齋藤 孝道，マスタリング TCP/IP 情報セキュリティ編，オーム社

	徳丸 浩，体系的に学ぶ 安全な Web アプリケーションの作り方 第 2 版，SB クリエイティブ
単位修得が望ましい科目	情報倫理，ICT 入門，コンピュータ
備考	詳細については初回の講義で説明します。
担当教員の実務経験	実務経験なし

Ｗｅｂデザイン基礎演習 Introduction to Web Design

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
斎藤 一(122 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 辻 順平(223 研究室)	2 単位	演習	○	IMD101

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期(前半)

授業概要

Web デザインとは，主にパソコンやスマートフォン向けの Web ページをデザインすること指します。見た目を中心とするグラフィックデザインの要素を多く含む一方で，Web アプリケーションの UI（ユーザインタフェース）等，ユーザの操作に応じて表示が変化するような，インタラクティブな Web ページへの対応も必要です。また，見栄えが良く，分かりやすい Web ページをデザインするためには，Web デザインの基本的なルールや知識を学ぶ必要があります。本講義では，画像加工ソフトウェアやプロトタイピングツールを用いた，Web デザインの実習を通して，Web デザインの基本的なルールやレイアウトについて学びます。また，Web やスマートフォン用のアプリケーションの UI を意識した，デザインについても学びます。

授業における学修の到達目標

・Web デザインの基本的な工程やルールを理解する。
・画像加工ソフトウェア等を利用した基本的な Web デザインができるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読み，授業内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス: 本講義の学習目的や実習の方法を説明する	
	事後学修	授業の内容を復習し，Web デザインのプロセスについて理解を深める	2.0
2	事前学修	Web 教材「授業の準備と課題提出の方法」を事前に読んでおく	2.0
	授業	実習の準備: 実習のプロセス（共有フォルダ，課題のアップロードの方法等）を説明する	
	事後学修	授業の内容を復習し，実習のプロセスを確認する	2.0
3	事前学修	Web 教材「Web とは何か？」を予め読んでくる	2.0
	授業	Web デザインのセオリー: Web デザインの理論を外観する	
	事後学修	教材を読み返して Web デザインの理論について理解を深める	2.0
4	事前学修	Web 教材「画像加工ソフトウェアの基本」を予め読んでくる	2.0
	授業	画像加工ソフトウェアの基本操作	
	事後学修	Web 教材を読み返して，画像加工ソフトウェアの基本操作について復習をしておく	2.0
5	事前学修	Web 教材「画像の補正」を予め読んでおく	2.0
	授業	画像の補正: 画像加工ソフトウェアを使用した画像の補正方法について実習を行う	
	事後学修	制作したコピースタンプやレタッチ機能を使用した課題について，課題の題意に対して，適切に機能が使われていたのかを検討する。	2.0
6	事前学修	Web 教材「図形を描く」を予め読んでおく。	2.0
	授業	図形を描く実習を行う	

	事後学修	Web 教材を読み直して，これまでに習ったソフトウェアの機能を確認する。	2.0
7	事前学修	Web 教材「グラフィックデザインの原則」を予め読んでくる	2.0
	授業	グラフィックデザインの原則： グラフィックデザインの原則である，近接，整列，反復，コントラストについて説明する。	
	事後学修	教材を読み返して，グラフィックデザインの原則についての理解を深める	2.0
8	事前学修	Web 教材「文字の入力」を予め読んでおく	2.0
	授業	文字の入力： 文字を使った課題制作の実習を通して，フォントの選択や使用方法を理解する	
	事後学修	Web 教材に示した URL 等を参考に，デザインで使用するフォントの種類や用途について，理解を深める	2.0
9	事前学修	Web 教材「シンプルな Web サイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	シンプルな Web サイトをデザインする実習を行う	
	事後学修	自分の制作した課題と，作例を比較し，改善できる箇所等を検討する	2.0
10	事前学修	作成用の素材を確認し，デザインする Web ページのイメージを考えておく	2.0
	授業	園芸店の Web サイトのデザイン： 園芸店の Web サイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	実際の園芸店のサイトを調べ，自分の作成した作品との違いについて考察する	2.0
11	事前学修	Web 教材「コーポレートサイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	コーポレートサイトのデザイン： コーポレートサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分の制作した課題と，作例を比較し，改善できる箇所等を検討する	2.0
12	事前学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に，オリジナルのデザイン案を考えておく	2.0
	授業	オリジナルのコープレートサイトのデザイン： オリジナルのコープレートサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に，自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
13	事前学修	Web 教材「スマートフォンサイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	スマートフォンサイトのデザイン： スマートフォンサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分の制作した課題と，作例を比較し，改善できる箇所等を検討する	2.0
14	事前学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に，オリジナルのスマートフォンサイトのデザイン案を考えておく	2.0
	授業	オリジナルのスマートフォンサイトのデザイン： オリジナルのスマートフォンサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生やＳＡと改善点がないか等のディスカッションを行う。	

	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に，自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
15	事前学修	Web 教材を復習しておく。また，オリジナルのサイトデザインを考えておく	2.0
	授業	オリジナルサイトのデザイン： これまでの実習の集大成として，オリジナルのサイトをデザインする実習を行う	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に，自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　%　□レポート：　%　■演習課題：100%
□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE3 を通じてコメント等をフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	北村　崇　著「世界一わかりやすい　Adobe XD｜UI デザインとプロトタイプ制作の教科書」技術評論社 グラフィックデザイン Illustrator & Photoshop，デジタルハリウッド，技術評論社，2015 デザイン入門教室 [特別講義] 確かな力を身に付けられる ~学び、考え、作る授業~ (Design&IDEA)，坂本 伸二，SB クリエイティブ，2015
単位修得が望ましい科目	なし
備考	課題（Web ページのデザイン）を重視して評価をします。制作の過程も評価の対象としますので，途中までででしか出来上がっていない場合でも，課題は必ず提出（アップロード）するようにしましょう。
担当教員の実務経験	実務経験なし。実務経験者に教材内容に対してのアドバイスを受けている。

デッサン Drawing

担当教員	島名 毅(非常勤),山本 真紀(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMD102

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	前期

授業概要

デッサンは、あらゆる視覚芸術、視覚作品、視覚制作物の基本です。
デッサンを通し、観察力を向上させることにより、気付くことの大切さを学びます。
演習内では基礎的な内容から高難易度の石膏デッサンまで実習形式にて行います。

授業における学修の到達目標

デッサンの奥深さを知ると共に、日常から観察する習慣を身につけることを目標とする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	使用画材を事前に準備する 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	静物デッサン基礎を行う	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
2	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	静物デッサン基礎の続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
3	事前学修	使用画材を事前に準備する 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	静物デッサン応用を行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
4	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	静物デッサン応用の続きを行う。講評会	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
5	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	手のクロッキーを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
6	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	手のクロッキーの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
7	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	構成デッサンを行う。	

	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
8	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	構成デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
9	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物クロッキーを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
10	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物クロッキーの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
11	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
12	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
13	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
14	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
15	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	漫画やイラストの歴史を紹介すると共に描き方のコツについて講義する。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
16	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	漫画デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
17	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	風景デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
18	事前学修	鉛筆削り等準備しておく	2.0

		普段から物をよく観察するようにする	
	授業	風景デッサンの続きを行う。講評会	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
19	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	細密デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
20	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	細密デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
21	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	絵画,アートについて講義する	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
22	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサンの描き方について VTR を通して紹介する。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
23	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像を行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
24	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
25	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
26	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
27	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像を行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
28	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。	

	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
29	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
30	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：80　　%

■その他　理解度：10%　熱意：10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

項目終了後に作品を並べての講評会を行います。

明確な答えはないため、よりよくなるためのアドバイスをその場にて行います。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	必要教材の詳細は掲示で案内します。掲示を確認し、購入の必要な教材は購入してください。 ・スケッチブック　・鉛筆（3B F 3H）　・練りゴム　・カッター　等
担当教員の実務経験	芸術大学での教育経験を活かし、デッサンの肝となる部分をわかりやすく教授する。現札幌大谷大学芸術学部美術学科准教授。

メディアデザインの基礎演習 Practicum in Media Design

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 伊藤 マーティ(非常勤), 徳中 康弘(非常勤), 村田 和巳(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IMD103

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

WEB や広告を含むメディアデザインはコミュニケーションツールのとても大切な部門である。 本科目は，座学と演習を交えた講義である。
座学ではより良い視覚伝達のための技術習得としてメディアデザインの基礎を学ぶ。「伝える」ことに必要なデザインの基本と，あらゆるメディアに活かし，制作できるようにするための基本を学ぶ。最終課題ではオリジナルの企画・デザインを行う。

授業における学修の到達目標

デザインとは何かを座学を通し理解する。次に,情報を整理しデザイン化する基本実習能力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する	4.0
	授業	ガイダンス	
	事後学修	特になし	0.0
2	事前学修	特になし	0.0
	授業	デザインとは・ビジュアルコミュニケーション （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
3	事前学修	特になし	0.0
	授業	デザインの 4 原則 （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
4	事前学修	特になし	0.0
	授業	色彩について （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
5	事前学修	特になし	0.0
	授業	ユニバーサルデザイン （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
6	事前学修	特になし	0.0
	授業	コピー・レイアウト （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0

7	事前学修	特になし	0.0
	授業	ビジュアルについて【イラストレーション、画像の効果的な使い方】 （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
8	事前学修	特になし	0.0
	授業	タイポグラフィ （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
9	事前学修	特になし	0.0
	授業	コンセプト （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	ロゴについて （座学・演習課題）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	【演習課題】あなたの動物園 概要説明・企画作成	
	事後学修	企画の修正点をまとめる	4.0
12	事前学修	企画を修正する	4.0
	授業	【演習課題】あなたの動物園 企画作成	
	事後学修	特になし	0.0
13	事前学修	特になし	0.0
	授業	【演習課題】あなたの動物園 ロゴタイプ作成	
	事後学修	ロゴタイプの修正点をまとめる	4.0
14	事前学修	ロゴタイプの修正を行う	2.0
	授業	【演習課題】あなたの動物園 シンボルマーク作成	
	事後学修	シンボルマークの修正点をまとめる	2.0
15	事前学修	シンボルマークの修正を行う	2.0
	授業	【演習課題】あなたの動物園 各作品のクオリティアップ	
	事後学修	授業全体で学んだ内容を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：0%　□グループ討議参加度 0%　□レポート：0%　■演習課題：100%　□プレゼンテーション：0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し POLITE を通じてコメントにてフィードバックを行う

教科書	

参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	実習では,紙やのり,ペンなどを使った手作り作品を多数作ります。 下記の道具と共に必ず持参すること。 【毎回必要な道具】 カラーペン（12 色以上），色鉛筆(12 色以上），消しゴム，定規，カッターナイフ，はさみ，のり
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、Web/グラフィックともにデザインを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務を行う上で最低限必要なデザインの知識を教える。 担当者の一人は、建築計画・設計の過程で、コンペティション応募やクライアントに向けた数多くのポスター作成を行っており、また UX やデザイン心理学の側面からグラフィック・Web 等のデザインを検討してきた。これらの経験を活かす形で、実務を行う上で最低限必要なデザインの知識を教える。

デザインエレメンツ・演習 Practical Media Design

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
杉澤 愛美(133 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 近澤 美里(非常勤), 徳中 康弘(非常勤), 村田 和巳(非常勤)	4 単位	演習		IMD104

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	1 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	1 年	後期

授業概要

各種デザイン制作のベースとなる Adobe Illustrator,Adobe Photoshop の基本から本格使用までを,演習課題を多数制作しながら,じっくり身につけ,情報メディアにおけるデザインスキルの基本を磨く実践トレーニング。また, 課題を通じて,マルチメディア表現,シミュレーション,図形処理と画像処理,DTP（DeskTop Publishing）, Web デザインの基礎などの知識も学ぶ。最終課題としてオリジナルの作品を作る。課題毎に難易度がアップし、講義で終わらない課題は宿題として課す。
2 年生でのビジュアル構成・演習,グラフィックデザイン演習と続くプロデザイナー教育の第一歩。

授業における学修の到達目標

Adobe Illustrator,Adobe Photoshop を使っての初中級レベルのデザインスキルを身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する	4.0
	授業	・ガイダンス ・Adobe illustrator の基本説明 （アプリケーションの画面説明・環境設定・新規作成）	
	事後学修	特になし	0.0
2	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-01 （illustrator を使用した作図_ぶどう・木）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
3	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-01 （illustrator を使用した作図_キーボード・ビル・雪の結晶）	
	事後学修	特になし	0.0
4	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-02 （ペンツールを使った作図）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
5	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe illustrator の基本 （ 図形の編集・加工）	
	事後学修	特になし	0.0
6	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-03	

		（整列・線の太さ形状・パスファインダ）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-04-1 （ピクトの作成）	
	事後学修	特になし	0.0
8	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-04-2 （自分のロゴタイプ・ロゴマーク作成_企画）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
9	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-04-2 （自分のロゴタイプ・ロゴマーク作成_制作）	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-05 （グラデーション・ブレンドツールの活用_ガイダンス）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-05 （グラデーション・ブレンドツールの活用_制作）	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-06 （キャラクターイラストの作成_ガイダンス）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-06 （キャラクターイラストの作成）	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-06 （キャラクターイラストの作成_仕上げ）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
15	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-07 （フォント・テキストの活用）	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-08 （名刺の作成）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0

17	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe illustrator の最終課題 （自己紹介の作成_企画）	
	事後学修	特になし	0.0
18	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の最終課題 （自己紹介の作成_制作）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
19	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe Photoshop の基本 （アプリケーションの画面説明・環境設定・新規作成）	
	事後学修	特になし	0.0
20	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe Photoshop の基本 （各機能の説明）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
21	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe Photoshop の基本課題 B-01 （牧場の空の入れ替え）	
	事後学修	特になし	0.0
22	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe Photoshop の基本課題 B-02 （画像の付け加え・変形・加工）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
23	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe Photoshop の基本課題 B-02 （ブラシを使った画像の修正）	
	事後学修	特になし	0.0
24	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe Photoshop の基本課題 B-03 （画像の加工・コラージュ）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
25	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・Adobe Photoshop の最終課題 （コラージュ_企画）	
	事後学修	特になし	0.0
26	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe Photoshop の最終課題 （コラージュ_作成）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
27	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・illustrator・Photoshop の実践演習 C-01	

		（フライヤーのレイアウト/ガイダンス）	
	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	特になし	0.0
	授業	・illustrator・Photoshop の実践課題 C-01 （フライヤーのレイアウト/作成）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
29	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・illustrator・Photoshop の最終課題 （フライヤーの作成_企画）	
	事後学修	特になし	0.0
30	事前学修	特になし	0.0
	授業	・Adobe illustrator の基本課題 A-04-2 （自分のロゴタイプ・ロゴマーク作成_制作）	
	事後学修	これまでに課題で使用した機能・ツール等の復習を行う	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：0%　□レポート：0%　□小テスト：0%　■演習課題：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対しコメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、illustrator・Photoshop を利用したイラスト制作・デザインを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わりないソフトの活用方法を教える。

図形科学の基礎 Fundamentals of Graphic Science

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	講義	○	IMD202

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(前半)

授業概要

メディア表現系科目を学習するうえで共通の基礎となる図形科学の学習と演習の講義である。

図形科学の基礎である幾何学と立体図形表現の基礎となる図学について体系的学習を行う。

図学では製図の基礎知識を応用し，講義で解題した演習課題について三角定規とコンパスを用いた用器作図による作図演習を実習として行う。

作図演習は、立体を正確に表現するうえで不可欠な正投象(正投影ともいう)と，立体をわかかり易く表現する軸測投象や透視投象(遠近法)について課題を設定する。

授業における学修の到達目標

図形、空間、幾何学に関する基本的な知識と表現技法の習得を目標とする。

三次元空間内の図形を二次元平面に表現する「作図能力」と，二次元図から立体を読みとる「読図能力」の向上を図り，メディア表現系科目の図形科学的な問題に対する理解力と応用力を養う。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2
	授業	図形科学の概要	
	事後学修	図形科学の概要についてレポートにまとめる	2
2	事前学修	正投象の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	正投象の概要	
	事後学修	正投象の概要についてレポートにまとめる	2
3	事前学修	用器製図についてテキストで予習をする	2
	授業	用器製図	
	事後学修	用器製図についてレポートにまとめる	2
4	事前学修	直線の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	直線の投象	
	事後学修	直線の投象についてレポートにまとめる	2
5	事前学修	作図のフォーマットについてテキストで予習をする	2
	授業	作図のフォーマット	
	事後学修	作図のフォーマットについてレポートにまとめる	2
6	事前学修	複数の直線の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	複数の直線の投象	
	事後学修	複数の直線の投象についてレポートにまとめる	2
7	事前学修	複数の直線の性質についてテキストで予習をする	2
	授業	複数の直線の性質	
	事後学修	複数の直線の性質についてレポートにまとめる	2
8	事前学修	多面体の投象についてテキストで予習をする	2

	授業	多面体の投象	
	事後学修	多面体の投象についてレポートにまとめる	2
9	事前学修	三面図の作図についてテキストで予習をする	2
	授業	三面図の作図	
	事後学修	三面図の作図についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	平面の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	平面の投象	
	事後学修	平面の投象についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	平面上の点および直線についてテキストで予習をする	2
	授業	平面上の点および直線	
	事後学修	平面上の点および直線についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	図形の操作についてテキストで予習をする	2
	授業	図形の操作	
	事後学修	図形の操作についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	多面体の切断についてテキストで予習をする	2
	授業	多面体の切断	
	事後学修	多面体の切断についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	ラバットについてテキストで予習をする	2
	授業	ラバット	
	事後学修	ラバットについてレポートにまとめる	2
15	事前学修	展開図についてテキストで予習をする	2
	授業	展開図	
	事後学修	展開図についてレポートにまとめる	2
16	事前学修	曲線の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	曲線の描画	
	事後学修	曲線の描画についてレポートにまとめる	2
17	事前学修	円錐曲線の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	円錐曲線の描画	
	事後学修	円錐曲線の描画についてレポートにまとめる	2
18	事前学修	陰影の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	陰影の投象	
	事後学修	陰影の投象についてレポートにまとめる	2
19	事前学修	陰の交点の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	陰の交点の投象	
	事後学修	陰の交点の投象についてレポートにまとめる	2
20	事前学修	等軸測図の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の概要	
	事後学修	等軸測図の概要についてレポートにまとめる	2
21	事前学修	等軸測図の読み取りについてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の読み取り	

	事後学修	等軸測図の読み取りについてレポートにまとめる	2
22	事前学修	等軸測図の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の描画	
	事後学修	等軸測図の描画についてレポートにまとめる	2
23	事前学修	等軸測図上の円についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図上の円	
	事後学修	等軸測図上の円についてレポートにまとめる	2
24	事前学修	斜投象の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	斜投象の概要	
	事後学修	斜投象の概要についてレポートにまとめる	2
25	事前学修	斜投象の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	斜投象の描画	
	事後学修	斜投象の描画についてレポートにまとめる	2
26	事前学修	透視図の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	透視図の概要	
	事後学修	透視図の概要についてレポートにまとめる	2
27	事前学修	直接法による透視図についてテキストで予習をする	2
	授業	直接法による透視図	
	事後学修	直接法による透視図についてレポートにまとめる	2
28	事前学修	全透視の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	全透視の概要	
	事後学修	全透視の概要についてレポートにまとめる	2
29	事前学修	消去法による透視図についてテキストで予習をする	2
	授業	消去法による透視図	
	事後学修	消去法による透視図についてレポートにまとめる	2
30	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	テストおよび内容の解説	
	事後学修	テストの自己採点結果についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40%　■小テスト：15%　■演習課題：45%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに，誤った解答の傾向についても紹介する。

課題の提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	書名：基準課程 図学, 著者名：井野 智, 川田 孝之, 杉野目 章, 内山 武司, 早坂 洋史, 井畑 孝夫, その他, 出版社：共立出版, 備考：特になし
参考書・Web サイト	三次元造形ドリル―積み木で特訓 本格脳トレーニング・共立出版
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	製図用具：三角定規 1 組(約 20cm)，シャープペンシル(0.3φ,0.5φ,0.8φ)もしくは鉛筆，コンパス
担当教員の実務経験	特になし

特別実習Ｂ Applied Practical B

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	実習	○	IMD211

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	冬期集中

授業概要

３Ｄ映像の制作には必要不可欠となったモーションキャプチャシステムについての知識を体得することを目指します。本学所有のモーションキャプチャシステムを用い，実在する人の動きを取り込む手法について体験します。そして、３ＤＣＧキャラクタを動かします。

授業の進行はグループでモーションを考え、協力しあってキャラクタアニメーションまで仕上げるグループワークが中心となります。

授業における学修の到達目標

通常は触れることのできないであろうコンピュータグラフィックスの特殊な装置に触れ，操作することで，これまでとは違ったものの見方，考え方を養うことを目標とします。加えて，期限内に納品するという社会的責任について意識を高めることを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	モーションキャプチャについて調べる	2.0
	授業	ガイダンス	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ	2.0
2	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ	2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（機材設置）	
	事後学修	モーションキャプチャの装置についてまとめる	2.0
3	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ	2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（チーム分け）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ	2.0
4	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ	2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（撮影動作の検討）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ	2.0
5	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ	2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（撮影）	
	事後学修	モーションキャプチャの装置についてまとめる	2.0
6	事前学修	事前に配布された資料を読み、編集作業への理解を深めておく	2.0
	授業	モーションデータとは	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ	2.0
7	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ	2.0
	授業	モーション編集（撮影データの取り込み）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ	2.0
8	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ	2.0

	授業	モーション編集（撮影データの確認）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ	2.0
9	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ	2.0
	授業	モーション編集（ラベル付）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ	2.0
10	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ	2.0
	授業	モーション編集（データ修正）	
	事後学修	モーションデータの編集をすすめる	2.0
11	事前学修	事前に配布された料を読み、キャラクタ化への理解を深めておく	2.0
	授業	モーション編集（データ確認）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため１５回目と同じ	2.0
12	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため１１回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション化とは	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため１５回目と同じ	2.0
13	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため１１回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション化（データ変換）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため１５回目と同じ	2.0
14	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため１１回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション化（キャラクタライズ）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため１５回目と同じ	2.0
15	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため１１回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション化（確認）	
	事後学修	作業を振り返りまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：60%　■その他[　グループワーク：40%　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導する

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	3DCG 演習・ゲーム CG 演習
備考	機材の操作方法をまとめた PDF を配布します。
担当教員の実務経験	3DCG 制作・クライアントワークの経験を生かし、機材の扱いからデータ編集まで丁寧な作業と確認を意識するよう指導する。

情報システム特別講義 Special Lectures on Information Systems

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
明神　知、小走　安則　他(304 研究室), 明神　知、小走　安則　他(305 研究室)	2 単位	講義		SCM385

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

企業や組織体は，常に変動する経営環境に対応し，日進月歩する情報技術を取り入れて，経営と一体となった情報システムを実現し，その利活用による経営戦略の確立に努力している。企業や組織体の情報システムの現実の姿を知るために，産業界の各分野の第一線で活躍されている技術者や指導者を招聘した最新の情報システムに関するオムニバス形式の講義である。１回あたり２．５コマの講義なので６回で１５コマに相当する。６回とも違う業界の異なる講師なので内容に関係や順序関係はない。したがって事前と事後の学習は同じ内容になっている。授業計画に掲載したテーマは過去の例示であり、内容は開講年度ごとに異なるものとなる。

授業における学修の到達目標

大学で修得した科目内容と実際の企業や組織体での情報システムの現実の姿の差異を説明できるようになる。これによって自分の将来の仕事として考えられるかどうかの判断ができる。その結果、就職先や志望の業界をいち早く知ることにより効率的かつ効果的な就職活動を行えるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	「エストニアの電子政府」について事前調査する	2
	授業	「エストニアの電子政府」講義	
	事後学修	「エストニアの電子政府」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
2	事前学修	「エストニアの医療情報システム」について事前調査する	2
	授業	「エストニアの医療情報システム」講義	
	事後学修	「エストニアの医療情報システム」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
3	事前学修	「自動車のシステム開発」について事前調査する	2
	授業	「自動車のシステム開発」講義	
	事後学修	「自動車のシステム開発」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
4	事前学修	「自動車のシステム開発」その２やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「自動車のシステム開発」その２講義	
	事後学修	「自動車のシステム開発」その２のレポート課題に備えて考えをまとめておく。	2
5	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う	2
	授業	レポート試験 0.5 コマ×２回分＝1 コマ分	
	事後学修	２回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2
6	事前学修	「アパレルブランド情報システム」その１やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「アパレルブランド情報システム」その１講義	
	事後学修	「アパレルブランド情報システム」その１のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
7	事前学修	「アパレルブランド情報システム」その２やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「アパレルブランド情報システム」その２講義	

	事後学修	「アパレルブランド情報システム」その 2 のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
8	事前学修	「ハードウェアとソフトウェアの接点」その 1 やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「ハードウェアとソフトウェアの接点」その 1 講義	
	事後学修	「ハードウェアとソフトウェアの接点」その 1 のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
9	事前学修	「ハードウェアとソフトウェアの接点」その 2 やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「ハードウェアとソフトウェアの接点」その 2 講義	
	事後学修	「ハードウェアとソフトウェアの接点」その 2 のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
10	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う	2
	授業	レポート試験 0.5 コマ× 2 回分＝1 コマ分	
	事後学修	2 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2
11	事前学修	「情報システム開発の現場から」その 1 やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「情報システム開発の現場から」その 1 講義	
	事後学修	「情報システム開発の現場から」その 1 のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
12	事前学修	「情報システム開発の現場から」その 2 やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「情報システム開発の現場から」その 2 講義	
	事後学修	「情報システム開発の現場から」その 2 のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
13	事前学修	「建築業界の情報システム」その 1 やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「建築業界の情報システム」その 1 講義	
	事後学修	「建築業界の情報システム」その 1 のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
14	事前学修	各テーマにおける課題やトピックスについて事前調査する	2
	授業	「建築業界の情報システム」その 2 講義	
	事後学修	「建築業界の情報システム」その 2 のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
15	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う	2
	授業	レポート試験 0.5 コマ× 2 回分＝1 コマ分	
	事後学修	総復習　6 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：100%　□演習課題：　　%

■その他[成績評価は，出席回数が 2／3 以上（4 回以上。但し，公認欠席と特別欠席を除く）の受講生に対して実施する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題やレポートに関する質問に回答する。レポートに関しては講師がコメントを記載してフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	本講義は，後期の土曜日に開講する。6 名の非常勤講師（外部有識者）による 6 回のオムニバス形式の講義である。 各回とも，午後 2 コマの講義（12:55-14:25，14:35-16:05）と 0.5 コマ（16:15-17:00)のレポート課題の計 2.5 コマとなる。 講義の日程と順番は，掲示で知らせる。講師と講義内容は事情により変更する場合もある。
担当教員の実務経験	実務経験あり。実務経験のある非常勤講師から、情報システム活用したビジネスの最前線の

	話を講演する。学業で修得した内容と、社会での類似点と相違点について講師からリアルな実践的内容を具体的に講演してもらい知識の幅を広げてもらう。

メディアデザイン特別講義（2022 年度休講） Special Lectures on Media Design

担当教員	安田　光孝　他(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC202

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

（2022 年度休講）

本講義では，情報メディアに関係する業界で実際に活躍している人を毎回招き，オムニバス形式で講義を行う。

実社会で実務経験を積んだ人の生（ナマ）の話を聞くことは，これから学生諸君が自分のキャリアを考えるにあたり，非常に有益である。諸君はこれを機会に，社会とはどんなものか，仕事とはどんなものなのかを知り，また，今まで大学で習得した知識と技術を見つめ直して，自分が社会に出て行く上での準備につなげて欲しい。質問の時間も設けるので，積極的に質問して欲しい。

授業における学修の到達目標

情報メディアおよび IT 業界，あるいは企業や組織体の最新の状況を聞き，それらが抱える問題やこれからの方向性をさまざまな視点で把握し，自らの学習および将来の展望へとつなげる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義の目的，スケジュールを確認しておく どのような業界なのかを調べておく	2
	授業	ガイダンス 業界事前調査「グラフィックデザイン分野」「Web デザイン分野」	
	事後学修	調査で足りなかった情報を補足する	2
2	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「グラフィックデザイン分野」非常勤講師による講話 （業界について　キャリアについて　など）	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
3	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「グラフィックデザイン分野」非常勤講師による講話 （仕事内容について　具体的な仕事実例紹介　など） →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2
4	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「Web デザイン分野」非常勤講師による講話 （業界について　キャリアについて　など）	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
5	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「Web デザイン分野」非常勤講師による講話 （仕事内容について　具体的な仕事実例紹介　など） →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2

6	事前学修	どのような業界なのかを調べておく	2
	授業	業界事前調査「VR/AR 分野」「ゲーム開発分野」	
	事後学修	調査で足りなかった情報を補足する	2
7	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「VR/AR 分野」非常勤講師による講話 （業界について　キャリアについて　など）	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
8	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「VR/AR 分野」非常勤講師による講話 （仕事内容について　具体的な仕事実例紹介　など） →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2
9	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「ゲーム開発分野」非常勤講師による講話 （業界について　キャリアについて　など）	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
10	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「ゲーム開発分野」非常勤講師による講話 （仕事内容について　具体的な仕事実例紹介　など） →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2
11	事前学修	どのような業界なのかを調べておく	2
	授業	業界事前調査「広告分野」「コピーライティング分野」	
	事後学修	調査で足りなかった情報を補足する	2
12	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「広告分野」非常勤講師による講話 （業界について　キャリアについて　など）	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
13	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「広告分野」非常勤講師による講話 （仕事内容について　具体的な仕事実例紹介　など） →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2
14	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「コピーライティング分野」非常勤講師による講話 （業界について　キャリアについて　など）	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
15	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「コピーライティング分野」非常勤講師による講話 （仕事内容について　具体的な仕事実例紹介　など） →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2

成績評価の方法およびその基準
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：100%　□演習課題：　　% □その他[　　]
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
外部非常勤講師の採点のため、特別必要がある場合はメール等でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ，講義中に指示する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	2022 年度は開講しません。 --- 隔年開講科目です。 ・講義は，前期の土曜日に開講する。 ・6 名の非常勤講師（外部有識者）によるオムニバス形式の講義である。 ・1 回の講義は，午後 2 コマ（12:55-14:25、14:35-16:05）とレポートまたは小テストの 0.5 コマ（16:15-17:00）の系 2.5 コマとなる。 ・各講義の分野、講師，日程，順番は，講師の事情により変更する場合もある。
担当教員の実務経験	登壇する非常勤講師は全て，それぞれの分野・業界の実務経験を持つものを招聘する。ゆえに，実際に現場で使っている最新の技術，手法を学生は知ることができる。

インターンシップ Internship

担当教員	谷口 文威(226 研究室), 森川 悟(856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMC311

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	夏期集中

授業概要

インターンシップとは，学校でそれまでに習得した専門知識や技術をベースに，在学中の学生が実企業の職場において一定期間（実働 5 日間以上）の就業経験を積むことによって，実社会の生きた知識を学ぶ実習であり，以下のようなねらいがあります。

（1）就業体験を通して，専門的職業人としての労働の実態や社会で働くことの意味を理解し，自己の職業適性や将来設計について考える機会とする。
（2）職業人として必要な高度な知識や技術のレベルを肌で感じることによって学問の大切さを知り，大学生としてふさわしい学問レベルについて考える機会とする。
（3）業界や職種に関する知識を得ることにより，高い職業意識を養い，主体的な職業選択ができるようになる。

また、最後にはインターンシップで得られた成果を報告するためのプレゼンテーション会を学内で実施する。

授業における学修の到達目標

大学で学んだことを実際の職場の中でどのように活用することができるかということ，並びにどのような学習が必要であるか実務を通して知ることにより，その後の学習意欲を高めて，十分な学士力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認して科目の全体の内容を把握するとともに，説明会に参加して必要な準備について把握する	2.0
	授業	インターンシップ実施説明	
	事後学修	説明された内容を改めて確認する	2.0
2	事前学修	インターンシップ事前研修の内容を把握する	2.0
	授業	インターンシップ事前研修	
	事後学修	インターンシップ事前研修の内容を振り返る	2.0
3	事前学修	研修先企業に関する調査	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
4	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
5	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
6	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0

7	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
8	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
9	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
10	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
11	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
12	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
13	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
14	事前学修	インターンシップ報告プレゼンテーションで必要な内容を確認する	2.0
	授業	インターンシップ報告プレゼンテーションの資料作成	
	事後学修	インターンシップ報告プレゼンテーション資料の改善	2.0
15	事前学修	インターンシップ報告プレゼンテーション準備	2.0
	授業	インターンシップ報告プレゼンテーション会実施	
	事後学修	インターンシップでの体験と報告プレゼンテーションの振り返りを行う	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：50　%　□演習課題：　　%

■その他[受入企業の研修記録及び評価書：50%　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

インターンシップ報告発表会において評価、コメントをします。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし。
単位修得が望ましい科目	特になし。
備考	・インターンシップ希望者は 5 月に行われる説明会に参加すること。説明会については別途掲示する。 ・平成 21 年度入学生以降は全員，学生教育研究災害傷害保険（学研災）及び学研災付帯賠償責任保険（付帯賠責）に加入済み。
担当教員の実務経験	実務経験無し

ＣＧプログラミング CG Programming

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC304

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期(前半)

授業概要

コンピュータの高度利用技術であり情報メディア工学の核をなす CG（コンピュータ・グラフィックス）の原理と理論を学び，その応用技術を実習課題の制作を通して修得することを目的とする。
2 次元 CG および 3 次元 CG の原理と表現技法を実習形式で学び，課題のプログラミングによって CG の作成技術を修得する。プログラミング言語は Java のグラフィックス機能に特化した IDE である Processing を予定している。

授業における学修の到達目標

2D，3D の CG プログラミングに関して，どのような技術が使われているのかという知見を取得し，その数学的なモデルをプログラムへ実装する力を実習を通して養う。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2
	授業	プログラミングによる CG 実装の概要	
	事後学修	講義資料を基に開発環境に関する復習をする	2
2	事前学修	POLITE で配布した描画関数の利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	描画関数の利用	
	事後学修	描画関数の利用に関してレポートにまとめる	2
3	事前学修	POLITE で配布した描画関数の応用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	描画関数の応用	
	事後学修	描画関数の応用に関してレポートにまとめる	2
4	事前学修	POLITE で配布した 2D の座標変換に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	2D の座標変換	
	事後学修	2D の座標変換に関してレポートにまとめる	2
5	事前学修	POLITE で配布した 2D の合成変換に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	2D の合成変換	
	事後学修	2D の合成変換に関してレポートにまとめる	2
6	事前学修	POLITE で配布した 3D の座標変換に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	3D の座標変換	
	事後学修	3D の座標変換に関してレポートにまとめる	2
7	事前学修	POLITE で配布した 3D の合成変換に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	3D の合成変換	
	事後学修	3D の合成変換に関してレポートにまとめる	2
8	事前学修	POLITE で配布したワイヤーフレームモデルに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	ワイヤーフレームモデル	
	事後学修	ワイヤーフレームモデルに関してレポートにまとめる	2

9	事前学修	POLITE で配布したポリゴンモデルに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	ポリゴンモデル	
	事後学修	ポリゴンモデルに関してレポートにまとめる	2
10	事前学修	POLITE で配布した投影の原理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	投影の原理	
	事後学修	投影の原理に関してレポートにまとめる	2
11	事前学修	POLITE で配布したビューボリュームに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	ビューボリューム	
	事後学修	ビューボリュームに関してレポートにまとめる	2
12	事前学修	POLITE で配布したシェーディングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	シェーディング	
	事後学修	シェーディングに関してレポートにまとめる	2
13	事前学修	POLITE で配布したテクスチャマッピングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	テクスチャマッピング	
	事後学修	テクスチャマッピングに関してレポートにまとめる	2
14	事前学修	POLITE で配布した CG アニメーションに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	CG アニメーション	
	事後学修	CG アニメーションに関してレポートにまとめる	2
15	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	試験	
	事後学修	講義全体の理解度についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 40% ■小テスト： 10% ■レポート：50% □演習課題： % □その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに，誤った解答の傾向についても紹介する。
課題の提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習 I
備考	これまでプログラミングが苦手だった人も、本講義のようなビジュアルな出力結果を通して、プログラミングに対する理解度の向上が期待できます。
担当教員の実務経験	担当者は 1999～2005 年頃まで CG に関する外部企業との産学連携事業に携わっていた。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ｅーラーニング e-Learning

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC316

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期(前半)

授業概要

インターネットが普及した現代社会において，e ラーニングは様々な人々に多種多様な教育・学習の機会を与えています。教育や教材の効果と効率と魅力を高めるために「教育・教材を設計する」システム的なアプローチに関する方法論をインストラクショナル・デザインと言います。インストラクショナル・デザインにより，教育が「誰に」「何を」「どこまで」「何故」「どのように」行われるのかを確認し，何が達成されれば効果があったと言えるのかを明確にすることができます。本講義では，e ラーニングを前提とした教材制作の実習を通して，インストラクショナル・デザインの基礎を学びます。また，教材制作はグループワークを前提としますが，一人での制作も許可します。

授業における学修の到達目標

e ラーニングを前提とした教材の制作を通して，インストラクショナル・デザインの基礎を学びます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読み，授業内容を把握する	2.0
	授業	教材をイメージする（教材の 4 条件）： インストラクショナルデザイン（ID）のプロセスを概観する	
	事後学修	授業を復習し，ID の理解を深める	2.0
2	事前学修	Web 教材（教材）を読み直し，自分たちが作りたい教材を考えておく	2.0
	授業	教材作りをイメージする（Plan-Do-See）： グループ（最大 3 名）を構成し，制作する教材のテーマを決める。	
	事後学修	制作する教材のテーマについて，教材に盛り込む内容を検討しておく	2.0
3	事前学修	Web 教材「教材の責任範囲を明らかにする」を事前によく読んでおく。	2.0
	授業	教材の責任範囲を明らかにする: 制作する教材の責任範囲（入口と出口）を決める	
	事後学修	設定した教材の責任範囲が適切かどうかを再検討する。	2.0
4	事前学修	Web 教材「相対評価と絶対評価」を事前によく読んでおく	2.0
	授業	相対評価と絶対評価: 相対評価と絶対評価の違いを説明し，制作する教材でどのような評価を行うべきかを検討する	
	事後学修	制作する教材の評価方法について再検討する	2.0
5	事前学修	Web 教材「テストを作成する」を事前によく読み，作成するテストの内容を考えておく	2.0
	授業	テストを作成する（事前／事後テスト）： 制作する教材のテストを作成する実習を行う	
	事後学修	作成したテストが，教材の責任範囲と照らし合わせて適切かどうかを検討する	2.0
6	事前学修	Web 教材「教材企画書の作成」を事前によく読み，企画書の内容を検討しておく	2.0
	授業	教材企画書の作成： 自分たちが制作した教材の企画書を作成する。また，他のチームと教材企画書を相互チェックする実習を行う	
	事後学修	教材企画書を読み返し，教材作成の準備を進めておく	2.0

7	事前学修	Web 教材「教材の構造を見極める（課題分析図）」を事前によく読み，教材の構造について理解を深める	2.0
	授業	教材の構造を見極める（課題分析図）： 課題分析図を作成し，教材の構造を可視化する実習を行う	
	事後学修	教材構造図を参考に，教材作成の準備を進めておく	2.0
8	事前学修	Web 教材「独学を支援する作戦をたてる」を事前によく読み，制作教材の教授戦略を考えておく	2.0
	授業	独学を支援する作戦をたてる： ガニェの 9 教授事象について説明し，制作教材の教授戦略を練る実習を行う	
	事後学修	授業内容を復習し，制作する教材の教授戦略が適切かどうかを再検討しておく	2.0
9	事前学修	Web 教材「教材パッケージを作成する」を事前によく読み，教材パッケージの内容を把握しておく	2.0
	授業	教材パッケージを作成する： 教材パッケージを作成し，教材の評価に必要な制作物を確認する実習を行う	
	事後学修	作成した教材パッケージに不備がないかを再確認しておく	2.0
10	事前学修	Web 教材「教材制作」を事前によく読み，教材制作の準備を進めておく	2.0
	授業	教材制作： 企画した教材を制作する実習を行う	
	事後学修	制作中の教材を見直し，教材中の文章にミスがないか等を確認しておく	2.0
11	事前学修	Web 教材「LMS (Learning Management System)」を事前によく読んでおく	2.0
	授業	LMS (Learning Management System)： LMS について学習する	
	事後学修	インターネットを利用し， LMS について調べてみる	2.0
12	事前学修	Web 教材「形成的評価を実施する」を事前によく読み，制作した教材の評価方法を把握する	2.0
	授業	形成的評価を実施する： 教材の評価方法について説明する	
	事後学修	教材を見直し，形成的評価についての理解を深める	2.0
13	事前学修	Web 教材「1 対 1 評価」を事前によく読み，教材評価の具体的なイメージを持っておく	2.0
	授業	1 対 1 評価： 複数人に対し，制作した教材の 1 対 1 評価の実習を行う	
	事後学修	1 対 1 評価の結果を参考に，教材の改善点を洗い出しておく	2.0
14	事前学修	Web 教材「教材を改善する」を事前によく読み，教材の改善の方法を把握しておく	2.0
	授業	教材を改善する： 形成的評価の結果を反映させた，教材の改善する実習を行う	
	事後学修	授業内容を復習し，教材が適切に改善されているのかを再検討する	2.0
15	事前学修	授業内容を振り返り，報告書に書くべき内容を検討しておく	2.0
	授業	報告書作成： 授業内容を振り返り，報告書を作成する	
	事後学修	本講義の教材，および，制作した教材を見直し，授業内容を再確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：10%　■演習課題：90%

■その他[授業態度等を総合的に評価する]

グループワークについては，グループ内での行動について

自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
POLITE3 を通じてコメント等をフィードバックします。	
教科書	
参考書・Web サイト	J.M.ケラー著　鈴木克明　監修　「学習意欲をデザインする」北大路書房 鈴木克明　著「教材設計マニュアル-独学を支援するために」北大路書房 稲垣忠・鈴木克明　編著「教師のためのインストラクショナルデザイン・授業設計マニュアル Ver.2」北大路書房 R.M.ガニェ他著，鈴木克明他監訳「インストラクショナルデザイン原理」北大路書房
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習，HTML コーディング演習
備考	課題とくに制作した教材を重視して評価をします。制作の過程も評価の対象としますので，途中までででしか出来上がっていない場合でも，課題は必ず提出するようにしましょう。
担当教員の実務経験	実務経験なし

デザインシンキング Design Thinking

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMC317

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期(後半)

授業概要

モノを作る（デザイン）上でいかに新しいものを産み出すか。
特に情報メディア分野の中でいかに新しいものを産み出すか、人間中心とデザイン思考のアプローチでその発想法とイノベーション創出の訓練を行う。ワークショップ形式の授業も取り入れる。

授業における学修の到達目標

・デザイン思考の基本を理解する
・デザイン思考のアプローチをワークショップを通し，体得する

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義のスケジュールと目標に目を通す	2
	授業	ガイダンス デザイン思考とはなにか	
	事後学修	デザイン思考に関する周辺情報を調べてみる	2
2	事前学修	デザイン思考で産まれたものを調べてみる →レポートとして提出	2
	授業	デザイン思考で産まれたアイディアと実例紹介	
	事後学修	実例がどのように産まれたか，掘り下げて調べてみる	2
3	事前学修	d.school について基本情報を調べる	2
	授業	スタンフォード大学　d,school の紹介	
	事後学修	d.school が出した成果を更に調べてみる	2
4	事前学修	イリノイ工科大学 Institute of Design について基本情報を調べる	2
	授業	イリノイ工科大学 Institute of Design の紹介	
	事後学修	イリノイ工科大学 Institute of Design が出した成果を更に調べてみる	2
5	事前学修	OAMK Lab について基本情報を調べる	2
	授業	フィンランド OAMK Lab の紹介	
	事後学修	OAMK Lab が出した成果を更に調べてみる	2
6	事前学修	UNIPA について，調べてみる	2
	授業	学生団体 UNIPA の紹介 レポート課題：UNIPA のことを聞いて何を思ったか？	
	事後学修	UNIPA に続き，自分でどんなことが出来そうか具体的なアイディアを考えてみる	2
7	事前学修	IDEO について調べてみる →レポートとして提出	2
	授業	デザイン思考のアプローチ　IDEO 共感-問題提起-創造-プロトタイプ-テスト	
	事後学修	他のアプローチがあるか調べてみる	2

8	事前学修	共感とは何かについて調べる	2
	授業	共感フェーズについて	
	事後学修	共感フェーズでのキーは何かを考える	2
9	事前学修	問題提起フェーズの基本について調べてみる	2
	授業	問題提起フェーズについて	
	事後学修	問題提起フェーズでのキーは何かを考える	2
10	事前学修	創造フェーズの基本について調べてみる	2
	授業	創造フェーズについて	
	事後学修	創造フェーズでのキーは何かを考える	2
11	事前学修	プロトタイプフェーズ・テストについての基本を調べてみる	2
	授業	プロトタイプフェーズ・テストについて	
	事後学修	プロトタイプフェーズ・テストのキーは何かを考えてみる	2
12	事前学修	デザイン思考のアプローチを復習しておく	2
	授業	ワークショップ説明 ワークショップ１　グループワーク　共感 提出物：グループで作成したエンパシーマップ	
	事後学修	共感することで何を得ることが大切かを考える	2
13	事前学修	前回で何の共感を得たかを復習しておく	2
	授業	ワークショップ説明 ワークショップ２　グループワーク　問題提起と創造 提出物：グループで作成したプロダクトアイディア	
	事後学修	問題提起と創造をするうえで何がポイントかを考える	2
14	事前学修	問題提起と創造フェーズで何を得たかを復習しておく	2
	授業	ワークショップ説明 ワークショップ３　グループワーク　創造とテスト 提出物：グループで作成した提案書ドラフト	
	事後学修	創造とテストフェーズでのポイントが何かを考える	2
15	事前学修	ワークショップで得たことを箇条書しておく	2
	授業	ワークショップの振り返りとデザイン思考のまとめ	
	事後学修	この科目で得たことを次に繋げるためにはどうすればよいかを考える	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：40%　■演習課題：60%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートは採点し，返却する
ワークショップで作成した成果物は，ワークショップの途中，及び，次回の講義時間のワークショップで直接グループにフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	アイリーニ・デザイン思考センターWeb サイト （https://designthinking.eireneuniversity.org/）
単位修得が望ましい科目	特になし

備考	特になし
担当教員の実務経験	アイリーニ・デザイン思考センターが提供するデザイン思考ファシリテータ養成プログラム，東京大学 i.School のイノベーション教育ファシリテータ養成プロブラムを修了し，数々のデザイン思考ワークショップのファシリテータを行ってきた。その経験を講義で活用する。 また，フィンランド OAMK Lab に 6 ヶ月間招聘研究員として滞在した際に受けたワークショップ，手法も講義に還元する。

情報メディア特別演習Ⅱ Practicum in Information Media2

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC320

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期

授業概要

高度に情報化された社会で，職業人として ICT を有効活用するために必要不可欠な基礎知識の定着を目的とした科目です。
コンピュータの基礎要素であるハードウェアとソフトウェアから始め，それらを意図した通りに動かすためのアルゴリズムとその実現手段であるプログラミングについて扱います。
その後，コンピュータを中心とした情報システムを支えるデータベース・ネットワーク・マルチメディア及び情報セキュリティについて取り扱います。
その後，情報システムの開発とそのマネジメントを学び，情報システム分野に関連する法規や標準について学びます。
講義は教科書に書いてある事をベースにスライドで補いながら進めますので，必ずメモを取る様にしてください。
成績は随時課す小テストの成果と必要に応じ課されるレポートをもとに評価します。
授業は，本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行います。

授業における学修の到達目標

ICT に関する基本的な知識の再確認をして定着させる事
基本情報処理技術者試験の合格

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書の準備，タブレット端末への電子教科書および特典アプリケーションのインストール	2
	授業	初修ガイダンス・資料映像の鑑賞	
	事後学修	指定した教科書の範囲の予習	2
2	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	ハードウェア	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
3	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	ソフトウェア	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
4	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	コンピュータで扱うデータ	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
5	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	アルゴリズムとデータ構造	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
6	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	システム開発	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
7	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2

	授業	コンピュータシステム	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
8	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	ネットワーク	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
9	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	データベース	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
10	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	セキュリティ	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
11	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	マネジメント	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
12	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	情報化と経営	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
13	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	第 2 週～第 6 週までの開講回の範囲における分野に関連した、過去実際に出題された問題を解く演習	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
14	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	第 7 週～第 12 週までの開講回の範囲における分野に関連した、過去実際に出題された問題を解く演習	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
15	事前学修	期末試験の出題指定範囲の学習	2
	授業	試験前のまとめ・資料映像の鑑賞	
	事後学修	期末試験の出題指定範囲の学習	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■試験：50%　■小テスト：50%　□レポート：　　%　□演習課題：　%
□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

開講回ごとに課される小テストは，期限までに提出すること。期限内に提出があり、なおかつ合格点の達した場合のみ平常点に加算される。小テストは採点後の返却か，正解の提示（自己採点後の回収・返却）を必ず行い，復習と反復学習を常に促す.

教科書	書名：かんたん合格 基本情報技術者教科書 令和 2 年度, 著者名：五十嵐 順子　著/ラーニング編集部　著, 出版社：インプレスブックス, 備考：「令和 2 年度」とありますが現在これが「最新版」です。（学内販売を行わない場合があります。その場合は出版社の Web サイト https://book.impress.co.jp/books/1119101096 から「電子版」を購入してください。在庫希少により欠品の恐れがあるため特段の理由がない限り「紙の本」の購入は控えてください。）

参考書・Web サイト	講義中に適宜紹介
単位修得が望ましい科目	なし
備考	この科目は，情報処理の促進に関する法律第 7 条第 1 項に基づき経済産業大臣が行う国家試験である情報処理技術者試験の内「基本情報処理技術者」を取得する上で必要な知識を扱っています。この科目で扱っていない内容を自主的に勉強する事によって，資格取得に役立ちます。
担当教員の実務経験	なし

セキュリティマネジメント Security Management

担当教員	広奥　暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMT308

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期

授業概要

インターネットの普及や IT の高度化は社会に様々な恩恵をもたらしていますが、サイバー攻撃はますます巧妙化・複雑化し、個人、企業、社会全体にとって非常に大きな脅威となっています。このため、情報セキュリティマネジメントを担う人材の育成は大きな課題となっています。企業において「情報セキュリティをいかに確保するか」は単に技術面の対策だけではなく、適切な情報管理、業務フローの見直し、組織内規程順守のための従業員の意識向上などの管理面の対策も必要です。本講義では情報セキュリティマネジメント全般に関する知識を習得します。
（オンデマンド遠隔授業）

授業における学修の到達目標

・一般生活や企業において IT の安全な利用を推進するために必要な情報セキュリティマネジメントに関する知識を習得する。
・IT パスポート試験合格からさらにステップアップしたい学生を対象にして、情報セキュリティマネジメント試験への意識を持つようにする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書 7 ページまで（目次後の「本書の特徴と利用法」も含めて）を読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	ガイダンス マルウェアによる攻撃と対策について学ぶ。	
	事後学修	情報セキュリティの CIA，マルウェアとその対策についてまとめを作成する。	2.0
2	事前学修	教科書 15 ページから 39 ページまでを読み，これまで受講した関連のある科目との関係を整理する。	2.0
	授業	不正アクセスとその対策について学ぶ。	
	事後学修	攻撃手法と対策についてのまとめを作る。自分の PC のログ（イベントログ）を開いて記録されている内容を確認する。	2.0
3	事前学修	教科書 40 ページから 54 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	暗号化と認証について学ぶ。	
	事後学修	普段自分が実際に利用している暗号化，認証技術が具体的にどのようなものか可能な限り調べてまとめる。	2.0
4	事前学修	教科書 54 ページから 68 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	インターネットセキュリティについて学ぶ。	
	事後学修	自宅などで使用しているネットワーク機器のファイアウォールについて（何ができるのかなど）調べ，学んだことと比較して確認する。	2.0
5	事前学修	教科書 90 ページから 113 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	情報セキュリティ管理について学ぶ。	
	事後学修	CSIRT についてインターネットで調べてまとめる。	2.0
6	事前学修	教科書 122 ページから 135 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0

	授業	情報セキュリティ関連法規について学ぶ。	
	事後学修	不正アクセス禁止法と，個人情報保護法について自分なりのまとめを作成する。	2.0
7	事前学修	教科書 136 ページから 149 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	知的財産権，労働関連法規について学ぶ。	
	事後学修	インターネットで著作権法に違反する事例について調べ理解を深める。	2.0
8	事前学修	これまで学んだことについてまとめを作成しておく。	2.0
	授業	LMS 上でテストを受ける。	
	事後学修	小テストで不正解となった問題を中心に，事前学習で作成したまとめと対照して知識の確認をする。	2.0
9	事前学修	教科書 158 ページから 182 ページまで読む。	2.0
	授業	情報セキュリティの事例について学ぶ。	
	事後学修	インターネットで，教科書に提示されている事例と似た実際の事件がないか調べる。	2.0
10	事前学修	教科書 256 ページから 274 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	システムとデータベースについて学ぶ。	
	事後学修	学科開講科目で今回の内容に関わる科目があるか調べる。	2.0
11	事前学修	教科書 294 ページから 320 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	ネットワークについて学ぶ。	
	事後学修	IP アドレスとアプリケーションプロトコルについて自分でまとめを作成する。	2.0
12	事前学修	教科書 294 ページから 320 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	プロジェクトマネジメントとサービスマネジメントについて学ぶ。	
	事後学修	テキストの関連する部分を復習してください。小テストで間違えた個所は解説をよく読んで理解してください。	2.0
13	事前学修	教科書 330 ページから 336 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	システム監査・システム戦略について学ぶ。	
	事後学修	今回学んだ内容について復習して下さい。	2.0
14	事前学修	教科書 337 ページから 350 ページまで読んでおき，わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	企業活動について学び，講義全体を振り返る。	
	事後学修	テキストの関連する部分を復習してください。小テストで間違えた個所は解説をよく読んで理解してください。	2.0
15	事前学修	講義全体を振り返りテストに備える。	2.0
	授業	LMS 上でテストを受ける。	
	事後学修	試験の内容を確認し，学習内容について振り返る。（不足のあった部分は補う。）	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　■小テスト：100　%　□レポート：　%　□演習課題：　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回，LMS 上で小テストを，8 回目と 15 回目は LMS 上で通常より少し多い問題数のテスト（中テスト）を実施し LMS によりフィードバックします。外部サービスを利用した質疑応答，ビデオ会議システムによる質疑応答を行います。（詳細は LMS 上のコースで説明しています）

教科書	書名：2022 年度版　ニュースペックテキスト 情報セキュリティマネジメント, 著者名：TAC 情報処理講座 (著), 出版社：TAC 出版, 備考：

参考書・Web サイト	「徹底攻略　情報セキュリティマネジメント教科書」、インプレス
単位修得が望ましい科目	「IoT 時代のセキュリティ」「インターネットの仕組み」「インターネットセキュリティの技術」
備考	特になし
担当教員の実務経験	なし

システム情報系科目Ａ＜プログラミング入門＞ Systems and Informatics A

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC201

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

プログラミングとは何かを理解し，プログラムの基本処理（順次，分岐，反復）に加えて配列を学習し，これらを組み合わせてプログラムを作成できるようになることを目的とする。
使用するプログラミング言語は Java である。ただし，本科目で学習する内容は，プログラミング言語に依存しない基本事項であるので，他の言語（例えば C 言語や Python）の習得の助けにもなる。
毎回の授業では，実習に必要となるプログラムの書き方や構文を冒頭で説明し，学生によるプログラミング実習に多くの時間を割り当てる。
開講前にクラス分け（より多くの内容を学ぶ上級クラスの設置）を行い，クラスごとに目標を定めてプログラミング能力の向上を目指す。
授業は，本学が開発した e-Learning システム（POLITE）を利用して行う。

授業における学修の到達目標

以下を使って，プログラムが書けるようになることを目標とする。
・画面に文字を表示
・変数
・キーボードからの入力
・順次処理
・分岐処理
・反復処理
・配列

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して，プログラミング実習を行う。 ・プログラミングとは何か ・ソースプログラム，コンパイル，実行 ・画面に文字を表示する	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
2	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して，プログラミング実習を行う。 ・演算結果の出力 ・変数 ・変数と初期化	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
3	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して，プログラミング実習を行う。 ・キーボードからの入力 ・演算子とオペランド ・文字列の読み込み	

	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
4	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して，プログラミング実習を行う。 ・final 変数 ・乱数の生成 ・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
5	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して，プログラミング実習を行う。 ・if-then 文 ・関係演算子 ・if-then-else 文 ・等価演算子 ・入れ子となった if 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
6	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して，プログラミング実習を行う。 ・式と評価 ・式文と空文 ・論理積演算子と論理和演算子 ・条件演算子	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
7	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して，プログラミング実習を行う。 ・三値の最大値 ・ブロック ・二値のソート	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
8	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
9	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・switch 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
10	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・演算子	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
11	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・do 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0

12	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・do 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
13	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・while 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・while 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
15	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う ・for 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
16	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・for 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
17	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・多重ループ	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
18	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・break 文と continue 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
19	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・printf メソッド ・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
20	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・配列 ・配列の構成要素	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
21	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・配列の初期化と代入 ・配列による成績処理 ・配列の要素の最大値を求める	

	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
22	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・配列を逆順に並べ替える	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
23	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・線形探索 ・拡張 for 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
24	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・配列のコピー，文字列の配列	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
25	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・多次元配列	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
26	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・多次元配列の内部 ・凸凹な 2 次元配列の内部 ・初期化子	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
27	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
28	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
29	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
30	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 50%　□小テスト： %　□レポート： %　■演習課題： 50%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
e-Learning システム（POLITE）で提示した課題を，授業中及び授業後にチェックし指導する。POLITE から提出された課題については，POLITE でフィードバックする。	
教科書	書名：新・明解 Java 入門　第 2 版, 著者名：柴田望洋, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	アルゴリズム基礎
備考	なし
担当教員の実務経験	【越野一博】 実務経験なし 【佐藤隆雄】 実務経験なし 【渡部重十】 実務経験なし 【柿並義宏】 通算で 4 年間システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

システム情報系科目Ｂ＜プログラミング基礎＞ Systems and Informatics B

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC209

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

「プログラミング入門」で学習した基本処理（順次，分岐，反復）と配列を用いたプログラムを確実に作成できるようにした上で，メソッドとクラスを学習し，これら全てを組み合わせてプログラミングできるようになることを目的とする。
使用するプログラミング言語は Java である。ただし，本科目で学習する前半の内容（メソッド）は，プログラミング言語に依存しない基本事項であるので，他の言語（例えば C 言語や Python）の習得の助けにもなる。また後半の内容（クラス）は，Java 等のオブジェクト指向プログラミングの根幹的な基礎技術であり，2 年生前期に開講される「Java プログラミング」への橋渡しともなる。
毎回の授業では，実習に必要となるプログラムの書き方や構文を冒頭で説明し，学生によるプログラミング実習に多くの時間を割り当てる。
開講前にクラス分け（より多くの内容を学ぶ上級クラスの設置）を行い，クラスごとに目標を定めてプログラミング能力の向上を目指す。
授業は，本学が開発した e-Learning システム（POLITE）を利用して行う。

授業における学修の到達目標

以下を使って，プログラムが書けるようになることを目標とする。
・「プログラミング入門」で学習した内容
・メソッド
・クラス

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・プログラミング入門で学習した内容（配列以前）の復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
2	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・プログラミング入門で学習した内容（配列以前）の復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
3	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・プログラミング入門で学習した内容（配列）の復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
4	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・プログラミング入門で学習した内容（配列）の復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
5	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。	

		・メソッド ・return 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
6	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・値渡し ・void メソッド ・メソッドの汎用性	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
7	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・他のメソッドの呼出し ・有効範囲 ・引数を受け取らないメソッド	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
8	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
9	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・最大値を求めるメソッド ・線形探索	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
10	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・配列の要素の並びを反転する ・二つの配列の比較	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
11	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・配列を返すメソッド	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
12	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・多次元配列の受渡し	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
13	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・多重定義	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。	

		・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
15	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・データの扱い ・クラス ・コンストラクタ ・メソッド	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
16	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラスの独立	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
17	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・日付クラス ・コンストラクタとメソッド ・アクセッサ ・クラス型変数の代入 ・クラス型変数の比較	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
18	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・引数としてのクラス型変数 ・クラス型インスタンスの配列 ・日付クラスの改良	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
19	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラス型のフィールド ・参照を返すメソッド ・自動車クラスの利用例 ・has-A	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
20	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラス変数（静的フィールド） ・クラス変数のアクセス ・ライブラリで提供されるクラス変数	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
21	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラスメソッド ・クラス変数とクラスメソッド	

		・Math クラスのクラスメソッド ・ユーティリティクラス	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
22	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラス初期化子（静的初期化子） ・インスタンス初期化子	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
23	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
24	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
25	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・テキストファイルの入出力	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
26	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・例外処理	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
27	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
28	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
29	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
30	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ，授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 50%　□小テスト： %　□レポート： %　■演習課題： 50%　□その他[　　]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
e-Learning システム（POLITE）で提示した課題を，授業中及び授業後にチェックし指導する。POLITE から提出された課題については，POLITE でフィードバックする。	
教科書	書名：新・明解 Java 入門, 著者名：柴田望洋, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	プログラミング入門，アルゴリズム基礎
備考	なし
担当教員の実務経験	【越野一博】 実務経験なし 【佐藤隆雄】 実務経験なし 【渡部重十】 実務経験なし 【柿並義宏】 通算で 4 年間システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

コンピュータゲーム開発論-2022 年度休講- Introduction to Computer Game Development

担当教員	桑原 司()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMT201

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

テーマ：ゲームの発想と開発の取り組み方を学習

ゲームはアイデアの集合体。ゲーム開発に欠かせない発想や開発の取り組み方を学びます。
実践作業ではゲーム性を学び,クオリティの高いゲームの提案を作成してもらいます。

授業は.本学が開発した「学習者適応 e-Learning システム（POLITE）を利用して行われます。

授業における学修の到達目標

1.開発の基盤となるゲームハードの有用性を学ぶ。
2.ニーズを捉えた発想で,成果に結びつく発想力を学ぶ。
3.発想の書面化。
4.ゲーム開発の制作過程（概念）を学ぶ。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	普段ゲームをしない人は特に,発売・配信中のゲームをしっかり見ておいてください	2.0
	授業	発想や制作の取り組み方を知る	
	事後学修	自分の好きなゲームや嫌いなゲーム,ジャンルなどを理解しておいてください	2.0
2	事前学修	「過去」の様々なゲームハード(家庭用機器)に目を通して,その存在を知っておいてください	2.0
	授業	ゲームハードの歴史と進化を知る	
	事後学修	「過去」のゲームハード(家庭用機器)の特徴を理解しておいてください	2.0
3	事前学修	「現在」のゲームハード(家庭用機器)に目を通して,その存在を知っておいてください	2.0
	授業	現在のゲームハードの考察	
	事後学修	「現在」のゲームハード(家庭用機器やストリーミング)の特徴を理解しておいてください	2.0
4	事前学修	最新のゲームコントローラー(または PC 等の入力デバイス等)を調べておいてください	2.0
	授業	入力デバイスの重要性「コントローラー」を知る	
	事後学修	新旧のコントローラーによって,ゲームの何が変わったか理解しておいてください	2.0
5	事前学修	作ってみたいゲームの得意なジャンル想像する	2.0
	授業	ゲームの発想について知る	
	事後学修	作ってみたいゲームの全体を想像する	2.0
6	事前学修	作ってみたいゲームは「ヒットする」のか考察	2.0
	授業	ゲームを作る理由とプレゼンについて知る	
	事後学修	作ってみたいゲームは「求められている」ゲームなのか考察	2.0
7	事前学修	テーマとはどういったものか調べる	2.0
	授業	ゲームの発想[テーマ]について知る	

	事後学修	ゲームのテーマを考える	2.0
8	事前学修	共感とはどういったものか調べる	2.0
	授業	ゲームの発想[共感]について知る	
	事後学修	ゲームの共感について考える	2.0
9	事前学修	アナログゲームとはどういったものがあるのか調べる	2.0
	授業	アナログゲームの[ゲーム性]を知る	
	事後学修	気になるアナログのゲーム性を調べる	2.0
10	事前学修	ゲーム性とは何かを,改めて調べる	2.0
	授業	旧コンピューターゲームの[ゲーム性]を知る	
	事後学修	現在のゲームのゲーム性を考察する	2.0
11	事前学修	発想するゲームのハード(NintendoSwitch)を知る	2.0
	授業	発想するハード(NintendoSwitch)の考察	
	事後学修	オリジナルゲームのハードの特徴を調べる	2.0
12	事前学修	続編や版権ものではない新規のゲームを考察する	2.0
	授業	提出課題の解説と条件について	
	事後学修	課題のオリジナルゲームを頭の中で遊ぶ(スタートからエンディング迄をイメージする)	2.0
13	事前学修	ゲームにおける仕様書とは何かをインターネットにて調べる	2.0
	授業	ゲームの仕様書を知る	
	事後学修	課題のオリジナルゲームの仕様を全体的にイメージする	2.0
14	事前学修	ゲームのシステムとは何かを調べる	2.0
	授業	作業の工程を知る[前半],作業全体の流れについて	
	事後学修	既存ゲームやジャンルによるシステムの数々を知る	2.0
15	事前学修	ゲームの UI の重要性を調べる	2.0
	授業	作業の工程を知る[後半],技術と開発ツールについて	
	事後学修	開発ツール２種を調べる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
授業の目的を理解し,課題作品にどれだけ反映出来るかを評価します。
■演習課題（80%）■その他[予習や小テスト（20%）]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

回収したものは後日,回答返却します。
なにかあれば個別でのメール対応とします。

教科書	
参考書・Web サイト	著名人や開発者による「ゲーム開発」に関する Youtube や web サイトの閲覧。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	課題が出た際は必ず指定の日にちまでに完成させてください。 その課題を必要とした講義を行います。
担当教員の実務経験	ゲームの立ち上げから開発に関わった実務経験を活かし,授業ではゲームに求められる基本概念を講義,それを理解して,ゲームアイデアを説得力ある形に仕上げる方法を体験します。

ＳＱＬ入門 Introduction To Structured Query Language

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMT204

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(後半)

授業概要

SQL は、リレーショナルデータベース（Relational Database）を利用するための言語です。本講では SQL を利用してリレーショナルデータベースを利用できるようになることを目標にしています。

はじめにリレーショナルデータベースの基礎的な知識を学習したうえで，iPad 等を利用して基本的な SQL を扱った実習に取り組みながら，リレーショナルデータベースの利用方法を身に付けていきます。具体的には，データモデルとデータベース管理システム，データ操作，データ定義，データ制御について扱います。また，データベース設計（正規化）についても扱う予定です。

なお，本講の内容は，「IT パスポート試験」「基本情報技術者試験」の学習につながります。

授業における学修の到達目標

タブレット PC 等を利用して，コマンドラインツールから実際に SQL 文を実行することで，以下の操作を修得することが目標です。

（1）リレーショナルデータベースから目的のデータを取得する。

（2）リレーショナルデータベースにデータを挿入したり，データの更新，削除をする。

（3）リレーショナルデータベースにデータ管理のための構造や制約を定義する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握して下さい。	1
	授業	データベースシステム	
	事後学修	配布資料の第 1 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 授業中に実行できなかった演習に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	3
2	事前学修	配布資料の第 2 章をよく読んできましょう。	2
	授業	リレーショナルデータベースと SQL の概要	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
3	事前学修	配布資料の第 3 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2
	授業	問合せの基本（中間テスト）	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
4	事前学修	配布資料の第 4 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2
	授業	問合せ結果の加工	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
5	事前学修	配布資料の第 5 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2

	授業	新しい列の表示	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
6	事前学修	配布資料の第 6 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2
	授業	複雑な条件による問合せ	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。 中間テストに備え，これまでの確認問題を見直しておきましょう。	2
7	事前学修	配布資料の第 7 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2
	授業	複数のテーブルを使う（中間テスト）	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
8	事前学修	配布資料の第 8 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2
	授業	副問合せ	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
9	事前学修	配布資料の第 9 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2
	授業	集計処理-グループ化-	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。 中間テストに備え，これまでの確認問題を見直しておきましょう。	2
10	事前学修	配布資料の第 10 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2
	授業	データの変更とトランザクション（中間テスト）	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
11	事前学修	配布資料の第 11 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	リレーショナルデータモデル	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
12	事前学修	配布資料の第 12 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	テーブルの設計	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
13	事前学修	配布資料の第 13 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。	2
	授業	テーブルの作成・削除	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2

		中間テストに備え，これまでの確認問題を見直しておきましょう。	
14	事前学修	配布資料の第 14 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	SQL とインデックス，ビューとアクセス制御（中間テスト）	
	事後学修	授業中に実行できなかった演習，オンライン課題に取り組みましょう。 POLITE に用意されたクイズに取り組みましょう。	2
15	事前学修	配布資料の第 15 章をよく読んで，資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。 資料に例示されている SQL 文を実際に実行して，結果を確認しましょう。 総合演習に備え，これまでの確認問題を見直しておきましょう。	3
	授業	データ分析と SQL（総合演習）	
	事後学修	総合演習の結果を振り返り，実際に SQL を利用して動作結果を確認しましょう。	1

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　■小テスト：　25%　□レポート：　%　■演習課題：50%　■その他[総合演習]：25%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各演習，オンライン課題，中間テスト，総合演習について，終了後の授業内で解答・解説を行います。総合演習については，LMS（POLITE）上で解答・解説を行います。

教科書	
参考書・Web サイト	朝井淳；データベースの気持ちがわかる SQL はじめの一歩、技術評論社 (2015) 北川博之；データベースシステム、オーム社 (2014) 手塚忠則；やさしい SQL 入門 演習問題で学ぶデータベース操作法，カットシステム (2015) 増永良文；データベース入門［第 2 版］、サイエンス社(2021) 三村かよこ；ゼロからわかる SQL 超入門，技術評論社 (2017)
単位修得が望ましい科目	ICT 入門，コンピュータ
備考	多くの時間でタブレット PC 等を利用し，学内に用意したオリジナル実習環境を利用した SQL 実習を行います。また，本学開発のオリジナルアプリ「kaiwa2」を使用し，理解度を確認しながら授業を進めていきます。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。データ分析の手法，データベースの仕組みが機能・性能に及ぼす影響など，実際にデータベースシステムを開発・運用する際に求められる基本的な知見を学生に還元できるよう授業を組み立てています。

インターネットの仕組み Fundamentals of Internet Technology

担当教員	広奥　暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMT207

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(後半)

授業概要

インターネットは，現在の情報化社会を支える基盤として不可欠な存在になっている。通信ネットワークとしてのインターネットの仕組みと動作原理を学ぶことは，現在の情報通信ネットワークを理解する上で根幹となっている。この科目では，ローカルエリアネットワーク（ＬＡＮ）を基礎として，インターネットの仕組みと動作原理を学び，インターネットを介した１対１あるいは１対多のコミュニケーションの方法を学習する。

授業における学修の到達目標

OSI 参照モデル，インターネットの世界標準である TCP/IP プロトコルの仕組みと動作を理解し、通信ネットワークに関する全般的な知識、技術の修得を目標とする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	「コンピュータ」の講義を復習する。	2
	授業	ガイダンス，インターネットの仕組み入門	
	事後学修	課題プリントを解く。	2
2	事前学修	教科書の 1 章，2 章と「コンピュータネットワーク・階層構造」の講義スライドを整理する。特に，教科書で示されている郵便配達の例から，コンピュータネットワークにおける階層構造を整理する。	2
	授業	コンピュータネットワーク・階層構造	
	事後学修	コンピュータネットワークに関する用語をまとめ，階層構造の意義についてまとめる。	2
3	事前学修	教科書の 3 章，4 章と「Web の仕組み・HTTP」の講義スライドを整理する。また，Web ブラウザから HTML ファイルを表示する方法と，Javascript 付きの HTML を作成した際や，php によるプログラムを作成した際において，それらを実行するまでの流れをまとめる。	2
	授業	Web の仕組みの概要と HTTP	
	事後学修	Web ブラウザで URL を指定し，その Web ページが表示されるまでの仕組みをまとめる。	2
4	事前学修	教科書 5 章と「物理層」の講義スライドを整理する。特に，教科書で示されている郵便配達の例から，物理層の役割を整理する。	2
	授業	物理層	
	事後学修	物理層における役割をまとめる。特に，RS-232C を例にした bit の表現方法や，誤り検知についてもまとめること。	2
5	事前学修	教科書 6 章と「データリンク層（フレーム）」の講義スライドを整理する。特に，教科書で示されている郵便配達の例から，データリンク層の役割を理解する。	2
	授業	データリンク層（フレーム）	
	事後学修	フレームとは何か，これによりできることは何かをまとめる。また，ネットワーク接続のための機器について，それらの違いについてもまとめること。	2
6	事前学修	教科書の 7 章と「データリンク層（メディアアクセス制御）」の講義スライドを整理する。特に，教科書で示されている郵便配達の例から，メディアアクセス制御とは何かについて理解する。	2

	授業	データリンク層（メディアアクセス制御）	
	事後学修	メディアアクセス制御の定義や種類についてまとめる。	2
7	事前学修	これまでの講義内容や，小テストで分からなかった箇所を調査する。	1
	授業	総合演習 1	
	事後学修	解説を聞いて分からなかった箇所について調査し，総合演習 1 の内容を理解する。	3
8	事前学修	教科書の 8 章と「ネットワーク層（基本的な役割）」の講義スライドを整理する。特に，教科書で示されている郵便配達の例から，ネットワーク層の役割とは何かについて理解する。	2
	授業	ネットワーク層（基本的な役割）	
	事後学修	ネットワーク層とデータリンク層の対象の違いについてまとめる。また，ARP の動作原理についてもまとめる。	2
9	事前学修	教科書の 9 章と「ネットワーク層（IP アドレス）」の講義スライドを整理する。この際，IP アドレスの中のネットワークを表す箇所と，個々のノードについて表す箇所があること，またその境界がどこであるかについて調査する。	2
	授業	ネットワーク層（IP アドレス）	
	事後学修	IP アドレスの仕組みについてまとめる。このとき，ネットワークアドレス，ブロードキャストアドレス，プライベートアドレス，グローバルアドレス，マルチキャストアドレスなど，IP アドレスの種類や役割について整理する。また，DHCP サーバの動作原理についてもまとめる。	2
10	事前学修	教科書の 10 章と「ネットワーク層（ルーティング）」の講義スライドの該当箇所を整理する。特に，教科書で示されている郵便配達の例から，ルータの役割について理解する。	2
	授業	ネットワーク層（ルーティング）	
	事後学修	ルーティングとは何か，ルータの役割は何かについてそれぞれまとめる。	2
11	事前学修	これまでの講義内容や，小テストで分からなかった箇所を調査する。	1
	授業	総合演習 2	
	事後学修	解説を聞いて分からなかった箇所について調査し，総合演習 2 の内容を理解する。	3
12	事前学修	教科書の 11.1 節～11.3 節と講義スライドを整理する。特に，教科書で示されている郵便配達の例から，トランスポート層の必要性（ネットワーク層のみで発生しうる問題点）について理解する。	2
	授業	トランスポート層（セグメント）	
	事後学修	トランスポート層の役割，TCP と UDP の違いについてまとめる。	2
13	事前学修	教科書の 11.4 節, 11.5 節と講義スライドを整理する。ポート番号の必要性について調査する。12 章と講義スライドを整理する。	2
	授業	トランスポート層（ポート），セッション層・プレゼンテーション層	
	事後学修	ポート番号の役割，セッション層・プレゼンテーション層についてまとめる。	2
14	事前学修	教科書 13 章，14 章，15 章と講義スライドの該当箇所を整理する。	2
	授業	アプリケーション層，Web・ネットワークシステム	
	事後学修	アプリケーション層の概要についてまとめる。また，サーバ・クライアント型の方式と P2P の違い，DNS の仕組みについてまとめる。さらに，これまで学修した内容を基に，Web ブラウザに HTML が表示されるまでの一連の流れを OSI 参照モデルを意識しながらまとめる。	2
15	事前学修	これまでの講義内容や，小テストで分からなかった箇所を調査する。	1
	授業	総合演習 3	
	事後学修	解説を聞いて分からなかった箇所について調査し，総合演習 3 の内容を理解する。	3
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。 □試験： % ■小テスト：40 % □レポート： % ■演習課題： 60 % □その他[ ]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
POLITE3 上でフィードバックします。	
教科書	書名：コンピュータネットワーク (情報工学テキストシリーズ 4), 著者名：三木 光範 (編), 佐藤 健哉・昔農 凜太朗 (著), 出版社：共立出版, 備考：
参考書・Web サイト	POLITE3 上に掲載
単位修得が望ましい科目	情報メディアの数学 I，コンピュータ，メディア技術演習，IoT 時代のセキュリティ，Web プログラミング演習
備考	詳細については初回の講義で説明します。
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゲーム開発の最新動向 Current Topics in Computer Game Development

担当教員	小林 貴樹(客員准教授)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMT302

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	夏期集中

授業概要

国内ゲーム開発会社の最前線の情報が集まる業界イベント CEDEC からの最新情報や、ゲーム開発会社での各職種ごとの仕事について情報を得る。ゲーム開発に必要なプログラム言語と表現力に関する基礎知識を学習する。共通テーマに対して独自アイデアを検討しコーディングしたものをプレゼンテーションすることで問題点を把握し改善する。

授業における学修の到達目標

ゲーム開発のノウハウと最新のゲーム業界の技術動向を理解する。プログラム言語に関する基礎知識とゲームアプリケーションの開発ノウハウを学ぶ。実際にコーディングしたものを評価しあうことでより良いアプリケーションを開発する知識を身に着ける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	最新のゲーム業界の動向についての資料および WEB ページ等を確認	2
	授業	ゲーム開発の基礎	
	事後学修	業界状況を把握	2
2	事前学修	独自資料を確認	2
	授業	デザイナーの仕事	
	事後学修	デザインに関する課題	2
3	事前学修	独自資料を確認	2
	授業	ゲームデザイナーの仕事	
	事後学修	ゲームの企画に関する課題	2
4	事前学修	独自資料を確認	2
	授業	コンポーザーの仕事	
	事後学修	簡単な効果音作成の課題	2
5	事前学修	独自資料を確認	2
	授業	プログラマの仕事（品質管理と自動化）	
	事後学修	プログラマの仕事に関しての理解	2
6	事前学修	独自開発ツールの導入準備	2
	授業	ゲーム開発ツールの導入	
	事後学修	ゲーム開発環境の理解と簡単なデモ	2
7	事前学修	ツールによる簡単なサンプルづくり	2
	授業	ゲーム開発ツールの導入と試験	
	事後学修	ゲーム開発環境の理解とデモ作成	2
8	事前学修	ツールの理解	2
	授業	ツールによるゲーム開発	
	事後学修	ツールを使った簡単なデモづくり	2

9	事前学修	ツールの理解	2
	授業	表現力の向上手法	
	事後学修	引き続きツールを使った開発	2
10	事前学修	素材追加のためのツールの確認	2
	授業	独自リソースの追加	
	事後学修	引き続きツールを使った開発	2
11	事前学修	自分で考えたゲームの実装	2
	授業	ツールによるゲーム開発 2	
	事後学修	引き続きツールを使った開発	2
12	事前学修	自分で考えたゲームの実装続き	2
	授業	ツールによるゲーム開発 3	
	事後学修	引き続きツールを使った開発	2
13	事前学修	これまでの作りこみ状態確認	2
	授業	中間発表	
	事後学修	良い作品の評価とテクニック披露	2
14	事前学修	最後の調整	2
	授業	独自ゲームの品質向上化	
	事後学修	引き続きツールを使った開発	2
15	事前学修	ここまでの完成品を披露	2
	授業	最終発表	
	事後学修	ゲームのアイデアに対する評価	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□ 定期試験（　%）　□ 小テスト（　%）　■ レポート（ 20%）　■ 演習課題（ 80 %）

□ その他 [　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

職種ごとの講義の終わりに課題を出します。

課題はファイルとして指定場所へ提出。

次の講義開始時に評価。

教科書	
参考書・Web サイト	物理ベースレンダリング等の知見を得らるサイトや書籍があれば作品の品質向上に効果あり。
単位修得が望ましい科目	Java・Javascript・C#などのプログラムの基礎知識 Blender および Maya によるモデリング知識があれば独自素材を追加できる
備考	最終的には自分自身でゲームを作り上げることを目的とした講義となるが、プログラムやデザイン等の知識が無くても作れるようなツールを利用してひな型を作り、応用として Unity 環境での加工方法を得られる。補助的に Unity からスマホ用ストアアプリの登録技術を得られる。
担当教員の実務経験	現在、札幌でゲームやツール等を開発する株式会社スマイルブームの代表取締役。 30 年程前より札幌にてゲームやゲーム制作を補助するツールの開発を行っている。 コンシューマゲーム機向けの新しいアイデアを考えるゲームデザイン部門を中心に プログラムや画像作成及び作曲等も手掛ける。過去に CEDEC 委員会メンバーとして活躍。 これらの経験を活かし、ゲーム開発において重要な職種分類プログラム・デザイン・

	サウンド・企画に関する基礎的な知識を習得し、得られた知識を元に短時間でゲーム制作を体験できる専用ソフトウェアを使ったゲーム作りを行いながら組み込み過程で発生する問題点やアイデアを具現化する際の実体験からのアドバイスからノウハウを得ることが可能。

音声情報処理 Speech Processing

担当教員	広奥　暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMT303

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期(前半)

授業概要

今日，音声を含む音の情報は，計算機によって扱うことが一般的になりました。将来的には，機械―人間インターフェースにおいて，マルチメディア・マルチモーダルコミュニケーションが期待されています。また，通信による人間―人間のコミュニケーションにおいても，マルチメディアによる表現が大きな役割を果たしています。

この講義では，マルチメディアを支える柱の一つである音声について，特に音声情報を計算機によって処理することについて学びます。音声生成の仕組みと音声の特徴について学び，さらに，音声分析，音声符号化，音声合成，音声認識，音声理解などの技術について広く学習し，マルチメディア技術の基礎となる知識習得を目指します。

授業における学修の到達目標

・音の基本的な性質を理解します。
・コンピュータによる音声情報処理技術について理解します。
・音声情報処理技術がどのように応用されるかについて考察します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	コンピュータのしくみに関わる講義の内容を復習しておく。 物理学を学んだ事のある人は，その内容（とりわけ音，波動，電気について）復習しておく。	2
	授業	講義のガイダンス 講義の目標と講義の進め方を理解します。音声研究の歴史, 関連学問分野について学びます。	
	事後学修	自分の所有しているコンピュータ（タブレットやスマートフォンを含む）の音声インタフェースについてできるだけ詳しく（接続方法，処理用ＩＣの種類，アナログとディジタルの境界が何処にあるか等）調べる。 講義中に提示する Learning Management System（以下 LMS と略す）に登録し，LMS に提示されている資料「学習の進め方」，「この講義に対する考え方」を読む。	2
2	事前学修	LMS 第 2 回に提示される「学習の範囲」，「学習のポイント」を読み，「学習の範囲」に示す教科書の範囲（予定している教科書の第 2 章）を読んでおく。「前提条件」に示す条件に合致していない場合は，その不足を補うように振動現象について学習しておく。	2
	授業	音波の性質，音に関する物理量，感覚量について学びます	
	事後学修	LMS 第 2 回に示す 「宿題」の項に従って，音波に関する項目について復習する。 LMS 第 2 回「説明資料」（PDF）には 1 回先の講義内容を含んでいるので，復習だけでなく予習にも使用する。今後は提示する「説明資料」がその回から 1〜2 回後の内容を含んでいるので，予習に役立てる。	2
3	事前学修	LMS 第 3 回「事前の知識確認」の問題を解いて，既に知っている知識について確認しておく。不足の場合は，それを補う学習をする。「学習の範囲と学習の進め方」，「学習のポイント」を読んで，教科書第 3 章を読む。	2
	授業	聴覚について学ぶ。人間の聴覚器官の構造について学び， マスキング，両耳効果などの聴覚の特性について学ぶ。	
	事後学修	LMS 第 3 回「知識獲得の確認」の問題を解いて，今回獲得した知識について確認する。充分獲得できていない部分については復習する。LMS 第 3 回「宿題」に従って，「目」の構造について調べ「耳」と比較する。中間テスト 1 に備えて「中間テスト 1 対策問題」の問題を解く。	2

4	事前学修	第 4 回の内容は LMS の第 3 回「講義資料」に記載しているので事前に確認しておく。LMS 第 4 回の「学習の範囲」を読んで，教科書第 5 章を読む	2
	授業	振動現象について学びます。 教科書 3 章までの内容について中間テスト（中間テスト 1）を実施します。	
	事後学修	事前に獲得している物理学の知識によって復習内容はかわる。機械振動は，様々な楽器の音源と関わりがあるので，楽器と音源について調べる。 中間テスト 1 で，解答できなかった問題がある場合には，その項目について復習する。	2
5	事前学修	LMS 第 5 回の「学習の範囲」を読んで，教科書第 6,7 章を読む。LMS 第 4 回の「講義資料」の内容を確認（復習）する。	2
	授業	電気音響変換，マイク，スピーカの構造と原理について学ぶ。	
	事後学修	身近にあるマイク，スピーカの構造についていずれに該当するかを調べる。	2
6	事前学修	LMS 第 6 回の「学習の範囲」を読んで，教科書第 8，9 章を読む。LMS 第 5 回の「講義資料」の内容を確認する。LMS 第 6 回「事前テスト」を解く。	2
	授業	ディジタル録音技術，音響信号処理技術について学ぶ。	
	事後学修	LMS 第 6 回の「宿題　オーデイオフォーマット」を読んで，調べた結果を記載する。	2
7	事前学修	LMS 第 7 回「学習の範囲」を参考に教科書第 10 章 1，2 節を読む。「事前テスト」 に解答する。LMS 第 3 回の「中間テスト 1 対策問題」をもう一度学習しておく。	2
	授業	音声の基本的性質，音声と言語の関係について学ぶ。人間の発声器官の構造について学ぶ。	
	事後学修	LMS 第 7 回「確認テスト」に解答し，今回獲得した知識について確認する。	2
8	事前学修	LMS 第 8 回「学習の範囲」を参考に教科書第 10 章 3 節を読む。三角関数の性質について調べる（sin だけでも良い）。 インターネットなどを使って「周波数」と「スペクトル」について調べておく。	2
	授業	発声器官の機能，音声の物理的性質について学ぶ。	
	事後学修	「オクターブ」とはなにか，（人に説明できる程度に）調べる。	2
9	事前学修	LMS 第 9 回「学習の範囲」に従って教科書 10.4 節，および，11．1 節を読む。	2
	授業	中間テスト 2 受験上の注意が提示される。 音声の生成モデル，AD 変換について学ぶ。	
	事後学修	LMS 上で指示される期限までに中間テスト 2 を受験する。（最優先） AD 変換について LMS 上の補足資料，参考図書を手がかりに理解を深める。	2
10	事前学修	LMS 第 10 回「学習の範囲」に従って教科書 11.2 節を読む。該当部分の講義資料を読んでおく。 数式も多いので，時間をかけて丁寧に読む。	2
	授業	今回から次回にかけて音声スペクトルの分析法について学ぶ。今回はノンパラメトリック分析について学ぶ。	
	事後学修	スペクトル包絡とスペクトル微細構造，フーリエ変換について復習する。教科書の記述を読むだけでは難しいと思われるので，インターネットなどを使ってこれらについて調べる。	2
11	事前学修	LMS 第 11 回「学習のポイント」に従って教科書 11.3～11.4 節および 12.1 節を読む。該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	線形予測分析法を中心にノンパラメトリック分析法について学ぶ。前回とあわせてスペクトル分析についてまとめる。 音声符号化の原理について学ぶ。	
	事後学修	第 9 回の AD 変換について復習しておく。ベクトル量について調べる。	2
12	事前学修	LMS 第 12 回「学習のポイント」に従って教科書 12.2～12.6 節を読む。ただし，12.4.3、12.5 は省略する。該当部分の講義資料を読んでおく。	2

	授業	時間領域での符号化，周波数領域での符号化について学び，両者のハイブリッド型の符号化方についても学ぶ。また，音声品質の評価方法についても学ぶ。	
	事後学修	オピニオン法，対比較法の他の分野での使用例を調べる。	2
13	事前学修	LMS 第 13 回「学習のポイント」に従って教科書 13 章を読む。該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	音声合成の原理，音声合成方式の分類について学ぶ。音声合成時の問題点を理解する。	
	事後学修	自分の身の回りの音声を発する機械について，いずれの音声合成方式を利用しているか推測しまとめる。音声合成の単位について整理しておく。	2
14	事前学修	LMS 第 14 回「学習のポイント」に従って教科書 14 章 14.1～4 節を読む。（14.5，6 節は省略）該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	音声認識の原理，音声認識方法の変化，ニューラルネットワークによる音声認識について学ぶ。	
	事後学修	自分の身の回りで音声を認識する機械を見つける。（少なくともスマートフォンは含む） 実際に音声認識を試し，その認識精度について調べる。それらの機械が音声認識をするために必要としているもの（条件）が何かをまとめる。	2
15	事前学修	LMS 第 15 回「学習のポイント」に従って教科書 14.7 節および第 15 章を読む。（第 16 章は扱わない）該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	音声認識のロバスト性の必要性とそのための方法を学ぶ。話者認識技術についてまなぶ。 最後に，身近な音声情報処理技術の応用について考える。 最終テストを受験する。	
	事後学修	最後に提示される身近な音声情報処理技術の応用から，今後の社会で高度な音声情報処理技術が実用化されて行く場合の問題点はどのようなものか考察する。	2

成績評価の方法およびその基準

2 回の中間テスト（下記項目「小テスト」）と最終テスト（下記項目「試験」）で標準評価基準に基づき総合評価する。
（これらのテストは，状況によって LMS 上で実施することもある）
■試験： 60% ■小テスト： 40% □レポート： % □演習課題： %
□その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

LMS（POLITE3）上で実施するテストについては，その場で結果を確認できる。講義の質疑応答等は，POLITE3 上で案内するコミュニケーション手段（Slack のサービスを利用する）によって行う。
2 回の中間テストと最終テストを実施する。なお，この中間テストが，成績評価の方法の「小テスト：40%」に対応し，最終テストが「試験：60%」に対応する。

教科書	書名：新音響・音声工学, 著者名：古井　貞熙, 出版社：近代科学社, 備考：
参考書・Web サイト	POLITE3 http://polite3.do-johodai.ac.jp/
単位修得が望ましい科目	物理学
備考	POLITE3 以外にも使用するツールがあります。（説明は POLITE3 に掲載）
担当教員の実務経験	なし

画像情報処理-2022 年度休講- Image Processing

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMT304

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期(後半)

授業概要

本講義では学生が与えられたアプリケーションソフトウェア（Photoshop などの画像処理ソフトウェア）を単に利用するだけではなく，信号処理，画像処理のアルゴリズムを理解し，アプリケーション作成のためのプログラム能力も身に着けることを目標とします。原理を理解することで，アプリケーションソフトウェアの効果的，効率的な利用方法の習得が可能になります。なお，本科目を受講するためには，基礎知識として１）数学知識，２）プログラム知識などが必要です。
講義のなかでは、実習を通してプログラムの知識を深めていきます。

授業における学修の到達目標

画像処理の基本概念の理解を目指します。理解を進めるために、自分で Matlab による画像処理プログラムを作成し動作を確認します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2
	授業	画像処理の概要	
	事後学修	画像処理の概要に関してレポートにまとめる	2
2	事前学修	POLITE で配布した開発環境の説明に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	開発環境の説明	
	事後学修	開発環境の説明に関してレポートにまとめる	2
3	事前学修	POLITE で配布した画像ファイルの入出力に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像ファイルの入出力	
	事後学修	画像ファイルの入出力に関してレポートにまとめる	2
4	事前学修	POLITE で配布した画素へアクセスするプログラムに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画素へアクセスするプログラム	
	事後学修	画素へアクセスするプログラムに関してレポートにまとめる	2
5	事前学修	POLITE で配布した画像のフォーマットに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像のフォーマット	
	事後学修	画像のフォーマットに関してレポートにまとめる	2
6	事前学修	POLITE で配布した画像の統計量に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の統計量	
	事後学修	画像の統計量に関してレポートにまとめる	2
7	事前学修	POLITE で配布した画像の濃度値補正に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の濃度値補正	
	事後学修	画像の濃度値補正に関してレポートにまとめる	2
8	事前学修	POLITE で配布した画像の平滑化に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の平滑化	

	事後学修	画像の平滑化に関してレポートにまとめる	2
9	事前学修	POLITE で配布した画像の勾配情報に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の勾配情報	
	事後学修	画像の勾配情報に関してレポートにまとめる	2
10	事前学修	POLITE で配布したフィルタ処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	フィルタ処理	
	事後学修	フィルタ処理に関してレポートにまとめる	2
11	事前学修	POLITE で配布した局所特徴量に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	局所特徴量	
	事後学修	局所特徴量に関してレポートにまとめる	2
12	事前学修	POLITE で配布した画像の 2 値化に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の 2 値化	
	事後学修	画像の 2 値化に関してレポートにまとめる	2
13	事前学修	POLITE で配布した 2 値画像の利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	2 値画像の利用	
	事後学修	2 値画像の利用に関してレポートにまとめる	2
14	事前学修	POLITE で配布したテンプレートマッチングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	テンプレートマッチング	
	事後学修	テンプレートマッチングに関してレポートにまとめる	2
15	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	試験と内容の解説	
	事後学修	講義全体の理解度についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40%　■小テスト：10%　■レポート：50%　□演習課題：　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに，誤った解答の傾向についても紹介する。

課題の提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	
参考書・Web サイト	ディジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習 I
備考	これまでプログラミングが苦手だった人も、本講義のようなビジュアルな出力結果を通して、プログラミングに対する理解度の向上が期待できます。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ソフトウェアデザイン Software Design

担当教員	谷川 健(302 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC314

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期

授業概要

情報システムを開発するには、開発する正しい手順（プロセス）に従うことが重要である。システム開発するために何をすべきかについては、ほぼ明確になってきている。システムが何をするかを決め（分析）、それをどのように実現するかを考え（設計）、実際に動作するシステムを開発する（実装、構築）というプロセスを実行する。これらをどのようにするかは、様々な方式が提案されているが、今日では、繰り返しながら少しずつ開発する方法が、大規模なソフトウェアの開発には適していることが明らかになってきている。また、そのためには修正や追加しやすいソフトウェア構造を保つ必要があるため、オブジェクト指向技術が適している。

本講義では、情報システムとりわけその中心となるソフトウェアの設計とその管理について、オブジェクト指向技術を使った方法について学ぶ。身近なシステムの開発を例にした演習を含めることで理解を深める。

授業における学修の到達目標

ソフトウェアの開発工程（プロセス）のそれぞれについて概要を説明できる
オブジェクト指向を使った機能分析、データモデリングの手法を説明できる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	コンピュータの変遷（歴史）について調査する	2
	授業	ガイダンス、コンピュータの変遷について学ぶ	
	事後学修	コンピュータシステムの変遷について調査する	2
2	事前学修	競争優位性となにか、ICT で競争優位性を確保した企業について調査する	2
	授業	競争優位性と情報システムについて学ぶ	
	事後学修	競争優位性を確保するために、情報システムが果たす役割についてまとめる	2
3	事前学修	ソフトウェアを開発する手順にういて調査する	2
	授業	ソフトウェア開発アクティビティに何があるか学ぶ	
	事後学修	ソフトウェア開発アクティビティのそれぞれで出力されるドキュメントについてまとめる	2
4	事前学修	ウォータフォール開発とは何か調査する	2
	授業	開発方法論について学ぶ	
	事後学修	アジャイル開発手法の具体例を一つあげ、概要と特徴を調査する	2
5	事前学修	オブジェクト指向とは何か調査する	2
	授業	オブジェクト指向技術について学ぶ	
	事後学修	継承を使った差分プログラムについて利点と欠点を調査する	2
6	事前学修	3 アミーゴについて調査する	2
	授業	オブジェクト指向技術を使ったシステム開発手順について学ぶ	
	事後学修	オブジェクト指向を使ったシステム開発の手順についてまとめる	2
7	事前学修	UML のクラス図、シーケンス図について調査する	2
	授業	UML の概要について学ぶ	
	事後学修	Astah を使って、クラス図を作成する	2
8	事前学修	ユースケース記述について調査する	2

	授業	オブジェクト指向を使った分析手法として、ユースケースを使った分析とは何かを学ぶ	
	事後学修	ユースケース記述の課題を解く	2
9	事前学修	ユーズケース図について調査する	2
	授業	ユースケースを使った分析に関する演習課題を解く	
	事後学修	演習課題の解答例を見て、自分の解答を見直す	2
10	事前学修	概念について調査する	2
	授業	オブジェクト指向を使った分析手法として、概念モデリングとは何かを学ぶ	
	事後学修	概念の外延、内包関する課題を解く	2
11	事前学修	概念をクラス図として表現する手法をまとめる	2
	授業	概念モデリングの演習課題を解く	
	事後学修	演習課題の解答例を見て、自分の解答を見直す	2
12	事前学修	オブジェクト指向の分析手順をまとめる	2
	授業	オブジェクト指向分析の演習課題を解く	
	事後学修	演習課題の解答例を見て、自分の解答を見直す	2
13	事前学修	リレーショナルデータベースの正規化について調査する	2
	授業	リレーショナルデータベースについて学ぶ	
	事後学修	正規化の課題を解く	2
14	事前学修	ER 図について調査する	2
	授業	データモデリングについて学ぶ	
	事後学修	データモデリングの課題を解く	2
15	事前学修	この講義で学修した内容を整理し、理解を深める	2
	授業	総合演習を行い、この講義においてどの程度理解したかを確認する	
	事後学修	総合演習の解答例・解説を見て、自分の理解できていないところを整理する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　□演習課題：　　%
■その他[15 回目に実施する総合演習]：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題については、採点して返却し、全体のフィードバックを講義内で行う。
試験については、POLITE3 で正解例、解説を公開する。

教科書	
参考書・Web サイト	谷川健, Java でオブジェクト指向開発する実践技術, (株)SCC 内山俊郎, わかりやすい情報システムの設計, ムスリム出版
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験無し

Ｗｅｂアプリケーション開発演習Ⅰ Web Application Development 1 Practical

担当教員	未定　メディア未定 A()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMT306

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	夏期集中

授業概要

本演習では、ユーザとインタラクションしながら動的に Web ページを生成、遷移させ、簡単なデータ処理を行う Web アプリケーションを開発します。
あわせて Web アプリケーション開発に必用となる言語、ライブラリ、フレームワークについて、PHP、Python、JavaScript、FastAPI、Web API 等も取り扱う予定です。
各テーマについて講義をした後に、実習として設定された課題に応じた Web アプリケーションを構築します。

授業における学修の到達目標

PHP をはじめとした動的な Web ページ実装に必用となる言語とその実装方法を実習を通して理解することを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2
	授業	Web アプリケーション開発	
	事後学修	Web アプリケーション開発について学んだことをまとめる	2
2	事前学修	Web サーバの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	Web サーバの概要	
	事後学修	Web サーバの概要について学んだことをまとめる	2
3	事前学修	Web の動的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	Web の動的な処理	
	事後学修	Web の動的な処理について学んだことをまとめる	2
4	事前学修	データベースの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの概要	
	事後学修	データベースの概要について学んだことをまとめる	2
5	事前学修	PHP の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP の概要	
	事後学修	PHP の概要について学んだことをまとめる	2
6	事前学修	PHP の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP の基礎	
	事後学修	PHP の基礎について学んだことをまとめる	2
7	事前学修	PHP の制御構造について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP の制御構造	
	事後学修	PHP の制御構造について学んだことをまとめる	2
8	事前学修	PHP の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP の応用的な処理	

	事後学修	PHP の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
9	事前学修	PHP での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP での処理実装例	
	事後学修	PHP での処理実装例について学んだことをまとめる	2
10	事前学修	PHP での簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする	2
	授業	PHP での簡易 Web アプリケーション	
	事後学修	PHP での簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる	2
11	事前学修	JavaScript の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の概要	
	事後学修	JavaScript の概要について学んだことをまとめる	2
12	事前学修	JavaScript の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の基礎	
	事後学修	JavaScript の基礎について学んだことをまとめる	2
13	事前学修	JavaScript の制御構造について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の制御構造	
	事後学修	JavaScript の制御構造について学んだことをまとめる	2
14	事前学修	JavaScript の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の応用的な処理	
	事後学修	JavaScript の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
15	事前学修	データベースの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの概要	
	事後学修	データベースの概要について学んだことをまとめる	2
16	事前学修	データベースの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの実装	
	事後学修	データベースの実装について学んだことをまとめる	2
17	事前学修	データベースの応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの応用的な処理	
	事後学修	データベースの応用的な処理について学んだことをまとめる	2
18	事前学修	PHP とデータベースの連携について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携	
	事後学修	PHP とデータベースの連携について学んだことをまとめる	2
19	事前学修	PHP とデータベースの連携の実装について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携の実装	
	事後学修	PHP とデータベースの連携の実装について学んだことをまとめる	2
20	事前学修	PHP とデータベースの連携の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携の応用的な処理	
	事後学修	PHP とデータベースの連携の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
21	事前学修	JSP とデータベースの連携について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP とデータベースの連携	
	事後学修	JSP とデータベースの連携について学んだことをまとめる	2

22	事前学修	JSP とデータベースの連携の実装について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP とデータベースの連携の実装	
	事後学修	JSP とデータベースの連携の実装について学んだことをまとめる	2
23	事前学修	JSP とデータベースの連携の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP とデータベースの連携の応用的な処理	
	事後学修	JSP とデータベースの連携の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
24	事前学修	可視化ダッシュボード Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	可視化ダッシュボード Web アプリの概要	
	事後学修	可視化ダッシュボード Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
25	事前学修	可視化ダッシュボード Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	可視化ダッシュボード Web アプリの実装	
	事後学修	可視化ダッシュボード Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
26	事前学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要	
	事後学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
27	事前学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装	
	事後学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
28	事前学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要	
	事後学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
29	事前学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装	
	事後学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
30	事前学修	Web アプリケーション開発のまとめについて配付資料で予習をする	2
	授業	Web アプリケーション開発のまとめ	
	事後学修	Web アプリケーション開発のまとめについて学んだことをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■演習課題：100　%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題について演習中進捗状況を確認し実装方法等について議論・検討・指導することでフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習 メディア技術演習 プログラミング演習 I
備考	特になし
担当教員の実務経験	特になし

Ｗｅｂアプリケーション開発演習Ⅱ Web Application Development 2 Practical

担当教員	未定　メディア未定 A()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMT307

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	冬期集中

授業概要

本演習では、ユーザとインタラクションしながら動的に Web ページを生成、遷移させ、簡単なデータ処理を行う Web アプリケーションを開発します。
あわせて Web アプリケーション開発に必用となる言語、ライブラリ、フレームワークについて、PHP、Python、JavaScript、FastAPI、Web API 等も取り扱う予定です。
各テーマについて講義をした後に、実習として設定された課題に応じた Web アプリケーションを構築します。

授業における学修の到達目標

PHP をはじめとした動的な Web ページ実装に必用となる言語とその実装方法を実習を通して理解することを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2
	授業	Web アプリケーション開発	
	事後学修	Web アプリケーション開発について学んだことをまとめる	2
2	事前学修	JavaScript での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript での処理実装例	
	事後学修	JavaScript での処理実装例について学んだことをまとめる	2
3	事前学修	JavaScript の簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の簡易 Web アプリケーション	
	事後学修	JavaScript の簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる	2
4	事前学修	JSP の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP の概要	
	事後学修	JSP の概要について学んだことをまとめる	2
5	事前学修	JSP の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP の基礎	
	事後学修	JSP の基礎について学んだことをまとめる	2
6	事前学修	JSP の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP の応用的な処理	
	事後学修	JSP の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
7	事前学修	JSP での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP での処理実装例	
	事後学修	JSP での処理実装例について学んだことをまとめる	2
8	事前学修	JSP の簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする	2
	授業	JSP の簡易 Web アプリケーション	

	事後学修	JSP の簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる	2
9	事前学修	FastAPI の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI の概要	
	事後学修	FastAPI の概要について学んだことをまとめる	2
10	事前学修	FastAPI の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI の基礎	
	事後学修	FastAPI の基礎について学んだことをまとめる	2
11	事前学修	FastAPI の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI の応用的な処理	
	事後学修	FastAPI の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
12	事前学修	FastAPI での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI での処理実装例	
	事後学修	FastAPI での処理実装例について学んだことをまとめる	2
13	事前学修	Web API の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の概要	
	事後学修	Web API の概要について学んだことをまとめる	2
14	事前学修	Web API の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の基礎	
	事後学修	Web API の基礎について学んだことをまとめる	2
15	事前学修	Web API の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の応用的な処理	
	事後学修	Web API の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
16	事前学修	Web API での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API での処理実装例	
	事後学修	Web API での処理実装例について学んだことをまとめる	2
17	事前学修	PHP と Python の連携について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP と Python の連携	
	事後学修	PHP と Python の連携について学んだことをまとめる	2
18	事前学修	PHP と Python の連携による応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP と Python の連携による応用的な処理	
	事後学修	PHP と Python の連携による応用的な処理について学んだことをまとめる	2
19	事前学修	動的処理の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の基礎	
	事後学修	動的処理の基礎について学んだことをまとめる	2
20	事前学修	動的処理の実装について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の実装	
	事後学修	動的処理の実装について学んだことをまとめる	2
21	事前学修	動的処理の応用について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の応用	
	事後学修	動的処理の応用について学んだことをまとめる	2

22	事前学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要	
	事後学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要について学んだことをまとめる	2
23	事前学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装	
	事後学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装について学んだことをまとめる	2
24	事前学修	写真を加工・編集する Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	写真を加工・編集する Web アプリの概要	
	事後学修	写真を加工・編集する Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
25	事前学修	写真を加工・編集する Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	写真を加工・編集する Web アプリの実装	
	事後学修	写真を加工・編集する Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
26	事前学修	修得単位確認 Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	修得単位確認 Web アプリの概要	
	事後学修	修得単位確認 Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
27	事前学修	修得単位確認 Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	修得単位確認 Web アプリの実装	
	事後学修	修得単位確認 Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
28	事前学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要	
	事後学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
29	事前学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装	
	事後学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
30	事前学修	Web アプリケーション開発のまとめについて配付資料で予習をする	2
	授業	Web アプリケーション開発のまとめ	
	事後学修	Web アプリケーション開発のまとめについて学んだことをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■演習課題：100　%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題について演習中進捗状況を確認し実装方法等について議論・検討・指導することでフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習 メディア技術演習 プログラミング演習 I
備考	特になし

担当教員の実務経験	特になし

ビジュアル構成・演習 Visual Composition Practical

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
杉澤 愛美(133 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 伊藤 マーティ(非常勤), 近澤 美里(非常勤)	4 単位	演習		IMD203

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

一年時に「デザインエレメンツ・演習」で学習したデザインの基礎（コンセプトワーク,レイアウト,図形処理,画像処理,マルチメディア表現）を，さらに飛躍させる実習の場。Adobe Illustrator と Photoshop を使っての高度なビジュアルデザインを制作し，しっかりとデザインの応用を身につけ，自己表現や個性的な表現力を身につける。さらに,コンセプトを理解し,それを的確に表現できるデザイナーとしての実力を確立する。どのような職種に就いても必ず役に立つ「わかりやすく，きれいに，人に伝える」技術を身につける。また,グラフィックデザインからマルチメディアへの展開を実践する。

※本講義は前提として、デザインの基礎及び Adobe illustrator、Photoshop の活用に関する知識が必要となるため、「メディアデザインの基礎演習」「デザインエレメンツ演習」履修後の履修を強く推奨する。

授業における学修の到達目標

指定されたターゲットや商品・サービスの特徴に応じた作品制作ができるようになる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する	4.0
	授業	・ガイダンス ・illustrator の基本的な使い方おさらい	
	事後学修	特になし	0.0
2	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習① （課題説明・情報収集）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
3	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習② （企画制作）	
	事後学修	特になし	0.0
4	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習③ （企画へのフィードバック）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
5	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習④ （企画の修正）	
	事後学修	特になし	0.0
6	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0

	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑤ （デザイン制作）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑥ （デザインへのフィードバック）	
	事後学修	特になし	0.0
8	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑦ （デザインの修正）	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
9	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑧ （提出資料の作成）	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑨ （プレゼンテーションを踏まえた修正・課題提出）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習① （課題説明・情報収集）	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習② （企画制作）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習③ （企画へのフィードバック）	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習④ （企画の修正）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
15	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑤ （デザイン制作）	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑥ （デザインへのフィードバック）	

	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
17	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑦ （デザインの修正）	
	事後学修	特になし	0.0
18	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑧ （デザインの仕上げ）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
19	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	4.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑨ （提出資料の作成）	
	事後学修	特になし	0.0
20	事前学修	プレゼンテーションの練習	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑩ （プレゼンテーションを踏まえた修正・課題提出）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
21	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習① （課題説明・情報収集）	
	事後学修	特になし	0.0
22	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習② （企画制作）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
23	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習③ （企画へのフィードバック）	
	事後学修	特になし	0.0
24	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習④ （企画の修正）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
25	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑤ （デザイン制作）	
	事後学修	特になし	0.0
26	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑥ （デザインへのフィードバック）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
27	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0

	授業	・「公共広告ポスター」実習⑦ （デザインの修正）	
	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑧ （デザインの仕上げ）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
29	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑨ （提出資料の作成）	
	事後学修	特になし	0.0
30	事前学修	これまで制作した作品を整理する	2.0
	授業	全課題の振り返り・反省をまとめる	
	事後学修	特になし	0.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験： 0%　□小テスト： 0%　□レポート： 0%　■演習課題：80 %　■その他[プレゼンテーション 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物・発表内容に対しコメントによるフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	E ラーニング教材
単位修得が望ましい科目	本講義は前提として、デザインの基礎及び Adobe illustrator、Photoshop の活用に関する知識が必要となるため、「メディアデザインの基礎・演習」「デザインエレメンツ演習」履修後の履修を強く推奨する。
備考	特になし。
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わりないデザイン制作の知識を学生に伝える。

色彩・デザイン演習 Color Design Practical

担当教員	小屋 亮子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	演習		IMD206

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2年	後期(前半)

授業概要

デザイン表現における視覚情報手段としての色の要素は，不可欠です。色の基本的な理解，カラーシステムの有効性，具体的な配色理論を取り上げ，オリジナル資料を使いながら，実践的な知識として学習します。

演習課題を通じて，具体的な「トレーニング学習」を行うことで，各自の色彩感覚向上のための表現テクニックを習得します。

心理的な統計手法に基づいた尺度を用いて，色彩の応用事例を学び，より広範囲な内容を学ぶ事をねらいとしています。

授業における学修の到達目標

色彩基礎の理解，自分の色彩感覚の確認，共通言語・共通尺度の習得，視覚伝達の精度アップ

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の内容を把握する 第１回目授業に持参する物の準備（ステイックのり、ハサミ、鉛筆、消しゴム）	4.0
	授業	ガイダンス、 色彩とは何か、色の基本分類	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
2	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	色の基本分類（有彩色・無彩色） 明度の演習	
	事後学修	色の基本分類（無彩色）明度について復習 時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
3	事前学修	色の基本分類（有彩色）について予習（テキスト p2~p9,p24~p25）	4.0
	授業	色の基本分類（有彩色）、カラーシステムの成立	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
4	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	カラーシステム演習	
	事後学修	カラーシステム復習 時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
5	事前学修	カラーボキャブラリーについて予習（テキスト p18~21）	4.0
	授業	カラーボキャブラリー解説、配色方法の基本 配色トレーニング	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
6	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	配色トレーニング	
	事後学修	カラーボキャブラリーの復習 時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
7	事前学修	色彩研究の分類の予習（テキスト p6~p7）	4.0

		色相演習に使用するカラーグラビアのある雑誌の準備	
	授業	色彩学の分類、色彩研究、色の弁別 色相演習	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
8	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	色相演習	
	事後学修	色相の色の違いを再確認、時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
9	事前学修	色調、清色トーン・濁色トーンの使い方の予習（テキスト p8~p11）	4.0
	授業	色調、清色トーン・濁色トーンの使い方、混色 混色演習	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
10	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	混色演習	
	事後学修	色調、清色トーン・濁色トーンの使い方について復習 混色の原理について、まとめる。	4.0
11	事前学修	配色方法の分類、６つの配色方法について予習（テキスト p12~p17）	4.0
	授業	配色構成と役割、配色の決まり方、 ６つの配色方法演習	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
12	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	６つの配色方法演習	
	事後学修	配色方法の分類の復習と、色の基本をまとめる。 時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
13	事前学修	カラーボキャブラリーについて復習（テキスト p18~21）	4.0
	授業	講評、他人との比較・自分の色やイメージの感性センスを確認 配色トレーニング自己分析	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
14	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	色彩と連想イメージ（色から言葉へ・言葉から色へ） 連想イメージ演習	
	事後学修	時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
15	事前学修	イメージの捉え方（テキスト p28~P48）を予習 イメージコラージュ作成に使用するカラーグラビアのある雑誌等から素材集め	4.0
	授業	色彩と連想イメージ（デザイン要素から考えるイメージ） ミニイメージコラージュ演習	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
16	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	ミニイメージコラージュ演習	
	事後学修	時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
17	事前学修	環境からデザインを学ぶ（テキスト p26~p27)を予習	4.0
	授業	環境・風土と色彩公共デザイン色彩	
	事後学修	連続授業のため指定なし	

18	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	9イメージ分類デザイン要素比較演習	
	事後学修	環境・風土と色彩公共デザイン色彩をまとめる。 9イメージ分類のそれぞれの特性を整理し、まとめる	4.0
19	事前学修	ライフスタイル表現の予習（テキスト p50~p55） イメージコラージュ作成に使用するカラーグラビアのある雑誌等から素材集め	4.0
	授業	ミニイメージコラージュ演習講評 各自のイメージ比較	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
20	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	イメージコーディネート（ライフスタイル表現） 9イメージ分類のライフスタイルコラージュ表現演習	
	事後学修	ライフスタイルについてまとめる 9イメージ分類の衣食住のそれぞれの特性をまとめる	4.0
21	事前学修	イメージコラージュ作成に使用するカラーグラビアのある雑誌等から素材集め	4.0
	授業	イメージコーディネート（イメージ分類の実例） 9イメージ分類のライフスタイルコラージュ表現演習	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
22	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	9イメージ分類のライフスタイルコラージュ表現演習	
	事後学修	9イメージ分類コーディネート（嗜好傾向と客観的な印象）の特徴をまとめる	4.0
23	事前学修	イメージコラージュ作成に使用するカラーグラビアのある雑誌等から素材集め	4.0
	授業	9イメージ分類コーディネート（イメージ分類の活用例） 9イメージ分類のライフスタイルコラージュ表現演習	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
24	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	9イメージ分類のライフスタイルコラージュ表現演習	
	事後学修	9イメージ分類の特性をまとめる 9イメージ分類ライフスタイルコラージュを未提出の場合、次回までに提出	4.0
25	事前学修	商品開発演習に必要な情報や素材集め	4.0
	授業	9イメージ分類ライフスタイルコラージュ講評、他人との比較・自分のイメージの感性センスを確認	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
26	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	9イメージ分類の活用 商品開発演習	
	事後学修	9イメージ分類の活用をまとめる	4.0
27	事前学修	商品開発に必要な資料を収集	4.0
	授業	9イメージ分類を活用した商品開発 商品開発演習	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
28	事前学修	連続授業のため指定なし	

	授業	商品開発課題プレゼン	
	事後学修	未提出課題は、次回までに提出	4.0
29	事前学修	今までのまとめ。	4.0
	授業	これまでのまとめ。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	
30	事前学修	連続授業のため指定なし	
	授業	講評	
	事後学修	授業内容をまとめる	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　％　□小テスト：　％　□レポート：　％　■演習課題：　80　％　■その他[講義に参加する学習意欲や態度　２０％　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題回収後、解説を行います。

教科書	
参考書・Web サイト	講義中に適宜紹介
単位修得が望ましい科目	なし
備考	オリジナルのテキストを使用し、POLITE に掲載。 授業内で、教材（カラーカード）各自購入してもらいます。 スティックのり，ハサミ，カッター，コラージュ作成のためのカラーグラビアのある雑誌などを各自用意すること 初回の授業には，スティックのり、ハサミと鉛筆、消しゴムを用意のこと 課題は，欠席した場合でも提出のこと。
担当教員の実務経験	フラワーデザイナー・ラッピングデザイナーとして、フラワーアレンジメント、ブーケ、ラッピングの制作、店舗やウエディング会場のディスプレイ等を行なう。 また、個人・企業・カルチャースクールにて指導も行なう。 色彩理論と今までの実務経験を生かし、作品を作る上でのイメージの構築に重要なカラーデザインの方法とクライアントの要望を的確に理解する方法を学ぶ授業を実施する。

デジタルサウンド Digital Sound

担当教員	伊藤 博之(客員教授),風間 泰弘(非常勤),久保 壽光(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMD201

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

本講義は，サウンドや音楽コンテンツについて，１．コンテンツ制作の最新のテクノロジー，２．コンテンツ流通の現状と今後，３．音楽コンテンツの著作権管理の現状と今後，についての３つのトピックスを中心に，事例を交えながら解説します。

授業における学修の到達目標

デジタルサウンド制作のための最新技術動向，および音楽コンテンツ著作権の現状と将来展望を学習する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	ガイダンス	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
2	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	DTM と MIDI	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
3	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	デジタルオーディオ	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
4	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	DAW とプラグイン	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
5	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	DAW 編集	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
6	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	仮想楽器/VOCALOID	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
7	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	音楽と著作権	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
8	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	音律史	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
9	事前学修	講義内容を確認する	2.0

	授業	シグナルトレース	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
10	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	理想音源	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
11	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	シンセサイズ	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
12	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	空間と定位	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
13	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	アクシスシステム	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
14	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	フォルマント	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0
15	事前学修	講義内容を確認する	2.0
	授業	CGM	
	事後学修	講義中に示すテーマでレポートを書く	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験： % □小テスト： % ■レポート：100% □演習課題： %
□その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートに対し講評し、次の課題へと繋げていきます。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中に適宜資料を指定する。
単位修得が望ましい科目	該当なし
備考	ありません。
担当教員の実務経験	ありません。

ビジュアルエフェクト演習 Visual Effects Practical

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室), 近藤 寛史(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMD207

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	夏期集中

授業概要

テーマ：モーショングラフィックス及び、コンポジットによる映像表現
現代の多様な映像コンテンツ制作において必要不可欠なモーショングラフィックスや特殊効果などの映像加工技術、表現について講義，演習を行う。
講義では，映像作品や広告映像などの制作事例を通して，企画立案から視覚的な表現展開，作品化について映像デザインの観点から解説し，理解を深める。また，映像表現の最新動向についても触れる。
演習では，主に Adobe After Effects を用いた映像制作に取り組む。

授業における学修の到達目標

様々なビジュアル素材を用いた映像表現の制作フローを理解し，映像コンテンツの実践的な制作技術を習得する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	Adobe After effects について調べる。	2.0
	授業	ガイダンス，Adobe After effects についての解説講義。 主に関連する映像作品の紹介。	
	事後学修	Adobe After effects の特徴についてまとめる。	2.0
2	事前学修	広告映像について調べる。	2.0
	授業	最新の広告映像の作品鑑賞及び，解説講義。	
	事後学修	最新の広告映像の Adobe After effects を用いた制作例についてまとめる。	2.0
3	事前学修	ミュージックビデオについて調べる。	2.0
	授業	最新のミュージックビデオの作品鑑賞及び，解説講義。	
	事後学修	最新のミュージックビデオの Adobe After effects を用いた制作例についてまとめる。	2.0
4	事前学修	撮影及び，マスク処理について調べる。	2.0
	授業	撮影及び，マスク処理による映像作品の鑑賞及び，解説講義。	
	事後学修	撮影及び，Adobe After effects を用いたマスク処理についてまとめる。	2.0
5	事前学修	モーショングラフィックスについて調べる。	2.0
	授業	Adobe After effects を用いたモーショングラフィックス作品の鑑賞及び，解説講義。	
	事後学修	Adobe After effects を用いたモーショングラフィックスついてまとめる。	2.0
6	事前学修	Adobe After effects の特徴を用いた映像表現について調べる。	2.0
	授業	Adobe After effects を用いた複合的な映像表現の作品鑑賞及び，解説講義。	
	事後学修	Adobe After effects を活かした様々な映像表現についてまとめる。	2.0
7	事前学修	Adobe After Effects の機能について調べる。	2.0
	授業	Adobe After Effects のインターフェイス及び，機能についての解説及び，実習。	
	事後学修	Adobe After Effects のインターフェイス及び，機能についてまとめる。	2.0
8	事前学修	Adobe After Effects の操作方法について調べる。	2.0
	授業	Adobe After Effects の基礎的な操作についての解説及び，実習。	

	事後学修	Adobe After Effects の操作方法を練習する。	2.0
9	事前学修	キーフレームについて調べる。	2.0
	授業	コンポジションとキーフレームの課題実習に取り組む。	
	事後学修	コンポジションとキーフレーム操作の練習	2.0
10	事前学修	平面レイヤーについて調べる。	2.0
	授業	平面レイヤーとモーションの課題実習に取り組む。	
	事後学修	平面レイヤーとモーション付けの練習をする。	2.0
11	事前学修	スタビライズについて調べる。	2.0
	授業	マスクとスタビライズの課題実習に取り組む。	
	事後学修	マスクとスタビライズを用いた操作の練習をする。	2.0
12	事前学修	モーションタイポグラフィ，フォントについて調べる。	2.0
	授業	モーションタイポグラフィの課題実習に取り組む。	
	事後学修	モーションタイポグラフィの制作方法の練習をする。	2.0
13	事前学修	モーショングラフィックスについて調べる。	2.0
	授業	モーショングラフィックスの課題実習に取り組む。	
	事後学修	モーショングラフィックスの表現方法を練習する。	2.0
14	事前学修	課題作品の発表準備をする。	2.0
	授業	作品プレゼンテーション及び，講評会	
	事後学修	作品についての講評・アドバイスを踏まえて，課題作品の修正をする。	2.0
15	事前学修	課題作品の仕上げをする。	2.0
	授業	課題作品を完成させ提出する。	
	事後学修	課題作品の制作工程を振り返り，まとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%
□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題作品ごとに個人の成果をチェックし，コメントする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，及び，グラフィック系科目
備考	Adobe AfterEffects による映像表現を主体としたスキルアップ及び，応用的な作品制作に根ざした実習内容となります。映像系及び，デザイン系のクリエイティブ志向の高い学生向けの実習レベルに設定しています。 履修登録人数に制限を設けており，履修希望者が多い場合は，『単位が望ましい科目』の成績上位者を優先します。
担当教員の実務経験	実写映像の合成処理やモーショングラフィックスを駆使してコンテンツ制作を行う現役の映像ディレクター・映像作家である。実制作の経験をもとに表現ツールの基礎的な操作方法から，最先端の表現まで幅広く指導できる。

行動とデザイン Theory of Behavior-conscious Design

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMD209

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(前半)

授業概要

物をデザインする際に，人間の身体や心理特性を考慮することが重要です。本講義は，行動科学や生理学の知見を基に，実際のデザインに結びつける力を養うことを目的とします。行動科学とは，その名の通り，人間の行動を科学する学問で，心理学などの分野を内包し，我々の生活全般を科学的に分析するものです。本科目では，講義を通じ,これらの学問分野からデザインに生かせる知見を探し出し，現実空間の事象からバーチャル空間，デジタル環境までも対象に，デザインが人と環境のインタラクションにどのような影響を与えるかを考えます。

本科目は，本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を用いた自主学修支援を採用しています。事前学修としてビデオ教材等による予習（反転授業）が課せられている場合は，予習を前提に授業が進められます（宿題をやってこないと授業についていけなくなります）。また，事後学修についても POLITE 上の指示に従って行うようになっています。

大学の授業は，受講者の主体的に学ぶ姿勢が非常に重要となります。そのため，本学開発のオリジナルアプリ「Kaiwa2」などノート PC やタブレット・スマートフォンなどのデバイスを用いた双方向型の授業やグループワーク，実験などの体験型授業も行います。

授業における学修の到達目標

市民としての倫理観と自覚を持ち社会に貢献できる人材や，人間や社会，文化を理解し人に優しいデザインを考えることができる優れた人材育成を目指し，以下の点に着目して学習することを目標とする。

観察力を養い，日常の様々な事象からデザインのヒントを見出す力を身につける。

また，理論的なバックグラウンドを基に，人間の行動とデザインの関係を読み取る力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	なし	0.0
	授業	ガイダンス、導入；人間工学と行動科学	
	事後学修	人間工学と行動科学について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
2	事前学修	身の回りのものや空間のデザインに人間工学的な要素や行動科学的な視点を見出し，まとめる。	2.0
	授業	心理学の誕生	
	事後学修	心理学の誕生について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
3	事前学修	目の仕組みについて，POLITE の教材で予習し，その内容をまとめる。	1.0
	授業	視覚（1）目とカメラの違い ・周辺視の実験 ・盲点の実験	
	事後学修	視覚に関する授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
4	事前学修	なし	0.0
	授業	視覚（2）明るさへの対応	
	事後学修	視覚に関する本日の授業内容について復習し，マインドマップに追加する。	2.0
5	事前学修	POLITE の指示に従って，各自，ベンハムゴマの実験をしてレポートを作成する。	2.0
	授業	色と明るさ ・分光実験	

	事後学修	色と明るさに関する授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
6	事前学修	カラーユニバーサルデザインについて参考 Web サイトおよび POLITE の教材で予習する。	2.0
	授業	カラーユニバーサルデザイン	
	事後学修	カラーユニバーサルデザインに関する授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
7	事前学修	なし	0.0
	授業	ゲシュタルト心理学	
	事後学修	ゲシュタルト心理学に関する授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
8	事前学修	レポート作成に向けて，アフォーダンスの文献を読む（1） ※1 冊の本を読むため，読むだけで少なくとも 10 時間以上かかることが予想されます。そのため数週間に分けて配置してあります。	4.0
	授業	錯視	
	事後学修	錯視に関する授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
9	事前学修	レポート作成に向けて，アフォーダンスの文献を読む（2）	4.0
	授業	3 次元空間の知覚(1)　奥行きの手がかり	
	事後学修	奥行きの手がかりなど授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
10	事前学修	レポート作成に向けて，アフォーダンスの文献を読む（3）	4.0
	授業	3 次元空間の知覚(2)　ステレオスコープ	
	事後学修	ステレオスコープなど授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
11	事前学修	レポート作成に向けて，アフォーダンスの文献を読む（4）	4.0
	授業	感覚・知覚・認知(1)　ものを認識する仕組み	
	事後学修	ものを認識する仕組みなど授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
12	事前学修	レポート作成に向けて，アフォーダンスの文献の内容を整理しまとめる。	2.0
	授業	感覚・知覚・認知(2)，脳科学最前線	
	事後学修	脳科学最前線など授業内容について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
13	事前学修	アフォーダンスのレポートをまとめる。	4.0
	授業	生態心理学の考え方	
	事後学修	生態心理学の考え方について復習し，マインドマップにまとめる。	2.0
14	事前学修	なし	0.0
	授業	生態心理学・アフォーダンス ・グループワーク	
	事後学修	アフォーダンスについて復習し，マインドマップにまとめる。	1.0
15	事前学修	なし	0.0
	授業	UX（ユーザ・エクスペリエンス）・環境行動とデザイン	
	事後学修	UX（ユーザ・エクスペリエンス）・環境行動とデザインについて復習し，マインドマップにまとめる。試験範囲について，マインドマップにまとめる。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
■試験：40%　■小テスト：10%　■レポート(2)：25%　□演習課題：　%
■その他[レポート(1)＋小テスト＋日常的な宿題：25%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中や POLITE 等でコメントします。	
教科書	
参考書・Web サイト	・視覚心理学への招待　見えの世界へのアプローチ，大山正，サイエンス社 ・美と造形の心理学，仲谷洋平・藤本浩一，北大路書房 ・生態学的視覚論，J.J.ギブソン，サイエンス社 ・誰のためのデザイン,ドナルド・ノーマン，新曜社 ・アフォーダンス　新しい認知の理論，佐々木正人，岩波科学ライブラリ
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ，発想法演習（マインドマップの描き方がわかっていれば大丈夫です）
備考	出席を前提としています。授業の注意事項の説明を「初回のガイダンス」時に行いますので，必ず出席のこと。
担当教員の実務経験	担当者は環境行動学の専門家として、これまで空間の利用者がその空間で活動することで得られる UX を研究し，人と環境のインタラクションを基本にした新しい考えを用いて約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。本科目では，現実空間の事象からバーチャル空間，デジタル環境までを対象に，デザインが人と環境のインタラクションにどのように影響を与えるかを考えさせる。その際の具体的な事例紹介などに，これまでの企画立案設計の経験を生かす。

デジタルサウンド・演習 Digital Sound Practical

担当教員	風間 泰弘(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	講義		IMD208

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

現代のレコーディングや音楽制作には欠かせない DAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の習得を目指します。MIDI とオーディオを融合した DAW を使って，作曲からレコーディング，そしてミキシングやマスタリングといった，音楽制作のワークフローを学習します。PC での音楽制作に特化した授業内容となっており，ビギナーにもわかりやすく解説します。DAW ソフト「Studio One」を使いながら，操作方法はもちろん，作曲の手法やサウンドアレンジのテクニックについても基礎から学んでいきます。

授業における学修の到達目標

音楽制作のワークフローに触れ，自分の可能性を見つけていただきたい。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	DAW の概要・DAW ソフト（Studio One）の基本操作	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
2	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [基礎]（1）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
3	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [基礎]（2）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
4	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [基礎]（3）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
5	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [応用]（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
6	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [応用]（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
7	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	サンプル素材を使ったオーディオ編集（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
8	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	サンプル素材を使ったオーディオ編集（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0

9	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	オーディオ/MIDI の編集（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
10	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	オーディオ/MIDI の編集（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
11	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	YOSAKOI ソーラン楽曲制作（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
12	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	YOSAKOI ソーラン楽曲制作（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
13	事前学修	授業内容の把握とレコーディング機材の搬入・設定	2.0
	授業	マイクレコーディング（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
14	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	マイクレコーディング（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
15	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	ミキシング（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
16	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	ミキシング（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
17	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	ミキシング（3）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
18	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	ミキシング（4）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
19	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	マスタリング（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
20	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	マスタリング（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
21	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	試験課題制作（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
22	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0

	授業	試験課題制作（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
23	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	試験課題制作（3）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
24	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	試験課題制作（4）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
25	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	試験課題制作（5）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
26	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	試験課題制作（6）・試験課題提出	
	事後学修	データのバックアップ、提出課題の最終チェック	2.0
27	事前学修	授業内容の把握と PA 機材の設定・設置	2.0
	授業	PA 実習（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
28	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	PA 実習（2）	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
29	事前学修	授業内容の把握と PA 機材の設定・設置	2.0
	授業	作品発表会（1）	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
30	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	作品発表会（2）	
	事後学修	発表会を振り返り、演習作業の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 50% □小テスト： % ■レポート： % ■演習課題： 50%

□その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題、試験課題等に対するフィードバックは、授業において直接行う。

教科書	
参考書・Web サイト	
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド
備考	平山晴花先生が並行して講義される『デジタルサウンド演習』の受講生と合同で、PA 実習や作品発表会を行う予定です。
担当教員の実務経験	地元札幌を拠点に精力的に活動しているシンガーソングライター＆サウンドプロデューサー。年間数十本ものライブをこなしながら CD アルバムも数多く制作。マルチプレーヤーであり、ギター、ベース、ピアノ、サックス、パーカッション、ペダルスチールなどのあらゆる楽器を演奏する。ポップスはもちろん、ジャズ、クラシック、フォーク、日本伝統音楽などにも精通したサウンドアレンジには定評があり、インディーズレーベル『セピアムーンレ

	コーズ』のサウンドプロデューサーとして、北海道内外を問わず数多くのアーティストやミュージシャン作品を手がけている。株式会社アンプリチュード代表取締役。 制作現場で培われた手法を基礎から分かりやすく解説し、PC を使った音楽制作を演習します。

デジタルサウンド・演習 Digital Sound Practical

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	講義	○	IMD208

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	通年

授業概要

DAW（デジタルオーディオワークステーション）のソフトウェアである Studio One を使い、音楽制作や編集の実践を通して MIDI 情報とオーディオ情報処理の基礎を学ぶ。
前期には、MIDI 情報処理を中心とした内容で、後半には PA（Public Address）の基礎も実習する。後期は、オーディオ情報の処理が中心で、音の録音、編集、エフェクトによる音作り、ミキシングのスキルの基本を学び、最終課題として個人またはグループでのオーディオ作品を制作する。前後期ともグループワークによる作業や、作品発表等におけるディスカッションが含まれる。

授業における学修の到達目標

MIDI 情報の扱い、オーディオ情報の扱い方について修得する。録音機材についての知識をつけ、扱い方を理解する。
Public Address システムに関する機材やその接続について経験し、基礎知識をつける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	DTM について調べる	2
	授業	ガイダンス	
	事後学修	音楽再生と制作の歴史についてリーディング課題	2
2	事前学修	MIDI と DAW について調べる	2
	授業	MIDI と DAW について	
	事後学修	MIDI と DAW についてリーディング課題	2
3	事前学修	MIDI の入力方法について調べる	2
	授業	MIDI 入力：ステップ入力	
	事後学修	ステップ入力課題	2
4	事前学修	和音（コード）とは何かについて調べる	2
	授業	コードについて	
	事後学修	コードの MIDI 入力課題	2
5	事前学修	チャンネルボイスメッセージとは何か調べる	2
	授業	音色、音の多重化	
	事後学修	チャンネルボイスメッセージのリーディング課題	2
6	事前学修	Studio Oon の MIDI エフェクトを調べる	2
	授業	MIDI エフェクツ（MIDI FX）	
	事後学修	MIDI エフェクツを使った制作課題	2
7	事前学修	曲のアレンジメントについて調べる	2
	授業	アレンジとループ素材	
	事後学修	ループ素材を使った制作課題	2
8	事前学修	音に関するリーディング課題	2
	授業	オーディオ編集基礎	

	事後学修	音編集課題	2
9	事前学修	課題の制作	2
	授業	制作とフィードバック	
	事後学修	課題の制作	2
10	事前学修	ミキシングとは何かを調べる	2
	授業	ミキシングについて	
	事後学修	ミキシングに関するリーディングと実験	2
11	事前学修	ミキシングの実験	2
	授業	ミキシング演習、フィードバック、音の書き出し	
	事後学修	ミックスした音を書き出す	2
12	事前学修	アレンジとミックスを課題	2
	授業	制作、フィードバック	
	事後学修	作品を完成させ、書き出す。	2
13	事前学修	録音機材と録音に関するリーディング課題	2
	授業	PA 実習（準備と予備知識）	
	事後学修	機材の使い方の復習、ケーブル巻きの復習	2
14	事前学修	機材のセッティングの準備	2
	授業	PA 実習	
	事後学修	機材機材の使い方の復習	2
15	事前学修	機材のセッティングの準備	2
	授業	PA 実習&作品発表会	
	事後学修	作品についての考察	2
16	事前学修	（機材のセッティングの準備）	2
	授業	（PA 実習&作品発表会：15 回からの続き）	
	事後学修	（作品についての考察）	2
17	事前学修	身の回りのさまざまな音を聞いてみる	2
	授業	音情報とサウンドデザイン	
	事後学修	音とは何かに関するリーディング課題	2
18	事前学修	音の要素についてのリーディング課題	2
	授業	オーディオエフェクツ①（Audio Fx）	
	事後学修	音作りに関する課題	2
19	事前学修	エフェクトの種類についてのリーディング課題①	2
	授業	オーディオエフェクツ②（Audio Fx）	
	事後学修	音作りに関する課題	2
20	事前学修	エフェクトの種類についてのリーディング課題②	2
	授業	オーディオエフェクツ③（Audio Fx）、録音準備	
	事後学修	音作りに関する課題	2
21	事前学修	録音機材についてのリーディング課題	2
	授業	録音機材と基礎知識	
	事後学修	機材の使い方や録音の練習	2

22	事前学修	課題につけたい音について考察する	2
	授業	録音実習準備とグループディスカッション	
	事後学修	録音素材の検討とまとめ	2
23	事前学修	録音実習の準備	2
	授業	録音実習	
	事後学修	録音した音を聞き使えるかどうかの検討	2
24	事前学修	録音実習の準備	2
	授業	録音実習	
	事後学修	音素材をまとめる	2
25	事前学修	オーディオ編集の復習（第 8 回）	2
	授業	録音実習（編集とグループワーク）	
	事後学修	音素材の編集とまとめ	2
26	事前学修	具体音楽について調べる	2
	授業	作曲、編集、ミックスについて	
	事後学修	音素材の編集と作曲を進める	2
27	事前学修	各担当パートの制作	2
	授業	制作①（音作りと編集）*個人&グループ &フィードバック	
	事後学修	フィードバックを反映させて制作を進める	2
28	事前学修	各担当パートの制作	2
	授業	制作②（音作りと編集）*個人&グループ &フィードバック	
	事後学修	フィードバックを反映させて制作を進める	2
29	事前学修	各担当パートの制作	2
	授業	制作③（編集、ミックス）*個人&グループ &フィードバック	
	事後学修	フィードバックを反映させて制作を進め、曲をまとめる	2
30	事前学修	曲をまとめて書き出す	2
	授業	作品発表、作品提出	
	事後学修	作品についての考察	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：50% ■演習課題（含: 最終発表）：50% □その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中、または Polite 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	『ミュージッククリエイターハンドブック MIDI 検定公式ガイド』 YAMAHA Music Media 出版 その他、必要に応じて授業内で提示する。
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド、芸術演習（必須ではない）
備考	コンピュータのスペックおよびソフトウェア環境が整っていれば、個人のコンピュータの持ち込み可能（Win/Mac）。
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ＤＴＰ Desk Top Publishing

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室), 伊藤 マーティ(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMD301

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期

授業概要

指導陣に印刷業界の現役プロの方をお迎えし、今まさに現場で行われているテクノロジーやルールを学習し、作品作りで実習する。 DTP（DeskTop Publishing / DeskTop Prepress）とは，コンピュータによる出版を意味する。書籍，新聞，広告デザイン印刷物などの編集に際して行うデザイン，割り付けなどの作業をコンピュータ上で行い，印刷機やプリンターで出力を行うこと。印刷は現代のデジタルコンテンツのベースアイテムとしてとらえることができる。その中でも，印刷物を「デザイン」する作業は表現すべての元を創り上げる大事な部分です。また印刷完成までには，ひとつのデータが多くの作業工程と人の手と機械を介し仕上がることを理解し，基本を知った上でデザインデータを仕上げることを身につける。講義，実習，課題提出を組み合わせた講座とする。

本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となるため、メディアデザインの基礎・演習/デザインエレメンツ・演習/ビジュアル構成演習の講義受講後の履修が望ましい。

授業における学修の到達目標

DTP ではデザイン系をめざすものには「DTP」に基づくデザインづくりを身に付けることを目標とし，また，デザイン系をめざさない学生にも印刷デザインに関する知識，感覚を社会で生かしていけるよう，現代のデジタルコンテンツの核である「DTP」の知識，技術を身につけてもらうことを目標としている。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する	2.0
	授業	・授業ガイダンス ・ファイリングの必要性と運用について学ぶ ・単純画像を用いた自分のシンボルマーク作り	
	事後学修	授業内容をまとめ復習する	2.0
2	事前学修	Adobe illustrator の利用方法を復習する	2.0
	授業	・DTP の基本構造の構築について学ぶ ・画像素材の解像度、リンク・埋め込みなど ・画像切り抜き方法のおさらい	
	事後学修	授業内容をまとめ復習する	2.0
3	事前学修	素材となる写真準備 実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【ポストカード】 ・写真の取り扱い方法を実践する ・写真を使ったデザインを考える ・スマホ→PC への写真の取り込み方（ドライブ or Gmail）	
	事後学修	授業内容をまとめ復習する	2.0
4	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	【ポストカード】 ・自分なりのデザインを反映させる ・入稿データの制作	

	事後学修	授業内で制作しきれなかった部分を完成させる	2.0
5	事前学修	自身が作成したポストカードデザインを見直す。誤りがあれば修正を行う。	2.0
	授業	マージン・トラップなどページに関するルールとオペレーションについて学ぶ	
	事後学修	授業内容をまとめ復習する	2.0
6	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	リーフレットデザイン① リーフレットデザインの制作手順と内容	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	リーフレットデザイン② リーフレットデザインのベースフォーマットの作り方	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
8	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	リーフレットデザイン③ リーフレットデザインの作業手順について リーフレットデザインの下絵の貼り付け方	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
9	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	リーフレットデザイン④ リーフレットデザインの制作に関して リーフレットデザインの提出方法の確認	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
10	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	小冊子デザイン① ガイダンス 小冊子デザインの実データ製作時の注意点	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	小冊子デザイン② 小冊子デザインのための画像解像度を整える方法	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
12	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	小冊子デザイン③ 小冊子デザインの画像加工について	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	小冊子デザイン④ 小冊子デザインの文字組みや効果について	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
14	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	封筒デザイン① ガイダンス・封筒デザインの作り方	

	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
15	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	封筒デザイン② 全課題の振り返り、クオリティアップ	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する
□試験：0%　□レポート：0%　□小テスト：0%　■演習課題：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題に対するコメントによってフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	とくになし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習
備考	本講義は印刷物を扱うため、印刷ができる環境が必要です。自宅・大学での印刷や、コンビニエンスストアでのプリンター等を活用してください。 また、本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となるため、以下の科目の単位を取得していることを強く推奨します。 ・デザインエレメンツ・演習 ・ビジュアル構成演習 ・グラフィック制作プロジェクト 受講人数が多い場合、履修制限を行う可能性があります。
担当教員の実務経験	ウィキペディア（https://ja.wikipedia.org/wiki/伊藤マーティ） 広告代理店に 7 年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業の CI やキャラクターデザイン、広告活動の制作を行っている。

クリエイティブ・マネージメント Creative Management

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMD302

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期(後半)

授業概要

この講義では，デザイナー，クリエイター，プログラマーなどを目指すものが将来，ディレクター，プロデューサー，上級 SE などへのキャリアステップを踏む上で身につけるべきプロジェクトマネージメント，スケジュール管理，チームビルディング，チームマネージメントなどについて学習する。
大学生活の中で，作ることをひとりではなくチームで行う際、どうすれば成功に結び付けられるのかをみんなで考える。

※この講義はグループでのディスカッションを多く含みます。

授業における学修の到達目標

・デザイナーやクリエイターが持つべきマネージメント能力、チームづくりの基本的な知識と考え方を身につける.
・ディレクターやプロデューサーを目指す上で必要な知識と応用力を身につける.

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義の目的とスケジュールをみておく	2
	授業	ガイダンス クリエイティブってなに？　自分は何を武器にする？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2
2	事前学修	なぜ，情報大を目指したか思い出しておく	2
	授業	情報大生として何を学ぶか？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2
3	事前学修	PMBOK について調べておく	2
	授業	プロジェクトマネージメント 2 PMBOK の体系	
	事後学修	他に同じような体系がないか調べてみる	2
4	事前学修	スコープについて調べておく	2
	授業	プロジェクトマネージメント 3 スコープマネージメント	
	事後学修	スコープの具体例を調べてみる	2
5	事前学修	チームマネージメントについて調べておく	2
	授業	プロジェクトマネージメント 4 チームマネージメント	
	事後学修	どのような具体例があるか調べてみる	2
6	事前学修	工数とは何か，調べておく	2
	授業	プロジェクトマネージメント 5 工数計算とタイムマネージメント	

	事後学修	計算問題を行う	2
7	事前学修	工数計算のテストの準備をおこなう	2
	授業	プロジェクトマネージメント 6 工数計算の復習 →小テスト	
	事後学修	小テストの復習	2
8	事前学修	自分がどのようなコミュニケーションツールを使っているかリストしてみる。	2
	授業	プロジェクトマネージメント 7 コミュニケーションマネージメント	
	事後学修	自分であれば，どのようなコミュニケーションツールが最適か考えてみる	2
9	事前学修	どうやったらチームが活性化するか考えてみる	2
	授業	チームビルディング 1 ケース教材：チームが活性化するまでのプロセス →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2
10	事前学修	フレームを調べてみる	2
	授業	チームビルディング 2 ケース教材：フレームを作ろう →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2
11	事前学修	困ったちゃんとは？調べてみる	2
	授業	チームビルディング 3 ケース教材：困ったちゃんにならないために →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2
12	事前学修	どうやったら信頼関係は作れるのだろう。あるいは，壊れるのかを考えてみる。	2
	授業	チームビルディング 4 ケース教材：信頼関係はどう作る？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2
13	事前学修	リーダーとは？リーダーシップとは何かを考えてみる。	2
	授業	チームビルディング 5 ケース教材：リーダーシップってどんなこと？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2
14	事前学修	自分が意思を決定する際，どのように決めているのかを思い出してみる	2
	授業	チームビルディング 6 ケース教材：意思決定はどう行う？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2
15	事前学修	コミュニケーションツールにはどんな物があるか調べてみる	2
	授業	チームビルディング 7 ケース教材：チームの中のコミュニケーション	

		→グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し，自分の意見の定着をはかる	2

成績評価の方法およびその基準
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □試験：　　%　■小テスト：20%　■レポート：40%　■演習課題：40%　□その他[　　]
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
演習課題は，講義でグループ作業中に見回り，助言を直接与える レポート，小テストは，採点後の講義にて気づいたことを全体に向けてフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	必要あれば，講義中に紹介する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	主にプロジェクトマネージメントの課題は 2 人チームで行います。 また，演習課題は積み上げ式に連鎖しているため，休むと次の課題ができなくなります。 チームメイトは変更しないようにお願いします。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社，IT コンサルティングファームで得たプロジェクト管理の知識と経験をもとにケース教材を作り，学生に具体的な状況を与え，考えさせる。

映画基礎演習 Basics of Filmmaking

担当教員	島田 英二(137 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC205

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(前半)

授業概要

実写の映像コンテンツ制作における基礎的な理論と表現技法について，短編映画・短編映像などを題材に鑑賞・解説や構造分析を行い，映像を「見る側」から「作る側」へ視点を移行していきます。
基礎的な知識や技術（制作スキル）の定着を目標として随時、講義・制作演習を行います。
演習では学生はグループに分かれ，実際に課題制作（映像，写真，音，アイデアなど）に挑戦します。与えられたテーマに対して，企画作り，準備，撮影，編集を行い作品を完成させ，出来上がった作品はグループ毎に発表し，互いに鑑賞批評を行います。チーム内でアイデアを出したり演出や効果を考えたりといったグループワークを含むほか，絵コンテを描いたり，制作機材としてデジタルカメラやデジタルビデオカメラ，三脚，PC 等を使用します。実習機材の台数に限りがあるため、希望者多数の場合は調整を行う場合があります。

アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。
・グループワーク
・プレゼンテーション
・実習、実験、フィールドワーク
・チーム基盤学習
・ワークショップ

授業における学修の到達目標

1．映画・映像の作られ方が分かる
2．映画・映像のみかたを深める
3．専門用語や映像制作の理論を習得する

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス（実習に関するオリエンテーション、授業のチーム分け等）	
	事後学修	実習内容をまとめる、グループのチームワークを整える	2.0
2	事前学修	実習内容を確認する	2.0
	授業	企画ワークショップ（ビデオカメラで映像を撮ってみる）	
	事後学修	ワークショップの内容をまとめる	2.0
3	事前学修	ソフトウェアに関する情報を収集する	2.0
	授業	デジタルムービー基礎（ソフトウェア（Adobe Premiere Pro）の使い方）	
	事後学修	ソフトウェア（Adobe Premiere Pro）の使い方をまとめる	2.0
4	事前学修	ビデオカメラの操作、撮り方について情報を収集する	2.0
	授業	デジタルムービー基礎（ビデオカメラの詳しい使い方、動きを撮ってみる）	
	事後学修	ビデオカメラの操作、撮り方についてまとめる、撮影を振り返る	2.0
5	事前学修	撮影・音声収録の基礎・実践 2 の台本の読み込み、撮影計画を立てる、小道具等の準備	2.0

	授業	撮影・音声収録の基礎・実践１　２分程度の映像シーケンスの撮影　前半（～1 分まで）	
	事後学修	撮影前半の振り返り、効果的な演出方法を検討する	2.0
6	事前学修	撮影後半部分の台本の読み込み、撮影計画を立てる、 絵コンテの確認、効果的な演出方法を検討する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践１（２分程度の映像シーケンスの撮影　後半（１分～２分まで））	
	事後学修	撮影後半の振り返り、演出方法、進行管理の反省	2.0
7	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践１：映像の編集（２分程度の映像シーケンスの編集　前半（～1 分まで））	
	事後学修	映像編集（前半部分）の見直し、完成品のイメージを深める	2.0
8	事前学修	編集素材の収集、SE・BGM 選曲、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践１：映像の編集（２分程度の映像シーケンスの編集　後半（１分～２分まで））	
	事後学修	映像編集（後半部分）の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
9	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（前半　チーム１～５まで）	
	事後学修	各チームの作品（前半　チーム１～５まで）についての情報や感想をまとめる	2.0
10	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、 作品の見方を深める	2.0
	授業	講評会（後半　チーム６～９まで）、総評	
	事後学修	各チームの作品（後半　チーム６～９まで）についての情報や感想をまとめる、撮影・音声収録の基礎・実践１で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
11	事前学修	撮影方法（同ポジション撮影）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践２（同ポジション撮影の企画）	
	事後学修	同ポジション撮影の企画についてまとめる	2.0
12	事前学修	撮影方法（同ポジション映像）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践２（同ポジション映像）の撮影	
	事後学修	撮影方法（同ポジション映像）についてまとめる	2.0
13	事前学修	編集方法（同ポジション映像）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践２（同ポジション映像）の編集	
	事後学修	編集方法（同ポジション映像）についてまとめる	2.0
14	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（チーム１～９まで）	
	事後学修	撮影・音声収録の基礎・実践２（同ポジション映像）で学んだことをレポートにまとめる	2.0
15	事前学修	撮影方法（CM 模写）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践３（CM 模写）の企画	
	事後学修	撮影方法（CM 模写）の企画についてまとめる	2.0
16	事前学修	撮影方法（CM 模写）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践３（CM 模写）の撮影	
	事後学修	撮影方法（CM 模写）についてまとめる	2.0
17	事前学修	編集方法（CM 模写）について情報を収集する	2.0

	授業	撮影・音声収録の基礎・実践３（CM 模写）の編集	
	事後学修	編集方法（CM 模写）についてまとめる	2.0
18	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（チーム１～９まで）	
	事後学修	撮影・音声収録の基礎・実践３（CM 模写）で学んだことをレポートにまとめる	2.0
19	事前学修	制作進行管理の項目出し、情報収集	2.0
	授業	制作進行管理基礎	
	事後学修	制作進行管理のまとめ	2.0
20	事前学修	資料の読み込み、指定された WEB ページを熟読する	2.0
	授業	映画史１（映画の誕生期）	
	事後学修	映画史１（映画の誕生期）のまとめ	2.0
21	事前学修	シナリオのカット割り	2.0
	授業	絵コンテ制作	
	事後学修	絵コンテのまとめ、ブラッシュアップ	2.0
22	事前学修	資料の読み込み、指定された WEB ページの熟読	2.0
	授業	映画史２（ハリウッド黄金期、技術の発展）	
	事後学修	映画史２（ハリウッド黄金期、技術の発展）	2.0
23	事前学修	企画制作、シナリオ制作	2.0
	授業	最終課題制作１（企画）	
	事後学修	企画の選別、ブラッシュアップ	2.0
24	事前学修	シナリオ案の制作、プロット	2.0
	授業	最終課題制作１（脚本・絵コンテ）	
	事後学修	シナリオのブラッシュアップ、絵コンテ制作	2.0
25	事前学修	撮影計画、絵コンテの確認、小道具等の準備	2.0
	授業	最終課題制作２（撮影　前半（～1 分まで））	
	事後学修	撮影前半の振り返り、効果的な演出方法を検討する	2.0
26	事前学修	撮影後半部分の台本の読み込み、撮影計画を立てる、 絵コンテの確認、効果的な演出方法を検討する	2.0
	授業	最終課題制作２（撮影　後半（１分～２分まで））	
	事後学修	撮影後半の振り返り、演出方法、進行管理の反省	2.0
27	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	最終課題制作３（編集　前半（～1 分まで））	
	事後学修	映像編集（前半部分）の見直し、完成品のイメージを深める	2.0
28	事前学修	編集素材の収集、SE・BGM 選曲、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	最終課題制作３（編集　後半（１分～２分まで））	
	事後学修	映像編集（後半部分）の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
29	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	最終課題制作講評会（前半　チーム１～５まで）	
	事後学修	各チームの作品（前半　チーム１～５まで）についての情報や感想をまとめる	2.0
30	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、	2.0

		作品の見方を深める	
	授業	最終課題制作講評会（後半　チーム６～９まで）	
	事後学修	各チームの作品（後半　チーム６～９まで）についての情報や感想をまとめる、最終課題制作・この講義で学んだことについてレポートにまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行います。
□試験：　　％　□小テスト：　　％　■レポート：２０％　■演習課題：　８０％　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題発表時に適宜，解説し全体にフィードバックします。レポートのまとめを授業内で解説・共有します。

教科書	
参考書・Web サイト	『トムさんの映像の撮影でたいせつなこと』トム・シュレプル（著）（株）スノウバグズ 『一人でもできる映画の撮り方』西村雄一郎（著）洋泉社 『ハリウッドディレクティングバイブル―映画を監督するための９つのステップ』マーク・トラビス（著），Mark Travis（原著），岡田勲（翻訳）愛育社
単位修得が望ましい科目	発想法演習，デッサン，Web アニメーション基礎演習
備考	映像を見る力や映像を読み取る力をつけたい人，映像制作をしたい人への基礎コースです。映像アニメーションコースに進みたい人は必ず受講すること。知識の習得を図るため，不定期にテストを行うことがあります。一回の密度が高いので自己責任で出席をきちんと管理すること。３分の２以上の出席を必須条件とし，課題作品を提出しない者（チーム）は成績評価の対象としません。
担当教員の実務経験	2001 年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作といった実務経験をもとに，そこで得た知識，技術，ツールを学生に教える。

アニメーション基礎演習 Introduction to Animation

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
大島 慶太郎(320 研究室), 河原 大(322 研究室), 島田 英二(137 研究室)	4 単位	演習	○	IMC208

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(後半)

授業概要

テーマ：アニメーション表現の基礎

本演習では、アニメーション表現における基礎的な表現手法の演習及び，アニメーション分野における多様な表現手段について解説する。動きをともなう視覚的な表現による意思疎通や情報伝達という視点から，多岐に渡るアニメーション表現について理解し，アニメーション作品制作の基礎的な表現技法や視覚的表現の要素としてのアニメーションの活用性を学ぶ。

授業における学修の到達目標

・アニメーション表現技法の基礎を習得する。

・アニメーション表現を基軸として，視覚的表現領域におけるリテラシーを獲得する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	アニメーション表現について調べる。	4.0
	授業	ガイダンス，講義スケジュール及び，課題作品への取り組み方等の解説	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	作品鑑賞及び，解説を通じてアニメーション表現の世界について学ぶ。	
	事後学修	鑑賞作品についてまとめる。	4.0
3	事前学修	動く映像について調べる。	4.0
	授業	アニメーションの原理についての講義を通じて, フレームバイフレームのアニメーション構造を学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アナログメディアを用いたワークショップを通じて，アニメーション原理を体験し理解を深める。	
	事後学修	動く映像の仕組みについてまとめる。	4.0
5	事前学修	アニメーション表現メタモルフォーゼについて調べる。	4.0
	授業	アニメーション表現メタモルフォーゼについて，参考作品の鑑賞及び，解説通じて学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題メタモルフォーゼの制作実習。	
	事後学修	メタモルフォーゼの表現方法についてまとめる。	4.0
7	事前学修	アニメーションの速度や変化について調べる。	4.0
	授業	動きや変化による質感の表現について，参考作品の鑑賞及び，解説通じて学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0

8	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題バウンズボールの制作実習。	
	事後学修	動きの質についてまとめる。	4.0
9	事前学修	モーショングラフィックスについて調べる。	4.0
	授業	アニメーション制作課題モーショングラフィックスの制作実習。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
10	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題モーショングラフィックスの仕上げ提出。	
	事後学修	モーショングラフィックスの表現方法を練習する。	4.0
11	事前学修	ストップモーションアニメーションについて調べる。	4.0
	授業	ストップモーションアニメーションについて，参考作品の鑑賞及び，解説通じて学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
12	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの出題，グループによる企画制作。	
	事後学修	ピクシレーションの企画をまとめる。	4.0
13	事前学修	ピクシレーションの為のロケハンをする。	4.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの撮影実習。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
14	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの撮影実習及び，コンポジット実習。	
	事後学修	撮影素材をグループで確認する。	4.0
15	事前学修	仕上げに必要な素材（音声や画像）を準備する。	4.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの編集実習及び，再撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
16	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの編集実習及び，仕上げ作業。	
	事後学修	ストップモーションアニメーションの表現方法についてまとめる。	4.0
17	事前学修	映像と音声について調べる。 自分の興味のある映像や音楽分野で良い。	4.0
	授業	古典的なアニメーションの動きとサウンドの表現について，参考作品の鑑賞及び，解説通じて学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
18	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	最先端のアニメーションの動きとサウンドの表現について，参考作品の鑑賞及び，解説通じて学ぶ。	
	事後学修	アニメーションの動きとサウンドの表現についてまとめる。	4.0
19	事前学修	アニメーション作品の構想を練る。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，テーマに沿った作品制作の企画及び，リサーチ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
20	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0

	授業	アニメーション作品制作課題，テーマに沿った作品制作の企画プレゼンテーション。	
	事後学修	企画の修正やブラシュアップをする。	4.0
21	事前学修	アニメーション制作の為のリサーチや技術テストをする。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，イメージボードとコンテを作成する。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
22	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題，イメージボードとコンテのプレゼンテーション。	
	事後学修	イメージボードとコンテの修正やブラッシュアップをする。	4.0
23	事前学修	作品素材を作成する。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，動画コンテ作成又は，撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
24	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題，動画コンテ作成又は，撮影の確認をする。	
	事後学修	動画コンテ作成又は，撮影の不足部分を補う作業をする。	4.0
25	事前学修	作画の為の下準備やリサーチ，撮影のための準備をする。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，作画作業又は，撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
26	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題，進捗プレビューチェック。	
	事後学修	修正箇所やスケジュールの確認をする。	4.0
27	事前学修	タイトルデザインを構想する。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，タイトルデザインの素材作成，編集の準備。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
28	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題，タイトルデザイン及び，編集。	
	事後学修	タイトル及び，編集の修正箇所の確認をする。	4.0
29	事前学修	作画，撮影，素材制作等の不足部分を補う作業をする。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，編集と仕上げ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
30	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品プレゼンテーション及び，講評。	
	事後学修	各受講者の成果作品を視聴する。自作との比較・検証。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：30%　■演習課題：70%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら，個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門III，メディアデザインの基礎演習，デザインエレメンツ・演習，映画基礎演習

備考	使用する実習室の状況により，受講者数の制限をする場合があります。
担当教員の実務経験	様々なアニメーション表現技法を駆使してコンテンツ制作を行う現役の映像作家であり，アニメーション表現，映像表現について研究している。実制作の経験をもとにアニメーションの基礎的な基礎的な表現手段について幅広く指導できる。

Ｗｅｂ制作演習 Web Creative Design Practical

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC203

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(前半)

授業概要

Web サイト・スマホアプリを設計・制作するための基礎的な設計手法とデザインテクニックを学びます。

1．UX デザイン
　UX デザインとは
　ペーパープロトタイピング
2．スマホアプリ企画
　スマホアプリの企画と画面デザイン手法を学びます　※開発は行いません。
3．Web サイト設計
　Web サイトの企画と設計手法，開発手法を学びます
4．Web サイトデザイン
　Adobe XD と HTML/CSS を使い，実際に Web をデザインします

※Adobe XD, Illustrator, Photoshop の使い方をマスターしていることと，HTML と CSS を理解していることが前提です。

授業における学修の到達目標

UX デザイン手法とスマホアプリの企画・画面デザインができるようになる
Web サイト制作スキルの定着とサイトの企画・設計・デザイン・コーディングスキルを身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義の目的とスケジュールを読んでおく	2
	授業	ガイダンス Web 制作と UX デザインの関係について	
	事後学修	講義の目的とスケジュールについて再度見直す Web 制作と UX デザインの関係を理解する	2
2	事前学修	UX デザインについて調べておく	2
	授業	UX デザインの基礎（1） ヒトとモノ	
	事後学修	UX デザインのポイントを掴む	2
3	事前学修	UX デザインについて調べておく	2
	授業	UX デザインの基礎（2） 誰のためのデザインか	
	事後学修	UX デザインのポイントを掴む	2
4	事前学修	ペーパープロトタイピングについて調べておく	2
	授業	ペーパープロトタイピング（1）概念	
	事後学修	ペーパープロトタイピングのポイントを掴む	2
5	事前学修	ペーパープロトタイピングについて調べておく	2
	授業	ペーパープロトタイピング（2）手法	

	事後学修	ペーパープロトタイピングの手法のポイントを掴む	2
6	事前学修	ペーパープロトタイピングの手法を復習しておく	2
	授業	ペーパープロトタイピング（3）実習 1 二人組となり，質問シート作成	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
7	事前学修	うまくやるようにはどのようにすればいいか考えておく	2
	授業	ペーパープロトタイピング（3）実習 2 ヒアリング調査	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
8	事前学修	成果物準備	2
	授業	ペーパープロトタイピング（3）実習 3 課題抽出から修正 →成果物提出	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
9	事前学修	自分の持っているアプリの UI をよく見ておく	2
	授業	スマホアプリの企画　先行例調査 二人組になり，実習を行う	
	事後学修	他に事例がないか調べてみる	2
10	事前学修	企画の基礎アイディアを考えておく	2
	授業	スマホアプリの企画　企画立案	
	事後学修	企画に足りない点がないかもう一度チェックする	2
11	事前学修	スマホアプリトップの UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン（1）トップ画面 1 ラフ案を考える	
	事後学修	完成度を上げる	2
12	事前学修	スマホアプリトップの UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン（1）トップ画面 2 詳細デザインを仕上げる	
	事後学修	完成度を上げる	2
13	事前学修	スマホアプリサブ画面の UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン（2）サブ画面 1 ラフ案を考える	
	事後学修	完成度を上げる	2
14	事前学修	スマホアプリサブ画面の UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン（2）サブ画面 2 詳細デザインを仕上げる	
	事後学修	完成度を上げる	2
15	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER1-3 Pickups 1-7 制作の流れ　3-10 余白を調整しよう　3-13 クラスと ID を使った指定方法 3-14 レイアウトを組もう　3-15 デフォルト CSS をリセットしよう	

	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
16	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER1-3 Pickups 1-7 制作の流れ　3-10 余白を調整しよう　3-13 クラスと ID を使った指定方法 3-14 レイアウトを組もう　3-15 デフォルト CSS をリセットしよう	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
17	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 4　フルスクリーンの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
18	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 4　フルスクリーンの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
19	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 5　2 カラムの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
20	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 5　2 カラムの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
21	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 5　2 カラムの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
22	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 5　2 カラムの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
23	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 6　タイル型の Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
24	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 6　タイル型の Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
25	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 6　タイル型の Web サイトを制作する	

	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
26	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 6　タイル型の Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
27	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 7　外部メディアを利用する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
28	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 7　外部メディアを利用する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
29	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 7　外部メディアを利用する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
30	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 7　外部メディアを利用する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　　%　■演習課題：70%
■その他[グループワーク]30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビューやプレゼンテーション時にコメントをフィードバックする。

教科書	書名：1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座, 著者名：Mana, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	その都度指示する。
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習，メディア技術演習
備考	演習はチーム単位（二人組）で行います。
担当教員の実務経験	1994 年から 2007 年まで Web 制作会社で 100 以上の案件を経験した。また，それ以降も最新技術の体得を心がけ，常にアップデートしてきた。そこで得た手法とツールを学生に紹介し，現場に近い形での開発訓練を実施する。

３ＤＣＧ演習 Practicum in 3DCG

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC206

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期(後半)

授業概要

映画やゲームにおける必須の技術に３ＤＣＧがあります。ハリウッド映画やゲーム制作で使用される本格的な３ＤＣＧソフトウェアを用いて３ＤＣＧ作品制作の基礎を学びます。また，これら演習（実習）を通じて３ＤＣＧの原理等への理解を深めることを目的とします。また、制作物への思いを他者へ正確に伝えられることを目指し、プレゼンテーションを行い、投票システムを用いた相互評価を行います。

授業における学修の到達目標

3DCG ソフトウェアは立体像作品制作のための道具です。道具をうまく使いこなすことができれば、制作にかかる時間の短縮と、作品の品質向上につながります。本講義では、3DCG ソフトウェアである Maya を使い、基本的な機能を理解するとともに、操作に慣れることを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	3 DCG について調べる	2.0
	授業	ガイダンス・基本操作（3 DCG とは）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２回目と同じ	2.0
2	事前学修	２コマ続きの授業であり１回目と同じ	2.0
	授業	ガイダンス・基本操作（3dsMax, Maya の基本操作）	
	事後学修	自分の気になる分野を調べるとともに基本操作の復習をする	2.0
3	事前学修	モデリングについて調べる	2.0
	授業	基本操作（モデリング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり４回目と同じ	2.0
4	事前学修	２コマ続きの授業であり３回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（モデリング＋モディファイヤ）	
	事後学修	モデリング課題を完成させる	2.0
5	事前学修	マテリアル、テクスチャについて調べる	2.0
	授業	基本操作（マテリアル）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり６回目と同じ	2.0
6	事前学修	２コマ続きの授業であり５回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（マテリアル、テクスチャ）	
	事後学修	マテリアル課題を完成させる	2.0
7	事前学修	レンダリングについて調べる	2.0
	授業	基本操作（マテリアル、レンダリング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり８回目と同じ	2.0
8	事前学修	２コマ続きの授業であり７回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（マテリアル、フィジカルレンダリング）	

	事後学修	レンダリング課題を完成させる	2.0
9	事前学修	ライティングについて調べる	2.0
	授業	基本操作（ライティング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１０回目と同じ	2.0
10	事前学修	２コマ続きの授業であり９回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（フィジカルライト）	
	事後学修	ライティングの課題を完成させる	2.0
11	事前学修	カメラについて調べる	2.0
	授業	基本操作（カメラ）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１２回目と同じ	2.0
12	事前学修	２コマ続きの授業であり１１回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（フィジカルカメラ）	
	事後学修	カメラの課題を完成させる	2.0
13	事前学修	三面図について調べる	2.0
	授業	設計（三面図）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１４回目と同じ	2.0
14	事前学修	２コマ続きの授業であり１３回目と同じ	2.0
	授業	設計（三面図の練習）	
	事後学修	三面図の書き方を確認する	2.0
15	事前学修	三面図からの立体イメージの確認	2.0
	授業	設計（三面図からのモデリング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１６回目と同じ	2.0
16	事前学修	２コマ続きの授業であり１５回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作(アイデア出し)	
	事後学修	最終課題のアイデア出しを完成させる	2.0
17	事前学修	スケッチ、透視図法について調べる	2.0
	授業	最終課題制作(スケッチ)	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１８回目と同じ	2.0
18	事前学修	２コマ続きの授業であり１７回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作(透視図法)	
	事後学修	スケッチ、透視図法を練習する	2.0
19	事前学修	制作物を観察する	2.0
	授業	最終課題制作(計測)	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２０回目と同じ	2.0
20	事前学修	２コマ続きの授業であり１９回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（三面図制作）	
	事後学修	三面図を完成する	2.0
21	事前学修	最終課題のモデリング手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作（ターゲットのモデリング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２２回目と同じ	2.0

22	事前学修	２コマ続きの授業であり２１回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（背景のモデリング）	
	事後学修	最終課題のモデリングを完成する	2.0
23	事前学修	最終課題のマテリアル手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作（ターゲットのマテリアル）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２４回目と同じ	2.0
24	事前学修	２コマ続きの授業であり２３回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（背景のマテリアル）	
	事後学修	最終課題のマテリアルを完成する	2.0
25	事前学修	最終課題のライティング、カメラ手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作（ライティング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２６回目と同じ	2.0
26	事前学修	２コマ続きの授業であり２５回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（カメラ）	
	事後学修	最終課題のライティング、カメラを完成する	2.0
27	事前学修	プレゼンの項目について確認する	2.0
	授業	最終課題制作（プレゼン資料作成）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２８回目と同じ	2.0
28	事前学修	２コマ続きの授業であり２７回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（プレゼン資料作成つづき）	
	事後学修	プレゼン資料を作成する	2.0
29	事前学修	プレゼン発表の準備	2.0
	授業	最終課題制作物プレゼン発表	
	事後学修	２コマ続きの授業であり３０回目と同じ	2.0
30	事前学修	２コマ続きの授業であり２９回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作物プレゼン発表（つづき）	
	事後学修	最終制作物の資料整理と提出	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　％　□小テスト：　　％　□レポート：　％　■演習課題：70%　■その他[プレゼンテーションなど：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で提出課題の講評をおこないます。

教科書	
参考書・Web サイト	・世界一わかりやすい Maya はじめてのモデリングの教科書
単位修得が望ましい科目	なし
備考	事情がありプレゼンテーションが難しい場合は配慮しますので申し出てください。
担当教員の実務経験	河原：CG 制作の現場での経験を活かし、効率的・効果的な作成を指導

３ＤＣＧ演習 Practicum in 3DCG

担当教員	川田 孝之(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC206

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	前期

授業概要

映画やゲームにおける必須の技術に３ＤＣＧがあります。ハリウッド映画やゲーム制作で使用される本格的な３ＤＣＧソフトウェアを用いて３ＤＣＧ作品制作の基礎を学びます。また，これら演習（実習）を通じて３ＤＣＧの原理等への理解を深めることを目的とします。また、制作物への思いを他者へ正確に伝えられることを目指し、プレゼンテーションを行い、投票システムを用いた相互評価を行います。

授業における学修の到達目標

3DCG ソフトウェアは立体像作品制作のための道具です。道具をうまく使いこなすことができれば、制作にかかる時間の短縮と、作品の品質向上につながります。本講義では、3DCG ソフトウェアである 3dsMax を使い、基本的な機能を理解するとともに、操作に慣れることを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	３DCG について調べる	2.0
	授業	ガイダンス・基本操作（３DCG とは）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２回目と同じ	2.0
2	事前学修	２コマ続きの授業であり１回目と同じ	2.0
	授業	ガイダンス・基本操作（3dsMax の基本操作）	
	事後学修	自分の気になる分野を調べるとともに基本操作の復習をする	2.0
3	事前学修	モデリングについて調べる	2.0
	授業	基本操作（モデリング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり４回目と同じ	2.0
4	事前学修	２コマ続きの授業であり３回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（モデリング＋モディファイヤ）	
	事後学修	モデリング課題を完成させる	2.0
5	事前学修	いろいろなモデリングの方法について調べる	2.0
	授業	基本操作（モディファイヤ+スプライン+ブール演算+編集可能ポリゴン）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり６回目と同じ	2.0
6	事前学修	２コマ続きの授業であり５回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（モディファイヤ+スプライン+ブール演算+編集可能ポリゴン）	
	事後学修	モデリング課題を完成させる	2.0
7	事前学修	レンダリングについて調べる	2.0
	授業	基本操作（標準マテリアルとレンダリング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり８回目と同じ	2.0
8	事前学修	２コマ続きの授業であり７回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（標準マテリアル+スキャンラインレンダリング）	

	事後学修	レンダリング課題を完成させる	2.0
9	事前学修	レンダリングの仕組みについて調べる	2.0
	授業	基本操作（標準マテリアル+レイトレースマテリアル+スキャンラインレンダリング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１０回目と同じ	2.0
10	事前学修	２コマ続きの授業であり９回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（標準マテリアル+レイトレースマテリアル+スキャンラインレンダリング）	
	事後学修	レンダリングの課題を完成させる	2.0
11	事前学修	カメラとフィジカルマテリアルについて調べる	2.0
	授業	基本操作（カメラ+フィジカルマテリアル）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１２回目と同じ	2.0
12	事前学修	２コマ続きの授業であり１１回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（フィジカルカメラ+フィジカルマテリアル+ART レンダラー）	
	事後学修	フィジカルマテリアル+ART レンダラーによるレンダリングの課題を完成させる	2.0
13	事前学修	ライティングについて調べる	2.0
	授業	基本操作（ライティング+フィジカルマテリアル+ART レンダラー）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１４回目と同じ	2.0
14	事前学修	２コマ続きの授業であり１３回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（フィジカルライト+フィジカメラ+フィジカルマテリアル+ART レンダラー）	
	事後学修	フィジカルカメラの課題を完成させる	2.0
15	事前学修	サンポジショナシステムについて調べる	2.0
	授業	基本操作（外観用ライティング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１６回目と同じ	2.0
16	事前学修	２コマ続きの授業であり１５回目と同じ	2.0
	授業	基本操作（カメラ x ライティング x マテリアル x 環境マップ x レンダラー）	
	事後学修	外観パースの課題を完成させる	2.0
17	事前学修	スケッチ、三面図、透視図法について調べる	2.0
	授業	最終課題制作(ラフスケッチ・三面図の作成)	
	事後学修	２コマ続きの授業であり１８回目と同じ	2.0
18	事前学修	２コマ続きの授業であり１７回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作(イメージ透視図の作成)	
	事後学修	スケッチ、透視図法を練習する	2.0
19	事前学修	制作物を観察する	2.0
	授業	最終課題制作(計測)	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２０回目と同じ	2.0
20	事前学修	２コマ続きの授業であり１９回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（三面図制作）	
	事後学修	制作するモノの三面図を完成する	2.0
21	事前学修	最終課題のモデリング手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作（エスキス後ターゲットのモデリング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２２回目と同じ	2.0

22	事前学修	２コマ続きの授業であり２１回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（背景のモデリング）	
	事後学修	最終課題のモデリングを完成する	2.0
23	事前学修	最終課題のマテリアル手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作（ターゲットのマテリアル）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２４回目と同じ	2.0
24	事前学修	２コマ続きの授業であり２３回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（背景のマテリアル）	
	事後学修	最終課題のマテリアルを完成する	2.0
25	事前学修	最終課題のライティング、カメラ配置の手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作（ライティング）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２６回目と同じ	2.0
26	事前学修	２コマ続きの授業であり２５回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（カメラ）	
	事後学修	最終課題のライティング、カメラを完成する	2.0
27	事前学修	プレゼンの項目について確認する	2.0
	授業	最終課題制作（プレゼン資料作成）	
	事後学修	２コマ続きの授業であり２８回目と同じ	2.0
28	事前学修	２コマ続きの授業であり２７回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作（プレゼン資料作成つづき）	
	事後学修	プレゼン資料を作成する	2.0
29	事前学修	プレゼン発表の準備	2.0
	授業	最終課題制作物プレゼン発表	
	事後学修	２コマ続きの授業であり３０回目と同じ	2.0
30	事前学修	２コマ続きの授業であり２９回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作物プレゼン発表（つづき）	
	事後学修	最終制作物の資料整理と提出	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　％　□小テスト：　　％　□レポート：　％　■演習課題：70%　■その他[プレゼンテーションなど：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で提出課題の講評をおこないます。

教科書	
参考書・Web サイト	・世界一わかりやすい 3dsMax 操作と 3DCG 制作の教科書
単位修得が望ましい科目	なし
備考	事情がありプレゼンテーションが難しい場合は配慮しますので申し出てください。
担当教員の実務経験	川田：建築物の設計で使用している CAD、BIM 及び CG の経験を活かし、効率的・効果的な作成を指導

メディアプログラミング演習 Media Programming Practical

担当教員	守 啓祐(225 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC211

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(前半)

授業概要

テーマ：IoT デバイスのプログラムを行う
コンピュータを使う場合文字を入力するキーボードと場所を指示するポインティングデバイス（一般的にはマウス）を使って利用する方法が一般的ですが，人間同士のコミュニケーションと比較すると自然な方法というわけではありません。この科目ではヒトとヒトとが視覚，聴覚その他の感覚を使って対話する方法を学び，現在利用されているハードウエアやソフトウエアで利用されている対話スタイル技術を習得します．この授業では，POLITE で提供された資料事前に学習する，反転授業や，実際の機器を使った実験やコンピュータ上のシミュレータ使い，メディアプログラミングの実際を学びます。

授業における学修の到達目標

フィジカルコンピューティングで使用するコンピュータに接続した外部機器の信号をコンピュータで利用する方法の基礎を習得する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	メディアプログラミング概要前半の資料を調べる	2.0
	授業	メディアプログラミング概要前半	
	事後学修	メディアプログラミング概要前半の資料をまとめる	2.0
2	事前学修	メディアプログラミング概要後半の資料を調べる	2.0
	授業	メディアプログラミング概要後半	
	事後学修	メディアプログラミング概要後半の資料をまとめる	2.0
3	事前学修	電子機器の取り扱い基礎前半の資料を調べる	2.0
	授業	電子機器の取り扱い基礎前半	
	事後学修	電子機器の取り扱い基礎前半の資料をまとめる	2.0
4	事前学修	電子機器の取り扱い基礎後半の資料を調べる	2.0
	授業	電子機器の取り扱い基礎後半	
	事後学修	電子機器の取り扱い基礎後半の資料をまとめる	2.0
5	事前学修	ソフトウエア環境の構築前半の資料を調べる	2.0
	授業	ソフトウエア環境の構築前半	
	事後学修	ソフトウエア環境の構築前半の資料をまとめる	2.0
6	事前学修	ソフトウエア環境の構築後半の資料を調べる	2.0
	授業	ソフトウエア環境の構築後半	
	事後学修	ソフトウエア環境の構築後半の資料をまとめる	2.0
7	事前学修	ブレッドボードと測定器の基礎前半の資料を調べる	2.0
	授業	ブレッドボードと測定器の基礎前半	
	事後学修	ブレッドボードと測定器の基礎前半の資料をまとめる	2.0
8	事前学修	ブレッドボードと測定器の基礎後半の資料を調べる	2.0
	授業	ブレッドボードと測定器の基礎後半	

	事後学修	ブレッドボードと測定器の基礎後半の資料をまとめる	2.0
9	事前学修	センサの概要前半の資料を調べる	2.0
	授業	センサの概要前半	
	事後学修	センサの概要前半の資料をまとめる	2.0
10	事前学修	センサの概要後半の資料を調べる	2.0
	授業	センサの概要後半	
	事後学修	センサの概要後半の資料をまとめる	2.0
11	事前学修	明るさを測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	明るさを測る前半	
	事後学修	明るさを測る前半の資料をまとめる	2.0
12	事前学修	明るさを測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	明るさを測る後半	
	事後学修	明るさを測る後半の資料をまとめる	2.0
13	事前学修	距離を測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	距離を測る前半	
	事後学修	距離を測る前半の資料をまとめる	2.0
14	事前学修	距離を測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	距離を測る後半	
	事後学修	距離を測る後半の資料をまとめる	2.0
15	事前学修	振動を検出する前半の資料を調べる	2.0
	授業	振動を検出する前半	
	事後学修	振動を検出する前半の資料をまとめる	2.0
16	事前学修	振動を検出する後半の資料を調べる	2.0
	授業	振動を検出する後半	
	事後学修	振動を検出する後半の資料をまとめる	2.0
17	事前学修	物体の色を測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	物体の色を測る前半	
	事後学修	物体の色を測る前半の資料をまとめる	2.0
18	事前学修	物体の色を測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	物体の色を測る後半	
	事後学修	物体の色を測る後半の資料をまとめる	2.0
19	事前学修	人を検知する前半の資料を調べる	2.0
	授業	人を検知する前半	
	事後学修	人を検知する前半の資料をまとめる	2.0
20	事前学修	人を検知する後半の資料を調べる	2.0
	授業	人を検知する後半	
	事後学修	人を検知する後半の資料をまとめる	2.0
21	事前学修	多軸の加速度を測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	多軸の加速度を測る前半	
	事後学修	多軸の加速度を測る前半の資料をまとめる	2.0

22	事前学修	多軸の加速度を測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	多軸の加速度を測る後半	
	事後学修	多軸の加速度を測る後半の資料をまとめる	2.0
23	事前学修	そのほかのセンサ前半の資料を調べる	2.0
	授業	そのほかのセンサ前半	
	事後学修	そのほかのセンサ前半の資料をまとめる	2.0
24	事前学修	そのほかのセンサ後半の資料を調べる	2.0
	授業	そのほかのセンサ後半	
	事後学修	そのほかのセンサ後半の資料をまとめる	2.0
25	事前学修	センサを活用した応用機器の作成（構想）前半の資料を調べる	2.0
	授業	センサを活用した応用機器の作成（構想）前半	
	事後学修	センサを活用した応用機器の作成（構想）前半の資料をまとめる	2.0
26	事前学修	センサを活用した応用機器の作成（構想）後半の資料を調べる	2.0
	授業	センサを活用した応用機器の作成（構想）後半	
	事後学修	センサを活用した応用機器の作成（構想）後半の資料をまとめる	2.0
27	事前学修	センサを活用した応用機器の作成（作成）前半の資料を調べる	2.0
	授業	センサを活用した応用機器の作成（作成）前半	
	事後学修	センサを活用した応用機器の作成（作成）前半の資料をまとめる	2.0
28	事前学修	センサを活用した応用機器の作成（作成）後半の資料を調べる	2.0
	授業	センサを活用した応用機器の作成（作成）後半	
	事後学修	センサを活用した応用機器の作成（作成）後半の資料をまとめる	2.0
29	事前学修	到達度の確認レポート前半の資料を調べる	2.0
	授業	到達度の確認レポート前半	
	事後学修	到達度の確認レポート前半の資料をまとめる	2.0
30	事前学修	到達度の確認レポート後半の資料を調べる	2.0
	授業	到達度の確認レポート後半	
	事後学修	到達度の確認レポート後半の資料をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

事項の項目および割合で標準成績評価基準に基づき総合的に評価します．グループワークについては，自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮し担当教員が採点を行う．

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：50%　■演習課題：50%

□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業資料やレポートは POLITE のレポート機能または，共有ディレクトリを使ってやり取りします。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示
単位修得が望ましい科目	コンピュータ、プログラミング、ネットワーク関係の基礎科目
備考	なし
担当教員の実務経験	守啓祐 該当科目につき，関連する測定用の機材の作成を行い，研究を行うとともに論文作成を行ってきた。また，関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし，該当科目に反

	映させている。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゲームプログラミング・演習 Computer Game Programming Practical

担当教員	森川 悟(856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		IMT206

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(前半)

授業概要

ゲーム制作を通してゲームプログラムのノウハウを学びます。簡単な処理を組み合わせたものから始まり，複雑なアルゴリズムを要するものまで，ゲームならではの独特なプログラムスタイルに慣れてもらうのが目的となります。

本演習においてはゲームエンジンをベースとし，ゲームをエンジンを制御するためのプログラミングを学びます。また，ゲームで使う画像などの素材作りも行います。

授業における学修の到達目標

ゲームならではのプログラムスタイルに慣れ，理解しすること。また，小規模なゲームを自分の力で書くことができるようになることを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義概要を読む	4
	授業	ガイダンス，ゲーム業界の傾向	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
2	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ツールの使い方(グラフィック)	
	事後学修	ツールを反復して使用する	4
3	事前学修	ゲームをプレイして，画像や音がどのように使われているかを観察する	4
	授業	ツールの使い方(グラフィックアニメーション)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
4	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ゲームエンジンの操作方法	
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する	4
5	事前学修	変数・関数について調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(変数)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
6	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(関数)	
	事後学修	変数・関数を反復して利用する	4
7	事前学修	名前空間・クラスについて調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(名前空間)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
8	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(クラス)	
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する	4

9	事前学修	継承について調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(継承)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(イベント)	
	事後学修	継承・イベント処理を反復して使用する	4
11	事前学修	衝突判定について調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(複雑な衝突判定)	
	事後学修	どんな図形でも衝突判定がとれるように反復して使用する	4
13	事前学修	シーンについて調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(シーン)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	オリジナル要素の作業量を検討する	4
15	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり，準備を行う	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素を追加する)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素で面白くなったか検討する)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果，ゲームが面白くなったかを再度検討する	4
17	事前学修	制作したゲームをプレイしてみる。	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(テストプレイ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ゲームエンジンの高度な操作方法	
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する	4
19	事前学修	変数について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(変数)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(関数)	
	事後学修	変数・関数を反復して使用する	4
21	事前学修	名前空間について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(名前空間)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0

	授業	アクションゲームの制作(クラス)	
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する	4
23	事前学修	タイルマップの仕組みを調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(タイルマップ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
24	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	タイルマップ・衝突判定を反復して使用する	4
25	事前学修	課題の工夫点を考える。いろいろなゲームをプレイし調査する	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
26	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の画像素材を作る)	
	事後学修	画像を良く見て，荒がないか確かめる	4
27	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり，準備を行う	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の音素材を作る)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
28	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を組み込む)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果としてバグが出ないかを調べる	4
29	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり，準備を行う	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の動作確認)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
30	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	
	事後学修	オリジナル要素を追加したゲームのテストプレイをおこなった感想をまとめる	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100 %　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業の中で講評を行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリィ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える.

ゲームＣＧ演習 Computer Graphics and Computer Game Design Practical

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC214

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(後半)

授業概要

本授業では、前半はドット絵を中心とした 2D アクションゲームの制作を行い、アニメーションの知識とゲーム制作の基礎を学びます。後半は 3D モデリングとモーションの制作を行い、ゲーム制作に使える 3D 技術を学びます。最終的にどちらもオリジナルのゲームやキャラクターアニメーションに繋げることを目指します。

授業における学修の到達目標

・Unity によるアクションゲームの 2D グラフィックを制作する
・Blender による 3D モデリングやモーション制作の知識と技術を習得する
・独自のキャラクターデザインや世界観を構築する

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の流れを把握する	4.0
	授業	授業のガイダンスと Unity のアカウント登録	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Unity によるゲーム制作 1（ドット絵によるキャラクター素材の作成）	
	事後学修	ドット絵を制作する（キャラクターデザイン）	4.0
3	事前学修	ドット絵を制作する（キャラクター素材の作成）	4.0
	授業	Unity によるゲーム制作 2（サンプルゲームの配布と解説）	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Unity によるゲーム制作 2（プレイヤーキャラの変更）	
	事後学修	ここまでの実習内容を振り返り、問題があれば解消する	4.0
5	事前学修	ドット絵を制作する（アイテムデザイン）	4.0
	授業	Unity によるゲーム制作 3（背景素材の作成）	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
6	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Unity によるゲーム制作 3（タイルマップによる背景制作）	
	事後学修	ここまでの実習内容を振り返り、問題がなければオリジナルのゲーム制作に入る	4.0
7	事前学修	オリジナルゲームの検討	4.0
	授業	Unity によるゲーム制作 4（UI デザインやロゴの作成）	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Unity によるゲーム制作 4（ビルドデータの出力）	
	事後学修	ゲームの完成データを提出する	4.0

9	事前学修	キャラクターのラフデザインを検討する（全身図）	4.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 1（Blender の操作方法の説明）	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 1（モデリング作業）	
	事後学修	キャラクターの二面図を用意する（正面）	4.0
11	事前学修	キャラクターの二面図を用意する（横）	4.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 2（シームと UV 展開）	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 2（ミラーによるモデリング作業）	
	事後学修	ここまでの実習を振り返り、問題がなければオリジナルキャラクターの 3D モデリングを行う	4.0
13	事前学修	オリジナルキャラクターの 3D モデリングを行う	4.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 3（ボーン作成）	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 3（ウェイトマップ調整）	
	事後学修	3D モデルのウェイトマップを調整する	4.0
15	事前学修	オリジナルキャラクターを動かせる状態にする	4.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 4（アニメーション作業）	
	事後学修	3D キャラの完成データを提出する	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%

□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題は適宜指導、段階的にチェックを行います。また、スケジュール管理はスプレッドシートで実施します。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	３ＤＣＧ演習、アニメーション基礎演習
備考	ゲーム制作や 3DCG を初めて学ぶ人に合わせて授業を進行します。すでに技術を持つ人はオリジナルの作品制作を進めてもらいます。基本的に実習はひとりで行ってもらいますが、適宜、周りの進捗確認や作品チェックをしてもらいます。毎週配布する PDF 資料を読むには、作業 PC の他に iPad やノート PC があると便利です。
担当教員の実務経験	Unity による iOS・Android 用ゲーム制作や 3DCG によるアニメーション制作の実務経験を元に、アニメ制作の基礎やゲームグラフィックス制作の仕様など、制作現場での事例を紹介しながら授業を行う。

ゲーム制作演習 Game Programming Practical

担当教員	森川 悟(856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IMT301

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期

授業概要

ゲーム制作を通してゲームプログラムのノウハウを学びます。簡単な処理を組み合わせたものから始まり，複雑なアルゴリズムを要するものまで，ゲームならではの独特なプログラムスタイルに慣れてもらうのが目的となります。

本演習においてはゲームプログラミング・演習よりも高度なゲームを作ります。

授業における学修の到達目標

ゲームならではのプログラムスタイルに慣れ，理解しすること。また，小規模なゲームを自分の力で書くことができるようになることを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義概要を読む	1.0
	授業	ガイダンス，ゲーム業界の傾向	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
2	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ツールの使い方	
	事後学修	ツールを反復して使用する	1.0
3	事前学修	ゲームをプレイして，アニメーションがどのように使われているかを観察する	1.0
	授業	高度なツールの使い方	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
4	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ゲームエンジンの操作方法	
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する	1.0
5	事前学修	変数について調べる	1.0
	授業	関数について調べる	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
6	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(関数)	
	事後学修	変数・関数を反復して利用する	1.0
7	事前学修	名前空間について調べる	1.0
	授業	簡単なゲームの制作(名前空間)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
8	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(クラス)	
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する	1.0
9	事前学修	継承について調べる	1.0

	授業	簡単なゲームの制作(継承)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(イベント)	
	事後学修	継承・イベント処理を反復して使用する	1.0
11	事前学修	衝突判定について調べる	1.0
	授業	簡単なゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(複雑な衝突判定)	
	事後学修	どんな図形でも衝突判定がとれるように反復して使用する	1.0
13	事前学修	シーンについて調べる	1.0
	授業	簡単なゲームの制作(シーン)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	オリジナル要素の作業量を検討する	1.0
15	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり，準備を行う	1.0
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素を追加する)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素で面白くなったか検討する)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果，ゲームが面白くなったかを再度検討する	1.0
17	事前学修	制作したゲームをプレイしてみる。	1.0
	授業	簡単なゲームの制作(テストプレイ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ゲームエンジンのもっと高度な操作方法	
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する	1.0
19	事前学修	変数について深く調べる	1.0
	授業	アクションゲームの制作(変数)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(関数)	
	事後学修	変数・関数を反復して使用する	1.0
21	事前学修	名前空間について深く調べる	1.0
	授業	アクションゲームの制作(名前空間)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(クラス)	

	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する	1.0
23	事前学修	マップの仕組みを調べる	1.0
	授業	アクションゲームの制作(マップ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
24	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	マップ・衝突判定を反復して使用する	1.0
25	事前学修	課題の工夫点を考える。いろいろなゲームをプレイし調査する	1.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
26	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の画像素材を作る)	
	事後学修	画像を良く見て，荒がないか確かめる	1.0
27	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり，準備を行う	1.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の音素材を作る)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
28	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を組み込む)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果としてバグが出ないかを調べる	1.0
29	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり，準備を行う	1.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の動作確認)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
30	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	
	事後学修	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	1.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%
□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業の中で講評を行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 ゲームプログラミング・演習
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリィ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える.

モバイルアプリ演習 Mobile Application Practical

担当教員	齋藤 健司(314 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC212

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(前半)

授業概要

モバイルアプリケーションとは，スマートフォンやタブレット端末向けに開発されたアプリケーションソフトウェアの総称です。モバイルアプリケーションは，iOS や Android 等の幾つかのプラットフォームがあり，その開発方法も様々です。
本実習科目では，複数のモバイルプラットフォームで利用できる HTML，CSS，JavaScript を使った Web ブラウザで動作するモバイルアプリケーションの開発を行います．実習で使用する技術要素の機能を理解しながら課題に取り組み，アプリケーションを開発できるようになることを目標にします。

授業における学修の到達目標

演習課題に取り組みながらモバイル Web アプリケーションの開発に必要な技術を習得することを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	HTML,CSS についての知識を思い出し，基本的な Web ページを作成するための方法を確認しておく。	4.0
	授業	ガイダンス：HTML5 を用いたモバイルアプリとは何かを説明し，この受業で学習する項目を確認する。	
	事後学修	なし	0.0
2	事前学修	なし	0.0
	授業	開発環境の整備：これから演習でモバイルアプリを作成するために必要となる環境の整備をする。	
	事後学修	自宅でも演習を行うための環境を構築してみる。	4.0
3	事前学修	JavaScript という言語について，どのような言語なのかを調べておく。	4.0
	授業	コーディングと実行テストの方法の説明と確認：HTML, CSS, JavaScript の基本を確認してアプリの概要を学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
4	事前学修	なし	0.0
	授業	コーディングと実行テストの実践：簡単なアプリを作成して動作確認を行う。	
	事後学修	HTML5 のモバイルアプリの最小構成要素を確認して，今後の課題のテンプレートを作ってみる。	4.0
5	事前学修	Web ページを記述する HTML は，タグというものを使用して階層的なデーター構造を表現していることを復習しておく。	4.0
	授業	DOM(Document Object Model)の概念の理解と確認：Web ページの中を JavaScript で操作するということの意味を理解する。	
	事後学修	なし	0.0
6	事前学修	なし	0.0
	授業	DOM(Document Object Model)の操作の応用：DOM の技術を利用して，動的な Web ページを作成する。	
	事後学修	要素(Element)を JavaScript で生成する方法，特定の要素を選択する方法，要素を変更，削除する方法を復習する。	4.0
7	事前学修	プログラムの同期，非同期について調べ，非同期のプログラミングがどんな場面で必要であるかを	4.0

		把握する。	
	授業	JavaScript の非同期処理の理解と確認：JavaScript における，非同期なプログラミングの方法について説明する。	
	事後学修	なし	0.0
8	事前学修	なし	0.0
	授業	JavaScript の非同期処理の応用：JavaScript の非同期なプログラムを作成し，その仕組みを体得する。	
	事後学修	非同期呼び出しを用いて繰り返し実行されるプログラムを施策してみる。	4.0
9	事前学修	Web ページの中に入力欄やボタンやチェックボックスを作る方法を調べておく。	4.0
	授業	HTML による UI の仕組みの理解と確認：Web ページ中の UI と JavaScript のプログラムを連動させる方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
10	事前学修	なし	0.0
	授業	HTML による UI の作成：ボタンを押すとプログラムが実行され，様々な動作をする仕組みを作り上げてみる。	
	事後学修	入力欄やボタンのあるページを選びそのソースファイルを見て，UI の仕組みを読み解いてみる。	4.0
11	事前学修	マウスで絵が描けるような Web ページを探し出して，そのページのソースを見て canvas という要素が無いか確認する。	4.0
	授業	Canvas を用いた描画の仕組みの理解と確認：Web ページ内の canvas 要素に線を引いたり色を塗る方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
12	事前学修	なし	0.0
	授業	Canvas を用いた描画：canvas に図形を描くプログラムを作成し，マウスで線を引くなどの応用を試す。	
	事後学修	プログラムで自分の好きな図形を Web ページ中の canvas 要素に描くプログラムを作成してみる。	4.0
13	事前学修	ブラウザで実行される JavaScript のプログラムでページを閉じても消えないようなデータを保存する技術を調べてみる。	4.0
	授業	ローカルストレージの理解と確認：キーとバリューで値を保存する仕組みと利用の方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
14	事前学修	なし	0.0
	授業	ローカルストレージの利用：ローカルストレージを利用して Web ページのデザインや，オブジェクトを保存してみる。	
	事後学修	大学の実習室で保存したデーターが自宅の PC には保存されていないことをプログラムで確認してみる。	4.0
15	事前学修	ブラウザ内で実行される JavaScript プログラムにはデーターの通信に制限があるが，その理由を調べてみる。	4.0
	授業	HTTP 通信技術の理解と確認：HTTP 通信 API を使った通信を行うプログラムの構成を確認し理解する。	
	事後学修	なし	0.0
16	事前学修	なし	0.0
	授業	HTTP 通信技術の利用：HTTP 通信 API を用いて基本的なデーターの送受信やファイルアップロードのプログラムを作成する。	

	事後学修	通信を行うための手順と、プログラムの構成を確認する。他のドメインとの通信がブロックされることを試してみる。	4.0
17	事前学修	WebAPI や各種 Web 上のサービスについて調べ、どのようなサービスが利用できるか調査してみる。	4.0
	授業	WebAPI，サービスの理解と確認：外部の WebAPI のサービスについて学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
18	事前学修	なし	0.0
	授業	WebAPI，サービスの利用：外部の WebAPI のサービスを利用したプログラムを作成する。	
	事後学修	授業で紹介したサービス以外のサービスを利用するプログラムを作成してみる。	4.0
19	事前学修	位置情報を利用したアプリケーションにはどのような物があるかを調べてみる。	4.0
	授業	位置情報の利用方法の理解と確認：Geolocation API と Google マップを利用する方法について学習する。	
	事後学修	なし	0.0
20	事前学修	なし	0.0
	授業	位置情報の利用：デバイスの現在の位置情報を取得し、地図に表示するアプリなどを作成する。	
	事後学修	大学以外の場所からモバイル端末と PC で実行確認をして，その結果を確認する。	4.0
21	事前学修	タッチイベントとマウスのイベントとの違いについて調べてみる。	4.0
	授業	タッチイベントの理解と確認：タッチイベントに含まれる情報と処理の方法について学習する。	
	事後学修	なし	0.0
22	事前学修	なし	0.0
	授業	タッチイベントの利用：タッチイベントの情報を表示するプログラムや画像を操作するプログラムを作成する。	
	事後学修	タッチイベントで絵を書くプログラムを改良して機能を追加してみる。	4.0
23	事前学修	X,Y,Z の 3 つの直行する軸が作る座標系によって，色々な 3 次元の情報が表せることを確認しておく。	4.0
	授業	加速度センサーの理解と確認：モバイルデバイスも向きや動きに関するイベントについて学習する。	
	事後学修	なし	0.0
24	事前学修	なし	0.0
	授業	加速度センサーの利用：モバイルデバイスの向きや動きを捉えて情報を表示したり図示するプログラムを作る。	
	事後学修	角度と回転速度(角速度)の違いや，速度と加速度の違いについて整理しておく。	4.0
25	事前学修	これまで勉強してきたことで，何が可能になったのかを整理しておく。	4.0
	授業	総合課題の演習(計画)：4 つの総合課題について説明し，これらの課題への取り組みについて計画をたてる。	
	事後学修	なし	0.0
26	事前学修	なし	0.0
	授業	総合課題の演習(調査)：総合課題を完成させるために必要となる技術を精査し，不明な部分を調査する。	
	事後学修	受業時間で調べきれなかったことを調べ，プログラムを作成するために足りないことが無いか確認する。	4.0
27	事前学修	総合課題を作成するのに必要となる技術についての解説を，受業の資料や Web で探しておく。	4.0

	授業	総合課題の演習(実装)：これまで調べた技術を用いて，総合課題の作品を実装する。	
	事後学修	なし	0.0
28	事前学修	なし	0.0
	授業	総合課題の演習(動作確認)：総合課題のプログラムの動作確認をし，バグを修正する。	
	事後学修	総合課題の完成度をあげるために，自分のアプリの良くない点をリストアップして改良する。	4.0
29	事前学修	総合課題を進め，現時点で問題点となっていることが無いか確認し，自分で解決できない時は受業で質問する準備をする。	4.0
	授業	ふりかえり(学習内容確認)：この受業で学習してきたことをふりかえって確認を行う。	
	事後学修	なし	0.0
30	事前学修	なし	0.0
	授業	ふりかえり(疑問点の質問)：総合課題を締め切りまでに完成させるために最後の確認を行う。	
	事後学修	総合課題を作り込んで完成させ，提出する。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　■演習課題：100%

□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の評価結果は随時 Web 上で公開し，再提出が必要な提出課題に対してはコメントやヒントをつける.

教科書	
参考書・Web サイト	MDN Web Docs https://developer.mozilla.org/ja/
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習
備考	教材用ホームページ https://s314.do-johodai.ac.jp/map/
担当教員の実務経験	齋藤健司：実務経験なし 湯村翼：電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

Web プログラミング演習 Web Programming Practical

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC210

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(前半)

授業概要

近年，一般家庭でも潤沢な通信帯域を利用できるようになり，動画をダウンロードしたり，ストリーミングで見ることができるようになりました。動画共有サイトなどを利用したみなさんもいらっしゃるのではないでしょうか。そうした中，こんにちの情報メディアにおいて，Web アプリケーション（Web 上で動作するアプリケーション）は非常に重要な位置を占めるようになってきたと言えるでしょう。

この講義では，Web アプリケーションがどのようなものかを理解するために，簡単なものを作成します。プログラミング言語として PHP を利用します。まずは基本的な考え方をしっかりと身に付けること，とくに，データベースを利用した Web アプリケーションの作成方法の理解を目的とし，開発に用いる個々のアプリケーションの動作と，それらの連携について，実習を通して理解を深めてもらいます。

授業における学修の到達目標

・PHP プログラミング技術を習得する
・PHP を利用して，動的な Web ページを作成できる
・PHP を利用して，データベースを利用した Web アプリケーションを作成できる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。メディア技術演習で行った (1)ファイルのアップロード方法，(2) PHP のコードを書くためのソフトウェアの使用方法，(3) 変数の概念について予習する。	4
	授業	ガイダンス	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	PHP の復習：変数	
	事後学修	出題された課題を解き，PHP の変数について理解を深める。	4
3	事前学修	PHP の変数に値を与える方法について調査する。とくに，URL を利用した方法と，フォームを利用した方法について調べておく。また，PHP をつかって，あるページから別のページへ移動させる方法について調査する。	4
	授業	PHP の復習：URL から値を渡す，フォームを使って値を渡す	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	PHP の復習：プログラムを利用したページ遷移	
	事後学修	出題された課題を解き，外部からプログラムへの値の渡し方，ページ遷移を行うときの注意点について理解を深める。	4
5	事前学修	メディア技術演習で行った if 文と配列について復習しておく。また，メディア技術演習の該当課題も再び解いておく。	4
	授業	PHP の復習：if 文の複雑な例	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0

6	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	PHP の復習：配列	
	事後学修	出題された課題を解き，if 文と配列にかんする理解を深める。	4
7	事前学修	メディア技術演習で行った繰り返しについて復習しておく。また，POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	PHP の復習：繰り返し	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	PHP の復習：glob 関数，配列関数	
	事後学修	出題された課題を解き提出する。繰り返しと glob 関数，配列関数にかんする理解を深める。	4
9	事前学修	HTML コーディングや Web デザイン基礎演習で行った CSS にかんして復習しておく。また，CSS3 について調査する。POLITE の該当ドキュメントも読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	CSS によるデザイン：CSS の基本，CSS3	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	CSS によるデザイン：CSS グリッドレイアウト	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。CSS3 によるデザインについて理解を深める。	4
11	事前学修	ファイルアップロードができるサイトを複数箇所調べ，どのような動作をするか調査する。また，POLITE の該当ドキュメントも読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	PHP でファイルのアップロード：filter_input()の導入	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	PHP でファイルのアップロード：ファイルアップローダ完成	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。ファイルをアップロードするときの注意点について理解を深める。	4
13	事前学修	SQL 入門を履修していた場合には，データベースの操作（とくに SELECT 文）について復習しておく。また，POLITE の該当ドキュメントも読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	データベースへの接続：SELECT 文の基本，すべての列を出力，NULL について，重複行を省く	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：WHERE 句によるレコード選択	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。SELECT 文の基本的な扱い方について理解し，それを PHP から利用する方法についても理解を深める。	4
15	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。PHP における比較演算子・算術演算子との違いをまとめておく。	4
	授業	データベースへの接続：コメント，別名，比較演算子	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
16	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：算術演算子	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。SQL における比較演算子，算術演算子について理解を深める。	4

17	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。PHP における論理演算子についても調べておく。	4
	授業	データベースへの接続：論理演算子	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
18	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：集合関数	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。SQL における論理演算子，集合関数について理解を深める。	4
19	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。PHP での配列の並び替えとも比較する。	4
	授業	データベースへの接続：並び替え	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
20	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：INSERT 文，DELETE 文，UPDATE 文	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。並び替えに関しては，PHP の配列の並び替えとの違いをまとめる。また，ここまでで学んだ SELECT, INSERT, DELETE, UPDATE 文の機能や文法についてまとめる。	4
21	事前学修	クロスサイト・スクリプティングについて調査する。また，POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：Web アプリケーションの入力処理，文字エンコーディング，正規表現による入力値検証	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
22	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：クロスサイト・スクリプティング	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。また，PHP における正規表現と，他のプログラミング言語の正規表現との違いの有無について調査し，まとめる。クロスサイト・スクリプティング脆弱性の発生理由とその防御方法について理解を深める。	4
23	事前学修	検索機能を持つ Web アプリを複数個調査する。また，ユーザ認証とは何かについても調査する。それに加えて，POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：検索機能を持つアプリの作成	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
24	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースを使ったユーザ認証	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。検索機能を実装するときの注意点，データベースを利用したユーザ認証の実装の考え方について理解を深める。	4
25	事前学修	SQL インジェクション_x0008_という語句について調査し，その事例についてまとめる。また，POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：SQL インジェクション	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
26	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	ログイン関連機能の作成	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。また，SQL インジェクション脆弱性の発生理由とその防御方法について理解を深める。	4

27	事前学修	HTTP におけるリファラについて調査する。また，クロスサイト・リクエストフォージェリ（CSRF）という語句について調べ，事例を少なくとも 1 つ調べておく。また，POLITE の事前学習課題を行う。	4
	授業	リファラ	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
28	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：クロスサイト・リクエストフォージェリ	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。CSRF 脆弱性の発生理由とその防御方法について理解を深める。また，リファラ以外の HTTP ヘッダについても調査し，まとめる。	4
29	事前学修	POLITE にある最終課題のドキュメントを読み，それに付け加える機能を複数個考えておく。また，今まで行ってきた脆弱性に対する防御方法を使うべき箇所はどこかについてもまとめておく。	4
	授業	最終課題の設計	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
30	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	最終課題の開発	
	事後学修	各自で考えた独自機能を加えた最終課題を仕上げ，提出する。	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100　　%
□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義中および POLITE によりフィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	講義中に参考図書をいくつか紹介します。また，POLITE でも紹介します。
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング，Web デザイン基礎演習，メディア技術演習，データベース演習，SQL 入門
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

情報メディアの数学Ⅱ Information Media Mathematics 2

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC215

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(後半)

授業概要

画像情報処理や音声情報処理を始め，ネットワーク技術やセキュリティ技術など，情報メディアにまつわる技術には数学的な知識を有するものが多々あります。そこで，本講義では，情報系で修得すべき数学的な知識について学習していきます。特に，ここではまず「集合」や「論理」，「関数」など，情報系で必要となる数学の基礎について学習します。次いで，これらの応用の 1 つとして，代表的な暗号である RSA 暗号を構築する上で必須となる数学的な背景について学習します。

授業における学修の到達目標

講義の前半では離散数学と集合論に関する知識の習得を目標とし，集合に関する性質を用いる応用力を養う。また，講義の後半では前半に学習した内容の応用例として，RSA 暗号の仕組みに関係する数学的な背景について理解する。最終的には，離散数学や集合論が情報科学・技術に密接に関係していることを理解する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2
	授業	集合の要素と部分集合	
	事後学修	集合の要素と部分集合についてレポートにまとめる	2
2	事前学修	集合間の演算と関係について配付資料で予習をする	2
	授業	集合間の演算と関係	
	事後学修	集合間の演算と関係についてレポートにまとめる	2
3	事前学修	直積と関係について配付資料で予習をする	2
	授業	直積と関係	
	事後学修	直積と関係についてレポートにまとめる	2
4	事前学修	2 項関係の性質について配付資料で予習をする	2
	授業	2 項関係の性質	
	事後学修	2 項関係の性質についてレポートにまとめる	2
5	事前学修	同値関係と分割について配付資料で予習をする	2
	授業	同値関係と分割	
	事後学修	同値関係と分割についてレポートにまとめる	2
6	事前学修	半順序について配付資料で予習をする	2
	授業	半順序	
	事後学修	半順序についてレポートにまとめる	2
7	事前学修	関数について配付資料で予習をする	2
	授業	関数	
	事後学修	関数についてレポートにまとめる	2
8	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	集合に関する試験と内容の解説	

	事後学修	集合に関して理解した内容をまとめる	2
9	事前学修	RSA 暗号について調査する。	2
	授業	RSA 暗号と四則演算の再考	
	事後学修	講義資料と講義中のノートを確認し，講義内容をまとめる。特に，商と余りの記述方法についての理解を深める。	2
10	事前学修	「最大公約数とユークリッド互除法」の講義スライドを熟読し，最大公約数とユークリッド互除法の関係性について確認する。	2
	授業	最大公約数とユークリッド互除法	
	事後学修	講義資料と講義中のノートを確認し，講義内容をまとめる。また，演習課題を解き，ユークリッド互除法の理解を深める。	2
11	事前学修	「合同式と剰余系」の講義スライドを熟読し，割った余りの数と整数の性質の類似性について調査する。	2
	授業	合同式と剰余系	
	事後学修	講義資料を見て講義内容をまとめる。特に，合同式と剰余系の関係性，剰余系の演算表についてまとめる。	2
12	事前学修	「フェルマーの小定理」の講義スライドを熟読する。	2
	授業	フェルマーの小定理	
	事後学修	講義資料と講義中のノートを確認し，講義内容をまとめる。特に，演習課題を解き，フェルマーの小定理の使い方を理解する。	2
13	事前学修	「オイラーの定理」の講義スライドを熟読する。このとき，フェルマーの小定理とオイラーの定理の違いについて考察する。	2
	授業	オイラーの定理	
	事後学修	講義資料と講義中のノートを確認し，講義内容をまとめる。特に，オイラーの定理と RSA 暗号の関係性について理解する。	2
14	事前学修	「逆元と拡張ユークリッド互除法」講義スライドを熟読する。このとき，逆元とは何かについて理解する。	2
	授業	逆元と拡張ユークリッド互除法	
	事後学修	講義資料と講義中のノートを確認し，講義内容をまとめる。特に，演習課題を解き，拡張ユークリッド互除法について理解する。	2
15	事前学修	過去に出題された演習問題の中で，解けなかった問題を確認し，改めて解き方を調べる。	2
	授業	総合演習	
	事後学修	演習課題で分からなかった箇所を改めて解いてみる。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：60%　□小テスト：%　■レポート：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに，誤った解答の傾向についても紹介する。

教科書	
参考書・Web サイト	数学の基礎体力をつけるためのろんりの練習帳・中内伸光・共立出版 ゼロからわかる数学 - 数論とその応用・戸川美郎・朝倉書店
単位修得が望ましい科目	情報メディアの数学 I
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

インターネットセキュリティの技術 Technology on Internet and Security

担当教員	佐々木 洋平(222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMC307

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期(前半)

授業概要

コンピュータやスマートフォンなどを用いてインターネットを日常的に利用するようになりました。それとともに，不正アクセスやネット犯罪の方法も多種多様になっており，セキュリティについて考慮することが一般的になっています。そこで本講義では，ICT 技術者の視点から，これらの問題点に対処するためのセキュリティ技術の基礎について，講義をメインに問題基盤学習・演習などを通じて理解していきます。

授業における学修の到達目標

(1) セキュリティ技術の基礎である暗号技術やその利用について理解する。
(2) 安全性に配慮したプロトコルについて理解する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	IoT 時代のセキュリティ，インターネットの仕組みの講義内容を復習する。	2
	授業	ガイダンス，セキュリティを構成する要素	
	事後学修	講義内容をまとめ，復習課題を解く。	2
2	事前学修	暗号で用いられる用語，「平文」，「鍵」，「暗号化」，「復号」，「解読」などについて調査する。	2
	授業	暗号技術の基礎	
	事後学修	現代の暗号技術の考え方における，アルゴリズムの公開の必要性についてまとめる。	2
3	事前学修	共通鍵暗号とは何か，また，この例について調査する。	2
	授業	共通鍵暗号（ストリーム暗号）	
	事後学修	バーナム暗号とは何か，また，これは理論的に解読できないとされているが，実用上あまり使われていない理由をまとめる。また，これの実用化とストリーム暗号との関係についてもまとめる。	2
4	事前学修	DES 暗号と AES 暗号について，スライドを通じて調査する。	2
	授業	共通鍵暗号（ブロック暗号）	
	事後学修	ストリーム暗号とブロック暗号の違いや，モードやブロックチェイニングの必要性についてまとめる。	2
5	事前学修	情報メディアの数学 II で学習した「フェルマーの小定理」や「オイラーの定理」について復習する。	2
	授業	鍵共有アルゴリズム	
	事後学修	Diffie-Hellman 鍵共有の仕組みを演習を通じて理解する。	2
6	事前学修	公開鍵暗号方式とは何か？また，共通鍵暗号との違いや，意義についてもまとめる。	2
	授業	公開鍵暗号	
	事後学修	RSA 暗号と ElGamal 暗号の仕組みと安全性の根拠を，演習を通じて理解する。	2
7	事前学修	ハッシュ関数とディジタル署名の役割を調査する。	2
	授業	ハッシュ値とディジタル署名	

	事後学修	ハッシュ関数の安全性と利用用途，ディジタル署名の方式についてまとめる。演習課題を解き，暗号技術について総括的に理解する。	2
8	事前学修	「IoT 時代のセキュリティ」で学修したパスワード認証の問題点や，その他の認証について復習する。	2
	授業	認証技術の基礎	
	事後学修	パスワードクラックツールとワンタイムパスワードについてまとめる。	2
9	事前学修	認証プロトコルとは何か，この必要性とともに調査する。また、認証と認可の違いについてもまとめる。	2
	授業	認証・認可プロトコル	
	事後学修	パスワードによる認証プロトコルと公開鍵ペアを用いた認証プロトコルについて，演習課題を通じて理解する。SAML や OpenID の仕組みについてまとめる。	2
10	事前学修	PKI とは何か，この必要性について調査する。	2
	授業	PKI	
	事後学修	PKI の仕組みについて理解し，演習課題を通じて証明書の生成方法について理解する。	2
11	事前学修	TLS・IPSec とは何か，この中で使われている暗号技術についてまとめる。また，「インターネットの仕組み」で学習した TCP の動作原理について復習する。	2
	授業	セキュアプロトコル	
	事後学修	TLS と IPSec の違いについて理解する。	2
12	事前学修	バッファーオーバーフローについて調査する。	2
	授業	ホストのセキュリティ	
	事後学修	バッファーオーバーフローの仕組みやセキュリティ OS についてまとめる。	2
13	事前学修	「インターネットの仕組み」で学修した IP アドレスやポート番号について復習する。	2
	授業	ネットワークセキュリティ	
	事後学修	ファイアウォールの仕組みや，スキャンについて演習課題を通じて理解する。	2
14	事前学修	HTML におけるフォームの利用について調査する。Web における脆弱性に関する用語を調査する。	2
	授業	Web における認証・脅威と対策	
	事後学修	Web アプリケーション開発における脆弱性が発生する仕組みや対策についてまとめる。	2
15	事前学修	講義スライドを学習し，QUIC やブロックチェーンについて調査する。	2
	授業	その他のセキュリティ技術	
	事後学修	Web における脅威への対策方法についてまとめる。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　■小テスト：　50　%　□レポート：　%　■演習課題：　50　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE3 上や講義開始の際に行う。

教科書	
参考書・Web サイト	齋藤 孝道，マスタリング TCP/IP 情報セキュリティ編，オーム社 徳丸 浩，体系的に学ぶ 安全な Web アプリケーションの作り方 第 2 版，SB クリエイティブ 黒沢 馨，尾形 わかは，現代暗号の基礎数理（電子情報通信レクチャーシリーズ），電子情報通信学会
単位修得が望ましい科目	コンピュータ，メディア技術演習，IoT 時代のセキュリティ，インターネットの仕組み、情

	報メディアの数学Ⅰ・Ⅱ，Web プログラミング演習，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	「コンピュータ」，「メディア技術演習」，「IoT 時代のセキュリティ」，「インターネットの仕組み」については，受講済を前提とした内容になっています。詳細については初回の講義で説明します。
担当教員の実務経験	実務経験なし

Ｌｉｎｕｘ演習 Introduction to Linux

担当教員	広奥　暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC324

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期(前半)

授業概要

Linux の知識と技術についてコンピュータ実習を通して学びます。
Open Source Software の OS である Linux は，Web サーバーとして広く利用されています。この Linux は，もともと商用であった UNIX に相当するフリーの OS です。現在のインターネットはこの UNIX（Linux）とともに発展し現在の姿になりました。Linux について理解することは，World Wide Web や，インターネットに関わる技術，知識を理解することにつながります。Web やインターネットに関わる技術者に必要とされる基本技術を身につけましょう。
授業は，Learning Management System（LMS）の Moodle （https://turtle.do-johodai.ac.jp/edu/ ）を利用して行う。

授業における学修の到達目標

・技術者として必要とされる OS（Linux）の基本操作を身につけます。
・Linux で，フォルダとファイルの操作ができるようになります。
・シェルスクリプトのプログラミングができ，他者の書いたシェルスクリプトを読んで理解できるようになることを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	この講義は，中断の難しい実習を中心に行うため，最低でも 2 コマ連続で開講の予定です。従って，便宜上回数の項目 2 回分を講義の「1 回」として記述しています。すなわち，（奇数回と偶数回の間に事前，事後学習をする時間は実際には取れませんので）授業の項 2 回分に対して，事前学習と事後学習を一つずつ記述し，時間は通常の 2 倍にしてありますので注意して下さい。 OS について触れる講義を受講したことがある場合には，その部分について復習しておく。 OS の役割について調べる。Linux についても簡単に調べる。	4.0
	授業	講義のガイダンス Learning Management System（以下 LMS と略す）に登録し，提示されている講義資料について確認する。毎回提示される「学習目標」，「演習」，「宿題と予習」といった教材への取り組み方を学ぶ。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
2	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	実習環境について確認する。SSH クライアントの使い方を学び，初回ログインを行う。 LMS に示す教材 Linux が自分とどのように関わるかを考える。	
	事後学修	LMS に提示する資料「この講義について」を読みなおし，Linux について学ぶ意義を考える。 LMS の「第 1 回宿題と予習」に示す内容に従って，GPL，GNU について調べる。	4.0
3	事前学修	LMS の「第 1 回宿題と予習」に示す教科書の予習範囲（予定している教科書の現行版で第 3 章）を読んでおく。LMS 第 2 回の項に提示するビデオを見て，それに関する小テストに回答する。 LMS 第 2 回の項に提示する「今回の学習目標」を読んでおく。	4.0
	授業	指定した教科書の記述に従って実習し，LMS の第 2 回の項に示す教材について目を通す。 LMS の演習 2 に取り組む。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
4	事前学修	記載なし（前回項目参照）	

	授業	引き続き，LMS の演習 2 に取り組む。 3 回以降に提示する課題の提出方法について確認する。	
	事後学修	LMS に示す「第 2 回 宿題と予習」の復習の項に従って，Linux のコマンド，絶対パス，相対パスについて復習する。	4.0
5	事前学修	LMS に示す「第 2 回 宿題と予習」の予習の項に従って，教科書第 3，4 章について読む。LMS 第 3 回の項に提示するビデオを見ておく。LMS 第 3 回の項に提示する「今回の学習目標」を読んでおく。	4.0
	授業	LMS の演習 3−1 に従ってファイルの取り扱い，パス，ヘルプの参照について学ぶ。「課題提出のルール」をよく読み理解する。 LMS の課題 1 に取り組み解答する。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
6	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	LMS の演習 3−2 にしたがって，リダイレクト，パイプといくつかのコマンドについて学ぶ。	
	事後学修	LMS に示す「第 3 回 宿題と予習」の復習の項に従って，今回学んだコマンド，環境変数，リダイレクト等について復習する。課題 1 に解答できていない場合は，解答する。	4.0
7	事前学修	LMS の「第 3 回宿題と予習」の予習の項に従って，教科書の第 5 章を読んでおく。LMS 第 4 回の項に提示するビデオを見ておく。LMS 第 4 回の項に提示する「今回の学習目標」を読んでおく。	4.0
	授業	LMS の演習 4-1 に従ってテキストファイルを処理するコマンドについて学ぶ。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
8	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	LMS の演習 4-2 に従って教科書に記載のないテキストファイルを処理するコマンドについて学ぶ。 LMS の課題 2，3 に取り組み，解答する。	
	事後学修	LMS に示す「第 4 回 宿題と予習」の復習の項に従って，今回学んだコマンド，正規表現について復習する。課題 2，3 に解答できていない場合は，解答する。	4.0
9	事前学修	LMS の「第 4 回宿題と予習」の予習の項に従って，教科書の第 6 章を読んでおく。可能ならば第 8 章も読んでおく。LMS 第 5 回の項に提示するビデオを見ておく。LMS 第 5 回の項に提示する「今回の学習目標」を読んでおく。	4.0
	授業	LMS に提示する教材「Linux でのテキスト編集」を読む。 演習 5-1 に従って，エディタについて学び，その使い方を身につける。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
10	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	LMS の演習 5-2 に従ってファイルのパーミッションとそのコントロールについて学ぶ。LMS の課題 4，5 に取り組み，解答する。	
	事後学修	LMS に示す「第 5 回 宿題と予習」の復習の項に従って，今回学んだコマンド，エディタの使い方について復習する。エディタは今後継続して使うので，以後，指示がなくても事前学習，事後学習の一部としてエディタの操作の習熟に努める。LMS の 課題 4，5 に解答できていない場合は，解答する。	4.0
11	事前学修	LMS の「第 5 回宿題と予習」の予習の項に従って，第 5 回「次に向けて」を読んでおく。LMS 第 6 回の項に提示する「今回の学習目標」を読んでおく。	4.0
	授業	LMS の第 6 回「ここまに学んだ事」を参考に，学んだことを整理する。 演習 6-1 に従ってディレクトリ，拡張子，リンクについて学ぶ。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
12	事前学修	記載なし（前回項目参照）	

	授業	LMS に提示する教材「Linux でプログラミング」を読み理解する。 演習 6-2 に従って，Linux 上でのコンパイル，リンクと実行プログラムの関係について学ぶ。 課題 6 に取り組み解答する。	
	事後学修	LMS に示す「第 6 回 宿題と予習」の復習の項に従って，今回学んだコマンド，標準ディレクトリ構成，リンクについて復習する。正規表現についても今後継続して使うので理解を深めるよう復習しておく。 課題 6 に解答できていない場合は，解答する。	4.0
13	事前学修	LMS の「第 6 回宿題と予習」の予習の項に従って，第 7 回の演習内容を読んでおく。教科書で，正規表現の復習とエスケープシーケンスについての予習を行う。インターネットなどを使ってプロセスの管理について調べる。LMS 第 7 回の項に提示する「今回の学習目標」を読んでおく。	4.0
	授業	LMS の演習 7-1 に従って，プロセスとプロセスを処理するコマンドについて学ぶ。プロセスの管理は日常的に行うことになるので，理解するだけでなくいつでもつかえるようにコマンドに習熟するよう努める。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
14	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	LMS の演習 7-2 に従って，引き続きプロセスについて学ぶ。 課題 7 に取り組み解答する。	
	事後学修	エディタの使い方を復習しておく。 課題 7 に解答できていない場合は，解答する。	4.0
15	事前学修	LMS に提示する「第 7 回 次回のための予習」に基づいて，教科書 9 章を読む。	4.0
	授業	LMS の「シェルスクリプト編　注意事項」を読み，教材「変数　ヒアドキュメント」を読む。 演習 8－1 に従って変数とヒアドキュメントについて学ぶ。 課題 8 に取り組み解答する。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

LMS 上で提出された解答のファイルあるいは記述に対して主にルーブリックを用いてフィードバックする。

教科書	書名：Linux 標準教科書, 著者名：, 出版社：LPI-JAPAN, 備考：電子書籍（無料）　講義中に指示する手順で入手してもらう
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	教材サイト　https://turtle.do-johodai.ac.jp/edu/ 第 1 回目の指示に従ってユーザ登録します。 授業計画は，受講者数，実習室環境によって変更されます。 Linux 認定試験（LPIC/LinuC）の資格保持者は，この科目の単位を認定しますので申し出てください。
担当教員の実務経験	なし

映像制作プロジェクト Filmmaking Project

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室), 河原 大(322 研究室), 島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMD204

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(前半)

授業概要

テーマ：チーム又は，個人によるプロジェクト形式の映像制作
本プロジェクト演習では，映画制作や映像制作，アニメーション表現の基礎に加え，様々な情報技術，デザインスキル等も活用しながら，プロジェクト形式での映像コンテンツ制作に取り組みます。映像作品の企画・制作・発表までの一連の流れをチーム又は，個人によるプロジェクトとして完遂し，その過程の中で，企画力・制作スキル・チームワーク・プロジェクト管理能力・プレゼンテーション能力・問題解決能力などを体得します。

授業における学修の到達目標

企画力，制作スキル，チームワーク，プロジェクト管理能力，プレゼンテーション能力を培い，プロジェクト型の映像コンテンツ制作に向けた総合的かつ応用的な知識の理解とスキルを身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	グループでプロジェクトに取り組みたい場合，受講者は事前にグループの構想ができていることが望ましい。但し人数配分の関係で調整される場合がある。また個人で取り組みことでも問題はない。	4.0
	授業	ガイダンス，本講義におけるプロジェクト制作の取り組み方について解説する。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
2	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作１についての講義及び、映像資料の鑑賞。	
	事後学修	確定したグループメンバーとの連絡先共有及び，親交を深める。各自の得意分野や制作したい作品についてディベートする。	4.0
3	事前学修	作品プランについて意見交換する。	4.0
	授業	制作課題１についての企画立案をする。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
4	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	制作課題１についての企画立案及び，企画のチェックを受ける。	
	事後学修	企画内容の共有をする。	4.0
5	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。	4.0
	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び，素材制作。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
6	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	撮影及び，素材制作。	
	事後学修	制作作業の状況の共有。	4.0
7	事前学修	進捗状況の確認，編集の準備。	4.0
	授業	コンポジット，編集作業。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0

8	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	編集作業，進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ，ムービーファイルの書き出し。	4.0
9	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
	授業	課題制作１作品プレゼンテーション。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
10	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作１作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0
11	事前学修	課題制作１作品の反省点を共有する。	4.0
	授業	課題制作２についての講義。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
12	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作２についての映像資料の鑑賞。	
	事後学修	制作したい作品についてディベートする。	4.0
13	事前学修	作品プランについて意見交換する。	4.0
	授業	制作課題２についての企画立案をする。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
14	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	制作課題２についての企画立案及び，企画のチェックを受ける。	
	事後学修	企画内容の共有をする。	4.0
15	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。	4.0
	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び，素材制作。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
16	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	撮影及び，素材制作。	
	事後学修	制作作業の状況の共有。	4.0
17	事前学修	進捗状況の確認，編集の準備。	4.0
	授業	コンポジット，編集作業。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
18	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	編集作業，進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ，ムービーファイルの書き出し。	4.0
19	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
	授業	課題制作２作品プレゼンテーション。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
20	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作２作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0
21	事前学修	課題制作２作品の反省点を共有する。	4.0

	授業	課題制作３についての講義。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
22	授業	課題制作２についての映像資料の鑑賞。	
	事後学修	制作したい作品についてディベートする。	4.0
	事前学修	作品プランについて意見交換する。	4.0
23	授業	制作課題３についての企画立案をする。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
24	授業	制作課題２についての企画立案及び，企画のチェックを受ける。	
	事後学修	企画内容の共有をする。	4.0
	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。	4.0
25	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び，素材制作。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
26	授業	撮影及び，素材制作。	
	事後学修	制作作業の状況の共有。	4.0
	事前学修	進捗状況の確認，編集の準備。	4.0
27	授業	コンポジット，編集作業。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
28	授業	編集作業，進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ，ムービーファイルの書き出し。	4.0
	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
29	授業	課題制作３作品プレゼンテーション。	
	事後学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	事前学修	２コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
30	授業	課題制作３作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：　20%　■演習課題：　80%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビュー、発表、チームミーティングの中でコメントします。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ，指示します。
単位修得が望ましい科目	発想法演習，映画基礎演習，アニメーション基礎演習，ビジュアルエフェクト演習
備考	特になし。
担当教員の実務経験	様々な映像分野のコンテンツ制作を行う現役の映画監督，エンターテインメントコンテンツ開発者，映像作家である。実制作の経験をもとにプロジェクトベースの映像企画・制作について幅広く指導できる。

グラフィック制作プロジェクト Graphic Design Project

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
杉澤 愛美(133 研究室), 伊藤 マーティ(非常勤), 坂本 牧葉(138 研究室)	4 単位	講義		IMD205

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期

授業概要

本講座はデザインの基礎とアプリケーション Adobe Illustrator と Photoshop の基本と応用をしっかり身につけた上で，ケーススタディをテーマとしたデザインを行う。

1,2 年で勉強する,プロ志向のデザインコースの最終講座。これまで学んできたデザインの知識・技術を基にロゴ・イラスト等からなるイベントのチラシのデザインを行う。必要な画像・イラストレーションなどのデザイン素材を自作するだけでなく、適切なデザイン素材を探し、活用するためのスキルも身に着ける。グラフィックデザイン系の職業を目指している学生には必須の講座。

本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となるため、メディアデザインの基礎・演習/デザインエレメンツ・演習/ビジュアル構成演習の講義受講後の履修が望ましい。

授業における学修の到達目標

実際のケースを想定し、企画からコンセプトワーク、デザインを実践する。
デザイン素材の作成および検索と活用方法を身に着ける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する	4.0
	授業	ガイダンス（授業の目的・内容・基礎知識について）	
	事後学修	特になし	0.0
2	事前学修	特になし	0.0
	授業	ガイダンス（基礎知識について）	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
3	事前学修	講義内容の確認を行う	4.0
	授業	デザインの基礎　復習 ・デザインにおける優先度について（座学）	
	事後学修	特になし	0.0
4	事前学修	特になし	0.0
	授業	デザインの基礎　復習 ・デザインの分析の仕方（座学）	
	事後学修	講義内容を復習する	4.0
5	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	既存のチラシ分析：チラシをトレースしてみよう（1） ガイダンス	
	事後学修	特になし	0.0
6	事前学修	特になし	0.0
	授業	既存のチラシ分析：チラシをトレースしてみよう（2） テキストのトレース	

	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
7	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	既存のチラシ分析：チラシをトレースしてみよう（3） 写真やイラスト、地図のトレース	
	事後学修	特になし	0.0
8	事前学修	特になし	0.0
	授業	既存のチラシ分析：トレースしたチラシの分析	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
9	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：ガイダンス	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：企画書の作成（1） ターゲット・目的の決定	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
11	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：企画書の作成（2） ベンチマーク作品の選定	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：企画書の作成（3） イメージカラーの設定	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
13	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：ロゴデザインの作成（1） ガイダンス	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：ロゴデザインの作成（2） ラフ作成	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
15	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：ロゴデザインの作成（3） ラフのブラッシュアップ	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：ロゴデザインの作成（4） ラフ完成	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
17	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：ロゴデザインの作成（5） illustrator での制作	

	事後学修	特になし	0.0
18	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：ロゴデザインの作成（6） ブラッシュアップ・完成	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
19	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：イラストの作成（1） ガイダンス	
	事後学修	特になし	0.0
20	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：イラストの作成（2） ラフ作成	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
21	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：イラストの作成（3） ラフのブラッシュアップ	
	事後学修	特になし	0.0
22	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：イラストの作成（3） ラフ完成	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
23	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：イラストの作成（4） ペイントソフトでの制作	
	事後学修	特になし	0.0
24	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：イラストの作成（5） ブラッシュアップ・完成	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
25	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：チラシの作成（1） ガイダンス	
	事後学修	特になし	0.0
26	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：チラシの作成（2） チラシのラフ作成（レイアウト選択）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
27	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：チラシの作成（3） チラシのラフ作成　ブラッシュアップ	
	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	特になし	0.0

	授業	江別のイベントチラシを作ろう：チラシの作成（4） illustrator での制作	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
29	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：チラシの作成（5） illustrator での制作	
	事後学修	特になし	0.0
30	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシを作ろう：チラシの作成（5） illustrator での制作　ブラッシュアップ・完成	
	事後学修	自分以外の作品の良い部分を取り入れ、自身の作品のクオリティを更に高める	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　0%　□小テスト：　0%　□レポート：　0%　■演習課題：　　100%　■その他[グループ討議 0%　プレゼンテーション 0%　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物・発表内容に対しコメントによりフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本。〉エムディエヌコーポレーション
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わりないデザイン制作のプロセス・知識を学生に伝える。

Ｗｅｂ制作プロジェクト Web Design Project

担当教員	安田 光孝(135 研究室), 斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC207

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期

授業概要

Web 制作演習で培った Web サイト制作の基礎的なテクニックを更に発展させ，サイト全体を戦略に基づいて構築する訓練を行う。

ケースメソッドによる実践課題を用い，調査をもとに Web 戦略を策定して，設計，デザイン，HTML によるコーディングの演習を行う。

※Adobe XD, Illustrator, Photoshop の使い方をマスターしていることと, HTML と CSS を使いこなせることが前提です。ソフトの使い方を学ぶ講義ではありません。
※この講義は、グループワークを多く含みます。

授業における学修の到達目標

Web デザインを単なるデザインから，ソリューション（解決策）提供の手段として活用できるまでの応用力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義の目的，スケジュールについて確認しておく	2
	授業	ガイダンス	
	事後学修	講義内容を再確認する	2
2	事前学修	Web 制作のプロセスを復習する	2
	授業	チーム分け ケース（事例）についての調査	
	事後学修	授業で調べたことを振り返る	2
3	事前学修	提示資料を事前に見ておく	2
	授業	ケース（事例）の把握と課題分析 ＊履修者の学習状況に応じて、ケースではなく個別テーマを設ける場合があります。	
	事後学修	提示資料を再確認し，制作する Web サイトのイメージをふくらませる	2
4	事前学修	ペルソナとはなにか，調べておく	2
	授業	ペルソナの策定 今まで調査した内容からペルソナの候補を複数挙げる	
	事後学修	それぞれのペルソナを掘り下げてみる	2
5	事前学修	それぞれのペルソナを見直す	2
	授業	ペルソナの策定 複数のペルソナから一つのペルソナに絞る	
	事後学修	絞ったペルソナについて掘り下げてみる	2
6	事前学修	コンセプトのアイディア出しをする	2
	授業	サイトコンセプト策定	

		ペルソナを訴求するコンセプトを考える	
	事後学修	複数のコンセプトを検証する	2
7	事前学修	複数のコンセプトを検証する	2
	授業	サイトコンセプト策定 ペルソナを訴求するコンセプトを決定する	
	事後学修	決定したコンセプトを更に掘り下げてみる	2
8	事前学修	コンテンツのアイディアを考える	2
	授業	サイトマップ作成 ペルソナに訴求するコンテンツを考える	
	事後学修	他にコンテンツがないか調べてみる	2
9	事前学修	コンテンツをすべて洗い出す	2
	授業	サイトマップ作成 挙がったコンテンツをもとにサイトの全体像を設計する	
	事後学修	サイトマップで補足がないか調べてみる	2
10	事前学修	トップページの要素を考えてみる	2
	授業	ワイヤーフレーム作成 サイトマップに基づき，トップページのワイヤーフレームを作成する	
	事後学修	トップページの要素で抜け落ちがないか確認する	2
11	事前学修	サブページで共通する要素を考えてみる	2
	授業	ワイヤーフレーム作成 サイトマップに基づき，各ページのワイヤーフレームを作成する	
	事後学修	各ページのワイヤーフレームを見直す	2
12	事前学修	デザインのテイストを考えてみる	2
	授業	トップデザイン作成 ラフ案作成	
	事後学修	カラーを複数検討してみる	2
13	事前学修	ラフ案のパターンを考えてみる	2
	授業	コンテンツページデザイン作成 ラフ案作成	
	事後学修	デザイン案の最終テイストを確認する	2
14	事前学修	提案書の構成を考える	2
	授業	提案書作成 課題・問題提起・コンセプト・コンテンツ	
	事後学修	提案書の前半の内容を見直す	2
15	事前学修	後半の内容を検討する	2
	授業	提案書作成 サイトマップ・ワイヤーフレーム・デザイン案（ラフ）	
	事後学修	提案書を見直し，完成度を上げる	2
16	事前学修	プレゼンテーションの練習を行う	2
	授業	提案書プレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返りを行う	2
17	事前学修	提案書の修正点を挙げてみる	2

	授業	提案書見直し 課題・問題提起・コンセプト・コンテンツ	
	事後学修	提案書の修正を見直す	2
18	事前学修	提案書後半の修正点を挙げてみる	2
	授業	提案書見直し サイトマップ・ワイヤーフレーム・デザイン案（ラフ）	
	事後学修	提案書全体を見直す	2
19	事前学修	Web サイト開発のプロセスを調べてみる	2
	授業	サイト開発を本格化する際の注意事項	
	事後学修	講演でのメモを見直し，関係事項を調べてみる	2
20	事前学修	ラフデザイン案を見直しておく	2
	授業	トップデザイン案作成	
	事後学修	トップデザインの完成度を上げる	2
21	事前学修	コンテンツページのラフ案を見直しておく	2
	授業	コンテンツページデザイン案作成	
	事後学修	コンテンツページのデザインの完成度を上げる	2
22	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	トップページコーディング HTML 記述	
	事後学修	HTML の復習をする	2
23	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	トップページコーディング CSS 記述	
	事後学修	CSS の復習をする	2
24	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング HTML 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	HTML の復習をする	2
25	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング CSS 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	CSS の復習をする	2
26	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング HTML 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	HTML の復習をする	2
27	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング CSS 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	CSS の復習をする	2
28	事前学修	CSS の復習をする	2

	授業	コンテンツページコーディング CSS 記述	
	事後学修	CSS の復習をする	2
29	事前学修	プレゼンの準備を行う	2
	授業	最終プレゼンテーション（クラスの半分）	
	事後学修	プレゼンの振り返りを行う（次回の発表の学生は発表準備）	2
30	事前学修	プレゼンの準備を行う（プレゼン終了者は反省点などを整理する）	2
	授業	最終プレゼンテーション（クラスの残り半分）	
	事後学修	プレゼンの振り返りを行う	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について
自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験： %　□小テスト： %　□レポート： %　■演習課題：20%
■その他[グループワーク]80%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビューやプレゼンテーション時にコメントをフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	なし（ただし，参考になるサイト等は授業で提示します）
単位修得が望ましい科目	Web 制作演習
備考	特になし
担当教員の実務経験	Web 制作会社，IT コンサルティングファームの実務経験をもつ教員とともに授業を担当する

メディアアート制作プロジェクト Media Art Project

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 向田 茂(125 研究室), 守 啓祐(225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC310

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期(前半)

授業概要

テーマ：メディア・アートを作成する
メディアアート制作プロジェクトでは，メディアアートコースの学生とメディアプログラミングコースの学生からなるプロジェクトにより，メディアアート作品の制作に取り組みます。グラフィックや映像・アニメーション、３DCG などのデザインとプログラミングや電子工作などのテクノロジーを融合させ，魅力的な作品の制作を行います。

授業における学修の到達目標

グループワークによる作品制作におけるディスカッションを通じてコミュニケーション能力を向上させる。作品の企画および展示会での発表を通じて，プレゼンテーション能力を向上させる。魅力的なメディアアートの作品制作手法を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	メディアアートについて調べる	2
	授業	ガイダンス（メディアアートとは）	
	事後学修	メディアアートについてまとめる	2
2	事前学修	自分の参画できる分野について整理する	2
	授業	ガイダンス（授業の進め方、プロジェクト）	
	事後学修	本講義におけるプロジェクトについて整理する	2
3	事前学修	メディアアートの事例を調べる	2
	授業	メディアアートの動向（世界のメディアアート）	
	事後学修	興味のあるメディアアートについてまとめる	2
4	事前学修	メディアアートの事例を調べる	2
	授業	メディアアートの動向（身近なメディアアート）	
	事後学修	興味のあるメディアアートについてまとめる	2
5	事前学修	自分の持つスキル、身につけたいスキルについてのプレゼン準備	2
	授業	スキルプレゼン（前半）	
	事後学修	プレゼンでの質問、コメントをまとめる	2
6	事前学修	自分の持つスキル、身につけたいスキルについてのプレゼン準備	2
	授業	スキルプレゼン（後半）、チーム編成	
	事後学修	プレゼンでの質問、コメントをまとめる	2
7	事前学修	企画案を考える	2
	授業	企画（ブレスト：アイデア出し）	
	事後学修	ブレストの内容をまとめる	2

8	事前学修	企画案を考える	2
	授業	企画（ターゲット設定）	
	事後学修	ブレストの内容をまとめる	2
9	事前学修	企画案と似たものを調べる	2
	授業	企画（調査：サービス）	
	事後学修	関連技術・事例をまとめる	2
10	事前学修	企画案と似たものを調べる	2
	授業	企画（調査：技術）	
	事後学修	関連技術・事例をまとめる	2
11	事前学修	企画を実現するために必要なことを考える	2
	授業	企画（実現可能性：できること）	
	事後学修	実現可能性についてまとめる	2
12	事前学修	企画を実現するために必要なことを考える	2
	授業	企画（実現可能性：できないこと）	
	事後学修	実現可能性についてまとめる	2
13	事前学修	プレゼン準備	2
	授業	企画発表（前半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
14	事前学修	プレゼン準備	2
	授業	企画発表（後半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
15	事前学修	技術的課題を考える	2
	授業	制作物の設計	
	事後学修	技術的課題をまとめる	2
16	事前学修	役割分担・スケジューリングを考える	2
	授業	役割分担・スケジューリング	
	事後学修	役割分担・スケジュールについてまとめる	2
17	事前学修	試作の方法を考える	2
	授業	試作：担当技術について	
	事後学修	試作の問題点をまとめる	2
18	事前学修	担当の技術を確認する	2
	授業	試作：個々の試作をあわせる	
	事後学修	試作の問題点をまとめる	2
19	事前学修	個々の制作の準備	2
	授業	制作：個々の制作に取り組む	
	事後学修	個々の制作についてまとめる	2
20	事前学修	個々の制作の準備	2
	授業	制作：個々の制作を完成させる	
	事後学修	個々の制作についてまとめる	2
21	事前学修	実施テストに向けての注意点を考える	2

	授業	制作：全体を統合する	
	事後学修	実施テストについてまとめる	2
22	事前学修	実施テストに向けての注意点を考える	2
	授業	制作：実施テスト	
	事後学修	実施テストについてまとめる	2
23	事前学修	展示方法について考える	2
	授業	展示方法（アイデア出し）	
	事後学修	展示方法についてまとめる	2
24	事前学修	展示方法について考える	2
	授業	展示方法（設計）	
	事後学修	展示方法についてまとめる	2
25	事前学修	プレゼンの準備	2
	授業	プロジェクト最終プレゼン（前半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
26	事前学修	プレゼンの準備	2
	授業	プロジェクト最終プレゼン（後半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
27	事前学修	必要な機材を確認する	2
	授業	成果展示会（準備）	
	事後学修	機材の管理を確認する	2
28	事前学修	必要な機材を確認する	2
	授業	成果展示会（設置）	
	事後学修	機材の管理を確認する	2
29	事前学修	展示の最終確認	2
	授業	成果展示会と相互評価（投票システムを用いた相互投票）	
	事後学修	展示会での質問・コメントをまとめる	2
30	事前学修	展示の最終確認	2
	授業	成果展示会（撤収）	
	事後学修	展示会での質問・コメントをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験： %　■小テスト：10 %　■レポート：30 %　□演習課題： %　■その他[グループワーク：10%　発表：20%　成果物：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントをする

教科書	
参考書・Web サイト	作品の内容に関連した参考資料を適宜指導する
単位修得が望ましい科目	デザイン系の学生は 3 DCG 演習，ビジュアルエフェクト演習，アニメーション基礎演習，デジタルサウンド演習，デザインプログラミング演習

	テクノロジー系の学生はメディアプログラミング演習，CG プログラミング，画像情報処理
備考	優秀作品は本学メディアデザイン展の出展作品として選定される
担当教員の実務経験	柿並義宏 通算で 4 年間，システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた．これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する． 守啓祐 該当科目につき，関連する測定用の機材の作成を行い，研究を行うとともに論文作成を行ってきた。また，関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし，該当科目に反映させている。 隼田尚彦 コンサルタント会社の客員研究員として総合研究開発機構主幹のプロジェクトを始めとする様々なプロジェクトの企画立案に従事し，また環境行動学の専門家として，これまで空間とそこにいる人とのインタラクションを基本にした新しい考えを用いて約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。メディアアートは，空間全体の設計も含むインスタレーション作品の制作もあり，これらの企画立案設計の経験を生かして教育を実施する。 向田茂 1989 年より 2006 年までシステムエンジニアとしてプログラムやシステムの設計・開発に従事した。

ゲーム制作プロジェクト Game Making Project

担当教員	森川 悟(856 研究室), 河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC308

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期(後半)

授業概要

2～3人でチームを作り，あらかじめ定められたテーマを元にゲームを制作します。ゲーム作品は大規模なイベントでの展示を想定したものとします。

ゲームを制作する際は企画を立て，スケジュールを組み，ゲーム制作現場に近い制作工程で作業を行います。

授業における学修の到達目標

チーム制作を通じてコミュニケーション能力の向上させ，スケジュール管理のノウハウを得る。ゲーム作品の企画発表や展示会を通じてプレゼンテーション能力を向上させる。基本的なゲーム作品の制作手法を身に着ける

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゲームをいろいろやってみる	4
	授業	ガイダンス（ゲーム制作とは）	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
2	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ガイダンス（講義の進めかた）	
	事後学修	自分の作りたいゲームがこの講義に相応しいかを考える	4
3	事前学修	自身のスキルをまとめる	4
	授業	スキルに偏りが無いようにチームを編成する	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
4	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	イベント展示されているゲームの動向	
	事後学修	イベントで展示するゲームについて，自分なりの考えをまとめる	4
5	事前学修	アーケードゲームについて調べる	4
	授業	アーケードゲームの動向	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
6	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	企画を作る（アイデア出し）	
	事後学修	アイデア出しの問題点をまとめる	4
7	事前学修	企画の類似作品が無いか調べる	4
	授業	企画を作る（パワーポイント制作）	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
8	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	企画発表会(前半)	
	事後学修	企画発表での感想や問題点をまとめる	4
9	事前学修	企画発表の準備をする。発表の練習をする	4

	授業	企画発表会(後半)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の分担を決める	
	事後学修	分担に漏れがないか確認し，問題点をまとめる	4
11	事前学修	スケジュールを考える	4
	授業	メンバー全員でスケジュールを作る	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作する(前半)	
	事後学修	スケジュールに問題がないかまとめる	4
13	事前学修	個々の制作の準備	4
	授業	制作する(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作する(後半)	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	4
15	事前学修	制作物が動作するように準備する	4
	授業	制作物の動作をチェックする	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表	
	事後学修	中間発表で得た意見をまとめる	4
17	事前学修	中間発表で得た意見を元に問題点をリストアップする	4
	授業	制作物の質やスケジュールに問題がないか検討する	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(前半)	
	事後学修	制作物の動作チェックを行う	4
19	事前学修	個々の制作の準備	4
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(後半)	
	事後学修	制作物の動作チェックを行う	4
21	事前学修	スケジュールに遅延がないかまとめる	4
	授業	メンバー全員でスケジュールを再確認する	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の品質チェック(前半)	

	事後学修	制作物の品質に問題がないかまとめる	4
23	事前学修	制作物が動作するように準備する	4
	授業	制作物の品質チェック(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
24	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の品質チェック(前半)	
	事後学修	制作物の品質に問題がないかまとめる	4
25	事前学修	プレゼンテーションの資料を作成する	4
	授業	最終発表(前半)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
26	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	最終発表(後半)	
	事後学修	最終発表で得た意見やアドバイスをまとめる	4
27	事前学修	個々の制作の準備	4
	授業	最終発表で得た結果を元に制作物を改良する(前半)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
28	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	最終発表で得た結果を元に制作物を改良する(後半)	
	事後学修	制作物の問題点をまとめる	4
29	事前学修	展示の事前準備を行う	4
	授業	制作物の展示を行う(アンケートで感想を貰う)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
30	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の撤収を行う	
	事後学修	撤収に問題点がないかまとめる	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について
自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う
□■試験：　　%　□■小テスト：　　%　□■レポート：　%　□■演習課題：50%　□■その他[グループワーク　：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントをする

教科書	
参考書・Web サイト	参考資料は適宜開示する
単位修得が望ましい科目	コンピュータゲーム開発論，ゲームプログラミング・演習，ゲームＣＧ演習，ゲーム制作演習
備考	なし
担当教員の実務経験	森川 ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリィ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える.

	河原 Unity による iOS・Android 用ゲーム制作（2019 年リリース「しんけん!!魁」）での実務経験を元に，グラフィックの仕様など制作現場で注意する事例を紹介しながら授業を行う。

アプリ制作プロジェクト Application Development Project

担当教員	齋藤 健司(314 研究室), 谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC306

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期(後半)

授業概要

本講義ではアプリ(モバイルを含む OS 上で動作するソフトウェアアプリケーション)の企画から制作，発表・報告までの一連の流れについてチーム・プロジェクトとして完遂します。その過程の中で、企画力，制作スキル，チームワーク，プロジェクト管理，そして，プレゼンテーション能力を養います。

授業における学修の到達目標

アプリケーション開発のための技術を身につけ，チームとしてプロジェクトを遂行できるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	4.0
	授業	ガイダンス，チーム決め	
	事後学修		0.0
2	事前学修		0.0
	授業	アプリケーションの事例とソリューションという考え方	
	事後学修	アプリケーションで解決できそうな世の中の問題について考え，チーム内で制作したいアプリケーションについて話し合う	4.0
3	事前学修	アプリケーション開発で使用できる技術，開発環境について調査する 教材用 Web サイトの「プロトタイピング」に関する説明を読む	4.0
	授業	アプリケーション開発で用いられる技術，開発環境の紹介と技術選定	
	事後学修		0.0
4	事前学修		0.0
	授業	プロトタイピング，選定した技術に関する学習	
	事後学修	チーム内で，プロトタイピングに向けた計画を立てて，チームで選択した技術，開発環境について詳しく調査し，学習を開始する	4.0
5	事前学修	教材用 Web サイトの「リーンスタートアップ」に関する説明を読む	4.0
	授業	リーンスタートアップの考え方を元にプロジェクトの計画を考える，選定した技術に関する学習	
	事後学修		0.0
6	事前学修		0.0
	授業	プロジェクトの計画の改善，選定した技術に関する学習	
	事後学修	担当教員からプロジェクトの計画の内容に関するフィードバックを受けて，プロジェクトの計画の内容の改善案を考える	4.0
7	事前学修	教材用 Web サイトの「ユースケース」に関する説明を読む	4.0
	授業	ユースケースの想定，選定した技術に関する学習	
	事後学修		0.0
8	事前学修		0.0
	授業	ユースケースの内容の改善，選定した技術に関する学習	

	事後学修	担当教員からユースケースの内容に関するフィードバックを受けて，ユースケースの内容の改善案を考える	4.0
9	事前学修	教材用 Web サイトの「企画発表」に関する説明を読む	4.0
	授業	企画発表資料の作成	
	事後学修		0.0
10	事前学修		0.0
	授業	企画発表資料の改善	
	事後学修	担当教員から企画発表資料に関するフィードバックを受けて，企画発表資料の改善案を考える	4.0
11	事前学修	企画発表の準備を行う	4.0
	授業	企画発表（前半）	
	事後学修		0.0
12	事前学修		0.0
	授業	企画発表（後半）	
	事後学修	発表のフィードバック内容の振り返りを行う	4.0
13	事前学修	教材用 Web サイトの「MVP(Minimum Viable Product)」に関する説明を読む	4.0
	授業	MVP を考える	
	事後学修		0.0
14	事前学修		0.0
	授業	MVP の内容の改善，アプリケーションの開発	
	事後学修	担当教員から MVP の内容に関するフィードバックを受けて，MVP の内容の改善案を考える	4.0
15	事前学修	教材用 Web サイトの「プロジェクト管理」に関する説明を読む	4.0
	授業	プロジェクト管理に関わる資料の作成 アプリケーションの開発	
	事後学修		0.0
16	事前学修		0.0
	授業	プロジェクト管理に関わる資料の内容の改善，アプリケーションの開発	
	事後学修	担当教員からプロジェクト管理に関わる資料の内容に関するフィードバックを受けて，プロジェクト管理の資料の内容の改善案を考える	4.0
17	事前学修	教材用 Web サイトの「サーバント・リーダーシップ」に関する説明を読む	4.0
	授業	サーバント・リーダーシップの考え方を元にチームの活動方針を考える，アプリケーションの開発	
	事後学修		0.0
18	事前学修		0.0
	授業	活動方針の改善，アプリケーションの開発	
	事後学修	担当教員から活動方針の内容に関するフィードバックを受けて，活動方針の改善案を考える	4.0
19	事前学修	教材用 Web サイトの「中間発表」に関する説明を読む	4.0
	授業	中間発表の準備	
	事後学修		0.0
20	事前学修		0.0
	授業	中間発表の内容の改善	
	事後学修	担当教員から中間発表の内容に関するフィードバックを受けて，中間発表の内容の改善案を考え	4.0

		る	
21	事前学修	中間発表の準備をする	4.0
	授業	中間発表・アプリケーションのデモンストレーション（前半）	
	事後学修		0.0
22	事前学修		0.0
	授業	中間発表・アプリケーションのデモンストレーション（後半）	
	事後学修	発表のフィードバック内容の振り返りを行う	4.0
23	事前学修	教材用 Web サイトの「ファシリテーション」に関する説明を読む	4.0
	授業	円滑な会議の方法，制作中のアプリケーションの問題点や課題を明らかにするためのチーム会議，アプリケーションの開発	
	事後学修		0.0
24	事前学修		0.0
	授業	問題点や課題の解決方法についてチームで話し合い考える，アプリケーションの開発	
	事後学修	明らかになった問題点や課題をまとめてチームで共有し，問題点や課題の解決に取り組む	4.0
25	事前学修	教材用 Web サイトの「アプリケーションの評価」の説明を読む	4.0
	授業	制作したアプリケーションの評価方法を考えて評価の計画を立てる，アプリケーションの開発	
	事後学修		0.0
26	事前学修		0.0
	授業	アプリケーション評価の実施	
	事後学修	チーム内でアプリケーションの評価方法をチームで共有し，アプリケーションの評価を行う	4.0
27	事前学修	教材用 Web サイトの「プレゼンテーション」の説明を読む	4.0
	授業	プレゼンテーションの準備	
	事後学修		0.0
28	事前学修		0.0
	授業	プレゼンテーションの内容の改善	
	事後学修	担当教員からプレゼンテーションの内容に関するフィードバックを受けて，プレゼンテーションの内容の改善案を考える	4.0
29	事前学修	プレゼンテーションの準備を行う	4.0
	授業	プレゼンテーション（前半）	
	事後学修		0.0
30	事前学修		0.0
	授業	プレゼンテーション（後半）	
	事後学修	発表のフィードバック内容の振り返りを行う	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：70%　■その他[グループワーク：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

チームごとに，プロジェクトの計画や，制作しているアプリケーションの内容，発表資料などに対してフィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	講義中に参考図書をいくつか紹介します。また，POLITE でも紹介します。
単位修得が望ましい科目	モバイルアプリ演習
備考	なし
担当教員の実務経験	谷口文威 実務経験なし 齋藤健司 実務経験なし

ネットワーク演習 Networking Practical

担当教員	広奥　暢(318 研究室), 辻　順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMT305

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	後期(前半)

授業概要

小規模コンピューターネットワークを構築し、実習を通してコンピューターネットワークの通信について学ぶ。複数台のルータや各種サーバーでネットワークを構成して，いくつかのプロトコルの動作を実査に確認することで，ネットワーク通信の技術・知識の獲得を目指す。
POLITE3 上にコースを設置してあるが，本来のサイトへの誘導に用いる。実際の授業は，同様の LMS（Learning Management System）の Moodle（https://turtle.do-johodai.ac.jp/edu/）を利用して行う。

授業における学修の到達目標

・TCP/IP を理解し小規模なコンピューターネットワークの設計ができる。
・ルーターの設定を行い小規模なコンピューターネットワークを構築できる。
・OS 上にネットワーク通信サービスを配置することができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する 。POLITE3 に提示する授業前の準備（実習環境の準備）についての案内を読み，準備を進める。	2.0
	授業	ガイダンス コンピューターネットワークに関する知識の確認をする。	
	事後学修	POLITE3 の案内に従って，https://turtle.do-johodai.ac.jp/edu/（以下 LMS と呼称する）にログインし，コースに自己登録する。 LMS に掲載する第 1 回資料「講義の目的」について復習する。LMS に提示される実習環境の準備に取り組む。	2.0
2	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は Ethernet に関わる部分を復習する。未履修者は，インターネットなどを使って Ethernet について調べる。	2.0
	授業	Ethernet についての知識の獲得（あるいは復習）	
	事後学修	LMS に掲載する第 2 回資料「LAN」について復習する。LMS に提示される宿題に取り組む。LMS に提示される実習環境の準備に取り組む。	2.0
3	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は Internet Protocol に関わる部分を復習する。未履修者は，インターネットなどを使って Internet Protocol について調べる。	2.0
	授業	Internet Protocol についての知識の獲得（あるいは復習）	
	事後学修	LMS に掲載する第 3 回資料「IP」について復習する。 LMS に提示される宿題に取り組む。 LMS の必要な回の部分に宿題を提示するので，以下では，「LMS に提示される宿題に取り組む。」という記述は省略する。	2.0
4	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者はルーティングテーブルについて具体的な IP アドレスを用いて復習する。未履修者は，インターネットなどを使って ルーティングテーブルの役割について調べる。	2.0
	授業	ルーティングテーブルと Default gateway と Static route についての知識の獲得（あるいは復習）	
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。	2.0

5	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者はプライベート IP アドレスと NAT について復習する。未履修者は，インターネットなどを使って Network Address Translation について調べる。	2.0
	授業	ルーターの基本機能の確認	
	事後学修	LMS に掲載する第 5 回資料「ルーターの役割」について復習する。	2.0
6	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は DHCP について復習する。未履修者は，インターネットなどを使って DHCP の役割について調べる。	2.0
	授業	実習用機材（ツール，ソフトウェア）の確認と，基本設定を行う。	
	事後学修	LMS に掲載する第 6 回資料「ブロードバンドルータの機能」について復習する。	2.0
7	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は ICMP について復習する。未履修者は，インターネットなどを使って ping コマンドの使い方について調べる。	2.0
	授業	ルータを用いてネットワークを構成し，通信の確認をする。	
	事後学修	LMS に掲載する第 7 回資料「ネットワーク通信の確認方法」について復習する。	2.0
8	事前学修	インターネットなどを使ってパケットフィルタリングについて調べる。	2.0
	授業	IP フィルタリング機能について調べ，使用する機材（ソフトウェア）上でどのようにフィルタリング設定するか調べる。	
	事後学修	LMS に掲載する第 8 回資料「パケットフィルタリング」について復習する。	2.0
9	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」を読む。（単独でのプロジェクト，実機を使用する場合，グループワークをする場合などを想定）	2.0
	授業	2 台ルーターを用いて 3 つのセグメントを接続するように IP アドレスの配置を設計する。3 つのセグメントにわたる通信の確認方法を設計する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて，ネットワークの設計を行う。	2.0
10	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて，ネットワークの設計を行う。（前回事後学習から継続）	2.0
	授業	設計したネットワークが稼働するように，必要な設定を行う。正常な通信が行われていることを確認する手順を考える。	
	事後学修	実際に作成したネットワークのそれぞれの機器におけるルーティングテーブルについて，設計図と比較して実際のものがどうだったか確認し，差があればその原因について考察する。	2.0
11	事前学修	LMS に掲載する第 11 回資料「通信の確認」を読む。	2.0
	授業	前回考えた通信の確認手順で通信の状況を確かめる。 授業中に指示するフィルターを設定し，その後，通信の確認を行う。	
	事後学修	LMS に掲載する第 11 回資料「通信の確認」について復習する。	2.0
12	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて，プロジェクト 1 のまとめを準備する。	2.0
	授業	プロジェクト 1 のまとめをする。	
	事後学修	プロジェクト 1 のまとめを「レポート」として LMS に提出する。	2.0
13	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 1 で作成したネットワークに，ネットワーク上のサービスをするサーバーを使いする構成を検討する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」に基づいて，ネットワーク通信サービスの設計を行う。	2.0
14	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」に基づいて，ネットワーク通信サービスの設計を行う。（前回事後学習から継続）	2.0
	授業	検討したネットワークサービスについて，設計図を作成する。必要な機材等を確認する。	
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。LMS に提示される宿題	2.0

		に取り組む。	
15	事前学修	LMS に掲載する第 15 回資料「通信サービス」を読む。	2.0
	授業	作成した設計図について，実現可能か検討する。到達目標を設定する。	
	事後学修	LMS に掲載する第 15 回資料「通信サービス」について復習する。	2.0
16	事前学修	LMS に掲載する第 16 回資料「通信サービスと OS」を読む。	2.0
	授業	設計図に基づいて実際に環境を構築する。（複数回を要する）	
	事後学修	LMS に掲載する第 16 回資料「通信サービスと OS」について復習する。	2.0
17	事前学修	LMS に掲載する第 17 回資料「OS とパケットフィルタリング」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 2 の設計図に基づいて実際に環境を構築する。（複数回を要する） 安全な通信サービス提供について検討し，適切なパケットフィルタリング設定の準備をする。	
	事後学修	LMS に掲載する第 17 回資料「OS とパケットフィルタリング」について復習する。	2.0
18	事前学修	前回資料「OS とパケットフィルタリング」に基づいて，自分が設計したネットワーク通信サービスに適したパケットフィルタリングを設計する。	2.0
	授業	設計したパケットフィルタリングを必要な機器上で設定する。通信の確認をする。	
	事後学修	通信サービスとパケットフィルタリングの設定について概要をまとめ，プロジェクト 2 の「レポート」として LMS に提出する。	2.0
19	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 1 より規模の大きなネットワーク構成を目指す。仮想環境の場合は複数のノードを使って，実環境の場合は他の受講者，あるいは受講者グループ（グループ構成時）と調整をしながら，ネットワーク間の接続を行う。複数ルーターの接続時に必要となる（ルーター間で共有すべき）情報が何かについても検討する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」に基づいて，ネットワークと通信サービスの設計を行う。	2.0
20	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」に基づいて，ネットワークと通信サービスの設計を行う（前回時事後学習から継続）	2.0
	授業	改めてネットワークの設計と通信サービスの設計を行う。（機材等の制約下で可能な限りプロジェクト 1，2 と異なる設計を検討する。）	
	事後学修	プロジェクト 1，2 に基づいて，必要な設定情報について検討する。	2.0
21	事前学修	検討した設定情報に基づいて，今回の作業手順を考え，手順書としてまとめる。	2.0
	授業	全ての（グループ構成時は自分の担当範囲の）ネットワーク機器，OS 等の設定を行う。	
	事後学修	事前に検討した作業手順についてプロジェクト 1，2 に比べて効率的だったか，より効率的に作業する方法はないか検討する。	2.0
22	事前学修	ある（グループ構成時は自分の担当する）ネットワークと他の（実機の場合他の人の，グループ構成時は自分の担当する）ネットワークを接続する際に必要となる情報は何かを考えておく。	2.0
	授業	複数のルーター（実機では他の受講者との，グループ構成時は他の受講者グループとの）間は設定書を取り交わすのみで，通信が提供できるように，設定書のための情報をまとめる。	
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。LMS に提示される宿題に取り組む。	2.0
23	事前学修	LMS に掲載する第 23 回資料「ルーティングプロトコル」を読む。	2.0
	授業	前回考察した情報に基づいて，（実機時は他の受講者の，グループ構成時は他の受講者グループの）作成したネットワークとの接続に必要な設定情報をドキュメントとしてまとめ情報交換をする。 ルーティングプロトコルの採用について，接続相手と相談を開始する。（次回に決定する）	

	事後学修	LMS に掲載する第 23 回資料「ルーティングプロトコル」について復習する。接続相手との相談に基づいて採用すべきルーティングプロトコルを検討する。	2.0
24	事前学修	採用を希望するルーティングプロトコルを使用する際に必要となる情報を整理しておく。（この時点ではまだ接続相手との交渉中という想定）	2.0
	授業	接続相手との相談で，採用するルーティングプロトコルを決定し，共有すべき情報を確認する。	
	事後学修	採用が決まったプロトコルについて，なるべく詳細に学習する。	2.0
25	事前学修	ルーティングプロトコルをネットワーク機器に（可能なら OS にも）導入する際の作業手順を検討しておく。	2.0
	授業	必要な機器にルーティングプロトコルの設定作業を行う。	
	事後学修	今回の作業について誤り，不足等が無いか確認しておく。	2.0
26	事前学修	他のネットワークとの最小限の接続確認方法を検討しておく。	2.0
	授業	他の（実機仕様時は他の受講者の，グループ構成時は他のグループの）ネットワークとの実際の接続を行い，直接接続している機器同士での通信の確認を行う。 ダイナミックルーティング採用後のルーティングテーブルの変化を確認する。	
	事後学修	第 4 回資料「ルーティングテーブル」について再度復習する。	2.0
27	事前学修	直接接続している機器以外の機器について，通信が正常に行われているかを確認する方法を検討しておく。	2.0
	授業	自分の担当するネットワークの範囲から，接続相手のネットワークに属する機器との間の通信について，事前に検討した方法により確認する。	
	事後学修	直接接続している機器以外のルーティングテーブルがどうなるか推測してみる。 通信に不具合があった場合は，その原因を考察しておく。	2.0
28	事前学修	接続相手の通信に問題が発生しないようにパケットフィルタリングの設定を再検討する。	2.0
	授業	各機器のパケットフィルタリングの再設定を行い，提供している通信サービスの全てに問題が無い状態にする。	
	事後学修	第 23 回資料「ルーティングプロトコル」について再度復習する。	2.0
29	事前学修	全受講者のネットワークを接続する状況を想定し問題なく全体で通信できるための条件について考察する。	2.0
	授業	それぞれの構築したネットワークを全て接続する場合に考えられる問題点について議論する。	
	事後学修	授業中の議論に基づいて，不足する知識があるか検討する。 LMS に掲載する「最終レポート課題」を確認する。	2.0
30	事前学修	最終レポート課題に取り組み，レポートを作成する。	2.0
	授業	レポートの下書きについてチェックを受ける，あるいは，グループを構成している場合はグループ内で，相互チェックをする。	
	事後学修	最終「レポート」を仕上げ，期限までに LMS に提出する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：100%　□演習課題：　　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに LMS 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	なし（LMS 上で，適宜提示する）
単位修得が望ましい科目	インターネットの仕組み（事実上必須），Linux 演習
備考	なし

担当教員の実務経験	なし

プロジェクトトライアルⅠ Group Information Design Project 1

担当教員	島田 英二(137 研究室), 安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC217

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	2 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	2 年	後期(後半)

授業概要

本講義では，作品（ゲーム，アプリ，プログラム，Web ページ，映像コンテンツなど）の企画, 制作, 発表までの一連の流れをチーム・プロジェクトとして完遂します。その過程の中で, 企画力, 制作スキル, チームワーク, プロジェクト管理, そして, プレゼンテーション能力を養います。

アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。
・ディスカッション
・グループワーク
・プレゼンテーション
・実習、実験、フィールドワーク
・チーム基盤学習
・プロジェクト学習
・ワークショップ

授業における学修の到達目標

企画力，制作スキル，グループワーク, チームワーク，ディスカッションスキル, プロジェクト管理，課題解決能力, そして，プレゼンテーション能力を養い，ゼミナールに向けた総合・応用的なスキルを身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス、チームを組む、前年度受講者のお話	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
2	事前学修	プロジェクトの構想をチームでディスカッションする	2.0
	授業	ワークショップ（マシュマロチャレンジ）	
	事後学修	ワークショップ内容の振り返り、まとめ	2.0
3	事前学修	プロジェクトの構想、情報収集	2.0
	授業	エントリーシート記入（１ページ目／２）、指導教員の決定	
	事後学修	プロジェクトの内容について指導教員と面談し、内容をまとめる	2.0
4	事前学修	エントリーシート記入（２ページ目／２）	2.0
	授業	エントリーシート完成、プレゼン順番の決定	
	事後学修	プロジェクトの内容・エントリーシートの内容について指導教員と面談し、内容を固める	2.0
5	事前学修	各自で先行事例、技術について調べる（個人作業）	2.0
	授業	先行事例・技術調査シート記入（チーム作業）	
	事後学修	先行事例・技術調査シートの記入を進める	2.0
6	事前学修	先行事例・技術調査についての情報収集	2.0
	授業	先行事例・技術調査（タブレット端末、実習室）、エントリーシートの記入、企画発表準備	
	事後学修	先行事例・技術調査、リストアップ	2.0

7	事前学修	発表スライド、原稿の作成	2.0
	授業	エントリーシート完成、発表スライド・原稿の作成	
	事後学修	プレゼンテーションの内容・エントリーシートの内容（最終）について指導教員と面談し、内容を固める	2.0
8	事前学修	スライドのブラッシュアップ、発表資料の印刷、発表リハーサル	2.0
	授業	初回企画プレゼンテーション（前半のグループ）	
	事後学修	各チームの発表についての情報や感想をまとめる	2.0
9	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、 発表の見方を深める	2.0
	授業	初回企画プレゼンテーション（後半のグループ））	
	事後学修	各チームの発表についての情報や感想をまとめる、レポートにまとめる	2.0
10	事前学修	プレゼンテーション振り返り（個人）、プロジェクトの軌道修正	2.0
	授業	フィードバック返却、プレゼンテーション振り返り（グループ）、	
	事後学修	プロジェクトの軌道修正について指導教員と面談し、内容を固める	2.0
11	事前学修	プロジェクト設計書記入のための情報収集	2.0
	授業	プロジェクト設計書作成、企画・発表準備	
	事後学修	プロジェクト設計書をまとめる、プロトタイプ制作等	2.0
12	事前学修	プロジェクト設計書のブラッシュアップ、プレゼンテーションの構想をまとめる	2.0
	授業	プロジェクト設計書完成、発表スライド・原稿の作成、プロトタイプの完成	
	事後学修	プレゼンテーションの内容について指導教員と面談し、内容を固める	2.0
13	事前学修	スライドのブラッシュアップ、発表資料の印刷、発表リハーサル	2.0
	授業	最終企画プレゼンテーション（後半のグループ）	
	事後学修	各チームの発表についての情報や感想をまとめる	2.0
14	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、発表資料の印刷、発表リハーサル、発表の見方を深める	2.0
	授業	最終企画プレゼンテーション（後半のグループ）	
	事後学修	各チームの発表についての情報や感想をまとめる、最終企画プレゼンテーションで学んだこと・今後の計画についてレポートにまとめる	2.0
15	事前学修	ケーススタディの資料を熟読する、情報をまとめる	2.0
	授業	フィードバック返却、プレゼンテーション振り返り、ケーススタディ	
	事後学修	プロジェクト設計書の修正、作品制作についてのスケジューリング	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：10 %　■演習課題： 90%
□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビュー、発表、チームミーティングの中でコメントします。プレゼンテーションについて他受講生、指導教員からのフィードバックシートを返却します。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。

単位修得が望ましい科目	発想法演習
備考	本科目で各グループが企画制作したプロジェクト内容は、応用科目「プロジェクトトライアルⅡ」に引き継ぎます。
担当教員の実務経験	主担当教員は二名。一名は現役の映像ディレクターとして商業映像制作, 映画製作に 2000 年より携わっており映像制作分野において豊富な実務経験を有している。もう一名は 1994 年から Web 制作会社，IT コンサルティングファームでの実務経験があり、プロジェクトマネジメントの専門家でもある。これら主担当教員二名が実務経験で得た知識，技術，ツールを学生に教える。

プロジェクトトライアルⅡ Group Information Design Project 2

担当教員	島田 英二(137 研究室), 安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC305

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期(前半)

授業概要

本講義では，作品（ゲーム，アプリ，プログラム，Web ページ，映像コンテンツなど）の企画, 制作, 発表までの一連の流れをチーム・プロジェクトとして完遂します。その過程の中で, 企画力, 制作スキル, チームワーク, プロジェクト管理, そして, プレゼンテーション能力を養います。

プロジェクトトライアルⅠで開発した企画の制作、発表、および展示会を行いますので、プロジェクトトライアルⅠの受講を前提として講義を行います。

アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。
・ディスカッション
・グループワーク
・プレゼンテーション
・実習、実験、フィールドワーク
・チーム基盤学習
・プロジェクト学習
・ワークショップ

授業における学修の到達目標

企画力，制作スキル，グループワーク, チームワーク，ディスカッションスキル, プロジェクト管理能力，課題解決能力, プレゼンテーション能力、ドキュメント作成能力，設計力，計画力，コミュニケーション能力などを養い，総合・応用的なスキルを身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する、プロジェクト設計書の確認	2.0
	授業	後期ガイダンス、進捗確認、目標設定シート	
	事後学修	目標設定シートの記入、プロジェクト設計書のアップデート、指導教員とのミーティング	2.0
2	事前学修	プロジェクトの目標をチームでディスカッションする	2.0
	授業	作品制作、目標設定シート提出、グループディスカッション	
	事後学修	プロジェクトの目標の確認、役割分担	2.0
3	事前学修	展示リサーチ、展示のイメージを深める	2.0
	授業	作品制作、展示リサーチ、グループディスカッション	
	事後学修	展示イメージをまとめる	2.0
4	事前学修	既存作品のリサーチ、技術リサーチ	2.0
	授業	作品制作	
	事後学修	作業を進める	2.0
5	事前学修	制作の準備、設計の制度を高める	2.0
	授業	作品制作、後期プレゼン順決め、展示会のレイアウト決め	
	事後学修	作業を進める、フィールドワーク	2.0

6	事前学修	スライド制作、イメージスケッチ、必要備品のリストアップ	2.0
	授業	展示リサーチ発表	
	事後学修	展示のイメージをまとめる	2.0
7	事前学修	発表の構想をねる、スライド制作、デザイン	2.0
	授業	作品制作、最終プレゼンテーション準備、グループディスカッション	
	事後学修	スライド制作、発表素材の制作、指導教員とのミーティング、パネルデザイン	2.0
8	事前学修	発表案のブラッシュアップ、プレゼン構成をまとめる	2.0
	授業	作品制作、最終プレゼンテーション準備、グループディスカッション	
	事後学修	スライド制作、発表素材の制作、指導教員とのミーティング、パネル印刷	2.0
9	事前学修	スライドの準備、発表リハーサル、配布資料の作成、指導教員とのミーティング	2.0
	授業	最終プレゼンテーション（前半のグループ）	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り、レポート作成	2.0
10	事前学修	スライドの準備、発表リハーサル、配布資料の作成、指導教員とのミーティング	2.0
	授業	最終プレゼンテーション（後半のグループ）	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り、レポート作成	2.0
11	事前学修	展示会に向けてのイメージング、リサーチ、デザイン	2.0
	授業	発表の振り返り、フィードバック、 展示会準備・作品修正	
	事後学修	展示会の準備、作品のブラッシュアップ、仕上げ	2.0
12	事前学修	展示会の準備、作品のブラッシュアップ、仕上げ	2.0
	授業	展示会準備・作品修正	
	事後学修	展示準備、パネル完成、設置・搬入	2.0
13	事前学修	展示準備、展示制作、発表原稿の準備、搬入	2.0
	授業	学内展示会（前半のグループ）	
	事後学修	展示の振り返り、各チームの発表についての情報や感想をまとめる、展示会で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
14	事前学修	展示準備、展示制作、発表原稿の準備、搬入	2.0
	授業	学内展示会（後半のグループ）	
	事後学修	展示の振り返り、各チームの発表についての情報や感想をまとめる、展示会で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
15	事前学修	成果物のブラッシュアップ、評価、成果物の提出	2.0
	授業	表彰式、講義の振り返り、講評	
	事後学修	最終レポート作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　％　□小テスト：　　％　■レポート：10％　■演習課題： 90%
□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビュー、発表、チームミーティングの中でコメントします。プレゼンテーションについて他受講生、指導教員からのフィードバックシートを返却します。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ指示します。
単位修得が望ましい科目	プロジェクトトライアル I
備考	プロジェクトトライアル I で開発した企画の制作、発表、および展示会を行いますので、プロジェクトトライアル I の受講を前提として講義を行います。
担当教員の実務経験	主担当教員は二名。一名は現役の映像ディレクターとして商業映像制作, 映画製作に 2000 年より携わっており映像制作分野において豊富な実務経験を有している。もう一名は 1994 年から Web 制作会社，IT コンサルティングファームでの実務経験があり、プロジェクトマネジメントの専門家でもある。これら主担当教員二名が実務経験で得た知識，技術，ツールを学生に教える。

地域貢献プロジェクト Community Service Project

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC312

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	夏期集中

授業概要

プロジェクト・トライアルⅠ・Ⅱで培ってきた専門的知識や技術などの個人的なスキルとチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを用い「企画調査すること」・「設計すること」・「制作すること」・「運用してみること」に着目して，地域の課題に取り組む高度なプロジェクトに取り組みます。

プロジェクトには，それぞれ担当教員が必要です。解決したい課題（制作する作品等）に合わせて，指導してもらえる教員（ゼミ担当教員等）を探して，科目担当者に報告してください。指導教員が見つからない場合等は，科目担当教員に相談に来てください。

授業における学修の到達目標

・地域の課題解決をテーマにした PBL（Project Based Learning）による実践的な教育を体験する。
・地域の課題を，フィールドワークを通して，自分自身で調査し把握する。
・地域の課題に対するソリューションを，プロジェクトメンバーや地域の方々とのディスカッションを通して導出する。
・導き出したソリューションが，地域の方々にとって，有用であったのかどうかを，地域の方々へのヒアリングやアンケート等を通して評価をする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	対象としたい地域を絞り込んでおく	2.0
	授業	地域を調査し，課題を把握する（文献調査） 調査する地域別にプロジェクト（グループ）を構成する	
	事後学修	調査した内容をまとめておく	2.0
2	事前学修	どのような日程で調査を行うのかを決めておく	2.0
	授業	地域を調査し，課題を把握する（フィールドワーク）	
	事後学修	調査した内容をまとめておく	2.0
3	事前学修	調査した内容を振り返っておく	2.0
	授業	調査結果から課題を抽出する	
	事後学修	抽出した課題を振り返っておく	2.0
4	事前学修	課題に対するソリューションの案を考えておく	2.0
	授業	課題に対するソリューションを検討する	
	事後学修	ソリューションが地域の課題に対して適切かどうかを再検討しておく	2.0
5	事前学修	企画書を作成し始める	2.0
	授業	地域の課題に対するソリューションの内容を企画書としてまとめる	
	事後学修	企画書についてプロジェクト内外からコメントを収集する	2.0
6	事前学修	企画の内容を再検討しておく	2.0
	授業	ディスカッションを通した企画（制作内容）の洗練化を行う	
	事後学修	企画書をブラッシュアップ（更新）する	2.0
7	事前学修	制作（ポスターデザイン等）の準備をすすめる	2.0

	授業	制作（ポスターデザイン等）	
	事後学修	引き続き制作（ポスターデザイン等）を続ける	2.0
8	事前学修	制作（Web・アプリ等）の準備をすすめる	2.0
	授業	制作（Web・アプリ等）	
	事後学修	引き続き制作（ポスターデザイン等）を続ける	2.0
9	事前学修	制作（映像・ゲーム等）の準備をすすめる	2.0
	授業	制作（映像・ゲーム等）	
	事後学修	引き続き制作（映像・ゲーム等）を続ける	2.0
10	事前学修	中間報告の準備をしておく	2.0
	授業	中間報告書の作成と提出	
	事後学修	中間報告書へのコメントを参考に，企画やプロトタイプの改善を行う	2.0
11	事前学修	プロトタイプをブラッシュアップする	2.0
	授業	プロトタイプ中間評価	
	事後学修	プロトタイプの中間評価で得られたコメントを参考に，プロトタイプの改善を行う	2.0
12	事前学修	引き続き，プロトタイプの改善を行う	2.0
	授業	追調査・プロトタイプの修正	
	事後学修	最終報告に向けて，プロトタイプの完成度を高める	2.0
13	事前学修	最終の成果報告書を作成し始める	2.0
	授業	成果報告書作成	
	事後学修	成果報告書作成の作業を続ける	2.0
14	事前学修	成果報告書を完成させる	2.0
	授業	成果報告書の提出	
	事後学修	報告書へのコメントをまとめておく	2.0
15	事前学修	これまでのプロジェクト活動を振り返っておく	2.0
	授業	振り返り	
	事後学修	自分たちが提示したソリューション（作品を含む）が地域の課題の解決につながっているのかを振り返る	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■レポート：３０％　■演習課題：７０％　■その他[プロジェクト活動に対する積極性や貢献度を評価する]
グループワークについては，グループ内での行動について
　　自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を通じた情報提供・情報共有・課題に対するフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	とくになし
単位修得が望ましい科目	各所属コースのプロジェクト科目（Web 制作プロジェクト等）
備考	プロジェクトには，それぞれ担当教員が必要です。解決したい課題（制作する作品等）に合わせて，指導してもらえる教員（ゼミ担当教員等）を探して，科目担当者に報告してください。指導教員が見つからない場合等は，科目担当教員に相談に来てください。
担当教員の実務経験	Web ディレクター，グラフィックデザイナー，映像クリエイター，プログラマー，エンジニア、プランナーなどの背景を持つ教員が，各自の実務経験を生かしてプロジェクト活動を

	指導します。

ステップアッププロジェクトⅡ Step-up Project 2

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC318

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	冬期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	冬期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	冬期集中

授業概要

プロジェクト・トライアルⅠ・Ⅱで培ってきた専門的知識や技術などの個人的なスキルとチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを用いて，「企画調査すること」・「設計すること」・「制作すること」・「運用してみること」に着目して，より高度なプロジェクトに取り組みます。

授業における学修の到達目標

学内外の課題に対応したプロジェクトを通じて，クリティカルシンキング，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力，プロジェクト管理能力などを身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	なし	0.0
	授業	ガイダンス・グループ作成	
	事後学修	なし	0.0
2	事前学修	課題について，現状の問題点や先行事例を調べてくる。	5.0
	授業	事前学習で準備してきた現状の問題点や先行事例について，グループ内で共有し，アイディア出しを行う	
	事後学修	グループ内で共有した情報を基に，問題点や先行事例の掘り下げを行い，誰に，どのような解決策を提案するか考える。	3.0
3	事前学修	企画立案及び企画書の作成方法について，POLITE の教材で復習する。	1.0
	授業	各自の提案を共有し，グループとしての解決策の提案のアイディア出しを行う（企画案のブレスト）。	
	事後学修	話し合った提案に関して参考となる事例や類似例がないか調べるとともに，必要な要件が何かを調べる。	2.0
4	事前学修	工程管理の方法について，POLITE の教材で事前学修する。自分の持つスキルに関するプレゼンの準備を行う。	2.0
	授業	メンバーのスキルプレゼンと提案をより具体的なものにするためのディスカッションを行い，役割分担を行う。	
	事後学修	与えられた役割と作業に必要な要件について確認し，自らの作業計画を立てる。	2.0
5	事前学修	自らの作業に関連する事例を調査する。	2.0
	授業	作業工程を確認し，無理がないかどうかを議論し，問題がみつかれば解決策を練る。合わせて，プロジェクトの内容に関連する新たな情報を共有する。	
	事後学修	与えられた役割について必要な知識を整理し、技術的課題を考える。	2.0
6	事前学修	実現可能性について検討する（できること・できないことを明確化する）。	2.0
	授業	事前学修の結果をグループ内で共有する。試作の方法を検討する。	
	事後学修	試作の問題点をまとめる。	2.0
7	事前学修	試作：各自担当部分について	2.0

	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し，改善策を考える	
	事後学修	改善策を考慮して，試作を続ける。	4.0
8	事前学修	なし	0.0
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し，確認する。	
	事後学修	グループ内でのディスカッションを基に，試作を改良する。	4.0
9	事前学修	プレゼンに向けた制作物の作業準備を行う。	1.0
	授業	プレゼンに向けた制作に取り組む。進捗状況や問題点を共有する。	
	事後学修	グループ内の指摘事項を考慮して，制作を進める。	6.0
10	事前学修	なし	0.0
	授業	個別の進捗状況等を確認し，必要に応じてスケジュールを調整する。引き続き制作に取り組む。	
	事後学修	各自の作業を完了する。	6.0
11	事前学修	なし	0.0
	授業	成果物を完成させる。成果物の利点・欠点などを分析・考察する。	
	事後学修	分析結果を基に，今後の展望を考えまとめる。	1.0
12	事前学修	プレゼンテーションの方法について，POLITE の教材で復習する。	3.0
	授業	プレゼン資料の作成	
	事後学修	プレゼン資料の完成	2.0
13	事前学修	発表準備と練習（前半チーム）	4.0
	授業	成果発表会（前半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ，必要に応じて対応策を検討する（前半チーム）。	2.0
14	事前学修	発表準備と練習（後半チーム）	4.0
	授業	成果発表会（後半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ，必要に応じて対応策を検討する（後半チーム）。	2.0
15	事前学修	なし	0.0
	授業	フィードバックを基に，学外コンテスト等への参加を計画する。チーム内のピアレビューを行う。	
	事後学修	プロジェクトの振り返りレポートを作成する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：% □小テスト：% ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：10%，発表：30%，成果物：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

随時，フィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	プロジェクトトライアル I，プロジェクトトライアル II
備考	本科目は，通常の履修と異なり，ゼミ担当教員などプロジェクト指導教員から履修の指示があったもののみが履修登録できます。
担当教員の実務経験	Web ディレクター，グラフィックデザイナー，映像クリエイター，プログラマーなどの背景を持つ教員が，各自の実務経験を生かしてプロジェクト活動を指導します。

ステップアッププロジェクトⅢ Step-up Project 3

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC404

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	4 年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	4 年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	4 年	夏期集中

授業概要

プロジェクト・トライアルⅠ・ⅡやステップアッププロジェクトⅡで培ってきた専門的知識や技術などの個人的なスキルとチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを用いて，「企画調査すること」・「設計すること」・「制作すること」・「運用してみること」に着目して，より高度なプロジェクトに取り組みます。

本科目は，PBL（Project Based Learning）として，実践的なプロジェクトを実施します。プロジェクトには，それぞれ担当教員が必要です。解決したい課題（制作する作品等）に合わせて，指導してもらえる教員（ゼミ担当教員等）を探して，科目担当者に報告してください。指導教員が見つからない場合等は，科目担当教員に相談に来てください。

授業における学修の到達目標

学内外の課題に対応したプロジェクトを通じて，クリティカルシンキング，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力，プロジェクト管理能力などを身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	過去の PBL の事例などを調査し，プロジェクトのイメージをもっておく。	2
	授業	ガイダンス・グループ作成	
	事後学修	授業内容を振り返り，取り組みたい課題のイメージを明確にしておく。	2
2	事前学修	課題について，現状の問題点や先行事例を調べてくる。	5
	授業	事前学習で準備してきた現状の問題点や先行事例について，グループ内で共有し，アイディア出しを行う	
	事後学修	グループ内で共有した情報を基に，問題点や先行事例の掘り下げを行い，誰に，どのような解決策を提案するか考える。	3
3	事前学修	企画立案及び企画書の作成方法について，POLITE の教材で復習する。	1
	授業	各自の提案を共有し，グループとしての解決策の提案のアイディア出しを行う（企画案のブレスト）。	
	事後学修	話し合った提案に関して参考となる事例や類似例がないか調べるとともに，必要な要件が何かを調べる。	2
4	事前学修	工程管理の方法について，POLITE の教材で事前学修する。自分の持つスキルに関するプレゼンの準備を行う。	2
	授業	メンバーのスキルプレゼンと提案をより具体的なものにするためのディスカッションを行い，役割分担を行う。	
	事後学修	与えられた役割と作業に必要な要件について確認し，自らの作業計画を立てる。	2
5	事前学修	自らの作業に関連する事例を調査する。	2
	授業	作業工程を確認し，無理がないかどうかを議論し，問題がみつかれば解決策を練る。合わせて，プロジェクトの内容に関連する新たな情報を共有する。	
	事後学修	与えられた役割について必要な知識を整理し、技術的課題を考える。	2
6	事前学修	実現可能性について検討する（できること・できないことを明確化する）。	2

	授業	事前学修の結果をグループ内で共有する。試作の方法を検討する。	
	事後学修	試作の問題点をまとめる。	2
7	事前学修	試作：各自担当部分について	2
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し，改善策を考える	
	事後学修	改善策を考慮して，試作を続ける。	4
8	事前学修	これまでの活動を振り返り，個人での意見をまとめておく。	2
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し，確認する。	
	事後学修	グループ内でのディスカッションを基に，試作を改良する。	4
9	事前学修	プレゼンに向けた制作物の作業準備を行う。	1
	授業	プレゼンに向けた制作に取り組む。進捗状況や問題点を共有する。	
	事後学修	グループ内の指摘事項を考慮して，制作を進める。	6
10	事前学修	なし	0
	授業	個別の進捗状況等を確認し，必要に応じてスケジュールを調整する。引き続き制作に取り組む。	
	事後学修	各自の作業を完了する。	6
11	事前学修	なし	0
	授業	成果物を完成させる。成果物の利点・欠点などを分析・考察する。	
	事後学修	分析結果を基に，今後の展望を考えまとめる。	1
12	事前学修	プレゼンテーションの方法について，POLITE の教材で復習する。	3
	授業	プレゼン資料の作成	
	事後学修	プレゼン資料の完成	2
13	事前学修	発表準備と練習（前半チーム）	4
	授業	成果発表会（前半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ，必要に応じて対応策を検討する（前半チーム）。	2
14	事前学修	発表準備と練習（後半チーム）	4
	授業	成果発表会（後半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ，必要に応じて対応策を検討する（後半チーム）。	2
15	事前学修	なし	0
	授業	フィードバックを基に，学外コンテスト等への参加を計画する。チーム内のピアレビューを行う。	
	事後学修	プロジェクトの振り返りレポートを作成する。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：% □小テスト：% ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：10%，発表：30%，成果物：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

随時，フィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	プロジェクトトライアル I，プロジェクトトライアル II

備考	本科目は，通常の履修と異なり，ゼミ担当教員などプロジェクト指導教員から履修の指示があった者のみが履修登録できます。
担当教員の実務経験	Web ディレクター，グラフィックデザイナー，映像クリエイター，プログラマー，エンジニア、プランナーなどの背景を持つ教員が，各自の実務経験を生かしてプロジェクト活動を指導します。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

○テーマ

・　情報可視化の技術を通して「データと人、人と人、データとデータとをつなぐ」

・　いつでもどこでも何に対してでも可視化する

○概要

ビッグデータの時代に、情報メディア技術として求められるものは何であろう？その一つである、情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組んでもらいます。

（1）　データ可視化・分析：様々なデータを使った、インタラクティブな視覚的情報分析・伝達手法を身に着けることを目指します。グループディスカッションなどを通して課題解決に取り組みます。データとしては、時空間・時系列データ、地理情報データ、ネットワークデータ、スポーツデータ、写真、映画、音楽に関するデータなど様々なものを取り扱います。

（2）　新たなデバイス用いた情報可視化：AR/VR デバイスなど新しいデバイスを用いた情報可視化手法を提案し開発に取り組みます。

（3）　デジタルアーカイブと可視化：ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築していきます。

本格的な開発には Python、C#、JavaScript、Java などを用いますが、初めからすべてを知っている必要はありません。

授業における学修の到達目標

（1）　知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とします。スキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に着けてもらいます。

（2）　自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とします。

（3）　積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	身につけたい技術、やりたいことを考える	2
	授業	ガイダンス、情報共有環境の設定	
	事後学修	情報共有環境を確認する	2
2	事前学修	自己紹介プレゼン準備	2
	授業	自己紹介プレゼン	
	事後学修	自己紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
3	事前学修	Python について基本情報を調べておく	2
	授業	データ前処理基礎演習 1（環境と文法）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
4	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	データ前処理基礎演習 2（データ処理）	

	事後学修	演習と課題を提出する	2
5	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	データ前処理応用演習１（データ分析）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
6	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	データ前処理応用演習２（データ収集）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
7	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・多変量データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
8	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・時間データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
9	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・地理情報データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
10	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・ネットワーク・階層データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
11	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・インタラクション手法（基礎）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
12	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・インタラクション手法（応用）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
13	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化課題制作演習	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
14	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	聴講レポートを提出する	2
15	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化課題制作演習発表会	
	事後学修	発表会の結果を反映したレポートを提出する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■その他[課題・レポート(40%)，プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度およびゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について，口頭あるいはオンラインで行う。

教科書	

参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習 I、プログラミング演習 II
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Python、Unity＋C#、 JavaScript、あるいは Processing＋Java を用いた開発が必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要となる知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

○テーマ

・　情報可視化の技術を通して「データと人、人と人、データとデータとをつなぐ」

・　いつでもどこでも何に対してでも可視化する

○概要

ビッグデータの時代に、情報メディア技術として求められるものは何であろう？その一つである、情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組んでもらいます。

（1）　データ可視化・分析：様々なデータを使った、インタラクティブな視覚的情報分析・伝達手法を身に着けることを目指します。グループディスカッションなどを通して課題解決に取り組みます。データとしては、時空間・時系列データ、地理情報データ、ネットワークデータ、スポーツデータ、写真、映画、音楽に関するデータなど様々なものを取り扱います。

（2）　新たなデバイス用いた情報可視化：AR/VR デバイスなど新しいデバイスを用いた情報可視化手法を提案し開発に取り組みます。

（3）　デジタルアーカイブと可視化：ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築していきます。

本格的な開発には Python、C#、JavaScript、Java などを用いますが、初めからすべてを知っている必要はありません。

授業における学修の到達目標

（1）　知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とします。スキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に着けてもらいます。

（2）　自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とします。

（3）　積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	プレゼンテーションに関する参考資料の予習	2
	授業	プレゼンテーション講習	
	事後学修	プレゼンテーション講習資料の復習	2
2	事前学修	論文サーベイに関する参考資料の予習	2
	授業	論文サーベイ講習	
	事後学修	論文サーベイ講習資料の復習	2
3	事前学修	前週までの内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Unity をつかった UI	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
4	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Unity をつかった可視化	

	事後学修	演習と課題を提出する	2
5	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Unity をつかった AR／VR	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
6	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Processing 入門	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
7	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Processing による画像処理	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
8	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Processing による可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
9	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2
	授業	技術紹介プレゼン（情報可視化）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2
10	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2
	授業	技術紹介プレゼン（ユーザインタフェース）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2
11	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2
	授業	技術紹介プレゼン（データ工学）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2
12	事前学修	文章執筆環境設定	2
	授業	技術文章の書き方演習	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
13	事前学修	卒研の企画について検討する	2
	授業	卒研企画検討	
	事後学修	検討内容をレポートにまとめる	2
14	事前学修	卒研企画書プレゼンの準備	2
	授業	卒研企画書プレゼン	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2
15	事前学修	卒研発表会のプログラム確認	2
	授業	卒業研究発表会の聴講	
	事後学修	聴講内容をレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■その他[課題・レポート(40%)，プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度およびゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について，口頭あるいはオンラインで行う。

教科書	

参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習 I、プログラミング演習 II
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Unity＋C#、Python、 JavaScript、あるいは Tableau を用いた開発が必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要となる知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	伊藤 正彦(325研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

○テーマ

(1) 情報可視化に関する研究開発

(2) ユーザインタフェースに関する研究開発

(3) データ工学に関する研究開発

○概要

情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組む。可視化技術、AR/VRなどを用いた新しいユーザインタフェース技術の研究開発を行う。また、ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築する。最終的な研究成果は論文としてまとめ発表する。

授業における学修の到達目標

(1) 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とするスキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に着ける。

(2) 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とする。

(3) 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とする。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナールⅡの全体の内容を把握する	2
	授業	ゼミナールⅡの概要	
	事後学修	ゼミナールⅡの全体の内容について整理する	2
2	事前学修	プレゼンテーションの復習として「自己紹介のスライド」を作成	2
	授業	プレゼンテーションの復習	
	事後学修	発表の良かった点・改善できそうな点をまとめる	2
3	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる	2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（情報可視化）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
4	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる	2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（ユーザインタフェース）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
5	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる	2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
6	事前学修	卒研テーマの目的の設定について報告資料をまとめる	2
	授業	卒研テーマの目的の設定	

	事後学修	卒研テーマの目的の設定についてレポートにまとめる	2
7	事前学修	システム概要を発表の前までにまとめる	2
	授業	実装するシステムの概要（情報可視化、ユーザインタフェース）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
8	事前学修	システム概要について発表の前までにまとめる	2
	授業	実装するシステムの概要（情報可視化、データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
9	事前学修	実装内容について発表の前までにまとめる	2
	授業	プロトタイプ実装の進捗（情報可視化、ユーザインタフェース）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
10	事前学修	実装内容について発表の前までにまとめる	2
	授業	プロトタイプ実装の進捗（情報可視化、データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
11	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	企画発表会での発表資料を作成する	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（１回目）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
13	事前学修	企画発表会での発表資料を作成する	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（２回目）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
14	事前学修	企画発表会での発表について準備する	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関して報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
16	事前学修	文章の書き方に関する資料を復習する	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備の仕方	
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方について復習する	2
17	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめる	2
	授業	実験・評価方法（情報可視化、ユーザインタフェース）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
18	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめる	2
	授業	実験・評価方法（情報可視化、データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
19	事前学修	実験・評価の進捗資料をまとめる	2
	授業	評価実験の進捗（情報可視化、ユーザインタフェース）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2

20	事前学修	実験・評価の進捗資料をまとめる	2
	授業	評価実験の進捗（情報可視化、データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
21	事前学修	プロトタイプ追加機能について資料をまとめる	2
	授業	評価実験に基づいたプロトタイプ追加機能の検討	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
22	事前学修	プロトタイプ追加機能の実装報告資料をまとめる	2
	授業	評価実験に基づいたプロトタイプ追加機能の実装報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
23	事前学修	卒業論文の目次構成構想をまとめる	2
	授業	卒業論文の構成の議論	
	事後学修	議論内容を基に，目次を完成させ，小論執筆を開始	2
24	事前学修	小論の見直し	2
	授業	小論の相互チェック（１回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
25	事前学修	小論の見直し	2
	授業	小論の相互チェック（２回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
26	事前学修	卒研発表会の成果物の準備をする	2
	授業	卒研発表会の成果物の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
27	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
28	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（１回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
29	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（２回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
30	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（３回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%)，プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度およびゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について，口頭あるいはオンラインで行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する。

単位修得が望ましい科目	プログラミング演習 I、プログラミング演習 II
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Unity＋C#、Python、 JavaScript、Tableau を用いた開発を前提とするが、個別に指導する予定である。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要となる知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

テーマ：短編映像作品又は，映像を用いたコンテンツの企画・制作
映像系の基礎科目などで培った知識、技術を活かし映像系の小作品の制作に取り組む。
上映・放映型の映像作品やアニメーション作品，展示型の映像作品やメディアアート，ミュージックライブやパフォーミングアートでの映像系演出などについて，各々の企画に照らし合わせてリサーチし作品化への理解を深める。

授業における学修の到達目標

オリジナルの小作品を制作する。多様な映像表現の発表機会や形態について理解する。各々の作品制作における技法上の課題点や表現性を見出す。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ	2.0
	授業	作品のコンセプト設計	
	事後学修	リサーチ	2.0
2	事前学修	プロポーザル発表準備	2.0
	授業	プロポーザル発表　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
3	事前学修	作品形態と発表方法についてのリサーチ	2.0
	授業	作品形態と発表方法の検討・リサーチ	
	事後学修	作品形態と発表方法の見直し，修正など	2.0
4	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備	2.0
	授業	イメージボード・プレビズ	
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し，修正	2.0
5	事前学修	企画発表準備	2.0
	授業	企画発表　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
6	事前学修	素材制作のためのリサーチ	2.0
	授業	素材制作	
	事後学修	制作作業	2.0
7	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
8	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0

9	事前学修	進捗報告の準備	2.0
	授業	進捗報告　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
10	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
11	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
12	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
13	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
14	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
15	事前学修	作品発表準備	2.0
	授業	作品発表　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0

成績評価の方法およびその基準

□■試験：　　%　□■小テスト：　　%　□■レポート：　%　□■演習課題：100%　□■その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら，個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，ビジュアルエフェクト演習，映像制作プロジェクト
備考	特にない。
担当教員の実務経験	様々な映像表現技法を駆使したコンテンツ制作の経験が豊富であり，アニメーション表現，映像表現について研究している。映像メディアを用いた応用的な表現手段について幅広く指導できる。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

テーマ：映像作品又は，映像を用いたコンテンツの企画・制作及び，発表
ゼミナールⅠでの小作品の制作経験をもとに，発表・発信を目的とする作品の企画・制作に取り組む。作品制作における手法及び，発表形態（上映・展示・ライブなど）についての課題を設け，制作過程での実験的な技法研究を通じて、各々の表現手段の確立を目指す。

授業における学修の到達目標

オリジナルの作品を制作し，発表する。自身の表現手段の確立及び，発表形態を実現する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ	2.0
	授業	作品のコンセプト設計	
	事後学修	発表形態のリサーチ	2.0
2	事前学修	企画発表準備	2.0
	授業	企画発表　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
3	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備	2.0
	授業	イメージボード・プレビズ	
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し，修正	2.0
4	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
5	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
6	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
7	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
8	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
9	事前学修	進捗報告の準備	2.0

	授業	進捗報告　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
10	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
11	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
12	事前学修	作品プレゼンテーション準備	2.0
	授業	作品プレゼンテーション　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
13	事前学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
	授業	発表準備（上映・展示・ライブなど）	
	事後学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
14	事前学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
	授業	発表準備（上映・展示・ライブなど）	
	事後学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
15	事前学修	作品発表準備	2.0
	授業	作品発表　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0

成績評価の方法およびその基準

□■試験：　　%　□■小テスト：　　%　□■レポート：　%　□■演習課題：100%　□■その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら，個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，ビジュアルエフェクト演習，映像制作プロジェクト
備考	特にない。
担当教員の実務経験	様々な映像表現技法を駆使したコンテンツ制作の経験が豊富であり，アニメーション表現，映像表現について研究している。映像メディアを用いた応用的な表現手段について幅広く指導できる。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	大島 慶太郎(320研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

テーマ：独創的な映像表現又は、視覚的表現の創出
映像表現の世界の理解を深め独自の創作手段を見出した上で，オリジナルコンテンツの企画・制作・発表に取り組む。制作過程における各々の調査，技法的研究や実験などの表現行為における試行錯誤を通じて，現代の映像表現とその可能性についての独自に考察し，探求を深める。

授業における学修の到達目標

映像表現又は，視覚的表現手段における独自の表現手法を見出す。自分自身の興味・関心や課題を掘り下げ，調査・研究から企画・制作・発表に至るプロセスを段階的に実行する能力を体得する。自作を他者へと伝えるためのプロモーション能力をつける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	研究テーマについてのリサーチ	2.0
	授業	ゼミ研究のコンセプト設計	
	事後学修	リサーチ	2.0
2	事前学修	プロポーザル発表準備	2.0
	授業	プロポーザル　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
3	事前学修	表現方法のためのリサーチ	2.0
	授業	表現方法の検討・リサーチ	
	事後学修	表現方法の見直し，修正	2.0
4	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備	2.0
	授業	イメージボード・プレビズ	
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し，修正	2.0
5	事前学修	制作作業	2.0
	授業	フィードバック　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
6	事前学修	企画発表準備	2.0
	授業	企画発表　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
7	事前学修	企画発表準備	2.0
	授業	企画発表　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
8	事前学修	素材制作のためのリサーチ	2.0

	授業	素材制作	
	事後学修	制作作業	2.0
9	事前学修	制作作業	2.0
	授業	素材制作	
	事後学修	制作作業	2.0
10	事前学修	制作作業	2.0
	授業	素材制作	
	事後学修	制作作業	2.0
11	事前学修	進捗報告の準備	2.0
	授業	進捗報告　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
12	事前学修	進捗報告の準備	2.0
	授業	進捗報告　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
13	事前学修	制作作業	2.0
	授業	撮影・コンポジット作業など	
	事後学修	制作作業	2.0
14	事前学修	制作作業	2.0
	授業	撮影・コンポジット作業など	
	事後学修	制作作業	2.0
15	事前学修	進捗報告の準備	2.0
	授業	進捗報告　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
16	事前学修	制作作業	2.0
	授業	編集・MA など	
	事後学修	制作作業	2.0
17	事前学修	制作作業	2.0
	授業	編集・MA など	
	事後学修	制作作業	2.0
18	事前学修	進捗報告の準備	2.0
	授業	進捗報告　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
19	事前学修	進捗報告の準備	2.0
	授業	進捗報告　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
20	事前学修	制作作業	2.0
	授業	仕上げ作業	
	事後学修	制作作業	2.0
21	事前学修	制作作業	2.0
	授業	仕上げ作業	

	事後学修	制作作業	2.0
22	事前学修	作品プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	作品プレゼンテーション　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
23	事前学修	作品プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	作品プレゼンテーション　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
24	事前学修	作品解説のための準備	2.0
	授業	作品解説書の執筆	
	事後学修	解説書執筆作業	2.0
25	事前学修	解説書執筆作業	2.0
	授業	作品解説書の執筆	
	事後学修	解説書執筆作業	2.0
26	事前学修	作品解説プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	作品解説プレゼンテーション　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
27	事前学修	作品解説プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	作品解説プレゼンテーション　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
28	事前学修	解説書執筆作業	2.0
	授業	フィードバック　意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
29	事前学修	解説書執筆作業	2.0
	授業	作品解説書の修正	
	事後学修	解説書執筆作業	2.0
30	事前学修	解説書執筆作業	2.0
	授業	作品解説書の提出	
	事後学修	作品及び，解説書のまとめ	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%

□その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら，個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，ビジュアルエフェクト演習，映像制作プロジェクト
備考	レポート課題として，学外の上映企画や展覧会等の鑑賞を指定する場合がある。
担当教員の実務経験	様々な映像表現技法を駆使したコンテンツ制作の経験が豊富で，アニメーション表現，映像表現について研究している。映像メディアを用いた応用的な表現手段について幅広く指導で

	きる。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	柿並 義宏(313研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

ゼミナールⅠで学んだことを基に各自のアイデアで生活に役立つIoT機器，災害を検知するIoT機器，動物の鳴き声を検知するIoT機器等を開発する．機器開発を通じ，協力して開発するコミュニケーション力を養い，開発した機器を紹介することを通じ，プレゼンテーションの基礎を学ぶ．

授業における学修の到達目標

・自らのアイデアでIoT機器を開発できる．
・製作したIoT機器についてプレゼンテーションで適切に紹介できる．

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	研究課題案を複数検討する	2
	授業	研究課題について議論する	
	事後学修	議論結果を基に研究課題案を再考する	2
2	事前学修	研究課題案に関する情報を収集する	2
	授業	研究課題について議論し，研究課題を決定する	
	事後学修	研究課題に関する情報を収集する	2
3	事前学修	収集した研究課題の情報をまとめる	2
	授業	収集した情報を基に方針案を決定する	
	事後学修	研究目的を考え，方針案に沿った情報収集を行う	2
4	事前学修	情報収集した結果をまとめる	2
	授業	研究方針について議論する	
	事後学修	議論した結果をまとめる	2
5	事前学修	研究課題および研究方針案に関した情報をまとめ，研究計画書を作成する	2
	授業	研究計画書（背景、目的、手法、想定結果）を基に必要なデータを検討する	
	事後学修	解析データについての情報、収集方法、データの形式について調査する	2
6	事前学修	解析データの調査をまとめる	2
	授業	解析するデータの収集方法を確認し，必要な観測装置について検討する	
	事後学修	検討した観測装置について調べる	2
7	事前学修	観測装置について調べたことをまとめる	2
	授業	観測装置の設計をおこなう	
	事後学修	設計の修正をおこなう	2
8	事前学修	観測装置について，追加で調べる	2
	授業	観測装置の設計について議論する	
	事後学修	議論した結果をまとめる	2

9	事前学修	観測装置製作に必要な部品を調べる	2
	授業	観測装置製作を開始する	
	事後学修	完成部分の動作確認をおこなう	2
10	事前学修	追加で必要な部品を調査する	2
	授業	観測装置の修正点を検討する	
	事後学修	観測装置の修正点をまとめる	2
11	事前学修	観測装置の修正の方針を考える	2
	授業	観測装置修正点について議論する	
	事後学修	観測装置修正点についてまとめる	2
12	事前学修	修正に必要な設計の見直しを行う	2
	授業	観測装置を修正する	
	事後学修	修正した観測装置の動作を確認する	2
13	事前学修	観測条件について検討する	2
	授業	観測条件について議論する	
	事後学修	議論した結果をまとめる	2
14	事前学修	観測の準備を行う	2
	授業	観測装置を設置し，観測を開始する	
	事後学修	観測装置の動作を確認する	2
15	事前学修	観測結果を確認する	2
	授業	観測結果について議論する	
	事後学修	議論した結果をまとめ，観測条件を検討する	2
16	事前学修	観測条件の検討をまとめる	2
	授業	新しい条件で観測を実施する	
	事後学修	観測装置の動作を確認する	2
17	事前学修	観測結果を確認する	2
	授業	観測結果について議論する	
	事後学修	観測を終了する	2
18	事前学修	観測データの解析方法を検討する	2
	授業	解析方法について議論する	
	事後学修	議論した結果をまとめる	2
19	事前学修	解析方法の検討を続ける	2
	授業	解析方法を決定し，必要なツールやプログラムを用意する	
	事後学修	解析方法について必要なものをまとめる	2
20	事前学修	解析に必要な数学を理解する	2
	授業	データ解析１を実施する	
	事後学修	解析結果１をまとめる	2
21	事前学修	解析結果１を図にまとめる	2
	授業	解析結果１を報告し，必要な追加解析を議論する	
	事後学修	議論の結果をまとめる	2
22	事前学修	必要な追加解析を検討する	2

	授業	検討結果を報告し，データ解析２を実施する	
	事後学修	解析結果２をまとめる	2
23	事前学修	解析結果２を図にまとめる	2
	授業	解析結果２について議論し，研究の目的に沿った結論が得られるか検証する	
	事後学修	検証結果について振り返る	2
24	事前学修	実験結果などを振り返る	2
	授業	データ処理結果，実験結果について振り返り，ここまでの取り組みをまとめる	
	事後学修	これまでの実験計画（背景、目的、手法）と実験結果をレポートとしてまとめる	2
25	事前学修	レポートを完成させる	2
	授業	レポートについて添削を受け，修正する	
	事後学修	修正点を確認し，今後の方針を検討する	2
26	事前学修	今後の方針を決定する	2
	授業	追加観測を実施する	
	事後学修	観測データをまとめる	2
27	事前学修	レポートをベースとして，論文の「まえがき」，「研究手法」，「実験結果」を書き進める	2
	授業	論文の「まえがき」，「研究手法」，「実験結果」を示し，コメントを受ける	
	事後学修	コメントについて検討し，改善点について検討する	2
28	事前学修	論文の「議論」，「結論」を下記進める	2
	授業	執筆中の論文を示し、タイトル、目的、結論について、コメントを受ける	
	事後学修	コメントについて検討する。論文の執筆を続ける	2
29	事前学修	論文の執筆を続ける	2
	授業	論文の進捗状況を示し，コメントを受ける．また，発表資料作成に着手する	
	事後学修	論文の残りを執筆し，同時に卒論発表会に向けた発表資料作成を続ける	2
30	事前学修	卒論発表会に向けて発表資料を作成し，発表練習を行う	2
	授業	卒論発表会に向けてプレゼンテーション行い，コメントを受ける	
	事後学修	コメントを発表資料へ反映し，発表の自主練習を行う	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： 0％ □小テスト： 0％ ■レポート：50％ □演習課題： ％ ■その他[成果発表 50％]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミでの議論，レポートの添削を通して，学生にフィードバックする．

教科書	
参考書・Web サイト	授業で指示する．
単位修得が望ましい科目	なし
備考	発表の内容だけではなく，ゼミ内での活動，貢献等を総合的に評価する．
担当教員の実務経験	通算で 4 年間，システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた．これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する．

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

興味あるテーマについて調査し，それらをプレゼンテーションにまとめて発表する．また，Python を用い，データを統計処理，解釈し，発表する．

授業における学修の到達目標

・様々なデータを統計処理し，グラフを作成できる
・調査結果を分かりやすくプレゼンできる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	興味あるテーマ１について調査する	2
	授業	テーマ１を報告する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2
2	事前学修	興味あるテーマ２について調査する	2
	授業	テーマ２を報告する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2
3	事前学修	論文１を読み，まとめる	2
	授業	論文１を紹介する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2
4	事前学修	論文２を読み，まとめる	2
	授業	論文２を紹介する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2
5	事前学修	論文３を読み，まとめる	2
	授業	論文３を紹介する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2
6	事前学修	Phython をインストールする	2
	授業	簡単な計算を実行する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
7	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	画面に文字を表示する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
8	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	ファイルの読み込みを行う	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
9	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	変数・データ型について学習する	

	事後学修	プログラムを再確認する	2
10	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	リストについて学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
11	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	条件分岐について学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
12	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	繰り返しについて学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
13	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	import について学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
14	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	実データの解析を行う	
	事後学修	解析結果をまとめる	2
15	事前学修	プレゼン資料を用意する	2
	授業	解析結果を発表する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：　40%　□演習課題：　　%　■その他[成果発表 60%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミのコメントを通じて行う

教科書	
参考書・Web サイト	授業時に指示する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	通算で 4 年間システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた．これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する．

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

Arduino，Raspberry Pi 等を用いて，センサーを開発し，IoT 機器の基礎を学ぶ．開発したセンサーを用いて，身近な環境データを収集する．

授業における学修の到達目標

・自らのアイデアで IoT 機器を開発できる．
・製作した IoT 機器についてプレゼンテーションで適切に紹介できる．

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミでの活動について調べる	2
	授業	ガイダンス	
	事後学修	ガイダンスを聞いて，製作するセンサーの概要を考える	2
2	事前学修	LED を点灯させる方法を調べる	2
	授業	LED の点灯	
	事後学修	LED 点灯の応用を考える	2
3	事前学修	温度センサーの使用方法を調べる	2
	授業	温度センサーを使った気温計測	
	事後学修	温度センサー利用の応用を考える	2
4	事前学修	サーボモータについて調べる	2
	授業	半固定抵抗を用いたサーボモータの制御	
	事後学修	サーボモータ利用の応用を考える	2
5	事前学修	Cds セルについて調べる	2
	授業	Cds セルを用いた明るさの計測	
	事後学修	Cds セルの応用を考える	2
6	事前学修	スイッチについて調べる	2
	授業	スイッチを用いたキーボードの製作	
	事後学修	スイッチの応用を考える	2
7	事前学修	モーターについて調べる	2
	授業	モーターの制御	
	事後学修	モーター利用の応用を考える	2
8	事前学修	圧電スピーカについて調べる	2
	授業	圧電スピーカを用いた音声信号の取得	
	事後学修	圧電スピーカの応用を考える	2
9	事前学修	モデルロケットについて調べる	2
	授業	モデルロケット製作	

	事後学修	出来上がったモデルロケットの微調整を行う	2
10	事前学修	モデルロケット打ち上げに必要な注意事項を確認する	2
	授業	モデルロケット打ち上げ	
	事後学修	モデルロケット 3 級試験の問題を解く	2
11	事前学修	データ処理に必要な数学について調べる	2
	授業	データ処理方法	
	事後学修	データ処理に必要な数学の復習をする	2
12	事前学修	計測したい環境を決める	2
	授業	計測対象の調査	
	事後学修	調査対象についてまとめる	2
13	事前学修	これまでの授業で製作したセンサーを用意する	2
	授業	センサーを用いた計測	
	事後学修	計測結果をまとめる	2
14	事前学修	処理方法を事前に調査する	2
	授業	データ処理実践	
	事後学修	取得できたデータをグラフにまとめる	2
15	事前学修	プレゼン資料を用意する	2
	授業	計測結果を発表する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：　40%　□演習課題：　　%　■その他[成果発表　60 %　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミでの議論，レポートの添削を通して，学生にフィードバックする．

教科書	
参考書・Web サイト	授業で指示する．
単位修得が望ましい科目	なし
備考	発表の内容だけではなく，ゼミ内での活動，貢献等を総合的に評価する．
担当教員の実務経験	通算で 4 年間，システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた．これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する．

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

○概要

アニメーションや 3DCG、ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて、新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか、誰が求めているのか、どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し、コンテンツを企画・制作することで、モノ作りの知識や技術を学びます。また、制作したコンテンツを発表する機会を重要視しますので、魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。

授業における学修の到達目標

・制作するテーマを自ら設定し、その企画の良さを伝える
・企画したコンテンツを制作し、進捗を発表する
・教員やゼミ生からの助言を分析し、問題点を解決する

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの卒研プレ企画を元に作品制作を行い、発表の準備をする	2.0
	授業	・ガイダンス（前期の活動の説明） ・卒研プレ作品発表会（1 人あたり 4 分、質疑応答 3 分）	
	事後学修	今後のゼミ活動の計画を立てる	2.0
2	事前学修	卒業研究のために先行研究をリサーチする	2.0
	授業	卒業研究のためのリサーチ報告（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）	
	事後学修	リサーチ結果を元に卒業研究のテーマを検討する	2.0
3	事前学修	卒業研究のテーマを確定する	2.0
	授業	卒業研究のテーマ発表（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0
4	事前学修	卒業研究のイメージボードを制作する	2.0
	授業	卒業研究のイメージボード発表（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0
5	事前学修	発表会の準備をする	2.0
	授業	卒業研究の企画発表会（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に改善点をまとめる	2.0
6	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 1（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）、プリプロダクション終了	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
7	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 2（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0

8	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 3（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）、α 版の発表	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
9	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 4（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
10	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 5（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）、β 版の発表	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
11	事前学修	発表会の準備をする	2.0
	授業	企画およびプロトタイプの発表会（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	中間発表に向けて発表の練習をする	2.0
12	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	ゼミ内発表会（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	中間発表の準備をする	2.0
	授業	卒業研究中間発表 1（複数ゼミ合同の発表会）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
14	事前学修	中間発表の準備をする	2.0
	授業	卒業研究中間発表 2（複数ゼミ合同の発表会）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	夏休み期間のスケジュールを検討する	2.0
	授業	卒業研究中間発表の振り返りと夏休み期間のスケジュールを発表する（1 人あたり 10 分）	
	事後学修	前期を振り返り、やり忘れたことがあれば夏休み期間に終わらせておく	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：80%　■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け、それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習、アニメーション基礎演習、ゲームＣＧ演習、３ＤＣＧ演習
備考	３・４年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社（合資会社ピコグラフ）での実務経験を元に、実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

○概要

アニメーションや 3DCG、ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて、新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか、誰が求めているのか、どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し、コンテンツを企画・制作することで、モノ作りの知識や技術を学びます。また、制作したコンテンツを発表する機会を重要視しますので、魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。

○テーマ

アニメーション、3DCG、デジタルゲーム制作、エンターテインメント、地方発信

授業における学修の到達目標

・制作するテーマを自ら設定し、その企画の良さを伝える
・企画したコンテンツを制作し、進捗を発表する
・教員やゼミ生からの助言を分析し、問題点を解決する

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	夏休み中に企画やプロトタイプを改善し、ここまでの成果を発表する準備を行う	2.0
	授業	・ガイダンス（後期の活動の説明） ・ここまでの進捗報告（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に今後の制作スケジュール全体を見直す	2.0
2	事前学修	作品の制作を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 40%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
3	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 50%）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
4	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 60%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
5	事前学修	ゼミ内中間発表会の準備を行う	2.0
	授業	ゼミ内中間発表会（1 人あたり 5 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元にスケジュールの見直し	2.0
6	事前学修	制作物の見直し	2.0
	授業	ここまでの進捗報告	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
7	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0

	授業	ここまでの進捗報告（進捗 70%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
8	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 80%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
9	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 99%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
10	事前学修	ゼミ内発表会の準備、発表練習をする	2.0
	授業	ゼミ内発表会 1（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
11	事前学修	ゼミ内発表会の準備、発表練習をする	2.0
	授業	ゼミ内発表会 2（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	小論文の準備	2.0
	授業	小論文の指導	
	事後学修	小論文の修正	2.0
13	事前学修	卒業研究発表会の準備、発表練習をする	2.0
	授業	ゼミ内発表会練習 1（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
14	事前学修	卒業研究発表会の準備、発表練習をする	2.0
	授業	ゼミ内発表会練習 2（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	卒業研究発表会の準備、発表練習をする	2.0
	授業	卒業研究発表会（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	ここまでを振り返り、問題があれば修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：80%　■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け、それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習、アニメーション基礎演習、ゲームＣＧ演習、３ＤＣＧ演習
備考	３・４年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社（合資会社ピコグラフ）での実務経験を元に、実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	河原 大(322研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

○概要

アニメーションや3DCG、ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて、新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか、誰が求めているのか、どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し、コンテンツを企画・制作することで、モノ作りの知識や技術を学びます。また、制作したコンテンツを発表する機会を重要視しますので、魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。

○テーマ

アニメーション、3DCG、デジタルゲーム制作、エンターテインメント、地方発信

授業における学修の到達目標

・制作するテーマを自ら設定し、その企画の良さを伝える
・企画したコンテンツを制作し、進捗を発表する
・教員やゼミ生からの助言を分析し、問題点を解決する

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの卒研プレ企画を元に作品制作を行い、発表の準備をする	2.0
	授業	・ガイダンス（前期の活動の説明） ・卒研プレ作品発表会（1人あたり4分、質疑応答3分）	
	事後学修	今後のゼミ活動の計画を立てる	2.0
2	事前学修	卒業研究のために先行研究をリサーチする	2.0
	授業	卒業研究のためのリサーチ報告（1人あたり5分、質疑応答3分）	
	事後学修	リサーチ結果を元に卒業研究のテーマを検討する	2.0
3	事前学修	卒業研究のテーマを確定する	2.0
	授業	卒業研究のテーマ発表（1人あたり3分、質疑応答5分）	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0
4	事前学修	卒業研究のイメージボードを制作する	2.0
	授業	卒業研究のイメージボード発表（1人あたり3分、質疑応答5分）	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0
5	事前学修	発表会の準備をする	2.0
	授業	卒業研究の企画発表会（1人あたり4分、質疑応答5分）	
	事後学修	助言を元に改善点をまとめる	2.0
6	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告1（1人あたり3分、質疑応答5分）、プリプロダクション終了	

	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
7	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 2（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
8	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 3（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）、α 版の発表	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
9	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 4（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
10	事前学修	プロトタイプの制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 5（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）、β 版の発表	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
11	事前学修	レクリエーションの準備、打ち合わせ	2.0
	授業	レクリエーションの予定	
	事後学修	レクリエーションの片付けなど	2.0
12	事前学修	発表会の準備をする	2.0
	授業	企画およびプロトタイプの発表会（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	中間発表に向けて発表の練習をする	2.0
13	事前学修	中間発表の準備をする	2.0
	授業	卒業研究中間発表 1（複数ゼミ合同の発表会）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
14	事前学修	中間発表の準備をする	2.0
	授業	卒業研究中間発表 2（複数ゼミ合同の発表会）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	夏休み期間のスケジュールを検討する	2.0
	授業	卒業研究中間発表の振り返りと夏休み期間のスケジュールを発表する（1 人あたり 10 分）	
	事後学修	前期を振り返り、やり忘れたことがあれば夏休み期間に終わらせておく	2.0
16	事前学修	夏休み中に企画やプロトタイプを改善し、ここまでの成果を発表する準備を行う	2.0
	授業	・ガイダンス（後期の活動の説明） ・ここまでの成果の発表（進捗 20%）、次までに行う作業内容の発表（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に今後の制作スケジュール全体を見直す	2.0
17	事前学修	類似作品をリサーチする	2.0
	授業	制作スケジュールと類似作品のリサーチ結果を発表する（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に再度スケジュールを見直す	2.0
18	事前学修	作品の制作を行う	2.0
	授業	ここまでの成果の発表（進捗 30%）、次までに行う作業内容の発表（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0

19	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0
	授業	ここまでの成果の発表（進捗 40%）、中間発表までに行う作業内容の発表（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元にスケジュールの見直し	2.0
20	事前学修	中間発表の準備を行う	2.0
	授業	中間発表（進捗 50%、1 人あたり 5 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元にスケジュールの見直し	2.0
21	事前学修	制作物の見直し	2.0
	授業	ここまでの成果の発表（進捗 60%）、次までに行う作業内容の発表（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
22	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0
	授業	ここまでの成果の発表（進捗 70%）、次までに行う作業内容の発表（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
23	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0
	授業	ここまでの成果の発表（進捗 80%、1 人あたり 5 分、質疑応答 4 分）、卒業論文の構成を考える	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
24	事前学修	進捗報告の準備を行う	2.0
	授業	ここまでの成果の発表（進捗 90%、1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
25	事前学修	作品発表会の準備をする	2.0
	授業	作品発表会（進捗 100%）、卒業論文の構成を発表する（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）	
	事後学修	助言を元に作品のブラッシュアップの内容を検討する	2.0
26	事前学修	卒業論文執筆と作品ブラッシュアップのスケジュールを立てる	2.0
	授業	作品のブラッシュアップの内容と今後のスケジュールを発表する（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に内容とスケジュールを見直す	2.0
27	事前学修	卒業論文の執筆と作品のブラッシュアップを行う	2.0
	授業	ここまでの進捗を発表する（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	助言を元に内容を検討する	2.0
28	事前学修	卒業論文の執筆と作品のブラッシュアップを行う	2.0
	授業	ここまでの進捗を発表する（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）	
	事後学修	助言を元に内容を検討する	2.0
29	事前学修	卒業論文発表の準備をする	2.0
	授業	卒業論文の発表（1 人あたり 10 分）	
	事後学修	助言を元に卒業論文の修正をする	2.0
30	事前学修	作品発表会の準備、発表練習をする	2.0
	授業	作品発表会（完成）と卒業論文の提出（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	ここまでを振り返り、問題があれば修正する	2.0
成績評価の方法およびその基準			

□試験：　　％　□小テスト：　　％　□レポート：　％　■演習課題：80%　■その他[プレゼンテーション：20%]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
学生からの進捗報告を受け、それに対しアドバイスを行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ、映画基礎演習、アニメーション基礎演習、ゲームＣＧ演習、３ＤＣＧ演習
備考	３・４年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社（合資会社ピコグラフ）での実務経験を元に、実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	齋藤 健司(314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

本研究室では人工知能技術をベースにし，これの応用システムを幅広く扱ってゆく。はじめに人工知能を使ったシステム構築を行う上で必要となるプログラミング言語や，論理学，Web アプリケーションの周辺技術を実習を通して学ぶ。そしてこれらの技術を応用して，仮想環境(Virtual Environment)や，ロボット，e-Learning システムなどの研究テーマを選び，プレゼンテーションとディスカッションを通して研究を練り、便利で賢い機能を実現するために人工知能の要素を活用してゆく。

授業における学修の到達目標

人工知能に関係する基礎技術を学びこれを問題解決に結び付ける力をつけることを目標とする。特にディスカッションを通して問題の発見と解決を行い，専門的な内容を他に伝えられるプレゼンテーション能力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	人工知能について調べ、自分のやってみたい研究について考えておく。簡単な自己紹介の内容を考えておく。	2
	授業	ゼミについてのガイダンスを行う。簡単な自己紹介も行う。	
	事後学修	ゼミにおける学習について注意しておくべき項目をまとめて今後の学習で参照できるようにしておく。	2
2	事前学修	人工知能についての各種技術についてゼミで用意する資料や Web 上の資料を調べておく。	2
	授業	人工知能技術に関する課題を設定し，この課題に対する演習をしてもらう。	
	事後学修	課題の内容を復習し，研究でも使えるようにしっかり修得する。	2
3	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
4	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
5	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
6	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
7	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
8	事前学修	第 2 回参照	2

	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
9	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
10	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
11	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
12	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
13	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
14	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
15	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題を提出すると同時に結果についてゼミ内で報告してもらうので，その場で指導を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	実際に動作するシステムを作成してみたいという強い意志のある学生を歓迎する。研究テーマにおいてはなるべく学生の希望が反映されるよう相談を受ける。卒業研究ではプログラミングを行わなければならない可能が高いので不得意な学生はゼミで勉強してもらう。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	齋藤 健司(314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

本研究室では人工知能技術をベースにし，これの応用システムを幅広く扱ってゆく。はじめに人工知能を使ったシステム構築を行う上で必要となるプログラミング言語や，論理学，Web アプリケーションの周辺技術を実習を通して学ぶ。そしてこれらの技術を応用して，仮想環境(Virtual Environment)や，ロボット，e-Learning システムなどの研究テーマを選び，プレゼンテーションとディスカッションを通して研究を練り、便利で賢い機能を実現するために人工知能の要素を活用してゆく。

授業における学修の到達目標

人工知能に関係する基礎技術を学びこれを問題解決に結び付ける力をつけることを目標とする。特にディスカッションを通して問題の発見と解決を行い，専門的な内容を他に伝えられるプレゼンテーション能力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	人工知能についての各種技術についてゼミで用意する資料や Web 上の資料を調べておく。	2
	授業	人工知能技術に関する課題を設定し，この課題に対する演習をしてもらう。	
	事後学修	課題の内容を復習し，研究でも使えるようにしっかり修得する。	2
2	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
3	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
4	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
5	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
6	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
7	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
8	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	

	事後学修	第 1 回参照	2
9	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
10	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
11	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
12	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
13	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
14	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
15	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題を提出すると同時に結果についてゼミ内で報告してもらうので，その場で指導を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	実際に動作するシステムを作成してみたいという強い意志のある学生を歓迎する。研究テーマにおいてはなるべく学生の希望が反映されるよう相談を受ける。卒業研究ではプログラミングを行わなければならない可能が高いので不得意な学生はゼミで勉強してもらう。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	齋藤 健司(314研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

本研究室では人工知能技術をベースにし，これの応用システムを幅広く扱ってゆく。はじめに人工知能を使ったシステム構築を行う上で必要となるプログラミング言語や，論理学，Webアプリケーションの周辺技術を実習を通して学ぶ。そしてこれらの技術を応用して，仮想環境(Virtual Environment)や，ロボット，e-Learningシステムなどの研究テーマを選び，プレゼンテーションとディスカッションを通して研究を練り、便利で賢い機能を実現するために人工知能の要素を活用してゆく。

授業における学修の到達目標

人工知能に関係する基礎技術を学びこれを問題解決に結び付ける力をつけることを目標とする。特にディスカッションを通して問題の発見と解決を行い，専門的な内容を他に伝えられるプレゼンテーション能力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	研究計画の確認と研究を進展させるための作業。問題点の洗い出しと対処方法の検討。	2
	授業	研究テーマに関する指導。研究の進捗と方向性の確認。研究のつまづきに対する対応。	
	事後学修	調査や制作物の作成。	2
2	事前学修	第1回参照	2
	授業	第1回参照	
	事後学修	第1回参照	2
3	事前学修	第1回参照	2
	授業	第1回参照	
	事後学修	第1回参照	2
4	事前学修	第1回参照	2
	授業	第1回参照	
	事後学修	第1回参照	2
5	事前学修	第1回参照	2
	授業	第1回参照	
	事後学修	第1回参照	2
6	事前学修	第1回参照	2
	授業	第1回参照	
	事後学修	第1回参照	2
7	事前学修	第1回参照	2
	授業	第1回参照	
	事後学修	第1回参照	2
8	事前学修	第1回参照	2

	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
9	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
10	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
11	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
12	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
13	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
14	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
15	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
16	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
17	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
18	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
19	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
20	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
21	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	

	事後学修	第 1 回参照	2
22	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
23	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
24	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
25	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
26	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
27	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
28	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
29	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2
30	事前学修	第 1 回参照	2
	授業	第 1 回参照	
	事後学修	第 1 回参照	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

研究の進展に関しては順次報告をすることとし，適宜指導する。随時研究に関する質問を受け付ける。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	実際に動作するシステムを作成してみたいという強い意志のある学生を歓迎する。研究テーマにおいてはなるべく学生の希望が反映されるよう相談を受ける。卒業研究ではプログラミングを行わなければならない可能が高いので不得意な学生はゼミで勉強してもらう。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

『デザイン』と『テクノロジー』を融合した
『観光』や『教育』に向けの Web・アプリ・ゲーム制作

ゼミでは，個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。
作品の種類は，Web，アプリ，デジタルゲーム，アナログゲーム，ポスター，パンフレット，プロジェクションマッピング，インスタレーション等，解決したい（観光・教育分野の）課題に合わせて，ディスカッションを通じて決定します。

主要な研究・制作テーマ
1. AI を活用した Web やスマフォアプリ開発：
　人間同士または人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで新しい価値を生み出すアプリ開発を目指します。AI（人工知能）等のテクノロジーを生かし，デザイン性も考慮したサイトやアプリの開発を行います。

2. 教育・学習支援に関する研究・インストラクショナルデザインに基づく教材制作
　教育や学習における問題点を調査し，ICT を活用することで問題を解決することを目指します。また，インストラクショナル・デザイン（ID）に基づいて，様々な ICT（主に Web 制作技術，CMS や LMS 等）に関する教育・学習教材の制作も行います。

3. ゲーミフィケーションに関する研究：
　ゲームデザインの考え方の活用をゲーミフィケーションと呼びます。また，シリアスゲームとは，社会の問題解決に利用されるゲームを指します。斎藤一ゼミでは，観光や教育を対象としたゲームの活用について研究しています。

4. フィールドワークに基づいた作品制作：
　フィールドワークとは，現地を実際に訪れ，資料の収集や関係者へのヒアリングやアンケート調査を行い，客観的な成果を挙げるための学術研究技法です。フィールドワークにより地域における課題を調査します。また，IT の活用により課題解決を目指す作品（アプリ，サイト，パンフ等）を制作します。

授業における学修の到達目標

・自ら制作テーマや目標を設定し，自発的に活動しましょう。
・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして，問題を解決していきましょう。
・既存研究や作品を十分に調査をし，自分の作りたい作品について企画を立てましょう。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスや研究室のサイト（参考サイトに URL を記載）を確認し，ゼミ活動の概要を把握しておきましょう	2.0
	授業	前期　ガイダンス： ゼミナールⅠの活動について説明します	
	事後学修	今後のゼミ活動（何を制作するのか等）の計画を立てましょう	2.0
2	事前学修	自己紹介プレゼンの準備をしておきましょう	2.0
	授業	自己紹介プレゼンをしよう！：	

		各自自己紹介のプレゼンテーションをしてもらいます。	
	事後学修	今後のプロジェクト活動のために，自己紹介プレゼンの内容を振り返り，ゼミナールメンバーの名前や興味のある研究分野等を把握しておきましょう	2.0
3	事前学修	コンテストへの作品応募にむけて，どのコンテストにどのような作品で申し込みをするのかを考えておきましょう。	2.0
	授業	コンテストの応募にむけて，コンテストの過去の作品の調査等を調査します。	
	事後学修	授業時間で調べきれなかった作品などを，家庭学習の時間も使って調査し，制作する作品のイメージを膨らませましょう。	2.0
4	事前学修	コンテストへの応募作品について，コンセプトを考えておきましょう。	2.0
	授業	コンテストの応募作品のコンセプトを決めます。	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備をしておきましょう。	2.0
5	事前学修	コンテスト向けの作品制作の準備をしておきましょう	2.0
	授業	コンテストに応募する作品を制作します	
	事後学修	作品の質を高めるため，授業以外の時間も使い，ディテイルアップをしましょう。	2.0
6	事前学修	制作中の作品について，更に作品の質を高めるためには何をすればよいのかを検討しておきましょう。	2.0
	授業	引き続き，コンテスト投稿に向けた作品制作を行います 作品の投稿に向けたドキュメント作成も行います。	
	事後学修	投稿前の作品やドキュメントの最終チェックをしましょう。	2.0
7	事前学修	作品について，客観的に，振り返りを行っておきましょう。	2.0
	授業	投稿した作品についてのプレゼンテーションを行います。	
	事後学修	他のメンバーの作った作品をレビューしましょう。	2.0
8	事前学修	新たな作品づくりに向けて，世の中の作品のレビューを改めて行いましょう。	2.0
	授業	Web やゲームやアプリ等，既存作品のレビュー（コンテンツ研究会）を行います。	
	事後学修	他の学生がレビューした作品で，印象に残った作品などを，自分でも調べてみましょう。	2.0
9	事前学修	これまでのゼミ活動を一旦振り返っておきましょう。	2.0
	授業	コンテストでの経験を活かし，スキルアップしたい課題を各自決めていきます。 【スキルアップ課題の例】 ・WordPress，Movable Type 等の CMS を利用した Web サイト構築 ・Android SDK（java）を用いたスマートフォンアプリ開発 ・プログラム（PHP 等）とデータベース（MySQL 等）を組み合わせたサイト開発 ・HTML5，JavaScript（jQuery）等によるインタラクティブな Web 制作	
	事後学修	各自が設定したスキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
10	事前学修	引き続き，スキルアップ課題に取り組みましょう	2.0
	授業	スキルアップ課題の進捗を報告してもらいます。	
	事後学修	引き続き，スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
11	事前学修	引き続き，スキルアップ課題に取り組みましょう	2.0
	授業	スキルアップ課題の成果を発表してもらいます。	
	事後学修	課題の内容を振り返り，次の作品づくりに活かしましょう。	2.0
12	事前学修	レクリエーションの準備をしておきましょう。	2.0
	授業	企画・実施・評価のトレーニングの一環としてのレクリエーションを行います。レクリエーションの内容はゼミ生同士の話し合いを元に決定します。	

	事後学修	これまでのゼミ活動を一旦振り返っておきましょう。	2.0
13	事前学修	グループワークに向けた事前準備をしておきましょう。	2.0
	授業	グープワーク（提示した課題に対するディスカッション）を行います。	
	事後学修	グループワークの課題に取り組みましょう	2.0
14	事前学修	引き続き，グループワークの課題に取り組みましょう。 オンラインのコミュニケーションツールを活用して，グループのメンバーとの打ち合わせも行いましょう。	2.0
	授業	グループワーク（ディスカッション）の結果をプレゼンテーションします。他のグループの発表について，質問をすることで，課題に対する理解を深めましょう。	
	事後学修	グループワームの内容を振り返っておきましょう	2.0
15	事前学修	ゼミナールⅠのゼミ活動について，個人的に振り返っておきましょう	2.0
	授業	ゼミナールⅠの振り返りを行います。	
	事後学修	前期を振り返りつつ，休み期間の作品制作の内容を検討しておきましょう	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：10%　□■演習課題：90%　□■その他[ゼミ活動への参加姿勢（発言の積極性等]

グループワークについては，グループ内での行動について

自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミでの発表資料や制作した作品等を，POLITE3 や Google ドライブ等にアップしてもらいます。

ゼミ中や POLITE3 を通じて，発表や作品に対するコメントをフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	斎藤一ゼミ Web サイト：https://www01.do-johodai.ac.jp/hajime/
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，Web デザイン基礎演習，E ラーニング，Web 制作プロジェクト
備考	３・４年生一緒にゼミ活動を行います。４年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

『デザイン』と『テクノロジー』を融合した
『観光』や『教育』に向けの Web・アプリ・ゲーム制作

ゼミでは，個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。
作品の種類は，Web，アプリ，デジタルゲーム，アナログゲーム，ポスター，パンフレット，プロジェクションマッピング，インスタレーション等，解決したい（観光・教育分野の）課題に合わせて，ディスカッションを通じて決定します。

主要な研究・制作テーマ
1. AI を活用した Web やスマフォアプリ開発：
　人間同士または人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで新しい価値を生み出すアプリ開発を目指します。AI（人工知能）等のテクノロジーを生かし，デザイン性も考慮したサイトやアプリの開発を行います。

2. 教育・学習支援に関する研究・インストラクショナルデザインに基づく教材制作
　教育や学習における問題点を調査し，ICT を活用することで問題を解決することを目指します。また，インストラクショナル・デザイン（ID）に基づいて，様々な ICT（主に Web 制作技術，CMS や LMS 等）に関する教育・学習教材の制作も行います。

3. ゲーミフィケーションに関する研究：
　ゲームデザインの考え方の活用をゲーミフィケーションと呼びます。また，シリアスゲームとは，社会の問題解決に利用されるゲームを指します。斎藤一ゼミでは，観光や教育を対象としたゲームの活用について研究しています。

4. フィールドワークに基づいた作品制作：
　フィールドワークとは，現地を実際に訪れ，資料の収集や関係者へのヒアリングやアンケート調査を行い，客観的な成果を挙げるための学術研究技法です。フィールドワークにより地域における課題を調査します。また，IT の活用により課題解決を目指す作品（アプリ，サイト，パンフ等）を制作します。

授業における学修の到達目標

・自ら制作テーマや目標を設定し，自発的に活動しましょう。
・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして，問題を解決していきましょう。
・企画したサイトやアプリ等を制作し，いろいろな人に評価をしてもらいましょう。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	休み期間の活動を振り返っておきましょう。作品制作の進捗状況なども各自で確認しておきましょう。	2.0
	授業	ガイダンスを行います。また，各自，休み中の活動について報告をしてもらいます。	
	事後学修	後期の（とくにゼミ展示に向けた）制作活動について，計画を立てておきましょう。	2.0
2	事前学修	リクリエーションの内容をゼミ生同士で話し合っておきましょう	2.0
	授業	企画・実施・評価のトレーニングの一環として，リクリエーションをおこまいます。またこの取組を通じて，ゼミ生同士の親睦を深めます。	

	事後学修	リクリエーションの内容を振り返っておきましょう。	2.0
3	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう	2.0
	授業	ゼミ展示に向けて作品制作を行います。	
	事後学修	授業時間以外の時間も使って，作品制作を行いましょう。	2.0
4	事前学修	引き続き，大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう	2.0
	授業	ゼミ展示にむけた，作品制作の進捗状況を確認します。	
	事後学修	引き続き，大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう	2.0
5	事前学修	ゼミ展示の実施に向けて，作品の評価フォームの準備など，最終の準備を行いましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示を実施します。展示を見てくれた方に対して，作品のレビュー（評価）をしてもらいましょう。	
	事後学修	作品のレビューをまとめ，作品をアップデートしましょう。	2.0
6	事前学修	ゼミ展示の個人的な振り返りを行っておきましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示の振り返りを行います。	
	事後学修	ゼミ展示の経験を通して，更にスキルアップするための課題を探しましょう。	2.0
7	事前学修	後期のスキルアップ課題を決めておきましょう。	2.0
	授業	設定したスキルアップ課題ついて説明をしてもらいます。 【スキルアップ課題の例】 ・観光・教育分野におけるシリアスゲーム開発（企画・デザイン・開発・評価） ・インストラクショナルデザインに基づくｅラーニング教材制作 ・AR（拡張現実感）や深度センサーを利用したインタラクティブアート制作	
	事後学修	スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
8	事前学修	引き続き，スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
	授業	スキルアップ課題の進捗報告をしてもらいます。	
	事後学修	ゼミ中での，教員や他のメンバーのコメントを参考に，スキルアップ課題をブラッシュアップしましょう。	2.0
9	事前学修	スキルアップ課題の成果をまとめたプレゼン資料を作成しましょう。	2.0
	授業	スキルアップ課題の成果報告をしてもらいます。	
	事後学修	ゼミ中の成果報告で得られたコメント等を参考に，各自で課題の振り返りを行いましょう。	2.0
10	事前学修	コンテンツ研究会に向けた発表準備をしておきましょう。	2.0
	授業	コンテンツ研究会（既存作品のレビュー）を実施します。	
	事後学修	他のメンバーの発表で，参考になった作品について，自分でも調査をしてみましょう。	2.0
11	事前学修	前回発表を行わなかったメンバーは，発表の準備をしておきましょう。発表済みのメンバーは，振り返りを行ってください。	2.0
	授業	引き続き，コンテンツ研究会（既存作品のレビュー）を行います。	
	事後学修	他のメンバーの発表で，参考になった作品について，自分でも調査をしてみましょう。	2.0
12	事前学修	卒業研究発表会や４年生の作品の成果発表会のプログラムを確認し，聴講プランを立てましょう。	2.0
	授業	卒業研究発表会や４年生の作品成果発表会を聴講します。	
	事後学修	４年生たちの卒業研究や作品制作についての感想をまとめておきましょう。	2.0
13	事前学修	自身の次年度の作品制作についてイメージをしながら，聴講プランの見直しをしましょう。	2.0
	授業	引き続き，卒業研究発表会や４年生の作品成果発表会を聴講します。	

	事後学修	4 年生たちの卒業研究や作品制作についての感想をレポートとしてまとめて提出しましょう。	2.0
14	事前学修	卒業研究または 4 年次の制作テーマを考えましょう	2.0
	授業	次年度の制作・研究テーマ案をプレゼンテーションしてもらいます。	
	事後学修	発表したテーマについて，教員やゼミのメンバーから得られた意見を参考に，内容を深めておきましょう。	2.0
15	事前学修	これまでのゼミ活動を振り返っておきましょう。	2.0
	授業	後期（3・4 学期）のふりかえりを行います。	
	事後学修	卒業研究またはゼミ制作に向けた準備を開始しましょう	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：10%　■演習課題：90%　■その他[ゼミ活動への参加姿勢（発言の積極性等）]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミでの発表資料や制作した作品等を，POLITE3 や Google ドライブ等にアップしてもらいます。
ゼミ中や POLITE3，SLACK を通じて，発表や作品に対するコメントをフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	斎藤一ゼミ Web サイト：https://www01.do-johodai.ac.jp/hajime/
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，Web デザイン基礎演習，E ラーニング，Web 制作プロジェクト
備考	3・4 年生一緒にゼミ活動を行います。4 年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	斎藤　一(122研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

『デザイン』と『テクノロジー』を融合した
『観光』や『教育』に向けのWeb・アプリ・ゲーム制作

ゼミでは，個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。
作品の種類は，Web，アプリ，デジタルゲーム，アナログゲーム，ポスター，パンフレット，プロジェクションマッピング，インスタレーション等，解決したい（観光・教育分野の）課題に合わせて，ディスカッションを通じて決定します。

主要な研究・制作テーマ
1. AIを活用したWebやスマフォアプリ開発：
　人間同士または人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで新しい価値を生み出すアプリ開発を目指します。AI（人工知能）等のテクノロジーを生かし，デザイン性も考慮したサイトやアプリの開発を行います。

2. 教育・学習支援に関する研究・インストラクショナルデザインに基づく教材制作
　教育や学習における問題点を調査し，ICTを活用することで問題を解決することを目指します。また，インストラクショナル・デザイン（ID）に基づいて，様々なICT（主にWeb制作技術，CMSやLMS等）に関する教育・学習教材の制作も行います。

3. ゲーミフィケーションに関する研究：
　ゲームデザインの考え方の活用をゲーミフィケーションと呼びます。また，シリアスゲームとは，社会の問題解決に利用されるゲームを指します。斎藤一ゼミでは，観光や教育を対象としたゲームの活用について研究しています。

4. フィールドワークに基づいた作品制作：
　フィールドワークとは，現地を実際に訪れ，資料の収集や関係者へのヒアリングやアンケート調査を行い，客観的な成果を挙げるための学術研究技法です。フィールドワークにより地域における課題を調査します。また，ITの活用により課題解決を目指す作品（アプリ，サイト，パンフ等）を制作します。

授業における学修の到達目標

・自ら制作テーマや目標を設定し，自発的に活動しましょう。
・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして，問題を解決していきましょう。
・企画したサイトやアプリ等を制作し，いろいろな人に評価をしてもらいましょう。

主な内容
・プログラム（PHP等）とデータベース（MySQL等）を組み合わせたサイト開発
・HTML5，JavaScript（jQuery）等によるインタラクティブなWeb制作
・WordPress，Movable Type等のCMSを利用したWebサイト構築
・インストラクショナルデザインに基づくeラーニング教材制作
・観光・教育分野におけるシリアスゲーム開発（企画・デザイン・開発・評価）
・Android SDK（java）を用いたスマートフォンアプリ開発
・AR（拡張現実感）や深度センサーを利用したインタラクティブアート制作

授業計画			
回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスや研究室のサイト（参考サイトに URL を記載）を確認し，ゼミ活動の概要を把握しておきましょう	2.0
	授業	前期　ガイダンス： ゼミナール II の活動について説明します	
	事後学修	今後のゼミ活動（何を制作するのか等）の計画を立てましょう	2.0
2	事前学修	自己紹介プレゼン（3 年生の新ゼミ生向け）の準備をしておきましょう	2.0
	授業	3 年生の新ゼミ生向けに自己紹介のプレゼンテーションをしてもらいます。	
	事後学修	今後のプロジェクト活動のために，自己紹介プレゼンの内容を振り返り，ゼミナールメンバーの名前や興味のある研究分野等を把握しておきましょう	2.0
3	事前学修	作品制作の参考とするために，既存作品の調査を行いましょう。	2.0
	授業	既存作品の調査を行います。	
	事後学修	ひきつづき，既存作品の調査を行いましょう。他のセミ生が調べている作品なども参考にしながら，視野を広げて，調査を進めましょう。	2.0
4	事前学修	調査した作品について説明するスライドづくりをはじめましょう。	2.0
	授業	ひきつづき，既存作品の調査を行います。また，調査結果の発表に向けた資料作りをします。	
	事後学修	調査結果の発表資料をつくりましょう。	2.0
5	事前学修	発表資料の最終チェックを行いましょう。	2.0
	授業	調査した作品を説明する，プレゼンテーションを行います。	
	事後学修	他のゼミ生が説明した作品で，興味を持った内容を，自分でも追調査し，理解を深めましょう。	2.0
6	事前学修	未発表のメンバーは，発表資料の最終チェックを行いましょう。 発表済みのメンバーは，他のゼミ生が説明した作品で，興味を持った内容を，自分でも追調査し，理解を深めましょう。	2.0
	授業	調査した作品を説明する，プレゼンテーション（二週目）を行います。	
	事後学修	他のゼミ生が説明した作品で，興味を持った内容を，自分でも追調査し，理解を深めましょう。	2.0
7	事前学修	フィールドワークをするエリアや内容を事前に調べておきましょう。	2.0
	授業	フィールドワークを実施します。 （感染症対策ができない場合は，Web を利用した調べ学習を行います。）	
	事後学修	フィールワーク中に調査した資料をよく読み，課題を発見しましょう。	2.0
8	事前学修	フィールドワークが無事に終了するよう，各自，ベストを尽くしましょう。	2.0
	授業	引き続き，フィールドワークを実施します。	
	事後学修	収集した資料を整理しておきましょう。整理した資料をもとに発見した課題も整理しておきましょう。	2.0
9	事前学修	技術・デザイン勉強会で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会	
	事後学修	勉強会の内容を復習しておきましょう	2.0
10	事前学修	技術・デザイン勉強会（二回目）で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会（二回目）	
	事後学修	勉強会（二回目）の内容を復習しておきましょう	2.0
11	事前学修	企画プレゼンの準備をしましょう。	2.0
	授業	企画プレゼンの準備	

	事後学修	引き続き，企画プレゼンに向けた準備をしましょう。	2.0
12	事前学修	企画プレゼンの資料の最終確認をしておきましょう。	2.0
	授業	企画プレゼン	
	事後学修	企画プレゼン時に，ゼミ生や教員から得られたコメントを参考に，企画をブラッシュアップしましょう	2.0
13	事前学修	プロトタイプ開発の準備をしておきましょう	2.0
	授業	プロトタイプ開発	
	事後学修	引き続き，プロトタイプ開発をすすめましょう。	2.0
14	事前学修	プロトタイプの評価に向けた準備をはじめましょう。	2.0
	授業	プロトタイプ開発（第二週）	
	事後学修	プロトタイプの開発が終了できるようにしましょう。	2.0
15	事前学修	プロトタイプの評価の準備をしておきましょう。	2.0
	授業	制作したプロトタイプの評価会を行います。	
	事後学修	プロトタイプの評価会で得られたコメントをまとめておきましょう。	2.0
16	事前学修	評価が終わったメンバーは，コメントをまとめをしましょう。評価がまだのメンバーは，引き続き，評価会に向けた準備をしておきましょう。	2.0
	授業	引き続き，プロトタイプの評価会を行います。	
	事後学修	得られたコメントを参考に，最終制作に向けた計画づくりをはじめましょう。	2.0
17	事前学修	夏休み期間の活動を振り返っておきましょう。作品制作の進捗状況なども各自で確認しておきましょう。	2.0
	授業	後期のガイダンスを行います。また，各自，夏休み中の活動について報告をしてもらいます。	
	事後学修	後期の（とくにゼミ展示に向けた）制作活動について，計画を立てておきましょう。	2.0
18	事前学修	リクリエーションの内容をゼミ生同士で話し合っておきましょう	2.0
	授業	リクリエーションを通じて，ゼミ生同士の親睦を深めます。	
	事後学修	リクリエーションの内容を振り返っておきましょう。	2.0
19	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けた準備を行いましょう	2.0
	授業	ゼミ展示に向けた展示準備を行います。	
	事後学修	授業時間以外の時間も使って，展示準備を進めましょう。	2.0
20	事前学修	引き続き，大学祭のゼミ展示に向けた準備を行いましょう	2.0
	授業	ゼミ展示にむけた，展示準備の進捗状況を確認します。	
	事後学修	引き続き，大学祭のゼミ展示に向けた準備を行いましょう。	2.0
21	事前学修	ゼミ展示の個人的な振り返りを行っておきましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示の振り返りを行います。	
	事後学修	ゼミ展示の経験を通して，最終制作のための課題を探しましょう。	2.0
22	事前学修	最終の制作物として何を制作するのかの詳細を決めておきましょう。	2.0
	授業	最終制作の内容について検討します。	
	事後学修	検討結果をまとめ，制作の計画を立てておきましょう。	2.0
23	事前学修	制作技術・デザイン勉強会に向けた準備をしておきましょう。	2.0
	授業	最終制作にむけたスキルアップのための，制作技術・デザイン勉強会を行います。	
	事後学修	勉強会の内容を復習しておきましょう。	2.0

24	事前学修	勉強会（二回目）に向けた，予習をしておきましょう。	2.0
	授業	制作技術・デザイン勉強会（二回目）を行います。	
	事後学修	勉強会（二回目）の内容を復習しておきましょう。	2.0
25	事前学修	リクリエーションの内容を決めておきましょう。	2.0
	授業	リクリエーションを実施します。リクリエーションの内容はゼミ生同士で話し合って決めておきます。	
	事後学修	リクリエーションを円滑に行うためには何が必要かなどを考えましょう。	2.0
26	事前学修	リクリエーションの内容で不足することがあれば，対応しておきましょう。	2.0
	授業	引き続き，リクリエーションを行います。	
	事後学修	リクリエーションを振り返りましょう。	2.0
27	事前学修	最終制作をすすめましょう	2.0
	授業	最終制作の作業をすすめます。	
	事後学修	引き続き，最終制作をすすめましょう。	2.0
28	事前学修	最終制作の進捗を報告できるようにしておきましょう。	2.0
	授業	最終制作の進捗報告を行います。	
	事後学修	最終制作のプレゼンテーションに向けた準備を始めましょう。	2.0
29	事前学修	最終制作のプレゼンテーションの準備を完了させましょう。	2.0
	授業	最終制作のプレゼンテーションを行います。	
	事後学修	プレゼンテーションで得られたコメントを参考に，作品のブラッシュアップを行いましょう。	2.0
30	事前学修	これまでのゼミ活動を振り返っておきましょう。	2.0
	授業	後期（３・４学期）のふりかえりを行います。	
	事後学修	ゼミ活動の振り返りを行いましょう。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　％　□小テスト：　％　□レポート：　％　■演習課題：８０％　■その他[ゼミ活動への参加姿勢（発言の積極性等）２０％]
グループワークについては，グループ内での行動について
　　自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE のゼミナールのページを通じて，コメント等をフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	斎藤一ゼミ Web サイト：https://www01.do-johodai.ac.jp/hajime/
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，Web デザイン基礎演習，E ラーニング，Web 制作プロジェクト，ゼミナールⅠ
備考	３・４年生一緒にゼミ活動を行います。３年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

○テーマ

ショートフィルム，映像とデザイン，映像とコミュニケーション，プロダクション・デザイン，映像と教育

○ 概要

映像作品を創り，発表する。伝えたいことは何か，魅力的な作品をいかにして作り出すか，コンセプトをしっかりと詰め，人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ，デジタルビデオカメラ，画像加工ソフト，グラフィックソフト，動画編集ソフト等）を使い，アイデアから脚本，絵コンテ，撮影計画，撮影，動画編集，およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。

※パソコンの基礎知識，Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。

アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。
・ディスカッション
・グループワーク
・プレゼンテーション
・実習、実験、フィールドワーク
・チーム基盤学習
・プロジェクト学習

授業における学修の到達目標

・映像作品の企画・制作ができる
・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる
・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる
・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる
・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス：ゼミナールⅠの活動について説明します	
	事後学修	ゼミ活動（何を制作するのか等）の計画	2.0
2	事前学修	コンテストへの作品応募にむけてのアイデア出し	2.0
	授業	グループ分け、撮影する作品についてのディスカッション	
	事後学修	会議で決まった内容をまとめる	2.0
3	事前学修	新聞記事を選ぶ、発表準備	2.0
	授業	自分が選んだ新聞記事についてのプレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2.0
4	事前学修	コンテストへの応募作品のコンセプト制作	2.0

	授業	コンテストの応募作品のコンセプトの決定、ディスカッション	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備、プロット制作、脚本執筆 会議で決まった内容をまとめる	2.0
5	事前学修	新聞記事を選ぶ、発表準備	2.0
	授業	自分が選んだ新聞記事についてのプレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2.0
6	事前学修	撮影準備、グループ会議	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、映像演出の計画	
	事後学修	撮影スケジュールを立てる	2.0
7	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（前半）（０～１分半）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
8	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（後半）（１分半～３分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
9	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（仮編集）	
	事後学修	映像編集の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
10	事前学修	BGM、SE 等の選曲、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（本編集）	
	事後学修	コンテスト作品の完成、課題のレポート作成	2.0
11	事前学修	フィールドワークの情報収集、グループ分け	2.0
	授業	フィールドワーク（記録撮影）	
	事後学修	撮影の振り返り、撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
12	事前学修	グループディスカッションの準備、テーマの選定	2.0
	授業	グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
13	事前学修	卒業研究企画発表会の情報収集	2.0
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	卒業研究企画発表会の感想をまとめる、レポート作成	2.0
14	事前学修	レクリエーションの準備、内容の検討	2.0
	授業	レクリエーション、グループワーク、ゼミの仲間と親睦を深める	
	事後学修	レクリエーションの内容の振り返り	2.0
15	事前学修	前期のゼミ活動について振り返り（個人）	2.0
	授業	前期の振り返り	
	事後学修	夏休みの作品制作の内容、プロジェクトの進行管理	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

学習の成果（■レポート：5%　■演習課題：80%）、および■その他[15% 出席状況や，学習意欲，理解度，取り組み方，発表，作品，ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価]）
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。 レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映像アニメ・演習、映像デザイン・演習、映画基礎演習、アニメーション基礎演習、映像制作プロジェクト、プロジェクトトライアル１
備考	３・４年生一緒にゼミ活動を行います。４年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	2001 年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに，そこで得た知識，技術，ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

○テーマ

ショートフィルム，映像とデザイン，映像とコミュニケーション，プロダクション・デザイン，映像と教育

○ 概要

映像作品を創り，発表する。伝えたいことは何か，魅力的な作品をいかにして作り出すか，コンセプトをしっかりと詰め，人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ，デジタルビデオカメラ，画像加工ソフト，グラフィックソフト，動画編集ソフト等）を使い，アイデアから脚本，絵コンテ，撮影計画，撮影，動画編集，およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。

※パソコンの基礎知識，Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。

アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。
・ディスカッション
・グループワーク
・プレゼンテーション
・実習、実験、フィールドワーク
・チーム基盤学習
・プロジェクト学習

授業における学修の到達目標

・映像作品の企画・制作ができる
・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる
・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる
・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる
・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	夏休み期間の活動の振り返り	2.0
	授業	後期ガイダンス、夏休みに制作した作品の発表	
	事後学修	後期の制作活動についての計画	2.0
2	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けた準備、ディスカッション	2.0
	授業	ゼミ展示に向けた作品制作	
	事後学修	ゼミ展示の振り返り	2.0
3	事前学修	課題映像作品の事前視聴、ワークシート記入	2.0
	授業	課題映像作品の分析、ブレイクダウン	
	事後学修	課題映像作品の見方のまとめ	2.0
4	事前学修	映画祭の情報収集、スケジューリング	2.0

	授業	フィールドワーク（映画祭参加）	
	事後学修	フィールドワークの振り返り、レポート作成	2.0
5	事前学修	コンテストへの応募作品のコンセプト制作	2.0
	授業	コンテストの応募作品のコンセプトの決定	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備、プロット作成、脚本執筆、グループ会議	2.0
6	事前学修	会議で決まった内容をまとめる	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、グループディスカッション	
	事後学修	脚本のリライト、映像演出のアイデア出し	2.0
7	事前学修	グループディスカッションの準備、テーマのブラッシュアップ	2.0
	授業	グループディスカッション、ファシリテーション	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
8	事前学修	撮影準備、グループディスカッション	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、映像演出の計画	
	事後学修	ショットリストの作成、撮影スケジュールを立てる、仮香盤表の作成	2.0
9	事前学修	キャスティングのイメージを固める	2.0
	授業	キャスティング、テスト制作	
	事後学修	ロケーション・ハンティング、絵コンテ作成、香盤表作成	2.0
10	事前学修	グループディスカッションの準備	2.0
	授業	グループディスカッション、撮影計画	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
11	事前学修	撮影の準備、各種手配	2.0
	授業	撮影（前半）（０～７分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り、チームワークの反省	2.0
12	事前学修	撮影の準備、各種手配、作業のアップデート	2.0
	授業	撮影（後半）（８分～１５分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
13	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（仮編集）	
	事後学修	映像編集の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
14	事前学修	BGM、SE 等の選曲、編集作業、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（本編集）	
	事後学修	コンテスト作品のブラッシュアップ、完成	2.0
15	事前学修	これまでのゼミ活動の振り返り（個人）	2.0
	授業	後期の振り返り（グループ）	
	事後学修	卒業研究にむけた準備、レポート作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

1 年間の成果（■レポート：5%　■演習課題：80%）、および■その他[15% 出席状況や，学習意欲，理解度，取り組み方，発表，作品，ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価]）	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。 レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映像アニメ・演習、映像デザイン・演習、映画基礎演習、アニメーション基礎演習、映像制作プロジェクト、プロジェクトトライアル 1
備考	3 ・ 4 年生一緒にゼミ活動を行います。 3 年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	2001 年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに，そこで得た知識，技術，ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	島田 英二(137研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

○テーマ

ショートフィルム，映像とデザイン，映像とコミュニケーション，プロダクション・デザイン，映像と教育

○ 概要

映像作品を創り，発表する。伝えたいことは何か，魅力的な作品をいかにして作り出すか，コンセプトをしっかりと詰め，人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ，デジタルビデオカメラ，画像加工ソフト，グラフィックソフト，動画編集ソフト等）を使い，アイデアから脚本，絵コンテ，撮影計画，撮影，動画編集，およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。

※パソコンの基礎知識，Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。

アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。
・ディスカッション
・グループワーク
・プレゼンテーション
・実習、実験、フィールドワーク
・チーム基盤学習
・プロジェクト学習

授業における学修の到達目標

・映像作品の企画・制作ができる
・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる
・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる
・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる
・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT技術を使いこなすことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス：ゼミナールⅡの活動について説明します	
	事後学修	ゼミ活動（何を制作するのか等）の計画	2.0
2	事前学修	コンテストへの作品応募にむけてのアイデア出し	2.0
	授業	グループ分け、撮影する作品についてのディスカッション	
	事後学修	会議で決まった内容をまとめる	2.0
3	事前学修	3年生のプレゼンテーションのコーチングの準備、情報収集	2.0
	授業	3年生のプレゼンテーションへの参加、コーチング	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2.0

4	事前学修	コンセプトメイキングについて調べる、企画書のアイデア出し	2.0
	授業	コンセプトメイキングについて	
	事後学修	コンセプトメイキングについてまとめる、作品制作の企画書の作成（ラフ制作）	2.0
5	事前学修	作品制作の企画書（初回）の作成	2.0
	授業	作品制作の企画（初回）のプレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2.0
6	事前学修	既存作品の調査	2.0
	授業	既存作品の調査、発表	
	事後学修	フィードバックを活かし、さらなる既存作品の調査	2.0
7	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	３年生の撮影実習（前半）（０～１分半）のサポート	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 コーチング、ファシリテーション	2.0
8	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	３年生の撮影実習（後半）（１分半～３分）のサポート	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
9	事前学修	二次調査をはじめる	2.0
	授業	既存作品の調査、二次調査発表	
	事後学修	二次調査を更に掘り下げる	2.0
10	事前学修	作品制作の企画書（２回目）の作成	2.0
	授業	作品制作の企画（２回目）のプレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2.0
11	事前学修	フィールドワークの情報収集、グループ分け	2.0
	授業	フィールドワーク（記録撮影）	
	事後学修	撮影の振り返り、撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
12	事前学修	企画書のブラッシュアップ、プレゼンテーションの構成を作成	2.0
	授業	３年生のグループディスカッションのコーチング、 プレゼンテーション練習	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、 スライドのブラッシュアップ	2.0
13	事前学修	卒業研究企画発表会の準備、スライドのブラッシュアップ	2.0
	授業	卒業研究企画発表	
	事後学修	卒業研究企画発表会の感想をまとめる、レポート作成	2.0
14	事前学修	レクリエーションの準備、内容の検討	2.0
	授業	レクリエーション、グループワーク、ゼミの仲間と親睦を深める	
	事後学修	レクリエーションの内容の振り返り	2.0
15	事前学修	前期のゼミ活動について振り返り（個人）	2.0
	授業	前期の振り返り、今後のスケジュール	
	事後学修	夏休みの作品制作の内容、プロジェクトの進行管理	2.0
16	事前学修	夏休み期間の活動の振り返り	2.0

	授業	後期ガイダンス、夏休みに制作した作品の発表、進捗報告	
	事後学修	後期の制作活動についての計画	2.0
17	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けた準備、ディスカッション	2.0
	授業	ゼミ展示に向けた作品制作	
	事後学修	ゼミ展示の振り返り	2.0
18	事前学修	課題映像作品の事前視聴、ワークシート記入	2.0
	授業	課題映像作品の分析、ブレイクダウン	
	事後学修	課題映像作品の見方のまとめ	2.0
19	事前学修	映画祭の情報収集、スケジューリング	2.0
	授業	フィールドワーク（映画祭参加）	
	事後学修	フィールドワークの振り返り、レポート作成	2.0
20	事前学修	小論文の執筆、テスト、プロトタイプ制作	2.0
	授業	制作物の進捗発表（前半のグループ）、小論文の作成	
	事後学修	作業を進める	2.0
21	事前学修	小論文の執筆、テスト、プロトタイプ制作	2.0
	授業	制作物の進捗発表（後半のグループ）、小論文の作成	
	事後学修	作業を進める	2.0
22	事前学修	技術調査、進捗報告の準備	2.0
	授業	技術調査の発表（前半のグループ）、参考作品のブレイクダウン	
	事後学修	フィードバックをまとめる、制作物のブラッシュアップ	2.0
23	事前学修	技術調査、進捗報告の準備	2.0
	授業	技術調査の発表（後半のグループ）、参考作品のブレイクダウン	
	事後学修	フィードバックをまとめる、制作物のブラッシュアップ	2.0
24	事前学修	小論文の執筆、制作・開発プロトタイプ作成、進捗発表の準備	2.0
	授業	発表（前半のグループ）、制作物の進捗発表、小論文の作成	
	事後学修	作業を進める	2.0
25	事前学修	小論文の執筆、制作・開発プロトタイプ作成、進捗発表の準備	2.0
	授業	発表（後半のグループ）、制作物の進捗発表、小論文の作成	
	事後学修	作業を進める	2.0
26	事前学修	作品制作、進捗発表の準備	2.0
	授業	制作物の進捗発表、小論文の作成	
	事後学修	作業を進める	2.0
27	事前学修	作品制作、進捗発表の準備	2.0
	授業	制作物の進捗発表、小論文の作成	
	事後学修	作業を進める	2.0
28	事前学修	最終プレゼンテーション準備、資料制作	2.0
	授業	最終プレゼンテーション（前半グループ） 講評	
	事後学修	最終プレゼンテーションの振り返り	2.0
29	事前学修	最終プレゼンテーション準備、資料制作	2.0

	授業	最終プレゼンテーション（後半グループ） 講評	
	事後学修	最終プレゼンテーションの振り返り	2.0
30	事前学修	これまでのゼミ活動の振り返り（個人）	2.0
	授業	後期の振り返り（グループ）	
	事後学修	学科合同発表会にむけた準備、レポート作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

1 年間の成果（■レポート：5%　■演習課題：80%）、および■その他[15% 出席状況や，学習意欲，理解度，取り組み方，発表，作品，ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価]）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題、発表等へは随時解説および採点を行います。 レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映像アニメ・演習、映像デザイン・演習、映画基礎演習、アニメーション基礎演習、映像制作プロジェクト、プロジェクトトライアル 1
備考	３・４年生一緒にゼミ活動を行います。３年生のゼミの時間も時間を空けておいてください。
担当教員の実務経験	2001 年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに，そこで得た知識，技術，ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

ゼミの全体研究として，ビジュアルデザインとプロモーション・UX 研究を中心に行う。
その対象となる商品あるいは会社の分析，マーケティングリサーチによる市場の分析，プロモーション企画とコンセプトの作成，それらを的確に表現したデザイン表現の展開がメインテーマとなっている。
展開方法は V.I の作成，グラフィックデザイン，Web デザイン，イラストレーション，アニメーションなど多岐にわたり，様々な表現を組み合わせて展開することが求められる。
上記の研究において，研究成果を発表する手段としてのプレゼンテーション技術にも磨きをかける。特に Power point 等を使ってのプレゼンテーションでは，画像制作における効果的な表現と，的確で明快な口頭説明の技術を習得する。

ゼミナールⅠでは課題に対する分析・企画を行い、中間発表を実施した上でゼミナールⅡの最終プレゼンに向けた改善点を明確にする。

授業における学修の到達目標

・与えられた課題に対し分析・企画の行い方を身に着ける
・自分が考えた企画を相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスの確認	2.0
	授業	・ガイダンス ・メンバー自己紹介（アイスブレイク）	
	事後学修	特になし	0.0
2	事前学修	特になし	0.0
	授業	広告研究 ・概要説明、チーム決定	
	事後学修	チーム内でのミーティング・概要の振り返り	2.0
3	事前学修	研究対象となりうる商品・サービスを調査	2.0
	授業	広告研究 ・対象となるサービス決定	
	事後学修	メンバーと話し合った内容のまとめ	2.0
4	事前学修	決定したサービスに関する情報を調べる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（1）データ収集	
	事後学修	収集したデータのまとめ	2.0
5	事前学修	対象サービスのターゲット像を考える	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（2）仮コンセプトの決定	
	事後学修	決定したコンセプトをメンバー内で共有できているか確認	2.0

6	事前学修	アンケート項目を考える	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（3）アンケート内容の作成	
	事後学修	アンケート内容の整理	2.0
7	事前学修	アンケート内容をまとめた資料の作成	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（4）アンケート内容の修正	
	事後学修	アンケートの修正内容を確認する	2.0
8	事前学修	アンケートの修正内容を反映させる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（5）アンケート内容の確定	
	事後学修	配布用の用紙のデザインをまとめる	2.0
9	事前学修	アンケート実施計画をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（6）アンケート実施	
	事後学修	アンケート実施に関する反省	2.0
10	事前学修	アンケート結果をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（6）アンケート結果集計	
	事後学修	集計した情報をまとめる	2.0
11	事前学修	集計した情報を見て気になるところをまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（6）アンケート結果分析	
	事後学修	分析結果についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
12	事前学修	分析内容を元にどんなコンセプトが適切かアイデアをまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・調査内容を踏まえた企画の作成（1）コンセプト決定	
	事後学修	決定したコンセプトについてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
13	事前学修	広告企画アイデアをまとめる	4.0
	授業	広告研究 ・調査内容を踏まえた企画の作成（2）広告企画制作	
	事後学修	企画内容についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
14	事前学修	広告企画内容のプレゼンテーション（中間報告）用資料の作成	4.0
	授業	広告研究 ・広告企画プレゼンテーション（中間報告）	
	事後学修	プレゼンテ－ションの反省	2.0
15	事前学修	プレゼンテーションでもらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・広告企画の修正	
	事後学修	もれなく修正できているか確認	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験：　0%　□小テスト：　0　%　□レポート：　0%　□演習課題：　0%　■その他[グループワーク 50%　プレ

ゼンテーション 50% ］	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
進捗をプレゼンテーションしてもらい、そのコメントによってフィードバックを行う	
教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習 グラフィック制作プロジェクト
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わりない広告やコンテンツ制作の知識を学生に伝える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

ゼミの全体研究として，ビジュアルデザインとプロモーション・UX 研究を中心に行う。
その対象となる商品あるいは会社の分析，マーケティングリサーチによる市場の分析，プロモーション企画とコンセプトの作成，それらを的確に表現したデザイン表現の展開がメインテーマとなっている。
展開方法は V.I の作成，グラフィックデザイン，Web デザイン，イラストレーション，アニメーションなど多岐にわたり，様々な表現を組み合わせて展開することが求められる。
上記の研究において，研究成果を発表する手段としてのプレゼンテーション技術にも磨きをかける。特に Power point 等を使ってのプレゼンテーションでは，画像制作における効果的な表現と，的確で明快な口頭説明の技術を習得する。

この講義では、ゼミナールⅠで中間報告まで行った企画の改善とビジュアルデザインの制作、最終プレゼンを実施する。

授業における学修の到達目標

予算やスケジュールなど具体的に実行できる企画内容の制作スキルを身に着ける
企画に沿ったビジュアルデザインの制作スキルを身に着ける
相手に理解してもらいやすいプレゼンテーションスキルを身に着ける

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	事前学習　　ゼミナールⅠ　広告企画の最終確認	2.0
	授業	広告研究 ・広告企画の確定	
	事後学修	確定した広告企画についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
2	事前学修	今後のタスクをまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①役割分担・スケジュールの確定	
	事後学修	役割分担・スケジュールを資料にまとめる	2.0
3	事前学修	自分担当の作業をスケジュールどおりに完了する	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①メインビジュアル　ラフの制作	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
4	事前学修	ラフを修正する	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①メインビジュアル　ラフの発表	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
5	事前学修	もれなく修正できているか確認	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①メインビジュアル　ラフの修正	
	事後学修	ラフの最終確認	2.0

6	事前学修	メインビジュアルを完成させる	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①メインビジュアル　完成	
	事後学修	確定したメインビジュアルについてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
7	事前学修	自分担当の作業をスケジュールどおりに完了する	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
8	事前学修	途中経過発表準備	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの途中経過発表	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
9	事前学修	もれなく修正できているか確認	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの修正	
	事後学修	最終確認	2.0
10	事前学修	プレゼンテーション企画書の内容を考える	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション企画書作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
11	事前学修	発表の役割分担	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション発表練習	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
12	事前学修	発表練習	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション発表	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
13	事前学修	もれなく修正できているか確認	2.0
	授業	広告研究 ・これまでの活動の報告書作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
14	事前学修	作成した報告書の見直し	2.0
	授業	広告研究 ・これまでの活動の報告書修正	
	事後学修	もれなく修正できているか確認	2.0
15	事前学修	これまでの活動の反省	2.0
	授業	広告研究 ・活動のふりかえり・まとめ	
	事後学修	対象サービスの企業へ報告書の送付	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験：　0%　□小テスト：　0　%　□レポート：　0%　□演習課題：　0%　■その他[グループワーク 50%　プレ

ゼンテーション 50% ］	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
企画・作品をプレゼンテーションしてもらい、そのコメントによってフィードバックを行う	
教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習 グラフィック制作プロジェクト ゼミナールⅠ
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わりない広告やコンテンツ制作の知識を学生に伝える。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	杉澤 愛美(133研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作
個人・またはチームでの学外コンテスト応募を目的とした作品制作を行う。
1年間通してコンテスト・イベント情報のリサーチ、制作スケジュールの決定、制作、応募を行う。参加するコンテスト・イベントの種類は問わないが、締切・規模によって複数のコンテスト応募を推奨する場合がある。
スケジュールと照らし合わせ、現在の進捗を都度ゼミ内で報告・ディスカッションを行う。また、活動内容をまとめプレゼンテーションを行う。

※授業計画は実施内容を一連の活動の流れとして記載するが、各コンテスト・イベントの開催時期によってそれぞれのスケジュールは前後する。

授業における学修の到達目標

・自発的に課題設定、計画、制作までの一連の流れを行うことができる
・他の学生の発表をみて、客観的な意見を伝えることができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する	2.0
	授業	ガイダンス　今後のスケジュール	
	事後学修	自分でやりたい制作ジャンルを検討する	2.0
2	事前学修	コンテスト・イベントの事前リサーチを行う	2.0
	授業	参加コンテスト・イベントの決定 個人制作、チーム制作どちらかを確定する	
	事後学修	参加概要を良く確認する	2.0
3	事前学修	自身の1年間のスケジュールを決める	2.0
	授業	コンテスト・イベントまでのスケジュールの確定	
	事後学修	改めて見直し、再修正を行う	2.0
4	事前学修	レクリエーション内容の検討	2.0
	授業	ゼミメンバー内のレクリエーション実施	
	事後学修	レクリエーションの振り返りを行う	2.0
5	事前学修	制作物のアイデアを考える	2.0
	授業	企画①　制作物のアイデア発表	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
6	事前学修	修正にあたって追加調査を行う	2.0
	授業	企画②　制作物のアイデアの修正	
	事後学修	改めて見直し、再修正を行う	2.0

7	事前学修	プレゼンテーション資料にまとめる	2.0
	授業	企画③　修正を加えた制作物のアイデアの発表	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
8	事前学修	プレゼンテーション資料にまとめる	2.0
	授業	企画④　制作物アイデアの確定	
	事後学修	制作にあたって足りないスキルを調べる	2.0
9	事前学修	足りないスキルについて自己学習を行う	2.0
	授業	スキルに対する自己学習で不明な点をゼミメンバー、教員に共有し、対応策を検討する。（図書の選定、参考 Web サイト探しなど）	
	事後学修	もらった意見に伴い、自己学習方法を変更し、学習する。	2.0
10	事前学修	今後の詳細な制作スケジュールを作成する	2.0
	授業	制作①ラフ案の作成　進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
11	事前学修	改善点をラフに反映させる	2.0
	授業	制作②ラフ案の修正　進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	プロトタイプの作成にとりかかる	2.0
	授業	制作③プロトタイプの作成　進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	プロトタイプの改善を行う	2.0
	授業	制作④プロトタイプの修正　進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
14	事前学修	本制作に着手し、進行させる	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 （illustrator・Photoshop 等のツールを使った制作 ）	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	制作物の改善を行う	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 （illustrator・Photoshop 等のツールを使った制作の修正 ）	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
16	事前学修	制作物の改善を行う	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 （テスト可能なレベルまで完成させる ）	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
17	事前学修	制作物の改善を行う	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 （簡易なユーザーテストの実施）	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
18	事前学修	制作物の改善を行う	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 （ユーザーテスト結果の改善）	

	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
19	事前学修	制作物の改善を行う	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 （制作物の完成）	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
20	事前学修	応募概要の復習	2.0
	授業	応募概要に則っているか確認し応募準備を行う	
	事後学修	講義終了後あらためて見直し、応募を行う	2.0
21	事前学修	プレゼンテーションの準備を行う	2.0
	授業	応募内容と応募結果報告（プレゼンテーション）を行う	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
22	事前学修	プレゼンテーションの準備を行う	2.0
	授業	これまでのゼミ活動の報告（プレゼンテーション）を行う	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
23	事前学修	これまでの活動を振り返る	2.0
	授業	ゼミ活動冊子の内容計画・役割分担を行う	
	事後学修	共通で統一しなければならない要素（デザインコンセプトなど）を決定、共有する	2.0
24	事前学修	各ページ毎に必要な素材を洗い出す	2.0
	授業	ゼミ活動冊子に必要な素材（写真、画像）を収集・整理する	
	事後学修	足りない素材はないか再度チェックする	2.0
25	事前学修	ゼミ活動冊子の制作を行う（ラフ制作）	2.0
	授業	ゼミ活動冊子ラフの進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
26	事前学修	ラフを元に本制作（Illustrator、Photoshop 等を使用したデザイン制作）を行う	2.0
	授業	ゼミ活動冊子の進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
27	事前学修	役割毎にページ制作を進める	2.0
	授業	ゼミ活動冊子の進捗報告を行う	
	事後学修	進捗の芳しくないページに関してのサポートを行う	2.0
28	事前学修	役割毎にページ制作を進める	2.0
	授業	ゼミ活動冊子の内容を修正する	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
29	事前学修	完成したページを集約する	2.0
	授業	ゼミ活動冊子のデータ入稿を完了させる	
	事後学修	あらためてデータに不備がないかチェックする	2.0
30	事前学修	これまでのゼミ活動を振り返る	2.0
	授業	ゼミでの活動の振り返りを全体で口頭発表する	
	事後学修	ゼミ活動の振り返りを行う	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： 0% □小テスト： 0% □レポート： 0% □演習課題： 0% ■その他[プレゼンテーション・受講態度]100%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
プレゼンテーションへのコメントによりフィードバックを行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務に近い世の中に必要とされるコンテンツ制作の知識を学生に伝える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。最初の数回は各種基礎技術の講義と演習を行い，モバイルと Web のアプリでどのようなことができるのかを把握します。また，UI/UX という概念について学習します。その後，各自のテーマを決め，それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら，対象のプラットフォームに対する理解や，プログラミング技術に対する理解を深めます。

授業における学修の到達目標

・モバイルアプリまたは Web アプリにかんする基礎的な知識を説明できる
・基礎的なモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる
・Web API を用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる
・データベースを用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる
・UI/UX とは何か説明できる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスや事前に通知されているゼミ専用ページの資料を読む	2
	授業	ガイダンス：ゼミナールⅠを行うにあたって必要なものの説明と作業	
	事後学修	ガイダンスで説明されたものを各自次回までに準備する	2
2	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの基本	
	事後学修	自分の作りたいアプリに向いているかどうかの検討を行う	2
3	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web アプリの基本	
	事後学修	自分の作りたいアプリに向いているかどうかの検討を行う	2
4	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web API を利用した Web アプリ	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
5	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web アプリにおける認証・認可	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用するかどうか，必要性の検討を行う	2
6	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	画面遷移：モバイルアプリと Web アプリにおける画面遷移について理解する	
	事後学修	自分の作りたいアプリではどのように行うべきかを検討する	2
7	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリにおける「制約」という考え方	
	事後学修	自分の作りたいアプリではどのように行うべきかを検討する	2
8	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2

	授業	Web API を利用したモバイルアプリ	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
9	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	データベースの基本	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
10	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web アプリにおけるデータベース操作	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
11	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリにおけるデータベース操作	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
12	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	UI 設計の基本	
	事後学修	自分の作りたいアプリに合わせ，主要部分の UI 設計を（試しに）行ってみる	2
13	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	夏休み課題の検討	
	事後学修	ゼミでの議論をもとに夏休み課題の内容を検討しなおし，その結果をゼミ専用ページに書く	2
14	事前学修	公開された発表会予定から，どの発表を見るのかを検討する	2
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	聴講した発表の内容をまとめる。また，疑問に思った点や自分のアプリに採用したいと思った点などがあれば調査する	2
15	事前学修	前回の事後学習で行った内容をゼミ専用ページにまとめる	2
	授業	卒業研究企画発表会について議論	
	事後学修	議論を振り返り，新たにわかったことや後日調査すべきことなどをまとめておく	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0%　□小テスト：0%　□レポート：0%　■演習課題：100%　■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミナール I の時間にフィードバックする。または，メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	ゼミ中に適宜提示する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。各自のテーマ（作成するアプリ）を決め，それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら，対象のプラットフォームに対する理解や，プログラミング技術に対する理解を深めます。

授業における学修の到達目標

・デバイスに応じた UI を設計できる
・Web アプリをデプロイできる
・バージョン管理システムを利用できる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	発表資料の作成と発表練習を行う	2
	授業	夏休み課題の成果発表	
	事後学修	ゼミ中に受けた質問等で答えきれなかった事項について調査する	2
2	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web アプリのデプロイ	
	事後学修	他のアプリ（たとえば夏休み課題等）のデプロイについて試してみる	2
3	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	バージョン管理システム git の導入	
	事後学修	別のソースコードを git で管理してみる（またはその事前調査を行う）	2
4	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	バージョン管理システム Web アプリの利用	
	事後学修	自作アプリに適用可能かを検討し，可能であれば適用する。その結果をゼミ専用ページにまとめる	2
5	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	後期に制作するアプリの検討	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとに，アプリの企画をブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
6	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web アプリの設計（機能）	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
7	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web アプリの設計（画面遷移）	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2

8	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成した Web アプリのデプロイ	
	事後学修	デプロイにおける注意点や実際に起こったトラブルなどをゼミ専用ページにまとめる	2
9	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成した Web アプリの講評・議論	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘等について，答えきれなかった項目について調査し，ゼミ専用ページにまとめる	2
10	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの設計（機能）	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
11	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの設計（画面遷移）	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
12	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの開発	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
13	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成したモバイルアプリのデプロイ	
	事後学修	デプロイにおける注意点や実際に起こったトラブルなどをゼミ専用ページにまとめる	2
14	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成したモバイルアプリの講評・議論	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘等について，答えきれなかった項目について調査し，ゼミ専用ページにまとめる	2
15	事前学修	資料を読み，ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	4 年生で行う課題のテーマ選定	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘を受けて，テーマの細かな内容を検討しなおし，その結果をゼミ専用ページにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0%　□小テスト：0%　□レポート：0%　■演習課題：100%　■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミナール II の時間にフィードバックする。または，メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	ゼミ中に適宜提示する
単位修得が望ましい科目	ゼミナール I
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	谷口 文威(226研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

テーマ：独自性を持ったアプリケーションの制作

概要：
なんらかの独自性を持つアプリケーション制作（主にモバイルアプリとWebアプリ）と，それにかんする論文を執筆します。また，その成果を卒業研究発表会でプレゼンテーションを行います。独自性を持ったアプリケーションを作成するためには，従来のアプリケーションの実現方法（実装方法）や，技術的な背景，関連する論文等を調査する必要があります。この授業では，その調査結果を踏まえたディスカッションを経て，有用なアプリケーションを企画し，計画をたてて作成し，最終的に卒業論文としてまとめます。

授業における学修の到達目標

・自らのアイデアを実現可能なものに落とし込む能力を持つ
・ユーザインターフェイスに関する深い理解を持つ
・関連する論文を調査でき，調査結果をまとめることができる
・プレゼンテーションや論文を通して，自らの考えを他者に説明できる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	3年次に行ったゼミナールⅠの内容をもとに，興味のある題材をいくつか選択し，その題材にもとづいた研究テーマとなりうるものを複数考案する。	2
	授業	卒業研究テーマの検討	
	事後学修	議論の結果を踏まえて，複数の研究テーマにかんしての情報を収集する。	2
2	事前学修	収集した結果についてまとめる。まとめたそれぞれの研究テーマの実現可能性と有用性を考慮して優先順位をつけたものを準備する。	2
	授業	調査した結果の報告とアプリケーション案の議論	
	事後学修	議論した結果を踏まえて，アプリケーションの実装に必要な背景技術を調査する。	2
3	事前学修	調査した要素技術を用いたサンプルプログラムを作成する	2
	授業	サンプルプログラムのデモを行う。	
	事後学修	デモ後の議論をもとに，研究テーマの候補を絞る	1
4	事前学修	絞られた研究テーマを実現するアプリケーション案を複数考案する	3
	授業	研究テーマの決定と，アプリケーション案の策定	
	事後学修	議論にもとづき，決定したテーマについて一層の調査が必要となる事柄をリストアップする。	2
5	事前学修	リストアップした結果を調査する	2
	授業	調査報告と議論	
	事後学修	議論を通じて深まったテーマへの理解をもとに，テーマをアプリケーションとして実現させるために必要な機能を検討する。	2
6	事前学修	検討した機能に特化したサンプルプログラムを作成する。対象デバイスは自由でよい。	2

	授業	検討機能のサンプルプログラムのデモを行う	
	事後学修	デモ後の議論をもとに，検討機能の改良を検討する	2
7	事前学修	検討した改良を実装する	2
	授業	改良した機能のデモ	
	事後学修	デモ後の議論をもとに，アプリケーション案を検討し，その対象ユーザと対象デバイスも検討する	2
8	事前学修	検討したアプリケーションと対象ユーザ，対象デバイスをまとめる	2
	授業	制作するアプリケーションのユーザと，対象デバイスの発表	
	事後学修	議論をもとに，対象ユーザと対象デバイスの再検討を行う。	2
9	事前学修	再検討した結果をまとめる	2
	授業	検討した結果の発表と，アプリケーション案の決定	
	事後学修	議論後，決定したアプリケーション案を実現させるためのプロトタイプを検討する。	2
10	事前学修	検討したプロトタイプを作成する	2
	授業	作成したプロトタイプのデモ	
	事後学修	デモ後の議論をもとに，プロトタイプの評価方法を検討する。	2
11	事前学修	検討した評価方法をもとに，評価項目を作成する	2
	授業	プロトタイプの評価	
	事後学修	評価と議論をもとに，プロトタイプの改良の余地を検討する	2
12	事前学修	検討した改良の実装方法についてまとめる	2
	授業	検討したプロトタイプの改良の実装方法の発表	
	事後学修	議論をもとに，プロトタイプの改良を行う	2
13	事前学修	改良したプロトタイプのデモ発表の準備を行う	2
	授業	プロトタイプの改良の発表	
	事後学修	発表後の議論をもとに，卒業研究企画発表会で発表する内容を検討する	2
14	事前学修	発表者は発表の準備を行う。聴講者は，発表者リストをもとに，自分の聴講する発表を選定する	2
	授業	卒業研究企画発表会（1 週目）の聴講と発表	
	事後学修	発表者は発表会で行われた質疑をまとめ，夏休み中に行うことを検討する。聴講者は聴講した発表の内容をまとめる。	2
15	事前学修	発表者：発表の準備を行う。 聴講者：発表者リストをもとに，自分の聴講する発表を選定する	2
	授業	卒業研究企画発表会（2 週目）の聴講と発表	
	事後学修	発表者は発表会で行われた質疑をまとめ，夏休み中に行うことを検討する。聴講者は聴講した発表の内容をまとめる。	2
16	事前学修	夏休みの成果をスライドにまとめる	2
	授業	夏休みの成果の発表	
	事後学修	議論をもとに，研究テーマに沿ったプロトタイプの製作を進めると同時に，アプリケーションとして実現するために必要な要件を検討する	2
17	事前学修	検討した要件をまとめる	2
	授業	プロトタイプを，完成したアプリケーションとするための要件を発表する	
	事後学修	発表後の議論をもとに，完成アプリケーションの要件をまとめる	2
18	事前学修	完成アプリケーションの要件をもとに，アプリケーションの作成を進める	2

	授業	アプリケーション作成の進捗報告	
	事後学修	議論をもとに，アプリケーション作成を引き続き進める	2
19	事前学修	策定したアプリケーション要件を満たしているかどうかの最終チェックを行い，チェックリストとしてまとめる	2
	授業	完成アプリケーションのデモ	
	事後学修	議論をもとに，アプリケーションを完成させる	2
20	事前学修	アプリケーションの内容と研究テーマから，小論の構成を検討する	2
	授業	検討した卒業論文（小論）の構成の発表	
	事後学修	議論をもとに，小論に盛り込む内容についてまとめる	3
21	事前学修	まとめた内容を事前にゼミ専用ページにアップロードしておく	1
	授業	卒業論文（小論）の内容の発表と，「卒業論文の手引き」の注意点の確認	
	事後学修	確認した「卒業論文の手引き」を踏まえ，小論の執筆に必要な各種ファイルを準備する	1
22	事前学修	小論の草案を作成する	3
	授業	卒業論文（小論）の執筆	
	事後学修	議論を行い，小論の改良を行う	2
23	事前学修	改良案をもとに，小論を引き続き執筆する	2
	授業	卒業論文（小論）の相互チェック	
	事後学修	相互チェックによって得られた視点から，小論の改善案を検討する	2
24	事前学修	検討した改善案を盛り込み，小論を引き続き執筆する	2
	授業	卒業論文（小論）の改良	
	事後学修	議論を行い，小論を完成する	2
25	事前学修	卒業論文（小論）にかかわる諸々の締切や，今後のスケジュールについて，ゼミ専用ページなどで確認しておく	2
	授業	卒業研究のスケジュールを再確認	
	事後学修	確認したスケジュールをもとに，今後の予定に見直しをかける	2
26	事前学修	現状の小論をもとに，卒業研究発表会の発表内容を検討する	2
	授業	卒業研究発表会の発表内容の決定	
	事後学修	決定した内容をもとに，発表会資料の構成を検討する	2
27	事前学修	検討した構成をもとに，発表資料を作成する。作成した資料はゼミ専用ページに事前にアップロードしておく	2
	授業	卒業研究発表会資料の事前プレゼンテーションと議論	
	事後学修	議論を踏まえて資料とを改善し，指摘された事項についての回答内容についても検討しておく	2
28	事前学修	発表者は発表の準備を行う。発表しない者は，次回の自分の発表準備と，発表練習自体の準備作業を行う。	2
	授業	卒業研究発表会の練習（1 週目）	
	事後学修	発表者は練習で指摘された内容にかんして修正を行う。また，発表時間に注意し，本番に向けて最終調整を行う。次回の発表者は，今回の発表を聴講した上で学んだことをまとめておく。	2
29	事前学修	発表者は発表の準備を行う。発表しない者（前回発表者）は，発表練習自体の準備作業を行う。	2
	授業	卒業研究発表会の練習（2 週目）	
	事後学修	発表者は練習で指摘された内容にかんして修正を行う。また，発表時間に注意し，本番に向けて最終調整を行う。	2

30	事前学修	卒業研究発表会の必要事項を再度確認し，ゼミ教員に指定された発表に持参する物を準備する。	1
	授業	卒業研究発表会	
	事後学修	卒業研究発表会で指摘された内容についてまとめ，可能であれば後日説明する。また，今後の課題とすべきものを検討し，まとめる。	3

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□■試験：　　%　□■小テスト：　　%　□■レポート：　%　□■演習課題：　　%
■その他[制作物：50%，小論：30%，プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミナールⅠの時間にフィードバックする。または，メールおよびゼミナールⅠ用の Web サイトにおいて個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	Web プログラミング演習，ゼミナールⅠ
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

複数のプロジェクトチームに分かれ，３・４年生合同チームでプロジェクトを遂行します。
グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。

授業における学修の到達目標

市民としての倫理観と自覚を持ち，社会に貢献できる人材や社会，文化，倫理的な側面を理解し，国際感覚に優れた人材育成を目指し，以下の点に着目して学習することを目標とする。
グループワークがスムーズに行える。
クリティカルに考える力を身につけ，ディベートやディスカッションが活発に行える。
プロジェクト管理の基礎を身につける。
プレゼンテーション能力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	自己紹介プレゼン準備	4
	授業	ガイダンス・自己紹介プレゼン（卒研を行うものは、卒研テーマの第一案の発表を含む）	
	事後学修	プロジェクトテーマについて、検討する。	2
2	事前学修	プロジェクトテーマについて、検討する。	2
	授業	各種プロジェクトの進め方・プロジェクト申請の仕方・MCC の使い方を学ぶ	
	事後学修	復習	1
3	事前学修	指定された新聞記事について，意見をまとめてくる。	2
	授業	記事を基にディスカッションを行い，クリティカルシンキングの練習を行う。	
	事後学修	グループワークを振り返る。	1
4	事前学修	指定された雑誌の記事を読み，関連する文献を調べて，問題点や解決策について意見をまとめてくる。	4
	授業	記事をグループでマインドマップにまとめ，議論する。参加プロジェクトを決定する。	
	事後学修	グループワークを振り返る。	1
5	事前学修	参加プロジェクトについて検討する。	2
	授業	プロジェクトの企画案を練る。	
	事後学修	企画案について再考する。	2
6	事前学修	企画案について再考する。	2
	授業	企画の設計	
	事後学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。	2
7	事前学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。	2
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
8	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4

	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
9	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	中間発表	
	事後学修	振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プレゼンの準備	4
	授業	期末発表	
	事後学修	発表会の振り返り	1
15	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：10%　□演習課題：　　%　■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門 I，発想法演習，プロジェクトトライアル I 卒業研究を希望する学生は，行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり，根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は，年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので，デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・3 年生全員の応用的な課題として，ゼミホームページなどを制作してもらいます。 ・芸術の森など，各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は，1993 年から 1996 年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として，総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案，バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また，1998 年以降は高齢者福祉施設の計画と

	施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し，新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし，プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え，受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

複数のプロジェクトチームに分かれ，３・４年生合同チームでプロジェクトを遂行します。
グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。

授業における学修の到達目標

市民としての倫理観と自覚を持ち，社会に貢献できる人材や社会，文化，倫理的な側面を理解し，国際感覚に優れた人材育成を目指し，以下の点に着目して学習することを目標とする。
グループワークがスムーズに行える。
クリティカルに考える力を身につけ，ディベートやディスカッションが活発に行える。
プロジェクト管理の基礎を身につける。
プレゼンテーション能力を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
2	事前学修	ゼミ展示に関するアイディア出し	2
	授業	ゼミ展示に関する議論	
	事後学修	ゼミ展示についてのアイディア深掘り	2
3	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	2
	授業	ゼミ展示の決定・プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
4	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
5	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
6	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
7	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	4
8	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	後期中間発表	

	事後学修	発表会の振り返り	1
9	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
15	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	最終発表会	
	事後学修	振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：10%　□演習課題：　　%　■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し，適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門 I，発想法演習，プロジェクトトライアル I 卒業研究を希望する学生は，行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり，根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は，年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので，デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・3 年生全員の応用的な課題として，ゼミホームページなどを制作してもらいます。 ・芸術の森など，各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は，1993 年から 1996 年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として，総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案，バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また，1998 年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し，新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。

	これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし，プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え，受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	隼田 尚彦(136研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

ゼミナールⅡでは，下級生を指導し，グループワークやディベートを中心に，卒業研究やプロジェクト活動をスムーズに行えるようなスキルを身につけます。受講者の特性に合わせて，課題を設定します。

授業における学修の到達目標

市民としての倫理観と自覚を持ち，社会に貢献できる人材や社会，文化，倫理的な側面を理解し，国際感覚に優れた人材育成を目指し，以下の点に着目して学習することを目標とする。
グループワークがスムーズに行える。
クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。
プロジェクト管理の基礎を身につける。
プレゼンテーション能力を身につける。
また、ゼミナールⅠを受講する3年生と共に行うグループワークを通じて，リーダーシップを学ぶ。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	自己紹介プレゼン準備	4
	授業	ガイダンス・自己紹介プレゼン（卒研を行うものは、卒研テーマの第一案の発表を含む）	
	事後学修	プロジェクトテーマについて、検討する。	2
2	事前学修	プロジェクトテーマについて、検討する。	2
	授業	各種プロジェクトの進め方・プロジェクト申請の仕方・MCCの使い方を学ぶ	
	事後学修	復習	1
3	事前学修	指定された新聞記事について，意見をまとめてくる。	2.0
	授業	記事を基にディスカッションを行い，クリティカルシンキングの練習を行う。	
	事後学修	グループワークを振り返る。	1
4	事前学修	指定された雑誌の記事を読み，関連する文献を調べて，問題点や解決策について意見をまとめてくる。	4
	授業	記事をグループでマインドマップにまとめ，議論する。参加プロジェクトを決定する。	
	事後学修	グループワークを振り返る。	1
5	事前学修	参加プロジェクトについて検討する。	2
	授業	プロジェクトの企画案を練る。	
	事後学修	企画案について再考する。	2
6	事前学修	企画案について再考する。	2
	授業	企画の設計	
	事後学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。	2
7	事前学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。	2
	授業	プロジェクトの遂行	

	事後学修	グループワークの振り返り	1
8	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
9	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	中間発表	
	事後学修	振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プレゼンの準備	4
	授業	期末発表	
	事後学修	発表会の振り返り	1
15	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
16	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
17	事前学修	ゼミ展示に関するアイディア出し	2
	授業	ゼミ展示に関する議論	
	事後学修	ゼミ展示についてのアイディア深掘り	2
18	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	2
	授業	ゼミ展示の決定・プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
19	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
20	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1

21	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
22	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	4
23	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	後期中間発表	
	事後学修	発表会の振り返り	1
24	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
25	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
26	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
27	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
28	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
29	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
30	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	最終発表会	
	事後学修	振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　％　□小テスト：　％　□レポート：　％　□演習課題：　％　■その他[グループワーク：20%　卒研発表：30%，卒研成果物 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、指導します。
小論・卒論提出時に修正事項等を説明します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示する。

単位修得が望ましい科目	情報メディア入門，発想法演習，プロジェクトトライアル I 卒業研究を希望する学生は，行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり，根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は，年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので，デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・3 年生全員の応用的な課題として，ゼミホームページなどを制作してもらいます。 ・芸術の森など，各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は，1993 年から 1996 年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として，総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案，バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また，1998 年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し，新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし，プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え，受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

電子音楽や先端芸術表現領域を中心とする創作（個人またはグループプロジェクト）およびプレゼンテーションを通して、新しい芸術表現について探究する。

授業における学修の到達目標

電子音楽や先端芸術表現の知識とその創作スキルの向上を目指す。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	さまざまな音楽や芸術表現に触れる	2
	授業	ガイダンス、G スタジオの見学と音響機材について	
	事後学修	スタジオ環境や機材に関するレポート	2
2	事前学修	音楽の研究や鑑賞等に関するジャーナル（日記）をつける	2
	授業	音楽プログラミングの実践	
	事後学修	Max パッチの復習と発展	2
3	事前学修		
	授業	Max によるプログラミングと創作 ①	
	事後学修	Max パッチの復習とグループでの創作活動	4
4	事前学修		
	授業	Max によるプログラミングと創作 ②	
	事後学修	Max パッチの復習とグループでの創作活動	4
5	事前学修		
	授業	Max によるプログラミングと創作 ③	
	事後学修	Max パッチの復習とグループでの創作活動	4
6	事前学修		
	授業	Max によるプログラミングと創作 ④	
	事後学修	Max パッチの復習とグループでの創作活動	4
7	事前学修	プロジェクトでの役割や機材の検討	2
	授業	DX プロジェクトの準備とリハーサル	
	事後学修	プロジェクトに必要な Max パッチの検討	2
8	事前学修	さまざまなラップトップオーケストラやアンサンブルを鑑賞し、レポートする。	2
	授業	ラップトップアンサンブルの研究と創作 ①	
	事後学修	Max や電子楽器によるアンサンブル作品の演奏	2
9	事前学修		
	授業	ラップトップアンサンブルの研究と創作 ②	
	事後学修	Max や電子楽器によるアンサンブル作品の演奏	4

10	事前学修		
	授業	ラップトップアンサンブルの研究と創作 ③	
	事後学修	Max や電子楽器によるアンサンブル作品の演奏	4
11	事前学修		
	授業	ラップトップアンサンブルの研究と創作 ④	
	事後学修	Max や電子楽器によるアンサンブル作品の演奏	4
12	事前学修	G スタジオにある音響機材について詳しく調べレポートする。	2
	授業	PA 機材の基礎について	
	事後学修	機材の特徴と使い方について確認する。	2
13	事前学修		
	授業	PA 機材のセットアップとアンサンブルのリハーサル	
	事後学修	機材のセットアップや使い方についての復習と、作品演奏の反省や考察	4
14	事前学修		
	授業	PA 機材のセットアップとアンサンブルのリハーサル	
	事後学修	機材のセットアップや使い方についての復習と、作品演奏の反省や考察、発表会準備	4
15	事前学修		
	授業	作品発表会とディスカッション	
	事後学修	作品についての考察、新しい課題に関するレポート	4

成績評価の方法およびその基準

試験（発表）：% 小テスト： % ■レポート：10% ■演習課題：45% ■その他[課題の発表 45%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

対面でフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業内で配布。
単位修得が望ましい科目	芸術演習（音楽）、デジタルサウンド、デジタルサウンド・演習
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、テクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

電子音楽や先端芸術表現領域を中心とする創作（個人またはグループプロジェクト）およびプレゼンテーションを通して、新しい芸術表現について探究する。

授業における学修の到達目標

電子音楽や先端芸術表現の知識と、作品の創作スキルの向上を目指す。また、ライブイベントに関連する機材の扱いやイベント運営スキルを身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	制作や鑑賞に関する音楽ジャーナル（日誌）をつけたものをまとめておく	2.0
	授業	関心のある創作分野についてのディスカッションとプランニング	
	事後学修	これまでの創作に関する知識やスキルの確認と、今後必要な事項についての確認と自習	2.0
2	事前学修		
	授業	プロジェクトの発案、創作についてのディスカッションやフィードバック	
	事後学修	創作に関する研究と制作実践	4.0
3	事前学修		
	授業	作品創作についてのディスカッションやフィードバック ①	
	事後学修	フィードバックをもとに創作に関する研究と制作実践	4.0
4	事前学修		
	授業	作品創作についてのディスカッションやフィードバック ②	
	事後学修	フィードバックをもとに創作に関する研究と制作実践	4.0
5	事前学修		
	授業	作品創作についてのディスカッションやフィードバック ③	
	事後学修	フィードバックをもとに創作に関する研究と制作実践、プレゼンの準備	4.0
6	事前学修		
	授業	作品創作についてのディスカッションやフィードバック（グループ） ④	
	事後学修	フィードバックをもとに創作に関する研究と制作実践	4.0
7	事前学修		
	授業	作品創作についてのディスカッションやフィードバック ⑤	
	事後学修	フィードバックをもとに創作に関する研究と制作実践、具体的な作品のリアリゼーション方法についての考察	4.0
8	事前学修		
	授業	作品の実演または展示の方法やセットアップについての検討会	
	事後学修	ステージセッティング図や機材の配置、配線図の作成と提出（含: 照明とステージ情報）	4.0
9	事前学修		

	授業	PA 機材の検討、ステージ転換の検討、リハーサルの準備	
	事後学修	各役割のスタッフごとにミーティング（舞台転換確認や打ち合わせ、機材についての自習）	4.0
10	事前学修		
	授業	SonicIt コンサートリハーサル	
	事後学修	リハーサルの反省から作品とイベント運営について再検討する（グループ）	4.0
11	事前学修		
	授業	SonicIt コンサートリハーサル	
	事後学修	リハーサルの反省から作品とイベント運営について再検討する（グループ）	4.0
12	事前学修	コンサート会場でのイベント準備や設営	2.0
	授業	SonicIt コンサートの運営と実演	
	事後学修	コンサートの反省や今後の課題の検討	2.0
13	事前学修	作品アーカイブの制作（含: ミックスダウン、ポストプロダクション etc.）	2.0
	授業	作品アーカイブについてのディスカッションとフィードバック	
	事後学修	フィードバックをもとに作品アーカイブの制作、発展させる	2.0
14	事前学修		
	授業	作品アーカイブについてのディスカッションとフィードバック	
	事後学修	フィードバックをもとに作品アーカイブの制作、発展させる	4.0
15	事前学修		
	授業	アーカイブの発表とディスカッション、1 年間のまとめと今後の課題について	
	事後学修	アーカイブをファイナライズさせ提出	4.0

成績評価の方法およびその基準

試験：　　%　小テスト：　　%　■レポート：　10%　■演習課題：　　45%　■その他[課題の発表 45%　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

対面でフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業内で配布や指示。
単位修得が望ましい科目	芸術演習（音楽）、デジタルサウンド・演習、デジタルサウンド
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、テクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	平山 晴花(128研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

電子音楽関連領域の研究について関心を深めながら、電子音楽作品、メディアアート作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探求します。
前期と後期の最後は、全体の作品発表を基に、コンサート形式のイベントの企画や運営についても考え、必要機材の知識や技術の習得も目指します。

授業における学修の到達目標

電子音楽領域の知識の修得、個々の創作スキルの向上、創造的思考力の向上。プレゼンテーション、ディスカッションを通じクリティカルな視点の修得。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールⅠでの制作課題についての反省と今後の課題の考察	2.0
	授業	過去の作品についてのプレゼンとディスカッション	
	事後学修	今学期の創作研究課題について考える	2.0
2	事前学修	先端芸術領域の作品や研究についてリサーチしてくる	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察①、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題について、実践や考察を進める	2.0
3	事前学修	先端芸術領域の作品や研究についてリサーチ、自分の課題を明確にする	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察②、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践や課題の考察を進める	2.0
4	事前学修	創作研究課題の実践や課題の考察を進める	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察③、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践や課題の考察を進める	2.0
5	事前学修	創作研究課題の実践を進めつつ、研究テーマを検討する。	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察④、研究課題（作品、研究テーマ）のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践や課題の考察を進める	2.0
6	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	音響機材の基礎知識の共有とセットアップについてガイダンス	
	事後学修	音響機材とセッティングについての復習	2.0
7	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	音響機材のセットアップリハーサル	
	事後学修	音響機材とセッティングについての復習	2.0
8	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	音響機材のセットアップリハーサル	

	事後学修	音響機材とセッティングについての復習	2.0
9	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察⑤、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
10	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察⑥、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
11	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマのプレゼン概要を考える	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察⑦、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
12	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマのプレゼン資料を準備する	2.0
	授業	研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践、研究テーマのプレゼン資料を準備する	2.0
13	事前学修	創作研究課題の実践と必要機材の検討、研究テーマのプレゼン資料を準備する	2.0
	授業	研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践、研究テーマのプレゼン資料を準備する	2.0
14	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマのプレゼン資料を準備する	2.0
	授業	研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題、研究テーマのプレゼン資料を仕上げる	2.0
15	事前学修	作品発表の準備（作品、機材共に）	2.0
	授業	作品発表と提出	
	事後学修	お互いの課題や作品に関するディスカッション	2.0
16	事前学修	後期の創作研究課題について考える	2.0
	授業	SonicIt コンサートの説明、後期課題に関するガイダンス	
	事後学修	SonicIt コンサートの記録などを見て学習する	2.0
17	事前学修	先端芸術領域の作品や研究についてのリサーチと、後期課題の検討	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察⑧、研究課題のディスカッション	
	事後学修	後期の創作研究課題について考える	2.0
18	事前学修	先端芸術領域の作品や研究についてリサーチしてくる	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察⑨、SonicIt の企画検討、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題について、実践や考察を進める	2.0
19	事前学修	創作研究課題について、実践や考察を進める	2.0
	授業	照明や音響機材についてのレクチャーと研究課題のディスカッション	
	事後学修	照明や音響機材についての復習	2.0
20	事前学修	照明や音響機材について操作や結線の予習等	2.0
	授業	照明や音響機材についてのレクチャーと研究課題のディスカッション	
	事後学修	照明や音響機材についての復習	2.0
21	事前学修	シアターというスペースについての役割や使い方の予習	2.0
	授業	SonicIt コンサートに向けてシアターの見学	
	事後学修	シアターの作り、現場の機材についての復習等	2.0

22	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察⑨、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践や課題の考察を進める	2.0
23	事前学修	創作研究課題の実践や課題の考察を進める	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察⑧、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践や課題の考察を進める	2.0
24	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	作品の鑑賞と考察⑨、研究課題のディスカッション	
	事後学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
25	事前学修	リハーサルの準備	2.0
	授業	SonicIt 全体リハーサル①	
	事後学修	リハーサルの反省	2.0
26	事前学修	リハーサルの準備	2.0
	授業	SonicIt 全体リハーサル②	
	事後学修	リハーサルの反省	2.0
27	事前学修	コンサート準備	2.0
	授業	SonicIt コンサート	
	事後学修	コンサートの反省	2.0
28	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	卒研コンテンツの制作、資料作り	
	事後学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
29	事前学修	創作研究課題の実践、研究テーマに関するリサーチを進める	2.0
	授業	卒研コンテンツの制作、資料作り	
	事後学修	卒研コンテンツのポストプロダクション、研究資料に基づくレジュメ制作	2.0
30	事前学修	卒研コンテンツのポストプロダクション、研究資料に基づくレジュメ制作	2.0
	授業	卒研コンテンツの制作、資料作り	
	事後学修	卒研コンテンツと研究レジュメの完成版の提出	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□■試験： 50% □■小テスト： % □■レポート： 25% □■演習課題： 25% □■その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

対面、Polite 等で指導

教科書	
参考書・Web サイト	授業内で適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	芸術演習（音楽）、デジタルサウンド、デジタルサウンド・演習
備考	特になし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	広奥　暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

CT 分野では，とりわけ新しい知識の獲得を継続して行くことが重要となっています。他の講義で学ぶよりも，主体的に行動して知識の獲得に取り組み，得られたものを人に広めることも大切です。
この講義では，そうした主体的な学習行動ができ，卒業後も自律的に学習できるようになるために，興味の発見，調査，まとめ，発表のサイクルを何度か繰り返します。
ICT 分野のキーワードについて調べ，それについてプレゼンテーションをし，他の受講者を交えたディスカッションを行います。
なお，続くゼミナールⅡを経て，卒業研究に結びつけるための活動（ソフトウェアの試作品開発等）も行います。

授業における学修の到達目標

・ICT 分野に興味を持ち，自分の選択した事柄について，自主的に調査し一定の知識を獲得した後，それをまとめて他の人に説明できる力を身につける。
・プレゼンテーションの技術，論理的に記述する技術を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので，1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上，毎回を空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。 テーマ設定，調査，まとめ，発表のサイクルを少なくとも 2 回繰り返します。受講者数によって回数はかわりますし，各回のディスカッションの様子によっても変化します。 第 1 サイクルは，提示される ICT 関連キーワードから，各自一つを選択しそれについて調査をします。自分の発表回の前には，プレゼンテーションの準備，配布資料の作成を行います。 第 2 サイクルは，自分自身で興味の持てるキーワードを設定し，調査，まとめ，発表を行います。 その後，そのキーワードに関連した何らかの試作品（プログラムの例題のようなもので良い）を作成する作業をします。 第 3 サイクルは，第 2 サイクルで選んだキーワードに関して，教員から与えられた条件のもとより詳しい調査と，発表時にデモンストレーションできるような試作品作成に取り組みます。 第 1 回目は，事前学習は必要ありません。 この回に記載する事前学修時間は，事前学修の総量です。準備作業が多いことから事前学修時間が多くなっています。時間は自分で立てる計画（下記参照）に基づいて配分して下さい。 第 2 サイクルの途中で夏期休業となりますが，その間に上記試作品作りに取り組みます。その取り組み時間もこの事前学修時間として想定しています。	30
	授業	ガイダンスと第 1 サイクルのキーワード選択 Learning Management System（以下 LMS と略す）への登録作業の指示があります。今後のゼミナール活動の基本形（調査，まとめ，発表のサイクル）について理解します。 事前学修，事後学修に求められることについての説明があります。	
	事後学修	第 1 回目は，LMS への登録作業と，LMS 上で第 1 サイクルのキーワード選択を行います。	30

		選択したキーワードについて調査を開始します。 この回に記載する事前学修時間は，事後学修の総量です。主に，自分の発表時の質疑応答のまとめ，教員からの指示による追加作業，自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には，その内容について自分でも調査をします。 時間は自分で配分して下さい。	
2	事前学修	調査方法を検討し，発表までの計画を立てます。	
	授業	キーワード選択結果を確認し，発表までの計画について発表します。 第 1 サイクルの発表の順番を決めます。	
	事後学修	各自，自分の計画に基づいて調査活動を行います。	
3	事前学修	3 回目以降，調査活動を継続します。 発表の回が近づいたらプレゼンテーションと配布資料の準備をします。 発表が終了した人は，次のサイクルに入ります。	
	授業	発表担当者は発表，それ以外の人は質疑応答，ディスカッションに参加します。	
	事後学修	自分の発表時の質疑応答のまとめ，教員からの指示による追加作業，自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には，その内容について自分でも調査をします。	
4	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
5	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
6	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
7	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
8	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
9	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
10	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
11	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
12	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	

	事後学修	第 3 回項目参照	
13	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
14	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
15	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他　100% [調査への取り組み方，プレゼンテーションとその内容，質疑応答への対応で評価する。　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時の質疑応答で行うが，LMS，SNS，電子メールも用いることもある。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	（ゼミ配属決定後に登録する）ゼミのメーリングリストにより配信される電子メールを必ず読む。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	広奥　暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

ICT 分野では，とりわけ新しい知識の獲得を継続して行くことが重要となっています。他の講義で学ぶよりも，主体的に行動して知識の獲得に取り組み，得られたものを人に広めることも大切です。
この講義では，そうした主体的な学習行動ができ，卒業後も自律的に学習できるようになるために，興味の発見，調査，まとめ，発表のサイクルを何度か繰り返します。
ICT 分野のキーワードについて調べ，それについてプレゼンテーションをし，他の受講者を交えたディスカッションを行います。

ゼミナールⅠでは、提示されたキーワードから選択して調査という形でしたが、ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠでの活動を踏まえて、自ら興味を持ったテーマについて調査しプレゼンテーションをするサイクルと、4 年次のゼミナール III,IV,卒業研究 I~IV に繋がるようなより具体的なテーマについて調査しプレゼンテーションをするサイクルを経て、ソフトウェアの試作品開発等にも取り組みます。

授業における学修の到達目標

・ICT 分野に興味を持ち，自分の選択した事柄について，自主的に調査し一定の知識を獲得した後，それをまとめて他の人に説明できる力を身につける。
・プレゼンテーションの技術，論理的に記述する技術を身につける。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので，1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上，毎回を空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。 テーマ設定，調査，まとめ，発表のサイクルを少なくとも 2 回繰り返します。受講者数によって回数はかわりますし，各回のディスカッションの様子によっても変化します。 第 1 サイクルは，自分自身で興味の持てるテーマを設定し，調査，まとめ，発表を行います。 第 2 サイクルは，第 2 サイクルで選んだテーマを基礎として，教員から与えられた条件のもとより詳しい調査と，発表時にデモンストレーションできるような試作品作成に取り組みます。 第 1 回目は，事前学習は必要ありません。 注意： この回に記載する事前学修時間は，事前学修の総量です。準備作業が多いことから事前学修時間が多くなっています。時間は自分で立てる計画（下記参照）に基づいて配分して下さい。 第 2 サイクルの途中で夏期休業となりますが，その間に上記試作品作りに取り組みます。その取り組み時間もこの事前学修時間として想定しています。	30
	授業	ガイダンスと第 1 サイクルのテーマ設定 今後のゼミナール活動の基本形（調査，まとめ，発表のサイクル）について理解します。	
	事後学修	第 1 回は、自分で決めたテーマに基づいて調査を開始します。 注意：	30

		この回に記載する事前学修時間は，事後学修の総量です。主に，自分の発表時の質疑応答のまとめ，教員からの指示による追加作業，自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には，その内容について自分でも調査をします。 時間は自分で配分して下さい。	
2	事前学修	調査方法を検討し，発表までの計画を立てます。	
	授業	テーマ選択結果を確認し，発表までの計画について発表します。（2 回目にテーマが重複する場合などの調整をします） 第 1 サイクルの発表の順番を決めます。	
	事後学修	各自，自分の計画に基づいて調査活動を行います。	
3	事前学修	3 回目以降，調査活動を継続します。 発表の回が近づいたらプレゼンテーションと配布資料の準備をします。 発表が終了した人は，次のサイクルに入ります。	
	授業	発表担当者は発表，それ以外の人は質疑応答，ディスカッションに参加します。	
	事後学修	発表担当者は発表，それ以外の人は質疑応答，ディスカッションに参加します。 1 サイクルは 8〜10 回を想定しています。	
4	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
5	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
6	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
7	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
8	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
9	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
10	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
11	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
12	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	

	事後学修	第 3 回項目参照	
13	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
14	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
15	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他　100% [調査への取り組み方，プレゼンテーションとその内容，質疑応答への対応で評価する。　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時の質疑応答で行うが，LMS，SNS，電子メールも用いることもある。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	ゼミのメーリングリストにより配信される電子メールを必ず読む。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	広奥　暢(318研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

ICT分野では，とりわけ新しい知識の獲得を継続して行くことが重要となっています。他の講義で学ぶよりも，主体的に行動して知識の獲得に取り組み，得られたものを人に広めることも大切です。
この講義では，そうした主体的な学習行動ができ，卒業後も自律的に学習できるようになるために，興味の発見，調査，まとめ，発表のサイクルを何度か繰り返します。
ICT分野のキーワードについて調べ，それについてプレゼンテーションをし，他の受講者を交えたディスカッションを行います。また，卒業研究の活動と連動し，卒業研究の計画発表，経過報告等と，それらについてのディスカッションを行います。，ゼミナールIIは，ゼミナールIに比べ詳細な調査を要することと，プレゼンテーションよりも論述した資料を重視するという違いがあります。

授業における学修の到達目標

授業における学修の到達目標
・ICT分野に興味を持ち，自分の選択した事柄について，自主的に調査し一定の知識を獲得した後，それをまとめて他の人に説明できる力を身につける。
・プレゼンテーションの技術，論理的に記述する技術を身につける。
・最新技術についての知識を増やす。
・広汎なICT知識の獲得をめざす。
・卒業研究に関わる発表を通して、プレゼンテーション能力を身につけます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので，1回毎の内容を記載することができません。1回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上，毎回を空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。 テーマ設定，調査，まとめ，発表のサイクルを少なくとも2回繰り返します。受講者数によって回数はかわりますし，各回のディスカッションの様子によっても変化します。また，各サイクルの発表は，卒業研究活動の発表とすることもあります。 第1サイクルは，提示されるICT関連キーワード（ゼミナールIよりも高度なもの）から，各自一つを選択しそれについて調査をします。自分の発表回の前には，プレゼンテーションの準備，配布資料の作成を行います。 第2サイクルは，自分自身で興味の持てるキーワードを設定し，調査，まとめ，発表を行います。ゼミナールIよりも詳細な調査を求められます。 第3サイクルは，主にセキュリティに関わる項目について提示するキーワードを選択し，調査と発表を行います。 第1回目は，事前学習は必要ありません。 この回に記載する事前学修時間は，事前学修の総量です。準備作業が多いことから事前学修時間が多くなっています。時間は自分で立てる計画（下記参照）に基づいて配分して下さい。	90

		第 2 サイクルの途中で夏期休業となりますが，その間に上記試作品作りに取り組みます。その取り組み時間もこの事前学修時間として想定しています。	
	授業	ガイダンスと第 1 サイクルのキーワード選択 Learning Management System（以下 LMS と略す）への登録作業の指示があります。今後のゼミナール活動の基本形（調査，まとめ，発表のサイクル）について理解します。 事前学修，事後学修に求められることについての説明があります。	
	事後学修	第 1 回目は，LMS への登録作業と，LMS 上で第 1 サイクルのキーワード選択を行います。 選択したキーワードについて調査を開始します。 この回に記載する事前学修時間は，事後学修の総量です。主に，自分の発表時の質疑応答のまとめ，教員からの指示による追加作業，自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には，その内容について自分でも調査をします。 時間は自分で配分して下さい。	30
2	事前学修	調査方法を検討し，発表までの計画を立てます。	
	授業	キーワード選択結果を確認し，発表までの計画について発表します。 第 1 サイクルの発表の順番を決めます。	
	事後学修	各自，自分の計画に基づいて調査活動を行います。	
3	事前学修	3 回目以降，調査活動を継続します。 発表の回が近づいたらプレゼンテーションと配布資料の準備をします。 発表が終了した人は，次のサイクルに入ります。 卒業研究の進捗状況に応じて，卒業研究の計画発表，進捗発表も行います。	
	授業	発表担当者は発表，それ以外の人は質疑応答，ディスカッションに参加します。 1 サイクルは 10 回程度を想定しています。	
	事後学修	自分の発表時の質疑応答のまとめ，教員からの指示による追加作業，自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には，その内容について自分でも調査をします。	
4	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
5	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
6	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
7	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
8	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
9	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	

10	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
11	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
12	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
13	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
14	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
15	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
16	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
17	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
18	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
19	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
20	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
21	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
22	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
23	事前学修	第 3 回項目参照	

	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
24	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
25	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
26	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
27	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
28	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
29	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
30	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
■その他 100% [　調査への取り組み方，プレゼンテーションとその内容，質疑応答への対応，説明資料の論述内容で評価する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表（主にビデオ会議を使用）時の質疑応答で行うが，LMS，SNS，電子メールも用いることもある。

教科書	
参考書・Web サイト	LMS で提示する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	第 1 回の指示に基づき LMS 上のゼミナールのコースに登録する。 ゼミのメーリングリストにより配信される電子メールを必ず読む。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。
主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり，研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが，他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。

毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。

授業における学修の到達目標

コンピュータに取りこむことができる，画像，映像，音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。
さらに，人が利用することもふまえ，どのように情報を可視化すればよいか，その応用手法を追求する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナール 1 の全体の内容を把握する	2
	授業	ゼミナール 1 の概要	
	事後学修	ゼミナール 1 の概要についてレポートにまとめる	2
2	事前学修	配付資料でゼミ内での ICT について予習する	2
	授業	ゼミ内での ICT	
	事後学修	ゼミ内での ICT についてレポートにまとめる	2
3	事前学修	配付資料で技術文章について予習する	2
	授業	技術文章	
	事後学修	技術文章についてレポートにまとめる	2
4	事前学修	配付資料で学術論文について予習する	2
	授業	学術論文	
	事後学修	学術論文についてレポートにまとめる	2
5	事前学修	配付資料で学術論文の調査について予習する	2
	授業	学術論文の調査	
	事後学修	学術論文の調査についてレポートにまとめる	2
6	事前学修	配付資料で学術論文の調査報告について予習する	2
	授業	学術論文の調査報告	
	事後学修	学術論文の調査報告についてレポートにまとめる	2
7	事前学修	配付資料でゼミでのプレゼンテーションについて予習する	2
	授業	ゼミでのプレゼンテーション	
	事後学修	ゼミでのプレゼンテーションについてレポートにまとめる	2
8	事前学修	ゼミ Web ページで配布した Processing による開発環境の解説に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：Processing による開発環境の解説	

	事後学修	Processing による開発環境の解説についてレポートにまとめる	2
9	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像ファイルの入出力に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像ファイルの入出力	
	事後学修	画像ファイルの入出力についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の統計分析に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像の統計分析	
	事後学修	画像の統計分析についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の 2 値化に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像の 2 値化	
	事後学修	画像の 2 値化についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	ゼミ Web ページで配布した 2 値画像処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：2 値画像処理	
	事後学修	2 値画像処理についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	学祭でのゼミ展示についてやってみたいものを考え、内容を整理しておく	2
	授業	学祭での展示内容の検討	
	事後学修	学祭での展示内容の検討についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	学祭でのゼミ展示内容について構成や必要となるシステム等を調査する	2
	授業	展示内容の企画	
	事後学修	展示内容の企画についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	学祭のゼミ展示内容について実装の流れをまとめてくる	2
	授業	展示システム実装の作業内容確認	
	事後学修	展示システム実装の作業内容確認についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□■試験：　%　□■小テスト：　%　□■レポート：　40%　□■演習課題：　%　□■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) ディジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習 I デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系統)か Java プログラミングが必要になるので，関連する技術も含め，それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。
主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり，研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが，他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。

毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。

授業における学修の到達目標

コンピュータに取りこむことができる，画像，映像，音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。
さらに，人が利用することもふまえ，どのように情報を可視化すればよいか，その応用手法を追求する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	学祭のゼミ展示システムの大枠を実装する	2
	授業	学祭展示の準備	
	事後学修	学祭展示の準備についてレポートにまとめる	2
2	事前学修	ゼミ Web ページで配布したオブジェクトの検出に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：オブジェクトの検出	
	事後学修	オブジェクトの検出についてレポートにまとめる	2
3	事前学修	ゼミ Web ページで配布したフィルタ処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：フィルタ処理	
	事後学修	フィルタ処理についてレポートにまとめる	2
4	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の局所特徴量に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像の局所特徴量	
	事後学修	画像の局所特徴量についてレポートにまとめる	2
5	事前学修	ゼミ Web ページで配布したテンプレートマッチングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：テンプレートマッチング	
	事後学修	テンプレートマッチングについてレポートにまとめる	2
6	事前学修	ゼミ Web ページで配布した外部ライブラリの利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：外部ライブラリの利用	
	事後学修	外部ライブラリの利用についてレポートにまとめる	2
7	事前学修	ゼミ Web ページで配布した顔検出に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：顔検出	
	事後学修	顔検出についてレポートにまとめる	2
8	事前学修	ゼミ Web ページで配布したカメラ画像処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：カメラ画像処理	

	事後学修	カメラ画像処理についてレポートにまとめる	2
9	事前学修	ゼミ Web ページで配布した動画からのオブジェクト検出に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：動画からのオブジェクト検出	
	事後学修	動画からのオブジェクト検出についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	ゼミ Web ページで配布した動画を用いた手法に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：動画を用いた手法	
	事後学修	動画を用いた手法についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	ゼミ Web ページで配布した RGB-D カメラに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：RGB-D カメラ	
	事後学修	RGB-D カメラについてレポートにまとめる	2
12	事前学修	ゼミ Web ページで配布した距離画像処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：距離画像処理	
	事後学修	距離画像処理についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	ゼミ Web ページで配布した簡易モーションキャプチャの利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：簡易モーションキャプチャの利用	
	事後学修	簡易モーションキャプチャの利用についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	ゼミ Web ページで配布した RGB-D カメラを用いた応用事例に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：RGB-D カメラを用いた応用事例	
	事後学修	RGB-D カメラを用いた応用事例についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	ゼミ Web ページで配布した音声の利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：音声の利用	
	事後学修	ゼミナール 2 で得た知見についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□■試験：　%　□■小テスト：　%　□■レポート：　40%　□■演習課題：　%　□■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) ディジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習 I デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系統)か Java プログラミングが必要になるので，関連する技術も含め，それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	藤原 孝幸(134研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

○テーマ
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。

主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり，研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが，他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。

○概要
コンピュータに取りこむことができる，画像，映像，音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。
さらに，人が利用することもふまえ，どのように情報を可視化すればよいか，その応用手法を追求する。
システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計においてC言語(もしくはC言語の系統)かJavaプログラミングが必要になるので，関連する技術も含め，それらの習得に積極的であることが望ましい。

授業における学修の到達目標

社会に通用する技術者になることを目指す(自らが関連する技術・研究において専門的な知識を獲得し，また社会人としての基礎力を養う)。
あわせて，獲得した知識をプレゼンテーションする力を得る。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナール2の全体の内容を把握する	2
	授業	ゼミナール2後期の概要	
	事後学修	ゼミナール2後期の概要についてレポートにまとめる	2
2	事前学修	卒研テーマの企画案についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研テーマの企画案	
	事後学修	卒研テーマの企画案についてレポートにまとめる	2
3	事前学修	卒研テーマにおける先行事例調査方針についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査	
	事後学修	卒研テーマにおける先行事例調査についてレポートにまとめる	2
4	事前学修	先行事例の調査結果(概要)についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	先行事例の調査結果(概要)	
	事後学修	先行事例の調査結果(概要)についてレポートにまとめる	2
5	事前学修	先行事例の調査結果(実装)についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	先行事例の調査結果(実装)	
	事後学修	先行事例の調査結果(実装)についてレポートにまとめる	2
6	事前学修	先行事例の調査結果(評価方法)についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	先行事例の調査結果(評価方法)	

	事後学修	先行事例の調査結果(評価方法)についてレポートにまとめる	2
7	事前学修	先行事例の調査結果(問題点)についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	先行事例の調査結果(問題点)	
	事後学修	先行事例の調査結果(問題点)についてレポートにまとめる	2
8	事前学修	卒研テーマの目的の設定についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研テーマの目的の設定	
	事後学修	卒研テーマの目的の設定についてレポートにまとめる	2
9	事前学修	企画書・発表資料についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	企画書・発表資料	
	事後学修	企画書・発表資料についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	卒研テーマの全体の構成についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研テーマの全体の構成	
	事後学修	卒研テーマの全体の構成についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	企画書の準備をする	2
	授業	企画書の準備	
	事後学修	企画書の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	企画発表会に向けた発表練習について準備する	2
	授業	企画発表会に向けた発表練習	
	事後学修	企画発表会に向けた発表練習についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	企画発表会での発表について準備する	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	企画発表会での発表についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関してゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告	
	事後学修	前期のゼミ全体についてレポートにまとめる	2
16	事前学修	配付資料にてゼミナール 2 後期の概要を把握する	2
	授業	ゼミナール 2 後期の概要	
	事後学修	ゼミナール 2 後期の概要についてレポートにまとめる	2
17	事前学修	卒論執筆の手順についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒論執筆の手順	
	事後学修	卒論執筆の手順についてレポートにまとめる	2
18	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備の仕方	
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方についてレポートにまとめる	2
19	事前学修	実装するシステムの概要についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	実装するシステムの概要	
	事後学修	実装するシステムの概要についてレポートにまとめる	2

20	事前学修	全体の処理フローの検討についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	全体の処理フローの検討	
	事後学修	全体の処理フローの検討についてレポートにまとめる	2
21	事前学修	システム構築の状況についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	システム構築の状況	
	事後学修	システム構築の状況についてレポートにまとめる	2
22	事前学修	データセットの準備についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	データセットの準備	
	事後学修	データセットの準備についてレポートにまとめる	2
23	事前学修	高度な実験・評価方法についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	高度な実験・評価方法	
	事後学修	高度な実験・評価方法についてレポートにまとめる	2
24	事前学修	評価実験の進捗についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	評価実験の進捗	
	事後学修	評価実験の進捗についてレポートにまとめる	2
25	事前学修	小論の準備についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	小論の準備	
	事後学修	小論の準備についてレポートにまとめる	2
26	事前学修	卒研発表会の成果物の準備をする	2
	授業	卒研発表会の成果物の準備	
	事後学修	卒研発表会の成果物の準備についてレポートにまとめる	2
27	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備	
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
28	事前学修	卒研発表会に向けた発表練習の準備をする	2
	授業	卒研発表会に向けた発表練習	
	事後学修	卒研発表会に向けた発表練習についてレポートにまとめる	2
29	事前学修	卒研発表会での発表の準備をする	2
	授業	卒研発表会での発表	
	事後学修	卒研発表会での発表についてレポートにまとめる	2
30	事前学修	卒研発表会に関する報告についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研発表会に関する報告	
	事後学修	卒研発表会に関する報告についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%), プレゼンテーション(60%)とする。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) ディジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)

単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習 I
備考	卒研の各自のテーマにおいては Processing，または他の環境(MS Visual Studio と OpenCV，Xcod と OpenCV 等)での開発を前提とするが，個別に指導をする予定である。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年, 国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは, 「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして, データの利活用方法に関する基礎研究と, 計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。
「ゼミナールⅠ」では, データサイエンスの基盤となる計算機プログラミング, 統計学, 確率論の基礎を輪講形式で学ぶと同時に, 現実の現象をデータより分析する際に必要となるものの見方, データの収集やデータを整備する技術を実習し, 「ゼミナールⅡ」で実施する本格的な研究に向けた準備を行います。

授業における学修の到達目標

1. データサイエンスの基本的な考え方や具体的な方法が説明できる
2. データ分析の結果に基づいて現象を適切に評価できる
3. 計算機でデータの構造に応じた処理や分析を行うためのプログラミングができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスをみて, 1 年間のゼミ活動の流れを把握する	2.0
	授業	ガイダンス (ゼミ活動の流れと計画)	
	事後学修	研究テーマの検討をはじめる	2.0
2	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査をはじめる	2.0
	授業	自分が関心をもつ研究テーマの提案と、分析を始めるための具体的な検討 (第 1 回目)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 研究テーマに関する理解を深める	2.0
3	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続	2.0
	授業	自分が関心をもつ研究テーマの提案と、分析を始めるための具体的な検討 (第 2 回目)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 研究テーマに関する理解を深める	2.0
4	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続	2.0
	授業	自分が関心をもつ研究テーマの提案と、分析を始めるための具体的な検討 (第 3 回目)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 研究テーマに関する理解を深める	2.0
5	事前学修	ポライトで第 1 回目のプログラミングの課題を確認し, 不明な点を明らかにしておく	2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 1 回)	
	事後学修	アドバイスを基に, できなかった部分を学習する	2.0
6	事前学修	ポライトで第 2 回目のプログラミングの課題を確認し, 不明な点を明らかにしておく	2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 2 回)	
	事後学修	アドバイスを基に, できなかった部分を学習する	2.0
7	事前学修	ポライトで第 3 回目のプログラミングの課題を確認し, 不明な点を明らかにしておく	2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 3 回)	
	事後学修	アドバイスを基に, できなかった部分を学習する	2.0

8	事前学修	ポライトで第 4 回目のプログラミングの課題を確認し, 不明な点を明らかにしておく	2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 4 回)	
	事後学修	アドバイスを基に, できなかった部分を学習する	2.0
9	事前学修	ポライトで第 5 回目のプログラミングの課題を確認し, 不明な点を明らかにしておく	2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 5 回)	
	事後学修	アドバイスを基に, できなかった部分を学習する	2.0
10	事前学修	教科書でデータ分析の方法論を学習し, 検討用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (輪講, 可視化の方法)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
11	事前学修	教科書でデータ分析の方法論を学習し, 検討用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (輪講, 関係性を把握する方法)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
12	事前学修	教科書でデータ分析の方法論を学習し, 検討用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (輪講, モデル化の方法)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
13	事前学修	教科書でデータ分析の方法論を予習し, 発表用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (輪講, モデルの応用)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
14	事前学修	輪講を通して実施した学習内容を基にして研究テーマを再検討しながら, より具体的なテーマを考える	2.0
	授業	研究テーマの再検討	
	事後学修	再検討した研究テーマの報告準備 (スライド作成)	2.0
15	事前学修	再検討した研究テーマの報告準備 (スライド作成)	2.0
	授業	中間報告会	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 研究テーマを再検討する	2.0

成績評価の方法およびその基準

■演習課題：100%　□■その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら, 個別, あるいはポライトを通じてアドバイスします。

教科書	書名：データサイエンス演習, 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目
備考	受講者が個別に学習内容を説明した後, 教員と検討する形で進められます。
担当教員の実務経験	1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をはじめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年, 国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは, 「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして, データの利活用方法に関する基礎研究と, 計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。
「ゼミナールⅠ」では, データサイエンスの基盤となる計算機プログラミング, 統計学, 確率論の基礎を輪講形式で学ぶと同時に, 現実の現象をデータより分析する際に必要となるものの見方, データの収集やデータを整備する技術を実習し, 「ゼミナールⅡ」で実施する本格的な研究に向けた準備を行います。

授業における学修の到達目標

1. データサイエンスの基本的な考え方や具体的な方法が説明できる
2. データ分析の結果に基づいて現象を適切に評価できる
3. 計算機でデータの構造に応じた処理や分析を行うためのプログラミングができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールⅠで設定した研究テーマに向けて, 研究活動の計画案を考える	2.0
	授業	研究計画案の作成	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 研究計画を確定して教員に提出	2.0
2	事前学修	研究計画に基づいて, Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を開始し, 報告用資料を作成	2.0
	授業	現象の調査, およびデータの収集 (1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める	2.0
3	事前学修	Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	現象の調査, およびデータの収集 (2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める	2.0
4	事前学修	Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	現象の調査, およびデータの収集 (3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める	2.0
5	事前学修	入手した観測データより, 分析用のデータセットを整備, 報告用資料を作成	2.0
	授業	分析データの整備 (1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にしてプログラムを改訂しながら, 作業を継続	2.0
6	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	分析データの整備 (2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にしてプログラムを改訂しながら, 作業を継続	2.0
7	事前学修	R 環境でデータの分析を開始する	2.0
	授業	データの分析と評価 (1 回目の検討)	

	事後学修	アドバイスを参考にして, 分析や評価で不明な点の理解を深める	2.0
8	事前学修	データ分析, 評価に関する作業を継続する	2.0
	授業	データの分析と評価 (2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 分析や評価で不明な点の理解を深める	2.0
9	事前学修	データ分析, 評価に関する作業を継続する	2.0
	授業	データの分析と評価 (3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 分析や評価で不明な点の理解を深める	2.0
10	事前学修	各自が設定したテーマの応用問題 (予測, シミュレーションなど)に取り組み、問題の解決に取り組む	2.0
	授業	データ分析に基づく現象の評価 (1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
11	事前学修	各自が設定したテーマの応用問題の検討を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	データ分析に基づく現象の評価 (2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
12	事前学修	各自が設定したテーマの応用問題の検討を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	データ分析に基づく現象の評価 (3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
13	事前学修	これまでの研究経過をまとめて報告会用のスライドを作成する	2.0
	授業	報告会用スライドの作成	
	事後学修	アドバイスを参考にして, スライドの作成を継続する	2.0
14	事前学修	報告会用のスライドを完成させる	2.0
	授業	成果報告会 (グループ 1)	
	事後学修	コメントを基に, より発展的な問題点を検討する	2.0
15	事前学修	報告会用のスライド(パワーポイント)を作成する (グループ 2)	2.0
	授業	成果報告会 (グループ 2)	
	事後学修	コメントを基に, より発展的な問題点を検討する	2.0

成績評価の方法およびその基準

■演習課題： 100% □■その他[ ]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら, 個別, あるいはポライトを通じてアドバイスします。

教科書	書名：データサイエンス演習, 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目
備考	受講者が個別に学習内容を説明した後, 教員と検討する形で進められます。
担当教員の実務経験	1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をはじめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	甫喜本 司(327研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

異常気象,環境問題,新型コロナウイルスの新規感染者の動向などをはじめとして,近年関心がもたれる様々な自然,環境,工学,経済,社会の諸現象のメカニズムの解明へ向けて「ゼミナールⅠ」で学んだデータサイエンスの技術を応用し,解析方法の開発や検討に取り組みながら,新しい「現象の知」を見つけることを目指します。また,得られた成果についてプレゼンテーションやディスカッションを行います。

授業における学修の到達目標

1. 自然や社会で発生する現象に関心をもち,データサイエンスの観点から解析するための方法を開発できる
2. データ分析を通して、現象の評価や問題解決を行うことができる
3. 研究内容を第三者へ分かりやすく報告し,研究上のコミュニケーションを行うことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	発表用資料の準備	2.0
	授業	研究テーマと研究計画の立案(第1回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に,テーマをより具体的なものとする	2.0
2	事前学修	発表用資料の準備	2.0
	授業	研究テーマと研究計画の立案(第2回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に,研究目標とその背景に関する理解を深める	2.0
3	事前学修	発表用資料の準備	2.0
	授業	研究テーマと研究計画の立案(第3回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に,研究目標とその背景に関する理解を深める	2.0
4	事前学修	発表用資料の準備	2.0
	授業	研究テーマと研究計画の立案(第4回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に,研究目標とその背景に関する理解を深める	2.0
5	事前学修	発表用資料の準備	2.0
	授業	研究テーマと研究計画の立案(第5回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に,研究目標とその背景に関する理解を深める	2.0
6	事前学修	文献の入手と基礎学習,発表用資料の準備	2.0
	授業	文献の調査と学習(輪講)	
	事後学修	アドバイスを基に,研究で取り扱う手法の理解を深める	2.0
7	事前学修	文献の入手と基礎学習,発表用資料の準備	2.0
	授業	文献の調査と学習(輪講)	
	事後学修	アドバイスを基に,研究で取り扱う問題や手法の理解を深める	2.0
8	事前学修	文献の入手と基礎学習,発表用資料の準備	2.0

	授業	文献の調査と学習 (輪講)	
	事後学修	アドバイスを基に, 研究で取り扱う問題や手法の理解を深める	2.0
9	事前学修	文献の入手と基礎学習, 発表用資料の準備	2.0
	授業	文献の調査と学習 (輪講)	
	事後学修	アドバイスを基に, 研究で取り扱う問題や手法の理解を深める	2.0
10	事前学修	現象のデータを調査・収集, 発表用資料の準備	2.0
	授業	分析データの調査・収集 (第 1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスに従って調査を継続	2.0
11	事前学修	現象のデータを調査・収集, 発表用資料の準備	2.0
	授業	分析データの調査・収集 (第 2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスに従って調査を継続	2.0
12	事前学修	現象のデータを調査・収集, 発表用資料の準備	2.0
	授業	分析データの調査・収集 (第 3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスに従って調査を継続	2.0
13	事前学修	現象のデータを調査・収集, 発表用資料の準備	2.0
	授業	分析データの調査・収集 (第 4 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスに従って調査を継続	2.0
14	事前学修	R 環境で分析用データの構築作業, 発表用資料の準備	2.0
	授業	分析用データベースの構築 (第 1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスに従って作業を継続	2.0
15	事前学修	R 環境で分析用データの構築作業, 発表用資料の準備	2.0
	授業	分析用データベースの構築 (第 2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスに従って作業を継続	2.0
16	事前学修	発表用資料の準備	2.0
	授業	中間報告 (グループ 1)	
	事後学修	アドバイスを基に, 研究の方向性と内容をチェックする	2.0
17	事前学修	発表用資料の準備	2.0
	授業	中間報告 (グループ 2)	
	事後学修	アドバイスを基に, 研究の方向性と内容をチェックする	2.0
18	事前学修	発表用資料の準備	2.0
	授業	中間報告 (グループ 3)	
	事後学修	アドバイスを基に, 研究の方向性と内容をチェックする	2.0
19	事前学修	データ分析方法の検討と評価, 発表用資料の準備	2.0
	授業	データ分析法の開発と評価 (第 1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に再検討する	2.0
20	事前学修	データ分析方法の検討と評価, 発表用資料の準備	2.0
	授業	データ分析法の開発と評価 (第 2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に再検討する	2.0
21	事前学修	データ分析方法の検討と評価, 発表用資料の準備	2.0
	授業	データ分析法の開発と評価 (第 3 回目の検討)	

	事後学修	アドバイスを基に再検討する	2.0
22	事前学修	データ分析方法の検討と評価, 発表用資料の準備	2.0
	授業	データ分析法の開発と評価 (第 4 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に再検討する	2.0
23	事前学修	分析作業, 発表用資料の準備	2.0
	授業	現象の解析と評価 (第 1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に分析を継続する	2.0
24	事前学修	分析作業, 発表用資料の準備	2.0
	授業	現象の解析と評価 (第 2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に分析を継続する	2.0
25	事前学修	分析作業, 発表用資料の準備	2.0
	授業	現象の解析と評価 (第 3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に分析を継続する	2.0
26	事前学修	分析作業, 発表用資料の準備	2.0
	授業	現象の解析と評価 (第 4 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に分析を継続する	2.0
27	事前学修	研究結果の取りまとめと発表用資料の準備	2.0
	授業	成果報告の準備 (第 1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に発表用資料を加筆・修正する	2.0
28	事前学修	研究結果の取りまとめと発表用資料の準備	2.0
	授業	成果報告の準備 (第 2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に発表用資料を加筆・修正する	2.0
29	事前学修	研究結果の取りまとめと講演用資料の準備	2.0
	授業	成果報告の準備 (第 3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に発表用資料を加筆・修正する	2.0
30	事前学修	研究結果の取りまとめと講演用資料の準備	2.0
	授業	成果報告の準備 (第 4 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを基に発表用資料を加筆・修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■演習課題：100 %　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら，個別にアドバイスします。

教科書	書名：データサイエンス演習, 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目
備考	受講者が個別に学習内容を説明した内容を, 教員と検討する形式で実施します。
担当教員の実務経験	1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論

	をはじめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

身近な「数学」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて，資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく，担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は，教えます。毎回全員が発表できませんので，数回に一回の発表となります。

授業における学修の到達目標

教科書に書かれている内容を把握し，人に伝えることを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書の選定	2
	授業	オリエンテーション	
	事後学修	教科書の選定	2
2	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
3	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
4	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
5	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
6	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
7	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
8	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
9	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	

	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	半年の総括	
	事後学修	発表した内容の整理	2

成績評価の方法およびその基準

プレゼンの準備状況，発表内容を総合的に判断する。100％

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

いつでも質問に対応し，プレゼン時に適宜指導を行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要な資料はゼミ中に伝えます。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	特にありません。
担当教員の実務経験	特にありません。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

ゼミナールⅠに引き続き，身近な「数学」を学ぶゼミです。教科書を新たにするのも可能ですから，各自教科書を決めて，資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく，担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は，教えます。毎回全員が発表できませんので，数回に一回の発表となります。

授業における学修の到達目標

教科書に書かれている内容を把握し，人に伝えることを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	教科書の選定	2
	授業	オリエンテーション	
	事後学修	教科書の選定	2
2	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
3	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
4	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
5	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
6	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表した内容の整理と準備	
	事後学修	発表	2
7	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
8	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
9	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	

	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	発表の総括	
	事後学修	半年間で発表した内容の整理	2

成績評価の方法およびその基準

プレゼンの準備状況，発表内容を総合的に判断する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

いつでも質問に対応し，プレゼン時に適宜指導を行います。100%

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて，資料はゼミ中に伝えます。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	特にありません。
担当教員の実務経験	特にありません。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	松井 伸也(224研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

○テーマ

情報技術，生活のバックボーンとなる数学

○概要

情報技術には数学的な内容が必ず付随します。たとえば，アナログとデジタルの間はFourier変換・級数がその役割を果たし，CGなどに対するフィルターは偏微分方程式の解などで記述されます。現代の暗号技術の中には，整数論を基礎にする技術があります。情報技術意外にも数学は関連してきます．身近なところでは，「折り紙」，「天気予報」があります。これらを記述する数式・方程式を理解した上で，情報技術を見直すとその理解が深まるはずです。
また普段の生活にも数学が関係しています。それを探すのも面白いかも知れません。

授業における学修の到達目標

「知りたいことを学ぶ」が松井ゼミの目標です。「学ぶ」とは，学んだことを自分の言葉で説明できることです。ゼミナールⅠよりさらに深く教科書を読み進めて下さい。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	卒論を書くために使用するLaTeX（ラテフ）の準備を行う.	2
	授業	オリエンテーション	
	事後学修	LaTeXの参考書を読む.	2
2	事前学修	LaTeXの課題を行う.	2
	授業	LaTeXの課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeXの課題を行う.	2
3	事前学修	LaTeXの課題を行う.	2
	授業	LaTeXの課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeXの課題を行う.	2
4	事前学修	LaTeXの準備を行う.	2
	授業	LaTeXの課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeXの課題を行う.	2
5	事前学修	LaTeXの準備を行う.	2
	授業	LaTeXの課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeXの課題を行う.	2
6	事前学修	LaTeXの準備を行う.	2
	授業	LaTeXの課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeXの課題を行う.	2
7	事前学修	LaTeXの課題を行う.	2

	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
8	事前学修	LaTeX の課題を行う.	2
	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
9	事前学修	LaTeX の課題を行う.	2
	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
10	事前学修	LaTeX の課題を行う.	2
	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
11	事前学修	LaTeX の課題を行う.	2
	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
12	事前学修	LaTeX の課題を行う.	2
	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
13	事前学修	LaTeX の課題を行う.	2
	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
14	事前学修	LaTeX の課題を行う.	2
	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
15	事前学修	LaTeX の課題を行う.	2
	授業	LaTeX の課題提出と課題解決の問題点を話しあう.	
	事後学修	LaTeX の課題を行う.	2
16	事前学修	研究テーマについて考察する.	2
	授業	グループで研究テーマについて考察する.	
	事後学修	グループで行った議論から，さらに研究テーマを考察する.	2
17	事前学修	研究テーマを考える.	2
	授業	グループで研究テーマについて考察する.	
	事後学修	グループで行った議論から，さらに研究テーマを考察する.	2
18	事前学修	研究テーマを決定する.	2
	授業	決定した研究テーマを考察する.	
	事後学修	最終的に，研究テーマを決定する.	2
19	事前学修	教科書を選定する.	2
	授業	選定した教科書について，グループで考察する.	
	事後学修	最終的に教科書を決定する.	2
20	事前学修	教科書を読み進める.	2
	授業	教科書の内容について，疑問を出し合い理解を深める.	

	事後学修	教科書を読み進める.	2
21	事前学修	教科書を読み進める.	2
	授業	教科書の内容について，疑問を出し合い理解を深める.	
	事後学修	教科書を読み進める.	2
22	事前学修	教科書を読み進める.	2
	授業	教科書の内容について，疑問を出し合い理解を深める.	
	事後学修	教科書を読み進める.	2
23	事前学修	教科書を読み進める.	2
	授業	教科書の内容について，疑問を出し合い理解を深める.	
	事後学修	教科書を読み進める.	2
24	事前学修	教科書を読み進める.	2
	授業	教科書の内容について，疑問を出し合い理解を深める.	
	事後学修	教科書を読み進める.	2
25	事前学修	教科書を読み進める.	2
	授業	教科書の内容について，疑問を出し合い理解を深める.	
	事後学修	教科書を読み進める.	2
26	事前学修	教科書を読み進める.	2
	授業	教科書の内容について，疑問を出し合い理解を深める.	
	事後学修	教科書を読み進める.	2
27	事前学修	教科書の内容について，プレゼンテーションの準備を行う.	2
	授業	教科書の内容について，プレゼンテーションを行う.	
	事後学修	プレゼンテーションを行うことにより出た疑問を解決する.	2
28	事前学修	教科書の内容について，プレゼンテーションの準備を行う.	2
	授業	教科書の内容について，プレゼンテーションを行う.	
	事後学修	プレゼンテーションを行うことにより出た疑問を解決する.	2
29	事前学修	教科書の内容について，プレゼンテーションの準備を行う.	2
	授業	教科書の内容について，プレゼンテーションを行う.	
	事後学修	プレゼンテーションを行うことにより出た疑問を解決する.	2
30	事前学修	教科書の内容について，プレゼンテーションの準備を行う.	2
	授業	教科書の内容について，プレゼンテーションを行う.	
	事後学修	プレゼンテーションを行うことにより出た疑問を解決する.	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
課題の提出 50% プレゼンテーションの内容 50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜質問に答えます。

教科書	
参考書・Web サイト	奥村，黒木著，LaTeX2e 美文書作成入門，技術評論社
単位修得が望ましい科目	とくにありません.
備考	特にありません.

担当教員の実務経験	ありません.

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

○テーマ

人や物の形，動きを測る，創る。サイエンスとアート，エンジニアリングの融合を目指します。

○概要

先端装置，技術を駆使して「魅せる」を考えます。具体的には，2 つのグループのうちの一つまたは複数に所属し，自らテーマを設定し活動します。

1．エンジニアリンググループ（顔画像処理，メディアアート）

a. デジタルカメラで撮影された人物を，画像処理技術を用いて加工します。

b. さまざまなデバイスを利用した，人とコンピュータのインタラクションを実現します。

メディアアートや合成アルゴリズムの提案，認知心理学的分析などがあります。

C 言語等のプログラミングができることが望ましいです。

2. デザイングループ（3ＤＣＧ、メディアアート）

a. ３Ｄソフト等を用い，実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。

b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。

2 つのグループは相互に関連し，影響しあっています。グループワークを通して 2 つのグループの力が融合した映像作品の制作を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、3D プリンタなどを用いて、役に立つもの，心が豊かになるものを作っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。

授業における学修の到達目標

個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールで身につけたい技術を調べる	2
	授業	ガイダンス	
	事後学修	ゼミナールで取り組める技術について確認する	2
2	事前学修	身につけている技術や過去の経験を整理	2
	授業	メディア・クリエイティブ・センター見学	
	事後学修	ゼミナールでの情報共有のための各種手続き	2
3	事前学修	自己紹介プレゼンの準備	2
	授業	自己紹介プレゼン	
	事後学修	自己紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
4	事前学修	よいプレゼンについて調べる	2

	授業	よいプレゼンの方法を考える	
	事後学修	自己紹介プレゼンの修正	2
5	事前学修	プレゼン資料の作成方法について確認	2
	授業	グループディスカッション（他己紹介プレゼン）	
	事後学修	他己紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
6	事前学修	おもしろい技術の紹介プレゼン準備	2
	授業	おもしろい技術の紹介プレゼン	
	事後学修	おもしろい技術の紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
7	事前学修	取り組むテーマと課題を考え、プレゼンの準備	2
	授業	取り組むテーマと課題についてのプレゼン・・・課題１	
	事後学修	取り組むテーマと課題についてのプレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
8	事前学修	ゼミらしい技術について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示のテーマを考える（ブレスト）	
	事後学修	話しあった議論（ブレスト）をまとめる	2
9	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示の具体的内容を考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示の内容の企画	
	事後学修	話しあった議論（企画）をまとめる	2
10	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示に必要な作業について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示に向けて必要な作業の設計	
	事後学修	話し合った議論（設計）をまとめる	2
11	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示での担当について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示に向けての役割分担とスケジュール	
	事後学修	各自の担当に関する作業をすすめる	2
12	事前学修	映画で使われる CG 技術について調べる	2
	授業	CG 映画鑑賞	
	事後学修	映画で使われていた CG 技術についてまとめる（レポート）	2
13	事前学修	課題１への取り組み進捗報告準備	2
	授業	４年生卒業研究企画発表会発表練習聴講	
	事後学修	課題１への取り組み	2
14	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業進捗報告準備	2
	授業	４年生卒業研究企画発表会聴講（１週目）	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業	2
15	事前学修	ゼミ紹介案の検討（夏休みのイベント準備）	2
	授業	４年生卒業研究企画発表会聴講（2 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート）	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：30%　■演習課題：40%　■その他[　グループワーク：30%　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習 I・II
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

ゼミナールⅠに引き続き実施します。

○テーマ

人や物の形，動きを測る，創る。サイエンスとアート，エンジニアリングの融合を目指します。

○概要

先端装置，技術を駆使して「魅せる」を考えます。具体的には，2 つのグループのうちの一つまたは複数に所属し，自らテーマを設定し活動します。

1．エンジニアリンググループ（顔画像処理，メディアアート）

a. デジタルカメラで撮影された人物を，画像処理技術を用いて加工します。

b. さまざまなデバイスを利用した，人とコンピュータのインタラクションを実現します。

メディアアートや合成アルゴリズムの提案，認知心理学的分析などがあります。

C 言語等のプログラミングができることが望ましいです。

2．デザイングループ（3ＤＣＧ、メディアアート）

a. ３Ｄソフト等を用い，実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。

b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。

2 つのグループは相互に関連し，影響しあっています。グループワークを通して 2 つのグループの力が融合した映像作品の制作を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、3D プリンタなどを用いて、役に立つもの，心が豊かになるものを作っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。

授業における学修の到達目標

個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討（夏休みのイベント準備）	2
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（2 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート）	2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告準備	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告プレゼン	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告での指摘についての対応	2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサルでの問題についての対応	2

4	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）	2
5	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備	2
	授業	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン	
	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）	2
6	事前学修	課題１への取り組み進捗報告準備	2
	授業	４年生の卒業研究進捗報告聴講	
	事後学修	課題１への取り組み：仕上げ	2
7	事前学修	課題１の成果発表準備	2
	授業	課題１の成果発表	
	事後学修	課題１の成果発表での質問・コメントと反省をまとめる（レポート）	2
8	事前学修	卒業論文の手引きの確認	2
	授業	卒業論文の書き方講習	
	事後学修	課題１に関する小論文の作成	2
9	事前学修	先端技術調査プレゼン準備	2
	授業	先端技術調査プレゼン	
	事後学修	先端技術調査プレゼンでの他の発表に関する感想（レポート）	2
10	事前学修	グループ課題（課題２）の提案準備	2
	授業	グループ課題（課題２）の検討	
	事後学修	グループ課題（課題２）への取り組み（個人）	2
11	事前学修	グループ課題（課題２）の進捗報告準備	2
	授業	グループ課題（課題２）の進捗報告	
	事後学修	グループ課題（課題２）への取り組み（グループ）	2
12	事前学修	卒業研究に関する提案プレゼン準備	2
	授業	卒業研究に関する提案プレゼン	
	事後学修	卒業研究に関する提案に対する反省	2
13	事前学修	課題２のプレゼン準備	2
	授業	課題２のプレゼン	
	事後学修	課題２のプレゼンの質問・コメントのまとめ（レポート）	2
14	事前学修	１年の振り返りプレゼン準備	2
	授業	１年の振り返りプレゼン	
	事後学修	１年の振り返りとこれからの目標をまとめる（レポート）	2
15	事前学修	春休み中の課題提案プレゼン準備	2
	授業	春休み中の課題提案プレゼン	
	事後学修	春休み中の課題の取り組み開始	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：30%　■演習課題：40%　■その他[　グループワーク：30%　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
適宜対面で指導	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：３DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	向田 茂(125研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

○テーマ

人や物の形，動きを測る，創る。サイエンスとアート，エンジニアリングの融合を目指します。

○概要

先端装置，技術を駆使して「魅せる」を考えます。具体的には，2つのグループのうちの一つまたは複数に所属し，自らテーマを設定し活動します。

1．エンジニアリンググループ（顔画像処理，メディアアート）

a. デジタルカメラで撮影された人物を，画像処理技術を用いて加工します。

b. さまざまなデバイスを利用した，人とコンピュータのインタラクションを実現します。

メディアアートや合成アルゴリズムの提案，認知心理学的分析などがあります。

C言語等のプログラミングができることが望ましいです。

2. デザイングループ（3ＤＣＧ、メディアアート）

a. ３Ｄソフト等を用い，実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。

b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。

2つのグループは相互に関連し，影響しあっています。グループワークを通して2つのグループの力が融合した映像作品の制作を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、3Dプリンタなどを用いて、役に立つもの，心が豊かになるものを作っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。

授業における学修の到達目標

個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	３年生での取り組みを振り返る	2.0
	授業	ガイダンス	
	事後学修	これからの１年の取り組みを計画する	2.0
2	事前学修	メディア・クリエイティブセンター紹介のための準備	2.0
	授業	メディア・クリエイティブセンターの紹介	
	事後学修	紹介内容と効果をまとめる	2.0
3	事前学修	１年間の取り組みのプレゼン準備	2.0
	授業	１年間の取り組みについてのプレゼン	
	事後学修	質問・コメントをまとめる	2.0

4	事前学修	よいプレゼンについて調べる	2.0
	授業	よいプレゼンの方法の講習	
	事後学修	先週のプレゼン資料を見直す	2.0
5	事前学修	資格（基本情報技術者試験、IT パスポート）について調べる	2.0
	授業	資格試験対策 e ラーニング紹介と登録	
	事後学修	資格試験対策 e ラーニングの実施	2.0
6	事前学修	自分の研究テーマについて整理する	2.0
	授業	研究テーマについてグループでブレスト	
	事後学修	ブレストで出た意見をまとめる	2.0
7	事前学修	卒業研究で取り組むテーマを考え、プレゼンの準備	2.0
	授業	卒業研究で取り組にについてのプレゼン	
	事後学修	卒業研究で取り組むテーマについてのプレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
8	事前学修	就職活動についての報告資料をまとめる	2.0
	授業	就職活動の状況について報告する	
	事後学修	自分の取り組み状況の問題点・課題についてまとめる	2.0
9	事前学修	企画書（研究計画）の書き方について調べる	2.0
	授業	企画書（研究計画）の作成について	
	事後学修	企画書（研究計画）を作成する	2.0
10	事前学修	作成した企画書（研究計画）を見直す	2.0
	授業	企画書を相互に確認し、伝わり方や問題点について考える（１回目）	
	事後学修	企画書（研究計画）を修正する	2.0
11	事前学修	修正した企画書（研究計画）を見直す	2.0
	授業	企画書を相互に確認し、伝わり方や問題点について考える（２回目）	
	事後学修	企画書（研究計画）を修正する	2.0
12	事前学修	企画発表会のプレゼン資料を作成する	2.0
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（１回目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
13	事前学修	１回目のプレゼンで受けた質問・コメントを参考にプレゼン資料を修正する	2.0
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（２回目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
14	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し	2.0
	授業	卒業研究企画発表会（１週目）	
	事後学修	企画発表会での発表に対する質問・コメントおよび他の人の発表をまとめる	2.0
15	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し	2.0
	授業	卒業研究企画発表会（2 週目）	
	事後学修	企画発表会での発表に対する質問・コメントおよび他の人の発表をまとめる	2.0
16	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討（夏休みのイベント準備）	2.0
	授業	ゼミ紹介案の企画・設計	
	事後学修	ゼミ紹介の準備	2.0
17	事前学修	卒業論文の手引きの確認	2.0

	授業	卒業論文の書き方講習	
	事後学修	卒業論文の目次を作成する	2.0
18	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備	2.0
	授業	３年生の蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル対応	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の問題に対するサポート	2.0
19	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省	2.0
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）	2.0
20	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備	2.0
	授業	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン	
	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）	2.0
21	事前学修	卒業研究進捗報告プレゼンの準備	2.0
	授業	卒業研究進捗報告プレゼン	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
22	事前学修	研究の要点をまとめる	2.0
	授業	小論執筆	
	事後学修	小論初稿を完成する	2.0
23	事前学修	小論の見直し	2.0
	授業	小論の相互チェック（１回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
24	事前学修	指摘をもとに小論の修正	2.0
	授業	小論の相互チェック（２回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
25	事前学修	指摘をもとに小論の修正	2.0
	授業	小論の相互チェック（３回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
26	事前学修	卒論の手引きを読み小論のフォーマットを確認する	2.0
	授業	小論のフォーマットの相互チェック	
	事後学修	小論フォーマットの間違いを修正する	2.0
27	事前学修	卒業研究の進捗を整理	2.0
	授業	卒業研究のスケジュール確認	
	事後学修	卒業研究のスケジュールを見直す	2.0
28	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（１回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0
29	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（２回目）	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（２回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0
30	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（３回目）	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（３回目）	

	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：30%　■演習課題：　40%
■その他[　グループワーク：30%　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習 I・II
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	守 啓祐(225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究

○ 概 要
研究テーマは，ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは，ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず，人とロボットを代表とするような機械とのインタラクション，人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。

授業における学修の到達目標

問題解決をするための方法や技術を考え出す事が出来，実行した内容を正しく文章としてまとめ伝えることができるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	研究テーマの案を複数検討する	2.0
	授業	研究テーマの概要について説明，議論する	
	事後学修	ゼミナールで行う研究テーマの概要についてまとめる	2.0
2	事前学修	ゼミナールの概要について調査する	2.0
	授業	ゼミナールの概要について議論する	
	事後学修	ゼミナールの概要についてまとめる	2.0
3	事前学修	研究テーマを調査する対象について調査する	2.0
	授業	研究テーマを調査する対象を列挙する	
	事後学修	研究テーマを調査する対象についてまとめる	2.0
4	事前学修	新聞の概要について調査する	2.0
	授業	新聞の概要について議論する	
	事後学修	新聞の概要についてまとめる	2.0
5	事前学修	新聞の構成について調査する	2.0
	授業	新聞の構成について調査する	
	事後学修	新聞の構成についてまとめる	2.0
6	事前学修	論文の種類について調査する	2.0

	授業	論文の種類について調査する	
	事後学修	論文の種類について調査する	2.0
7	事前学修	論文の種類について調査する	2.0
	授業	論文の種類について調査する	
	事後学修	論文の種類について調査する	2.0
8	事前学修	文献の入手方法について調査する	2.0
	授業	文献の入手方法について議論する	
	事後学修	文献の入手方法についてまとめる	2.0
9	事前学修	興味のある１つ目の文献について調査する	2.0
	授業	興味のある１つ目の文献について議論する	
	事後学修	興味のある１つ目の文献についてまとめる	2.0
10	事前学修	興味のある１つ目の文献を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある１つ目の文献について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある１つ目の文献についてまとめる（前半）	2.0
11	事前学修	興味のある１つ目の文献を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある１つ目の文献について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある１つ目の文献についてまとめる（後半）	2.0
12	事前学修	他人の興味のある発表を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある発表ついてまとめる（前半）	2.0
13	事前学修	他人の興味のある発表を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある発表ついてまとめる（後半）	2.0
14	事前学修	発表に対してのコメントに対する調査をする	2.0
	授業	発表に対してのコメントに対して議論する	
	事後学修	発表に対してのコメントをまとめる	2.0
15	事前学修	これまでの取り組について調査する	2.0
	授業	これまでの取り組について議論する	
	事後学修	これまでの取り組についてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□■試験：　　%　□■小テスト：　　%　□■レポート：　%　□■演習課題：　　%　□■その他[　　輪講でおこなうため，テーマの調査能力，それから発表を行うためのプレゼンテーション能力，疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出，返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	資料等のやり取りは POLITE または共有ディレクトリ，メールにより行うので使い方を確認しておくこと。
担当教員の実務経験	該当科目に付き，測定用の機材の作成を行い，論文作成を行ってきた。また，関連企業とと

	もに共同研究を行ってきた。この経験を活かし，該当科目に反映させている。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	守 啓祐(225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究

○ 概 要
研究テーマは，ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは，ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず，人とロボットを代表とするような機械とのインタラクション，人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。

授業における学修の到達目標

問題解決をするための資料の存在や探し方を習得し適切に調査できるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	論文の構成について調査する	2.0
	授業	論文の構成について議論する	
	事後学修	論文の構成についてまとめる	2.0
2	事前学修	序論（はじめに）の書き方について調査する	2.0
	授業	序論（はじめに）の書き方について議論する	
	事後学修	序論（はじめに）の書き方についてまとめる	2.0
3	事前学修	本論（本文）の書き方について調査する	2.0
	授業	本論（本文）の書き方について議論する	
	事後学修	本論（本文）の書き方についてまとめる	2.0
4	事前学修	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方について調査する	2.0
	授業	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方について議論する	
	事後学修	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方についてまとめる	2.0
5	事前学修	参考文献の書き方について調査する	2.0
	授業	参考文献の書き方について議論する	
	事後学修	参考文献の書き方についてまとめる	2.0
6	事前学修	要旨（概要、あらまし）の書き方について調査する	2.0
	授業	要旨（概要、あらまし）の書き方について議論する	

	事後学修	要旨（概要、あらまし）の書き方についてまとめる	2.0
7	事前学修	謝辞，付録その他の書き方について調査する	2.0
	授業	謝辞，付録その他の書き方について議論する	
	事後学修	謝辞，付録その他の書き方についてまとめる	2.0
8	事前学修	目次，図録の目次，索引の書き方について調査する	2.0
	授業	目次，図録の目次，索引の書き方について議論する	
	事後学修	目次，図録の目次，索引の書き方についてまとめる	2.0
9	事前学修	図の書き方について調査する	2.0
	授業	図の書き方について議論する	
	事後学修	図の書き方についてまとめる	2.0
10	事前学修	表の書き方について調査する	2.0
	授業	表の書き方について議論する	
	事後学修	表の書き方についてまとめる	2.0
11	事前学修	キャプション（説明文; 見出し）の書き方について調査する	2.0
	授業	キャプション（説明文; 見出し）の書き方について議論する	
	事後学修	キャプション（説明文; 見出し）の書き方についてまとめる	2.0
12	事前学修	句読点の使い方について調査する	2.0
	授業	句読点の使い方について議論する	
	事後学修	句読点の使い方についてまとめる	2.0
13	事前学修	外来語の表記について調査する	2.0
	授業	外来語の表記について議論する	
	事後学修	外来語の表記についてまとめる	2.0
14	事前学修	学術用語の表記について調査する	2.0
	授業	学術用語の表記について議論する	
	事後学修	学術用語の表記についてまとめる	2.0
15	事前学修	ゼミナールの取り組について調査する	2.0
	授業	ゼミナールの取り組について議論する	
	事後学修	ゼミナールの取り組についてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□■試験：　%　□■小テスト：　%　□■レポート：　%　□■演習課題：　%　□■その他[　輪講でおこなうため，テーマの調査能力，それから発表を行うためのプレゼンテーション能力，疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出，返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	該当科目に付き，測定用の機材の作成を行い，論文作成を行ってきた。また，関連企業とともに共同研究を行ってきた．この経験を活かし，該当科目に反映させている。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 4

担当教員	守 啓祐(225研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	ゼミ	○	IMC409

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究
6.ゲーム理論に基づいたHCI利用アプリケーションに関する研究

○　概　要
研究テーマは，ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは，ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず，人とロボットを代表とするような機械とのインタラクション，人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。

授業における学修の到達目標

問題解決をするための方法や技術を考え出す事が出来，実行した内容を正しく文章としてまとめ伝えることができるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールの概要について調査する	2.0
	授業	ゼミナールの概要について説明・議論する	
	事後学修	ゼミナールの概要についてまとめる	2.0
2	事前学修	研究環境について調査する	2.0
	授業	研究環境について議論する	
	事後学修	研究環境についてまとめる	2.0
3	事前学修	コンピュータの種類について調査する	2.0
	授業	コンピュータの種類について議論する	
	事後学修	コンピュータの種類についてまとめる	2.0
4	事前学修	オペレーティングシステムの種類について調査する	2.0
	授業	オペレーティングシステムの種類について議論する	
	事後学修	オペレーティングシステムの種類についてまとめる	2.0
5	事前学修	コンピュータ言語について調査する	2.0
	授業	コンピュータ言語について議論する	
	事後学修	コンピュータ言語についてまとめる	2.0

6	事前学修	測定器の概要について調査する	2.0
	授業	測定器の概要について議論する	
	事後学修	測定器の概要についてまとめる	2.0
7	事前学修	実験データの記録方法について調査する	2.0
	授業	実験データの記録方法について議論する	
	事後学修	実験データの記録方法についてまとめる	2.0
8	事前学修	実験データの解析方法について調査する	2.0
	授業	実験データの解析方法について議論する	
	事後学修	実験データの解析方法についてまとめる	2.0
9	事前学修	表の書き方について調査する	2.0
	授業	表の書き方について議論する	
	事後学修	表の書き方についてまとめる	2.0
10	事前学修	図の書き方について調査する	2.0
	授業	図の書き方について議論する	
	事後学修	図の書き方についてまとめる	2.0
11	事前学修	イラストの書き方について調査する	2.0
	授業	イラストの書き方について議論する	
	事後学修	イラストの書き方についてまとめる	2.0
12	事前学修	文書書きのツールについて調査する	2.0
	授業	文書書きのツールについて議論する	
	事後学修	文書書きのツールについてまとめる	2.0
13	事前学修	コンピュータのバックアップについて調査する	2.0
	授業	コンピュータのバックアップについて議論する	
	事後学修	コンピュータのバックアップについてまとめる	2.0
14	事前学修	出力環境について調査する	2.0
	授業	出力環境について議論する	
	事後学修	出力環境についてまとめる	2.0
15	事前学修	これまでの内容について調査する	2.0
	授業	これまでの内容について議論する	
	事後学修	これまでの内容についてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　□演習課題：　　%

■その他[輪講でおこなうため，テーマの調査能力，それから発表を行うためのプレゼンテーション能力，疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出，返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します
単位修得が望ましい科目	なし
備考	ゼミナールⅠの内容を確認しておくこと。

担当教員の実務経験	該当科目に付き，測定用の機材の作成を行い，論文作成を行ってきた。また，関連企業とともに共同研究を行ってきた．この経験を活かし，該当科目に反映させている。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	森川 悟(856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

○テーマ

ゲームコンテンツの制作

○概要

現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが，それらを深く掘り下げ，そこから知見を得て，自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。

制作するコンテンツは，スマートフォン，パソコンなどのデジタルゲームコンテンツのみならず，カードを用いたアナログゲームや，ＡＲなどのデジタル技術とアナログゲームをあわせたものも『新しい遊びの提案』がある場合は許可する。

ゼミナールⅠではチームでゲームを作品を作る。

授業における学修の到達目標

ゲーム作品を企画し制作することができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールの概要について調べる	2
	授業	ガイダンス(制作全般)	
	事後学修	ガイダンスで得た内容をまとめる	2
2	事前学修	ゼミナールの概要について調べる	2
	授業	ガイダンス(企画の立て方)	
	事後学修	ガイダンスで得た内容をまとめる	2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る	2
	授業	制作物１を作るためのチーム分け	
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがないか検討する	2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)	
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う	
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物の企画を練る(チームディスカッション)	
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する	

	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める	2
	授業	制作物のスケジュールを作る	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	制作物の進捗を確認し、スケジュールを見直す	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物発表(検討会)	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　％　□小テスト：　％　□レポート：　％　■演習課題：　50%　■その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリィ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	森川 悟(856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

○テーマ

ゲームコンテンツの制作

○概要

現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが，それらを深く掘り下げ，そこから知見を得て，自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。

ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠでの経験を踏まえてさらに高度なものを制作する。

ゼミナールⅡはゼミナールⅠと同様にチームでゲーム制作を行う。

授業における学修の到達目標

ゲーム作品を企画し制作することができる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点をまとめる	2
	授業	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点を話し合う	
	事後学修	話し合いの意見をまとめる	2
2	事前学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点を再度まとめる	2
	授業	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点の解決方法を考える	
	事後学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点の解決方法をまとめる	2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る	2
	授業	新しく制作物を作るためのチーム分けを行う	
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがないか検討する	2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)	
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う	
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物の企画を練る(ディスカッション)	
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する	
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2

8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める	2
	授業	制作物のスケジュールを作る	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物の検討会を行う	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：50%　■その他[グループワーク：50%]　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリィ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	森川 悟(856研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

○テーマ

ゲームコンテンツの制作

○概要

現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが，それらを深く掘り下げ，そこから知見を得て，自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。

制作するコンテンツは，スマートフォン，パソコン，ＶＲなどのデジタルゲームコンテンツのみならず，カードゲームなどのアナログゲームや，ＡＲなどのデジタル技術とアナログゲームをあわせたものも『新しい遊びの提案』がある場合は許可する。

ゼミナールⅡではゼミナールⅠより高度なゲームを２つ作ります。

授業における学修の到達目標

ゲーム作品を企画し制作することができる。自分の作ったゲームを客観的に分析できるようになる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールⅡの概要について調べる	2
	授業	ガイダンス(制作全般)	
	事後学修	ガイダンスで得た内容をまとめる	2
2	事前学修	ゼミナールの概要について調べる	2
	授業	ガイダンス(企画の立て方)	
	事後学修	ガイダンスで得た内容をまとめる	2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る	2
	授業	制作物１を作るためのチーム分け	
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがないか検討する	2
4	事前学修	制作物１の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物１の企画を作る(アイデア出し)	
	事後学修	制作物１の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
5	事前学修	制作物１の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物１の企画を練る。アイデアの再検討を行う	
	事後学修	制作物１の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
6	事前学修	制作物１の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物１の企画を練る(ディスカッション)	
	事後学修	制作物１の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2

7	事前学修	制作物 1 の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物 1 の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する	
	事後学修	制作物 1 の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める	2
	授業	制作物 2 のスケジュールを作る	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物 1 の企画発表	
	事後学修	制作物 1 の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物 1 の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物 1 の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物 1 の制作をさらに続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物 1 を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物 1 発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物 1 発表(検討会)	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2
16	事前学修	制作物 1 で得た問題点をまとめる	2
	授業	制作物 1 で得た問題点を話し合う	
	事後学修	話し合いの意見をまとめる	2
17	事前学修	制作物 1 で得た問題点をまとめる	2
	授業	制作物 1 で得た問題点の解決方法を考える	
	事後学修	問題点の解決方法をまとめる	2
18	事前学修	自身のスキルを振り返る	2
	授業	制作物 2 を作るためのチーム分け	
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがないか検討する	2
19	事前学修	制作物 2 の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物 2 の企画を作る(アイデア出し)	
	事後学修	制作物 2 の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
20	事前学修	制作物 2 の企画を作るにあたり資料を集める	2

	授業	制作物 2 の企画を練る。アイデアの再検討を行う	
	事後学修	制作物 2 の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
21	事前学修	制作物 2 の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物 2 の企画を練る(ディスカッション)	
	事後学修	制作物 2 の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
22	事前学修	制作物 2 の企画を作るにあたり資料を集める	2
	授業	制作物 2 の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する	
	事後学修	制作物 2 の企画を作るにあたり問題点をまとめる	2
23	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める	2
	授業	制作物 2 のスケジュールを作る	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
24	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物 2 の企画発表	
	事後学修	制作物 2 の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
25	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物 2 の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
26	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物 2 の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
27	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物 2 の制作をさらに続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
28	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物 2 を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
29	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物 2 発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
30	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物 2 発表(検討会)	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について
自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：50%　■その他[グループワーク　：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし

単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリィ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える.

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

○ テーマ
クリエイティブ・ソリューション

○ 概 要
メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。
世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイディア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。

ゼミナールⅠでは，課題解決型プロジェクト学習を行う上での基本知識習得とそれを実際に試すトライアル課題を実施します。

※Adobe Photoshop, Illustrator, HTML, CSS の知識が必要です。
※Web やアプリを使ったビジネスや, マーケティングに興味がある学生も歓迎します。
※デザインが不得手でも, VR，映像，音楽などや，PHP, JAVAScript などを得意とする学生も歓迎します。

授業における学修の到達目標

1．プロデュース力
リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。

2．クリエイティブ力
デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。

3．マネージメント力
チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。

4．コミュニケーション力
リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。

5．ビジネス力
Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの趣旨とスケジュールを把握しておく	2
	授業	ガイダンス 課題解決型プロジェクト学習でどのように学んでいくか？	
	事後学修	課題解決型プロジェクト学習の具体例を探してみる	2

2	事前学修	課題解決型プロジェクト学習のメリットとデメリットを考えてみる	2
	授業	課題解決型プロジェクト学習のメリットと落とし穴（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	デメリットに対する対策を考えてみる	2
3	事前学修	コミュニケーションはチームにどう影響するかを考えてみる	2
	授業	グループワークの方法 コミュニケーション（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	どのようにすればゼミナールのチームでのコミュニケーションが活性化するか考えてみる	2
4	事前学修	ガントチャートとタスクリストについて調べてみる	2
	授業	グループワークの方法 スケジュール管理（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	ガントチャートとタスクリストのアプリをスマートフォンにインストールする	2
5	事前学修	クオリティとスケジュールの関係について考えておく	2
	授業	グループワークの方法 クオリティ管理（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	クオリティを上げるにはどのようにすればいいか，考えてみる	2
6	事前学修	ドキュメンテーションするメリットを考えてみる	2
	授業	グループワークの方法 ドキュメンテーション（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	ゼミナールのチームでのドキュメンテーションの具体的なツールを探してみる	2
7	事前学修	チームとグループの違いについて考えておく	2
	授業	チームビルディングの方法 チームとグループの違い（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	チームであるためには何が必要か考えてみる	2
8	事前学修	学生のチームづくりを考えたときにどのような過程を経るのか，紙に書いてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チームの形成プロセス（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	効率的なチームビルディングを行うには何が大切か考えてみる。	2
9	事前学修	チームの活性化するときなどのようなときか，考えてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チームの活性化（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	ゼミナールのチームを活性化させるためには何が大切か，考えてみる	2
10	事前学修	役割分担をすることはどのようなメリットがあるか考えてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チーム内での役割分担（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	自分はゼミでどのような役割を果たせるか，考えてみる	2
11	事前学修	コミットメントとはなにか調べておく	2
	授業	チームビルディングの方法 コミットメントの重要性（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	学生におけるコミットメントとはどのようなことか，考えてみる	2
12	事前学修	リーダーシップとは何か，考えておく	2
	授業	リーダーとリーダーシップ リーダーシップの形（講義の後，グループディスカッション）	

	事後学修	自分のリーダーシップのスタイルを考えてみる	2
13	事前学修	リーダーとは何かを考えてみる	2
	授業	リーダーとリーダーシップ リーダーとは？（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	自分はどのようなリーダーになれるのか，考えてみる	2
14	事前学修	チームのメリットを考えておく	2
	授業	チームで取り組むことのメリット（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	どうしたらメリットを最大化できるか考えてみる	2
15	事前学修	チームのデメリットを考えておく	2
	授業	チームで取り組むことのデメリット（講義の後，グループディスカッション）	
	事後学修	デメリットに対する対策を考えてみる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：30%　■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜，指示する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社，IT コンサルティングファームの実務経験をもとに，そこで得た知識，技術，ツールを学生に教える。また，実務時代のネットワークを活用し，学生と外部有識者とをつなげ，現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

○ テーマ
クリエイティブ・ソリューション

○ 概 要
メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。
世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイディア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。

ゼミナールⅠでは，課題解決型プロジェクト学習を行う上での基本知識習得とそれを実際に試すトライアル課題を実施します。

※Adobe Photoshop, Illustrator, HTML, CSS の知識が必要です。
※Web やアプリを使ったビジネスや, マーケティングに興味がある学生も歓迎します。
※デザインが不得手でも, VR，映像，音楽などや，PHP, JAVAScript などを得意とする学生も歓迎します。

授業における学修の到達目標

1．プロデュース力
リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。

2．クリエイティブ力
デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。

3．マネージメント力
チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。

4．コミュニケーション力
リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。

5．ビジネス力
Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	プロジェクト学習について調べておく	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題提起	
	事後学修	課題を読み込み，理解する	2

2	事前学修	課題を読み込み理解する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題の理解と全体での共有 →チーム分け	
	事後学修	同じような課題が他にないか調べてみる	2
3	事前学修	二次調査を行う	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 周辺調査	
	事後学修	二次調査を行う	2
4	事前学修	現地調査・ヒアリングの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング	
	事後学修	現地調査・ヒアリングのまとめ	2
5	事前学修	アイディアをどんどん出してみる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング	
	事後学修	アイディアを整理する	2
6	事前学修	整理したアイディアを俯瞰してみる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューション案絞る	
	事後学修	ソリューション案を掘り下げてみる	2
7	事前学修	ソリューション案を整理する	2
	授業	プロジェクト課題１ ソリューション案を提案書としてまとめる	
	事後学修	提案書の完成度を上げる	2
8	事前学修	プロトタイプの製作順序を考える	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 全体設計を行う	
	事後学修	全体設計の完成度を上げる	2
9	事前学修	詳細設計の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計を行う	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
10	事前学修	詳細設計の完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計の完成度を上げる	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
11	事前学修	設計の全体を振り返る	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成	

		プロトタイプを作成する	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
12	事前学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプの完成度をあげる	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
13	事前学修	プロトタイプの評価の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを評価する	
	事後学修	プロトタイプの評価をまとめる	2
14	事前学修	プロトタイプの評価をみて，改善点を考えてみる	2
	授業	プレゼンテーションの準備をする	
	事後学修	プレゼンテーションの準備をする	2
15	事前学修	プレゼンテーションの練習をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション 講評と振り返り	
	事後学修	プレゼンテーションを振り返る プロジェクト全体を振り返る	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：30%　■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜，指示する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社，IT コンサルティングファームの実務経験をもとに，そこで得た知識，技術，ツールを学生に教える。また，実務時代のネットワークを活用し，学生と外部有識者とをつなげ，現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	安田 光孝(135研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

○　テーマ
クリエイティブ・ソリューション

○　概　要
メインテーマは、Webを中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。
世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイディア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。

ゼミナールIIでは，道内の地域から課題解決型プロジェクト学習の実践課題を用意し，1年をかけて実施していきます。

※Adobe Photoshop, Illustrator, HTML, CSSの知識が必要です。
※Webやアプリを使ったビジネスや, マーケティングに興味がある学生も歓迎します。
※デザインが不得手でも, VR，映像，音楽などや，PHP, JAVAScriptなどを得意とする学生も歓迎します。

授業における学修の到達目標

1．プロデュース力
リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。

2．クリエイティブ力
デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。

3．マネージメント力
チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。

4．コミュニケーション力
リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。

5．ビジネス力
Webにおける戦略立案、マーケティング手法を学びます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールIIの趣旨とスケジュールを把握しておく	2
	授業	ガイダンス 課題解決型プロジェクト学習でどのように学んでいくか？	

	事後学修	ゼミナールⅠで行った課題解決型プロジェクト学習を振り返ってみる	2
2	事前学修	プロジェクト学習について調べておく	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題提起	
	事後学修	課題を読み込み，理解する	2
3	事前学修	課題を読み込み理解する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題の理解と全体での共有 →チーム分け	
	事後学修	同じような課題が他にないか調べてみる	2
4	事前学修	二次調査をはじめる	2
	授業	事前の二次調査を行う ネット調査	
	事後学修	二次調査を更に掘り下げる	2
5	事前学修	文献があるか調べる	2
	授業	事前の二次調査を行う 文献調査	
	事後学修	文献を読む	2
6	事前学修	現地調査・ヒアリングの対象を洗い出す	2
	授業	現地調査・ヒアリングの準備を行う	
	事後学修	調査用のツールなどを準備する	2
7	事前学修	調査用のツールなどを準備する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング ステイクホルダー対象	
	事後学修	調査・ヒアリングの結果をまとめる	2
8	事前学修	調査用のツールなどを準備する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング ステイクホルダー以外の周辺調査	
	事後学修	調査・ヒアリングの結果をまとめる	2
9	事前学修	結果からどのような課題が挙げられるか考える	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング 一人でアイディアを出してみる	
	事後学修	アイディアをまとめてみる	2
10	事前学修	グループでのブレストの準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング グループでのアイディア出し	
	事後学修	アイディアをチームでまとめてみる	2
11	事前学修	まとめたアイディアをよく読んでおく	2

	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューション案絞る	
	事後学修	絞ったソリューション案を掘り下げてみる	2
12	事前学修	提案書作成の準備	2
	授業	プロジェクト課題１ ソリューション案を提案書としてまとめる	
	事後学修	提案書の作成の続き	2
13	事前学修	提案書作成の続き	2
	授業	プロジェクト課題１ ソリューション案を提案書としてまとめる 提案発表の準備	
	事後学修	発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	プロジェクト課題１ 提案発表会（前半グループ）	
	事後学修	発表の振り返り	2
15	事前学修	発表の準備	2
	授業	プロジェクト課題１ 提案発表会（後半グループ）	
	事後学修	発表の振り返り	2
16	事前学修	提案書の見直し	2
	授業	プロジェクト課題１ 提案書振り返り・修正	
	事後学修	提案書を修正する	2
17	事前学修	プロトタイプの製作順序を考える	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 全体設計を行う	
	事後学修	全体設計の完成度を上げる	2
18	事前学修	詳細設計の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計を行う	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
19	事前学修	詳細設計の完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計の完成度を上げる	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
20	事前学修	設計の全体を振り返る	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを作成する	

	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
21	事前学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプの完成度をあげる	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
22	事前学修	プロトタイプの評価の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを評価する	
	事後学修	プロトタイプの評価をまとめる	2
23	事前学修	プロトタイプの評価を分析する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロトタイプの評価から修正点を洗い出す	
	事後学修	修正点をまとめる	2
24	事前学修	全体設計での修正点をまとめる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 全体設計の見直し	
	事後学修	全体設計の見直し	2
25	事前学修	詳細設計での修正点をまとめる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 詳細設計の見直し	
	事後学修	詳細設計の見直し	2
26	事前学修	開発の準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業　デザイン	
	事後学修	作業を進める	2
27	事前学修	作業を進める	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業　コーディング	
	事後学修	作業を進める	2
28	事前学修	作業を進める	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業　統合作業	
	事後学修	作業を進める	2
29	事前学修	プレゼンテーションの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション（クラスの前半グループ）	

		講評	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2
30	事前学修	プレゼンテーションの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション（クラスの後半グループ） 講評	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：30%　■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜，指示する
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社，IT コンサルティングファームの実務経験をもとに，そこで得た知識，技術，ツールを学生に教える。また，実務時代のネットワークを活用し，学生と外部有識者とをつなげ，現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

リレーショナルデータベースの利用方法を演習を通して学びます。

授業における学修の到達目標

リレーショナルデータベースの利用目的，主要な機能について指摘できる。
基本的な SQL 文を利用できる。
リレーショナルデータベースを中心としたデータ管理に関する初歩的な具体例を実装できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義概要や POLITE で授業の目的，到達目標を確認してください。	1
	授業	ガイダンス（1 年間のスケジュール確認等）	
	事後学修	リレーショナルデータベースについて参考文献を入手してください。	1
2	事前学修	リレーショナルデータベースの目的・機能について調べてください。	2
	授業	リレーショナルデータベース（目的・機能）	
	事後学修	講義内容を整理し，次回までに小テストに答えてください。	2
3	事前学修	SQL の問合せについて利用方法を調べてください。	2
	授業	SQL-learning-page で Query 演習	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
4	事前学修	データベースの概念モデリング（ER 図）について調べてください。	2
	授業	データモデリング演習（成績管理）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
5	事前学修	SQL によるデータベース定義，テーブル定義について調べてください。	2
	授業	DDL とデータインポート演習	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
6	事前学修	SQL の集合関数とグループ化について調べてください。	2
	授業	DML 基礎演習（グループ化）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
7	事前学修	SQL のテーブル結合と副問合せについて調べてください。	2
	授業	DML 活用演習（Join，Subquery）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
8	事前学修	SQL によるデータ挿入・更新・削除，トランザクション処理について調べてください。	2
	授業	データ更新とトランザクション演習	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
9	事前学修	インストールする DBMS について，その特徴を調べてください。	2
	授業	RDBMS インストール	

	事後学修	次回までに正しくインストールできていることを確認してください。	2
10	事前学修	SQL のテーブル定義，問合せ文を復習してください。	2
	授業	受注データ管理演習（Table・Query 設計）	
	事後学修	次回までに設計を完了してください。	2
11	事前学修	利用する DBMS のデータインポートの方法を調べてください。	2
	授業	受注データ管理演習（データインポート）	
	事後学修	次回までにインポートを完了してください。	2
12	事前学修	動作確認の方法を検討し，準備してください。	2
	授業	受注データ管理演習（動作確認）	
	事後学修	確認結果を整理し，不十分な点は改修・再確認してください。	3
13	事前学修	SQL のテーブル定義，問合せ文を復習してください。	2
	授業	図書貸出データ管理演習（Table・Query 設計）	
	事後学修	次回までに設計を完了してください。	2
14	事前学修	貸出データ，返却データの準備をしてください。	2
	授業	図書貸出データ管理演習（貸出返却データ作成）	
	事後学修	次回までにデータの作成を完了してください。	2
15	事前学修	動作確認の方法を検討し，準備してください。	2
	授業	図書貸出データ管理演習（動作確認）	
	事後学修	確認結果を整理し，不十分な点は改修・再確認してください。	3

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習に関する提出物についてはゼミナールの時間中のほか，POLITE を通じて，フィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中，もしくは POLITE 上で，それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ICT 入門，コンピュータ，SQL 入門，プログラミング演習 I，システム情報系科目 A
備考	「基本情報技術者」を取得する上で必須な知識を扱っています。自主的な勉強を追加することにより資格取得が可能です。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や，実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう，随時伝えていきます。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

リレーショナルデータベースによるアプリケーションを Java 言語を使って実装します。実装成果をプレゼンテーションとレポートで発表します。
組込型データベースや NoSQL データストアを利用した簡単な演習を行います。

授業における学修の到達目標

リレーショナルデータベースと Java 言語を活用したアプリケーションを実装できる。
実行したアプリケーションについて，プレゼンテーション，レポートで発表できる。
組込型データベースや NoSQL データストアの特徴を指摘できる。
組込型データベースや NoSQL データストアの基本的な利用方法を説明できる。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	JDBC について調べてください。	2
	授業	JDBC インストール	
	事後学修	次回までに正しくインストールできていることを確認してください。	1
2	事前学修	パラメータマーカについて調べてください。	2
	授業	JDBC プログラミング基礎演習（ParameterMarker）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
3	事前学修	デザインパターンについて調べてください。	2
	授業	デザインパターン（Table クラス，DAO）	
	事後学修	講義内容を整理してください。	1
4	事前学修	DB アプリケーションの要件を確認（把握）してください。	2
	授業	DB アプリケーション演習（画面・Table 設計）	
	事後学修	次回までに画面遷移，各画面，テーブルの設計を終えてください。	2
5	事前学修	実装すべき基本機能を明確にしてください。	2
	授業	DB アプリケーション演習（第 1 イテレーション：基本機能）	
	事後学修	次回までに基本機能の実装を終えてください。	3
6	事前学修	追加すべき機能を確認してください。	2
	授業	DB アプリケーション演習（第 2 イテレーション：追加機能）	
	事後学修	次回までに機能追加を終えてください。	3
7	事前学修	未調整個所を整理してください。	2
	授業	DB アプリケーション演習（第 3 イテレーション：最終調整）	
	事後学修	次回までに最終調整を終えてください。	2
8	事前学修	プレゼンテーションの準備をしてください。	2
	授業	DB アプリケーション演習（プレゼンテーション・検討会）	

	事後学修	確認結果を整理し，不十分な点は改修・再確認してください。	2
9	事前学修	レポート記述資料に目を通してください。	2
	授業	レポート作成支援	
	事後学修	次回までに第 1 版を提出してください。	2
10	事前学修	第 1 版へのコメントを確認してください。	2
	授業	レポート作成	
	事後学修	次回までに完成版を提出してください。	2
11	事前学修	組み込み型 RDBMS について調べてください。	2
	授業	組み込み型 DBMS 演習（SQLite）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
12	事前学修	MongoDB と JSON について調べてください。	2
	授業	NoSQL 演習（MongoDB）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
13	事前学修	次回までに Redis について調べてください。	2
	授業	NoSQL 演習（Redis）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
14	事前学修	次回までに Cassandra について調べてください。	2
	授業	NoSQL 演習（Cassandra）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2
15	事前学修	次回までに IndexedDB と HTML5 について調べてください。	2
	授業	組み込み型 NoSQL 演習（IndexedDB）	
	事後学修	次回までに演習結果を提出してください。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：10%　■演習課題：80%　■その他[プレゼンテーション：10%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習に関する提出物，プレゼンテーション，及びレポートについて，ゼミナールの時間中のほか，POLITE を通じて，フィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中，もしくは POLITE 上で，それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ICT 入門，コンピュータ，SQL 入門，プログラミング演習 I，システム情報系科目 A
備考	「基本情報技術者」を取得する上で必須な知識を扱っています。自主的な勉強を追加することにより資格取得が可能です。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や，実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう，随時伝えていきます。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

テーマ（1）：データ工学分野における要素技術の改良や新しい試みに関するアイディアの提案と検証，要素技術の実装方法や評価方法に関するアイディアの提案と検証を目指します。

テーマ（2）：既存の技術を活用した新しい応用，ユニークな応用，有用な応用システムの構築を目指します。

テーマは個人で設定してもよいし，グループで設定しても構いません。ただし，グループは3名以内で構成するものとし，担当範囲が明確になるように作業を分担できることを条件とします。

授業における学修の到達目標

プログラムをはじめとする成果物の作成を通じて，それぞれの作成スキルを身に付けることを目指します。

1年にわたる活動を通して，アイディアを形にする，もしくはシステムを構築するための方法論を身に付けること，さらに成果を正しく伝える方法を身に付けることを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	講義概要や POLITE で授業の目的，到達目標を確認してください。	1
	授業	ガイダンス（1年間のスケジュール確認等）	
	事後学修	次回までにテーマ案を考えてください。	2
2	事前学修	卒業研究の手引きをよく読み，テーマ案を整理してください。	3
	授業	卒業論文，卒業制作のテーマ検討	
	事後学修	次回までにテーマ案を具体的にしてください。	2
3	事前学修	具体的なテーマ案にまとめてください。	2
	授業	テーマの仮決定	
	事後学修	次回までにテーマ案を決定してください。	2
4	事前学修	テーマ案について，実現方法・取り組み方を整理してください。	2
	授業	テーマ実現方法のプレゼンテーションと検討会	
	事後学修	次回までにテーマ案をブラッシュアップしてください。	2
5	事前学修	テーマ名と実現方法・取り組み方を整理してください。	2
	授業	テーマ及び実現方法の決定	
	事後学修	次回までにテーマ名と実現方法・取り組み方をブラッシュアップしてください。	2
6	事前学修	制作するプロダクトの要件を検討してください。	2
	授業	要件定義	
	事後学修	次回までに要件定義を整理してください。	2
7	事前学修	要件を満たすプロダクトの外観やデータ管理など概要を検討してください。	2
	授業	外部設計（画面設計，DB 設計）	
	事後学修	次回までに，外部設計の結果を整理してください。	2

8	事前学修	外部設計の改善点を整理してください。	2
	授業	外部仕様の決定（外部仕様書の提出）	
	事後学修	次回までに外部仕様を確定してください。	2
9	事前学修	開発に必要な要素技術について調査してください。	2
	授業	要素技術の確認	
	事後学修	次回までに要素技術の利用方法について整理してください。	2
10	事前学修	要素技術を確認するためのプロトタイプを検討してください。	2
	授業	プロトタイプの制作	
	事後学修	次回までにプロトタイプを完成させてください。	2
11	事前学修	検証に必要な環境・データ等を用意してください。	2
	授業	プロトタイプによる要素技術検証	
	事後学修	さらなる検討が必要な事項は次回までにクリアしてください。	2
12	事前学修	第 1 イテレーションの範囲を検討してください。	2
	授業	プロダクト開発（第 1 イテレーション）	
	事後学修	次回までに第 1 イテレーションの開発を完了してください。	2
13	事前学修	動作確認用のテスト計画を検討してください。	2
	授業	プロダクト開発（動作確認）	
	事後学修	次回までに正常に動作する状態にしてください。	2
14	事前学修	第 2 イテレーションの範囲を検討してください。	2
	授業	プロダクト開発（第 2 イテレーション）	
	事後学修	次回までに第 2 イテレーションの開発を完了してください。	2
15	事前学修	動作確認用のテスト計画を検討してください。	2
	授業	プロダクト開発（動作確認）	
	事後学修	次回までに正常に動作する状態にしてください。	2
16	事前学修	プロダクトのプレゼンテーションを準備してください。	2
	授業	プロダクトのプレゼンテーション・検討会	
	事後学修	次回までに検討結果をプロダクトに反映してください。	2
17	事前学修	第 3 イテレーションの範囲を検討してください。	2
	授業	プロダクト開発（第 3 イテレーション）	
	事後学修	次回までに第 3 イテレーションの開発を完了してください。	2
18	事前学修	動作確認用のテスト計画を検討してください。	2
	授業	プロダクト開発（動作確認）	
	事後学修	次回までに正常に動作する状態にしてください。	2
19	事前学修	第 4 イテレーションの範囲を検討してください。	2
	授業	プロダクト開発（第 4 イテレーション）	
	事後学修	次回までに第 4 イテレーションの開発を完了してください。	2
20	事前学修	動作確認用のテスト計画を検討してください。	2
	授業	プロダクト開発（動作確認）	
	事後学修	次回までに正常に動作する状態にしてください。	2
21	事前学修	要件定義・外部仕様をもとに動作確認用のテスト計画を検討してください。	2

	授業	プロダクトの動作確認・改修	
	事後学修	次回までに正常に動作する状態になるように改修してください。	2
22	事前学修	プロダクトのプレゼンテーションを準備してください。	2
	授業	プロダクトのプレゼンテーション・検討会	
	事後学修	次回までに検討結果をプロダクトに反映してください。	2
23	事前学修	最終確認用のテスト計画を検討してください。	2
	授業	プロダクトの改修・最終動作確認	
	事後学修	次回までに正常に動作する状態になるように必要な改修を実施してください。	2
24	事前学修	小論執筆用資料に目を通してください。	2
	授業	小論執筆に向けて	
	事後学修	先輩の小論の中から参考になる小論を見つけてください。	2
25	事前学修	先輩の小論を参考に章立てを検討してください。	2
	授業	小論文執筆	
	事後学修	次回までに第１版を提出してください。	2
26	事前学修	第１版へのコメントを確認してください。	2
	授業	小論文改善	
	事後学修	次回までに第１版へのコメントを参考に改訂版を提出してください。	2
27	事前学修	改訂版へのコメントを確認してください。	2
	授業	小論文完成	
	事後学修	次回までに完成版を提出してください。	2
28	事前学修	発表会に関する資料に目を通してください。	2
	授業	発表会へ向けて	
	事後学修	プレゼンテーションの計画を立ててください。	2
29	事前学修	プレゼンテーション用のスライドを作成してください。	2
	授業	発表会準備	
	事後学修	次回までに指摘された事項を改善してください。	2
30	事前学修	プレゼンテーションの練習を行ってください。	2
	授業	発表会リハーサル	
	事後学修	プレゼンテーションを確定して公開発表会に備えてください。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　　%　□演習課題：　　%

■その他[進捗報告：80%，口頭発表：10%，小論文：10%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

進捗報告や発表会でのプレゼンテーションでは，その都度，他のゼミ生との質疑応答の場や教員からのコメントによって，成果へのフィードバックを行います。

設計書，プログラム等の提出物についてはゼミナールの時間中のほか，POLITE を通じて，フィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中，もしくは POLITE 上で，それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。

単位修得が望ましい科目	SQL 入門，プログラミング演習 I，プログラミング演習 II，システム情報系科目 A，システム情報系科目 B，Web アプリケーション開発演習 I，Web アプリケーション開発演習 II，ゼミナール I
備考	データベース管理システムや Web サーバをインストールした研究・開発環境が必要になる可能性が高いので，各自でノート PC を用意できることが望ましいと考えています。特に，テーマ（2）に取り組む場合には必須であると考えてください。なお，用意できない場合は相談に応じます。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や，実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう，随時伝えていきます。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

卒業研究に備え、アイデアを具現化するためのプロトタイプ制作に必要なスキルを身に付けます。具体的には p5.js、M5Stack、TouchDesigner、Teachable Machine といったツールの使い方を習得したり、演習を通じてライティング、リーディング、プレゼンテーションの基礎スキルを磨きます。

授業における学修の到達目標

・プロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる
・プレゼンテーションやライティングを用い、情報を適切に伝えることができる
・卒業研究に備え、研究活動に関する基礎的知識を身に付ける

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	自己紹介の準備を行う	2
	授業	ゼミガイダンス・自己紹介	
	事後学修	ゼミを通じて身に付けたい技術を考える	2
2	事前学修	p5.js についてインターネットで調べる	2
	授業	p5.js 演習	
	事後学修	p5.js 演習の作成物をブラッシュアップする	2
3	事前学修	学会、論文についてインターネットで調べる	2
	授業	アカデミック入門(学会とは、論文とは、論文の探し方など)	
	事後学修	興味のある論文を探す	2
4	事前学修	p5.js 演習の成果発表準備を行う	2
	授業	p5.js 演習成果発表	
	事後学修	演習のふりかえりを行う	2
5	事前学修	M5Stack についてインターネットで調べる	2
	授業	M5Stack 演習	
	事後学修	M5Stack 演習の作成物をブラッシュアップする	2
6	事前学修	テクニカルリーディングについてインターネットで調べる	2
	授業	テクニカルリーディング演習	
	事後学修	興味のある論文を読む	2
7	事前学修	M5Stack 演習の成果発表準備を行う	2
	授業	M5Stack 演習成果発表	
	事後学修	演習のふりかえりを行う	2
8	事前学修	TouchDesigner についてインターネットで調べる	2
	授業	TouchDesigner 演習	
	事後学修	TouchDesigner 演習の作成物をブラッシュアップする	2

9	事前学修	テクニカルライティングについてインターネットで調べる	2
	授業	テクニカルライティング演習	
	事後学修	身近な出来事についての文章を書く	2
10	事前学修	TouchDesigner 演習の成果発表準備を行う	2
	授業	TouchDesigner 演習成果発表	
	事後学修	演習のふりかえりを行う	2
11	事前学修	Teachable Machine についてインターネットで調べる	2
	授業	Teachable Machine 演習	
	事後学修	Teachable Machine 演習の作成物をブラッシュアップする	2
12	事前学修	プレゼンテーションについてインターネットで調べる	2
	授業	プレゼンテーション演習	
	事後学修	身近な出来事についてのプレゼンテーション資料をつくる	2
13	事前学修	Teachable Machine 演習の成果発表準備を行う	2
	授業	Teachable Machine 演習成果発表、個人制作プロジェクト（アイデア出し）	
	事後学修	個人制作プロジェクトを進める	2
14	事前学修	個人制作プロジェクトを進める	2
	授業	個人制作プロジェクト（設計・実装）	
	事後学修	個人制作プロジェクトを進める	2
15	事前学修	個人制作プロジェクトの成果発表準備を行う	2
	授業	個人制作プロジェクト成果発表	
	事後学修	個人制作プロジェクトのふりかえりを行う	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	メディアプログラミング演習、デザインプログラミング演習、インターネットの仕組み、発想法演習
備考	なし
担当教員の実務経験	電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

センサとビジュアル表示を組み合わせたインタラクティブシステムの開発を少人数チームで取り組みます。アイデアを具現化するためのプロトタイプ制作をチームで実施し、チームでのプロジェクト進行を行うために必要なスキルを身に付けます。

授業における学修の到達目標

・複数の要素を組み合わせたシステムのプロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる
・少人数のチームでの制作において、開発および進行管理を行うことができるようになる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	チーム制作プロジェクトで実施したいテーマを考える	2
	授業	チーム制作プロジェクト１：チームビルディング	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
2	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト２：作品アイデア出し	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
3	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト３：テーマ選定	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
4	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト４：制作（概要設計）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
5	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト５：制作（インタフェース設計）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
6	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト６：制作（詳細設計）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
7	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト７：制作（概要実装）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
8	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト８：制作（インタフェース実装）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
9	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2

	授業	チーム制作プロジェクト９：制作（詳細実装）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
10	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト１０：制作（単体テスト）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
11	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト１１：制作（結合テスト）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
12	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト１２：制作（ブラッシュアップ）	
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
13	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト１３：作品発表会準備	
	事後学修	チーム制作プロジェクトの作品発表会準備を進める	2
14	事前学修	チーム制作プロジェクトの作品発表会準備を進める	2
	授業	チーム制作プロジェクト１４：作品発表会	
	事後学修	チーム制作プロジェクトのふりかえりを行う	2
15	事前学修	メディアデザイン展の出展準備を行う	2
	授業	メディアデザイン展出展準備	
	事後学修	メディアデザイン展の出展準備を行う	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　％　□小テスト：　　％　□レポート：　％　■演習課題：100　％　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	メディアプログラミング演習、デザインプログラミング演習、ゲーム制作演習、インターネットの仕組み、Linux 演習、発想法演習
備考	なし
担当教員の実務経験	電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゼミナールⅡ　※2020年度入学生からは、前期と後期でゼミナールⅢ、Ⅳに分かれます。 Seminar 2

担当教員	湯村 翼(315研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4単位	ゼミ	○	IMC401

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	4年	通年
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	4年	通年

授業概要

◯テーマ
「サイバー空間」「物理空間」「人」の3つの関係性で世界を捉え新しい未来を作る研究を対象とし、「人とコンピュータの新しいインタフェースの開発」「物理空間センシングによるデータの収集と活用」といった研究に取り組んでいきます。

◯概要
人間とコンピュータと物理を統合的に取り扱うCyber-Physical-Human Interactionの研究に取り組み、研究を通じて最先端の技術を習得します。 研究では、例えば
・赤外線センサを用いた物体認識
・HMD向けの文字入力インタフェースの開発
・家具や壁を移動できる住宅の開発
・人工衛星データと環境センサを組み合わせた農業のスマート化
といったテーマに取り組みます。

授業における学修の到達目標

・プロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる
・プレゼンテーションやライティングを用い、情報を適切に伝えることができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる	2.0
	授業	研究テーマの選定（導入）	
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える	2.0
2	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる	2.0
	授業	研究テーマの選定（作業・議論）	
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える	2.0
3	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる	2.0
	授業	研究テーマの選定（まとめ）	
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える	2.0
4	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる	2.0
	授業	関連研究テーマの調査（導入）	
	事後学修	関連研究の内容を整理する	2.0
5	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる	2.0
	授業	関連研究テーマの調査（作業・議論）	
	事後学修	関連研究の内容を整理する	2.0
6	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる	2.0
	授業	関連研究テーマの調査（まとめ）	

	事後学修	関連研究の内容を整理する	2.0
7	事前学修	研究骨子について考えをまとめる	2.0
	授業	研究骨子の作成（導入）	
	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2.0
8	事前学修	研究骨子について考えをまとめる	2.0
	授業	研究骨子の作成（作業・議論）	
	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2.0
9	事前学修	研究骨子について考えをまとめる	2.0
	授業	研究骨子の作成（まとめ）	
	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2.0
10	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2.0
	授業	実験システムの設計（導入）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2.0
11	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2.0
	授業	実験システムの設計（作業。議論）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2.0
12	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2.0
	授業	実験システムの設計（まとめ）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2.0
13	事前学修	研究企画について考えをまとめる	2.0
	授業	研究企画発表会準備（導入）	
	事後学修	研究企画発表会の準備を進める	2.0
14	事前学修	研究企画について考えをまとめる	2.0
	授業	研究企画発表会準備（作業・議論）	
	事後学修	研究企画発表会の準備を進める	2.0
15	事前学修	研究企画発表会でのコメントを整理する	2.0
	授業	研究企画発表会ふりかえり	
	事後学修	研究企画発表会でのコメントを元に今後のアクションを検討する	2.0
16	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2.0
	授業	実験システムの実装（導入）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2.0
17	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2.0
	授業	実験システムの実装（作業・議論）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2.0
18	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2.0
	授業	実験システムの実装（仕上げ）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2.0
19	事前学修	実験について考えをまとめる	2.0
	授業	実験（準備）	
	事後学修	実験結果を整理する	2.0

20	事前学修	実験について考えをまとめる	2.0
	授業	実験（作業・議論）	
	事後学修	実験結果を整理する	2.0
21	事前学修	実験について考えをまとめる	2.0
	授業	実験（まとめ）	
	事後学修	実験結果を整理する	2.0
22	事前学修	実験結果について考えをまとめる	2.0
	授業	実験結果考察（導入）	
	事後学修	実験結果への考察を整理する	2.0
23	事前学修	実験結果について考えをまとめる	2.0
	授業	実験結果考察（作業・議論）	
	事後学修	実験結果への考察を整理する	2.0
24	事前学修	実験結果について考えをまとめる	2.0
	授業	実験結果考察（まとめ）	
	事後学修	実験結果への考察を整理する	2.0
25	事前学修	研究のまとめ方を検討する	2.0
	授業	研究結果まとめ（導入）	
	事後学修	研究結果を整理する	2.0
26	事前学修	研究のまとめ方を検討する	2.0
	授業	研究結果まとめ（作業・議論）	
	事後学修	研究結果を整理する	2.0
27	事前学修	研究のまとめ方を検討する	2.0
	授業	研究結果まとめ（まとめ）	
	事後学修	研究結果を整理する	2.0
28	事前学修	卒業研究発表会の準備を進める	2.0
	授業	卒業研究発表会準備（導入）	
	事後学修	卒業研究発表会の準備を進める	2.0
29	事前学修	卒業研究発表会の準備を進める	2.0
	授業	卒業研究発表会準備（作業・議論）	
	事後学修	卒業研究発表会の準備を進める	2.0
30	事前学修	卒業研究発表会の準備を進める	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル	
	事後学修	卒業研究発表会の準備を進める	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　%　■演習課題：100　%　□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する

単位修得が望ましい科目	メディアプログラミング演習、デザインプログラミング演習、ゲーム制作演習、インターネットの仕組み、Linux 演習、発想法演習
備考	なし
担当教員の実務経験	電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	辻 順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

○テーマ

IoT（Internet of Things）分野の研究，マルチエージェントシステム，機械学習およびこれらの融合的研究。

○概要

下記の 3 テーマについて，研究に必要な基本的な技術を演習形式で学びます。前半の 15 回は演習形式で基礎技術を学び，後半の 15 回ではテーマを選んでチームで作品制作を行います（テーマを変えて全 2 回）。

1. IoT

実社会におけるさまざまなデータをセンサーによって取得し，インターネットを経由してサーバーに収集・活用する技術について学ぶ。

2. マルチエージェントシステム

人の活動や社会現象を仮想的にシミュレーションするためのプラットフォームであるマルチエージェントシステムについて学ぶ。

3. 機械学習

人工知能分野における基礎的な技術であるニューラルネットワークや強化学習などの技術を学ぶ。

授業における学修の到達目標

・卒業研究に備え，研究活動に関する基礎的知識を身に付ける。
・研究開発に必要なスキルを身に付け，既存のアイデアをプログラムによって再現できる。
・数式を読み解き，プログラム上で表現できる技術を身に付ける。
・共同で開発するためのスキルを習得する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールで身につけたい技術を調べる	2
	授業	ガイダンス・研究室紹介・メンバーの自己紹介	
	事後学修	ゼミで取り組める技術について確認する	2
2	事前学修	これまで授業で習得したプログラミング言語についておさらいしておく	2
	授業	開発環境構築・Github 演習	
	事後学修	授業中に終わらなかった部分について完了させる・Github の使い方について復習する	2
3	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	数値計算演習	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
4	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	ビジュアルプログラミング演習①	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
5	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	ビジュアルプログラミング演習②	

	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
6	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	マルチエージェントシステム演習①	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
7	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	マルチエージェントシステム演習②	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
8	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	マルチエージェントシステム演習③	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
9	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	機会学習演習①：ニューラルネットワークの基礎	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
10	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	機会学習演習②：深層学習	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
11	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	機会学習・強化学習演習③：強化学習	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
12	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT 演習①	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
13	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT 演習②	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
14	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT 演習③	
	事後学修	課題プログラムを完成させる	2
15	事前学修	これまでの演習の内容について振り返っておく	2
	授業	振り返り	
	事後学修	これまでの課題を復習し，不明点を無くしておく	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：0%　■演習課題：50%　■その他[　グループワーク：50%　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度対面またはオンラインで指導する

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	微分積分Ⅰ，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステムの開発や展示等の経験に基づいて，実戦的な研

	究会開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	辻 順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

○テーマ

IoT（Internet of Things）分野の研究，マルチエージェントシステム，機械学習およびこれらの融合的研究。

○概要

下記の 3 テーマについて，研究に必要な基本的な技術を演習形式で学びます。前半の 15 回は演習形式で基礎技術を学び，後半の 15 回ではテーマを選んでチームで作品制作を行います（テーマを変えて全 2 回）。

1. IoT

実社会におけるさまざまなデータをセンサーによって取得し，インターネットを経由してサーバーに収集・活用する技術について学ぶ。

2. マルチエージェントシステム

人の活動や社会現象を仮想的にシミュレーションするためのプラットフォームであるマルチエージェントシステムについて学ぶ。

3. 機械学習

人工知能分野における基礎的な技術であるニューラルネットワークや強化学習などの技術を学ぶ。

授業における学修の到達目標

・卒業研究に備え，研究活動に関する基礎的知識を身に付ける。
・研究開発に必要なスキルを身に付け，既存のアイデアをプログラムによって再現できる。
・数式を読み解き，プログラム上で表現できる技術を身に付ける。
・共同で開発するためのスキルを習得する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	自分が取り組みたいテーマについて考えておく	2
	授業	作品制作パート 1 のガイダンス・チーム分け・テーマ決め（IoT/マルチエージェント/機械学習の 3 テーマの中から選ぶ）	
	事後学修	・チームで連携するための連絡方法について相談しておく ・チームで取り組むテーマを決めておく	2
2	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	作品制作パートの準備：論文調査の仕方	
	事後学修	取り組みたいテーマに関連する論文を読んでまとめる	2
3	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	作品制作パート 1：Github による共同開発演習・作品テーマの検討	
	事後学修	Github による共同開発手法について復習する	2
4	事前学修	開発する内容についてイメージを膨らませておく	2
	授業	作品制作パート 1：チームで相談し開発を進める①	
	事後学修	時間外で開発を進める	2

5	事前学修	実装方法について予め調査をしておく	2
	授業	作品制作パート 1：チームで相談し開発を進める②	
	事後学修	時間外で開発を進める	2
6	事前学修	実装方法について予め調査をしておく	2
	授業	作品制作パート 1：チームで相談し開発を進める③	
	事後学修	次回までに完成できるように時間外で開発を進める	2
7	事前学修	発表する内容についてイメージを膨らませておく	2
	授業	作品制作パート 1：プレゼンテーション資料の準備	
	事後学修	プレゼンテーション資料を完成させる	2
8	事前学修	プレゼンテーションの練習をしておく	2
	授業	作品制作パート 1：作品発表会	
	事後学修	コメントを整理する	2
9	事前学修	自分が次に取り組みたいテーマについて考えておく	2
	授業	作品制作パート 2 のチーム分け・テーマ決め（IoT/マルチエージェント/機械学習の 3 テーマの中からパート 1 と異なるテーマを選ぶ）	
	事後学修	・チームで連携するための連絡方法について相談しておく ・チームで取り組むテーマを決めておく	2
10	事前学修	実装方法について予め調査をしておく	2
	授業	作品制作パート 2：チームで相談し開発を進める①	
	事後学修	時間外で開発を進める	2
11	事前学修	実装方法について予め調査をしておく	2
	授業	作品制作パート 2：チームで相談し開発を進める②	
	事後学修	時間外で開発を進める	2
12	事前学修	実装方法について予め調査をしておく	2
	授業	作品制作パート 2：チームで相談し開発を進める③	
	事後学修	時間外で開発を進める	2
13	事前学修	発表する内容についてイメージを膨らませておく	2
	授業	作品制作パート 2：プレゼンテーション資料の準備	
	事後学修	プレゼンテーション資料を完成させる	2
14	事前学修	プレゼンテーションの練習をしておく	2
	授業	作品制作パート 2：作品発表会	
	事後学修	コメントを整理する	2
15	事前学修	卒業研究に向けたアイデアをまとめる	2
	授業	振り返りおよび卒業研究に向けたアイデアの発表	
	事後学修	コメントを元に卒業研究のアイデアを精査する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　□レポート：　0%　■演習課題：50%　■その他[　グループワーク：50%　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度対面またはオンラインで指導する

教科書	書名：マルチエージェントシステムの基礎と応用―複雑系工学の計算パラダイム, 著者名：大内 東，川村 秀憲，山本 雅人, 出版社：コロナ社, 備考：

参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	微分積分Ⅰ，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステムの開発や展示等の経験に基づいて，実戦的な研究会開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

○テーマ
視覚芸術，感性工学の分野から，魅力的な表現や有用な情報発信に向けた能力の向上に取り組みます。
コンテストへの応募やグループワークを通して，実践的な企画力やコミュニケーション力を身につけます。

○概要
イラストレーション，グラフィックデザインの分野を起点として，私たちの生活に新しい価値の提示を目指し，
有用かつ魅力的な表現や提案企画する能力を身につけます。

課題として下記の 3 つに取り組みながら，表現力・発想力・協働力を向上させます。
・課題 1『感動辞典』の制作をします。自身の嗜好・特徴を理解し，他者に伝達する
・課題 2『コンテストへの応募』では，テーマに対する魅力的なアプローチを試みる
・課題 3『Web ポートフォリオ制作』では，自身の作品を魅力的に発信する方法を考え，実践する

各個人の表現力を高めながら，他者とのディスカッションや，作品紹介などを通して，発想力のあるデザイナー，イラストレーターを目指します。また，テーマに応じて，さまざまな発想・表現ができる柔軟性を身につけつつ
グループワークでは，他者と協働する能力を身につけることを目指します。

授業における学修の到達目標

個人においての表現，発想力を向上させる。また同時に，他者と協力したり，意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ，社会で活躍するクリエイターを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミナールで身につけたい技術について調べる	2
	授業	ガイダンス	
	事後学修	ゼミで取り組める技術について確認する	2
2	事前学修	身につけている技術や過去の経験を整理，ビブリオバトルについて調べる	2
	授業	ディスカッションとアイスブレイク（ビブリオバトル）の準備，発表	
	事後学修	ディスカッションの結果をまとめる	2
3	事前学修	「感動する」という体験が何を示すか調査しておく	2
	授業	課題 1『感動辞典』の課題説明，ディスカッション	
	事後学修	ディスカッションの結果をまとめる	2
4	事前学修	自身の興味を探り，感動するものについて情報を収集しておく	2
	授業	情報を魅力的に伝達する手法についてレクチャー	
	事後学修	ディスカッションの結果をまとめる	2
5	事前学修	自身の感動するものについて，どのような表現が可能か考えておく	2
	授業	感動を伝達するための視覚表現を考える	
	事後学修	エスキースの結果を反映させてくる	2

6	事前学修	自身の感動するものについて，魅せる順番，手法を検討する	2
	授業	進捗についてエスキースし，途中経過を報告	
	事後学修	質問・コメントをまとめる	2
7	事前学修	取り組むテーマと課題を考える	2
	授業	課題 2『コンテストへの応募』で取り組むテーマと課題についてのプレゼン	
	事後学修	取り組むテーマと課題についてのプレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
8	事前学修	ゼミらしい技術について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示のテーマを考える（ブレスト）	
	事後学修	話しあった議論（ブレスト）をまとめる	2
9	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示の具体的内容を考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示の内容の企画	
	事後学修	話しあった議論（企画）をまとめる	2
10	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示に必要な作業について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示に向けて必要な作業の設計	
	事後学修	話し合った議論（設計）をまとめる	2
11	事前学修	展示方法に関する事前調査	2
	授業	展示方法の工夫について	
	事後学修	新しい発見をまとめておく	2
12	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示での担当について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示に向けての役割分担とスケジュール	
	事後学修	各自の担当に関する作業をすすめる	2
13	事前学修	課題 2 への取り組み進捗報告準備	2
	授業	４年生卒業研究企画発表会発表練習聴講	
	事後学修	課題 2 への取り組み	2
14	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業進捗報告準備	2
	授業	４年生卒業研究企画発表会聴講（１週目）	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業	2
15	事前学修	ゼミ紹介案の検討（夏休みのイベント準備）	2
	授業	４年生卒業研究企画発表会聴講（2 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート）	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート：20%　■演習課題：50%　■その他[　グループワーク：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：Web デザイン基礎演習，ビジュアル構成・演習
備考	なし
担当教員の実務経験	グラフィックデザイン，イラストレーションなどの制作実務経験を活かし，実用性とクオリティとを両立させた制作について指導する.

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC326

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	必修	3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	後期

授業概要

○テーマ
視覚芸術，感性工学の分野から，魅力的な表現や有用な情報発信に向けた能力の向上に取り組みます。
コンテストへの応募やグループワークを通して，実践的な企画力やコミュニケーション力を身につけます。

○概要
イラストレーション，グラフィックデザインの分野を起点として，私たちの生活に新しい価値の提示を目指し，
有用かつ魅力的な表現や提案企画する能力を身につけます。

課題として下記の 3 つに取り組みながら，表現力・発想力・協働力を向上させます。
・課題 1『感動辞典』の制作をします。自身の嗜好・特徴を理解し，他者に伝達する
・課題 2『コンテストへの応募』では，テーマに対する魅力的なアプローチを試みる
・課題 3『Web ポートフォリオ制作』では，自身の作品を魅力的に発信する方法を考え，実践する

各個人の表現力を高めながら，他者とのディスカッションや，作品紹介などを通して，発想力のあるデザイナー，イラストレーターを目指します。また，テーマに応じて，さまざまな発想・表現ができる柔軟性を身につけつつ
グループワークでは，他者と協働する能力を身につけることを目指します。

授業における学修の到達目標

個人においての表現，発想力を向上させる。また同時に，他者と協力したり，意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ，社会で活躍するクリエイターを目指します。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討（夏休みのイベント準備）	2
	授業	ゼミ紹介案の企画・設計	
	事後学修	ゼミ紹介の準備	2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告準備	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告プレゼン	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告での指摘についての対応	2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）	2
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）	2
5	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備	2
	授業	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン	
	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）	2

6	事前学修	課題 2 への取り組み進捗報告準備	2
	授業	4 年生の卒業研究進捗報告聴講	
	事後学修	課題 2 への取り組み：仕上げ	2
7	事前学修	課題 2 の成果発表準備	2
	授業	課題 2 の成果発表	
	事後学修	課題 2 の成果発表での質問・コメントと反省をまとめる（レポート）	2
8	事前学修	卒業論文の手引きの確認	2
	授業	卒業論文の書き方講習	
	事後学修	課題 2 に関する小論文の作成	2
9	事前学修	先端技術調査プレゼン準備（先端的な表現，視覚情報とメディア）	2
	授業	先端技術調査プレゼン	
	事後学修	先端技術調査プレゼンでの他の発表に関する感想（レポート）	2
10	事前学修	課題 3『Web ポートフォリオ制作』の提案準備	2
	授業	課題 3『Web ポートフォリオ制作』の検討	
	事後学修	課題 3『Web ポートフォリオ制作』への取り組み	2
11	事前学修	課題 3『Web ポートフォリオ制作』の進捗報告準備	2
	授業	課題 3『Web ポートフォリオ制作』の進捗報告	
	事後学修	課題 3『Web ポートフォリオ制作』への取り組み（グループ）	2
12	事前学修	卒業研究に関する提案プレゼン準備	2
	授業	卒業研究に関する提案プレゼン	
	事後学修	卒業研究に関する提案に対する反省	2
13	事前学修	1 年の振り返りと反省プレゼン準備	2
	授業	1 年の振り返りと反省プレゼン	
	事後学修	1 年の振り返りとこれからの目標をまとめる（レポート）	2
14	事前学修	課題 3 のプレゼン準備	2
	授業	課題 3 のプレゼン	
	事後学修	課題 3 のプレゼンの質問・コメントのまとめ（レポート）	2
15	事前学修	春休み中の課題提案プレゼン準備	2
	授業	春休み中の課題提案プレゼン	
	事後学修	春休み中の課題の取り組み開始	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：　　%　□小テスト：　　%　■レポート： 20%　■演習課題：50%　■その他[　グループワーク：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：Web デザイン基礎演習，ビジュアル構成・演習
備考	なし
担当教員の実務経験	グラフィックデザイン，イラストレーションなどの制作実務経験を活かし，実用性とクオリティとを両立させた制作について指導する.

卒業研究Ⅰ Graduate Seminar 1

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
向田 茂(125 研究室),大島 慶太郎(320 研究室),伊藤 正彦(325 研究室),柿並 義宏(313 研究室),河原 大(322 研究室),齋藤 健司(314 研究室),斎藤 一(122 研究室),島田 英二(137 研究室),杉澤 愛美(133 研究室),谷口 文威(226 研究室),隼田 尚彦(136 研究室),平山 晴花(128 研究室),広奥 暢(318 研究室),藤原 孝幸(134 研究室),甫喜本 司(327 研究室),松井 伸也(224 研究室),守 啓祐(225 研究室),森川 悟(856 研究室),安田 光孝(135 研究室),山北 隆典(139 研究室),湯村 翼(315 研究室)	2 単位	ゼミ	○	IMC402

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	4 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	4 年	前期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	4 年	前期(前半)

授業概要

ゼミナールⅡを担当する教員が，ゼミナールとは別の時間帯に，個人またはグループを対象にし，卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅰでは，どのようなテーマで，卒業論文・作品の制作をするかを決定するため，基礎となる調査を行う。また、調査内容についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。

授業における学修の到達目標

先行研究・過去の制作物を深く理解し，決定したテーマを深く理解する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	受講者は，講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し，学部における学習の発展的なまとめとして，どのようなテーマを卒業研究とするかを選ぶ調査とその報告を行う。 担当教員は，担当学生またはグループがテーマの決定をする為の議論と指導を行い，さらに報告書の作成の議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		
	事後学修		

4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容，発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。
報告書：80%　口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜，指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜，指示を行う。
備考	とくにありません。
担当教員の実務経験	担当教員の研究，実務経験を活かした指導を行う。

卒業研究Ⅱ Graduate Seminar 2

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
向田 茂(125 研究室),大島 慶太郎(320 研究室),伊藤 正彦(325 研究室),柿並 義宏(313 研究室),河原 大(322 研究室),齋藤 健司(314 研究室),斎藤 一(122 研究室),島田 英二(137 研究室),杉澤 愛美(133 研究室),谷口 文威(226 研究室),隼田 尚彦(136 研究室),平山 晴花(128 研究室),広奥 暢(318 研究室),藤原 孝幸(134 研究室),甫喜本 司(327 研究室),松井 伸也(224 研究室),守 啓祐(225 研究室),森川 悟(856 研究室),安田 光孝(135 研究室),山北 隆典(139 研究室),湯村 翼(315 研究室)	2 単位	ゼミ	○	IMC403

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	4 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	4 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	4 年	前期(後半)

授業概要

ゼミナールⅡを担当する教員が，ゼミナールとは別の時間帯に，個人またはグループを対象にし，卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅱでは，各自またはグループで決めたテーマを研究または作成するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定を行う。また、研究資料・題材・研究手法・制作手法についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。

授業における学修の到達目標

卒業研究Ⅰでの理解を下に，研究または作成する為にすべきことを決定する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	受講者は，講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し，学部における学習の発展的なまとめとして，卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定の調査と報告を行う。 担当教員は，担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い，さらに報告書の作成の為の議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		

	事後学修		
4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容，発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。
報告書：80%　口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜，指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜，指示を行う。
備考	とくにありません。
担当教員の実務経験	担当教員の研究，実務経験を活かした指導を行う。

卒業研究Ⅲ Graduate Seminar 3

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
向田 茂(125 研究室),大島 慶太郎(320 研究室),伊藤 正彦(325 研究室),柿並 義宏(313 研究室),河原 大(322 研究室),齋藤 健司(314 研究室),斎藤 一(122 研究室),島田 英二(137 研究室),杉澤 愛美(133 研究室),谷口 文威(226 研究室),隼田 尚彦(136 研究室),平山 晴花(128 研究室),広奥 暢(318 研究室),藤原 孝幸(134 研究室),甫喜本 司(327 研究室),松井 伸也(224 研究室),守 啓祐(225 研究室),森川 悟(856 研究室),安田 光孝(135 研究室),山北 隆典(139 研究室),湯村 翼(315 研究室)	2 単位	ゼミ	○	IMC405

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	4 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	4 年	後期(前半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	4 年	後期(前半)

授業概要

ゼミナールⅡを担当する教員が，ゼミナールとは別の時間帯に，個人またはグループを対象にし，卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅲでは，各自またはグループで決めた調査・分析・制作の実施・研究の実施を主に行い，結果を報告書などにまとめる。また、報告書の内容についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。

授業における学修の到達目標

実際に研究・制作に従事し，問題点・制作上の難点を明確にし，更なる研究・制作を行う

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	受講者は，講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し，学部における学習の発展的なまとめとして，調査・分析・制作の実施・研究の実施を主に行う。 担当教員は，担当学生またはグループが行う調査・分析・制作の実施・研究の実施の指導を行い，さらに報告書の作成の議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		
	事後学修		

4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容，発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。
報告書：80%　口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜，指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜，指示を行う。
備考	とくになし。
担当教員の実務経験	担当教員の研究，実務経験を活かした指導を行う。

卒業研究Ⅳ Graduate Seminar 4

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
向田 茂(125 研究室),大島 慶太郎(320 研究室),伊藤 正彦(325 研究室),柿並 義宏(313 研究室),河原 大(322 研究室),齋藤 健司(314 研究室),斎藤 一(122 研究室),島田 英二(137 研究室),杉澤 愛美(133 研究室),谷口 文威(226 研究室),隼田 尚彦(136 研究室),平山 晴花(128 研究室),広奥 暢(318 研究室),藤原 孝幸(134 研究室),甫喜本 司(327 研究室),松井 伸也(224 研究室),守 啓祐(225 研究室),森川 悟(856 研究室),安田 光孝(135 研究室),山北 隆典(139 研究室),湯村 翼(315 研究室)	2 単位	ゼミ	○	IMC406

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	4 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	4 年	後期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	4 年	後期(後半)

授業概要

ゼミナールⅡを担当する教員が，ゼミナールとは別の時間帯に，個人またはグループを対象にし，卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅳでは，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで行ってきたことを更に深め，研究または作成を仕上げる。また、作成した卒業論文に関するディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。

授業における学修の到達目標

指定された形式を守り，学術論文にふさわしい表現で卒論を書き上げる。また口頭試問では，説明でき且つ質問に的確に説明できることを目指す。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修		
	授業	受講者は，講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し，卒業研究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで行ってきた制作・研究をさらに深め，まとめとして卒業論文を仕上げる。 担当教員は，担当学生またはグループの作成・研究の進行状況を見定め必要な議論と指導を行い，さらに卒業論文の作成の為の議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		

	事後学修		
4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容，発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。
報告書：80%　口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜，指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜，指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜，指示を行う。
備考	とくにありません。
担当教員の実務経験	担当教員の研究，実務経験を活かした指導を行う。

グラフィックス演習【旧カリキュラム】 Practicum in Graphics

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	3 年	前期

授業概要

各種デザイン制作のベースとなる Adobe Illustrator,Adobe Photoshop の基本から本格使用までを,演習課題を多数制作しながら,じっくり身につけ,情報メディアにおけるデザインスキルの基本を磨く実践トレーニング。また，課題を通じて,マルチメディア表現,シミュレーション,図形処理と画像処理,DTP（DeskTop Publishing），Web デザインの基礎などの知識も学ぶ。最終課題としてオリジナルの作品を作り，発表する。課題毎に難易度がアップする。講義で終わらない課題は宿題として課す。予習・復習のための E ラーニング教材を用意してある。2 年生でのビジュアル構成・演習,グラフィックデザイン演習と続くプロデザイナー教育の第一歩。
毎回制作の詳細を POLITE に記載。トライシートという実習用のフォーマットを使い,制作物が完成したら POLITE にアップロードして提出。出来上がった作品はセンターモニターに表示。

授業における学修の到達目標

Illustrator，Photoshop の基本的な使用方法を習得し，これらアプリケーションソフトを用いた課題作品を制作する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを確認。POLITE の内容の確認。	4
	授業	講座全体の説明 Illustrator の基本操作	
	事後学修	特になし	0.0
2	事前学修	特になし	0.0
	授業	Illustrator の基本操作 初期設定とメニューの使い方	
	事後学修	授業内容の確認。復習	4
3	事前学修	POLITE による、実習内容の確認、予習。	4
	授業	図形処理，シミュレーション	
	事後学修	特になし	0.0
4	事前学修	特になし	0.0
	授業	図形処理，シミュレーション	
	事後学修	授業内容の確認。復習	4
5	事前学修	POLITE による、実習内容の確認、予習。	4
	授業	Illustrator を用いた課題の作成(1)	
	事後学修	特になし	0.0
6	事前学修	特になし	0.0
	授業	Illustrator を用いた課題の作成(1)	
	事後学修	授業内容の確認。復習	4
7	事前学修	POLITE による、実習内容の確認、予習。	4
	授業	Illustrator を用いた課題の作成(2)	
	事後学修	特になし	0.0
8	事前学修	特になし	0.0

	授業	Illustrator を用いた課題の作成(2)	
	事後学修	授業内容の確認。復習	4
9	事前学修	POLITE による、実習内容の確認、予習。	4
	授業	Illustrator を用いた課題の作成(3)	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	Illustrator を用いた課題の作成(3)	
	事後学修	授業内容の確認。復習	4
11	事前学修	POLITE による、実習内容の確認、予習。	4
	授業	Illustrator を用いた課題の作成(4)	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	Illustrator を用いた課題の作成(4)	
	事後学修	授業内容の確認。復習	4
13	事前学修	POLITE による、実習内容の確認、予習。	4
	授業	Photoshop の基本操作(1)	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	Photoshop の基本操作(1)	
	事後学修	授業内容の確認。復習	4
15	事前学修	POLITE による、実習内容の確認、予習。	4
	授業	画像処理，シミュレーション	
	事後学修	特になし	0.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。■演習課題：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物・発表内容に対し随時指導。

教科書	
参考書・Web サイト	E ラーニング教材(POLITE) 課題ごとプリントを配る。E ラーニング教材として POLITE を使用。
単位修得が望ましい科目	メディアデザイン基礎演習。色彩・デザイン演習
備考	講義の内容は、受講生の進捗によって変わる可能性があります。再履修生には過去の実績を評価し、個々の対応をします。
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、illustrator・Photoshop を利用したイラスト制作・デザインを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わりないソフトの活用方法を教える。

テクノロジーパスポート演習【旧カリキュラム】 Practicum in Technology Passport

担当教員	広奥　暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	必修	1 年	前期(前半)

授業概要

メディアテクノロジー専攻は，Web アプリケーション，動画像などのコンテンツ制作現場で役立つ技術者の育成を目指しています。コンテンツ制作に必要なアプリケーションソフトウェアを利用する技術も身につけなくてはいけませんが，それらを動かすための準備から，利用時の問題解決までできる知識と技術が求められます。テクノロジーパスポート演習では，これからのプログラム開発環境を使用する学習やネットワーク機材などを準備し利用する高度な技術の学習などに備えて，基本的な技術と概念を習得するためにコンピュータ実習を行います。
OS として MS Windows を使い，技術者としての操作方法や各種の概念を理解します。また，今後使用する可能性のある様々なアプリケーションを一覧します。最後に，スクリプト言語によるプログラミングについて学びます。
授業は，Learning Management System Moodle （https://turtle.do-johodai.ac.jp/edu/ ）を利用して行う。

授業における学修の到達目標

・技術者として必要とされる OS（MS Windows）の操作を身につけます。
・フォルダとファイルを理解し，情報（データ）の管理について実践できるようになります。
・アプリケーションの概要を理解します。
・スクリプト言語によるプログラミングを身に付けます。

注：シラバスにおいては，なるべく開講当時（受講者初年時）の内容で記載しているが，本科目は旧カリキュラムの再履修者のためのものであり，実際の授業とは異なる部分がある。とりわけアプリケーションの概要については，開講当時とは異なっていること，受講者が専門科目においてすでにそれらの使用方法についても学んでいることを考慮して，実際には省略している。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	「ICT 入門」の 1～3 回 Windows の操作基礎の内容を復習しておく。 再履修クラスでは，2 コマを連続して開講しているので，便宜上回数の項目 2 回分を講義の「1 回」として記述しています。すなわち，（奇数回と偶数回の間に事前，事後学習をする時間は実際には取れませんので）授業の項 2 回分に対して，事前学習と事後学習を一つずつ記述し，時間は通常の 2 倍にしてありますので注意して下さい。	4
	授業	ファイルとフォルダの操作 ドライブ，フォルダ，ファイル，拡張子などについて確認する。 Learning Management System（以下 LMS と略す）のコースに登録し，提示されている，演習 1 の内容にしたがって，OS の操作方法を確認する。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
2	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	テキストファイル，バイナリファイル LMS 上の演習 2－1，2－2 に従って， ファイル編集に使う複数の「エディタ」について学ぶ	
	事後学修	LMS 上の「OS 操作確認の復習（ショートカット）」について，いつでも使えるように実践しておくこと。これら以外のショートカットについても自分で調べる。	4
3	事前学修	「ICT 入門」の第 5 回，コマンドプロンプトの使い方を復習しておく	4
	授業	CLI（コマンドラインインターフェース）1 ICT 入門で学んだことを確認する。コマンドでアプリケーションを起動する方法を学ぶ。 LMS 上の演習 3－1～3－5 に従って，コマンドの使い方を学ぶ。	

	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
4	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	CLI2 LMS 上の演習 4－1～4－4 に従って，パス，環境変数，リダイレクトについて学ぶ。	
	事後学修	事後学修　　LMS 上の「演習 3　解説」を読み，各コマンドについて復習する。	4
5	事前学修	Windows の「環境変数」について，インターネットなどで調べておく。 LMS 第 3 回の欄にある「演習 4 解説」を読む。	4
	授業	CLI3 LMS の演習 5－1～5－5 に取り組み，コマンドプロンプトと環境変数の関係について学ぶ。タスクについて学ぶ。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
6	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	バッチ 1 LMS の演習 6－1～6－4 に取り組み，バッチファイルで，アプリケーションを起動する方法を学ぶ。 課題 6－3 に取り組み解答する。	
	事後学修	LMS 第 3 回の欄にある「演習 5　解説」を読み，コマンドプロンプトの環境について復習する。 課題 6－3 が未提出の場合は期限までに提出する。	4
7	事前学修	バッチファイルについては，公式なドキュメントの参照ができなくなっているので，インターネットで調べておく必要がある.	4
	授業	バッチ 2 LMS の演習 7－1～7－3 に従って，バッチファイルの引数について学ぶ。 課題 7-2 に取り組み，解答する。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
8	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	アプリケーション LMS の演習 8－1 に従ってバッチファイルについて学ぶ。課題 8－2 に取り組み解答する。 演習 8－3 に従って，実習用に導入されているアプリケーションについて知る。（再履修クラスでは省略）	
	事後学修	LMS の「バッチファイルの変数について（演習 7-1 の補助）」と「演習 8-1 補足資料」を読み，バッチファイルについて復習する。課題 7－2，8－2 が未提出の場合は期限までに提出する。	4
9	事前学修	LMS 第 5 回資料「スクリプト編」を読んでおく。	4
	授業	VBScript 1 LMS の演習 9－1，9－2 に従って，VBScript の起動方法を学ぶ。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
10	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	VBScript 2 LMS の演習 10－1 に従って，変数の使い方について学ぶ。	
	事後学修	LMS のコマンド確認問題を利用しながら，以前学んだコマンドについてすぐに使えるように確認しておく。	4
11	事前学修	LMS に提示しているリファレンスサイトのリンクを辿って，スクリプトに関する記事を（時間の許す限り沢山）読んでおく。	4
	授業	VBScript 3 LMS の演習 11－1 に従って，変数の内部表現について学ぶ。	

	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
12	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	VBScript 4 LMS の演習 12－1 に従って，判断と繰り返しについて学ぶ。 課題 12－2 に取り組み，解答する。	
	事後学修	演習 F-1～F-4 は上級者向けではあるが，内容は全員読んでおく。 課題 12－2 が未提出の場合は期限までに提出する。	4
13	事前学修	LMS に提示しているリファレンスサイトのリンクを辿って，スクリプトに関する記事を（時間の許す限り沢山）読んでおく。	4
	授業	VBScript 5 LMS の演習 13－1 に従って，スクリプトによるファイルとフォルダの操作を学ぶ。 課題 13－2 に取り組み解答する。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	
14	事前学修	記載なし（前回項目参照）	
	授業	VBScript 6 演習 14-2 に従って，ネットワーク関連コマンドについて学ぶ。 課題 14－1 に取り組み解答する。	
	事後学修	LMS の演習 F-5 を読んでおく。	4
15	事前学修	LMS の演習 F-7 を読んでおく	2
	授業	まとめ LMS の「講義の振り返り」を利用して，これまで学んだことを整理する。 未提出課題がある場合は，取り組み提出する。	
	事後学修	今後のために，Windows 以外の OS におけるコマンドについて調べる。 VBScirpt 以外のいわゆるスクリプト言語にどのようなものがあるが調べる。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
□試験：　%　□小テスト：%　□レポート：　%　■演習課題：100%
□その他[　　]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出物に対して LMS 上でフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	備考欄　教材サイト内にリンクとして提示しています。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	教材サイト　https://turtle.do-johodai.ac.jp/edu/
担当教員の実務経験	なし

グローバルヘルスリテラシー Global Health Literacy

担当教員	サイモン・ソーラ(317研究室), JOEL RIAN(308研究室), 東野 史裕(218研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	UWC321

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3・4年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3・4年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3・4年	夏期集中

授業概要

医療、社会福祉、栄養、運動など健康に関連したテーマを抽出し、ヘルスリテラシーの概念と実践について学ぶ。講義で紹介される多くの健康情報は、グローバルなネットワークから集積されおり、話題も多岐にわたり、広い視野から健康に関する課題に取り組む内容である。講義は英語で行う。
グローバルヘルスリテラシー(GHL)という科目は15回分の講義に成り立ってる。
オンデマンド（12回）、ライブストリーム（2回）、オンライン試験（1回）

授業における学修の到達目標

健康に関するあらゆる情報収集ができ、これらの情報をもとに自分の考え方をまとめ、地域にとどまらずグローバルに健康情報の発信ができる能力を習得する。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	ヘルスリテラシーについて情報収集	2
	授業	General Health and Living	
	事後学修	ヘルスリテラシーについて復習	2
2	事前学修	健康と社会について事前調査	2
	授業	Global Definition and Purpose	
	事後学修	社会における自分について健康から考える	2
3	事前学修	健康維持について予習（喫煙とアルコールに対して）	2
	授業	Drinking and Smoking	
	事後学修	健康維持の復習（喫煙とアルコールに対して）	2
4	事前学修	食による健康作り　予習	2
	授業	Eating well and Fast-foods	
	事後学修	食による健康作り　復習	2
5	事前学修	睡眠、運動に関する情報収集	2
	授業	Sleeping, Gaming and Exercise	
	事後学修	ヘルスリテラシーと睡眠、運動　復習	2
6	事前学修	メンタルヘルス、ストレス解消　予習	2
	授業	Stress and Mental Health	
	事後学修	メンタルヘルス、ストレス解消　復習	2
7	事前学修	救急医療　予習	2
	授業	**Live Stream - Medical Care and Consolidation of Subjects	
	事後学修	救急医療　復習	2
8	事前学修	チーム医療　予習	2

	授業	Health Professionals	
	事後学修	チーム医療　復習	2
9	事前学修	医薬品　予習	2
	授業	Drugs and Medication	
	事後学修	医薬品　復習	2
10	事前学修	健康保険・目的と定義　予習	2
	授業	Insurance	
	事後学修	健康保険・種類　復習	2
11	事前学修	老人社会・介護　予習	2
	授業	Aging and Change	
	事後学修	老人社会・介護　復習	2
12	事前学修	健康、知識、理解の繋がり　予習	2
	授業	Health, Knowledge and Understanding	
	事後学修	健康、知識、理解の繋がり　復習	2
13	事前学修	健康と文化　予習	2
	授業	Health and Cultures	
	事後学修	健康と文化　復習	2
14	事前学修	健康づくり　予習	2
	授業	**Live Stream - Health Promotion and Consolidation of Themes	
	事後学修	健康づくり　復習	2
15	事前学修	バランスのとれた食生活による病気の予防　予習	2
	授業	Staying Alive	
	事後学修	食による病気の予防　復習	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40%

■小テスト：50%　(5% x 10 回)

■ライブストリーム：10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

英語による講義のため、語学能力に応じた対応を実施する

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	内科医師としての経験を講義内容に生かす

ステップアッププロジェクトⅠ Step-up Project 1

担当教員	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
隼田 尚彦(136 研究室), 佐瀬 雄治(331 研究室), 中島 潤(124 研究室), 明神 知(304 研究室), 向田 茂(125 研究室)	2 単位	演習	○	IMC309

開講学科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3 年	前期(後半)
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3 年	前期(後半)

授業概要

本科目は，学科横断型のプロジェクト学習科目です。専門的な背景の異なる学生とチームを組み，課題を解決するプロジェクト学習に取り組みます。グループワークを通じて，与えられた課題に対する解決策を検討・提案します。
授業の最後には，それまでの各チームの成果について，プレゼンテーションを行います。
授業の事前学修等では，本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を活用し，本プロジェクト学習に必要な知識を身につけて上でプロジェクトに取り組んでもらいます。
より高度なプロジェクトに取り組むことで，プロジェクト・トライアルⅠ・Ⅱで培ったチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを伸ばします。

授業における学修の到達目標

これまで培ってきた専門的知識や技術などの個人的スキルを活かしつつ，グループワークや発表を通じて，ディスカッションやプレゼンテーション能力を向上させます。
専門が多岐にわたる学生の混成チームにより，異なる視点や立場の人との協働作業の進め方を身につけます。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	なし	0.0
	授業	ガイダンス「プロジェクトとは」・グループ作成・アイスブレーク	
	事後学修	「プロジェクトとは」について，POLITE の教材を用いて復習する。	1.0
2	事前学修	課題について，現状の問題点や先行事例を調べてくる。	4.0
	授業	事前学習で準備してきた現状の問題点や先行事例について，グループ内で共有し，アイディア出しを行う。	
	事後学修	グループ内で共有した情報を基に，問題点や先行事例の掘り下げを行い，誰に，どのような解決策を提案するか考える。	3.0
3	事前学修	企画立案及び企画書の作成方法について，POLITE の教材で事前学修する。	1.0
	授業	各自の提案を共有し，グループとしての解決策の提案のアイディア出しを行う（企画案のブレスト）。	
	事後学修	話し合った提案に関して参考となる事例や類似例がないか調べるとともに，必要な要件が何かを調べる。	2.0
4	事前学修	工程管理の方法について，POLITE の教材で事前学修する。自分の持つスキルに関するプレゼンの準備を行う。	2.0
	授業	メンバーのスキルプレゼンと提案をより具体的なものにするためのディスカッションを行い，役割分担を行う。	
	事後学修	与えられた役割と作業に必要な要件について確認し，自らの作業計画を立てる。	2.0
5	事前学修	自らの作業に関連する事例を調査する。	2.0
	授業	作業工程を確認し，無理がないかどうかを議論し，問題がみつかれば解決策を練る。合わせて，	

		プロジェクトの内容に関連する新たな情報を共有する。	
	事後学修	与えられた役割について必要な知識を整理し、技術的課題を考える。	2.0
6	事前学修	実現可能性について検討する（できること・できないことを明確化する）。	2.0
	授業	事前学修の結果をグループ内で共有する。試作の方法を検討する。	
	事後学修	試作の問題点をまとめる。	2.0
7	事前学修	試作：各自担当部分について	2.0
	授業	作業の成果を持ち寄ってグループで共有し，改善策を考える	
	事後学修	改善策を考慮して，試作を続ける。	4.0
8	事前学修	なし	0.0
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し，確認する。	
	事後学修	グループ内でのディスカッションを基に，試作を改良する。	4.0
9	事前学修	プレゼンに向けた制作物の作業準備を行う。	1.0
	授業	プレゼンに向けた制作に取り組む。進捗状況や問題点を共有する。	
	事後学修	グループ内の指摘事項を考慮して，制作を進める。	6.0
10	事前学修	なし	0.0
	授業	個別の進捗状況等を確認し，必要に応じてスケジュールを調整する。引き続き制作に取り組む。	
	事後学修	各自の作業を完了する。	1.0
11	事前学修	なし	0.0
	授業	成果物を完成させる。成果物の利点・欠点などを分析・考察する。	
	事後学修	分析結果を基に，今後の展望を考えまとめる。	1.0
12	事前学修	プレゼンテーションの方法について，POLITE の教材で事前学修する。	3.0
	授業	プレゼン資料の作成	
	事後学修	プレゼン資料の完成	2.0
13	事前学修	発表準備と練習（前半チーム）	4.0
	授業	成果発表会（前半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ，必要に応じて対応策を検討する（前半チーム）。	2.0
14	事前学修	発表準備と練習（後半チーム）	4.0
	授業	成果発表会（後半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ，必要に応じて対応策を検討する（後半チーム）。	2.0
15	事前学修	なし	0.0
	授業	フィードバックを基に，学外コンテスト等への参加を計画する。チーム内のピアレビューを行う。	
	事後学修	プロジェクトの振り返りレポートを作成する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。
グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。
□試験：%■小テスト：10%　■レポート：30%　□演習課題： %　■その他[グループワーク：10%，発表：20%，成果物：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントする。

教科書	
参考書・Web サイト	POLITE からリンクまたは告知
単位修得が望ましい科目	プロジェクト・トライアルⅠおよびⅡを受講のこと。また、集中的にグループワークを行うため、予復習の時間を十分に取れるようにしておくこと。
備考	優秀作品は，学外コンテスト等に応募するだけでなく，本学メディアデザイン展の出展作品として選定されます。
担当教員の実務経験	担当者の一人は，1993 年から 1996 年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として，総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案，バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また，1998 年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し，新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 担当者の一人は 1989 年より 2006 年までシステムエンジニアとしてプログラムやシステムの設計・開発に従事した。 担当者の一人は、医療法人にて企画職・事務長として法人内の組織管理・企画・運営業務に従事した。 これらの様々な企画立案・開発等の実務経験を生かし，プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え，受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ＢＩとビッグデータⅠ Business Intelligence & Big Data 1

担当教員	甫喜本 司(327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	UWC311

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3・4 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3・4 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3・4 年	前期

授業概要

現代社会では SNS、ウェブサイトデータ、モノのインターネット(IoT)、センサーによる観測データをはじめとして、多種多様かつ膨大なデータ（いわゆるビッグデータ）が入手可能な環境にある。特に企業では、内外から蓄積されたデータから戦略的な情報を読み取り、経営の意思決定に活用するビジネスインテリジェンス（BI）の発想が重要となる。本講義では、我々が直面する諸問題をビッグデータの分析を通して解決に導くデータサイエンスの見方について、R 環境を用いた計算機の実習を通して修得する。

授業における学修の到達目標

1. データサイエンスの基本的な見方や方法を理解し, 説明することができる
2. データの構造に応じた適切な処理や分析を計算機を用いて実践できる
3. 現実の問題をデータに基づいて客観的に評価し, 問題の解決に導くことができる

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	「ビッグデータ」時代のデータ解析と R 言語の概要について学習する	
	事後学修	1 回目講義の宿題を行う	2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	R 言語で 1 次元データを可視化する技術について学習する	
	事後学修	1 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 2 回目講義の宿題を行う	2.0
3	事前学修	2 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	R 言語で多次元データを可視化する方法について学習する	
	事後学修	2 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 3 回目講義の宿題を行う	2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	観測データの分布の特徴を推定する方法について学習する	
	事後学修	3 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 4 回目講義の宿題を行う	2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	データより相関関係を調べる技術について学習する	
	事後学修	4 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 5 回目講義の宿題を解く	2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	統計モデルとは何かを学習する	
	事後学修	5 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 6 回目講義の宿題を解く	2.0

7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	統計モデルの選択指標(AIC)について学習する	
	事後学修	6 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 7 回目講義の宿題を解く	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	線形モデルをデータにあてはめる方法, およびモデルを用いた予測の方法について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 8 回目講義の宿題を解く	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	時系列データとその相関構造について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 9 回目講義の宿題を解く	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	データより周期を推定する方法(スペクトル)について学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 10 回目講義の宿題を解く	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	定常な時系列モデルを用いた予測法について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 11 回目講義の宿題を解く	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	非定常な時系列モデルを用いた予測法について学習する	
	事後学修	11 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 12 回目講義の宿題を解く	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケートデータの分布を可視化する方法を学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 13 回目講義の宿題を解く	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケート分布の差異を調べるための t-検定法について学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 14 回目講義の宿題を解く	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する ポライトから学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケート分布の差異を調べるための順位検定法について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題の解答をポライトで確認, 15 回目講義の宿題を解き, ポライトで確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■宿題：60%　■最終課題：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題は, 解決のヒント, あるいは解答例を学習ポータル（POLITE）にアップしますので, 確認しながら学習を進めてください。解決方法がどうしてもわからない場合には, 教員に相談してください。

教科書	書名：データサイエンス演習, 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	本科目は学部横断型科目のひとつで, 統計や確率の基礎知識を必要とします。「確率・統計Ⅰ」, 「確率・統計Ⅱ」の単位取得が望まれますが, 取得していない場合には, 関係する科目を並行して学習しながら進めて下さい。
備考	計算機を用いた実習が主体となります。 COVID-19 の状況によっては, 遠隔学習の形で実施されることがあります。
担当教員の実務経験	企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。本講義では, データ科学の基本的な枠組みについて紹介します。統計学や確率論を基礎として, 現象をデータを手がかりとして理解していくための科学的な方法を R 言語を通して紹介することとあわせて, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介したいと思います。

ＢＩとビッグデータⅡ Business Intelligence & Big Data 2

担当教員	内山 俊郎(117 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	UWC312

開 講 学 科	種別	配当年次	開講時期
情報メディア学科	選択	3・4 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻	選択	3・4 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻	選択	3・4 年	後期

授業概要

現代社会では、SNS、ウェブサイトデータ、IoT、センサーデータ等、多種多様かつ膨大なデータ（いわゆるビッグデータ）が入手可能な環境にある。特に企業では、企業内外から蓄積されたデータを、役に立つ情報に変換し、意思決定に活用する手法（BI；ビジネスインテリジェンス）が重要である。本講義では、実データを使った実験や実習を行い、BI やビッグデータに関する理論的フレームワークを学習する。

授業における学修の到達目標

・行動ログデータや文書データについて，どのように表現されるのか（疎行列）を知る。
・解析に必要となるベクトル，行列，それらの演算について理解し，プログラム上で使えるようになる。
・ナイーブベイズ分類器について理解し，文書データについて適用できるようになる。
・文書についてはクラスタリングと分類，行動ログについてはレコメンド技術について知る。

授業計画

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	シラバスを読んで学習の流れを知り，行列表現，転置，行列操作などについて振り返り，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	ビッグデータである行動ログデータや文書データがどのようなものであるか，疎行列で表せること，などを知る。講義の流れを知り，最初に確率や対数尤度などの数学的理解が必要なことを知る。	
	事後学修	講義の流れを振り返り，数学に関して理解不足の点があれば，追いつくための学習計画を立てること。	2
2	事前学修	講義資料を見て，確率論と確率モデルについて調べ，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	講義資料を読んで，確率論と確率モデルについて学び，例題や演習問題に取り組むこと。	
	事後学修	例題や演習問題の結果を実習ノートにまとめること。授業中に解けなかった問題，追加の問題について解くこと。	2
3	事前学修	実験，実習に必要な仮想マシンのダウンロードと使うための準備を行うこと。	2
	授業	フルーツポンチを使ったデータ生成，分類実験を行う。対数事後確率の電卓による計算実習を行う。仮想マシンの使い方と，解析用のプログラムについて知る。	
	事後学修	仮想マシン上でのプログラム実行方法を理解したものは，発展課題であるプログラムによる実験（データ数と分類精度の関係）を行い，実験結果を実習ノートにまとめること。	2
4	事前学修	確率，確率モデル，など解析に必要な数学について振り返り，これまでの演習問題を解くなど小テストに向けた準備をすること。	2
	授業	確率，確率モデル，など解析に必要な数学の理解を求める小テストを実施する。仮想マシンの使い方と，解析用のプログラムについて知る。フルーツポンチの実験に必要なプログラムの説明を受ける。	
	事後学修	小テストの解答と解説を読み，間違えた問題についてやり直し，理解を深めること。発展課題であるプログラムによる実験（データ数と分類精度の関係）を行い，実験結果を実習ノートにまとめること。	2

5	事前学修	行列表現，転置，行列操作などについて振り返り，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	行動ログデータの解析について学ぶ。そのために必要となる疎行列表現について知り，プログラムを使った疎行列作成実習を行う。C＋＋において行列演算ライブラリ eigen を使う方法について学ぶ。	
	事後学修	プログラムを使った疎行列作成実習の結果について実習ノートにまとめること。	2
6	事前学修	行動ログから推薦（オススメ）を行うための技術について，講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	行動ログから推薦（オススメ）を行うための技術について学ぶ。これまでの研究，レコメンドシステムの４つのタスクについて知る。研究に広く用いられている映画に対する評価のデータを使った実験を準備する。	
	事後学修	解析環境がある仮想マシンに，映画に対する評価のデータをダウンロードし，必要な準備を行うこと。	2
7	事前学修	解析環境がある仮想マシンにおいて，行列表現の読み書き，疎行列の読み書きについて，実験に必要な情報を整理しておくこと。	2
	授業	映画の評価データを処理するプログラムの書き方について学ぶ。レコメンドに使う「相関」の意味と，算出方法について学ぶ。実験を行う。	
	事後学修	プログラムと処理のフローチャート（自分の言葉でノートに書くこと）との対応を確認すること。実験結果を実習ノートにまとめること。	2
8	事前学修	レコメンドに使う「相関」の意味と，算出方法について，講義資料や例を見て，自分でも動かして理解すること。	2
	授業	相関をレコメンドに使う考え方を知る。評価の無いデータへの対応，評価の予測値の計算式について知る。	
	事後学修	評価の予測値の計算式について，自分の言葉で実習ノートに書くこと。	2
9	事前学修	相関を使ったユーザベース協調フィルタリング，アイテムベース協調フィルタリングについて，講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	相関を使ったユーザベース協調フィルタリング，アイテムベース協調フィルタリングについて学ぶ。プログラムによる実験を行う。推薦された映画の妥当性について考える。	
	事後学修	実験結果を見て，推薦された映画の妥当性について考えること。	2
10	事前学修	推薦された映画の妥当性について，理由が納得できる，意外であったものなどを探し，実習ノートにまとめること。	2
	授業	推薦結果の評価方法について知る。プログラムによる評価実習を行う。	
	事後学修	プログラムによる評価実習の結果について実習ノートにまとめること。	2
11	事前学修	潜在因子モデルによる推薦について講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	潜在因子モデルによる推薦について学ぶ。プログラムによる実習を行う。レコメンド技術の分類について知る。	
	事後学修	プログラムによる実習の結果について実習ノートにまとめること	2
12	事前学修	文書データの解析について講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	文書データの解析について知る。疎行列で文書データが表せること，データの読み込みについては行動ログと同様であることを理解する。解析用のデータを準備を始める。	
	事後学修	解析用の文書データをダウンロードして展開し，事前処理を行うこと。ストップワードの除去による影響を調べる実習を行い，結果を実習ノートにまとめること。	2

13	事前学修	解析に必要なプログラムやコマンドについて整理しておくこと。	2
	授業	文書データの解析に用いる単語の分布について知り，球面クラスタリングを理解する。プログラムにより球面クラスタリングの実習を行う。	
	事後学修	実習結果を実習ノートにまとめること。	2
14	事前学修	情報理論的クラスタリングについて講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	情報理論的クラスタリングについて知る。プログラムにより情報理論的クラスタリングを行う。クラスタリングの評価について学び，評価実験を行う。	
	事後学修	実習結果を実習ノートにまとめること。	2
15	事前学修	競合学習による球面クラスタリングや情報理論的クラスタリングについて講義資料を読み，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	競合学習による球面クラスタリングや情報理論的クラスタリングを行い，k-means タイプのアルゴリズムとの性能差について実験を行う。	
	事後学修	実験結果を実習ノートにまとめ，実習ノートをレポートとして提出すること。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 25% ■小テスト： 25% ■レポート：20% ■演習課題： 30% □その他[ ]

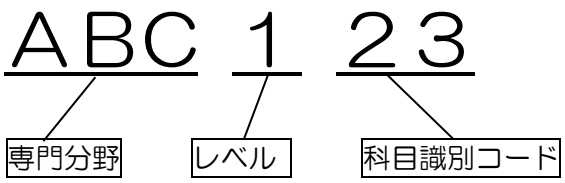
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストについては正解を示し解説をすることで，レポートについてはコメントを返すことで行う。

教科書	書名：わかりやすいデータ解析入門（第 2 版）, 著者名：内山俊郎, 出版社：ムイスリ出版, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	線形代数Ⅰ・Ⅱ，確率と統計Ⅰ・Ⅱ
備考	確率と統計および線形代数について，解析に必要な技術について説明するが，一度学習していることを前提としており，これらについて理解度を確かめる小テストを実施する。
担当教員の実務経験	2006 年から 2012 年度まで企業の研究所に所属し，文書データ解析，レコメンドの研究を行うとともに，これら研究の成果を関連事業会社において利用可能なものとする実用化（プロダクト化）を行い，事業会社への技術支援を行った。これら実務において，実用化プロジェクトに関わり，これらの技術を現場において適用する過程を見てきた。これら実務経験を生かす形で，講義の中で示す技術の実応用例などを学生に伝え，技術の先にある現場の様子が想像できるような教育を実施する。

ナンバリングについて（共通教育）

○ナンバリング



○専門分野、学科等

共通教育・学科共通：C○○　以下の 8 分野

共通教育・基礎教育分野：CBA（Basic Subject）

共通教育・基礎教育言語分野：CBL（Basic Subject Language）

共通教育・教養教育〔情報とクリティカルシンキング〕分野：
CLI（Liberal Arts-Information＆Critical Thinking）

共通教育・教養教育〔人間〕分野：CLH（Liberal Arts-Human）

共通教育・教養教育〔社会〕分野：CLS（Liberal Arts-Society）

共通教育・教養教育〔自然〕分野：CLN（Liberal Arts-Nature）

共通教育・教養教育〔総合〕分野：CLC（Liberal Arts-Comprehensive program）

学科共通・教職科目：CTP（Teaching Profession）

○レベル　　※難易度（難易レベル）ではなく修学段階（修学レベル）とする.

１…基礎　２…発展　３…応用　　※共通教育は 6 段階の前半 3 段階を使用した.

○科目識別コード

連番　　０１～９９

情報メディア学科　科目ナンバリング

専門分野コード　英字３文字　３分類

IMC 情報メディア共通　Information Media Common

IMD　情報メディア　メディアデザイン Infomation Media Design

IMT　情報メディア　メディアテクノロジー　Information Media Technology

コード　数字３桁

レベル１桁

科目識別コード２桁

例　：　ＩＣＴ入門　IMC101